序

東日本大震災から三年を経過した平成２６年度は、多くの幼児児童生徒が避難を余儀なくされる厳しい状況が続いたものの、４月からの高等学校入学者に対して、新しい高等学校等就学支援金制度が導入されたほか、いじめ防止対策推進法の制定や道徳の教科化、教育委員会制度改革など、更なる改革が進められた年でした。

このような中、県教育委員会では、平成２４年１２月に改訂された本県の最上位計画である福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び平成２３年１２月に策定された福島県復興計画を踏まえ、震災からの復旧・復興に向けた取組を加えるなどして平成２５年３月に改定した第６次福島県総合教育計画に基づき、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け様々な施策を展開してまいりました。

さて、本教育年報は、平成２６年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望することができる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいています。

今後も本書が、教育施策や各種事業を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

平成２８年１月

福島県教育委員会

教　育　年　報　目　次

第１章　教育行政の概観

1　平成26年度の教育の概要…… 1
2　教育の情報化関係…… 6
3　義務教育関係…… 6
4　高等学校教育関係…… 6
5　特別支援教育関係…… 7
6　社会教育関係…… 8
7　文化関係…… 8
8　生涯学習関係…… 9
9　スポーツ関係…… 9
10　福利厚生関係…… 10

第２章　教　育　行　政

第１節　平成26年度福島県教育委員会重点施策 …… 11
第２節　教育委員会 …… 12
1　教育委員会…… 12
2　審議事項…… 12
第３節　教育庁組織 …… 15
第４節　企画調整 …… 15
1　教職員現職教育計画の策定…… 16
2　調整事務…… 16
第５節　広報・広聴 …… 17
1　教育委員会だより…… 17
2　教育年報…… 17
3　福島県の教育…… 17
4　ふくしま教育ニュース…… 17
5　教育庁各課・所・館の広報誌・紙…… 18
6　教育長記者会見…… 19
7　記者発表及び資料提供…… 19
8　教育フォーラム…… 20
9　平成26年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業 …… 20
10　県庁子ども参観デー…… 20
第６節　調査統計 …… 20
1　学校統計要覧…… 20
2　地方教育費調査（一般統計） …… 20
3　子どもの学習費調査（一般統計）…… 21
4　進路状況等に関する調査…… 21
第７節　教職員の給与 …… 21
1　給料関係…… 21
2　通勤手当（平成27年4月1日適用） …… 21
3　単身赴任手当（平成27年4月1日適用） …… 21
4　特殊勤務手当（平成27年1月1日適用） …… 22
5　管理職員特別勤務手当（平成27年4月1日適用） …… 22
6　期末・勤勉手当（平成26年12月1日適用） …… 22
7　寒冷地手当（平成27年4月1日適用） …… 22
8　再任用職員の住居手当及び単身赴任手当（平成27年4月1日適用） …… 22
第８節　附属機関等…… 22
1　福島県学校教育審議会…… 22
2　福島県社会教育委員の会議 …… 22
3　福島県文化財保護審議会 …… 23
第９節　市町村教育委員会…… 24

1 概要 …… 24
2 組織 …… 24
3 平成26年度市町村教育委員会援助指導の概要 …… 25
第10節 職員団体との話合い …… 25
1 福島県教職員組合 …… 25
2 福島県高等学校教職員組合 …… 25
3 福島県立高等学校教職員組合 …… 26
4 福島県学校事務労働組合 …… 26
第11節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件 …… 26
1 不利益処分審査請求事件 …… 26
2 損害賠償請求事件 …… 27
第12節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況 …… 27
1 公益法人等 …… 27
2 公益信託 …… 27
第13節 表彰及び叙勲 …… 27
1 教育・文化関係表彰 …… 27
2 文部科学大臣表彰 …… 28
3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲 …… 28
第14節 奨学育英 …… 31
1 福島県奨学資金 …… 31
2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度 …… 31

第3章 教 育 財 政
第1節 平成26年度決算 …… 33
1 歳入 …… 33
2 歳出 …… 34
第2節 学校教育施設 …… 36
1 県立学校 …… 36
2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校(市町村立分) …… 38
第3節 産業教育振興法補助事業 …… 39
1 産業教育施設・設備の整備 …… 39
第4節 理科教育振興法補助事業 …… 39
1 理科設備 …… 39
2 算数・数学特別設備 …… 39
第5節 情報処理設備整備事業 …… 39
1 県単独事業 …… 39

第4章 教育の情報化
第1節 基盤整備 …… 41
第2節 人材の育成・活用 …… 42

第5章 義 務 教 育
第1節 学校管理 …… 43
1 児童生徒数・学級数と教職員定数 …… 43
2 教職員人事・任用 …… 45
3 教育職員の免許 …… 45
4 学校の設置及び統廃合 …… 46
5 学校防火 …… 46
6 へき地対策 …… 47
第2節 学校教育 …… 49
1 概要 …… 49
2 現職教育 …… 50

3 教育課程 …… 53
4 学力向上等 …… 53
5 放射線教育（放射線教育推進支援事業） …… 53
6 防災教育（防災学習推進支援事業） …… 54
7 道徳教育 …… 54
8 特別活動 …… 55
9 生徒指導・進路指導 …… 55
10 幼稚園教育 …… 56
11 へき地教育 …… 56
12 環境教育 …… 56
13 教科用図書 …… 57
14 教育研究団体 …… 58
第３節 国際化・科学技術の進展等への対応 …… 61
1 中学生・高校生の科学・技術研究論文 …… 61
2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文 …… 62

第６章 高等学校教育

第１節 学校管理 …… 63
1 生徒数と教職員数 …… 63
2 教職員人事・任用 …… 67
3 学校の設置及び統廃合 …… 70
第２節 学校教育 …… 71
1 概要 …… 71
2 現職教育 …… 78
3 教育課程 …… 79
4 学力向上対策等 …… 79
5 生徒指導・進路指導 …… 80
6 学校行事 …… 80
7 産業教育 …… 81
8 学校訪問 …… 82
9 県立高等学校学校教育指導委員 …… 82
10 教科用図書 …… 83
11 教育研究団体 …… 83

第７章 特別支援教育

第１節 学校管理 …… 85
1 児童生徒数と教職員定数 …… 85
2 特別支援学校及び特別支援学級の実態 …… 87
3 教職員人事・任用 …… 89
第２節 学校教育 …… 90
1 概要 …… 90
2 現職教育 …… 92
3 教育課程 …… 93
4 訪問教育 …… 93
5 生徒指導・進路指導 …… 94
6 特別活動 …… 95
7 学校訪問 …… 95
8 県立学校教育指導委員 …… 95
9 就学指導 …… 95
10 教科用図書 …… 96
11 教育研究団体 …… 96

第8章　社　会　教　育

第1節　社会教育一般 …… 97
1 概要 …… 97
2 社会教育推進体制の充実 …… 98
3 社会教育施設の整備充実 …… 98
4 社会教育関係職員の研修 …… 98
5 社会教育研究集会 …… 98
6 社会教育指導員の設置 …… 99
7 社会教育主事の市町村派遣 …… 99
8 社会教育研修会 …… 99
9 福島県公民館研究集会 …… 99
10 福島県公民館主事部会研修会 …… 99
11 社会教育職員研修派遣 …… 99
12 出版資料 …… 100
第2節　地域の教育力の向上 …… 100
1 概要 …… 100
2 体験活動・ボランティア推進センター事業 …… 100
第3節　地域コミュニティの再生 …… 101
1 概要 …… 101
2 放課後子ども教室推進事業 …… 101
3 学校支援地域本部事業 …… 101
4 地域支援推進事業 …… 101
5 学校・家庭・地域連携サポート事業 …… 102
6 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業 …… 102
7 文化による心の復興支援プロジェクト …… 102
8 地域における防災力向上支援事業 …… 103
第4節　家庭教育 …… 104
1 概要 …… 104
2 地域でつながる家庭教育応援事業 …… 104
第5節　青少年教育 …… 106
1 概要 …… 106
2 十七字のふれあい事業 …… 106
第6節　成人教育 …… 106
1 概要 …… 106
第7節　子どもの読書活動推進 …… 106
1 概要 …… 106
2 子どもの読書活動推進会議の設置 …… 106
3 子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業 …… 107
4 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト …… 107
第8節　ユネスコ活動 …… 107
1 概要 …… 107
2 ユネスコ協会事務局一覧 …… 107
3 福島県ユネスコ活動研修会 …… 107
第9節　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業 …… 107
1　目的 …… 107
2　内容 …… 108
第10節　公民館等社会教育施設 …… 108
1 概要 …… 108
2 公民館を除く主な社会教育施設 …… 108

第9章　文　　化

第1節　概要 …… 115
1 文化活動の振興 …… 115

2 文化の伝承の充実…… 115
3 文化施設の整備充実…… 115
第２節 文化活動の振興 …… 116
1 芸術文化活動発表機会の充実…… 116
第３節 文化財の愛護と伝統文化の継承 …… 121
1 文化財保護体制の充実…… 121
2 埋蔵文化財の保護の充実…… 121
3 平成26年度文化財保存助成の充実…… 138
4 文化財の愛護と公開の推進…… 141
5 銃砲刀剣類の登録状況…… 141
第４節 財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進…… 142
1 埋蔵文化財調査事業…… 142
2 文化財センター整備業務…… 145

第10章 体育・健康

第１節 概要 …… 147
1 学校体育の充実…… 147
2 学校保健・学校安全の充実…… 147
3 食育の推進…… 147
4 学校給食の充実…… 147
第２節 表彰 …… 148
1 体育関係…… 148
2 学校保健・学校安全関係…… 148
3 学校給食関係…… 150
第３節 学校体育 …… 151
1 学校体育関係各種研修…… 151
2 福島県高等学校体育連盟…… 152
3 福島県中学校体育連盟…… 154
第４節 学校保健・学校安全 …… 155
1 学校保健・学校安全研修会等…… 155
2 児童・生徒の健康管理費補助…… 155
3 教職員の健康管理…… 155
4 福島県学校保健会…… 156
5 独立行政法人日本スポーツ振興センター…… 156
第５節 学校給食 …… 157
1 学校給食に関する研修会…… 157
2 学校給食用パン品質調査…… 158
3 食育に関する研修会等…… 158
4 地場産物活用のための研修会…… 158
5 学校給食関係の国庫助成実績…… 159
第６節 体育施設…… 159
1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）…… 159
2 社会体育施設整備費補助…… 159

第11章 福 利 厚 生

［福利厚生事業］ …… 161
第１節 概要 …… 161
第２節 保健・厚生事業 …… 161
1 保健事業…… 161
2 厚生事業…… 163
第３節 貸付事業 …… 165
1 共済組合…… 165
第４節 宿泊・保養施設 …… 165

第５節　児童手当（特例給付を含む）…… 166
第６節　財産形成貯蓄制度 …… 166
［福利給付事業］ …… 166
第７節　概要 …… 166
第８節　短期給付 …… 166
1 共済組合…… 166
2 互助会…… 167
第９節　長期給付 …… 167
1 恩給…… 167
2 退職手当…… 168
3 共済年金…… 168

第12章　福島県教育センター
第１節　概要 …… 171
1 調査・研究事業…… 171
2 研修事業…… 171
3 情報教育事業…… 171
4 教育相談事業…… 172
5 教育図書・資料事業…… 172
第２節　調査・研究事業 …… 172
1 調査・研究…… 172
2 長期研究員による研究…… 173
第３節　研修事業 …… 173
1 研修講座の概要…… 173
2 研修講座…… 175
3 指導主事派遣等…… 177
第４節　情報教育事業 …… 178
1 研修講座の概要…… 178
2 施設利用概況…… 178
第５節　教育相談 …… 178
1 対象別…… 178
2 区分別…… 178
3 地区別来所相談件数…… 178
4 月別相談件数・回数…… 178
第６節　教育図書・資料事業 …… 178
1 教育図書・教育資料の収集…… 178
2 教育資料の刊行…… 178

第13章　福島県養護教育センター
第１節　概要 …… 181
1 教育相談事業…… 181
2 教職員研修事業…… 181
3 教育調査・研究事業…… 181
4 教育図書・資料の収集・提供事業…… 182
5 広報・啓発事業…… 182
6 情報教育事業…… 182
第２節　教育相談事業 …… 182
1 相談対象…… 182
2 形態…… 182
3 現状と課題…… 182
第３節　教職員研修事業 …… 183
1 教職員の研修講座…… 183
第４節　教育調査・研究事業 …… 184

1 調査研究…… 184
2 教育研究…… 186
第５節 教育図書・資料の収集・提供事業 …… 186
1 教育図書・資料の収集・整理…… 186
第６節 広報・啓発事業…… 187
1 所報「特別支援教育」(67号) …… 187
2 研究紀要「第26号」 …… 187
第７節 情報教育事業 …… 187
1 ICT活用支援 …… 187
2 情報機器活用…… 187
3 情報教育ネットワークとWebページの充実 …… 187

第14章 福島県立図書館

第１節 概要 …… 189
1 運営の概要…… 189
2 図書館協議会…… 189
第２節 資料の収集・整理 …… 189
1 図書館資料の収集…… 189
第３節 館内奉仕 …… 191
1 調査相談(レファレンス) …… 191
2 館内サービス…… 192
3 館外個人貸出…… 192
4 特別貸出…… 192
5 地域資料…… 192
6 逐次刊行物…… 193
7 児童サービス…… 193
8 東日本大震災福島県復興ライブラリー…… 193
9 複写サービス…… 193
10 来館者用インターネットコーナー…… 193
11 展示…… 194
12 普及事業…… 194
第４節 館外奉仕 …… 195
1 移動図書館「あづま号」…… 195
2 市町村援助のための支援貸出…… 195
3 福島県立図書館資料の譲与…… 195
4 学校図書館活動支援貸出…… 195
5 学校図書館活動支援セット貸出…… 195
6 広報資料の発行…… 196
第５節 図書館協力 …… 196
1 相互協力と遠隔地返却…… 196
2 県内図書館職員研修会…… 196
3 第65回北本図書館大会 (第12回福島県図書館研修集会) …… 196
4 平成26年度図書館地区別 (北日本) 研修…… 197
5 県内大学図書館間との連携…… 197

第15章 福島県立美術館

第１節 概要 …… 199
1 美術館運営協議会…… 199
2 他館等との連携…… 199
第２節 美術品の収集・保存 …… 199
1 収蔵作品点数(平成27年3月31日現在) …… 199
2 収集評価委員会…… 199
3 平成26年度収蔵作品…… 199

4 保存修復…… 200
第３節 展示事業 …… 200
1 常設展…… 200
2 企画展…… 200
第４節 調査研究事業 …… 203
1 調査研究…… 203
第５節 普及事業 …… 203
1 館内解説…… 203
2 鑑賞講座…… 203
3 実技教室…… 203
4 美術館・学校教育連携事業…… 204
5 美術館への年賀状展…… 205
6 博物館実習…… 205
7 友の会、協力会との連携事業…… 205
8 その他の事業…… 205
第６節 施設・設備の整備 …… 205

第16章 福島県立博物館
第１節 概要 …… 207
1 運営の概要…… 207
2 運営協議会…… 207
第２節 調査研究事業 …… 207
1 展示資料調査研究…… 207
2 その他の調査研究事業…… 208
第３節 資料収集事業 …… 208
1 収集展示委員会…… 208
2 受贈・受託…… 208
3 購入…… 209
第４節 保存管理事業 …… 209
1 資料の収蔵…… 209
2 登録・整理…… 209
3 保存…… 210
4 貸出…… 210
第５節 展示事業 …… 211
1 常設展示…… 211
2 企画展示…… 212
3 特集展…… 214
4 移動展…… 215
5 指定文化財の公開…… 215
6 展示解説…… 216
7 体験学習室…… 216
8 博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト…… 217
第６節 東日本大震災からの復興支援…… 217
1 文化財レスキュー…… 217
2 ふくしま応援ミュージアムイベント…… 218
3 復興応援パートナー事業…… 218
4 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014…… 219
5 震災遺産保全プロジェクト…… 223
第７節 平成26年度行事…… 225

第17章 福島県自然の家
第１節 沿革及び所在地 …… 231
1 沿革…… 231

2 所在地…… 231
第２節 教育目標及び基本的視点 …… 231
1 教育目標…… 231
2 基本的視点…… 231
第３節 各施設の利用者数 …… 232

福島県郡山自然の家

第１節 概要 …… 233
1 職員組織…… 233
2 平成26年度重点目標と成果…… 233
第２節 施設・設備の概要 …… 234
1 所在地…… 234
2 宿泊定員…… 234
3 敷地面積…… 234
4 建物面積…… 234
5 設備備品等…… 234
第３節 利用状況 …… 235
1 月別利用状況…… 235
2 利用団体別・宿泊日数利用状況…… 236
3 研修活動の分類と実施団体数…… 237
第４節 企画事業 …… 238
1 研修会事業…… 238
2 利用拡大事業…… 238
3 協力事業…… 240

福島県会津自然の家

第１節 概要 …… 241
1 職員組織…… 241
2 平成26年度重点目標と成果…… 241
第２節 施設・設備の概要 …… 242
1 所在地…… 242
2 宿泊定員…… 242
3 敷地面積…… 242
4 建物面積…… 242
5 運動広場面積…… 242
6 設備備品等…… 242
第３節 利用状況 …… 243
1 当施設を利用可能対象者…… 243
2 平成26年度の利用団体数…… 243
3 屋外活動を制限された子どもたちへの対応…… 243
4 利用状況…… 243
5 月別利用状況…… 244
6 利用団体別・宿泊日数利用状況…… 245
7 研修活動の分類と実施団体数…… 246
第４節 企画事業 …… 247
1 指導者の研修…… 247
2 利用促進事業…… 247
3 その他の企画事業…… 250

福島県いわき海浜自然の家

第１節 概要 …… 253
1 平成26年度重点目標と成果…… 253
2 職員組織…… 254

第２節　施設・設備の概要 …… 254
1 所在地 …… 254
2 宿泊定員 …… 254
3 敷地面積 …… 254
4 建物面積 …… 254
5 野外活動施設面積 …… 254
6 設備備品等 …… 254
第３節　利用状況 …… 255
1 平成26年度　月別利用状況一覧表(3月末現在) …… 255
2 平成26年度　利用団体別・宿泊日数利用状況 …… 256
3 平成26年度　研究活動の分類と実施団体数 …… 257
第４節　企画事業 …… 259
1 研修会事業 …… 259
2 利用促進事業 …… 259
3 その他の企画事業 …… 260
4 協力事業 …… 261

第18章　福島県文化財センター白河館

第１節　白河館の運営状況 …… 263
1 利用者数 …… 263
2 入館者の内訳と傾向 …… 263
3 団体利用者の内訳と傾向 …… 263
4 情報発信事業の利用者 …… 264
5 資料管理業務 …… 264
6 研修事業の状況 …… 264
7 体験学習事業の状況 …… 264
8 常設展事業 …… 266
9 企画展事業 …… 266
10 ボランティア運営事業 …… 266

第19章　文化スポーツ局

第１節　組織 …… 267
第２節　附属機関 …… 267
1 福島県文化振興審議会 …… 267
2 福島県生涯学習審議会 …… 267
3 福島県スポーツ推進審議会 …… 268
第３節　表彰 …… 269
1 文化功労賞受賞者 …… 269
2 第67回福島県文学賞受賞者 …… 269
3 文化・スポーツ知事感謝状受賞者 …… 270
4 体育・スポーツ関係 …… 271
第４節　文化 …… 276
1 概要 …… 276
2 文化の振興 …… 276
第５節　生涯学習 …… 279
1 概要 …… 279
2 生涯学習の推進体制 …… 279
3 生涯学習情報提供及び啓発 …… 279
4 生涯学習による復興応援 …… 279
5 復興を担う子どもたちの育成 …… 280
第６節　スポーツ …… 280
1 概要 …… 280
2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興 …… 280

3 体育・スポーツ施設…… 305

ふくしま海洋科学館

第１節 施設の概要 …… 307
1 本館施設…… 307
2 ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館…… 307
3 水生生物保全センター …… 307
4 海水取水・送水施設 …… 307
5 展示生物の収集、蓄養施設…… 307
第２節 各種事業 …… 307
1 飼育展示事業…… 307
2 移動水族館事業…… 308
3 研究交流事業…… 308
4 海洋文化推進事業…… 308
5 企画営業事業…… 308
6 学習交流事業…… 308
7 スクール開催事業…… 311
8 子ども漁業博物館事業…… 311
9 ボランティア等活動事業…… 311
第３節 月別入館者数 …… 312
第４節 公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要 …… 312
1 財団法人の名称…… 312
2 財団法人の目的…… 312
3 財団法人の事業…… 312
4 基本財産…… 312
5 組織(平成27年3月現在) …… 312

福島県文化センター

第１節 概要 …… 315
1 業務内容…… 315
第２節 施設の概要 …… 315
1 福島県文化会館…… 315
2 福島県歴史資料館…… 315
第３節 事業の実施状況 …… 315
1 管理運営事業…… 315
2 文化情報の発信…… 316
3 歴史資料館事業…… 316
4 受託事業…… 317
5 文化事業…… 318
第４節 財団法人福島県文化振興財団の概要 …… 320
1 財団法人の名称…… 320
2 財団の目的…… 320
3 財団の事業…… 320
4 組織（平成27年3月31日現在） …… 320

第１章　教育行政の概観

１　平成26年度の教育の概要

東日本大震災がら三年を経過してもなお、多くの幼児児童生徒が避難を余儀なくされ、本県は依然として厳しい状況が続いている。こうした中、平成２６年度は、本年４月からの高等学校入学者に対して、新しい高等学校等就学支援金制度が導入されたほか、いじめ防止対策推進法の制定や道徳の教科化、教育委員会制度改革など、更なる改革が国において進められた。

県教育委員会では、平成２２年３月に策定した本県の教育指針である第６次福島県総合教育計画に基づき、その基本理念である「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け、３つの基本目標それぞれについて各施策を展開することにより、目標の達成を目指していく。

なお、第６次福島県総合教育計画については、平成２４年１２月に改訂された本県の最上位計画である福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び平成２３年１２月に策定された福島県復興計画を踏まえ、震災からの復旧・復興に向けた取組を加えるなど、平成２５年３月に必要な改定を行った。

基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

基本目標１　知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
基本目標２　学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
基本目標３　豊かな教育環境の形成

基本目標を達成するための施策

基本目標１
- 施策１　子どもたちの豊かなこころをはぐくみます
- 施策２　子どもたちの健やかな体をはぐくみます
- 施策３　子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」を身につけさせます
- 施策４　望ましい勤労観・職業観をはぐくみます
- 施策５　障がいのある子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します
- 施策６　高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます
- 施策７　国際化の進展に対応できる人づくりを進めます
- 施策８　公立大学において、社会をリードし、地域に貢献する人づくりを進めます

基本目標２
- 施策９　地域全体で子どもたちを教え育てる取組を支援します
- 施策10　家庭における教育を支援します
- 施策11　生涯を通して学習し、その成果が生きる環境を整備します
- 施策12　自然に親しみ、自然を尊重するこころをはぐくみます
- 施策13　地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するこころをはぐくみます

基本目標３
- 施策14　教員の資質の向上を図ります
- 施策15　一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します
- 施策16　透明性の高い、開かれた教育を推進します
- 施策17　安全で安心できる学習環境の整備を促進します
- 施策18　地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します
- 施策19　私立学校の振興を図ります
- 施策20　社会情勢や環境の変化に対応した学校づくりを推進します

この計画の運用に当たっては、毎年度、基本目標ごとに重視する観点を定め、これに基づき実施する事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価し、計画の適切な運用に努めることとしており、平成２６年度は次の３つの観点を重視し、これらに沿った施策・事業を総合的に展開した。
（★印は、知事部局所管の事業等）

平成26年度に重視する観点及び対応する重点事業

基本目標１において重視する観点
○ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進

○　ピュアハートサポートプロジェクト

大震災を経験したこの時に、「いのち」、「家族愛」、「郷土愛」等について系統的に学ぶための読み物資料の作成、ゲストティーチャーの学校への派遣、道徳教育啓発資料の作成・配付を行うことにより、道徳教育を推進し、今後の福島県の復興を担うことになる児童生徒の育成を図った。

また、心のケアを必要としている児童生徒が増加していることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の充実を図るとともに、学校･家庭･地域が連携し、問題行動やＰＴＳＤ等の未然防止と早期解決を図った。

○　子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業

学校や図書館等で活躍できる読書ボランティアの新規人材育成や資質向上を図った。また、経験者には、子どもの発達段階ごとの講座を設定し、さらに専門的な知識・技能の向上を図った。

また、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」作成委員会を立ち上げ、さらなる子どもの読書活動推進に向けた内容を検討し、策定した。

○　児童生徒の体力向上推進事業

低下傾向にある児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて小学校・中学校・高等学校の教員に対し、指導方法の改善を図るための研修会等を実施した。

○　平成２９年度南東北インターハイ開催事業

平成２９年度の南東北インターハイ開催に向けて高校生の強化等を実施し、高校部活動を通して福島県の復興を県内外に発信した。

○　ふくしまから　はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

保健福祉部・農林水産部・教育委員会等関係機関が連携し、家庭・学校・地域が一体となって地域における食育推進体制を整備するとともに、食育推進体系を再構築し「元気なふくしまっ子」が育つ食環境整備を進めた。

○　学校給食地場産物活用事業

望ましい食習慣の形成や食育の観点から、学校給食に地場産物を活用する市町村の取組を支援した。

○　学力向上推進支援事業

指導の改善に資する評価問題の作成と活用、効果的な指導法の実践研究を行った。さらに学力調査を実施して児童生徒の学力の実態を把握し、授業改善を図った。

生徒一人一人の進路希望実現のため、難関大学進学に向けた取組や、確かな学力向上のための基礎力養成・キャリア教育に関する取組の支援などを行った。

○　ふくしまから　はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

児童生徒の学力向上を図るため､事業推進地域を指定し、学校間・家庭及び地域との連携を図った取組を推進するとともに、その成果を県内すべての学校に普及し、地域全体で児童生徒の学習習慣・生活習慣を確立する体制を構築した。

○　サポートティーチャー派遣事業

児童生徒の心のケアと学習のつまづきを解消するため、サポートティーチャーを学校や教育委員会に派遣し、実験・実習を中心とした教科の学習を支援するとともに、授業外や長期休業時における相談活動と学習支援を充実させた。

○　ふくしま高校生進路実現サポート事業

高等学校において生徒の学力向上を図り将来への展望を抱かせるとともに，地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成した。

○　ふくしまから　はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

知識基盤社会において重要な科学技術に対する関心と基礎的素養を高めるとともに、本県の復興を担う人材育成のために、教員の理科、算数・数学科の指導力向上を図るとともに、理数に関して児童生徒の学ぶ環境や専門的な学習の機会を充実させた。

○　中山間地域インターネット活用学力向上支援事業

中山間地域の学習指導及び学習環境の充実を図るため、町村教育委員会の実施するインターネットを活用した授業や教材の提供など学力向上の取組を支援した。

○　放射線教育推進支援事業

児童生徒が、自ら考え、判断し、行動する力を身に付け、心身ともに健康で安全な生活を送れるよう、放射線等に関する基礎的な知識や放射線からの防護等についての理解を深めるための取組を行った。

○　「生き抜く力」を育む防災教育推進事業

学校における防災教育の一層の充実を図り、児童生徒の防災意識の向上に資するため、授業等で活用できる防災教育導資料を作成するとともに、防災教育に関する研修会を開催した。

○　ふくしま地域医療の担い手育成事業

高等学校の医学部進学希望生徒に、最新の医学や地域医療の実情を理解させ、医学や地域医療に対する関心を高めて学習の動機付けを図ることにより、進路希望の実現を支援し、地域医療に貢献できる人づくりを推進した。

○　キャリア教育推進事業（専門高校プロジェクト事業）

農業高等学校、工業高等学校、商業高等学校において、生徒の実践的な知識や技能の向上を図るとともに、地域に定着し、地域産業を担う人づくりのため、キャリア教育を推進した。

○　キャリア教育推進事業（専門高校における小・中学校連携事業）

小・中・高等学校が連携し、小・中学生に専門高校の取組を体験させることなどにより、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進した。

○　キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）

県内全ての高等部設置特別支援学校における就職率と職場定着率を向上させるため、関係機関と連携し、企業への理解啓発と企業で働き続けることのできる人材育成の充実を図った。

○　インクルーシブ教育システム構築事業

特別な支援を必要とする子どもたちへの支援体制の整備・充実のために、関係機関連携によるネットワークの構築や乳幼児期からの一貫した相談体制の整備等の取組を支援した。

○　社会自立を目指すスキルアップ事業

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とした。

○　小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業

小学生を対象として、インターネットを活用した外国語活動のライブ授業や異文化体験活動を通して、コミュニケーション能力の素地を育成するとともに、国際感覚を養った。

○　ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業

国際社会に貢献できる人材を育成するため、学校が実施する海外ホームステイ研修に参加する高校生を対象に旅費の一部を支援した。

○　英語指導力向上事業

震災からの復興に向けて、国際社会の進展に対応する人づくり及び国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るため、小中高等学校等における英語指導及び学習評価の改善についての実践研究を行い、その成果を県内の学校へ普及した。

○　双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて、国際社会に貢献できるグローバル人材の育成及び双葉地区教育構想の基本目標である「国際人として社会をリードする人材の育成」の実現のために、海外留学や国際理解事業により、実践的なコミュニケーション能力や異文化理解に富む人づくりを推進した。

○　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（私立学校）★

東日本大震災により被災した児童生徒等の心のケアなどに当たるため、国の委託により緊急にスクールカウンセラー等の派遣を実施した。

○　私立幼稚園心と体いきいき事業★

園児の体力向上や肥満防止等を目的とした年間プログラムを計画的に実践する私立幼稚園を支援した。

○　医科大学施設・設備整備事業★

「ふくしま国際医療科学センター」の工事進捗に合わせて、医科大学の施設・設備等の一体的な整備に要する経費を補助した。

○　医科大学修学支援宿泊施設整備事業★

地域社会に貢献する熱意を持った真に人間性豊かな医療人を養成し、その県内定着に大きな役割を果たしてきた学生寮の整備に要する経費を補助した。

○　少人数教育推進事業

個に応じたきめ細やかな指導が可能となるよう、小学校、中学校において30人及び30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

○　学校すこやかプラン

メンタルヘルスに関する課題やアレルギー疾患、性や薬物に関する問題など、児童生徒を取り巻く現代的健康課題に対応するため、家庭や地域の関係機関が効果的に連携しながら支援できる体制を整備し、発達段階に応じた健康教育の推進を図った。

○　「ふくしま子ども夢宣言」推進事業

「ふくしま子ども憲章」について、児童生徒はもとより広く県民に周知した。併せて憲章の一項目である「ありがとうの気持ちを忘れない」をテーマに、作文コンクールを実施した。

○　地域スポーツ人材の活用実践支援事業

中学校の武道・ダンスの授業と中学校・高等学校の運動部活動に対し、県教育委員会が委嘱する地域スポーツ人材を派遣することにより指導の一層の充実を図った。

○　学校における食育推進プロジェクト

健康及び食生活の課題を明確にし、学校における食育推進の基本方針及び評価指標を開発するとともに、家庭、学校、地域の協働による食育の推進を図った。

○　双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

福祉・健康に関する専門的な授業を行い、将来、総合的な健康づくりをコーディネートでき、福祉・健康分野で活躍する人づくりを推進した。

○　高等学校学習支援推進事業

高等学校に在籍している発達障がい等の生徒において、学習の遅れに加え、東日本大震災の影響による環境の変化への不適応等が見られることから、高等学校における発達障がい等の生徒への支援をより充実させるために、在籍数の多い高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた学習支援を行った。

○　特別支援学校における医療的ケア実施事業

特別支援学校で学ぶ幼児児童生徒の障がいの重度・重複化に伴い、吸引等の医療的ケア（日常的応急的手当）を必要とする幼児児童生徒が常在しているため、これらの幼児児童生徒が健康で安全・安心な学校生活を送るとともにその保護者の負担を軽減するため医療的ケアを実施した。

○　特別支援学校における外部専門家活用事業

東日本大震災に伴い、生活や学習に不安を示す特別支援学校の幼児児童生徒が一定数見られるため、特別支援学校の教員が外部専門家からの継続的な指導・助言を受けることにより、幼児児童生徒へのきめ細やかな支援を行い、学習活動の充実を図った。

○　うつくしま教育ネットワーク事業

学校を含めた教育文化機関に安全で安定したインターネット利活用環境を提供した。さらに授業等でのネットワークの使用量増加に対応するためのシステム改良、情報セキュリティの維持、有害情報の遮断、テレビ会議システムの運用などの支援を行った。

基本目標２において重視する観点
○家族や地域の絆を生かした、総合的な教育力の向上

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（学校支援地域本部事業）

教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るために、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進した。

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（地域支援推進事業）

公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流促進した。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援した。

○　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（放課後子ども教室推進事業）

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、地域の協力のもと、子どもたちがスポーツ・文化活動や交流活動を行う放課後子ども教室の設置を支援した。また、県内各地で本事業に関わる人材の資質向上を目的とする研修会を実施した。なお、「放課後児童健全育成事業」（保健福祉部）と連携し総合的な放課後対策事業として実施した。

○　学校・家庭・地域連携サポート事業

学校支援地域本部事業や放課後子ども教室推進事業の先進的な取組の実施状況を見学し、実践を学ぶために「学校支援実践研修会」を実施するとともに、地域支援推進事業、また学校支援地域本部事業推進のためのコーディネーター養成とボランティア人口の拡充を図るために「コーディネーター養成研修会」を実施した。

○　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

震災で被災して心が傷ついている子どもたちや親たちに、本とのふれあいを通して心を癒してもらうため、読み聞かせなどを行うフェスティバルを開催した。

また、読書ボランティアの活動も推進しながら、本を通じて子どもたちや親たちの心の復興を図った。

○　地域でつながる家庭教育応援事業

「親の学び」を支援するために、ＰＴＡと連携し、親自身が学ぶ機会が充実するよう支援した。また、学習プログラムを作成し、家庭教育支援者をリードする人材を育成するとともに、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

○　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

東日本大震災に関連する資料等を収集・保存し、広く県民に情報を提供するとともに、移動図書館車の巡回による資料の貸出を行った。

○　社会教育施設災害復旧事業

東日本大震災により被災した社会教育施設の復旧を行った。

○　地域における防災力向上支援事業

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設において地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者を支援するための研修を行った。

○　文化による心の復興支援プロジェクト

美術館及び博物館において、文化による心の復興を支援するため、県外の施設等と連携を図りながら観光交流等も視野に入れた企画展を開催した。

○　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していくような交流活動を行うとともに、充実した自然体験活動を行う機会を提供し、豊かな人間性と生きる力の育成を図った。

○　ふくしまから　はじめよう。再生可能エネルギー教育実践事業

発達段階に応じて再生可能エネルギーと資源の利用に関する意識の醸成を図り、主体的に行動する態度や資質、能力を育成するため、教員の大学おける研修、エネルギー学習教材の開発、専門家の派遣、成果の普及・啓発等を大学に委託し、モデル校において学習プログラムの実践を行った。

○　指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災で被災した国・県指定文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

○　地域に根差した文化財の災害復旧支援事業

地域の宝である文化財の保護・継承を図るため、国登録有形文化財の個人所有者が、東日本大震災により被災した文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

○　地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、継承の危機に瀕している民俗芸能の円滑な継承を促進し、ふるさとに対する誇りや郷土愛を確認し、地域のつながりを再構築するための活動に対して補助をした。また、稽古の様子、公演での演目披露の様子の記録保存を委託した。

○　生涯学習による復興応援事業★

地域をつなぐ活動や自治組織の形成を支援するため、行政と住民の協働によるコミュニティ再生に向けた講義等を開催し、地域の核となる人材を養成した。

○　東日本大震災記録保存活用事業★

東日本大震災及び原子力災害の体験や教訓等を次世代に継承するため、伝えるべき資料、残すべき資料を収集・保存し、活用を図った。

○　子供達によるふるさと「ふくしま」の学び事業★

子どもたちが復興に向けた地域の現状やふるさとのすばらしさを学ぶため地域の方々に取材等の交流を行い、その成果を、新聞にまとめ HP や広報紙などを活用し県内外に発信した。また、子どもたちが、ふくしまのよさや夢・希望等について、ふくしまにゆかりのある方々にインタビューし、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送の中で自分の声で、その思いやふくしまの「いま」を発信した。

○　ふくしまから　はじめよう。「地域のたから」伝統芸能承継事業★

民俗芸能の担い手の継承意欲を高めるとともに、県民の震災からの心の復興を図るため、被災地の民俗芸能団体や子どもが演じ手の団体を中心に民俗芸能の公演及び代表者や子どもたちの交流会を実施した。

○　アートによる新生ふくしま推進事業★

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場を

つくり、文化芸術による地域活力の創出と心の復興という視点から復旧･復興を支援するため、様々なアートプログラムを企画実施した。

○　十七字のふれあい事業

子どもと大人が家庭や地域の「人と人とのかかわり」の中で感じたこと等を十七字の作品として募集し、優秀作品を表彰した。

基本目標３において重視する観点
○復興・再生に向けた教育環境の一層の充実

○　大規模改造事業

老朽化した学校施設の機能を回復する大規模改修とともに耐震改修を併せて行い、大規模な地震による災害時には応急的な避難施設となる学校施設の安全性を確保した。

○　県立学校校舎等改築事業

耐震改修工事による耐震化が不可能と判断された校舎及び実習棟について改築を行った。

○　県立学校施設等災害復旧事業

東日本大震災により被災した県立学校施設等について、建物、工作物、土地、設備等の復旧を行った。

○　県立学校施設応急仮設校舎等設置事業

東日本大震災の発生により校舎が被災した学校や、原発事故により国から区域外への避難指示がなされ移転を余儀なくされた学校を対象に応急仮設校舎等の設置・賃借を行った。

○　高校等奨学資金貸付事業

高校・専修学校（高等課程）に在学し、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学困難と認められる者及び東日本大震災により被災し経済的に就学困難と認められる者に対して修学資金の貸与を行った。

○　大学等奨学資金貸付事業

大学、短期大学、高等専門学校に在学し、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学困難と認められる者に対して奨学資金の貸与を行った。

また、大学等へ入学しようとする者へ入学一時金の貸与を行った。

○　被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災により被災し、経済的理由により就園、就学が困難となった幼児児童生徒に就学支援等を行った。

○　被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業

特別支援学校に就学している被災した幼児児童生徒のうち、経済的理由により就学が困難となった者（支弁区分が変更となった者等）に対して県が補助を行った。

○　高等学校通学費支援事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴うサテライト校への通学等により、通学環境が大きく変化し、経済的負担が大きくなる生徒の通学費を負担した。

○　学校給食検査体制支援事業

学校給食の一層の安全・安心を確保するため、学校給食用食材の放射性物質検査を実施する市町村等を支援した。

○　学校給食モニタリング事業

希望する市町村において、学校給食センター等で提供した学校給食１食分に含まれる放射性物質の検査を民間の検査機関に委託して行った。

○　公立学校等校舎内緊急環境改善事業

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、市町村が行う市町村立学校等への空調機器等の整備を支援した。

○　双葉郡中高一貫校設置事業

広野町に設置する予定の中高一貫校の開設に向け、いわき市内に開設準備の現地事務室を設置した。また、平成２７年４月の開校に向けて、双葉郡８町村やサテライト校ＰＴＡ等から意見を聞いた。

○　双葉地区教育構想推進事業

日本サッカー協会等との連携の下、スポーツにおいて世界で活躍できるスペシャリストの育成に取り組むとともに、語学や福祉・健康の分野においても国際的な感覚を身に付けた、豊かな人間性と確かな学力を有する人づくりを推進した。

○　県立特別支援学校全体整備計画の推進

特別支援学校の児童生徒数の増加及び通学地域の広域化に伴う長時間通学等の課題を解消するために、障がいのある児童生徒等の学習活動が適切に行える教育環境作りと複数の障がい種に対応した専門的な教育が行われる学校作りを推進した。平成２６年度は県立勿来高等学校内にいわき養護学校分校の設置に向けた改修工事を行った。

○　サテライト校の整備・充実

サテライト校の集約に伴い、保護者の元からの通学が困難となる生徒がいることから宿泊施設を確保することで、教育環境の維持を図ったり、サテライト校の管理運営に係る経費を支援した。

また、各サテライト校の計画による学力向上・キャリア教育に関する取組や、生徒の一体感を高める取組を支援した。さらに、県内各地区に避難を余儀なくされた中学生が、他地区にあるサテライト校を受験しやすくなるよう支援した。

○　復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災による様々な課題を抱える児童生徒の学習支援と心のケアのための教員を配置した。

○　文化で元気！”新生ふくしま”グランドステージ事業★

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等の開催により誘客を図り、本県の姿を全国に発信するため、主催者に対して補助金を交付した。

○　ふくしまからスポーツ発信・全国大会誘致事業★

来県者が期待できるブロック大会規模以上のスポーツやレクリエーションの大会を本県に誘致し、県民へ元気を与えるとともに、地域の活性化につなげた。また、全国に福島県の本当の姿を発信していただくことで、風評被害の払拭を図った。

○　「陸上王国福島」パワーアップ事業★

陸上競技をツールに用いた取組を行い、子どもたちの体力向上と心身の健康を図るとともに、日本一の陸上選手の本県からの誕生を目指し、県全体の活性化を図った。

○　スポーツ環境復興緊急対策事業★

短期間での競技力向上が見込める以下の10競技を対象として競技力の向上を図るため、より高度な技術や戦術について指導できる県外の優秀な指導者を「アドバイザーコーチ」として指定し、県内と県外でコーチングクリニックを行った。

①水泳　②ウエイトリフティング　③自転車　④カヌー
⑤スキー　⑥ボート　⑦ボウリング　⑧ボクシング
⑨フェンシング　⑩弓道

○　ふくしまから世界へ！　「ふくしま夢アスリート」育成支援事業★

本県から将来の活躍が期待される青少年（１５歳～２０歳）を指定し、国際的な競技力向上を見据えた中央競技団体等の実施する強化練習会などへの参加とそのサポートとして指導支援、医科学支援を行った。

○　福島県私学振興会貸付金★

私立学校等の校舎等の整備を促進し、教育条件の向上を図るとともに、その整備事業の実施に伴う父母の負担の軽減に資するため、（公社）福島県私学振興会が私立学校の施設設備事業、災害復旧事業及び防災強化施設整備のための資金として、私立学校へ融資する場合の当該貸付金の原資を同振興会へ貸付けを行った。

○　私立幼稚園心と体いきいき事業★

園児の体力向上や肥満防止等を目的とした年間プログラムを計画的に実践する私立幼稚園を支援した。

○　私立学校被災児童生徒等就学支援★

東日本大震災に起因する事情により被災した児童生徒等の就学を支援するため、授業料等減免措置を行った私立学校に対して減免相当額を補助した。

○　優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を上げている教職員を、優秀教職員として積極的に称え表彰することによって、教職員の志気を高めるとともに、教育活動全体の活性化を図った。

○　ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

公立学校共済組合員を対象に、カウンセリング相談、講師派遣を行い、心の健康保持に資した。

○　教職員メンタルヘルスカウンセリング事業

常勤講師等臨時的任用教職員（公立学校共済組合員以外の教職員）が、相談機関等でカウンセリングを受ける際の経費を負担した。

以上のほか、教育行政の主な動きは次のとおりである。

2　教育の情報化関係

平成13年に発表された「e-Japan戦略」では、「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を早期に達成し、ITを利用した教育を可能にする」ことが明記された。また、新しい学習指導要領には、各教科や総合的な学習の時間でコンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図ることが盛り込まれている。さらに、平成18年に発表された「IT新改革戦略」では、すべての教員へのIT機器の整備、IT活用による学力の向上などを行うことで、一層の情報化が求められている。

これらに対応すべく教育の情報化を推進するためには、①基盤整備、②人材の育成・活用、③教育用コンテンツの充実の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、事業を実施してきており、情報通信技術を活用した教育に不可欠な“安定”かつ“安全”なネットワーク環境を、学校や教育関係機関などに提供するため、「うつくしま教育ネットワーク」の基盤整備も行ってきた。

インターネットを活用するなどして学習効果の向上を図るためには、コンピュータで指導できる教員の育成が急務であり、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を実施している。

また、「うつくしま教育ネットワーク」では、テレビ会議システムを再構築し、学校のみならず各教育関係機関での積極的な利活用の促進を図っている。

3　義務教育関係

(1)　県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、授業改善のための定着確認シート活用実践事業、ふくしまから　はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業及び学力調査研究事業を実施した。

また、数学的な考え方や科学的な思考力を高めるため、小学生算数・理科講座事業及び福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業、「科学の甲子園」福島県大会事業を実施した。

さらに、少人数教育充実のために、30 人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

(2)　「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校23校、中学校134校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

また、大震災後、児童生徒がＰＴＳＤ等にならないように文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを小学校83校、中学校90校に派遣し、心のケアに当たった。

さらに、カウンセリング研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

4　高等学校教育関係

(1)　高等学校において、生徒の学力向上を図り将来への展

望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成するため、「ふくしま高校生進路実現サポート事業」を実施した。

ア　地域に貢献できる人づくりプロジェクト

○　対象校　２４校

○　各校の取組内容

・生徒の基礎学力を高める取組

（ア）学ぶ意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス

（イ）指導力向上のための校内研修の活性化

・３年間の計画的な進学指導体制の充実を図る取組

進路指導連絡協議会の開催

・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組

（ア）地域人材を活用した職業研究講話

（イ）地域貢献活動

（ウ）進路便りや年間指導計画表の作成・配布

・社会人としての在り方についての理解を深める取組

（ア）社会人としての在り方についての講演会

（イ）職場見学会（選択）

（ウ）デュアルシステム等の実施（選択）

イ　大学進学プロジェクト

○　対象校　１２校

○　各校の取組内容

・論理的思考力・読解力・表現力養成講座

・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導

・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

・社会人としての在り方についての理解を深める講話

・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

・卒業生（大学生等）による講話

・保護者を交えた進学勉強会

・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

○　研究会等の開催

・進学指導力向上のための研究会

（ア）予備校等を活用した大学入試の方法、模擬試験のデータ等の活用、各生徒の希望・適性に見合った大学選び等についての研究

（イ）大学の入試担当によるＡＯ及び推薦入試に係る研究会

（ウ）大学入試センター等主催のシンポジウム等への参加

・学力向上のための教科指導力向上研究会

言語活動の充実を意識し、生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

・進路指導連絡協議会

ウ　オールふくしまリーダー育成プロジェクト

○　対象　県立高等学校１年生

○　実施内容

・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）

・予備校講師による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）

・生徒によるグループ協議とプレゼンテーション等

・社会人による講演会等

・大学生との交流会、パネルディスカッション等

(2)　教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(3)　多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

５　特別支援教育関係

(1)　県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。

本答申を具体的な施策に反映させるため、第６次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」の５項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

(2)　「社会自立を目指すスキルアップ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の社会参加・自立につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

(3)　「地域支援体制整備充実事業」では、県内全域を推進地域とし、理解啓発セミナーや研修会等を通して、市町村における相談機能や支援体制の整備を進めた。各地域では、保健福祉部局と連携を図り、相談支援ファイルを作成し、早期からの継続した支援を充実させる取組を進めた。また、教育事務所を中心として養護教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を生かし、地域支援チームとして

連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じて、支援体制整備に向けた取組を行った。

(4) 「平成２６年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（１２校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

６　社会教育関係

(1) 県社会教育委員の会議では、公募委員２名を含む１６名に委員を委嘱した。

本年度は、平成２６年３月に受けた提言『「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けて～これからの社会教育推進のために～』の内容推進のために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力しながら、地域社会全体で子どもたちの教育を支援していくための体制づくりや人材育成、本県における社会教育事業のあり方等について審議した。

(2) 震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室推進事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」、学校や公民館等の社会教育施設に学習活動をコーディネートする人材を配置し、地域住民の学習・交流を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備し地域コミュニティの再生を図る「地域支援推進事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

(3) 家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

(4) 青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「十七字のふれあい事業」を実施した。

(5) 地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、これまでの成果と課題を踏まえ、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を２月に策定した。

(7) ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) 子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

７　文化関係★

(1) 文化振興による地域づくりを施策の柱に加えた新しい「福島県文化振興基本計画」～ふくしま文化元気創造プラン～を平成２２年３月に策定したが、東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、平成25年3月に本計画を見直し、文化の力による創造的な復興を目指し改訂した。

(2) 福島県文学賞、福島県総合美術展覧会等の事業を実施し、県民文化活動の促進と発表機会の充実に努めた。

(3) 県民の芸術文化の振興と東日本大震災以降の県民の心の復興を図るため、県立美術館での震災復興支援特別展「飛驒の円空　千光寺とその周辺の足跡」や県立博物館の「東日本大震災復興祈念　みちのくの観音さま　人に寄り添うみほとけ」等の企画展を開催した。

(4) 国指定文化財では、重要文化財（建造物）として、棚倉町「都々古別神社本殿」１棟が指定された。また史跡では、いわき市「根岸官衙遺跡群」が追加指定された。

(5) 各種の開発から埋蔵文化財を保護するため、一般国道115号相馬福島道路など７事業について表面調査・試掘確認調査を実施した。

また、現状保存できない遺跡については、会津縦貫北道路など８事業で記録保存のための発掘調査を実施し、報告書を刊行した。

(6) 文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修理等の保存事業と公開等活用事業を併せて実施する場合に助成を行う指定文化財保存活用事業を実施し、国・県指定１９件の助成を行った。

また、東日本大震災で甚大な被害を受けた文化財については国・県指定6件の修復事業に対して助成を行った。

(7) 各種コンクール等においては、例年のとおり音楽関係分野の活躍がめざましく、第67回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門において、会津高等学校が４年連続の金賞および第１位相当の文部科学大臣賞を受賞した。また、郡山高等学校が２年連続の金賞及び岩手県知事賞を、安積黎明高等学校が３５年連続３６回目の金賞を受賞した。

同コンクール中学校部門では、郡山市立郡山第五中学校が二年連続、混声・同声で金賞と最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。さらに混声で郡山市立郡山第二中学校が、１２年連続金賞と第２位に相当する盛岡市長賞を受賞した。日本学校合奏コンクール全国大会では、郡山市立金透小学校が初めて最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。

音楽以外の分野でも、第５回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテストで、郡山北工業高等学校が世界第１位を受賞、第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会小倉百人一首かるた部門読手コンクールの部で、安積黎明高等学校の星杏奈さんが２年連続となる第１位相当の最優秀賞を受賞、第６１回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト全国大会のテレビドキュメント部門において、磐城高等学校が４年連続の優勝、第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部において、喜多方東高等学校３年の長谷川真由さんが、第１位相当の文部科学大臣賞を受賞、第６１回全国高等学校珠算・電卓競技大会電卓部門（伝票算）で、郡山商業高校の鈴木樹里さんが優勝、平成２６年度全経簿記電卓競技大会全国大会個人総合競技電卓部門において、郡山商業高校の熊谷由美さんが優勝、さらに、第６１回全国高等学校珠算・電卓競技大会電卓部門（団体）、平成２６年度全経簿記電卓競技大会全国大会電卓部門（団体総合）、第１８回全日本電卓競技大会高等学校の部において、郡山商業高等学校が団体優勝するなど、本県のめざましい活躍が見られた。

８　生涯学習関係★

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「ふくしま学習空間夢まなびと」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

東日本大震災の記録及び教訓等を次世代に継承するため、資料の収集及び保存等を行った。

また、子どもたちが、地域の現状やふくしまの未来について考え、新聞にまとめHP等を活用し、県内外に発信する「ジャーナリストスクール」や、ふくしまのよさや夢・希望等について、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送等の中で自分の声で発信する「パーソナリティアカデミー」を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

９　スポーツ関係★

平成２５年３月に「福島県スポーツ推進基本計画」を策定し、以後８年間のスポーツ施策の方向性を定めた。平成２２年３月に策定した福島県スポーツ振興基本計画は、東日本大震災や津波、原子力発電所事故により、本県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化したことや、国が新たに「スポーツ基本法」を施行し、同法に基づいて「スポーツ基本計画」が策定されたことから、その内容の見直しを行ったものである。本年は、スポーツ推進審議会の計画に基づき、「県民の運動・スポーツに関する実態調査」を実施し、実態の把握に努めた。

今年度、本県関係者の国際大会出場はジュニア世代が多く、バドミントンロシアオープン女子シングルスで大堀彩選手（富岡高３年）が２連覇を果たし、浅野菜摘選手（富岡高２年）・北川ひかる選手（富岡高２年）・橋沼真帆選手（富岡高２年）・大熊良奈選手（富岡高１年）がＦＩＦＡＵ－１７ワールドカップコスタリカ大会に派遣され優勝メンバーとなった。また、陸上競技の山下潤選手（福島高２年）は第２回ユースオリンピック男子２００ｍでアジア地域予選において優勝を飾り、本大会でも６位に入賞を果たした。その他、バドミントン競技で富岡高校の選手が世界ジュニア選手権大会に派遣され３位入賞を果たしている。主に中・高校生が世界の舞台で活躍し、スポーツの力で県民に勇気や元気を与えた。

本県競技力の向上を図るため、強化選手や強化チーム並びに中・高校の運動部を指定し、長期的・組織的・計画的に選手を育成する「競技別一般強化合宿事業」を中心に、各種事業を実施した。特にバドミントン競技及びゴルフ競技においては、トップレベルの指導者を招聘し、中高連携の一貫した指導体制のもと、優秀な選手を育成する「専任コーチ等招聘事業」を実施した。また、前事業を継承し陸上競技をツールに用いて、子どもたちの体力向上や心身の健康、将来の日本一の選手誕生を目指した「陸上王国福島」パワーアップ事業を実施するとともに、第９８回日本陸上

競技選手権大会が本県で開催され、そのメモリアルイベントとして県内の小・中学生対象に「福島の輝く未来へ」トップアスリート陸上教室を実施した。さらに、優秀な人材の発掘と育成を目標とした「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」では特に第２・第３ステージにおいて充実したプログラムを実施できた。

全国中学校体育大会で猪苗代中学校バドミントン部（原発事故の影響により富岡一中の生徒が在籍）が女子団体優勝、個人では男子ダブルスで金子真大・久保田友之祐組（猪苗代中学校）、女子シングルスで髙橋明日香選手（猪苗代中３年）、女子ダブルスで由良なぎさ・永井瀬雰組（猪苗代中学校）が優勝を果たした。

また、全国高等学校総合体育大会では、バドミントン競技で富岡高等学校が大会史上初めてとなる男女団体の同時優勝を果たすという快挙を成し遂げ、男子シングルスでも古賀穂選手（３年）が見事優勝をするなど活躍し、ウエイトリフティング競技の佐藤啓隆選手（福島工高３年）も９４kg級で優勝した。

年度末に開催された選抜大会においては、富岡高等学校バドミントン部が学校対抗で男女ともに準優勝であったが、男子シングルスで渡辺勇大選手（２年）及び男子ダブルスで渡辺勇大・三橋健也組が優勝を果たし、帝京安積高校女子ソフトボール部も三位に入賞した。

国民体育大会においては、ウエイトリフティング競技少年男子９４kg級（C&J）で佐藤啓隆選手（福島工高３年）、バドミントン競技少年女子団体で大堀彩選手（富岡高３年）・東野有紗選手（富岡高３年）・川上紗恵奈選手（富岡高２年）のチームが全国高校総体に引き続き優勝を果たし、カヌー競技少年男子K-1　５００ｍで野地裕太選手（二本松工高３年）、陸上競技少年男子Ｂ３０００ｍで遠藤日向選手（学法石川高１年）が見事優勝した。冬季大会では、スケート競技少年女子５００ｍで増子楓佳選手（熱海中３年）が中学生ながら８位入賞を果たすなど、少年種別で全国の強豪相手に健闘した。

また、平成２９年度全国高校総合体育大会（南東北インターハイ）に向け、今年度から県外の強豪チーム・選手を県内に招き合同練習等を行う「ふくしまで一緒にやろう！」プロジェクト及びインターハイ選手特別強化事業を実施し、競技力の向上を図った。次年度以降も、大会に向けての選手育成を図るとともに、引き続き本県の復興状況や子どもたちの活力ある姿等を全国に発信していくこととしている。

10　福利厚生関係

(1)　特定健康診査等を実施するとともに、教職員の生活習慣病の早期発見・早期治療に資するため、人間ドック等の健診事業を、県、市町村、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りつつ実施した。

(2)　教職員の健康管理意識を高めるため、放射線や生活習慣病、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。

また、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

第２章　教　　育　　行　　政

第１節　平成26年度福島県教育委員会重点施策

☆　県教育委員会では、平成２２年３月に策定した「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念とする「第６次福島県総合教育計画」に基づき、３つの基本目標を定めて各施策を展開し、目標の達成を目指して教育行政を推進している。

☆　この計画の適切な運用に努めるため、３つの基本目標ごとに毎年度、重視する観点を以下のように定め、これに基づき実施する事業を明らかにしている。

☆　生涯学習、文化及びスポーツに関する事業については知事部局の企画調整部文化スポーツ局において所管しているが、県教育委員会も連携を図りながら推進していく。

（知事部局所管の事業に★を付す。）

「平成26年度に重視する観点」に対応した主な事業

基本目標１「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」において重視する観点

○ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進

子どもたちの「確かな学力」、「豊かなこころ」と「健やかな体」をバランスよくはぐくみ、ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育を推進します。特に、震災の教訓を踏まえた道徳教育や教育相談体制の充実、医学や新たな産業の基盤となる理数教育、児童生徒の発達段階に応じた放射線教育や防災教育の推進、国際化の進展に対応できる国際人の育成などを通して生き抜く力をはぐくむとともに、学校、家庭、地域の連携による学力や体力の維持・向上、読書活動の推進、小・中学校等における特別支援教育の推進、就職の支援などに取り組みます。

継　続　ピュアハートサポートプロジェクト
（学校の教育活動（全体）を通した道徳教育の充実、道徳教育総合支援事業、人権教育開発事業、スクールカウンセラー等活用事業、スクールカウンセラー活用事業、学校教育相談員配置事業、緊急時カウンセラー派遣事業、緊急時スクールカウンセラー派遣事業（災害分）、緊急時カウンセラー派遣事業（災害分）、スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業、子ども２４時間いじめ電話相談事業、いじめ対策等生徒指導総合推進事業、不登校対策推進事業、生徒指導アドバイザー派遣事業）
新　規　子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業
継　続　児童生徒の体力向上推進事業
新　規　平成２９年度南東北インターハイ開催事業
新　規　ふくしまから　はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業
継　続　学校給食地場産物活用事業
継　続　学力向上推進支援事業（小・中学校）
新　規　ふくしまから　はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業
継　続　サポートティーチャー派遣事業
新　規　ふくしま高校生進路実現サポート事業
継　続　ふくしまから　はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業
継　続　中山間地域インターネット活用学力向上支援事業
継　続　放射線教育推進支援事業
一　新　「生き抜く力」を育む防災教育推進事業
継　続　ふくしま地域医療の担い手育成事業
継　続　キャリア教育推進事業
継　続　インクルーシブ教育システム構築事業
継　続　社会自立を目指すスキルアップ事業
継　続　小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業
継　続　ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業
一　新　英語指導力向上事業
継　続　双葉地区教育構想（国際人材育成プラン）
継　続　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（私立学校）★
新　規　私立幼稚園心と体いきいき事業★
継　続　医科大学施設・設備整備事業★
継　続　医科大学修学支援宿泊施設整備事業★
継　続　少人数教育推進事業
継　続　学校すこやかプラン（夢をはぐくむいのち生きいきプロジェクト事業）
継　続　「ふくしま子ども夢宣言」推進事業
継　続　地域スポーツ人材の活用実践支援事業
継　続　学校における食育推進プロジェクト
継　続　双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）
継　続　高等学校学習支援推進事業
継　続　特別支援学校における医療的ケア実施事業
継　続　特別支援学校における外部専門家活用事業
継　続　うつくしま教育ネットワーク事業

基本目標２「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」において重視する観点

○家族や地域の絆を生かした、総合的な教育力の向上

家族や地域の絆を生かしながら、地域コミュニティの再生を図りつつ、学校・家庭・地域の連携・協力により、総合的に教育力の向上を図ります。このため、地域全体で学校教育や家庭教育を支援する体制の充実や、公民館などを活用した地域による課題解決の取組の支援とともに、被災した文化財の修復や伝統文化、自然体験活動や交流活動等に係る支援、県内外の文化施設相互の連携をさらに推進します。

継　続　学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事

業
新　規　学校・家庭・地域連携サポート事業
新　規　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト
新　規　地域でつながる家庭教育応援事業
継　続　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業
継　続　社会教育施設災害復旧事業
継　続　地域における防災力向上支援事業
継　続　文化による心の復興支援プロジェクト
一　新　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業
継　続　ふくしまから　はじめよう。再生可能エネルギー教育実践事業
継　続　指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）
継　続　地域に根ざした文化財の災害復旧支援事業
継　続　地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業
継　続　生涯学習による復興応援事業★
継　続　東日本大震災記録保存活用事業★
一　新　子供達によるふるさと「ふくしま」の学び事業★
継　続　ふくしまから　はじめよう。「地域のたから」伝統芸能承継事業
新　規　アートによる新生ふくしま推進事業★
継　続　十七字のふれあい事業

基本目標３「豊かな教育環境の形成」において重視する観点

○復興・再生に向けた教育環境の一層の充実

本県の復興・再生を支える子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の一層の充実を図ります。このため、被災した教育施設の復旧とともに、双葉郡の中高一貫校の設置に向けた準備を行います。また、児童生徒の受ける放射線量の低減や学校給食の検査体制への支援を行います。

被災した児童生徒に対応するため、奨学資金等による経済的な支援を行うとともに、適切な教員の配置や教員研修の充実に努めます。さらに、学校施設の耐震化・老朽化対策を促進するとともに防災管理体制を充実させます。また、共に学ぶ環境づくりのため、特別支援学校の整備を推進します。

継　続　大規模改造事業
継　続　県立学校校舎等改築事業
継　続　県立学校施設等災害復旧事業
継　続　県立学校施設応急仮設校舎等設置事業
継　続　大学・高校等奨学資金貸付事業
継　続　被災児童生徒等就学支援事業
継　続　被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業
継　続　高等学校通学費支援事業
継　続　学校給食検査体制支援事業
継　続　学校給食モニタリング事業
継　続　公立学校等校舎内緊急環境改善事業
新　規　双葉郡中高一貫校設置事業
継　続　双葉地区教育構想推進事業
継　続　県立特別支援学校全体整備計画の推進
継　続　サテライト校の整備・充実（宿泊施設・運営管理・支援事業）
継　続　復旧・復興の基盤づくりのための教員配置
継　続　文化で元気！”新生ふくしま”グランドステージ事業★
継　続　ふくしまから　はじめよう。スポーツ発信・全国大会誘致事業★
継　続　「陸上王国福島」パワーアップ事業★
新　規　ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業★
継　続　スポーツ環境復興緊急対策事業★
継　続　福島県私学振興会貸付金★
新　規　私立幼稚園心と体いきいき事業★
継　続　私立学校被災児童生徒等就学支援
継　続　優秀教職員表彰制度
継　続　教職員メンタルヘルス事業

第２節　教育委員会

１　教育委員会

平成26年12月19日に開催された教育委員会定例会において、委員長に高橋金一委員が互選され、委員長職務代理には、蜂須賀禮子委員が指定された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
委員長	高橋　金一	平成23年12月27日	弁護士	郡山市
委員長職務代理者	蜂須賀禮子	平成24年10月19日	生　花販　売	大熊町
委　員	境野　米子	平成23年４月１日（２期目）	生　活評論家	福島市
委　員	小野　栄重	平成25年12月24日（２期目）	会社代表取締役	いわき市
委　員	佐藤　有史	平成24年10月19日	会社代表取締役	会津若松市
教育長	杉　　昭重	平成24年４月１日		福島市

２　審議事項

４月定例会(26.4.18)

○　審議事項

(1)　平成２７年度福島県公立学校教員採用予定者数について

(2)　教職員の懲戒処分について

○　報告事項

(1) 平成２６年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
(2) 平成２６年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
(3) 訓告処分等について

５月定例会(26.5.16)

○ 審議事項
(1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
(2) 福島県立会津学鳳中学校学則の一部を改正する規則について
(3) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
(4) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
(5) 福島県教育関係職員定数条例の一部を改正する条例案について
(6) 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
(7) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 平成２７年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
(2) 訓告処分等について
(3) 応訴について

６月定例会(26.6.13)

○ 審議事項
(1) 平成２７年度使用教科用図書調査研究資料について
(2) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
(3) 教育長臨時代理による処理の承認について
(平成２５年度福島県一般会計補正予算(教育委員会関係部分)について)
(4) 平成２６年度６月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(5) 工事請負契約の一部変更案について
(6) 福島県社会教育委員の任命について
(7) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

７月定例会(26.7.16)

○ 審議事項
(1) 県立高等学校長の人事について
(2) 福島県市町村公立学校教頭の人事について
(3) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

○ 協議事項
(1) 双葉郡中高一貫校の校名案について

８月定例会(26.8.22)

○ 審議事項
(1) 平成２７年度使用県立特別支援学校小学部・中学部・高等部の教科用図書の採択について
(2) 平成２７年度使用県立高等学校の教科用図書の採択について
(3) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
(4) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 教職員の分限処分について
(2) 訓告処分等について

９月定例会(26.9.10)

○ 審議事項
(1) 平成２７年度福島県立中学校入学者選抜について
(2) 平成２７年度福島県立高等学校入学者選抜について
(3) 平成２７年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
(4) 福島県指定重要文化財の指定について
(5) 平成２６年度９月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(6) 工事請負契約の一部変更案について
(7) 教職員の懲戒処分について
(8) 平成２６年度教育・文化関係表彰について
(9) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
(10) 平成２７年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び平成２７年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について

○ 報告事項
(1) 福島県文化財保護審議会の審議結果について
(2) 訓告処分等について

10月定例会(26.10.17)

○ 審議事項
(1) 平成２７年度福島県立学校生徒募集定員について
(2) 平成２６年度教育・文化関係表彰について
(3) 平成２７年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
(4) 平成２７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について
(5) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

11月定例会(26.11.21)

○ 審議事項
(1) 平成２６年度１２月補正予算案(教育委員会関係部分)について
(2) 福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案について
(3) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
(4) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について

(5) 平成２６年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
(6) 平成２６年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
(7) 教育長臨時代理による処理の承認について
（市町村公立学校長の人事について）
(8) 市町村公立学校長の人事について
(9) 市町村公立学校教頭の人事について
(10) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 平成２６年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
(2) 平成２６年度福島県立学校教職員の勤務評定について
(3) 訓告処分等について

12月定例会(26.12.19)

○ 審議事項
(1) 教育長臨時代理による処理の承認について
（福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例について）
(2) 教育長臨時代理による処理の承認について
（平成２６年度１２月補正予算追加提案（教育委員会関係部分）について）
(3) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
(4) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
(5) 福島県立美術館運営協議会委員の任命について
(6) 教職員の懲戒処分について
(7) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
(8) 平成２６年度教育・文化関係表彰について
(9) 教育職員免許法第５条第３項の規定による特別免許状の授与について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

○ 委員長選挙

○ 委員長職務代理者の指定

1月定例会(27.1.21)

○ 審議事項
(1) 平成２６年度教育・文化関係表彰について
(2) 平成２７年度福島県立学校生徒募集定員について
(3) 平成２７年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
(4) 平成２７年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
(5) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について
(2) 応訴について
(3) 平成２７年度人事異動（教員系）について

2月定例会(27.2.13)

○ 審議事項
(1) 工事請負契約の一部変更案について
(2) 平成２７年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
(3) 平成２６年度２月補正予算案（教育委員会関係部分）について
(4) 福島県教育委員会の委員の定数に関する条例の一部を改正する条例案について
(5) 福島県教育委員会教育長の勤務時間等に関する条例案について
(6) 福島県教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例案について
(7) 福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例を廃止する条例案について
(8) 福島県教育関係職員定数条例等の一部を改正する条例案について
(9) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
(10) 福島県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部を改正する条例案について
(11) 教職員の懲戒処分について
(12) 退職手当の支給について

○ 報告事項
(1) 訓告処分等について

○ 協議事項
(1) 福島県子ども読書活動推進計画（第三次）の策定について
(2) 平成２７年度人事異動（教員系）について

2月臨時会(27.2.27)

○ 審議事項
(1) 平成２５年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
(2) 福島県子ども読書活動推進計画（第三次）について
(3) 福島県教育委員会会議規則の一部を改正する規則について
(4) 福島県教育委員会傍聴規則の一部を改正する規則について
(5) 福島県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則について
(6) 福島県教育財産管理規則の一部を改正する規則について
(7) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
(8) 市町村公立学校長の人事について
(9) 教育庁職員（教員系）の人事について
(10) 平成２７年度教育庁及び教育機関の主要職員(教員系)の人事について
(11) 平成２７年度市町村公立小・中・特別支援学校長の人事について
(12) 平成２７年度市町村公立小・中・特別支援学校教頭の

人事について
(13) 平成２７年度県立学校長の人事について
(14) 平成２７年度県立学校教頭の人事について
(15) 指導不適切教諭等に対する措置について

○ 報告事項
(1) 平成２６年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
(2) 平成２６年度福島県立学校教職員の勤務評定について

３月定例会(27.3.16)

○ 審議事項
(1) 第６次福島県総合教育計画における指標の変更について
(2) 第６次福島県総合教育計画「平成２７年度アクションプラン」について
(3) 福島県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則の一部を改正する規則について
(4) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則等の一部を改正する規則について
(5) 教科用図書選定審議会規則の一部を改正する規則について
(6) 福島県指定重要無形民俗文化財の指定について
(7) 福島県文化財保護審議会委員の任命について
(8) 福島県立博物館運営協議会委員の任命について
(9) 平成２８年度使用教科用図書選定審議会委員の任命について
(10) 福島県立博物館長の委嘱について
(11) 県立特別支援学校整備指針について
(12) 平成２７年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
(13) 平成２７年度市町村公立小・中・特別支援学校教職員の人事について
(14) 平成２７年度県立学校教職員の人事について
(15) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項
(1) 福島県文化財保護審議会の審議結果について
(2) 平成２８年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施に係る改善点について
(3) 教職員等による不適切な行為に関する実態調査について
(4) 訓告処分等について

第３節 教育庁組織

理事兼政策監	尾形　淳一
教育次長（業務）	菅野　誠
教育庁参事（人事・企画）	笠原　裕二

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長	大類　由紀子
	庁主幹兼副課長	鶴見　宏幸
	庁企画主幹兼副課長	佐藤　秀美
財務課	課長	山田　英一
	主幹兼副課長	菅野　信之
施設財産室	室長	中島　博
	主幹	伊東　誠
職員課	課長	齋藤　圭一
	主幹兼副課長	吉田　強栄
	主幹	佐藤　等
福利課	課長	須藤　幹子
	主幹兼副課長	鈴木　正彦
社会教育課	課長	佐川　正人
	主幹兼副課長	秋山　和則
	主幹	永瀬　功一
文化財課	課長	津田　正美
	副課長兼主任主査	金澤　昭
	副課長兼専門文化財主査	佐藤　耕三
義務教育課	課長	飯村　新市
	主幹兼副課長	東間　孝文
	主幹	有賀　仁一
	主幹	菊池　篤志
高校教育課	課長	大沼　博文
	主幹兼副課長	斎藤　理恵
	主幹	加藤　知道
	主幹（～７月）	瓜生　康弘
特別支援教育課	課長	上妻　弘
	主幹兼副課長	小檜山　宗浩
健康教育課	課長	笠井　淳一
	主幹兼副課長	眞壁　勝
	主幹	佐藤　晃
	副課長兼主任主査	鈴木　義祐

教育事務所

教育事務所	所長・次長名		課長名	
県北	所長	芳賀　祐司	総務社会教育(兼)	粂　圭次
	次長(総)	粂　圭次	学校教育	佐々木義通
	次長(業)	伊藤　隆幸		
県中	所長	梅田　善幸	総務社会教育(兼)	鈴木　俊明
	次長(総)	鈴木　俊明	学校教育	御代田進一
	次長(業)	星　克一		
県南	所長	寺木　誠伸	総務社会教育(兼)	佐藤　庸雄
	次長(総)	佐藤　庸雄	学校教育	永山　美雄
	次長(業)	佐久間芳雄		
会津	所長	丹藤　茂	総務社会教育(兼)	小檜山滋人
	次長(総)	小檜山滋人	学校教育	菊地　裕二
	次長(業)	神田　順一		
南会津	所長	水野　達雄	総務社会教育(兼)	万波　憲一
	次長(総)	万波　憲一	学校教育(兼)	橘　成美
	次長(業)	橘　成美		
相双	所長	塩田　正信	総務社会教育(兼)	米沢　修志
	次長(総)	米沢　修志	学校教育	午來　勝顕
	次長(業)	木村　政文		
いわき	所長	折笠　文昭	総務社会教育(兼)	佐藤　光洋
	次長(総)	佐藤　光洋	学校教育(兼)	伊達多津也
	次長(業)	伊達多津也		

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	青山　修身	次長(総務) 鈴木　芳夫 総務管理部長(兼) 鈴木　芳夫 研究・研修部長 鈴木　睦治
福島県養護教育センター	片寄　一	主幹兼事務長 吉田　昌弘 企画事業部長 齋藤　寿紳
福島県立図書館	玉井　章	副館長 高野　浩二
福島県立美術館	早川　博明	副館長 鵜澤　義孝
福島県立博物館	赤坂　憲雄	副館長 矢吹幸一郎
郡山自然の家	秦　公男	次長 山口　祥則
会津自然の家	管原　克章	次長 佐藤　広威

第４節 企画調整

１　教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、平成27年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第１回	26.6.3	西庁舎講堂	○平成27年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成27年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○平成27年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第２回	26.8.29	自治会館301会議室	○第１回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○平成27年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課
　企画主幹兼副課長、主任主査
社会教育課
　主幹、主任社会教育主事、社会教育主事兼指導主事
義務教育課
　課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事
健康教育課
　主幹、主任指導主事、主任栄養技師、指導主事
特別支援教育課
　主幹兼副課長、主任指導主事、管理主事、指導主事
高校教育課
　課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事
教育センター
　研究・研修部長、主任指導主事、指導主事
養護教育センター
　企画事業部長、主任指導主事

２　調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

ア　総合教育計画に関する連絡調整
イ　県教委重点施策に関する連絡調整
ウ　県教委点検・評価に関する連絡調整
エ　県重点事業に関する連絡調整
オ　県重点施策評価に関する連絡調整
カ　政府予算対策に関する連絡調整
キ　双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

ア　知事直轄
　安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議
イ　総務部
　行財政改革推進本部
ウ　企画調整部
　県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、エネルギー政策検討会、電子社会推進本部会議、政策調整会議、避難地域復興推進会議、新生ふくしま復興推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、原子力損害対策協議会、復興対策推進プロジェクトチーム、渇水対策連絡会議、東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議
エ　生活環境部
　ユニバーサルデザイン推進本部会議、青少年健全育成推進本部、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会、特定外来生物対応庁内連絡会、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議、除染・廃棄物対策推進会議

オ　保健福祉部
　子育て支援推進本部会議、高齢社会対策推進本部会議
カ　商工労働部
　緊急経済・雇用対策本部会議、企業誘致・立地企業振興対策本部会議、商業まちづくり推進調整会議
キ　農林水産部
　ふくしま県産木材利用推進会議、ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動
ク　土木部
　県有建築物保全推進連絡会議、都市計画行政連絡会議
ケ　警察本部
　福島県被害者等支援連絡協議会

第５節　広報・広聴

１　教育委員会だより

(1)　編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2)　内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育庁組織改編の概要、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　４ページ
イ　部数　　4,000部

(4)　配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5)　発行時期

4月に発行

２　教育年報

(1)　編集方針

平成25年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2)　内容

平成25年度の本県教育行政の実績

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　306ページ
イ　部数　　150部

(4)　配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

３　福島県の教育

(1)　編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2)　内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　８ページ　カラー
イ　部数　　1,000部

(4)　配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

４　ふくしま教育ニュース

(1)　編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。６月・10月の年２回発行した。

(2)　内容

ア　第42号（６月発行）
　双葉郡中高一貫校設置事業
　新校舎完成報告
　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業
　「確かな学力」をはぐくみます
　学校、家庭、地域～「３つの絆」を生かします
　「健やかな体」をはぐくみます
　「野口英世賞」募集、「朝河貫一賞」募集
　「地域の知の拠点」～美術館・博物館利用案内
　夏休みの主なコンテスト等
　奨学生・各種相談窓口の案内
イ　第43号（10月発行）
　校名決定　中高一貫校「ふたば未来学園高校」
　楽しかったよ！小学生算数、理科講座
　中学生・高校生の活躍報告
　食育の推進
　「地域でつながる家庭教育応援事業」
　「ふくしま教育の日」
　県教育委員会の事業紹介
　転入学・入学者選抜に関する情報
　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業
　相談窓口の案内

(3)　規格・部数

ア　規格　　A4判　4ページ　カラー
イ　部数　　各号　263,000部

(4)　配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5　教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内　　容	発行回数	判	ページ	発行部数	配　布　対　象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A4	8	1,000	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A4	319	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A4	4	各263,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A4	16（6月、9月） 12（12月、3月）	21,000	全教職員
社会教育課	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A4	8	—	webに掲載
健康教育課	29南東北インターハイNEWS	インターハイ関連広報	4	A4		—	webに掲載
教育センター	要覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A4	20	200	学校、関係機関
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A4	8	—	webに掲載
	研究紀要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A4	90	850	学校、関係機関
	長期研究員個人研究報告書	長期研究員の個人研究の成果をとりまとめた報告書	1	A4	156	140	関係機関
養護教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A5	4	100	来所者、webに掲載
	所報 特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A4	29	20	関係機関
	要覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A4	15	20	関係機関
	研究紀要	調査研究・教育研究及び授業研究支援の成果報告	1	A4	63	70	関係機関 webに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内　　容	発行回数	判	ページ	発行部数	配　付　対　象
図書館	館報あづま	図書館業務の広報	1	A4	6	1,000	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A4	20	－	webに掲載
美術館	美術館ニュース ART IMFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A4 三折		各11,000	関係機関、来館者等
	ミュージアムカレンダー	年間事業紹介	1	B5		35,000	〃
博物館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A4	85	400	関係機関
	月行事予定表	月行事予定	12	A4	1	各1,400	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A4	8	各3,500	学校、関係機関
	はくぶつかんニュース	月毎の博物館行事予定及び博物館にかかわるニュース	12	A4	2	各12,600	〃
	企画展ポスター・リーフレット	企画展2回分・特別展1回分紹介	3	ポスターB2 リーフレットA4		8,500 120,000	学校、関係機関 関係機関、来館者など
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	200×394 四折		45,000	関係機関、来館者など
自然の家	利用案内（いわき）	施設概要、利用方法等	1	A4	28	1,000	関係機関
	しおね（いわき）	企画事業内容、実施期日、対象等	3	A4	8	10,000	関係機関
	リーフレット（いわき）	施設概要、全体図等	1	A3	1	2,000	関係機関
	企画事業案内（郡山）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A4	1	－	ｗｅｂに掲載
	会津自然の家だより（会津）	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A4	2	－	ｗｅｂに掲載
文化財	年報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A4	28	500	関係機関
白河	まほろん通信	イベントの内容、体験学習の案内等	4	A4	4	各4,000	関係機関、利用者等
センター	研究紀要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A4	72	500	関係機関

6　教育長記者会見

(1)ふたば未来学園高等学校副校長人事について

ア　日時　平成27年2月17日(火)　9:25～

イ　場所　教育委員室

(2)平成27年度福島県公立学校教職員及び教育庁職員人事異動について

ア　日時　平成27年3月24日(火)　11:00～

イ　場所　教育委員室

7　記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4
資料提供	29	13	15	33	24	22	47	21	31	27	26	31	319

8　教育フォーラム

(1)　目的

県民各層との対話をとおして、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施。

平成２３年８月、震災後の困難を乗り越えて本県の高校生は「全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文）」を成功させた。とりわけ構成劇「ふくしまからのメッセージ」は被災地の高校生の声として大きな反響をよんだ。震災から３年を経た今、再びふるさとへの思いとふくしま再生にかける情熱を「いま再び　ふくしまからのメッセージ」として発表することにより、本県の若者の決意と底力を県内外に発信する機会とするため実施した。

(2)　テーマ

「いま再び　ふくしまからのメッセージ」

(3)　内容

ア　開催形態

意見発表・意見交換・独唱及び合唱披露

メッセージ発表

イ　会場

福島県立安積黎明高等学校

ウ　開催日時

平成26年11月1日（土）

「ふくしま教育の日」13:30～16:20

エ　出席者

（ア）意見発表者

石井　裕也（中学生）

佐藤つぐみ（中学生）

本田　直樹（高校生）

森藤　遥（高校生）

佐藤　季（大学生）

若菜　円香（社会人）

（イ）独唱及び合唱披露

小池さつき（大学生）

安積黎明高等学校合唱団

（ウ）福島県教育委員会

小野　栄重（県教育委員会委員長）

高橋　金一（県教育委員会委員）

境野　米子（県教育委員会委員）

蜂須賀禮子（県教育委員会委員）

佐藤　有史（県教育委員会委員）

杉　　昭重（県教育委員会教育長）

尾形　淳一（理事兼政策監）

菅野　誠　（教育次長）

笠原　裕二（教育庁参事）

大類由紀子（教育総務課長）

飯村　新市（義務教育課長）

大沼　博文（高校教育課長）

梅田　善幸（県中教育事務所長）

（エ）参加者　　約３００名

9　平成26年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日~7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。さらに、今年度は「ふくしま教育の日」に教育フォーラムを実施し、普及啓発を図った。

10　県庁子ども参観デー

子どもたちに県庁を見学する機会を提供することにより、職業や社会への理解を深めてもらう機会とした。

また、この取組を広報することにより、県民に対して復興をアピールする機会とした。あわせて、一丸となって震災対策に取り組んでいる職員の姿や職場を見学することによって、復興に向けた県の取組を理解してもらうとともに、子どもたちを勇気づけ、生きる力を涵養することも目的とした。

(1)　日時　平成26年8月8日(金)　9:00～12:00

(2)　参観者　小学生とその保護者など計102人

(3)　内容　ア　県庁見学（知事室・議場・河川流域総合情報システム室・通信司令室・観光交流課・広報課）

イ　教育庁見学

ウ　教育委員との懇談

第６節　調査統計

平成26年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1　学校統計要覧

平成26年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果により、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項を収録した「学校統計要覧」の作成作業を実施した。（平成27年度に県教委ＨＰにて公開）

2　地方教育費調査（一般統計）

この調査は、平成25会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3　子どもの学習費調査（一般統計）

この調査は，子どもを公立又は私立の学校に通学させている保護者が，子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した経費並びに世帯の年間収入の実態をとらえ，教育に関

する国の諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

4 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第7節 教職員の給与

平成26年度の教職員の給与改定については、平成26年10月16日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料月額及び諸手当について、平成26年12月県議会及び平成27年2月県議会において、給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額

ア 公民較差に基づく給与改定（平成26年4月1日適用）

世代間の給与配分の見直しの観点から、若年層に重点を置いて給料月額が引き上げられた。

イ 給与制度の総合的見直し（平成27年4月1日適用）

人事院勧告に準じた世代間の給与配分の見直しを行うため、高齢層を中心に給料月額を引き下げ、若年層の給料月額は引き上げられた。

ただし、給料の切替えに伴う経過措置として、平成27年4月1日の給料切替日の前日から引き続き同一の給料表の適用を受ける職員で、その切替後の給料月額が、その前日に受けていた給料月額に達しないこととなる職員については、平成32年3月31日までの間、給料月額のほか、その差額に相当する額を給料として支給することとされた。

(2) 給料の調整額

ア 調整基本額（平成26年4月1日・平成27年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、一部の調整基本額が改められた。

イ 調整数（平成27年1月1日適用）

義務教育費国庫負担金の算定基準見直しや他の都道府県の状況を考慮し、特別支援学校や特別支援学級担当教員に係る調整数が「1.25」から「1」に改められた。

(3) 昇格時号給対応表（平成26年4月1日・平成27年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表が改められた。

(4) 昇給（平成28年1月1日適用）

55歳を超える職員の昇給について、良好な勤務成績で勤務した職員であって人事委員会の定めるものに限り行うこととされた。

(5) 55歳を超える特定職員の給料月額等の減額支給（平成27年4月1日適用）

減額期間が「当分の間」から「平成32年3月31日まで」に改められた。

2 通勤手当（平成27年4月1日適用）

全額支給限度額が 61,000 円から 63,000 円に改められ、自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められたこと。

片道の自動車等の使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動機付きの交通用具
2 km以上 4 km未満	2,700 円	2,000 円
4 km以上 6 km未満	4,000 円	2,000 円
6 km以上 8 km未満	5,400 円	2,700 円
8 km以上 10 km未満	6,700 円	3,400 円
10 km以上 12 km未満	8,100 円	4,100 円
12 km以上 14 km未満	9,400 円	4,700 円
14 km以上 16 km未満	10,800 円	5,400 円
16 km以上 18 km未満	12,100 円	6,100 円
18 km以上 20 km未満	13,500 円	6,800 円
20 km以上 22 km未満	14,800 円	7,400 円
22 km以上 24 km未満	16,200 円	8,100 円
24 km以上 26 km未満	17,500 円	8,800 円
26 km以上 28 km未満	18,900 円	9,500 円
28 km以上 30 km未満	20,200 円	10,100 円
30 km以上 32 km未満	21,600 円	10,800 円
32 km以上 34 km未満	22,900 円	11,500 円
34 km以上 36 km未満	24,300 円	12,200 円
36 km以上 38 km未満	25,600 円	12,800 円
38 km以上 40 km未満	26,900 円	13,500 円
40 km以上 45 km未満	29,900 円	15,000 円
45 km以上 50 km未満	32,800 円	16,400 円
50 km以上 55 km未満	35,600 円	17,800 円
55 km以上 60 km未満	38,200 円	19,100 円
60 km以上 65 km未満	40,100 円	20,100 円
65 km以上 70 km未満	43,200 円	21,600 円
70 km以上 75 km未満	46,300 円	23,200 円
75 km以上 80 km未満	49,400 円	24,700 円
80 km以上	52,500 円	26,300 円

3 単身赴任手当（平成27年4月1日適用）

基礎額が 23,000 円から 30,000 円に改められ、距離に応じた加算額の限度額が 45,000 円から 70,000 円に改められたこと。

なお、基礎額については、平成 30 年 3 月 31 日までの間においては、26,000 円となること。

4 特殊勤務手当（平成27年1月1日適用）

教育特殊業務手当に係る手当額が次のとおり改められたこと。

1 学校の管理下において行う非常災害時等の緊急業務	
(1) 児童生徒の保護又は緊急防災・復旧業務	日額 8,000 円
(2) 被害が特に甚大な非常災害時の学校における救援業務	日額 16,000 円
(3) 児童生徒の救急業務	日額 7,500 円
(4) 児童生徒の緊急補導業務	日額 7,500 円
2 修学旅行等の児童生徒引率指導業務で泊を伴うもの	日額 4,250 円
3 対外運動競技等の児童生徒引率指導業務で泊を伴うもの又は週休日等に行うもの	日額 4,250 円
4 学校の管理下で行う部活動の児童生徒指導業務で週休日等又は4時間の勤務時間が割り振られた日に行うもの	
(1) 2時間以上4時間程度未満	日額 1,500 円
(2) 4時間程度	日額 3,000 円

5 管理職員特別勤務手当（平成27年4月1日適用）

支給対象区分について、「管理職員が災害への対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時までの間に正規の勤務時間以外の時間に勤務した場合」が新たに追加され、勤務1回につき 6,000 円を超えない範囲内において手当が支給されること。

6 期末・勤勉手当（平成26年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められたこと。

◎一般職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.675ヶ月	0.675ヶ月	1.35ヶ月	3.90ヶ月
改正後	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
(26年度)	勤勉手当	0.675ヶ月	0.825ヶ月	1.50ヶ月	4.05ヶ月
	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
(27年度)	勤勉手当	0.75ヶ月	0.75ヶ月	1.50ヶ月	4.05ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	0.875ヶ月	0.875ヶ月	1.75ヶ月	3.90ヶ月
改正後	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
(26年度)	勤勉手当	0.875ヶ月	1.025ヶ月	1.90ヶ月	4.05ヶ月
	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
(27年度)	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.05ヶ月

7 寒冷地手当（平成27年4月1日適用）

新たな気象データに基づき、支給地域及び支給公署が見直されたこと。

なお、支給地域等の見直しにより手当が支給されないこととなる職員については、平成30年3月31日までの間、経過措置が適用されること。

8 再任用職員の住居手当及び単身赴任手当（平成27年4月1日適用）

再任用職員に対して、新たに住居手当及び単身赴任手当が支給されること。

第8節 附属機関等

1 福島県学校教育審議会

根拠法令

福島県学校教育審議会条例（昭和41年福島県条例第42号）

目的

- 教育委員会の諮問に応じ、学校教育の振興についての総合計画に関する事項及び学校教育についての基本的な重要施策に関する事項について調査審議する。
- 学校教育に関する事項について、必要があると認めるときは、教育委員会に対し、意見を申し出る

(1) 審議・経過

東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により、県内の状況がいまだ流動的であることから、県立高等学校の改革について依然として議論できる状況にないと判断し、平成23年度・24年度及び25年度に引き続き開催しなかった。

なお、委員は平成24年3月18日に前委員の任期が満了して以降、欠員となっている。

2 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員　　任期 平成26年6月20日~平成28年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	二谷 京子	伊達市立桂沢小学校長	新任
	川島 宏	会津若松市立第四中学校長	新任
	菅野 諭	福島県立相馬東高等学校長	新任
社会教育関係団体の関係者	加藤 久尚	福島県公民館連絡協議会会長	副議長・新任
	津田 智	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長	新任
	渡辺 直也	福島県連合青年会会長	
	山岸 波	福島県ＰＴＡ連合会副会長	新任
	小林 清美	福島県婦人団体連合会副会長	
	新井田 萬壽子	福島県子ども会育成会連合会会長	
	阿久津 文作	福島県商工会連合会専務理事	
	遠野 馨	特別非営利活動法人うつくしまＮＰＯネットワーク	新任
家庭教育関係者	星 尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	新任
学識関係者	五十嵐 敦	福島大学総合教育研究センター教授	新任
	中田 スウラ	福島大学人間発達文化学類教授	議長・新任
公募	佐藤 房枝	会津坂下町八幡コミュニティセンター事務局長	
	佐藤 晴美	主婦	

(2) 定例会の開催

ア　第１回定例会

(ｱ)　日時　　平成２６年７月２９日（火）

(ｲ)　場所　　県庁西庁舎９階　教育委員室

(ｳ)　内容

a　報告事項

平成２６年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について

b　審議事項

本県における社会教育推進のあり方について

イ　第２回定例会

(ｱ)　日時　平成２７年２月１０日（火）

(ｲ)　場所　県庁西庁舎９階　教育委員室

(ｳ)　内容

a　報告事項

平成２６年度社会教育関係事業報告について

平成２７年度社会教育関係主要施策・事業（案）について

b　審議事項

福島県社会教育委員の会議提言内容の推進について

3 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員　　任期 平成25年4月1日~平成27年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	郡山女子大学短期大学部講師	古文書、歴史資料	
泉 武夫	東北大学大学院教授	絵画	
伊藤 喜良	福島大学名誉教授・歴史学研究会・東北史学会	古文書(中世)・書跡・典籍	
永広 昌之	東北大学総合博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会	天然記念物（地質鉱物、古生物）	
岡田 茂弘	国立歴史博物館名誉教授・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	会長
懸田 弘訓	会津大学非常勤講師・民俗芸能学会・福島県民俗学会・日本民俗音楽学会	有・無形民俗文化財	
狩野 勝重	元日本大学教授・工学博士・日本建築学会	建造物・伝統的建造物群	
鈴木 俊行	（公財）福島県都市公園・緑化協会・樹木医学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
田辺 真弓	郡山女子大学短期大学部教授・服装美学会・国際服飾学会	工芸品・染織	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	

塘　　忠　顕	福島大学准教授・日本動物学会・日本昆虫学会		
藤　井　　英二郎	千葉大学大学院教授・日本庭園学会		
守　谷　　早　苗	福島市史編纂室（嘱託員）	歴史資料	
若　林　　繁	東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2)　会議

ア　第１回審議会

(ｱ)　期日　平成２６年８月４日(月)

(ｲ)　場所　福島県庁本庁舎３階　土木委員会室

(ｳ)　内容

a　福島県指定文化財候補等の審議

イ　第２回審議会

(ｱ)　期日　平成２７年１月３０日(金)

(ｲ)　場所　福島県庁本庁舎３階　土木委員会室

(ｳ)　内容

a　福島県指定文化財候補等の審議

b　新たな県指定文化財の候補について

第９節　市町村教育委員会

１　概要

本県の市町村教育委員会数は、平成26年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

２　組織

平成26年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	教育委員長	教　育　長
県北(8)		
福島市	芳賀　　裕	本間　　稔
伊達郡川俣町	佐藤　捷善	神田　　紀
伊達市	髙野　保夫	湯田　健一
伊達郡桑折町	柴田　宣広	安藤　重男
伊達郡国見町	高橋　幸子	岡崎　忠昭
二本松市	宮前　　貢	小泉　裕明
安達郡大玉村	伊藤　忠和	佐藤　吉郎
本宮市	仲川　　清	原瀬久美子
県中(12)		
郡山市	阿部　晃造	小野　義明
須賀川市	深谷　敬一	柳沼　直三
岩瀬郡鏡石町	塩田　重男	髙原孝一郎
岩瀬郡天栄村	田代　佳子	増子　清一
石川郡石川町	近内　光慶	田口　和憲
石川郡玉川村	川崎　聖幸	冨岡ケイ子
石川郡平田村	吉田　貞光	吾妻　幹廣
石川郡浅川町	岡田　初明	内田　賢壽
石川郡古殿町	水野　悦男	大樂　宣和
田村市	佐藤　善嗣	助川　弘道
田村郡三春町	武地　優子	遠藤　真弘
田村郡小野町	大千里義市	西牧　裕司
県南(9)		
白河市	藤田　克彦	伊藤　　渉
西白河郡西郷村	菊池千代子	加藤　征男
西白河郡中島村	水野谷剛夫	佐藤　正敏
西白河郡矢吹町	水戸　勘十	栗林　正樹
西白河郡泉崎村	山田　睦子	穂積　貞子
東白川郡棚倉町	藤田　光子	松本　市郎
東白川郡塙町	瀬谷　八洲	藤田　　充
東白川郡矢祭町	片野　宗和	古張　金一
東白川郡鮫川村	水野　春雄	奥貫　　洋
会津(13)		
会津若松市	大波　敏昭	星　　憲隆
耶麻郡磐梯町	穴澤　孝子	齋藤　就治
耶麻郡猪苗代町	岩橋　紀男	土屋　重憲
喜多方市	吉田　滋喜	芳賀　忠夫
耶麻郡北塩原村	阿部　好喜	佐藤　信寛
耶麻郡西会津町	田崎　敬修	新井田　大
河沼郡会津坂下町	長谷川一成	佐藤　　玄
河沼郡湯川村	風間いく子	星　三千男
河沼郡柳津町	伊藤　喜一	目黒健一郎
大沼郡会津美里町	林　　靖子	佐治　和則
大沼郡三島町	阿部　和彦	矢澤　源成
大沼郡金山町	長谷川恵一	目黒　則雄
大沼郡昭和村	本名　　敬	本名　幸平
南会津(5)		
南会津郡南会津町	渡部　謙一	五十嵐竹則
南会津郡下郷町	白石　光史	大竹　康隆
南会津郡檜枝岐村	星　　賢二	平野　信之
南会津郡只見町	角田　行雄	齋藤　修一
南会津地方広域市町村圏組合	大竹　康隆	五十嵐竹則
相双(12)		
相馬郡新地町	加藤　潤一	佐々木孝司
相馬市	太田　孝泰	堀川　利夫

教育委員会名	教育委員長	教　育　長
南相馬市	大石　力彌	青木　紀男
相馬郡飯舘村	佐藤　眞弘	八巻　義徳
双葉郡浪江町	鈴木　大介	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	東海林幸敏	猪狩　省造
双葉郡双葉町	岡村　隆夫	半谷　　淳
双葉郡大熊町	嶋貫　光喜	武内　敏英
双葉郡富岡町	関本　征司	石井　賢一
双葉郡川内村	西山　光熙	秋元　　正
双葉郡楢葉町	渡邉　　司	矢内賢太郎
双葉郡広野町	根本　修行	浅野　　一
いわき(1)		
いわき市	馬目　順一	吉田　　尚

3　平成26年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1)　平成26年度福島県市町村教育委員会教育長会議

ア　主催　　福島県教育委員会
イ　期日　　平成26年4月14日(月)
ウ　会場　　本庁舎５階　正庁
エ　出席者　市町村教育委員会教育長 59名
オ　内容
　平成26年度教育庁各課（室）・所の重点施策の説明

(2)　平成26年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

ア　主催
　福島県市町村教育委員会連絡協議会
　福島県教育委員会
イ　期日
　平成26年11月19日（水）
ウ　会場
　本庁舎５階　正庁
エ　参加者
　平成25年11月21日から平成26年9月30日の間に任命された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員　34名
オ　内容
　○講話
　・演題　「教育委員に期待するもの」
　・講師　福島県教育委員会教育長　　杉　　昭重
　○講話
　・演題　「教育委員会の運営は、いかにあるべきか」
　・講師　福島市教育委員会教育委員長　芳賀　　裕
　○講義
　・演題　「教育委員会の組織と運営について」
　・講師　福島県教育庁職員課管理主事　穂積　　浩

第10節　職員団体との話合い

平成26年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1　福島県教職員組合

(1)平成26年4月24日
ア　給与について
イ　新たな人事評価制度について
ウ　臨時的任用教職員の待遇及び勤務条件の改善について
エ　児童・生徒の安全・安心を確保した教育について
オ　震災に係る復興加配について
カ　多忙化解消、労働安全衛生体制の確立について
キ　教職員のメンタルヘルスケア対策について
ク　セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの根絶について
ケ　放射線対策について
コ　特別支援教育の充実について
(2)平成26年11月10日
ア　給与制度の総合的見直しについて
イ　臨時的任用教職員の処遇改善について
ウ　多忙化解消について
エ　再任用制度について
(3)平成26年11月19日
ア　給料の調整額について
イ　人事評価制度について
ウ　臨時的任用教職員の処遇改善について
エ　不妊治療について
オ　多忙化解消について
カ　新教育委員会制度について
(4)平成27年1月23日
ア　給与改定について

2　福島県高等学校教職員組合

(1)平成26年4月25日
ア　耐震改修工事について
イ　スクールカウンセラーについて
ウ　サテライト校について
エ　学校の統廃合及び学級数について
オ　特別支援学校の教育環境整備について
カ　教員の加配措置について
キ　給与、諸手当について
ク　高齢期雇用について
ケ　臨時的任用職員の処遇改善について
コ　免許更新制について
サ　目標管理制度について
シ　子育て休暇について
ス　パソコンの更新について
セ　教職員のメンタルヘルス対策について
(2)平成26年11月11日
ア　給与制度の総合的見直しについて
イ　各種手当てについて
ウ　採用について
エ　学校のＩＣＴ環境について
オ　学校施設の除染について
カ　ふたば未来学園高等学校等の加配について
(3)平成26年11月20日

ア　給料の調整額について
イ　義務教育等教員特別手当について
ウ　産業教育手当、定時制通信教育手当について
エ　スクールカウンセラー配置について
オ　学校の統廃合について
カ　特別支援学校の教育環境整備について
キ　高齢期雇用について
ク　旅費の改善について
ケ　臨時的任用職員の処遇改善について
コ　多忙化解消について
サ　教員免許状更新について
シ　新人事評価制度について
ス　仕事と子育て・介護の両立推進について
(4)平成27年1月23日
ア　給与改定について

3　福島県立高等学校教職員組合

(1)平成26年4月25日
ア　賃金諸手当の改善について
イ　長時間過密労働の解消について
ウ　休日、休暇制度の拡充について
エ　教育環境等の整備について
オ　パワーハラスメントの指針について
(2)平成26年11月12日
ア　給与について
イ　給料の調整額について
ウ　養護教諭の正規採用について
エ　高齢期雇用について
オ　長時間過密労働について
カ　放射性物質の飛散対策について
(3)平成26年11月20日
ア　給料の調整額や手当について
イ　退職手当について
ウ　人事評価制度について
エ　多忙化解消について
オ　学校司書の研修について
(4)平成27年1月23日
ア　給与改定について

4　福島県学校事務労働組合

(1)平成26年4月24日
ア　給与について
イ　新人事評価制度について
ウ　再任用制度について
エ　就学援助に係る震災加配について
オ　学校事務の共同実施について
カ　主任主査昇任について
キ　採用について
ク　臨時的任用職員の任用について
ケ　労働安全衛生規定等について
(2)平成26年11月10日
ア　給与について
イ　主任主査昇任について
ウ　５５歳昇給停止について
エ　永年勤続昇給加算について
オ　人事評価制度について
カ　学校事務職員の複数配置について
キ　再任用短時間勤務について
ク　学校事務の共同・連携実施について
ケ　臨時的任用職員の任用について
コ　旅費について
(3)平成26年11月19日
ア　給与について
イ　主任主査承認の拡大について
ウ　学校事務職員複数配置について
エ　学校事務共同連携実施について
オ　再任用について
カ　旅費の配分について
キ　臨時的任用職員の処遇改善について
(4)平成27年1月23日
ア　給与改定について

第11節　不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件

1　不利益処分審査請求事件

平成27年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものは２件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
懲戒処分取消請求事件	平26. 6.10	平26.4.18付懲戒処分についてその取消を請求	公立小学校教員	平27.3.27 処分取消
懲戒処分取消請求事件	平26.12.15	平26.10.17付懲戒処分についてその取消を請求	公立小学校教員	係属中

2　損害賠償等請求事件

平成27年3月31日現在、裁判所損害賠償等請求等事件として係属中のものは２件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請 求 の 内 容	請 求 者	備 考
懲戒処分取消等請求事件	平26. 4. 4	平24. 6. 15付懲戒処分等についてその取消を請求	公立高等学校教員	係属中
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求事件	平26. 8. 29 平27. 1. 14	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民多数	係属中

第12節　公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1　公益法人等

平成27年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は54法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、終始予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	平成26年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	２３	3
公益社団法人	1	0
一般財団法人	２２	１３
一般社団法人	2	1
特例民法法人	6	－
解散した法人	9	－
計	６３	１７

2　公益信託

平成27年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は3件である。

なお、平成26年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第13節　表彰及び叙勲

平成26年度教育・文化関係表彰式は11月4日（火）福島県文化センター、平成27年2月6日（金）杉妻会館において、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は10月21日（火）、また、教育者表彰式は11月28日（金）、文部科学省講堂において、それぞれ行われた。

1　教育・文化関係表彰

(1)　地方教育行政功労者（6名）

（前）福島市教育委員会教育長　佐藤俊市郎
（前）国見町教育委員会教育委員　髙橋　一吉
（前）郡山市教育委員会教育長　木村　孝雄
（前）天栄村教育委員会教育委員長　高野　卓樹
（前）昭和村教育委員会教育委員　羽染としの
（前）広野町教育委員会教育長　芦川　鋭章

(2)　学校教育功労者（15名）

桑折町立醸芳小学校長　会田　智康
福島市立福島第四中学校長　君島　勇吉
福島市立清水中学校長　雉子波敏司
郡山市立郡山第一中学校長　滝田　文夫
郡山市立郡山第三中学校長　佐藤　秀治
須賀川市立第一中学校長　渡部　修一
会津若松市立謹教小学校長　本田　樹
喜多方市立第二小学校長　関本　良
会津若松市立第四中学校長　川島　宏
南相馬市立原町第一小学校長　大和田博行
いわき市立平第一中学校長　小澤　章雄
福島県立橘高等学校長　小瀬宗一郎
福島県立郡山東高等学校長　齋藤　貢一
福島県立会津高等学校長　箱崎二三彦
福島県立あぶくま養護学校長　渡邉　恵一

(3)　社会教育関係

ア　社会教育功労者（2名）

（前）郡山市社会教育委員の会議 議長　國馬　善郎
南相馬市生涯学習推進委員長　大場　盛子

イ　功績顕著な団体・施設（3団体・4施設）

〈社会教育団体〉
田村市立芦沢小学校 PTA
南郷ジュニアレーシングスポーツ少年団
新地町立新地小学校父母と教師の会

〈社会教育施設〉
福島市杉妻学習センター
郡山市立桃見台地域公民館
郡山市立柴宮地域公民館
会津若松市立会津図書館

(4)　文化財保護関係

ア　文化財保護功労者（2名）

（元）福島県文化財保護審議会委員　藤田　定興
（前）塙町文化財保護審議会会長　藤田　佳男

(5)　学校体育・学校保健関係

ア　学校保健功労者（4名）

二本松市立安達太良小学校　学校医　鈴木　孝雄

いわき市立平第五小学校　学校医　山﨑　正義
いわき市立平第五小学校　学校歯科医　平井　清武
福島県立猪苗代養護学校　学校薬剤師　壽田　正夫

(6)　へき地教育関係

ア　へき地教育功労者(2名)

南会津町立田島第二小学校長　佐藤　淳一
南会津町立南会津中学校長　渡部　正弘

イ　功績顕著な団体(1団体)

北塩原村立裏磐梯小学校

(7)　特別支援教育関係

ア　特別支援教育功労者(2名)

福島市立福島養護学校長　山﨑　壽克
福島県立須賀川養護学校長　菊地惠美子

(8)　永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校　長	35	27	4		66
教　頭	39	19	11		69
教　員	177	130	119		426
教員以外	19	9	5	15	48
計	270	185	139	15	609

(9)　特別功績者

ア　児童・生徒(団体)の部(10団体)

○　郡山市立金透小学校特設音楽部
○　郡山市立郡山第五中学校合唱部
○　猪苗代町立猪苗代中学校女子バドミントン部
　　(富岡町立富岡第一中学校女子バドミントン部)
○　いわき市立勿来第一中学校報道委員会
○　福島県立福島高等学校スーパーサイエンス部
○　福島県立郡山北工業高等学校コンピュータ部
○　福島県立郡山商業高等学校珠算部
○　福島県立会津高等学校合唱部
○　福島県立磐城高等学校放送委員会
○　福島県立富岡高等学校バドミントン部

イ　優秀教職員の部(27名)

福島市立福島第三小学校　教　諭　小針　順子
桑折町立醸芳小学校　教　諭　鎌田　範子
郡山市立根木屋小学校　教　諭　須田　英明
須賀川市立白方小学校　養護教諭　大友　美保
石川町立石川小学校　教　諭　高宮　秀徳
白河市立釜子小学校　教　諭　仁科　篤弘
西郷村立羽太小学校　養護教諭　髙田　智子
会津若松市立大戸小学校　教　諭　安藤　裕明
檜枝岐村立檜枝岐小学校　教　諭　山内奈美子
相馬市立桜丘小学校　教　諭　安田　幸
いわき市立平第五小学校　教　諭　北原　由江
福島市立信夫中学校　教　諭　遠藤　博晃
郡山市立郡山第三中学校　養護教諭　木幡　淳子
須賀川市立第三中学校　教　諭　村越　洋之
須賀川市立西袋中学校　教　諭　安田　京子
喜多方市立山都中学校　教　諭　中島誠太郎
猪苗代町立東中学校　教　諭　渡部真喜子
只見町立只見中学校　教　諭　五十嵐清人
相馬市立磯部中学校　教　諭　堀川　智秋
福島県立福島高等学校　教　諭　浜田　伸一
福島県立保原高等学校　教　諭　番匠あつみ
福島県立喜多方東高等学校　教　諭　木野美智子
福島県立平商業高等学校　教　諭　佐川　知子
福島県立富岡高等学校　教　諭　大堀　均
福島県立郡山養護学校　教　諭　石田　一己
福島県須賀川養護学校　教　諭　丹野　好恵
福島県立平養護学校　教　諭　鈴木　明仁

2　文部科学大臣表彰

(1)　地方教育行政功労者表彰(6名)

福島県教育委員会教育委員　境野　米子
中島村教育委員会教育委員長　水野谷剛夫
(前)伊達市教育委員会教育委員　阿部德一郎
(前)国見町教育委員会教育委員長　遊佐眞紀子
檜枝岐村教育委員会教育委員　星　孝道
(前)新地町教育委員会教育長　村山　正之

(2)　教育者表彰(3名)

福島県伊達郡桑折町立醸芳小学校長　会田　智康
福島県郡山市立郡山第一中学校長　滝田　文夫
福島県立会津高等学校長　箱﨑二三彦

3　春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1)　平成26年春の叙勲

ア　瑞宝小綬章

大友　練一(教育功労　元福島県立磐城高等学校長)
柴山　進(教育功労　元福島県立白河高等学校長)
堀　幸一郎(教育功労　元福島県立会津高等学校長)
菅野　暁(教育功労　元福島県立安積黎明高等学校長)

イ　瑞宝双光章

高原　榮征(教育功労　元石川町立石川中学校長)
富山　英正(教育功労　元郡山市立金透小学校長)
箭内　政勝(教育功労　元郡山市立郡山第二中学校長)
萩原　照夫(教育功労　元棚倉町立棚倉小学校長)

(2)　平成26年秋の叙勲

ア　瑞宝小綬章

村山　正之(教育功労　元福島県立磐城高等学校長)
片平　俊夫(教育功労　元福島県立保原高等学校長)

イ　瑞宝双光章

江尻　邦夫(教育功労　元原町市立原町第一中学校長)
峯島　和彦(教育功労　元福島市立福島第三中学校長)
新井田明義(教育功労　元会津坂下町立第一中学校長)
齋藤　邦光(教育功労　元白河市立白河中央中学校長)
根本　清夫(教育功労　元郡山市立郡山第一中学校長)
藤田　克孝(教育功労　元郡山市立橘小学校長)

(3)　高齢者叙勲(平成26年4月1日～平成27年3月1日発令)

ア　瑞宝小綬章(教育功労)

菊池　力衛(元福島県立喜多方高等学校長)

田山　末男（元福島県立湯本高等学校長）
鈴木　民郎（元福島県立小名浜高等学校長）
冨永　三郎（元福島県立小名浜水産高等学校長）
丹治　元安（元福島県立会津工業高等学校長）

イ　瑞宝双光章（教育功労）

吉田　行雄（元会津若松市立城北小学校長）
久保田義男（元いわき市立白水小学校長）
遠藤　松義（元新地町立尚英中学校長）
五十嵐　巖（元山都町立山都第一小学校長）
古宇田常雄（元いわき市立赤井小学校長）
天野　三雄（元三春町立岩江小学校長）
寺島　八郎（元福島市立大鳥中学校長）
松本　春帆（元白河市立白河第二中学校長）
大和金三郎（元国見町立森江野小学校長）
川上　良男（元猪苗代町立猪苗代中学校長）
有我次三郎（元須賀川市立小塩江小学校長）
佐藤　孝二（元会津坂下町立会津坂下小学校長）
善方　一夫（元須賀川市立第三中学校長）
宗形　虎男（元郡山市立赤木小学校長）
石井　弘喜（元大越町立上大越小学校長）
大橋　睦也（元梁川町立梁川中学校長）
大越　　清（元郡山市立大槻中学校長）
松本　武夫（元白河市立五箇小学校長）
末永　正夫（元安達町立渋川小学校長）
渡邊　仁也（元いわき市立好間第一小学校長）
村田　達夫（元福島県立富岡養護学校長）
長谷川三雄（元いわき市立御厩小学校長）
小針　孝定（元玉川村立泉中学校長）
円谷　恒衛（元郡山市立芳賀小学校長）
棚木　　貢（元会津坂下町立第一中学校長）
大杉　光夫（元保原町立上保原小学校長）
星　　清（元会津高田町立赤沢小学校長）
松村　重信（元郡山市立郡山第七中学校長）
橋本　生司（元郡山市立大島小学校長）
田子　良顯（元須賀川市立柏城小学校長）
平野　増雄（元会津坂下町立八幡小学校長）
羽田　義光（元福島市立岳陽中学校長）
齋藤　　忠（元小野町立小野新町小学校長）
石井　辰美（元須賀川市立稲田中学校長）
大内　昭市（元二本松市杉田小学校長）
行方多利十（元須賀川市立西袋中学校長）
内田　利男（元浅川町立浅川中学校長）

(4)　死亡叙位・叙勲

《平成26年度》

従五位　佐藤　光（元福島県立長沼高等学校長）
従六位　須田　操（元新地町立駒ヶ嶺小学校長）
正六位瑞宝双光章　伊藤光義（元郡山市立桃見台小学校長）
正六位瑞宝双光章　松井泰栄（元郡山市立谷田川小学校長）
従六位　遠藤徹郎（元棚倉町立棚倉小学校長）
正六位瑞宝双光章　小泉幸雄（元福島市立立子山小学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤雄喜（元泉崎村立泉崎中学校長）
従六位　髙橋忠男（元原町市立石神第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　橋本　照（元猪苗代町立猪苗代小学校長）
従五位瑞宝双光章　藤田寅雄（元塙町立塙小学校長）
正六位瑞宝双光章　渡邊高嘉（元郡山市立大槻小学校長）
正六位瑞宝双光章　葛岡藤馬（元二本松市立鈴石小学校長）
従五位　郡司梧郎（元福島県立郡山女子高等学校長）
正六位　太田澄信（元矢吹町立三神小学校長）
正六位瑞宝双光章　遠藤良三（元船引町立芦沢小学校長）
正六位瑞宝双光章　松本英夫（元福島市立中野小学校長）
従五位瑞宝小綬章　大原一邦（元福島県立小高商業高等学校長）
正六位瑞宝双光章　竹野武美（元喜多方市立関柴小学校長）
従五位　一ノ瀬秀夫（元会津若松市立一箕小学校長）
従五位　渡部幸江（元猪苗代町立猪苗代小学校長）
正六位　大内　巖（元二本松市立平石小学校長）
従五位　伊藤森三（元福島県立会津高等学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤寛治（元会津坂下町立片門小学校長）
従五位　児島常夫（元会津高田町立高田小学校長）
正七位瑞宝単光章　梅宮守夫（元只見町立只見中学校長）
従五位　沼澤東吾（元西会津町立西会津中学校長）
従六位瑞宝双光章　大谷　彰（元相馬市立中村第一中学校長）
従五位瑞宝双光章　松岡　隆（元福島市立野田中学校長）

従五位　大橋睦也
（元梁川町立梁川中学校長）
正六位　堀切光孝
（元国見町立森江野小学校長）
正六位　金子徳太郎
（元喜多方市立松山小学校長）
正六位　與田薫
（元いわき市立好間第三小学校長）
正六位　天野三雄
（元三春町立岩江小学校長）
正六位　橋本弘
（元三春町立三春小学校長）
正七位　長谷川恭敬
（元いわき市立勿来第二小学校長）
正六位　齋藤七郎
（元三春町立三春中学校長）
正六位瑞宝双光章　久米光勇
（元梁川町立粟野小学校長）
正六位瑞宝双光章　西牧宏樹
（元矢祭町立東舘小学校長）
従六位　橋本善之
（元須賀川市立第一小学校長）
従五位　新妻繁雄
（元川内村立川内中学校長）
従六位　髙橋道保
（元須賀川市立第二中学校長）
正六位瑞宝双光章　石井昭
（元福島市立蓬萊中学校長）
正六位瑞宝双光章　佐藤保正
（元岩代町立百目木小学校長）
従六位瑞宝双光章　野口松男
（元滝根町立広瀬小学校長）
正六位瑞宝双光章　鈴木薫晴
（元いわき市立四倉中学校長）
正六位　鈴木忠夫
（元白河市立白河第二中学校長）
正六位瑞宝双光章　浅野俊彦
（元喜多方市第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　横内直典
（元福島市立渡利中学校長）
正六位瑞宝双光章　岩澤豊
（元湯川村立笈川小学校長）
従六位　遠藤裕
（元浪江町立浪江小学校長）
従六位瑞宝双光章　佐藤佐太郎
（元いわき市立玉川中学校長）
従六位瑞宝双光章　山倉行雄
（元福島市立湯野小学校）
正六位瑞宝双光章　國分弘基
（元東和町立東和中学校長）
正六位　加藤孝雄
（元会津若松市立第三中学校）
正六位　山田良
（元いわき市立平第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　吉田新介
（元会津若松市立永和小学校長）
従五位瑞宝小綬章　井上光貞
（元福島県立保原高等学校長）
正六位瑞宝双光章　宍戸昭雄
（元いわき市立藤間中学校）
正六位瑞宝双光章　佐藤隆雄
（元福島市立庭塚小学校）
従六位瑞宝双光章　添田初美
（元須賀川市立第一中学校長）
従五位　三瓶常四郎
（元白河市立白河農工高等学校長）
正六位瑞宝双光章　市川敏夫
（元安達町立油井小学校長）
正六位　園部正一
（元福島県立磐城農業高等学校長）
従五位瑞宝小綬章　山内恭
（元福島県立富岡高等学校長）
正六位瑞宝双光章　谷津田尊明
（元楢葉町立楢葉中学校長）
正六位瑞宝双光章　安部隆治
（元福島市立土湯小学校長）
正六位　志賀傳一
（元いわき市立錦中学校長）
従六位瑞宝双光章　菊地好正
（元会津若松市第五中学校長）
正六位瑞宝双光章　日下俊雄
（元新地町立尚英中学校長）
正六位　猪狩福秀
（元いわき市立小名浜第二中学校長）
従五位　浅賀一
（元矢祭町立矢祭中学校長）
従五位　矢部元良
（元塙町立塙中学校長）
正六位　齋藤忠
（元小野町立小野新町小学校長）
従六位　橋本生司
（元郡山市立大島小学校長）
従五位　田﨑弘毅
（元河東町立河東中学校長）
従五位　荒川義彌
（元浅川町立浅川小学校長）
正六位瑞宝双光章　武花重芳
（元南相馬市立高平小学校長）
正六位　横山武
（元会津高田町立第二中学校長）

正六位瑞宝双光章　太　田　友　也
（元福島市立岡山小学校長）
正六位　遠　藤　正　文
（元いわき市立永崎小学校長）
正六位瑞宝双光章　中　目　公　男
（元郡山市立郡山第六中学校長）
従六位瑞宝双光章　阿　部　重　信
（元福島市立清水中学校長）
正六位瑞宝双光章　星　　貞　夫
（元郡山市立高瀬小学校長）
従六位　平　野　増　雄
（元会津坂下町立八幡小学校長）
従六位瑞宝双光章　水　口　雄　祐
（元須賀川市立第一小学校長）
従五位　若　杉　　栄
（元福島県立福島女子高等学校長）
従五位　鈴　木　民　郎
（元福島県立小名浜高等学校長）
正六位　松　本　宗　雄
（元原町市立石神第一小学校長）
正六位瑞宝双光章　鈴　木　哲　也
（元北会津村立川南小学校長）
正六位　石　井　重　衛
（元福島県立白河女子高等学校長）
正六位　佐　藤　　佐
（元西会津町立群岡中学校長）

第14節　奨学育英

1　福島県奨学資金

(1)　貸与金額

区　分	貸与月額		
高等学校	国公立	自宅	18,000円
		自宅外	23,000円
	私　立	自宅	30,000円
		自宅外	35,000円
高等専門学校			18,000円
大　学	国公立		35,000円
	私　立		40,000円
入学一時金（H25～）	（一括貸与）		500,000円

(2)　平成26年度の貸与状況

ア　募集期間

(ｱ) 在学採用

平成26年４月入学以降～６月30日

(ｲ) 震災特例採用

平成26年５月１日～７月31日

イ　奨学生決定

(ｱ) 在学採用

平成26年８月１日

(ｲ) 震災特例採用

平成26年９月19日

ウ　貸与状況

区　分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 （うち震災特例）	729人 （454人）	379人 （207人）	374人 （203人）	1,103人 （657人）
大学 高等専門学校	170人	189人	137人	307人
大学等 入学一時金		95人	81人	81人
計	899人	663人	592人	1,491人

2　福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度

(1)　貸与月額

定時制課程
　１～４学年　14,000円
通信制課程
　１～４学年　14,000円

(2)　平成26年度の貸与状況

学　年　別	定時制	通信制	計
１　年　生	０人	０人	０人
２　年　生	２人	０人	２人
３　年　生	１人	０人	１人
４　年　生	１人	０人	１人
計	４人	０人	４人

第３章　教　育　財　政

第１節　平成26年度決算

１　歳入

一 般 会 計　　（単位：千円）

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		1,894,531	3.5
	使用料	1,756,842	3.3
	手数料	137,689	0.2
国庫支出金		37,243,290	69.2
	国庫負担金	33,831,023	62.9
	国庫補助金	2,596,382	4.8
	委託金	815,885	1.5
財産収入		194,884	0.4
	財産運用収入	45,567	0.1
	財産売払収入	149,317	0.3
寄附金		9,529	0.0
	寄附金	9,529	0.0
繰入金		7,732,132	14.4
	特別会計繰入金	119,859	0.2
	基金繰入金	7,612,273	14.2
諸収入		579,722	1.1
	預金利子	1	0.0
	貸付金元利収入	33,730	0.1
	受託事業収入	278,849	0.5
	収益事業収入	67,339	0.1
	雑入	199,803	0.4
県債		6,130,100	11.4
	県債	6,130,100	11.4
計		53,784,188	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計　　（単位：千円）

款	項	決算額	%
国庫支出金		105,490	13.4
	国庫補助金	105,490	13.4
繰入金		337,403	42.7
	一般会計繰入金	337,403	42.7
繰越金		72,942	9.2
	繰越金	72,942	9.2
諸収入		273,489	34.6
	預金利子	29	0.0
	貸付金元利収入	272,768	34.5
	雑入	692	0.1
財産収入		972	0.1
	財産運用収入	972	0.1
計		790,296	100.0

2 歳出

(1) 県予算に占める教育費

（単位：千円）

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,714,512,634	100.0	2,241,282,731	100.0	1,964,966,288	100.0
教育費	231,483,913	13.5	228,570,012	10.2	220,888,559	11.2
教育委員会所管分	202,697,249	11.8	199,728,983	8.9	193,076,132	9.8
知事部局所管分	28,786,664	1.7	28,841,029	1.3	27,812,427	1.4
教育委員会所管分総務費	361	0.0	361	0.0	358	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	3,897,950	0.2	6,210,529	0.3	2,944,450	0.1

（最終予算額及び決算額には繰越分を含む）

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

（単位：千円）

区分（款・項・目）	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	361	0.0	361	0.0	358	0.0
総務管理費	361	0.0	361	0.0	358	0.0
諸費	361	0.0	361	0.0	358	0.0
教育費	202,697,249	98.1	199,728,983	97.0	193,076,132	98.5
教育総務費	22,632,813	10.9	21,362,509	10.4	20,890,968	10.7
教育委員会費	14,080	0.0	14,080	0.0	13,940	0.0
事務局費	4,141,684	2.0	4,204,205	2.0	4,188,859	2.1
財務管理費	503,006	0.2	715,821	0.4	479,794	0.3
義務教育指導費	687,729	0.3	605,147	0.3	575,545	0.3
教職員福利厚生費	14,992,008	7.3	13,761,698	6.7	13,666,065	7.0
育英費	1,815,392	0.9	1,609,780	0.8	1,521,812	0.8
恩給及び退職年金費	185,441	0.1	162,402	0.1	158,870	0.1
教育センター費	283,766	0.1	280,124	0.1	277,173	0.1
養護教育センター費	9,707	0.0	9,252	0.0	8,910	0.0
小学校費	65,938,420	31.9	64,708,091	31.4	64,643,866	33.0
教職員費	65,938,420	31.9	64,708,091	31.4	64,643,866	33.0
中学校費	41,815,970	20.2	41,459,585	20.1	41,401,105	21.1
教職員費	41,815,970	20.2	41,459,585	20.1	41,401,105	21.1
高等学校費	49,315,194	23.9	50,576,486	24.6	47,149,379	24.0
教職員費	37,011,743	17.9	37,027,381	18.0	36,950,539	18.8
高等学校指導費	406,506	0.2	334,852	0.2	323,867	0.1
高等学校管理費	9,854,887	4.8	11,213,345	5.4	8,100,181	4.1
施設等整備費	582,569	0.3	575,021	0.3	509,822	0.3
農業高等学校実習費	149,020	0.1	148,008	0.1	147,242	0.1
水産高等学校実習費	206,741	0.1	201,545	0.1	194,859	0.1
24～26勿来工業高等学校校舎改築費	1,103,728	0.5	1,076,334	0.5	922,869	0.5
特別支援学校費	14,239,207	6.9	13,797,388	6.7	13,688,954	7.0
特別支援学校費	1,069,902	0.5	977,340	0.5	930,939	0.5
教職員費	13,169,305	6.4	12,820,048	6.2	12,758,015	6.5
社会教育費	3,460,306	1.7	2,847,603	1.4	2,765,171	1.4
社会教育総務費	1,248,878	0.6	866,673	0.4	846,751	0.4
図書館費	77,421	0.1	77,744	0.1	77,236	0.1
自然の家費	233,854	0.1	232,818	0.1	231,832	0.1
文化振興費	1,000	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文化財保護費	992,551	0.5	741,570	0.4	709,733	0.4
美術館費	473,396	0.2	489,446	0.2	478,523	0.2
博物館費	192,832	0.1	197,072	0.1	179,039	0.1
文化財センター費	240,374	0.1	241,280	0.1	241,057	0.1
保健体育費	5,295,339	2.6	4,977,321	2.4	2,536,689	1.3
保健体育総務費	448,642	0.2	250,518	0.1	245,647	0.1
学校保健費	4,792,358	2.3	4,674,737	2.3	2,240,380	1.2
体育振興費	54,339	0.1	52,066	0.0	50,662	0.0
災害復旧費	3,897,950	1.9	6,210,529	3.0	2,944,450	1.5
文教施設災害復旧費	3,897,950	1.9	6,210,529	3.0	2,944,450	1.5
公立文教施設災害復旧費	3,897,950	1.9	6,210,529	3.0	2,944,450	1.5
計	206,595,560	100.0	205,939,873	100.0	196,020,940	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計　　（単位：千円）

区分（款・項・目）	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	674,874	100.0	755,202	100.0	746,669	100.0
奨学資金貸付事業費	674,874	100.0	755,202	100.0	746,669	100.0
貸付金	662,022	98.1	623,404	82.5	615,027	82.4
償還金	300	0.1	0	0.0	0	0.0
事務費	12,335	1.8	11,938	1.6	11,783	1.6
一般会計繰出金	217	0.0	119,860	15.9	119,859	16.0
計	674,874	100.0	755,202	100.0	746,669	100.0

第２節　学校教育施設

１　県立学校

(1)　学校建設の概要

平成27年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が74.3%、鉄骨その他造が23.9%と非木造建物が98.2%を占めており、木造建物が1.8%となった

別表　県立学校建物の現況

区分		中学校		高等学校		盲・聾学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
		㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%
校舎	R	5,583	100.0	635,755	86.0	10,934	74.8	69,493	96.2	721,765	86.8
	S	0	0.0	88,622	12.0	1,676	11.5	2,246	3.1	92,544	11.1
	W	0	0.0	14,935	2.0	2,006	13.7	473	0.7	17,414	2.1
	計	5,583	100.0	739,312	100.0	14,616	100.0	72,212	100.0	831,723	100.0
体育館	R	1,297	100.0	24,275	13.9	0	0.0	4,919	64.9	30,491	16.4
	S	0	0.0	149,479	85.6	2,240	100.0	2,658	35.1	154,377	83.1
	W	0	0.0	838	0.5	0	0.0	0	0.0	838	0.5
	計	1,297	100.0	174,592	100.0	2,240	100.0	7,577	100.0	185,706	100.0
寄宿舎	R	0	0.0	11,304	98.6	2,433	93.9	2,231	100.0	15,968	98.0
	S	0	0.0	164	1.4	101	3.9	0	0.0	265	1.6
	W	0	0.0	0	0.0	57	2.2	0	0.0	57	0.3
	計	0	0.0	11,468	100.0	2,591	100.0	2,231	100.0	16,290	99.9
計	R	6,880	100.0	671,334	72.5	13,367	68.7	76,643	93.4	768,224	74.3
	S	0	0.0	238,265	25.7	4,017	20.7	4,904	6.0	247,186	23.9
	W	0	0.0	15,773	1.8	2,063	10.6	473	0.6	18,309	1.8
	計	6,880	100.0	925,372	100.0	19,447	100.0	82,020	100.0	1,033,719	100.0

R　鉄筋コンクリート造、　S　鉄骨その他造、　W　木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

磐城農業、双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、ふたば未来学園、相馬農業飯舘校、小高商業、小高工業、富岡養護

(2) 平成26年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事　　項	校数	学　　校　　名	事業費	財源内訳		
				国　庫	その他	県　費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	40	福島、福島明成、福島工業、福島北、福島南、川俣、保原、安達、二本松工業、本宮、安積、安積御舘、安積黎明、郡山東、郡山、あさか開成、湖南、白河、修明、石川、田村、小野平田、会津工業、川口、喜多方、喜多方東、西会津、大沼、坂下、会津農林、磐城、磐城桜が丘、平工業、平商業、いわき総合、小名浜、勿来工業、四倉、相馬、原町	2,710,866		413,470	2,297,396
合　　計	40		2,710,866	0	413,470	2,297,396

イ 特別支援学校施設整備事業(一般施設)

事　　項	校数	学　　校　　名	事業費	財源内訳		
				国　庫	その他	県　費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	4	聾、石川養護、会津養護、猪苗代養護	11,889			11,889
合　　計	4		11,889	0	0	11,889

2　幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1)　構造物保有面積

平成27年5月1日現在

区分		小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園	
		面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比	面　積	構成比
		㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%
校舎	R	1,418,498	96	851,464	96	2,269,962	96	2,461	66	32,119	32
	S	31,502	2	21,361	2	52,863	2	1,290	34	45,374	45
	W	21,724	2	16,027	2	37,751	2	0	0	23,315	23
	計	1,471,724	100	888,852	100	2,360,576	100	3,751	100	100,808	100
屋内運動場	R	149,527	41	130,179	52	279,706	46	391	94	0	0
	S	205,446	57	117,341	47	322,787	53	26	6	0	0
	W	6,629	2	2,014	1	8,643	1	0	0	0	0
	計	361,602	100	249,534	100	611,136	100	417	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	2,427	89	2,492	89	0	0	0	0
	S	0	0	312	11	312	11	0	0	0	0
	W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	65	100	2,739	100	2,804	100	0	0	0	0
計	R	1,568,090	86	984,070	86	2,552,160	86	2,852	68	32,119	32
	S	236,948	12	139,014	12	375,962	12	1,316	32	45,374	45
	W	28,353	2	18,041	2	46,394	2	0	0	23,315	23
	計	1,833,391	100	1,141,125	100	2,974,516	100	4,168	100	100,808	100

R　鉄筋コンクリート造、　S　鉄骨その他造、　W　木造

※楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村の全学校及び従来の施設の全てが被災等により使用できず、仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

平成26年度

区分	単年度		国庫債務負担行為（25～26）	
	学校数	負担金及び交付金(千円)	学校数	負担金及び交付金(千円)
公立小学校校舎の新増築	—	—	2	179,569
公立中学校校舎の新増築	1	69,363	—	—
公立小学校屋内運動場の新増築	4	92,362	3	184,197
公立中学校屋内運動場の新増築	3	122,773	1	43,232
公立小・中学校の統合	—	—	1	592,990
公立小・中学校危険建物の改築	4	285,506	—	—
公立小・中学校不適格建物の改築	4	939,022	—	—
屋外環境整備	3	50,009	—	—
大規模改造	35	899,447	—	—
地震補強	38	921,279	—	—
地震改築	1	114,247	—	—
公立幼稚園の新増築	1	134,666	—	—
太陽光発電	6	34,866	—	—
防災機能強化	9	86,751	—	—
長寿命化	—	—	—	—
計	(延べ校数)		(延べ校数)	
	109	3,750,291	7	999,988

第３節　産業教育振興法補助事業

１　産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。平成26年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備　　10,950千円

第４節　理科教育振興法補助事業

１　理科設備

学校規模別設備現有状況

規模別＼区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	90	9,269,439,000	1,043,290,180	11.3
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	90	9,269,439,000	1,043,290,180	11.3
盲学校	1	170,615,000	5,299,060	3.1
聾学校	4	149,698,000	10,446,975	7.0
特別支援学校	16	968,293,000	35,727,798	3.7
小計	21	1,288,606,000	51,473,833	4.0

２　算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

規模別＼区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校Ⅰ	90	189,353,000	71,584,023	37.8
高校Ⅱ	0	0	0	-
小計	90	189,353,000	71,584,023	37.8
盲学校	1	3,180,000	42,400	1.3
聾学校	4	5,951,000	616,443	10.4
特別支援学校	16	36,206,000	4,575,459	12.6
小計	21	45,337,000	5,234,302	11.5

第５節　情報処理設備整備事業

１　県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

89校（リース・保守）　　369,623 千円

(2) 校内ＬＡＮ保守

110校（特別支援・分校含む）　　14,099 千円

第4章 教育の情報化

第１節　基盤整備

学校及び教育事務所等の教育関係機関が教育ネットワーク及びインターネットを利用できるよう、情報環境の基盤整備を目的としたネットワークである「うつくしま教育ネットワーク」を平成11年度から整備してきた。「うつくしま教育ネットワーク」は県教育センターを拠点とし、県立学校はもとより県内の学校などの教育関係機関との接続を可能としている。ネットワークの高速化を図るために、県の情報通信ネットワークへの接続を進め、平成15年度に全県立学校の接続を完了するとともに、平成18年度には回線を更新することでその高速化を行った。これにより、高速回線で教育情報の提供・検索などができるようになり、電子情報利活用のため利便性の向上が図られた。

生涯学習については、インターネットを利用し、生涯学習に関する情報を県民に提供する「福島県生涯学習情報提供システム（検索ツールの「まなびとファインダー」等）の運用を行っている。

さらに、平成18年1月の「ＩＴ新改革戦略」に基づき、校務事務の効率化及び情報管理の徹底のために、平成19年度から平成21年度までに、県立学校に教員１人１台に相当するパソコンの配備を行った。（平成21年度「学校情報通信技術環境整備事業費補助金を一部利用）

また、児童・生徒の学習意欲の向上や教員の多忙化解消、特別支援学校における児童・生徒の交流に資するため、平成23年2月にテレビ会議システムの再構築を行った。

うつくしま教育ネットワークのサービス

- ホームページの利用環境

  学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取組や研究成果などを広く共有する場を提供する。
- 電子メールサービス

  電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。
- 不適切情報のフィルタリング

  児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。
- セキュリティやウィルス等への対策
- 教育情報データベース（アーカイブとして公開）
- コミュニケーション環境(メーリングリスト、メールマガジン等)
- ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付
- テレビ会議システムの運用

県立学校基盤整備状況

年度	教職員PC配備実績	校内LAN整備
H13		２５校
H14		１５校
H15		７校
H16		４校
H17		３校
H18	H19年度から配備 ※1	３校
H19	９２６台	
H20	７３５台	
H21	２，０４９台	７校
H22	０台	
H23	３１６台 ※2	
H24	１，３９５台 ※3	１校
H25	８１４台 ※3	
H26	０台	

※１　うつくしま教育ＮＷ・県情報通信ＮＷへの接続は、平成15年度に整備済み

※２　東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※３　WindowsXP のサポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況（小･中･高･特別支援学校）

項　目	福島県	全国平均
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ１台当たりの児童生徒数	5.8人	6.4人
校務用PCの整備率	102.2%	113.9%
普通教室のLAN整備率	79.9%	86.4%
電子黒板のある学校	70.2%	78.0%
超高速インターネット接続率	77.3%	81.6%
校務支援システムの整備状況	55.1%	81.9%
デジタル教科書の整備状況	40.4%	39.4%
学校ＣＩＯの設置状況	26.1%	39.5%

H27.3月現在 文部科学省調べ

第２節　人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項　目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	77.7%	82.1%
授業中にICTを活用して指導する能力	62.6%	71.4%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	62.0%	65.2%
情報モラルなどを指導する能力	74.3%	77.7%
校務にICTを活用する能力	72.3%	78.2%

H27.3月現在 文部科学省調べ

第５章　義　務　教　育

第１節　学校管理

１　児童生徒数・学級数と教職員定数

(1)　小学校

年　度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
本　校	538	531	530	525	512	511	497	489	479	472	468
分　室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
分　校	18	12	10	10	9	8	8	6	5	5	5
計	556	543	540	535	521	519	505	495	484	477	473
前　差	△4	△13	△3	△5	△14	△2	△14	△10	△11	△7	△4

(2)　平成２６年度の学級数別学校数(小学校)　※臨時休業が４校（５／１時点）あり、０学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合　計
本　校	98	196	104	49	16	463
分　室	－	－	－	－	－	－
分　校	5	－	－	－	－	5
計	103	196	104	49	16	468
構成比	22	42	22	11	3	100

(3)　中 学 校

年　度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
本　校	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229
分　室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
分　校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
計	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229
前　差	△1	0	0	△1	0	△2	0	0	△1	△4	△3

※平成19年度から県立中学校を含む。

(4)　平成２６年度の学級数別学校数(中学校)　※臨時休業が２校（５／１時点）あり、０学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合　計
本　校	74	70	55	22	5	229
分　室	－	－	－	－	－	－
分　校	－	－	－	－	－	－
計	74	70	55	22	5	229
構成比	33	31	24	10	2	100

(5)　公立幼稚園の設置状況

年　度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
園　数	225	219	218	216	210	209	206	204	201	193	191
園児数	11,874	11,643	11,742	11,541	11,162	11,083	10,749	9,136	8,646	8,320	8,005

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
単式	4,947	5,125	5,042	4,950	4,948	4,849	4,795	4,465	4,301	4,197	4,103
複式	196	183	211	218	202	219	197	180	204	203	215
特別支援	303	320	326	328	329	333	336	332	350	377	403

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
児童	127,494	125,795	123,856	121,591	120,270	118,036	116,177	107,043	102,095	99,339	96,776
学級	5,446	5,628	5,579	5,496	5,479	5,401	5,328	4,977	4,855	4,777	4,721

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
単式	2,248	2,398	2,396	2,350	2,311	2,251	2,180	2,089	2,079	2,050	1,997
複式	6	5	5	6	6	7	10	8	8	8	8
特別支援	131	144	142	153	162	177	191	187	203	218	233

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
生徒	68,680	67,489	66,447	65,234	63,696	62,642	60,746	58,212	56,922	56,262	54,929
学級	2,385	2,547	2,543	2,509	2,479	2,435	2,381	2,284	2,290	2,276	2,238

(8) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年度		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
小学校	教員	7,791	7,762	7,640	7,490	7,402	7,293	7,235	7,131	7,028	6,979	6,944
	事務職員	534	528	521	509	505	495	487	474	466	468	467
	充指導主事	26	26	27	26	19	15	22	23	23	25	26
	補充教職員	357	347	349	365	360	353	329	312	293	332	321
	県単独負担教員	344	320	312	305	272	246	211	182	171	170	141
	学校栄養職員	151	148	146	144	145	141	138	128	124	125	123
中学校	教員	4,598	4,567	4,508	4,450	4,401	4,326	4,361	4,399	4,324	4,337	4,241
	事務職員	234	232	230	231	225	229	228	227	228	229	244
	充指導主事	54	51	58	53	46	42	40	40	38	35	40
	補充教職員	171	165	182	159	178	169	160	150	143	167	167
	県単独負担教員	256	230	219	209	183	166	188	161	160	151	143
	学校栄養職員	67	66	65	64	61	66	67	65	67	69	70
市立特別支援学校	教員	95	92	106	65	64	36	40	46	41	39	32
	事務職員	6	6	6	4	4	2	2	2	2	2	2
	補充教職員	5	8	8	10	10	12	13	13	13	7	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1

2　教職員人事・任用

平成26年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望にこたえ、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災からの復興に向けた取組みを進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、各学校の教育職員組織及び教育庁職員組織を充実・強化し、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

Ⅰ　基本方針

1　全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。

2　教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。

3　厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。

4　教育に対する県民の期待と要望にこたえるため、人事の公平性、公正性、透明性の確保に一層努める。

5　東日本大震災及び原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組みを進める。

Ⅱ　重点

1　市町村立学校関係

(1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用と新進有為な人材を登用する。

(2) 教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。

(3) 特別支援教育及びへき地教育の振興を図るため、適任者を配置するとともに、適正な異動を行う。

(4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。

◎平成26年度公立小・中学校人事(平成26年3月末公表)

(1) 異動件数

異動件数2,954件(前年度2,761件)193件の増加となった。

(2) 採用について

本年度は231名（小学校教諭117名、中学校教諭66名、養護教諭31名、事務職員13名、栄養職員4名）を新規に採用した。

(3) 異動について

各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等にあって臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相双地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア　管理職への昇任は校長72名（小学校47名、中学校25名、前年度比6名増)、教頭92名(小学校58名、中学校33名、特別支援学校１名、前年度比20名増)、計164名で、前年度より26名増加した。

イ　女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長10名、中学校長1名、小学校教頭3名、中学校教頭0名を登用した。

ウ　教頭の昇任は受考者586名に対し、92名で昇任率は15.7%となっている。

(5) 退職について

ア　平成25年度末の退職者数は366名で前年度に比べ64名の増である。

イ　退職者の内訳は定年退職者199名、勧奨による退職者136名、普通退職者39名となっている。

ウ　退職者中、校長は81名(小学校55名、中学校26名、市立特別支援学校0名)、教頭は13名となっている。

3　教育職員の免許

(1)　教育職員免許状の授与状況

平成26年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,517件あり前年度より80件減となっている。

普通免許状は、前年度より77件減で1,416件、臨時免許状は6件減で98件、特別免許状は3件増の3件となっている

普通免許状のうち平成26年度大学卒業者の占める割合は、約72%で、1,089件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	11件
同　一種免許状	127件
同　二種免許状	20件
中学校教諭専修免許状	30件
同　一種免許状	272件
同　二種免許状	9件
高等学校教諭専修免許状	38件
同　一種免許状	355件
同　特別免許状	3件
幼稚園教諭専修免許状	1件
同　一種免許状	40件
同　二種免許状	371件
特別支援学校教諭専修免許状	4件
同　一種免許状	33件

同　　二種免許状 …… 78件
養護教諭専修免許状 …… 0件
同　一種免許状 …… 4件
同　二種免許状 …… 4件
栄養教諭専修免許状 …… 0件
同　一種免許状 …… 10件
同　二種免許状 …… 8件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状…… 1件
小学校助教諭免許状 …… 52件
中学校助教諭免許状 …… 13件
高等学校助教諭免許状 …… 24件
幼稚園助教諭免許状 …… 1件
特別支援学校助教諭免許 …… 8件
養護助教諭免許状 …… 0件

4　学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止（平成27.3.31）	設置（平成27.4.1）
小学校	石川町立石川小学校	石川町立石川小学校
	石川町立母畑小学校	
	石川町立中谷第一小学校	
	石川町立中谷第二小学校	
	石川町立山形小学校	
	石川町立南山形小学校	
	玉川村立川辺小学校	いわき市立三和小学校
	いわき市立三阪小学校	（沢渡小に統合し、名称が
	いわき市立差塩小学校	三和小に変更になった）
	いわき市立永戸小学校	
	いわき市立永井小学校	※　該当なし
中学校	福島市立茂庭中学校	
	石川町立沢田中学校	
	いわき市立三阪中学校	
	いわき市立差塩中学校	
	いわき市立永井中学校	

5　学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

・　学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
・　木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
・　児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

平成26年度の学校火災は、市町村立中学校において３件発生しているが、前年度より１件の減少となった。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成26年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1)　平成26年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

ア　防火体制について
イ　警備員、代行員の勤務状況について
ウ　火気関係設備及び取り扱い状況について
エ　電気設備について
オ　消防用設備及びその管理について
カ　その他
・諸表簿の管理状況
・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2)　学校防火診断の実施と活用

ア　各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。
イ　学校事故防止対策研究協議会において、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。
※　平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6　へき地対策

(1)　へき地学校の状況

ア　へき地学校

教育事務所＼級地		4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北							2		1				14		17	0
	県中					2		3	1	2	1	2	1	24	1	33	4
	県南			1				3				1		8		13	0
	会津					3		4		1				6		14	0
	南会津					7				1				6		14	0
	相双					3		2		2				4		11	0
	いわき					2		1				1		9	1	13	1
	計	0	0	1	0	17	0	15	1	7	1	4	1	71	2	115	5
中学校	県北							1						5		6	0
	県中					2		3		2		1		9		17	0
	県南							1						4		5	0
	会津					2		4		1				6		13	0
	南会津					4				1				3		8	0
	相双					3		2						1		6	0
	いわき					2		1				1		4		8	0
	計	0	0	0	0	13	0	12	0	4	0	2	0	32	0	63	0
総計		0	0	1	0	30	0	27	1	11	1	6	1	103	2	178	5
		0		1		30		28		12		7		105		183	

イ　特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数（休校中も含む）

	小学校													中学校													合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数				学校数			生徒数			学級数			教職員数				学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	1	0	1	13	0	13	3	0	3	9	0	9	3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3級	1	0	1	13	0	13	3	0	3	9	0	9
2級	17	0	17	616	0	616	72	0	72	200	0	200	2級	13	0	13	403	0	403	39	0	39	192	0	192	2級	30	0	30	1019	0	1019	111	0	111	392	0	392
1級	15	1	16	899	12	911	74	2	76	212	4	216	1級	12	0	12	778	0	778	50	0	50	221	0	221	1級	27	1	28	1677	12	1689	124	2	126	433	4	437
準1	7	1	8	442	6	448	38	2	40	91	3	94	準1	4	0	4	245	0	245	17	0	17	70	0	70	準1	11	1	12	687	6	693	55	2	57	161	3	164
特地	4	1	5	373	17	390	26	2	28	54	4	58	特地	2	0	2	36	0	36	4	0	4	28	0	28	特地	6	1	7	409	17	426	30	2	32	82	4	86
教育事務所指定	71	2	73	5393	29	5422	392	5	397	959	8	967	教育事務所指定	32	0	32	3515	0	3515	173	0	173	601	0	601	教育事務所指定	103	2	105	8908	29	8937	565	5	570	1560	8	1568
合計	115	5	120	7736	64	7800	605	11	616	1525	19	1544	合計	63	0	63	4977	0	4977	283	0	283	1112	0	1112	合計	178	5	183	12745	64	12777	888	11	899	2637	19	2656

⑵ へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア　へき地教育の人事行政

「平成26年度人事異動方針」第１の２において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第６次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成25年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第２の２の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

(ｱ) へき地異動

a　地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

○　Ａ地域　市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、塙町、会津坂下町、会津美里町、浪江町、富岡町の中心部の学校

○　Ｂ地域　Ａ及びＣ地域以外の学校

○　Ｃ地域　へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

b　異動基準

(a)　へき地学校勤務については次の基準による。

○ へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。

○ へき地学校勤務については、別表１による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表２による。

○ すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、２年以上とする。

別表１（教員のへき地校勤務年数）

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地					
		特地・準1級地	1級地	2級地	3級地	4級地	5級地
勤続年数	4年以上	３年以上		２年以上			

別表２（教員のへき地校勤務年数）

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数(新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準１級地、１級地以上
	３年以上	２年以上

(b)　他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等に実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は３年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部（指導関係）を免除する施策もあわせて実施した。

イ　へき地学校教職員の経済的優遇策

(ｱ) へき地手当等の支給

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○　へき地手当

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×支給割合	20／100
3級地		16／100
2級地		12／100
1級地		8／100
準1級地		4／100

(注)給料の月額＝給料月額＋給料の調整額

○　へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等（人事委員会指定）へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から５年間

(異動等の日における給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×４％

・５年を経過した後の１年間

(異動等の日における給料の月額＋教職調整額＋扶養手当)×２％

ウ　へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第４条の２項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへ

き地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。

へき地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第２節 学校教育

１ 概要

(1) 指導行政の基本方針

平成22年３月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第６次福島県総合教育計画」では、「“ふくしまの和”を奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

③ 豊かな教育環境の形成

の３つの基本目標のもと、平成25年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進」「家族や地域の絆を生かした、学校、家庭、地域が一体となった教育力の向上」「復興・再生に向けた教育環境の充実」を、重視する３つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等（下表）によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数（学校教育課長を含む）	11	11	8	11	5	9	6	61
市町村教育委員会指導主事等数	21	34	10	9	0	8	17	96

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」の育成を図るため、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ｱ)「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(ｲ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

○ 指導担当者研究協議会

○ 学校教育課長等会議

○ 学力向上担当指導主事会議

○ 生徒指導担当指導主事会議

(ｳ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

○ 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから２名

(ｴ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(ｵ) 各種研究学校（地区）を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

○ 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等

・ 生徒指導・進路指導総合推進事業 ほか

○ 県教育委員会による研究指定校

・ 学力向上推進支援事業 ほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 小学校、中学校初任者研修の実施

(ｲ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

(ｳ) 中央研修講座への派遣

(ｴ) 長期研修生（内地留学）の派遣

(ｵ) 教育研究団体に対する援助と指導

(ｶ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ｱ) 幼稚園等新規採用教員研修

(ｲ) 幼稚園経験者研修Ⅱ

(ｳ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

(ｴ) 幼稚園教育課程研究協議会

(ｵ) 幼児教育実技研修会

オ 生徒指導の充実に努めた。

(ｱ) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実に努めた。

○ いじめ対策等生徒指導推進事業（２回）

(ｲ) 研究地域を指定し、生徒指導の充実・改善に努めた。

○ いじめ等対策生徒指導推進事業

(ｳ) ピュアハートサポートプロジェクト事業を実施した。いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

○　教育相談体制の充実
・スクールカウンセラー等活用事業
・スクールカウンセラー活用事業
・緊急時カウンセラー派遣事業
・学校教育相談員（教育センターに配置）
・スクールカウンセラー緊急派遣事業(震災対応)
・スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
・子ども２４時間いじめ電話相談
・生徒指導アドバイザー派遣事業
○　教職員の資質向上
・道徳教育教材作成
・道徳教育推進校による実践研究（７地区）
・初任研、経験者研修、専門研修等
○　教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ　社会の変化に対応した教育の充実に努めた。
(ｱ) 情報化社会への対応
○　学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)
(ｲ) 国際化への対応
○　語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
○　139名の外国JET青年の受入れ(102名を市町村教育委員会が配置)

(4)　県立中学校入学者選抜

ア　基本方針

「平成27年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校入学者選抜に当たっては、適性検査及び作文の成績、面接の結果、並びに小学校の校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲･能力･適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ｱ)　選抜の資料は次のとおりとする。

a　適性検査

問題発見･解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

b　作文

与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ表現する力をみる。

c　面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

d　調査書

小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などが記載された調査書を選抜資料に用いる。

なお、調査書は福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

(ｲ)　入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

まず、適性検査及び作文の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ、調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とする。

次に、その他の者については、適性検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(ｳ)　選抜結果については、志願者及び志願者の在学している小学校の校長に通知するものとする。

(ｴ)　入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ　入学者選抜関係日程

６月10日　第１回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
７月17日　第２回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
８月26日　県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
10月 8日、10月9日　県中及び会津地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
10月17日　平成27年度入学者募集定員決定
12月 8日～12月12日　出願書類受付
１月10日　適性検査、作文及び面接
１月16日　選抜結果通知書の発送
１月19日～１月23日　入学確約書提出
１月26日～１月30日　欠員補充

2　現職教育

(1)　教職員等中央研修

ア　趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ　主催　独立行政法人教員研修センター

ウ　共催　文部科学省

エ　会場　独立行政法人教員研修センター

オ　期間及び参加者

◇校長マネジメント研修

10月20日（月）～10月24日（金）

伊達市立月舘小学校	中野　茂
伊達市立梁川中学校	鈴木　昭夫
郡山市立片平小学校	渡邉　和宏

◇副校長・教頭研修

９月24日（水）～10月10日（金）

教育センター　指導主事	永山　広克

１月６日（火）～１月23日（金）

二本松市立二本松第一中学校　教頭	佐藤　健夫
喜多方市立第一小学校　教頭	山岸　実

◇中堅教員研修

７月22日（火）～８月８日（金）

福島市立鎌田小学校	宍戸　与一

石川町立中谷第一小学校　　先﨑　祐子
郡山市立芳賀小学校　　坂牧　広文
会津坂下町立坂下南小学校　　久保田　義春
富岡町立富岡第一小学校　　鈴木　博
８月12日（火）～８月29日（金）
石川町立沢田中学校　　服部　明彦
郡山市立大槻中学校　　鴫原　靖宏
塙町立塙中学校　　本田　栄敏

⑵　各種研修会

ア　福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 管内・期日・会場・参加人数【参加824名】

○　県北　　６月23日（月）
【福島市アクティブシニアセンター】168名

○　県中　　６月24日（火）
【田村市文化センター】　　202名

○　県南　　６月18日（水）
【白河合同庁舎】　　73名

○　会津　　７月１日(火)
【会津美里町新鶴公民館】　　113名

○　南会津　７月１日（火）
【南会津町御蔵入交流館】　　32名

○　相双　　６月19日（木）
【福島県ハイテクプラザ】　　25名
６月16日（月）
【南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター(相馬)】
82名

○　いわき　６月23日（月）
【いわき合同庁舎】　　123名

イ　公立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 会場　　福島県教育センター

(ｳ) 期間・参加人数
５月１日（木）～５月２日（金）小学校　46名
中学校　21名

(ｴ) 講師　　義務教育課長　　飯村　新市　他

ウ　公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ｱ) 主催　　福島県教育委員会

(ｲ) 会場　　福島県教育センター

(ｳ) 期間・参加人数
５月19日（月）～５月20日（火）小学校　57名
中学校　34名

(ｴ) 講師　　義務教育課主任管理主事　歌川　哲由　他

エ　公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会

(ｱ) 主催　福島県教育委員会

(ｲ) 管内・期日・会場・参加人数

○　県北　５月23日（木）【県教育センター】
小学校15名　中学校６名　特別支援学校１名

○　県中　８月22日（木）【須賀川市産業会館】
小学校11名　中学校６名　特別支援学校０名

○　県北　５月12日（月）【県教育センター】
小学校18名　中学校10名　特別支援学校０名

○　県中　８月13日（火）【郡山合同庁舎】
小学校10名　中学校８名　特別支援学校０名

○　県南　４月24日（木）【白河合同庁舎】
小学校７名　中学校６名　特別支援学校０名

○　会津　５月16日（金）【ユースピアゆがわ】
小学校４名　中学校８名　特別支援学校０名

○　南会津５月30日（金）【南会津合同庁舎】
小学校３名　中学校１名　特別支援学校０名

○　相双　５月１６日（金）【南相馬合同庁舎】
小学校９名　中学校３名　特別支援学校０名

オ　公立小・中学校経験者研修(Ⅰ、Ⅱ)

(ｱ) 経験者研修Ⅰ

○　主催　　福島県教育委員会

○　期間・会場
a　５月～12月　　勤務校
b　５月～12月　研修会等への参加
※先進校での研修
c　６月～10月　　教育センター
(小)　６月10日（火）～12日（木）
(中)　10月15日（水）～17日（金）
10月21日（火）～23日（木）

○　参加人数（小学校56名、中学校33名）

○　講師　　教育センター依頼の外部講師・大学教授
※主にセンター指導主事が講座担当、一部大学教授等が講師

(ｲ) 経験者研修Ⅱ

○　主催　　福島県教育委員会

○　期間・会場
a　４月～11月　　教育事務所
b　５月～１月　　勤務校
c　９月～11月　　教育センター
(小)　９月29日（月）～10月１日（水）
(中)　９月２日（火）～９月４日（木）

○　参加人数(小学校56名、中学校40名)

○　講師　　教育センター依頼の外部講師・大学教授、教育センター指導主事等

カ　公立小・中学校初任者研修

(ｱ) 校内における研修　180時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。

(ｲ) 校外における研修　22日間

a　地区別研修Ａ
（６日間、各教育事務所の計画による）
・　一般研修　　１日間
・　授業研修　　２日間
・　へき地校研修　　１日間
・　カウンセリング研修　　１日間
・　特別支援学校研修　　１日間

b　地区別研修Ｂ
（10日間、各市町村教育委員会の計画による）

・　一般研修　　1日間
・　研究発表集会等研修　　3日間
・　社会奉仕体験活動研修　　2日間
・　企業等体験研修　　3日間
・　他校種園参観研修　　1日間

c　宿泊研修　5月26日（月）～28日（水）

(ｳ) 参加者数

a　小学校　71名

b　中学校　54名

キ　公立小・中・特別支援学校事務職員研修

(ｱ) 新規採用職員研修

・　対象　平成26年度新規採用者
・　日数　前期5日間、後期3日間
・　参加人数　13名（小学校10名、中学校3名）
・　会場　ふくしま自治研修センター

(ｲ) 基礎力アップ研修

・　対象　採用後4年目
・　日数　3日間
・　参加人数　4名

(ｳ) 応用力アップ研修

・　対象　採用後8年目
・　日数　2日間
・　参加人数　6名

(ｴ) 実行力アップ研修

・　対象　採用後12年目
・　日数　3日間
・　参加人数　3名

(ｵ) 総合力アップ研修

・　対象　採用後20年目、40歳以上
・　日数　2日間
・　参加人数　12名

(ｶ) 新任係長研修会

・　対象　新任の主任主査
・　日数　3日間
・　参加人数　13名

ク　事務職員研修(小・中学校)

○　主催　独立行政法人教員研修センター
○　期間　2月23日(月)　～2月27日(金)
○　参加人数　3名(小学校3名、中学校0名)
○　会場　独立行政法人教員研修センター

(3)　教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア　上越教育大学

(ｱ)　平成25年4月1日～平成27年3月31日

(ｱ)　平成25年4月1日～平成27年3月31日

福島市立立子山小学校教諭	加藤　正典
白河市立白河第二中学校教諭	小林　巧一

(ｲ) 平成26年4月1日～平成28年3月31日

金山町立金山中学校教諭	伊藤　大輔
只見町立只見中学校教諭	齋藤　　聡

イ　福島大学

(ｱ) 平成25年4月1日～平成27年3月31日

福島市立大森小学校教諭	菅野　紀子
二本松市立二本松第三中学校教諭	三瓶理恵子
天栄村立湯本小学校教諭	白井　孝拓
白河市立白河第二中学校教諭	矢吹　　章
いわき市立小名浜西小学校教諭	山田　茂幸

(ｲ) 平成26年4月1日～平成28年3月31日

福島市立土湯小学校教諭	今野　友華
白河市立みさか小学校教諭	前林　伸也
矢祭町立矢祭中学校教諭	久保木　学
鮫川村立青生野小学校教諭	佐々木雄一郎
会津若松市立永和小学校教諭	渡邉　匡彦
新地町立新地小学校	今野　真幸
いわき市立久之浜中学校	花塚　　寛

(4)　教員体験研修

ア　主催　　福島県教育委員会

イ　期間　　3か月

ウ　派遣者及び派遣先

学校名	職名	氏名	派遣先
鮫川村立鮫川小学校	教諭	鈴木　陽子	ホテルサンルート白河
会津若松市立謹教小学校	教諭	岩橋　康紀	会津天宝醸造株式会社
葛尾村立葛尾小学校	教諭	横田　佳奈	ハマツ観光株式会社ホテルハマツ
いわき市立永崎小学校	教諭	鈴木　岳	常磐興産株式会社スパリゾートハワイアンズ事業本部

(5)　平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教科	技術・家庭
氏名	相澤　広枝
職名	教諭
学校名	会津若松市立一箕中学校
研修先	国立大学法人横浜国立大学
研修期間	8月4日～8月7日

(6)　教育研究奨励

ア　名称　　福島県教職員研究論文

イ　主催　　福島県教育委員会

ウ　応募資格　福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校の教職員

エ　審査委員

福島大学総合教育研究センター特任教授	丹野　　学
福島市教育実践センター所長	鈴木　昭雄
こむこむ館　学習指導員	長尾順一郎

オ　応募数　35点

カ　入賞者

(ｱ) 特選

氏　　名	所　　属
教諭　石川　　淳	伊達市立保原小学校
只見町立朝日小学校	団　　体
郡山市立郡山第二中学校	団　　体
鮫川村立青生野小学校	団　　体

(ｲ) 入選

氏　　名	所　　属
矢祭町立関岡小学校	団　　体
矢祭町立内川小学校	団　　体
矢吹町立矢吹中学校	団　　体
教諭　田中　紀彦	福島県立相馬養護学校小学部
伊達市立保原小学校	団　　体
教諭　須田　英明	郡山市立根木屋小学校
郡山市立第四中学校	団　　体

(ﾛ) 奨励賞

氏　　名	所　　属
教諭　芳賀　　裕	郡山市立小泉小学校
福島県立聾学校研究グループ	グループ
川俣町立川俣中学校	団　　体

3　教育課程

(1)　平成26年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈平成26年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

ア　主催　　福島県教育委員会

イ　実施期間

県北域内　　９月４日（木）
県中域内　　９月４日（木）
県南域内　　９月11日（木）
会津域内　　９月18日（木）
南会津域内　９月18日（木）
相双域内　　９月２日（火）相馬地区
　　９月８日（月）双葉地区
いわき域内　９月12日（金）

ウ　実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ　参加者数　428名

〈平成26年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

ア　主催　　福島県教育委員会

イ　実施期間

県北域内　　９月２日（火）
県中域内　　９月18日（木）
県南域内　　９月18日（木）
会津域内　　９月16日（火）
南会津域内　９月18日（木）
相双域内　　９月８日（月）
いわき域内　９月18日（木）

ウ　実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

エ　参加者数　235名

4　学力向上等

(1)　学力向上推進支援事業

ア　授業改善のための定着確認シート活用実践事業

イ　学力調査研究事業

ウ　学力調査分析支援事業

(2)　ふくしまから　はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

(3)　ふくしまから　はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

ア　理科力アップ事業

イ　理数教育優秀教員活用事業

ウ　小学生算数・理科講座事業

エ　福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業

オ　「科学の甲子園」福島県大会事業

(4)　少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

○　30人程度学級

○　30人学級編制（小１、小２、中１）

5　放射線教育（放射線教育推進支援事業）

児童生徒が心身ともに健康で安全な生活を送るために、放射線等に関する基礎的な知識についての理解を深め、自ら考え、判断し、行動する力を育成することを目的とした取組の支援として、下記の事業等を実施した。

(1)　実践協力校

ア　小学校

会津若松市立謹教小学校
只見町立朝日小学校
相馬市立桜丘小学校
いわき市立中央台東小学校

イ　中学校

桑折町立醸芳中学校
郡山市立富田中学校
西郷村立西郷第二中学校

(2)　指導者養成研修会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日　平成２６年６月１８日（水）

ウ　会場　ビッグパレットふくしま

エ　参加者　１２０名

(3)　地区別研究協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日

県北域内　　９月11日（木）
県中域内　　９月８日（月）
県南域内　　10月23日（木）
会津域内　　９月25日（木）
南会津域内　９月４日（木）
相双域内　　10月３日（金）［相馬］
　　10月６日（月）［双葉］
いわき域内　８月８日（金）

ウ　参加者数　804名

(4)　運営協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期間　４月～２月（６回）

ウ　参加対象者　本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育推進委員

エ　内容　各種放射線教育研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(5)　「放射線等に関する指導資料第４版」の作成と配付

ア　発行者　福島県教育委員会

イ　発行　　平成２７年３月

ウ　部数　　３０００部

６　防災教育（防災学習推進支援事業）（「生き抜く力」を育む防災教育推進事業）

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1)　実践協力校

福島市立清明小学校
柳津町立西山小学校、西山中学校
相馬市立飯豊小学校

(2)　地区別研究協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日

県北域内	９月11日（木）
県中域内	９月８日（月）
県南域内	９月４日（木）
会津域内	６月27日（金）
南会津域内	６月24日（火）
相双域内	10月３日（金）［相馬］
	10月６日（月）［双葉］
いわき域内	７月８日（火）

ウ　参加者　　８６６人

(3)　運営協議会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期間　４月～１月（６回）

ウ　参加対象者　本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者

エ　内容　防災教育地区別研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(4)　「防災個人カード」の作成と配付

ア　発行者　福島県教育委員会

イ　発行　　平成２６年１２月

ウ　配付者　県内国公私立小・中学生

(5)　「防災教育指導資料第２版」の作成と配付

ア　発行者　福島県教育委員会

イ　発行　　平成２７年２月

ウ　部数　　３０００部

７　道徳教育

(1)　道徳教育

ア　道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

(ｱ) 主催　中央指導者研修
独立行政法人教員研修センター
ブロック別指導者研修
独立行政法人教員研修センター、
青森県教育委員会

(ｲ) 会場　中央：独立行政法人教員研修センター
ブロック：ウェディングプラザアラスカ
（青森市）

(ｳ) 期日
中央指導者研修　　平成26年５月２６日～３０日
ブロック別指導者研修　　平成26年８月１９日～２１日

〈中央指導者研修〉

氏　名	勤　務　先	職　名
石井　直人	玉川村立須釜中学校	校長
髙久　賢一	河沼郡柳津町立西山小学校	教頭
加藤　満福	いわき教育事務所	指導主事
柏倉　弘人	郡山市立郡山第三中学校	教諭
吉田　紀文	いわき市総合教育センター	指導主事

〈ブロック別指導者研修〉

氏　名	勤　務　先	職　名
山田　昇	白河市立白河第二小学校	教頭
渡部　学	南会津教育事務所	指導主事
荒木　幸子	南相馬市立原町第三中学校	校長
今村　裕子	福島県立勿来工業高等学校	教諭

イ　小学校教育研究会道徳部会

(ｱ) 研究主題
「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え方を深める指導の充実」

(ｲ) 主催
福島県教育委員会、福島県小学校教育研究会
関係市町村教育委員会

(ｳ) 会場・期日
各地区ごとに設定

ウ　中学校教育研究会道徳部会

(ｱ) 研究主題
「心をたがやし、心に力を与える道徳教育はどうあればよいか」
～振り返り活動と効果的な終末のあり方～

(ｲ) 主催
福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会
関係市町村教育委員会

(ｳ) 会場・期日

各地区ごとに設定

⑵　道徳教育総合支援事業

ア　趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ　福島県道徳教育推進協議会

年２回開催（５月１９日、２月９日）

ウ　福島県道徳教育地区別推進協議会

各事務所ごとに設定、１回開催

エ　道徳教育推進校

小学校３校、中学校３校、高等学校１校

オ　道徳教材作成

「ふくしま道徳教育資料集第Ⅲ集『郷土愛・ふくしまの未来へ』」

「ふくしま道徳教育資料集全３集『絆』」

カ　道徳教育推進協議会

期日　　平成26年12月24日（水）

会場　　文部科学省旧庁舎６階　第２講堂

参加者　県教育庁義務教育課

指導主事　大内　克之

⑶　人権教育

ア　人権教育研究開発事業

○　趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

○　推進地域

大玉村（大玉村教育委員会）村内幼・小・中学校（２園３校）

○　研究テーマ

共によりよく生きる子どもの育成

～自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めよう～

○　研究期間

平成２６・２７年度

イ　人権教育指導者養成研修

○　主催　　独立行政法人教員研修センター

○　期日　　平成26年７月９日～11日

○　会場　　独立行政法人教員研修センター

○　参加者　大玉村立玉井小学校

教頭　永峰　秀桐

大玉村立大玉中学校学校

教諭　村越　健

⑷　「モラル・エッセイ」コンテスト

ア　趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ　応募期間

平成26年７月１日～８月30日

ウ　応募数

中学校　　１，１８１点

高等学校　　２７０点

一般　　８点

エ　受賞者

【中学校】

最優秀賞	白河市立表郷中学校	１年	渡邊　貴仁
優秀賞	いわき市立小名浜第一中学校	３年	太　雪乃
	白河市立表郷中学校	１年	中畑萌々子

【高等学校】

最優秀賞	白河高等学校	１年	大越　千誉
優秀賞	白河高等学校	１年	荒井　寿美
	いわき海星高等学校	３年	大和田拓宏

【一般】

最優秀賞　白河市在住　　佐藤かおり

８　特別活動

主な研修及び行事

⑴　県小学校教育研究会特別活動部会

ア　主催　　県小学校教育研究会

イ　研究主題

望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ　県研究協議会

○　期日　平成26年10月15日（水）

○　会場　白河市立白河第五小学校

⑵　県中学校教育研究会特別活動部会

ア　主催　県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ　研究主題

望ましい集団活動を通して、自分のよさを生かし、社会性をはぐくむ特別活動の指導はどうあればよいか

ウ　県研究協議会

○　期日　平成26年10月７日（火）

○　会場　いわき市立藤間中学校

９　生徒指導・進路指導

⑴　生徒指導

ア　委託地域による研究推進

福島市　会津若松市　白河市　矢吹町

○　委託　文部科学省、いじめ対策等生徒指導推進事業

平成26年度

イ　生徒指導研究連絡会議

国立教育政策研究所主催

○　期日　　平成26年６月６日

○　会場　　文部科学省講堂

○　参加者　県教育庁高校教育課

主任指導主事　佐藤　文男

県教育庁義務教育課
主任指導主事　渡辺　惣吾

ウ　生徒指導指導者養成研修
○　期日　　平成26年６月26日～７月11日
○　会場　　独立行政法人教員研修センター
○　参加者　福島市立野田小学校
教諭　　箭内　吉文
郡山市立小原田中学校
教諭　　堰上　浩明

エ　教育相談指導者養成研修
○　期日　　平成25年９月24日～９月27日
○　会場　　独立行政法人教員研修センター
○　参加者　県中教育事務所
指導主事　　本田　一意

(2)　進路指導・キャリア教育

ア　キャリア教育指導者養成研修会（東部ブロック）
(ｱ)　主催　　独立行政法人教員研修センター
(ｲ)　会場　　独立行政法人教員研修センター
(ｳ)　期間　　６月17日（月）～６月21日（金）
(ｴ)　参加者
会津若松市立門田小学校教諭　　君　　佳子
棚倉町立棚倉中学校教諭　　本多　正典
福島県立修明高等学校教諭　　三浦　　純

１０　幼稚園教育

平成26年度公立幼稚園数は、191園（休園17を含む）であった。学級数は前年度より20学級減の485であったが、東日本大震災及びその後の原子力発電所事故の影響による幼児数の減少も影響し、少人数保育になっているところが多い。県全体の公立幼稚園平均学級園児数は、16.5人である。幼稚園未設置市町村の解消や就園率の地域格差是正、３年保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1)　幼稚園教育課程研究協議会

ア　主催　福島県教育委員会
イ　期日

県北域内	10月14日(火)
県中域内	9月12日(金)
県南域内	9月30日(火)
会津・南会津域内	10月 9日(木)
相双域内	9月17日(水)
いわき域内	9月19日(金)

ウ　内容
○　保幼小接続と子ども・子育て支援新制度について
○　幼児が楽しく運動遊びに取り組む中で、基礎的な動きを身につけることができるようにするための指導の工夫
○　幼稚園の教育活動及び運営に係る課題と対応策
オ　参加者数　290名（６地区合計）

(2)　幼児教育実技研修会

ア　主催　　福島県教育委員会
イ　期日　　平成26年8月6日(水)～8月8日(金)
ウ　会場　　福島大学附属幼稚園
エ　受講者　のべ506名(3日間合計)

(3)　福島県幼稚園等新規採用教員研修

ア　主催　　文部科学省、福島県教育委員会
イ　会場　　教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
ウ　日数　　園外研修(教育センターの計画)　３泊４日
〃　(教育センターの計画)　３日間
〃　(幼稚園、保育園、小学校参観)　３日間
園内研修(勤務園)　１０日間
エ　参加者　研修対象者　公立39名　私立80名　計119名
オ　内容　　講義……教師の役割、幼稚園教育の現状
演習……遊びに必要な材料の工夫
協議……諸問題、教師のかかわり
実技……絵本のイメージと遊び、みんなで楽しむ歌やゲーム
参観……先進的研究実践園、小学校、保育所
実習……保育実習

(4)　幼稚園経験者研修Ⅱ

ア　主催　　文部科学省、福島県教育委員会
イ　期日　　年間
ウ　日数・内容・会場
○　園外研修…５日以上
・共通研修……１日(各教育事務所)
・保育専門研修…１泊２日(教育センター)
・社会体験研修…１日（社会体験を行う各施設等）
・選択研修　……１日以上（幼児教育実技研修会等）
○　園内研修…７日以上
・保育力の向上に関する研修
・教育課題の解決に向けた実践に関する研修
・パイオニア研修
エ　参加者　研修対象者　公立20名　私立0名　計20名

１１　へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校115校で、24.6%、中学校63校で27.5%を占め、小・中学校総数に対して25.5%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1)　複式学級担任教員研修会

ア　主催　福島県教育委員会
イ　期日　平成26年５月29日（木）～５月30日（金）

ウ　会場　福島県教育センター

エ　講師　小学校教諭他

オ　参加者数　42名

(2)　中学校免許外教科担当教員研修会

ア　主催　福島県教育委員会

イ　期日　平成26年５月14日（水）～５月16日（金）
　　平成26年５月21日（水）～５月23日（金）

ウ　会場　福島県教育センター

エ　講師　中学校教諭他

オ　参加者数　91 名

(3)　全国へき地教育研究大会

第63回全国へき地教育研究大会和歌山大会

ア　主催　文部科学省、全国へき地教育研究連盟
　　三重県教育委員会

イ　期日　平成26年10月23日（木）～10月24日（金）

ウ　会場　全体会・分散会　群馬県音楽センター
　　学校別分科会　県内９会場

エ　研究主題

○　全国主題

「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」

オ　派遣者氏名

氏　名	職	勤　務　先
鈴木　淳子	教 諭	鮫川村立鮫川中学校
横山　広美	教 諭	只見町立朝日小学校

(4)　福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成２２年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

１２　環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1)　「尾瀬サミット」小・中学生３県交流事業「尾瀬子どもサミット」

ア　主催　福島県教育委員会
　　群馬県・群馬県教育委員会
　　新潟県教育委員会

イ　期日　平成26年7月29日（火）～8月1日（金）

ウ　会場　福島県南会津郡檜枝岐村「尾瀬沼ヒュッテ」

エ　参加者数　福島県　県内小・中学生１９名
　　群馬県　県内小・中学生２０名
　　新潟県　県内小・中学生２０名

オ　活動内容　尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会

カ　知事報告会　平成26年８月１日(金)　県庁

１３　教科用図書

(1)　平成27年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書及び学校教育法附則第９条図書を採択した。中学校用教科書は継続採択であった。

ア　教科用図書選定審議会

(ｱ) 委員　16名

(ｲ) 任期　平成26年4月1日～平成26年8月31日

(ｳ) 開催期日　第１回　平成26年４月15日
　　第２回　平成26年５月29日

(ｴ) 会場　第１回　福島県庁西庁舎講堂
　　第２回　福島県自治会館 303 会議室

イ　教科書展示会

平成26年6月13日から14日間、県内18の会場で開催した。会場及び来会者は下の表のとおりである。

※　双葉教科書センターは震災の影響により休止

教科書センター（展示会場）	採択地区名	展示教科書（該当に○印）			展示会場設置場所（該当に○印）			来会者総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター（福島市立図書館）	福島・伊達・安達地区	○			○			266
伊達教科書センター（保原小学校）	〃		○		○			162
二本松教科書センター（二本松文化センター）	〃		○		○			166
郡山教科書センター（郡山中央図書館）	郡山地区	○			○			221
須賀川教科書センター（須賀川第二小学校）	岩瀬地区		○		○			145
石川教科書センター（石川中学校）	石川地区		○		○			125
三春教科書センター（三春小学校）	田村地区		○		○			58
〃　（おおごえふるさと館）	〃		○				○	163
〃　（小野町教育委員会）	〃		○				○	42
西白河教科書センター（白河市立図書館）	西白河・東白川地区	○			○			202
東白川教科書センター（棚倉町図書館）	〃	○			○			118
会津若松教科書センター（城北小学校）	会津地区	○			○			51
喜多方教科書センター（喜多方第一小学校）	〃	○			○			75
会津坂下教科書センター（坂下南小学校）	〃	○			○			50
南会津教科書センター（御蔵入交流館）	〃		○		○			54
南会津教科書センター（伊南会館）	〃		○			○		12

相馬教科書センター（南相馬市立中央図書館）	相馬地区	○			○			213
双葉教科書センター（富岡町文化交流センター）	双葉地区		—		—			—
いわき教科書センター（いわき市総合教育センター）	いわき地区	○			○			80
合　計	（展示会場18箇所）（採択地区10地区）	9	9		15	1	2	2203

ウ　平成27年度使用小学校教科書採択一覧（採択１年目）

種目 / 採択地区	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	保健
福島・伊達・安達	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	東書
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	東書	学研
田村	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
岩瀬	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	教出	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
会津	東書	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
相馬	光村	光村	東書	東書	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
いわき	光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	開隆堂	東書

エ　平成27年度使用中学校教科書採択一覧（採択４年目）

種目 / 採択地区	国語	書写	社会（地理的分野）	社会（歴史的分野）	社会（公民的分野）	地図	数学	理科	音楽（一般）	音楽（器楽合奏）	美術	保健体育	技術・家庭（技術）	技術・家庭（家庭）	英語
福島・伊達・安達	光村	東書	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教芸	開隆堂	東書	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	帝国	教出	帝国	帝国	東書	学図	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書
田村	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
岩瀬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
会津	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	三省堂
相馬	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
相双	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
いわき	東書	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	開隆堂	東書	東書	東書	東書

(2)　教科用図書無償給与

平成26年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、平成27年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期　日	会　場	参集範囲
平成27年２月２日	南相馬合同庁舎	相　双
平成27年２月６日	郡山合同庁舎	県　中
平成27年２月５日	福島県教育センター	県　北
平成27年２月10日	白河合同庁舎	県　南
平成27年２月４日	ハイテクプラザ会津	会　津
平成27年２月３日	南会津合同庁舎	南会津
平成27年２月16日	いわき合同庁舎	いわき

１４　教育研究団体

(1)　福島県公立幼稚園教育研究会

ア　研究主題（平成25年度～平成27年度）

協議主題１	きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにするための環境の構成や教

	師のかかわりについて
協議主題２	自ら考えようとする気持ちが育つようにするための環境の構成や教師のかかわりについて
協議主題３	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わうようになるための環境の構成や教師のかかわりについて
協議主題４	特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について
協議主題５	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる預かり保育）について
協議主題６	幼稚園における学校評価について

イ　組織及び財政の状況

○　会　長　　古川満里子

○　会員数　　782名

○　平成26年度予算額　　1,300,997円

上記のうち補助金　　なし

ウ　主な事業

○　ブロック研究協議会(2年に1回 H26は実施年)

(ｱ) 主催　福島県公立幼稚園教育研究会

(ｲ) 期日・会場

期　日	会　場	参集範囲
平成26年10月 7日	コラッセふくしま ふくしま南・ふくしま東・佐倉・平田幼稚園	県　北
平成26年10月 8日	坂下東幼稚園	会津・南会津
平成26年10月15日	宮幼稚園	い　わ　き
平成26年10月17日	玉川文化体育館 いづみ・すがま幼稚園	県　中
平成26年10月23日	上真野幼稚園	相　双
平成26年10月30日	三神幼稚園	県　南

(ｳ) 指導助言者　　指導主事等

○　研究主題研修会

(ｱ) 期日・会場

平成26年6月4日(水)　福島市吾妻学習センター

(ｲ) 講師　福島県教育庁義務教育課指導主事

(2)　福島県小学校教育研究会

ア　基本主題（平成25年度～平成27年度）

(ｱ)「確かな学びと豊かなかかわりを通して生きる力をはぐくむ授業」

イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国　語	児童一人一人の表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める指導はどうあればよいか。
社　会	子ども一人一人が社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を身に付け、観察や調査、資料の活用などの活動をとおして、社会的な見方や考え方を成長させる社会科の授業はどうあればよいか。
算　数	算数的活動を通して、数量や図形について実感的に理解し、次の学びに生かそうとする子どもの育成
理　科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実
生活・総合	人・社会・自然に進んでかかわり、質の高い気付きや学びができる子どもを育成するにはどうすればよいか。
音　楽	多様な音楽活動と豊かな学びを通して、音楽を愛好する子どもの育成
図画工作	つくり出す喜びを味わう造形活動を通して、感性を働かせながら、自分の思いを豊かに表現することができる図画工作科の指導
家　庭	家族とのきずなを深め、生き抜く力をはぐくむ家庭科の学習はどうあればよいか。
体　育	多様な運動の特性に触れる経験を通して学び合う中で、めあての達成を目指して主体的に運動に取り組むたくましい子どもを育てる体育指導
道　徳	道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実
特別活動	望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ　組織及び財政の状況

(ｱ) 会長　　渡邊　晋一（郡山市立行徳小学校）

(ｲ) 会員数　6,025名

(ｳ) 平成26年度決算額　　4,616,276円

エ　主な事業

○　研究協議会

(ｱ) 主催　福島県小学校教育研究会

(ｲ) 共催　福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ｳ) 期日・会場

a 地区研究協議会　各地区

各地区の計画による

b 県研究協議会　10月8日(水)～10月29日（水）

県内11会場

(ｴ) 指導助言者　　指導主事等

(3)　福島県中学校教育研究会

ア　研究主題

(ｱ) 基本主題

「未来を切り拓く確かな学力を身につけ、人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成」

イ　各部研究主題

部　会	平成26年度の研究主題・研究副主題
国　語	豊かな言語生活を支える生きて働くことばの

	力を身につけさせるための指導はどうあればよいか。 H26 韻文における指導の工夫
社会	自ら学び社会にはたらきかける力を育成するための社会科の授業はどうあればよいか。 H26 社会的事象を主体的にとらえ表現する力を育てる授業の工夫
数 学	数学的活動の工夫を通して、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか。 H26 学んだことを進んで活用させ、数学のよさを実感させる指導
理 科	自然とのかかわりを重視し、自然を探究する力を高め、望ましい自然観を育てる授業はどうあればよいか。 H26 自然に進んでかかわり、望ましい自然観をはぐくむ学習活動の工夫
音 楽	音楽活動の楽しさを通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする指導はどうあればよいか。 H26 音楽文化への理解を深め、主体的に音楽活動させる指導
美 術	生徒一人一人に創造活動の喜びを味わわせ、生涯にわたって美術に親しむ心をはぐくむ美術教育はどうあればよいか。 H26 美術への関心を高め生活に生きてはたらく力の育成
保健体育	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進と体力の向上を図る指導はどうあればよいか。～体育分野～ H26 運動の合理的実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する指導の工夫
技術・家庭	よりよい生活を創造するための実践力をはぐくむ指導はどうあればよいか。 H26 家庭や社会における実践力をはぐくむ評価の工夫
英 語	4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力をはぐくむための指導はどうあればよいか。 H26 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の高まりを生徒が実感できる授業の工夫
道 徳	心をたがやし、心に力をあたえる道徳教育はどうあればよいか。 H26 振り返り活動と効果的な終末のあり方
特別活動	望ましい集団活動を通して自分のよさを生かし、社会性をはぐくむ特別活動の指導はどうあればよいか。 H26 連帯感を深め、社会で生きる力を育む学校行事の指導

ウ 組織及び財政の状況

(ｱ) 会長 吉田 務（福島市立岳陽中学校）

(ｲ) 会員数 3,314名

(ｳ) 平成25年度の決算額 8,206,016円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ｱ) 主催 福島県中学校教育研究会

(ｲ) 共催 福島県教育委員会

(ｳ) 期日・会場

a 支部研究協議会 各支部

b 県研究協議会 10月7日（火）
県内11会場

(ｴ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ｱ) 会 長 会田 智康（桑折町立醸芳小学校）

(ｲ) 会員数 460名

(ｳ) 平成26年度の決算額 13,958,003円

イ 主な事業

(ｱ) 理事会 年5回開催（福島市）

(ｲ) 被災地学校訪問（11校）

7月15日 富岡第一小学校 富岡第二小学校
楢葉南小学校 楢葉北小学校
双葉南小学校 双葉北小学校

8月27日 葛尾小学校 浪江小学校
津島小学校

10月14日 熊町小学校 大野小学校

(ｳ) 全連小被災三県による学校訪問、懇親会（8月27日）

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ｱ) 会 長 君島 勇吉（福島市立福島第四中学校）

(ｲ) 会員数 225名

(ｳ) 平成26年度の決算額 8,251,862円

イ 主な事業

(ｱ) 平成26年度福島県中学校長会総会

(ｲ) 開催期日 4月23日（水）

(ｳ) 会 場 福島県教育会館

(ｴ)「震災後のふくしまからの報告書第2集」発行

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況.

(ｱ) 会 長 齋藤 剛（福島市立松陵中学校）

(ｲ) 会員数 700名

(ｳ) 平成26年度の決算額 10,749,326円

イ 主な事業

○ 平成26年度福島県小・中学教頭会総会及び研修会

(ｱ) 開催期日 5月12日（月）

(ｲ) 会 場 福島県教育会館

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

(ｱ) 会長 今野 隆（郡山市立大槻小学校）

(ｲ) 加盟校 687校
平成25年度の決算額 942,109円

イ 主な事業

(ｱ) 第62回福島県学校図書館研究大会北会津大会

(ｲ) 研究主題 「未来を拓き、豊かな学びの中核となる学校図書館」

(ｳ) 開催期日 平成26年10月29日（水）

(ｴ) 会 場 棚倉町立棚倉中学校
棚倉町立棚倉小学校

棚倉町立社川小学校
棚倉町立高野小学校
棚倉町立近津小学校
棚倉町文化センター

(ｵ) 参加人数　230人

(8) 福島県公立小中学校事務研究協議会

ア 組織及び財政の状況

(ｱ) 会長　土澤　琴江

(ｲ) 会員数　617名

(ｳ) 平成26年度の予算額　3,365,030円

イ 主な事業

学校事務研修会

研修Ⅰ（講話）

福島県教育庁義務教育課　管理主事　佐藤浩哉

「福島県の教育施策と学校事務職員の役割」

研修Ⅱ（講演）

茨城大学教育学部　准教授　加藤　崇英

「学校組織マネジメント～これからの学校経営と学校事務職員～」

・開催期日　平成26年5月22日（木）

・会　　場　ユラックス熱海

・参加人数　役員･代議員132名、一般会員120名

第３節　国際化・科学技術の進展等への対応

１　中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成26年9月1日（月）～9月9日（火）

(3) 応 募 数

中 学 校　5点（4校）

高等学校　12点（7校）

(4) 審 査 会

平成26年10月14日(火)　自治会館　３０１会議室

（審査員長）

福　島　大　学　副　学　長　　小　沢　喜　仁

（審査員）

いわき明星大学教授　岩　田　恵　理

福　島　大　学　准　教　授　大　山　　大

福　島　大　学　准　教　授　川　越　清　樹

県中学校教育研究会理科部長　半　澤　　敏

県私立中学高等学校協会監事　山　﨑　尚　宏

県高等学校教育研究会理科部会長　坂　爪　靖　夫

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏　名	学　校　名	論　文　の　題　名
最優秀賞	福原　諒	会津若松市立第二中学校	水中から飛び出すボールの実験 ～水中深く沈めて急速浮上～
優秀賞	沖野　峻也	福島大学附属中学校	建物の耐震性について ～ストローで検証する～
	五十嵐智政	会津若松市立湊中学校	湊町で再生可能エネルギーはできるのか？ －小水力発電の可能性について－
入　選	室井　淳	福島大学附属中学校	音　～目に見えない音の世界を探る～

・共同研究の部

賞	団　体　名	論　文　の　題　名
優秀賞	西郷村立西郷第二中学校 科学部	菌の発生や繁殖を抑制する条件

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏　名	学　校　名	論　文　の　題　名
入　選	渡辺　英彦	福島県立福島東高等学校	生育環境の変化によるカビの生育の変遷
	大槻　恒介	福島県立福島東高等学校	サンコウチョウの繁殖行動の観察

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
最優秀賞	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探究部物理班	起き上がり小坊師をより起き上がらせるために
優秀賞	福島県立福島高等学校 SS部化学班スライムグループ	鉄コロイドを用いたＰＶＡゲルフィルムの開発
	福島県立相馬農業高等学校 農業クラブ草花専攻班	ハマナスの果実利用の効率化を目指して ～ジベレリンによる無核化の誘導と自殖性獲得の可能性～
入選	福島県立福島高等学校 SS部生物班好適環境水チーム	好適環境水における硬骨魚類の生理学的変化の解明
	福島県立安達高等学校 自然科学部	地元温泉熱を利用した温度差発電 ～再生可能エネルギー～

2　中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1)　募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2)　応募期間

平成26年9月1日（月）～9月9日（火）

(3)　応募数

中学校　87点（26校）

高等学校　23点（ 6校）

(4)　審査会

平成26年10月16日(木)　自治会館３０１会議室

（審査員長）

桜の聖母短期大学名誉教授　富良謝　純

（審査員）

郡山女子大学教授	ジョン・ティルマント
福島学院大学客員講師	玄永牧子
福島民報社論説委員長	佐藤研一
福島民友新聞社編集局報道部長	高橋裕三
福島県中学校長会副会長	小澤章雄
福島県高等学校長協会普通部会長	小浜宗一郎

(5)　受賞者

【中学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	石井　野絵	小野町立小野中学校	3	私には夢がある
優秀賞	横田　鮎果	楢葉町立楢葉中学校	3	意思を持つこと
	車田　健人	塙町立塙中学校	2	国境なき医師団が伝えていること
	大平　翔子	福島大学附属中学校	1	「和」の心を持つ者に
	齋藤　周也	喜多方市立山都中学校	3	異文化の理解と接し方
	福原　諒	会津若松市立第二中学校	3	日本が目指すべき「グローバル化」
入選	沖野　峻也	福島大学附属中学校	2	アジアでひとつになろう
	星　香	南会津町立舘岩中学校	2	国境を越えた家族の絆

【高等学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	鈴木　愛望	福島県立白河高等学校	1	学べる喜びと私の夢
優秀賞	佐藤　遙希	福島県立白河高等学校	1	過去の過ちから考える日韓関係
	吉田　朋恵	福島県立白河高等学校	2	見えない壁を超えて
	関根　滉二	福島県立白河実業高等学校	3	より直接的に、より主体的に
	津川　莉奈	会津若松ザベリオ学園高等学校	1	私たちにできること
	新田　優花	福島県立あさか開成高等学校	1	フィリピンのスモーキーマウンテンから考える
入選	池田　円良	会津若松ザベリオ学園高等学校	1	下手（したて）に出すぎる日本人
	天野紗瑛香	会津若松ザベリオ学園高等学校	1	今も命が消えている

第6章　高等学校教育

第１節　学校管理

１　生徒数と教職員数

(1)　県立高等学校の推移

区分＼年度		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
全日制	本校	85	85	85	85	84	83	83	83	83	83
	分校	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、２年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2)　中学校卒業者の進学状況

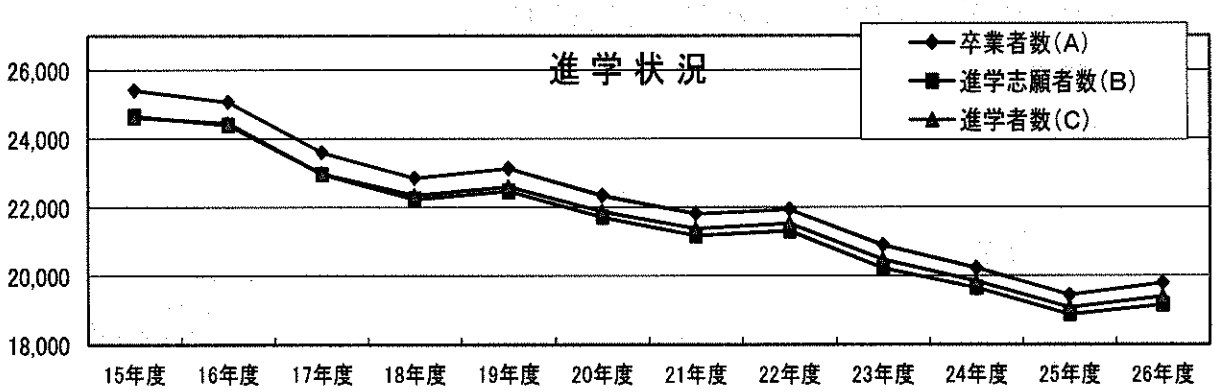
区分＼年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
卒業者数(A)	25,404	25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782
進学志願者数(B)	24,653	24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150
進学者数(C)	24,617	24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388
進学志願率(B/A)	97.0	97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8	97.2	97.1	96.8
進学率(C/A)	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0
入学率(C/B)	99.9	100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2	100.9	101.1	101.2

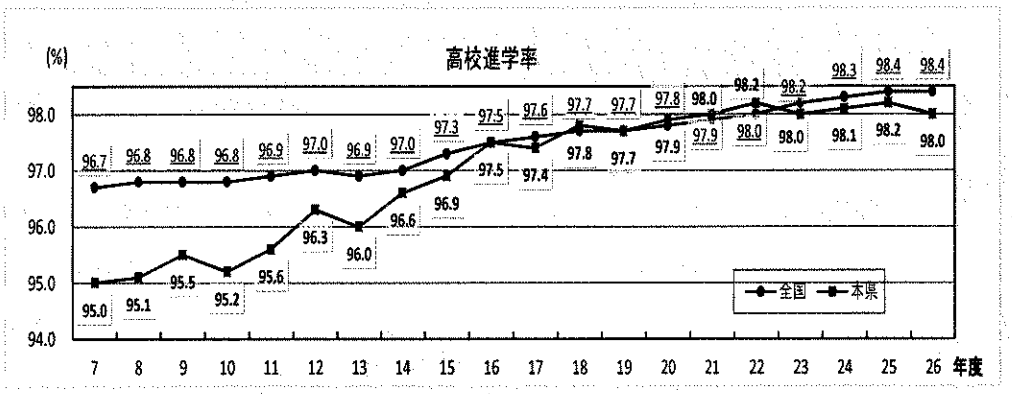
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。 進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より355名増加し、進学率は0.2ポイント減、入学率は0.1ポイント増となった。
平成26年度の進学者の内訳は次のとおりである。

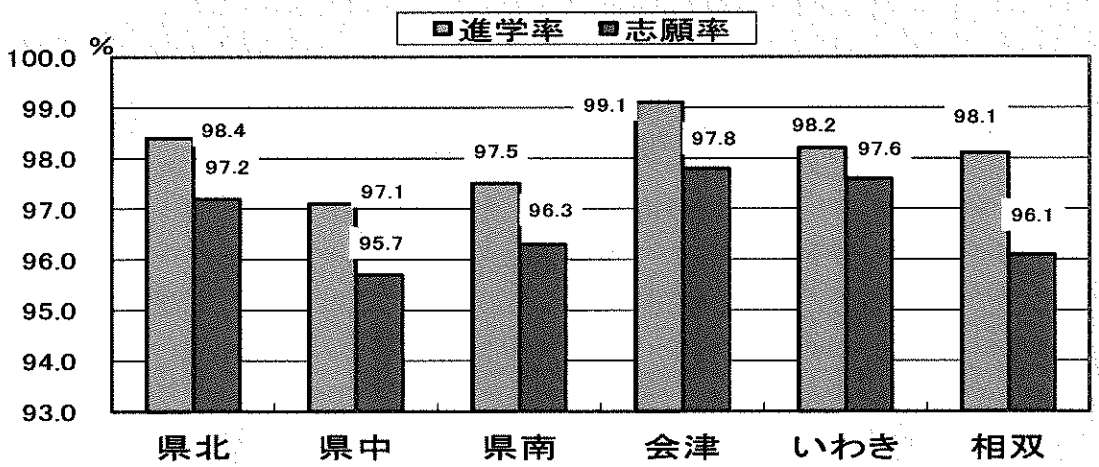
高等学校全日制 18,319名 (94.5%)
高等学校定時制　　307名 (1.6%)
高等学校通信制　　384名 (2.0%)
高等専門学校　　219名 (1.1%)
特別支援学校高等部159名 (0.8%)

ア　中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



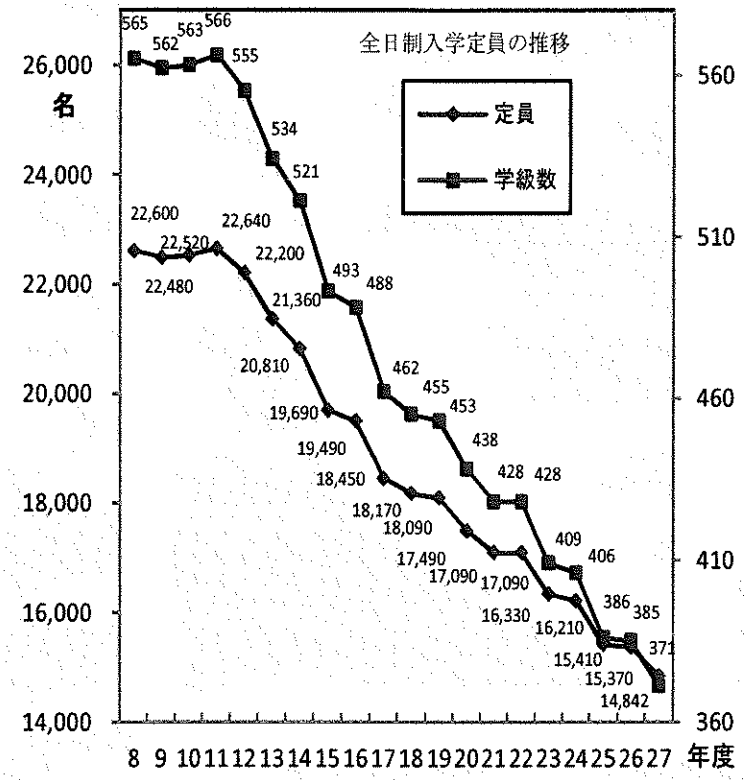


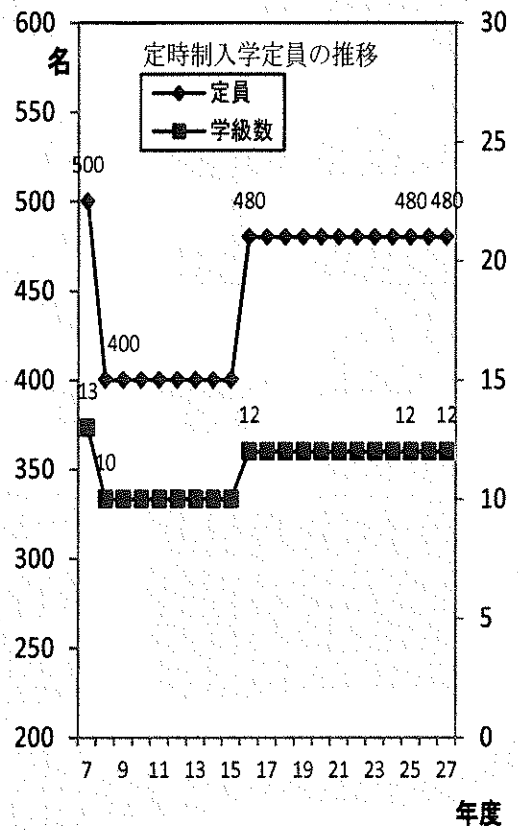
イ　地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア　全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移





イ　学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35，40	40	国際文化に関する学科	40	－
農業に関する学科	40	－	英語に関する学科	40	－
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	－
商業に関する学科	40	－	美術に関する学科	40	－
家庭に関する学科	40	－	国際科学に関する学科	40	－
水産に関する学科	40	－	総合学科	40	－
理数に関する学科	40	－	国際・ｽﾎﾟｰﾂに関する学科	40	－
文理に関する学科	40	－			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業者数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B／A（%）	C 志願者数	C／A（%）	C／B（%）	D 入学者数	D／C(%)
17	23，593	18，450	78.2	20，634	87.5	113	17，928	86.9
18	22，851	18，170	79.5	19，988	87.5	113	17，508	87.6
19	23，127	18，090	78.2	20，130	87.0	111	17，530	87.1
20	22，333	17，490	78.3	19，368	86.7	111	16，934	87.4
21	21，807	17，090	78.4	18，975	87.0	111	16，666	87.8
22	21，930	17，090	77.9	18，996	86.6	111	16，599	87.4
23	20，887	16，330	78.2	17，725	84.9	109	15，460	87.2
24	20，220	16，210	80.2	16，961	84.3	105	15，090	89.0
25	19，427	15，410	79.3	16，231	83.5	105	14，307	88.1
26	19，782	15，370	77.7	16，589	83.9	108	14，421	86.9

(5) 県立高等学校生徒数（26.5.1現在）

学科の区分＼課程		全日制	定時制 学年制	定時制 単位制	定時制 計	専攻科	合計	通信制
普通科	男	10,384	150	313	463		10,847	1,027
	女	11,625	126	386	512		12,137	1,021
	計	22,009	276	699	975		22,984	2,048
農業に関する学科	男	1,425					1,425	
	女	1,398					1,398	
	計	2,823					2,823	
工業に関する学科	男	5,709	65		65		5,774	
	女	527	12		12		539	
	計	6,236	77		77		6,313	
商業に関する学科	男	1,623					1,623	
	女	3,128					3,128	
	計	4,751					4,751	
家庭に関する学科	男	11					11	
	女	54					54	
	計	65					65	
水産に関する学科	男	293				32	325	
	女	72				2	74	
	計	365				34	399	
理数に関する学科	男	273					273	
	女	183					183	
	計	456					456	
文理に関する学科	男	431					431	
	女	595					595	
	計	1,026					1,026	
国際文化に関する学科	男	30					30	
	女	130					130	
	計	160					160	
国際・スポーツに関する学科	男	119					119	
	女	53					53	
	計	172					172	
国際科学に関する学科	男	135					135	
	女	459					459	
	計	594					594	
英語に関する学科	男	62					62	
	女	213					213	
	計	275					275	
体育に関する学科	男	92					92	
	女	24					24	
	計	116					116	
美術に関する学科	男	9					9	
	女	103					103	
	計	112					112	
総合学科	男	1,332					1,332	
	女	2,482					2,482	
	計	3,814					3,814	
合計	男	21,928	215	313	528	32	22,488	1,027
	女	21,046	138	386	524	2	21,572	1,021
	計	42,974	353	699	1,052	34	44,060	2,048

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分＼年度 学校		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
入学者	安積第二高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	あさか開成高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	郡山萌世高校	238	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133
	計	238	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133

区分＼年度 学校		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
卒業者	安積第二高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	あさか開成高校	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	郡山萌世高校	208	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192
	計	208	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
	課程	全日制・定時制										通信制									
	職種 年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
教員	校長	87	87	87	87	86	85	85	85	85	85										
	教諭等	3922	3853	3790	3730	3674	3617	3523	3446	3351	3312	37	36	37	37	37	37	37	37	36	36
	養護教員	123	120	119	116	114	113	110	110	109	106										
	補充教員	151	155	161	167	155	148	148	144	157	153										
	講師																				
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	5	5	3	3										
	実習助手	359	353	351	346	334	330	330	329	326	326										
	計	4647	4573	4513	4451	4368	4298	4201	4119	4031	3985	37	36	37	37	37	37	37	37	36	36
事務職員		276	274	272	266	263	262	257	256	251	249	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
その他の職員	技能員	1																			
	学校司書	66	65	65	64	61	62	58	57	55	53										
	用務員	58	57	56	56	56	54	53	52	49	48										
	ボイラー技師	18	18	17	16	16	14	11	10	11	10										
	栄養士	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	5	4	4	4	4	4	5	4	4	3										
	計	153	149	147	144	141	138	131	127	123	118										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合計		5098	5018	4954	4883	4794	4720	4611	4524	4427	4396	43	42	43	43	43	43	43	43	42	42

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成26年度の高等学校教職員定数は、前年度比48人減の4,286人となった。このうち、教諭等は、前年度比39人減の3,348人である。

また、特別支援学校については、前年度比7人増の1,526人となった。このうち教諭等は前年度比12人増の1,301人となった。

ア 新採用(教諭)について

平成26年度は77名(国語8名・地理歴史6名・数学8名・理科10名・保健体育12名・音楽4名・美術2名・書道1名・英語9名・家庭1名・情報1名・農業4名・工業5名・商業４名・水産2名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成26年度に実施した平成27年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数 50名程度に対して、高等学校志願者は前年度比100名減の847名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は53名(前年度比28名減)となり、そのうち辞退者を除く52名(前年度比15名減)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から7名、教育庁関係から現場復帰による2名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて429名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成26年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

(ア)過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。

(イ)教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(ウ)優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(３年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(エ)同一校には、原則として、最低３年は勤務するものとする。

(オ)２親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ)教員人事公募選考制度については、別に定める。

Ⅱ　異動基準

ア　勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

（ア）採用後引き続き同一校に３年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

（イ）異動２校目において３年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、若年者は原則として３年以上５年以内で異動の対象とするものとする。

（「若年者」については平成２１年度以降の採用者から適用する。）

（ウ）同一校に８年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

ただし、若年者が中通り地域の４校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、　会津地域の４校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の２校（浪江津島・相馬農業飯舘）に勤務した場合は、原則として３年以上５年以内で異動の対象とするものとする。

イ　地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの３地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

（ア）原則として、採用後２０年以内に３地域の学校に勤務するものとする。

（イ）農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

（ウ）農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ　平成２０年度以前の採用者について

平成３０年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の（イ）ａを満たす者は、上記イ（ア）の規定を満たすものとする。

（ア）勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

ａ　初任者　　ｂ　永年者

（イ）地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の５地区に分け、地区ごとに所在する学校を地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるＡ・Ｂ・Ｃ３群に分類し、以下により異動を促進する。

ａ　原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

（ａ）採用後１５年以内に２地区以上の学校に勤務する。

（ｂ）Ａ・Ｂ２群の学校に勤務する。ただし、Ａ群については、採用後１５年以内とする。

ｂ　県南地区の４校（湖南・塙工業・修明・修明（鮫川）、会津地区の４校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の３校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯舘）は、それぞれ１地区とみなす。

ｃ　本宮は平成１６年度より県北地区とし、平成１６年度以降の転入・在籍者から適用する。

ｄ　群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

ｅ　同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

（ａ）Ａ群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

（ｂ）Ｂ群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

（ｃ）Ｃ群については、同一市内間の異動は行わない。

ｆ　職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に３年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ　寄宿舎指導員

原則としてア、イ、ウに準ずるが、採用後２０年以内に２地域の学校に勤務するものとする。

オ　交流

（ア）学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

ａ　県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として３年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として３年から８年とする。

ｂ　市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として２年とする。

（イ）他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表①　地域・地区・群学校分類表

地域・地区＼群		Ⅰ	Ⅱ	
中通り	県北	福島工業（定） 福島北　川俣　梁川 保原　保原（定） 安達　二本松工業 安達東 本宮　福島中央	普通系	福島　橘 福島西　福島東 福島南
			専門系	福島商業 福島明成 福島工業
	県中	安積（御舘）　湖南 須賀川　須賀川桐陽 清陵情報　長沼 岩瀬農業　石川 田村　船引　小野 小野（平田）　郡山萌世	普通系	安積　安積黎明 郡山東　郡山 あさか開成
			専門系	郡山商業 郡山北工業
	県南	光南　塙工業 修明　修明（鮫川） 白河二	普通系	白河　白河旭
			専門系	白河実業
会津		喜多方　喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代　耶麻農業 西会津　大沼 川口　坂下 会津農林　田島 南会津　只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
		会津学鳳中学校	専門系	若松商業 会津工業
浜通り	いわき	湯本　小名浜 いわき海星 磐城農業　勿来 勿来工業　好間 遠野　四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
			専門系	平工業 平商業 いわき総合
	相双	浪江　浪江（津島） 富岡　双葉翔陽 相馬農業 相馬農業（飯舘） 小高商業 小高工業 新地	普通系	双葉　相馬 原町
			専門系	相馬東

別表②　地区・群別学校分類表

地区＼群	A	B	C	特別支援学校（A群校扱い）
県北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橘 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
県南	安積(御舘) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 須賀川養護(郡山) 西郷養護　石川養護
会津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見 会津学鳳中学校	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
いわき	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 相馬農業(飯舘)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護 相馬養護

別表③

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	昭和52	白河実業	B	昭和61	棚倉	A	平成10
福島明成	B	昭和56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	昭和58	相馬農業	B	〃			

(3) 教頭複数制実施校(平成26年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
保原	安積	安積黎明	郡山東
郡山北工	郡山	須賀川	岩瀬農業
光南	白河	白河実業	修明
田村	葵	会津学鳳	会津工業
喜多方桐桜	磐城	磐城桜が丘	平工業
平商業	いわき総合	湯本	勿来工業
富岡	郡山萌世	いわき翠の杜	盲
聾	大笹生養護	郡山養護	あぶくま養護
須賀川養護	会津養護	平養護	いわき養護

3 学校の設置及び統廃合

－ 公立高等学校の設置・廃止等(平成27年度) －

(1) 学校の新設・廃止

新設

全日制１校３学級

課程	学校名	内　容
全日制	ふたば未来学園	総合学科3学級

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制１１校１１学級

課程	学校名	内　容
全日制	川俣	普通科１学級
	安達	普通科１学級
	本宮	普通科１学級
	船引	普通科１学級
	光南	総合学科１学級
	石川	普通科１学級
	喜多方	普通科１学級
	磐城桜が丘	普通科１学級
	平商業	オフィス会計科１学級
	いわき光洋	文理科１学級
	四倉	普通科１学級

(4) 募集停止

全日制５校６学級

課程	学校名	内　容
全日制	双葉	普通科１学級
	浪江	普通科１学級
	浪江津島	普通科１学級
	富岡	国際スポーツ科２学級
	双葉翔陽	総合学科１学級

(5) 35人学級編制

全日制３校６学級

課程	学校名	内　容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6) 課程廃止

なし

(7) 学科転換・学科改編

なし

(8) 学科名変更

なし

(9) 校名変更

なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業	塙
	田島	田島、檜沢、荒海
	富岡	富岡第一、富岡第二、楢葉、広野
	ふたば未来学園	浪江、浪江東、津島、葛尾、双葉
		大熊、富岡第一、富岡第二、川内
		楢葉、広野
	相馬東	玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制

変更なし

(13) 専攻科

変更なし

第２節　学校教育

１　概要

(1)　指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア　生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ　指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ　生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ　生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ　教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ　勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2)　指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭４０名を指名し、各教科の指導活動の充実・強化を図った。

(3)　学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア　教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ｱ) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(ｲ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ　学力向上を図る。

「ふくしま高校生進路実現サポート事業」を実施し、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに対象校の進路担当者が出席した進路指導連絡協議会を実施した。

ウ　生徒指導の充実を図る。

(ｱ) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(ｲ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ｳ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(ｴ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ　進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ｱ) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(ｲ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ｳ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(ｴ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(ｵ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(ｶ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(ｷ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ　産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ｱ) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(ｲ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ｳ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4)　教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア　現職教育の充実

(ｱ) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(ｲ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ｳ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ　学校管理運営の適正化

(ｱ) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(ｲ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ｳ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(ｴ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に

処理するよう努めた。

(ｵ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ　勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ　使命感の高揚

(ｱ) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(ｲ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ｳ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5)　教育環境の整備充実

ア　学習環境の整備充実

(ｱ) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。

(ｲ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ｳ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ　学校事故防止の徹底

(ｱ) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(ｲ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ｳ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6)　県立高等学校入学者選抜

ア　基本方針

平成27年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ｱ) Ⅰ期選抜

Ⅰ期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b　Ⅰ期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c　Ⅰ期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(ｲ) Ⅱ期選抜

Ⅱ期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の５教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

また、定時制の課程においては、年齢１８歳以上の者については、学力検査を免除することができるものとし、学力検査を免除した場合、小論文（又は作文）を実施することができるものとする。

b　学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

c　学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

d　特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

e　Ⅱ期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

(a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

(b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその

結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f　面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) Ⅲ期選抜

Ⅲ期選抜は、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜(以下「連携型選抜」という。)により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文(又は作文)の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a　選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文(又は作文)の結果を十分に精査する。

b　Ⅱ期選抜における学力検査の成績は、Ⅲ期選抜の資料とはしないものとする。

c　Ⅲ期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校(以下「連携型中学校」という。)から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、６年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a　選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b　連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c　募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、Ⅰ期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d　連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のⅠ期選抜へ出願することはできない。

e　実施期日については、Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ　入学者選抜関係日程

6月10日　第１回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月17日　第２回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月26日　第３回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月26日　県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月10日～10月17日　県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の７地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月17日　平成27年度入学者募集定員決定

(ア) Ⅰ期選抜関係日程

１月20日～１月23日	出願書類受付
２月３日(２月４日)	面接等
２月６日	合格内定通知
２月10日～２月13日	入学確約書提出
３月16日	合格者発表

(イ) Ⅱ期選抜関係日程

２月16日～２月19日	出願書類受付
２月20日～２月24日	出願先変更
２月25日～２月26日	調査書提出
３月10日	学力検査
３月10日又は11日	面接等
３月16日	合格者発表

(ウ) Ⅲ期選抜関係日程

３月17日～３月18日	出願書類受付
３月19日	出願先変更
３月23日	面接等

３月24日　　合格者発表

(ｴ) 連携型選抜関係日程

１月20日～１月23日　出願書類受付

Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日　面接等

２月６日　　合格内定通知

２月10日～２月13日　入学確約書提出

３月16日　　合格者発表

(ｵ) 通信制の課程選抜日程

２月16日～３月26日　出願書類受付

４月６日　　合格者発表(個人宛通知)

ウ　ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成２７年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校（普通科)、浪江高等学校津島校（普通科)、富岡高等学校（国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校（総合学科）を募集停止とし、平成２７年４月に開校するふたば未来学園高等学校の入学者選抜を実施した。連携型選抜においては、次の(ｱ)～(ｳ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ｱ) 出願時にＪＦＡアカデミー福島又は双葉地区教育構想ビクトリープログラムに参加している者

(ｲ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立浪江中学校
双葉郡浪江町立浪江東中学校
双葉郡浪江町立津島中学校
双葉郡葛尾村立葛尾中学校
双葉郡双葉町立双葉中学校
双葉郡大熊町立大熊中学校
双葉郡富岡町立富岡第一中学校
双葉郡富岡町立富岡第二中学校
双葉郡川内村立川内中学校
双葉郡楢葉町立楢葉中学校
双葉郡広野町立広野中学校

(ｳ) 東日本大震災が発生した時に、双葉郡内の小学校に在籍していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは中等教育学校の前期課程を平成２７年３月に卒業見込み又は修了見込の者

エ　志願者数・合格者数

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。
（ ）内は平成26年度入試のもの。

(1) Ⅰ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,410	2,089	1,271	2,033	3,304	1.58	773	1,359	2,132
農　業	1,040	434	226	366	592	1.36	165	249	414
水　産	160	56	64	19	83	1.48	40	14	54
工　業	2,160	966	1,329	143	1,472	1.52	912	110	1,022
商　業	1,640	670	380	691	1,071	1.60	243	472	715
家　庭	40	14	0	7	7	0.50	0	7	7
総　合	1,392	450	228	476	704	1.56	139	306	445
計	14,842 (15,370)	4,679 (4,920)	3,498 (3,789)	3,735 (4,097)	7,233 (7,886)	1.55 (1.60)	2,272 (2,370)	2,517 (2,675)	4,789 (5,045)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	440	138	46	63	109	0.79	39	60	99
工　業	40	12	9	1	10	0.83	8	1	9
計	480 (480)	150 (150)	55 (66)	64 (96)	119 (162)	0.79 (1.08)	47 (40)	61 (68)	108 (108)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	120	60	18	19	37	0.62	18	19	37
工　業	80	24	10	3	13	0.54	10	2	12
総　合	312	155	105	104	209	1.35	90	80	170
計	512 (440)	239 (164)	133 (81)	126 (100)	259 (181)	1.08 (1.10)	118 (75)	101 (82)	219 (157)

(3) Ⅱ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,410	6,241	3,195	3,435	6,630	1.06	2,639	2,854	5,493
農　業	1,040	626	343	302	645	1.03	304	248	552
水　産	160	106	86	10	96	0.91	68	8	76
工　業	2,160	1,126	1,145	94	1,239	1.10	943	71	1,014
商　業	1,640	925	406	550	956	1.03	346	457	803
家　庭	40	33	3	14	17	0.52	2	12	14
総　合	1,392	689	330	421	751	1.09	285	378	663
計	14,842 (15,370)	9,746 (10,083)	5,508 (5,918)	4,826 (5,084)	10,334 (11,002)	1.06 (1.09)	4,587 (4,764)	4,028 (4,076)	8,615 (8,840)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普　通	440	341	106	59	165	0.48	85	48	133
工　業	40	31	10	3	13	0.42	3	3	6
計	480 (480)	372 (372)	116 (116)	62 (95)	178 (211)	0.48 (0.57)	88 (80)	51 (77)	139 (157)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	1	0	1	0	0	0
福島南	国際文化	若干名	1	0	1	1	0	1
あさか開成	国際科学	若干名	1	1	2	1	1	2
光南	総合	若干名	0	1	1	0	1	1
会津学鳳	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
湯本	英語	若干名	1	1	2	1	0	1
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	748	145	94	239	95	84	179
農　　業	74	17	2	19	9	2	11
水　　産	30	8	0	8	6	0	6
工　　業	112	41	2	43	26	0	26
商　　業	122	9	13	22	5	12	17
家　　庭	19	1	1	2	1	1	2
総　　合	26	9	3	12	6	3	9
計	1,131 (1,243)	230 (242)	115 (130)	345 (372)	148 (177)	102 (116)	250 (293)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普　　通	208	30	12	42	20	10	30
工　　業	25	9	0	9	6	0	6
計	233 (215)	39 (52)	12 (26)	51 (78)	26 (34)	10 (22)	36 (56)

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

（　）内は平成26年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	Ⅱ期選抜合格者数	Ⅲ期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	8,410	2,132	37	5,493	179	3,525	4,316	7,841
農　　業	1,040	414		552	11	478	499	977
水　　産	160	54		76	6	114	22	136
工　　業	2,160	1,022	12	1,014	26	1,891	183	2,074
商　　業	1,640	715		803	17	594	941	1,535
家　　庭	40	7		14	2	3	20	23
総　　合	1,392	445	170	663	9	520	767	1,287
計	14,842 (15,370)	4,789 (5,045)	219 (157)	8,615 (8,840)	250 (293)	7,125 (7,386)	6,748 (6,949)	13,873 (14,335)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	Ⅱ期選抜合格者数	Ⅲ期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普　　通	440	99		133	30	144	118	262
工　　業	40	9		6	6	17	4	21
計	480 (480)	108 (108)		139 (157)	36 (56)	161 (154)	122 (167)	283 (321)

2　現職教育

(1)　各種研修並びに講習会

名　称	期日	期間	会　場	参加者
新任校長研修会	5.8 ～5.9	2日	教育センター	新任県立高等学校長9名
新任教頭研修会	5.12 ～5.13	2日	教育センター	新任県立高等学校教頭16名
経験者研修Ⅲ (中堅教員研修)	10.29 ～31	3日	教育センター	県立学校中堅教員71名
初任者研修 (基本研修)	4.3 ～4.4	2日	教育センター	高等学校初任者研修対象教員75名
〃 (第1次)	4.23 ～4.25	3日	教育センター	
〃 (第2次)	2. 17 ～2. 19	3日	教育センター	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.10 ～9.12	3日	・国語(安達) ・理科 (須賀川) ・保健体育 (梁川) ・音楽 (若松商業・会津) ・英語(本宮) ・農業水産 (岩瀬農業)	
	(2班) 9.24 ～9.26	3日	・地歴公民 (郡山商業) ・数学(田村) ・美術(光南) ・書道 (相馬東) ・家庭 (いわき総合) ・情報 (会津学鳳) ・工業 (郡山北工) ・商業 (郡山商業)	
〃 (地区別研修)	4月～ 11月	14日	各地区施設学校等	
〃 (所属校における研修)	4月 ～3月	180 時間	各所属校	

名　称	期日	期間	会　場	参加者
経験者研修Ⅰ	1班 10.15 ～ 10.17 2班 10.21 ～ 10.23	3日	教育センター	県立学校教職経験5年を経過した者93名
各所属校における研修	5月～ 12月	5日	各所属校	
経験者研修Ⅱ 共　通	4.15	1日	教育センター	県立学校教職経験10年を経過した者58名
〃 教科指導Ⅰ	7.9 ～7.10	2日	教育センター	
〃 教科指導Ⅱ	2.9 ～2.10	2日		
〃 社会体験研修	4月 ～1月	2日	各所施設等	
〃 各所属校における研修	4月 ～1月	15日	各所属校	
〃 選択研修	4月 ～1月	3日以上	各所、施設等	
新任教務主任研修会	8.20	1日	福島工業校	新任教務主任115名
	8.20	1日	岩瀬農業高校	
	8.19	1日	会津学鳳高校	
	8.22	1日	いわき光洋高校	

(2)　教員体験研修（2か月）

実施せず

(3)　教職員等中央研修

ア　趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ　主催　　独立行政法人教員研修センター

ウ　共催　　文部科学省

エ　会場　　独立行政法人教員研修センター

オ　期間及び参加者

◇校長マネジメント研修（10月20日～24日）

県立安達高等学校長　　渡辺　昇

◇副校長・教頭等研修（9月24日～10月10日）

県立修明高等学校教頭　　髙橋　豊治

◇学校組織マネジメント指導者養成指導者養成研修（9月29日～10月3日）

県立磐城高等学校教頭　　箱崎　兼一

◇中堅教員研修（11月17日～12月12日）

県立福島工業高等学校教諭　　星　弓彦
県立郡山北工業高等学校教諭　深澤　剛

3　教育課程

(1)　高等学校教育課程説明会

平成26年度は実施せず。

(2)　福島県高等学校教育課程講習会

ア　目的

高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

イ　主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ　期日・会場・参加者数

地区	期日	会場	参加者数
相双	8月4日	相馬高等学校	65
県北	8月6日	保原高等学校	247
県中・県南	8月7日	清陵情報高等学校	331
会津・南会津	8月5日	会津学鳳高等学校	196
いわき	8月8日	いわき光洋高等学校	209
合計			1,048

エ　部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部会	参加者数	部会	参加者数
国語	96	外国語	96
地理歴史	92	家庭	89
公民	74	情報	57
数学	101	農業	11
理科	95	工業	16
保健体育	98	商業	42
音楽	68	水産	1
美術・工芸	43	福祉	10
書道	13	計	1002

(3)　情報教育の充実

ア　情報教育研修

(ア) 専門研修　　高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修　　各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ　情報処理関係学科の設置状況

農業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
工業	情報技術	郡山北工業、会津工業、平工業
	情報電子	福島工業、清陵情報、
	情報システム	二本松工業
商業	情報処理	郡山商業、清陵情報、
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	福島商業、白河実業、若松商業、小高商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
水産	情報通信	いわき海星

(4)　国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア　招致人数　29名

イ　配置　○県内21の高校に各１名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内7つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任校における指導

4　学力向上対策等

(1)　平成26年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
		24～28	【通常枠】「震災・原発被災地として国内外に認知された福島の地域性と5年間のSSH研究開発を融合し、災害復興を可能とする領域横断的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」
スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）	福島	24～	【コアＳＳＨ枠】地域への自信、誇り、愛情を科学技術の側面から育み、難局を打破する素養をもった人材を育成するための連携体制の構築

		26	を目指す。「ふくしまサイエンススクールコミュニティー（ＦＳＣ）」の創設
	会津 学鳳	22 ～ 26	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発
	磐城	23 ～ 27	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究

(2) ふくしま高校生進路実現サポート事業

ア　地域に貢献できる人づくりプロジェクト

生徒の進路実現に必要な学力向上や指導力の向上及び地域とのつながりを重視したプログラム等を実施し、社会人としての自覚や基礎学力の育成を図る。さらには、各学校における指導内容や指導法について連携を図り、３年間を見通した計画的な指導体制の充実を図る。

○対象校：県立高等学校２４校

福島商業、福島明成、梁川、安達、須賀川、長沼、岩瀬農業、光南、白河旭、石川、塙工業、船引、若松商業、喜多方東、猪苗代、川口、坂下、田島、南会津、湯本、いわき海星、遠野、相馬農業、新地

イ　大学進学プロジェクト

生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図る。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、３年間を見通した計画的な指導体制の充実を図る。

○対象校：県立高等学校１２校

福島、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城

ウ　オールふくしまリーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、進路講演会や大学の先輩との交流、参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築く。

○日時：平成２７年３月２４日～２７日（３泊４日）

○場所：国立磐梯青少年交流の家

○対象：難関大学進学への意識、意欲の高い県立高等学校１年生１５０名程度。

5　生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内７地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア　地区内の高等学校の訪問指導(計画・随時)

イ　地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ　関係諸機関､諸団体との連携

エ　生徒指導関係の情報と資料の収集

オ　生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（93 校）にスクールカウンセラーを配置した。

6　学校行事

(1) 卒業式

ア　県立高等学校卒業者数

課程＼性別	男	女	計
全　日　制	7,238	7,137	14,375
定　時　制	121	118	239
通　信　制	64	91	155
計	7,423	7,346	14,769

イ　卒業式実施期日

種別＼	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	87	6	0	93
3月2日	1	0	0	1
3月4日	0	1	0	1
3月8日	0	0	1	1
合　計	88	7	1	96

ウ　県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校　　なし

県議会議長臨席校　３月１日　会津学鳳高等学校

県議会副議長臨席校　３月１日　いわき光洋高等学校

県教育長臨席校　　３月１日　白河高等学校

(2) 修学旅行（県立高等学校） （）は前年度

ア 参加生徒総数 13,980人(14,647人)

イ 参加率 99.0%(98.0%)

ウ 行先

行先	北海道	関東	奈良・京都	中国・近畿	九州	沖縄	四国・中国・近畿	四国・近畿	四国	海外
校数	0 (2)	0 (1)	48 (32)	5 (14)	3 (4)	31 (32)	1 (2)	0 (1)	0 (1)	4 (3)

エ 航空機利用 61校 (59校)

北海道方面 0校 (2校)

大阪方面 23校 (17校)

九州方面 3校 (4校)

沖縄方面 31校 (32校)

広島 0校 (0校)

愛媛 0校 (1校)

海外 4校 (3校)

オ 泊日数

1泊2日 0校 (0校)

2泊3日 1校 (6校)

3泊4日 84校 (68校)

4泊5日 7校 (19校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 168,500円 (150,000円)

最低額 75,354円 (59,388円)

平均額 98,680円 (98,108円)

キ 引率責任者

校長 49校 (32校)

教頭 43校 (61校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成26年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
工業	新妻 孝	教諭	清陵情報高等学校	金沢工業大学	8月19日～8月23日
商業	佐藤 充	教諭	若松商業高等学校	千葉商科大学	7月28日～8月1日
商業	北澤 聖明	教諭	保原高等学校	千葉商科大学	7月28日～8月1日
家庭	穴澤 由貴子	教諭	耶麻農業高等学校	全国高等学校長協会家庭部会事務局他	8月4日～8月7日
情報	藤井 巨之	教諭	岩瀬農業高等学校	千葉商科大学	7月28日～8月1日

イ 平成26年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	山本 智久	教諭	修明高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月5日～8月7日
家庭	齋藤 真理子	教諭	相馬東高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月24日～7月25日

8　学校訪問

(1)　目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2)　訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3)　訪問学校一覧

福島商業高等学校	保健体育
福島西高等学校	理科
福島南高等学校	理科
安達高等学校	学校保健
二本松工業高等学校	工業
郡山高等学校	保健体育
光南高等学校	保健体育
白河高等学校	英語
白河旭高等学校	地理歴史
白河実業高等学校	工業
塙工業高等学校	数学
修明高等学校	商業、芸術
船引高等学校	国語、理科
小野高等学校平田校	家庭
会津学鳳高等学校	英語
会津工業高等学校	保健体育、工業
喜多方東高等学校	国語
喜多方桐桜高等学校	工業、商業
猪苗代高等学校	地理歴史、数学
西会津高等学校	公民、数学
南会津高等学校	家庭
磐城高等学校	理科
磐城桜が丘高等学校	英語
平工業高等学校	学校保健
湯本高等学校	情報
いわき海星高等学校	水産
磐城農業高等学校	農業
浪江高等学校	芸術
浪江高等学校津島校	公民
双葉翔陽高等学校	情報、農業
相馬東高等学校	国語
郡山萌世高等学校定時制	地理歴史

9　県立学校学校教育指導委員

教科名	氏　名	職名	学校名
国　語	小野　桃子	教諭	福島東高等学校
	根本久美子	教諭	須賀川桐陽高等学校
	梅宮　泰	教諭	喜多方東高等学校
地理･歴史	武田　重信	教諭	安積黎明高等学校
	清野　浩幸	教諭	清陵情報高等学校
公　民	石川　喜昭	教諭	本宮高等学校
	石渕　雅士	教諭	安積高等学校
数　学	杉岡　英樹	教諭	須賀川桐陽高等学校
	佐藤　誠一	教諭	葵高等学校
	歌川　真克	教諭	会津学鳳高等学校
理　科	矢澤　和美	教諭	保原高等学校
	根本　靖彦	教諭	安積黎明高等学校
	会川　秀明	教諭	磐城桜が丘高等学校
	藁谷　悟	教諭	いわき総合高等学校
保健体育	菅野　真幸	教諭	福島東高等学校
	大吉　千浪	教諭	白河実業高等学校
	飯塚　悟	教諭	船引高等学校
	稲村　泰伸	教諭	喜多方東高等学校
芸術(書道)	佐藤　真紀	教諭	会津学鳳高等学校
(音楽)	鈴木　和明	教諭	安積高等学校
(美術)	朝倉裕一朗	教諭	原町高等学校
外国語	星　恭子	教諭	郡山高等学校
	遠藤　利幸	教諭	耶麻農業高等学校
	四家　真澄	教諭	勿来高等学校
家　庭	横田　日夏	教諭	郡山商業高等学校
	福島　美香	教諭	会津高等学校
情　報	近藤　秀生	教諭	船引高等学校
	鈴木　文武	教諭	いわき光洋高等学校
農業･水産	志賀　勲	教諭	福島明成高等学校
	伊藤　仁	教諭	安達東高等学校
	高畑　正宏	教諭	耶麻農業高等学校
工　業	新妻　孝	教諭	清陵情報高等学校
	佐藤　貴之	教諭	塙工業高等学校
	井上　浩一	教諭	会津工業高等学校
	田中　哲也	教諭	勿来工業高等学校
商　業	春木　祐二	教諭	郡山商業高等学校
	羽染　恒	教諭	若松商業高等学校
定　通	近江　敬	教諭	いわき翠の杜高等学校
学校保健	関本　昌美	養護教諭	福島商業高等学校
	添田　多恵	養護教諭	いわき総合高等学校

（４０名）

10　教科用図書

(1)　教科書採択事務説明会

平成２６年度は実施せず。

11　教育研究団体

(1)　福島県高等学校長協会

組織

平成２６年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏　　名
会長	久保田　範　夫　（安積）
副会長	田　代　公　啓　（福島）
副会長	箱　崎　二三彦　（会津）
副会長	箱　崎　温　夫　（磐城）
副会長	松　岡　浩　三　（原町）
監査	古　川　清　春　（福北）
監査	阿　部　正　春　（福南）
事務局長	本　多　光　弥　（福東）

支部

支　部	支部長	副支部長
県　北	田代　公啓（福島）	小浜宗一郎（　橘　） 横山　道夫（福明）
県　南	久保田範夫（安積）	源後　正能（黎明） 髙橋　正人（白河）
会　津	箱崎二三彦（会津）	荒井　光廣（　葵　） 山崎　浩三（喜多方）
いわき	箱崎　温夫（磐城）	渡邉　　望（桜が丘） 本間　悦男（湯本）
相　双	松岡　浩三（原町）	菅野　　論（相馬東） 大和田　修（富岡）

理事会

	氏　　名	
理事会	久保田範夫（安積）	小浜宗一郎（　橘　）
	田代　公啓（福島）	喜多見　薫（福商）
	箱崎二三彦（会津）	横山　道夫（福明）
	箱崎　温夫（磐城）	内田　貞俊（福工）
	松岡　浩三（原町）	池田健一郎（萌世）
	本多　光弥（福東）	渡邉　恵一（あ養）

専門委員会

◎印　委員長　○印　副委員長

専門委員会	氏　　名	
	◎阿部　武彦（勿来）	○山内　正之（会学）
	中野　幹夫（安達東）	大和田　修（富岡）
管　理	太田　　孝（本宮）	阿部　教夫（　盲　）
運　営	源後　正能（黎明）	大関　彰久（石養）
委員会	安瀬　一夫（石川）	芳賀　孝美（会養）
	長岐　　博（田村）	須田　康仁（相養）
	長田　公雄（四倉）	田代　公啓（福島）
	◎渡辺　　昇（安達）	○安田　　徹（川口）
	荒井　勝彦（清陵）	菅野　　論（相東）
教　育	佐川　尚史（塙工）	井戸川恵理子（　聾　）
課　題	水野　晴夫（修明）	渡邉　恵一（あ養）
委員会	久保田忠雄（耶農）	紺野登喜子（大笹養）
	横山　　隆（只見）	小野　誠子（富養）
	松本　明倫（平工）	箱崎二三彦（会津）
	吉田　豊彦（い総）	
	◎二瓶　益幸（会工）	○相良　昌彦（船引）
	古川　清春（福北）	皆川　正信（西会津）
生　徒	木田　英男（二工）	本馬　忠幸（好間）
指　導	安倍真一郎（湖南）	菅野　利彦（双翔）
委員会	五輪美智子（須桐）	根本　良政（翠杜）
	杉内　聡恵（長沼）	田中　　誠（猪養）
	二瓶　賢一（白実）	瀬戸　良英（平養）
	◎佐藤　恵一（田島）	○吉田　佳正（新地）
教　育	横山　道夫（福明）	池田健一郎（萌世）
課　程	内田　貞俊（福工）	水野　徳子（西養）
委員会	鎌田　由人（南会津）	鹿目　敦子（い養）
	森田　晶代（遠野）	松岡　浩三（原町）
	◎坂爪　靖夫（保原）	○阿部　正春（福南）
高　校	刈屋　俊樹（あ開）	長場　壮夫（小名浜）
入　試	瀬谷真理子（須賀川）	深谷　茂樹（勿工）
検　討	菅野　哲哉（光南）	佐藤　　肇（浪江）
委員会	髙梨　洋史（喜東）	眞部　知子（郡養）
	五十嵐　研（大沼）	箱崎　温夫（磐城）
	君島　秀夫（坂下）	
	◎斎藤　貢一（郡東）	○吉田啓一郎（福西）
	小浜宗一郎（　橘　）	二瓶　晃一（猪苗代）
大　学	本多　光弥（福東）	渡邉　　望（桜が丘）
入　試	遠藤雄二郎（郡山）	竹田　真二（い光）
対　策	髙橋　正人（白河）	本間　悦男（湯本）
委員会	宍戸　弘治（白旭）	小島　　稔（双葉）
	荒井　光廣（　葵　）	日高　裕志（相馬）
	山崎　浩三（喜多方）	久保田範夫（安積）

◎印　委員長　○印　副委員長

専門委員会	氏　　名	
	◎高城　友治（郡北）	○小林　喜則（郡商）
	喜多見　薫（福商）	松田　泰夫（平商）
就　職	髙野　成一（川俣）	澤尻　京二（海星）
指　導	迎　　裕仁（梁川）	佐久間秀夫（磐農）
対　策	菅野　直芳（岩農）	大和田範雄（相農）
委員会	渡辺　譲治（小野）	齋藤　　寿（小商）
	佐藤　信常（若商）	比佐　　功（小工）
	深津　文夫（喜桐）	菊地惠美子（須養）
	渡邉　芳広（会農）	

部会長

部　会	氏　名
普通部会	小浜宗一郎（橘）
商業部会	喜多見　薫（福島商業）
農業部会	横山　道夫（福島明成）
工業部会	内田　貞俊（福島工業）
水産部会	澤尻　京二（いわき海星）
家庭部会	森田　晶代（遠野）
定通部会	池田健一郎（郡山萌世）
特別支援部会	渡邉　恵一（あぶくま養護）
理数部会	日高　裕志（相馬）
英語国際部会	阿部　正春（福島南）
体育部会	長岐　博（田村）
総合学科部会	菅野　諭（相馬東）

全国校長会

部　会	氏　名
理　事	田代　公啓（福島）
理　事	久保田範夫（安積）
理　事	箱崎二三彦（会津）
管理運営	阿部　武彦（勿来）
教育課題	渡辺　昇（安達）
生徒指導	二瓶　益幸（会津工業）
教育課程	佐藤　恵一（田島）
大学入試	齋藤　貢一（郡山東）
就職対策	高城　友治（郡山北工業）
人権教育	二瓶　益幸（会津工業）

(2)　福島県高等学校教育研究会

ア　財政及び組織の状況

(ｱ) 本部

平成26年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	小浜宗一郎	福島県立橘高等学校長
副会長	田代　公啓	〃　福島高等学校長
副会長	坂爪　靖夫	〃　保原高等学校長
監査	内田　貞俊	〃　福島工業高等学校長
監査	喜多見　薫	〃　福島商業高等学校長
委員	箱崎二三彦	〃　会津高等学校長
委員	佐藤　恵一	〃　田島高等学校長
委員	横山　道夫	〃　福島明成高等学校長
委員	高橋　正人	〃　白河第二高等学校長
委員	根本　良政	〃　いわき翠の杜高等学校長
委員	大和田範雄	〃　相馬農業高等学校長
委員	菅野　哲哉	〃　光南高等学校長
幹事	高橋　文彦	〃　橘高等学校教頭
幹事	吉村　淳	〃　橘高等学校教頭

(ｲ) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	田代　公啓	福島高等学校長	１５４
保健体育	箱崎二三彦	会津高等学校長	４０７
理　科	坂爪　靖夫	保原高等学校長	５００
音　楽	佐藤　恵一	田島高等学校長	８０
農　業	横山　道夫	福島明成高等学校長	２２３
工　業	内田　貞俊	福島工業高等学校長	４２３
商　業	喜多見　薫	福島商業高等学校長	３５０
定　通	高橋　正人	白河第二高等学校長	１５２
英　語	根本　良政	いわき翠の杜高等学校長	４６５
数　学	小浜宗一郎	橘高等学校長	５０７
家　庭	大和田範雄	相馬農業高等学校長	１５２
美術工芸	菅野　哲哉	光南高等学校長	６６

○平成26年度予算　7,583,198円

第7章　特別支援教育

第１節　学校管理

１　児童生徒数と教職員定数

(1)　児童生徒数の推移

種別	部/年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
視覚障がい特別支援学校	小学部	11	12	8	8	10	9	7	6	6	4
	中学部	8	5	11	12	10	7	6	7	8	6
	高等部	36	36	39	28	29	32	33	35	30	25
	計	55	53	58	48	49	48	46	48	44	35
聴覚障がい特別支援学校	幼稚部	10	13	13	14	17	17	14	16	11	17
	小学部	42	39	33	35	35	44	42	46	54	45
	中学部	28	24	24	21	24	20	21	17	18	22
	高等部	25	24	27	25	23	24	25	29	24	24
	計	105	100	97	95	99	105	102	108	107	108
知的障がい特別支援学校	小学部	427	457	460	462	464	493	498	504	501	517
	中学部	317	330	354	385	408	376	345	334	362	373
	高等部	479	546	601	657	670	746	763	824	757	749
	計	1,223	1,333	1,415	1,504	1,542	1,615	1,606	1,662	1,620	1,639
肢体不自由特別支援学校	小学部	115	113	117	114	118	119	120	124	128	142
	中学部	71	80	67	77	73	71	58	71	68	69
	高等部	91	86	91	84	90	78	83	75	76	72
	計	277	279	275	275	281	268	261	270	272	283
病弱特別支援学校	小学部	34	29	26	30	29	37	40	34	29	35
	中学部	43	39	39	39	40	36	46	46	36	25
	高等部	62	58	40	42	40	45	44	46	40	32
	計	139	126	105	111	109	118	130	126	105	92
計		1,799	1,891	1,950	2,033	2,080	2,154	2,145	2,214	2,148	2,157

※1　知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。
※2　視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2)　平成~~25~~26年度児童生徒数

（H~~25~~26．５．１　学校基本調査、含む訪問学級）

部・学年 / 種別	性別	幼稚部	小学部 1	2	3	4	5	6	計	中学部 1	2	3	計	高等部 本科 1	2	3	計	専攻科	合計	総計
視覚障がい特別支援学校	男		0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	3	3	3	3	9	8	17	21
	女		0	1	1	0	0	1	3	1	1	1	3	1	3	1	5	3	8	14
	計		0	1	1	0	0	2	4	1	2	3	6	4	6	4	14	11	25	35
聴覚障がい特別支援学校	男	8	2	6	3	8	5	5	29	7	1	5	13	4	2	5	11			61
	女	9	1	5	4	2	2	2	16	4	4	1	9	5	2	6	13			47
	計	17	3	11	7	10	7	7	45	11	5	6	22	9	4	11	24			108
知的障がい特別支援学校	男		55	52	56	70	63	56	352	80	99	90	269	159	154	176	489			1110
	女		32	29	24	25	25	30	165	43	29	32	104	102	67	91	260			529
	計		87	81	80	95	88	86	517	123	128	122	373	261	221	267	749			1639
肢体不自由特別支援学校	男		15	10	14	17	13	15	84	12	18	14	44	16	14	10	40			168
	女		12	16	11	7	6	6	58	9	7	9	25	11	12	14	32			115
	計		27	26	25	24	19	21	142	21	25	23	69	27	22	31	72			283
病弱特別支援学校	男		4	3	1	5	1	6	20	3	4	5	12	6	5	11	18			50
	女		1	1	2	5	2	4	15	3	5	5	13	5	5	7	14			42
	計		5	4	3	10	3	10	35	6	9	10	25	11	10	18	32			92

※　市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別		盲学校・聾学校										養護学校									
年度		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12
	教頭・教諭	117	115	117	114	122	123	121	117	119	115	836	853	868	882	887	948	994	965	963	967
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	23	23	23	23	23	24	25	24	24	23
	兼任主事																				
	補充教員	7	8	9	11	7	10	5	10	11	16	98	71	94	120	148	147	132	162	159	160
	講師																				
	寄宿舎指導員	26	25	25	22	24	24	24	26	25	25	29	28	32	31	30	31	34	33	33	32
	実習助手	8	8	6	8	8	8	8	8	8	8	22	22	22	22	22	24	24	24	24	24
	計	164	162	163	161	167	171	164	167	169	170	1,019	1,008	1,050	1,089	1,121	1,186	1,221	1,220	1,215	1,218
事務職員		11	11	11	11	11	10	11	11	12	11	46	47	46	45	44	48	48	49	53	51
その他の職員	技能労務員																				
	学校司書																				
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	9	8	8	8	6	6	6	6	6
	ボイラー技師	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	0	0	1	1	1	2	2	2	1	1
	栄養職員			2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	6	6	7	7	9	8	9
	調理給食員																				
	技能訓練士																				
	マッサージ師																				
	運転手	1										1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	計	5	4	6	5	6	6	6	6	6	6	12	13	14	16	16	16	16	17	15	16
合計		180	178	180	177	184	187	181	184	187	187	1,077	1,068	1,110	1,150	1,181	1,250	1,285	1,286	1,283	1,285

種別		計									
年度		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
教員	校長	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14
	教頭・教諭	953	968	985	996	1,009	1,071	1,115	1,082	1,082	1,082
	養護教諭	27	27	27	27	27	28	29	28	28	27
	兼任主事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補充教員	105	79	103	131	155	157	137	172	170	176
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄宿舎指導員	55	53	57	53	54	55	58	59	58	57
	実習助手	30	30	28	30	30	32	32	32	32	32
	計	1,183	1,170	1,213	1,250	1,288	1,357	1,385	1,387	1384	1388
事務職員		57	58	57	56	55	58	59	60	65	62
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	11	11	10	10	10	8	8	8	8	8
	ボイラー技師	2	2	3	2	3	4	4	4	3	3
	栄養職員	2	3	6	8	8	9	9	11	10	11
	調理給食員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	計	17	17	20	21	22	22	22	23	21	22
合計		1,257	1,245	1,290	1,327	1,356	1,437	1,466	1,470	1470	1472

2　特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1)　特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障がい種別	種別 / 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
								本科		専攻科			
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
視覚	県立盲学校			2	4	3	6	8	14	3	11	16	35
	小　計			2	4	3	6	8	14	3	11	16	35
聴覚	県立聾学校	3	6	6	20	9	22	7	24			25	72
	県立聾学校福島分校	2	4	5	15							7	19
	県立聾学校会津分校	0	0	1	3							1	3
	県立聾学校平分校	3	7	3	7							6	14
	小　計	8	17	15	45	9	22	7	24			39	108
知的障がい	県立大笹生養護学校			27	76	11	39	19	103			57	218
	県立あぶくま養護学校			32	102	19	72	35	184			86	358
	県立あぶくま養護学校安積分校			8	18	6	15					14	33
	県立西郷養護学校			15	44	7	24	12	60			34	128
	県立石川養護学校			15	41	9	25	13	59			37	125
	県立会津養護学校			21	68	16	51	17	88			54	207
	県立猪苗代養護学校			4	11	5	18	6	19			15	48
	県立いわき養護学校			28	83	18	57	18	85			64	225
	県立富岡養護学校			3	5	4	13	5	12			12	30
	県立相馬養護学校			9	26	3	10	8	45			20	81
	福島市立福島養護学校			9	28	9	33	14	73			32	134
	小　計			171	502	107	357	147	728			425	1587
不自由	県立郡山養護学校			34	94	16	40	19	55			69	189
肢体	県立平養護学校			18	48	11	29	7	17			36	94
	小　計			52	142	27	69	26	72			105	283
病弱	県立須賀川養護学校			6	10	5	13	11	32			22	55
	県立須賀川養護学校医大分校			4	11	2	4					6	15
	県立須賀川養護学校郡山分校			3	7	3	4					6	11
	県立会津養護学校竹田分校			2	7	2	4					4	11
	小　計			15	35	12	25	11	32			38	92
合　計		8	17	255	728	158	479	199	870	3	11	623	2105

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 / 種別 内容	小学校 弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい	情緒障がい	小計	中学校 弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい	情緒障がい	小計	計
県北	学校数		3	54		1		29	87		1	34		2		23	60	147
	学級数		3	58		1		37	99		1	39		2		24	66	165
	児童生徒数		5	251		1		160	417		4	160		5		84	253	670
県中	学校数		2	57				40	99		1	39				23	63	162
	学級数		2	61				50	113		1	38				25	64	177
	児童生徒数		3	228				226	457		1	121				75	197	654
県南	学校数	2		21		2		8	33			12				5	17	50
	学級数	2		22		2		8	34			14				5	19	53
	児童生徒数	3		78		2		35	118			44				15	59	177
会津	学校数			31				13	45			19				4	23	68
	学級数			32				14	47			21				4	25	72
	児童生徒数			110				48	160			80				10	90	250
南会津	学校数			7				2	9			5				0	5	14
	学級数			7				2	9			5				0	5	14
	児童生徒数			16				4	20			6				0	6	26
相双	学校数		1	23	1	2		12	39			15				6	21	60
	学級数		1	23	1	2		12	39			15				6	21	60
	児童生徒数		2	81	1	2		41	127			48				12	60	187
いわき	学校数	1		36		0		19	56	1	1	19				8	29	85
	学級数	1		41		0		20	62	1	1	22				9	33	95
	児童生徒数	2		193		0		77	272	1	1	96				28	126	398
計	学校数	3	6	229	1	6	0	123	368	1	3	143	0	2	0	69	218	586
	学級数	3	6	244	1	6	0	143	403	1	3	154	0	2	0	73	233	636
	児童生徒数	5	10	957	1	7	0	591	1571	1	6	555	0	5	0	224	791	2362

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 / 種別 内容	小学校 弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD	ADHD	小計	中学校 弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD	ADHD	小計	計
県北	学校数			3	1		2	3	9				1		1	1	3	12
	学級数			11	3		4	3	21				1		1	1	3	24
	児童生徒数			150	70		70	39	329				14		10	12	36	365
県中	学校数		1	2	2			4	9			1				1	2	11
	学級数		1	3	2			4	10			1				1	2	12
	児童生徒数		11	38	30			52	131			8				14	22	153
県南	学校数							2	2								0	2
	学級数							2	2								0	2
	児童生徒数							19	19								0	19
会津	学校数			1			1	1	3						1	1	2	5
	学級数			2			1	1	4						1	1	2	6
	児童生徒数			16			20	10	46						14	7	21	67
南会津	学校数								0								0	0
	学級数								0								0	0
	児童生徒数								0								0	0
相双	学校数			2				2	4							1	1	5
	学級数			5				2	7							1	1	8
	児童生徒数			74				25	99							3	3	102
いわき	学校数			2		1		1	4			1					1	5
	学級数			4		1		1	6			1					1	7
	児童生徒数			52		10		12	74			2					2	76
計	学校数	0	1	10	3	1	3	13	31	0	0	2	1	0	2	4	9	40
	学級数	0	1	25	5	1	5	13	50	0	0	2	1	0	2	4	9	59
	児童生徒数	0	11	330	100	10	90	157	698	0	0	10	14	0	24	36	84	782

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年　度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
対象児童生徒数	76	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34
担当教員数	33	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年　度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
猶予者数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
免除者数	4	4	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3　教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成26年度の県立特別支援学校教職員の定数は、前年比4人増の1,388人となった。このうち、教諭等は、前年比6人増の1,258人である。

ア　新採用について

平成27年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成26年度に比べ、前年比41人減の251人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は52人であり、50人が教諭として採用された。

イ　交流について

平成26年度人事異動は、例年通り４月１日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に３年以上勤務する者等を含め144人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は19人で、高等学校との交流（転入）は11人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 平成26年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア　一般基準

(ｱ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるように努める。

(ｲ) 同一校には原則として最低３年は勤務するものとする。

(ｳ) ２親等以内の者（姻族を含む）は原則として同一校勤務をさける。

イ　平成20年度以前の採用者についての基準（以下「旧基準」）という。

(ｱ) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に３年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 同一校に８年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(ｲ) 地区、障がいによる基準

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、いわき、相双の５地区に分け、地区及び障がい別に、所在する学校を別表１に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和52年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15年以内に２地区および２障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の２障がいの経験については、原則として、別表１注によるものとする。

ウ　平成21年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）

(ｱ) 勤続年数により基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動２校目において３年以上勤務したもの（以下「若年者」という。）

○ 永年者

(ｲ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表２のとおり中通り、会津、浜通りの３地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に３地域の学校に勤務するものとする。

エ　平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の旧基準採用者については、平成30年度まではｲ(ｲ)別表１を準用し、(ｲ)○印を満たす者は、ｳ(ｲ)の規定を満たす者とみなす。

オ　交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として３年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として３年から８年とする。

別表１　県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類 / 障がい / 地区	Ⅰ　群	Ⅱ　群			
	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
県北	大笹生養護	盲	聾（福島）		須賀川養護(医大)
県南	あぶくま養護 あぶくま養護(安積) --- 西郷養護 石川養護		聾	郡山養護	須賀川養護 須賀川養護（郡山）
会津	会津養護 猪苗代養護		聾（会津）		会津養護（竹田）
いわき	いわき養護		聾（平）	平養護	
相双	富岡養護 相馬養護				

注：平成20年度までの採用教員について

(1) Ⅱ群内の学校のみの経験者は、Ⅰ群の学校に勤務することを必須とする。

(2) Ⅰ群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、２障がいの経験を有していない者は、Ⅱ群内の学校での勤務をするものとする。

(3) ただし、平成７年度までに２地区及び２障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで２地区及び２障がいの勤務経験を有していない者、及び平成８年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表２　　県立特別支援学校地域別学校

地域	地区	学校	
中通り	県北	盲 聾（福島）	大笹生養護 須賀川養護（医大）
	県中	聾 須賀川養護 あぶくま養護	郡山養護 須賀川養護（郡山） あぶくま養護（安積）
	県南	石川養護	西郷養護
会津	会津	会津養護 聾（会津）	会津養護（竹田） 猪苗代養護
浜通り	いわき	平養護 聾（平）	いわき養護
	相双	富岡養護	相馬養護

第２節　学校教育

１　概要

(1)　指導行政の基本方針

学校教育審議会答申（平成21年９月）の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第６次総合教育計画（改訂版）で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第６次総合教育計画（改訂版）では、次の基本的な方針のもとに、大きく５つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○　基本的方向性

・　障がいのある子どもたちが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。

・　障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○　具体的な取組

・　地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進、小・中学校における特別支援教育の充実

・　高等学校における特別支援教育の充実

・　特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実

・　教員の特別支援教育に関する指導力の向上

(2)　指導組織

課長、主幹兼副課長、主任管理主事１名、管理主事２名、主任指導主事１名、指導主事４名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事７名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員８名をもって指導に当たった。

(3)　学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア　教育内容・方法の改善充実

(ｱ) 児童生徒一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。

(ｲ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実

態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

イ　生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を７月と１月の２回開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

ウ　進路指導の充実

「社会自立を目指すスキルアップ事業」を実施し、生徒の社会参加・自立を図るため、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。作業技能検定や作業製品品評等で得られた外部専門家からの評価を生かし、各校の進路に関する取組のさらなる充実を図ると共に、生徒の就労に向けた企業等への理解啓発を行った。また、「キャリア教育推進事業」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した早期からの支援体制の構築を図った。

エ　発達障がいのある児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の理解や指導の在り方について、各地域において幼稚園、小・中学校、高等学校等の特別支援教育コーディネーターや教員を対象とした研修を開催し、指導力や専門性の向上に努めた。

オ　交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

カ　情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4)　教職員の資質と指導力の向上

ア　「インクルーシブ教育システム構築事業」事業担当者研修会の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行い、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ　学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ　特別支援学校初任者研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ　特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員６名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5)　就学相談の推進

学校教育法施行令一部改正による就学の仕組み等の周知を図るため、「就学指導の手引き」を作成し、市町村教育委員会、学校、関係機関に配布するとともに、市町村教育委員会を対象に就学指導協議会を県内７か所で開催した。

また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援に努めた。

(6)　特別支援教育の推進

ア　特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成26年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校（12校）に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

聾学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、会津養護学校竹田分校、平養護学校、いわき養護学校、相馬養護学校

【平成26年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏　名	委嘱時の職名
◎三島　博	大原綜合病院・顧問
○森田　浩之	県総合療育センター・副所長
古橋　知子	福島医科大学看護学部・講師
遠藤　知子	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課主幹
片寄　一	県養護教育センター・所長
鈴木　仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
門馬　栄	聾学校・教頭
猪俣　康彦	大笹生養護学校・教頭
齊藤　恵子	郡山養護学校・教頭
杉山　裕恵	あぶくま養護学校・教頭
小野　美花	須賀川養護学校・教頭
江見　浩二	西郷養護学校・教頭
菅野美恵子	石川養護学校・教頭
佐藤　登	会津養護学校・教頭
渡邉　周二	会津養護学校竹田分校・分校長
梅津　幸男	平養護学校・教頭
千葉　秀樹	いわき養護学校・教頭
橋本　淳一	相馬養護学校・教頭
鈴木志保子	平養護学校・看護師
小林　玲子	郡山養護学校・看護師

（◎委員長　○副委員長）

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○　平成26年6月19日

【会議における検討事項】

○　「社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正」や「福島県特別支援学校医療的ケア実施要綱の一部改正」を踏まえた県立特別支援学校における医療的ケアの今後の在り方について

【看護師研修会の開催】

○　年１回の医療的ケア実施校看護師研修会を県養護教育センターにおいて実施した。

イ　「インクルーシブ教育システム構築事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内７地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年２回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や、地域自立支援協議会子ども部会の充実のための具体的方策について協議するとともに、保健福祉部局と連携した相談体制の整備や相談支援ファイルの作成・活用の促進に取り組んだ。また、各教育事務所で特別支援教育啓発セミナーを開催し、地域住民への特別支援教育の理解・啓発に努めた。

ウ　地域支援体制の充実

地域教育相談推進事業として、県内６箇所で相談支援チームを編制し、巡回相談員による教育相談を実施した。相談件数は916件であった。

また、特別支援学校では、地域の特別支援教育のセンターとして特別支援教育に関する研修会や教育相談を行い、市町村教育委員会等と連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進した。

エ　「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「ＬＤ等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、新たに県立高等学校11校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ　障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立小・中学校長を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、「特別支援教育就学指導協議会」において、平成26年４月に発行した「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き」を活用し新しい就学の考え方、就学先決定の流れを周知した。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2　現職教育

(1)　教職員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名　称	期　日	期間	会　場	人数	対　象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月21日	１日	県養護教育センター	40	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	4月23日～24日	２日	県養護教育センター	74	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	７月17日 12月18日	２日	県養護教育センター	102	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	８月18日～20日	３日	県養護教育センター	41	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	６月24日～26日	３日	県養護教育センター	30	特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

名称		期　日	期間	会　場
宿泊研修	一次研修	8月4日～6日	３日	郡山自然の家
	二次研修	2月18日～20日	３日	郡山自然の家
	一般研修	4月16日～17日	2日	県養護教育センター

養護教育センター研修	カウンセリング研修	6月18日～19日	2日	県養護教育センター
	情報教育研修	4月30日 5月7日 5月14日	各1日	県養護教育センター
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校ごとに実施	1日	各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校ごとに実施	5日	各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校ごとに実施	4日	各地区内の該当学校等
	社会奉仕体験活動研修	各校ごとに実施	2日	各地区内の該当施設
教育課程別研修		9月17日	1日	県養護教育センター
			年間180時間以上	各所属校

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修　2か月）

氏名	職名	学校名	コース等	期間
渡邊　朋子	教諭	平養護学校	肢体不自由教育専修	1月8日～3月13日
福間　真季	教諭	西郷村立小田倉小学校	自閉症・情緒障害教育専修	9月2日～11月7日
鈴木　貴之	教諭	会津養護学校	知的障害教育専修	1月8日～3月13日
笹山　清美	教諭	須賀川養護学校	知的障害教育専修	1月8日～3月13日
佐久間理江	教諭	盲学校	視覚障害教育専修	5月8日～7月9日
松浦真由美	教諭	聾学校	聴覚障害教育専修	5月8日～7月9日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上及び実践力の向上を図った。

地区	会　場	期　日	受講者数
県内	県養護教育センター	5月16日 1月21日	42

3　教育課程

特別支援学校教育課程運営改善講座

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期　日	会　場	人数	参加対象
県内	8月21日	県養護教育センター	40	特別支援学校の教務主任等

4　訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング（登校学習）を実施した。

さらに、郡山養護学校、会津養護学校、石川養護学校では高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

学級数 児童生徒数 校　名	学級数								児童生徒数								スクーリング児童生徒数			
	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	中学部	高等部	計
大笹生養護学校	2		1				3		5		1				6		2	0	0	2
郡山養護学校	2		1		1		4		5		2		3		10		2	0	0	2
須賀川養護学校郡山分校		1		1				2		1						1				
須賀川養護学校医大分校		1						1		1						1				
石川養護学校	1				1		2		1				1		2		0		1	1
会津養護学校	1				1		2		3				3		6		3		3	6
平養護学校	1	1		1		1	1	3	2	3		1		3	2	7	1			1
合　計	7	3	2	2	3	1	12	6	16	5	3	1	7	3	26	9	8	0	4	12

※スクーリング児童生徒数は再掲。

5　生徒指導・進路指導

(1)　生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導援助に努めた。

(2)　進路指導

ア　社会自立を目指すスキルアップ事業

(ｱ) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の社会参加・自立を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(ｲ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 14校

(ｳ) 実施状況

a　特別支援学校作業技能大会の開催

・　期日　7月29日（火）

・　場所　ビッグパレットふくしま

b　実施部門

・　作業技能検定部門

ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力

・　作業製品品評部門

作業製品の品評と作業学習の紹介等

・　デモンストレーション部門

盲学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露

c　外部評価の活用

・　各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言

・　作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ　キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）

(ｱ) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(ｲ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 14校

(ｳ) 実施状況

a　進路支援チーム会議の実施

・　特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議

・　障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

b　移行支援機能の充実

・　関係機関と連携した，早期からの移行支援会議の実施

・　在学中から卒業後までの長いスパンでの支援

c　企業の求める人材育成

・　作業学習の内容や手法の見直し

・　ジョブコーチや企業等からの指導助言

・　「障がい者就職面接会」への参加

・　「特別支援学校早期訓練コース」の活用

d　外部評価の活用

・　「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用

・　「障がい者技能競技大会」への参加

6　特別活動

(1)　卒業式

ア　県立特別支援学校卒業者数

障がい＼学部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合計
視覚障がい		2	3	4	9
聴覚障がい	8	7	6	１１	３２
知的障がい		８０	１０４	２２９	４１３
肢体不自由		２１	２１	２２	６４
病　　弱		8	１０	１０	２８
計	8	１１８	１４４	２７６	５４６

イ　県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

開催＼学部	3月2日	3月5日	3月6日	3月12日	3月13日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日
幼稚部						1	1	1	
小学部				1	2	3	5	5	2
中学部				1	3	3	4	5	1
高等部	1	1	2	1		1	3	4	1

(2)　修学旅行

行き先＼日数＼学部	行き先							日数					人数
	県内	東北	関東	北陸	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日	四泊五日	
小学部	3	6	3					11	1				９３
中学部	1		17					3	1	14			１３８
高等部		2	4		11		1	2	2	8	6		２４８

7　学校訪問

(1)　県立特別支援学校

ア　経験者研修

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	9月18日	石川養護学校
2	9月22日 10月1日	郡山養護学校
3	10月3日	須賀川養護学校
4	10月21日	富岡養護学校
5	10月30日	あぶくま養護学校
6	10月31日	大笹生養護学校
7	11月20日	いわき養護学校
8	12月5日	聾学校平分校

8　県立学校教育指導委員

氏　名	職名	所属校
七宮弘暁	教諭	盲学校
岡田進	教諭	聾学校
加藤良一	教諭	富岡養護学校
加藤賢一	教諭	あぶくま養護学校安積分校
渡邉弘規	教諭	郡山養護学校
齋藤顕	教諭	須賀川養護学校
加藤一之	教諭	会津養護学校竹田分校
丹野幅好	教諭	石川養護学校

9　就学指導

(1)　福島県特別支援教育推進会議

ア　福島県特別支援教育推進会議委員

委　員	職　名
学識見識者	大学教授
関係機関	ＮＰＯ団体代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県商工労働部商工労働総室雇用労政課長
関係機関	県保健福祉部自立支援総室子育て支援課長
関係機関	県保健福祉部自立支援総室児童家庭課長
教育関係	小・中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県養護教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2)　特別支援教育就学指導協議会

ア　期日及び会場

地　区	期　日	会　場	参加者数
県　北	6月 9日	白沢公民館	５８
県　中	6月10日	県養護教育センター	４８
県　南	5月29日	白河合同庁舎	２９
会　津	6月20日	新鶴公民館	４４
南会津	6月 6日	御蔵入交流館	１２
相　双	6月20日	県養護教育センター	２１

	6月23日	相馬市教育実践センター	１８
いわき	5月20日	いわき合同庁舎	４１

イ　参加者

・各市町村教育委員会就学指導関係者

ウ　講義と協議

(ｱ) 講義「本県の特別支援教育の取組みについて」

(ｲ) 事務説明及び協議

「就学事務の手続きについて」

「支援体制整備と就学指導」

10　教科用図書

(1)　教科用図書事務説明会

ア　開催日時・場所

平成26年6月11日・福島市子どもの夢を育む施設
こむこむ館

イ　参加者

各教育事務所　各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2)　学校教育法附則第９条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月16日～6月17日　相馬養護学校

6月18日～6月19日　福島市立福島養護学校

6月20日～6月23日　大笹生養護学校

6月24日～6月25日　福島大学附属特別支援学校

6月26日～6月30日　会津養護学校

7月 1日～7月 2日　南会津町御蔵入交流館

7月 3日～7月 7日　西郷養護学校

7月 8日～7月10日　あぶくま養護学校

7月11日～7月15日　平養護学校

7月16日～7月25日　県養護教育センター(一般公開)

11　教育研究団体

(1)　平成26年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	渡 邉 恵 一	あぶくま養護学校
副会長	阿 部 教 夫	盲学校
副会長	山 﨑 壽 克	福島市立福島養護学校

(2)　平成26年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	岡 崎 典 泰	須賀川養護学校医大分校
副会長	櫛 田 省 吾	平養護学校
副会長	渡 邉 周 二	会津養護学校竹田分校

(3)　福島県特別支援教育研究会

ア　組織

役職名	氏　名	所　属　校
会　長	山 﨑 壽 克	福島市立福島養護学校
副会長	渡 邉 恵 一	あぶくま養護学校
副会長	渡 邉　勲	郡山市立小原田小学校

イ　事業の概要

事業名	期　日	会　場	概　要
役員会	2月19日	県養護教育センター	H26事業報告、H27事業計画について

(4)　福島県特別支援教育振興会

ア　役　員

役職名	氏　名	所　属
顧　問	鈴 木 典 夫	福島大学行政政策学類准教授
会　長	栁 沼 宥 壹	元あぶくま養護学校長
副会長	桜 井 和 朋	元県ＰＴＡ連合会長
副会長	穴 澤 由 美	元大笹生養護学校長
理　事	丹 野 功 一	県北支部長
理　事	松 井 壽 則	県中支部長
理　事	緑 川 孝 夫	県南支部長
理　事	木 村　秀	会津支部長
理　事	只 野 裕 一	相双支部長
理　事	大 谷　明	いわき支部長
監　事	片 寄　一	県養護教育センター所長
監　事	蓬 田 健 郎	元猪苗代養護学校長

イ　事務局

(ｱ) 本部

事務局長	聾学校	校長	井戸川　恵理子
幹事	〃	教頭	古 川　志津子
〃	〃	教諭	阿 部　敬 子

(ｲ) 支部

支　部	事務局校	支　部	事務局校
県 北	盲学校	会 津	会津養護学校
県 中	郡山養護学校	相 双	相馬養護学校
県 南	西郷養護学校	いわき	平養護学校

第8章　社　会　教　育

第１節　社会教育一般

１　概要

(1) 地域の教育力向上

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、次の事業を実施した。

・青少年の体験活動の支援や家庭教育支援、社会教育施設等での学習支援を行うボランティアの登録及びコーディネートを推進する「体験活動・ボランティア推進センター事業」

・美術館及び博物館において、文化による心の復興を支援するため、県外の施設等と連携を図りながら観光交流等も視野に入れた企画展を開催する「文化による心の復興プロジェクト」

(2) 地域コミュニティの再生

東日本大震災からの自律的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びの場づくり、コミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や、公民館等の社会教育施設も活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材により、地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援し、地域コミュニティの再生を図るために次の事業を実施した。

・地域住民の参画を得て、放課後等における子どもたちの健全育成と安全安心な活動拠点づくりを推進する「放課後子ども教室推進事業」

・地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」

・公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流を促進する「地域支援推進事業」

また、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指すための「学校・家庭・地域連携サポート事業」を実施した。

さらに、今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等の社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り地域防災力を向上させるために「地域における防災力向上支援事業」を実施し、市町村の社会教育関係者を支援した。

(3) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努めた。

(4) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう次の事業を実施した。

・子どもの体験活動を奨励するとともに、子どもと大人が共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する「十七字のふれあい事業」

(5) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 子どもの読書活動推進

平成２２年３月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を踏まえ、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

また、これまでの成果と課題を踏まえ、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

(7) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

2　社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第１回　日　時　平成２６年４月１１日（金）

場　所　ふくしま中町会館

第２回　日　時　平成２７年２月６日（金）

場　所　ふくしま中町会館

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア　市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ　国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

3　社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア　県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、平成26年度に更新した「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ　福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア　公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ　市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を年に９回巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された東日本大震災で被災した、公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

4　社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア　期日　平成２６年５月２２日(木)～２３日(金)

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象　市町村公民館職員でおおむね３年未満の者及び社会教育関係者

エ　参加者数　５８名

オ　講師

教育庁社会教育課主任社会教育主事	須田　元大
金山町公民館長	渡部　　伸
いわき市教育委員会生涯学習課主事	田子　真弓
いわき市中央公民館嘱託職員	稲田　雅子
東北学院大学教養学部教授	水谷　　修
福島県生活環境部青少年・男女共生課主任主査	伊藤　恵美
郡山市立橘地域公民館主事	島田　照美
郡山市立橘地域公民館主事	大竹千賀子

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア　期日　平成２６年９月４日(木)～５日（金）

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象

社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当２年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ　参加人数　４１名

オ　講師

須賀川市大東公民館長	髙野　弘幸
東北大学大学院教育学研究科准教授	石井山竜平
二本松市二本松公民館社会教育指導員	大内　友子
いわき市教育委員会事務局生涯学習課主査	堀　　恵一

5　社会教育研究集会

(1) 主催

福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(2) 主管

耶麻地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援

福島県教育委員会　喜多方市教育委員会

北塩原村教育委員会　西会津町教育委員会

(4) 日程・内容

ア　期日　平成２６年８月２８日(木)～２９日(金)

イ　会場　喜多方プラザ文化センター

ウ　参加対象　市町村社会教育委員　市町村社会教育行政担当者　社会教育関係施設職員　社会教育

関係団体会員

エ　参加者数　７００名

オ　基調講演

講師　東北芸術工科大学芸術学部　教授　松田　道雄

演題　「地域から元気を発信する社会教育委員の役割」

カ　事例発表

発表者　常陸太田市観光振興課　野嵜　真衣

内　容　「常陸太田市地域おこし協力隊「Relier（ルリエ）の活動について」

６　社会教育指導員の設置

(1) 設置数

ア　県北　　４６名

イ　県中　　１８名

ウ　県南　　１０名

エ　会津　　６６名

オ　南会津　　９名

カ　相双　　１３名

キ　いわき　　６名

合　計　１６８名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年２回）

ア　第１回

(ｱ) 期日　平成２６年５月１２日（月）

(ｲ) 場所　郡山市公会堂

(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員

(ｴ) 参加者数　１１５名

(ｵ) 講師　社会教育課長

イ　第２回

(ｱ) 期日　平成２６年１０月１５日(水)

(ｲ) 場所　大玉村農村環境改善センター（大玉村）

(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者

(ｴ) 参加人数　１０７名

(ｵ) 講師　大玉村森の民話茶屋店主　後藤みづほ

演題「ふるさとの昔話を訪ねて」

７　社会教育主事の市町村派遣

※　平成22年度より派遣していない。

８　社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員

社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村	参加者
県北	10月 3日	本宮市	47名
	11月26日	大玉村	27名
県中	10月 1日	田村市	24名
県南	4月25日	鮫川村	15名
	9月 3日	棚倉町	15名
	9月 9日	塙　町	14名
会津	10月22日	西会津町	10名
	11月19日	会津美里町	4名
	12月 5日	会津坂下町	31名
南会津	7月30日	下郷町	17名
相双	6月 5日	浪江町	5名
	7月 9日	南相馬市	15名
	10月30日	川内村	6名
いわき	6月 9日	いわき市	22名

合計　14箇所　　参加者 252名

９　福島県公民館研究集会

(1) 期　　日　平成２６年１０月２２日(水)

(2) 会　　場　ユーパル矢祭

(3) 参加対象　公民館職員、公民館運営審議会委員等

(4) 参加者数　８１名

(5) 講　　師　独立行政法人国立病院機構仙台医療センター小児科医　田澤　雄作

演題「世界一寂しい・自分に自信のない日本の少年～思春期は？」

10　福島県公民館主事部会研修会

(1) 期　　日　平成２６年７月２日(水)

(2) 会　　場　塙町公民館

(3) 参加対象　公民館職員等

(4) 参加者数　６０名

(5) 講　　師　福島県セラピスト協会長　菊地　スミエ

演題「アロマヒーリングで、私も地域も元気に癒す」

11　社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア　主催　東北大学教育学部

イ　期日・会場

平成２６年６月１８日(水)～６月１９日(木)

福島県男女共生センター

平成２６年６月３０日(月)～８月　８日(金)

国立磐梯青少年交流の家

東北大学教育学部

ウ　受講者数　１６名

エ　修了者名

域　内	氏名	勤務先
県北(1)	野口　幸哉	川俣町立山木屋中学校
県　中	菅野　浩典	郡山市教育委員会
(3)	関根　　敦	鏡石町立第一小学校
	伊藤　博義	小野町立飯豊小学校
会　津	鈴木　崇之	会津若松市立小金井小学校
(2)	菅家由紀子	喜多方市立第一小学校
南会津	増田　康弘	只見町立明和小学校
(2)	猪股　克亘	只見町立只見中学校
相　双	吉野　房恵	相馬市立磯部小学校
(2)	志賀　　仁	富岡町立富岡第二中学校
いわき	田仲　一元	いわき市立内郷公民館
(3)	大塚　研一	いわき市立菊田小学校
	小湊　仁一	いわき市立小名浜第二中学校
県立学校	菅野　嘉幸	福島県立本宮高等学校
(2)	大和田俊一	福島県立喜多方桐桜高等学校
自然の家(1)	江間　晃一	いわき海浜自然の家

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア　社会教育主事講習

(ｱ) 会場　国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(ｲ) 期日

a　A講習　平成26年7月23日(水)～8月27日(水)

b　B講習　平成27年1月21日(水)～2月27日(金)

(ｳ) 受講者数

a　A講習　　0名

b　B講習　　1名

(ｴ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
B講習(1)	安部　大助	国立那須甲子青少年自然の家

イ　専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月11日（火）～14日（金）	0

12　出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育　No.335	社会教育	A４	8	ホームページ掲載

第２節　地域の教育力向上

1　概要

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう努めた。

2　体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア　本部センターの設置

(ｱ) 構成

・センター長（社会教育課長）

・副センター長（社会教育課主幹）

・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(ｲ) 内容

・各種研修会に関すること

・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること

・人材登録に関すること

・地域センターの統括、指導助言に関すること

イ　地域センターの設置

(ｱ) 構成

・センター長（教育事務所総務社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(ｲ) 内容

・公民館及び学校の訪問指導に関すること

・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること

・人材登録に関すること

・市町村センターとの連携に関すること

ウ　学校における推進体制の整備

(ｱ) 体験活動等推進委員会の開催

(ｲ) 体験活動等推進委員会主任（教頭又は社会教育主事有資格者等）の配置

エ　学習支援ボランティアの登録推進

(ｱ) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(ｲ) 対象　ボランティアを推進する県民一般

(ｳ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

・学習支援ボランティア登録人数　４３２名

・読書活動ボランティア登録人数　２６０名

・ノートテイクボランティア登録人数　１名

・外国出身者支援ボランティア登録人数　２４名

・家庭教育支援ボランティア登録人数　２０９名

・病院訪問学習支援ボランティア登録人数　１４名

計　９４０名

第３節　地域コミュニティの再生

１　概要

東日本大震災からの自律的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びの場づくり、コミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や、公民館等の社会教育施設も活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材により、地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。

２　放課後子ども教室推進事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

ア　推進委員会の設置

(ｱ) 推進委員会委員　　10名

NO.	委員名	役職名	備考
1	原野　明子	学識経験者	
2	阿部　律子	放課後児童クラブ関係者	
3	鈴木きよ子	放課後子ども教室関係者	
4	引地　知子	市町村行政関係者	
5	久能　孝幸	市町村行政関係者	
6	中村　利幸	学校関係者	
7	佐藤　房枝	社会教育関係者	
8	小川　　武	県行政関係者（保健福祉部）	
9	上妻　　弘	県行政関係者（教育庁）	
10	佐川　正人	県行政関係者（教育庁）	

(ｲ) 推進委員会の実施　年２回

a　第１回　平成２６年７月１６日(水)

b　第２回　平成２７年２月９日(月)

イ　研修会の実施

○放課後子どもプラン地区別研修会　６箇所

県北地区

期　　日：平成２６年７月１１日（金）

会　　場：二本松市安達公民館

参加者数：３５名

内　　容：講演・講話

県中地区

期　　日：平成２６年７月３０日（水）

会　　場：天栄村体育館

参加者数：４６名

内　　容：講演・事例発表・演習・情報交換

県南地区

期　　日：平成２６年７月３０日（水）

会　　場：棚倉町立図書館

参加者数：４４名

内　　容：講義・実技演習・情報交換

会津地区

期　　日：平成２６年９月２８日（日）

会　　場：会津若松市コミュニティ施設ピカリンホール、北会津農村環境改善センター体育館

参加者数：３３名

内　　容：講演・演習・分科会

南会津地区

期　　日：平成２６年６月１６日（月）

会　　場：南会津体育館

参加者数：４５名

内　　容：講演・実技演習

相双地区

期　　日：平成２６年１０月２日（木）

会　　場：相馬市総合福祉センター

参加者数：５８名

内　　容：講話・実技

ウ　放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（３教室）

- 福島県立聾学校福島分校
- 福島県立聾学校平分校
- 福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

ア　運営委員会の実施

イ　子ども教室の実施

３８市町村　１１５教室実施

３　学校支援地域本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 市町村委託

１８の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、鮫川村、北塩原村、西会津町、三島町、新地町、相馬市、飯舘村）に２４の学校支援地域本部が設置され実施した。

４　地域支援推進事業

(1) 目的

公民館等の社会教育施設を活用し、学習活動の活性化を図ることで、地域住民の学習・交流を促進する。

(2) 市町村委託

２２の市町村（伊達市、国見町、本宮市、須賀川市、鏡石町、天栄村、平田村、西郷村、中島村、棚倉町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、三島町、金山町、昭和村、南相馬市、双葉町、楢葉町）で６２２の講座を実施した。

5　学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

(2) 県事業

ア　第１回コーディネーター養成研修会

(ｱ) 期日　平成２６年６月１２日（木）

(ｲ) 場所　田村市船引公民館

(ｳ) 内容

○講演

「今、改めて学校・家庭・地域の連携の必要性とその課題について考える－学校支援地域本部を中心として－」

青森中央学院大学経営法学部教授　高橋　　興

○事例発表Ⅰ

「ときわっこサポーターの学校支援活動～できることを　できるときに　できるところから～」

田村市常葉地域コーディネーター　秋元　正信

○事例発表Ⅱ

「双葉町の子どもたちの自己表現を目指した学校・家庭・地域連携」

双葉町放課後学習支援事業コーディネーター

吉川　　凜

○グループ協議

『「できそうだ、やってみよう」からはじめよう』

(ｴ) 参加者　８５名

イ　第２回コーディネーター養成研修会

(ｱ) 期日　平成２６年９月２６日（金）

(ｲ) 場所　猪苗代町体験交流館「学びいな」

(ｳ) 内容

○講演

「今こそ、学校、家庭、地域の絆を深めよう！」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

長田　　徹

○グループ協議

「学校支援の輪を広げよう」

(ｴ) 参加者　７０名

ウ　第３回コーディネーター養成研修会

(ｱ) 期日　平成２７年１月１３日（火）

(ｲ) 場所　郡山市労働福祉会館

(ｳ) 内容

○講演

「学校と地域の連携を進めるには―学校支援地域本部の展開を中心に―」

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

社会教育調査官　井上　昌幸

○情報交換

「日頃疑問に思っていることや、それぞれの地域が抱える課題について」

(ｴ) 参加者　90名

エ　学校支援実践研修会　６箇所

(ｱ) 概要　県北地区、県中地区、県南地区、会津地区、南会津地区、相双地区で合計１４回実施。

(ｲ) 内容　講演、事例発表、グループ協議

6　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

ア　震災及び原発事故関連資料収集

資料収集件数　７，９５４件

イ　避難自治体支援

移動図書館（あづま号）による資料貸出

稼働１８回（延べ２０ヶ所）　貸出３，６９７冊

（開催場所　飯舘村、楢葉町他　計２０ヶ所）

7　文化による心の復興支援プロジェクト

(1) 目的

東日本大震災で被災した県民の心を癒やし、深刻な風評被害を払拭するため、県立美術館および県立博物館において、県外施設と連携を図りながら、観光集客も視野に入れた企画展を開催する。

(2) 「ちひろ美術館コレクション　世界をめぐる絵本の旅」

ア　期　　日：平成26年4月26日～6月15日

イ　会　　場：福島県立美術館

ウ　関連事業：講演会、ギャラリートーク等の開催

エ　入館者数：16,332人

(3) 「東日本大震災復興祈念 みちのくの観音さま ひとに寄り添うみほとけ」

ア　期　日：平成26年11月1日～12月14日

イ　会　場：福島県立博物館

ウ　関連事業：講座、展示解説会等の開催

エ　来場者数：7,951人

(4) 震災復興支援特別展「飛鳥の円空　千光寺とその周辺の足跡」

ア　期　　日：平成27年1月27日～4月5日

イ　会　　場：福島県立美術館

ウ　関連事業：講演会、ワークショップ等の開催

エ　来場者数：28,956人（平成26年度分）

8　地域における防災力向上支援事業

(1) 目的

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り、地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者を支援する。

(2) 支援者養成プログラム

ア　期　日：平成２６年６月３日（火）
イ　会　場：福島中町ビル
ウ　参加者：２６名
エ　内　容：
①講義　「防災に関する基礎知識と情報伝達」
講師　東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授　関谷　直也
②講義演習「地域防災・震災復興と地域コミュニティー」
講師　神戸学院大学現代社会学部社会防災学科教授　伊藤亜都子

(3) 地域防災力向上支援プログラム

第１回研修会

【県北地区研修】
ア　期　日：平成２６年９月９日（火）
イ　場　所：福島県青少年会館
ウ　参加者：４４名
エ　内　容
①講義　「地域における自主防災力の重要性」
講師　神戸学院大学現代社会学部社会防災学科教授　伊藤亜都子
②演習　「災害用トイレの作り方や使い方」
講師　ＮＰＯ法人日本トイレ研究所代表理事　加藤　篤

【県中地区研修】
ア　期　日：平成２６年７月４日（金）
イ　場　所：郡山市労働福祉会館
ウ　参加者：２５名
エ　内　容
①講義演習「避難所運営の一員として活動するためには」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室地域コーディネーター　北村　育美

【県南地区研修】
ア　期　日：平成２６年９月２５日（木）
イ　場　所：白河市図書館
ウ　参加者：３７名
エ　内　容
①講演「生きている　生きていく-東日本大震災の経験から-」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授　天野　和彦
②講義演習「減災に向けてのシミュレーション～ HUG（避難所運営）・ワークショップ等～」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室地域コーディネーター　北村　育美

【会津地区研修】
ア　期　日：平成２６年１０月３日（金）
イ　場　所：北会津町ピカリンホール
ウ　参加者：２３名
エ　内　容
①講義　「防災に関する基礎知識と情報伝達」
講師　東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授　関谷　直也
②演題　「中越地震での対応と防災体制の整備・充実」
講師　（社）中越防災安全推進機構復興デザインセンター長　稲垣　文彦

【南会津地区研修】
ア　期　日：平成２６年９月９日（火）
イ　場　所：南会津町御蔵入交流館
ウ　参加者：４６名
エ　内　容
①講演　「地域ぐるみの防災教育～近年の災害～の教訓から～」
講師　新潟災害ボランティアネットワーク理事事務局長　李　　仁鉄
②演習　「障がい者、高齢者、病人等の方々を安全に避難所まで誘導するには」
講師　新潟災害ボランティアネットワーク理事事務局長　李　　仁鉄

【相双地区研修】
ア　期　日：平成２６年１０月８日（水）
イ　場　所：磯部コミュニティーセンター
ウ　参加者：２８名
エ　内　容
①講義　「既往の地震、地盤条件から見た相双地区の自然災害の可能性と対応」
講師　日本大学工学部土木工学科教授　中村　　晋
②事例発表「避難所運営の実際」
講師　福島県教育庁社会教育課社会教育主事　山田　　徹

【いわき地区研修】
ア　期　日：平成２６年９月２２日（月）
イ　場　所：いわき市文化センター
ウ　参加者：２７名
エ　内　容
①講義演習「地域課題の把握と防災関係マニュアル作成の視点」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授　天野　和彦
②演習「災害時支援体制構築の手順と防災事業の企画・立案」
講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室地域コーディネーター　北村　育美

第２回研修会

【県北地区研修】

ア　期　日：平成２６年１０月２１日（火）

イ　場　所：福島県青少年会館

ウ　参加者：４０名

エ　内　容

①講義「災害対策と個人情報の取り扱い」

講師　岡本正総合法律事務所

所長　岡本　　正

②事例発表「住民参加型の防災訓練の在り方」

講師　かながわよこはま防災ギャザリング実行委員会

実行委員長　森　　清一

【県中地区研修】

ア　期　日：平成２６年９月１９日（金）

イ　場　所：郡山労働福祉会館

ウ　参加者：７２名

エ　内　容

①講義「震災からの復興に向けて」

講師　気仙沼市松岩公民館経営委員会

副委員長　齋藤　文良

②講義演習「防災町づくりの視点～防災まちづくりの会・東久留米の実践から～」

講師　防災まちづくりの会名誉代表　金澤　　淳

【県南地区研修】

ア　期　日：平成２６年１１月２７日（木）

イ　場　所：中島村生涯学習センター「輝ら里」アリーナ

ウ　参加者：３７名

エ　内　容

①講義演習「東日本大震災３．１１のトイレ～現場の声から学ぶ～」

講師　ＮＰＯ法人日本トイレ研究所

代表理事　加藤　　篤

【会津地区研修】

ア　期　日：平成２６年１０月２９日（水）

イ　場　所：北会津町ピカリンホール

ウ　参加者：２０名

エ　内　容

①講義演習「避難所運営ゲーム HUG」

講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室

地域コーディネーター　北村　育美

【南会津地区研修】

ア　期　日：平成２６年９月１７日（水）

イ　場　所：南会津町御蔵入交流館

ウ　参加者：４３名

エ　内　容

①講義演習「災害時の避難所シミュレーション」

講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室

地域コーディネーター　北村　育美

【相双地区研修】

ア　期　日：平成２６年１１月１２日（水）

イ　場　所：磯部コミュニティーセンター

ウ　参加者：２７名

エ　内　容

①講話「生きている　生きていく～いま地域で生きるために大切なこと～」

講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

特任准教授　天野　和彦

②講義演習「災害時の課題を明らかにする避難所運営シミュレーション」

講師　福島大学うつくしまふくしま未来推進室

地域コーディネーター　北村　育美

【いわき地区研修】

ア　期　日：平成２６年１０月１８日（土）

イ　場　所：いわき市文化センター

ウ　参加者：４５名

エ　内　容

①実践発表「防災サマーキャンプについて」

講師　いわき市教育委員会生涯学習課

主事　田子　真弓

②講話「生きている　生きていく～いま地域で生きるために大切なこと～」

講師　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

特任准教授　天野　和彦

③パネルディスカッション

コーディネーター

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

特任准教授　天野　和彦

パネリスト

中央台南小学校教諭	佐藤　　登
小名浜支所参事兼次長	細川　直行
高久小学校ＰＴＡ副会長	菅波　貞久
市青少年育成市民会議協議会	村上　孝行

第４節　家庭教育

１　概要

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育についての学習機会の提供や家庭教育サポートブックの活用など子育てを支援する体制を整備するなどの取組の推進に努めた。

２　地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、ＰＴＡと連携し、家庭教育について親

自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

ア　福島県地域家庭教育推進協議会

第１回　平成２６年５月２６日（月）
杉妻会館

第２回　平成２７年２月３日（火）
杉妻会館

イ　地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（７箇所）

各地区２回実施　（６月、１月）

ウ　家庭教育応援企業推進活動

連携企業数

県中地区　　２社

南会津地区　１６社

相双地区　　１社

エ　親子の学び応援講座

県北地区

油井小学校　２２０名

「子どもの生活習慣の改善と規範意識」

渡利小学校　１５０名

「生活習慣と学力向上」

月舘中学校　２００名

「頭がよい子の生活習慣・学習習慣づくり」

県中地区

須釜小学校　１３１名

「長時間のテレビ・ゲーム・携帯は脳を傷つける～学力、スポーツ力、コミュニケーション力をうばう～」

大里小学校　４０名

「規則正しい生活習慣が子どもの学力を伸ばす」

沢田小学校　９２名

「子どもの発達とメディアの影響」

県南地区

西郷幼稚園　４７名

「子育てに絵本を」

小田倉小学校　７５名

「ネット・スマホの落とし穴～子どもの未来を守るために～」

棚倉小学校　３３５名

「地域の良さや親子関係について」

青生野小学校　３０名

「親子で体験　ニュースポーツ教室」

会津地区

みなみ若葉幼稚園　３５名

「親子でどうつきあう？メディアの落とし穴」

会津若松市立第二中学校　４４７名

「ソーシャルメディアの光と影～私たちはどう向き合っていくべきか」

鶴城小学校　２２０名

「笑顔満開！『元気の魔法』早寝・早起き・朝ごはん」

南会津地区

田島カトリック暁の星幼稚園　１０６名

「親子のふれあいの大切さ」

田島第二小学校　７２名

「親子のふれ合いで未来を拓く～秋田の今～」

田島小学校　７８名

「家庭でのふれあい～親子でのコミュニケーション～」

朝日小学校（第１回）　２５名

「読み聞かせを通した親子のふれあい」

桧沢小学校（第１回）　１００名

「テレビ・ビデオ・ゲームの影響を考える」

朝日小学校（第２回）　５１名

「ふれあい訓づくりと家庭教育」

旭田小学校　７３名

「家庭の絆づくりをふれあい訓から」

桧沢小学校（第２回）　３０名

「正しいメディアの活用について」

相双地区

福田小学校（第１回）１８３名

「絵本で楽しむちひろと世界の絵本」

福田小学校（第２回）１４７名

「自転車での冒険と人生の冒険」

いわき地区

好間第一小学校　５０名

「生活習慣の向上と学力の向上」

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

家庭教育支援者の実践力向上と学習プログラムの開発

ア　家庭教育支援者スキルアップセミナー

○「子育て支援における　傾聴の意義と理解」

いわき明星大学教授　窪田文子

平成２６年　７月　３日（木）いわき市　18名

平成２６年　８月１９日（土）下郷町　19名

○「ＮＰプログラムの概要とファシリテーターの役割について」

子ども家庭リソースセンター理事長　福川須美

平成２６年　７月　３日（木）いわき市　29名

平成２６年　８月１９日（土）下郷町　19名

○「家庭教育講座の企画・運営について」

桜の聖母短期大学教授　西内みなみ

平成２６年　７月２５日（金）福島市　14名

平成２６年１０月　４日（土）郡山市　34名

○「思春期の発達と支援」

自治医科大学名誉教授　高村寿子

平成２６年　７月２５日（金）福島市　13名

平成２６年１０月　４日（土）郡山市　33名

○「親子食育教室の運営と実践」
福島学院大学短期大学部准教授　鈴木礼子
平成２６年　８月２６日（火）郡山市　　28名
平成２６年　９月　７日（日）いわき市　13名
○「発達障害の理解と支援」
子どものメンタルヘルス支援事業推進室助教
野村昂樹
平成２６年　８月２６日（火）郡山市　　55名
平成２６年　９月　７日（日）いわき市　17名
○「親子健康教室の運営と実践」
福島大学教授　鈴木裕美子
平成２６年　９月２７日（土）福島市　　11名
平成２６年１０月１０日（金）下郷町　　14名
○「家庭教育支援団体のNPO法人化にむけて」
新座子育てネットワーク代表　坂本純子
平成２６年　９月２７日（土）福島市　　15名
平成２６年１０月１０日（金）下郷町　　14名

イ　親育ち応援学習プログラム
作成委員会　平成２６年９月１６日（火）
県内の新入学児童保護者等に配付

第５節　青少年教育

１　概要

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう努めた。

２　十七字のふれあい事業

(1) 目的

家庭・学校・地域が連携を進め、地域ぐるみで子どもの体験活動を奨励し、子どもと大人、子どもと子どもが共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する。

(2) 内容

ア　応募期間　　7月1日～9月30日
イ　応募総数　　37,749組
ウ　最終審査会　平成26年12月5日(金)
エ　審査員　　安部　光夫、佐藤　秀美、増子　春夫
オ　表彰式　　平成27年1月6日(火)　杉妻会館
カ　入賞数　　最優秀賞5組、優秀賞5組、佳作10組

(3) 広報・普及活動

ア　募集・応募
県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ　事後の広報
社会教育課においては、入賞作品集を作成し、各学校や社会教育施設等へ配布した。各教育事務所においては、域内で入選した作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第６節　成人教育

１　概要

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

第７節　子どもの読書活動推進

１　概要

平成２２年３月に策定した「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき、機会をとらえて子どもの読書活動を推進するための研修会を開催するなど啓発、広報に努めた。また、これまでの成果と課題を踏まえ、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を２月に策定した。

さらに、子ども読書活動を推進するため、ボランティアの育成等を目指し、「人材育成基礎研修」を県内７地区で、「ステップアップ研修」を４地区で実施した。

２　子ども読書活動推進会議の設置

(1) 目的

福島県子ども読書活動推進計画に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

(2) 子ども読書推進シンポジウム

平成２６年７月５日（土）
ビッグパレットふくしま　１５９名
講演：秋田大学教育文化学部教授　阿部　昇
実践発表：新地町読書活動ボランティア　大須賀美穂
白河市立みさか小学校図書ボランティア
金沢　美香

(3) 子ども読書推進会議委員

氏　名	職業等	区　分
高野　保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
山岸　波	福島県ＰＴＡ連合会母親代表	社会教育関係者
今野　隆	郡山市立大槻小学校長	学校図書館関係者
菅野　安彦	本宮市しらさわ夢図書館長	公立図書館等関係者
高橋　明子	山都公民館社会教育指導員	家庭教育関係者
金沢　美香	白河市立みさか小図書ボランティア	読書活動に係るボランティア団体関係者

3　子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業

(1)人材育成基礎研修

【県北地区】　平成２６年６月１１日（水）
　　県立図書館　受講者６８名
【県中地区】　平成２６年６月１３日（金）
　　郡山市労働福祉会館　受講者４９名
【県南地区】　平成２６年８月２３日（土）
　　白河市立図書館　受講者２８名
【会津地区】　平成２６年９月８日（月）
　　湯川公民館　受講者３９名
【南会津地区】平成２６年７月４日（金）
　　只見町朝日振興センター　受講者６９名
　　平成２６年９月３日（水）
　　下郷町役場３Ｆ正庁　受講者５２名
【相双地区】　平成２６年７月３１日（木）
　　相馬市総合福祉センター　受講者４４名
【いわき地区】平成２６年８月１９日（火）
　　いわき合同庁舎　受講者３７名

(2)ステップアップ研修

【県北会場】　平成２６年８月７日（木）～８日（金）
　　福島県青少年会館　受講者６５名
【県中会場】　平成２６年９月１１日（木）～１２日（金）
　　郡山市労働福祉会館　受講者　７０名
【会津会場】　平成２６年１０月１６日（木）～１７日（金）
　　湯川公民館　受講者７４名
【いわき会場】平成２６年１１月１３日（木）～１４日（金）
　　いわき合同庁舎　受講生５０名

4　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

【第１回】期　　日　平成２６年５月１１日
　　会　　場　県立図書館
　　参加者数　７２３名
【第２回】期　　日　平成２６年１１月２９日
　　会　　場　ビッグパレットふくしま
　　参加者数　１００名

第８節　ユネスコ活動

1　概要

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

本県には、以下の協会が組織され、県内の各地において国際平和と人類の福祉に貢献する民間活動が展開されている。県教育委員会としても、積極的に普及の啓発と民間ユネスコ運動の支援に努めた。

2　ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町５	河村　朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	松本　恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町４－８	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足　満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字担ノ腰２	宗像　金三	S53.1.24
白河ユネスコ協会	小野　利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路７－１	鈴木　陽一	S53.11.19
福島ユネスコ協会	河田　亨	福島市中央学習センター内 福島市松木町１－７	阿部　隆	S55.7.19
会津ユネスコ協会	宗像　精	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3−50	石田　明夫	S55.11.16
川俣ユネスコ協会	佐藤　好弘	川俣町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口１１	遠藤貴美子	H16.11.26
福島県ユネスコ連絡協議会	河田　亨	福島市笹木野字中西表６０－６ 近野元洋宅	近野　元洋	S56.12.5

3　福島県ユネスコ活動研修会

平成26年11月21日（金）国立磐梯青少年交流の家
参加者数　48名

第９節　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

1　目的

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動

等を行う団体に対して、補助金を交付する。

2　内容

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

・対 象 者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等
・対象期間：４月から３月末まで
・実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動等などをよりよい環境（県内外）のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
・補助基準：①宿泊費　一人当たり１泊５千円上限　13泊まで
②活動費・交通費　活動日数に一人当たり２千円を乗じた額を上限

(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

・対 象 者：県内の幼稚園・保育所（認可外保育施設も含む）、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等
・対象期間：４月から３月末まで
・実施内容：幼稚園・保育所や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境（県内外）のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
・補助基準：①宿泊費　一人当たり１泊５千円上限　13泊まで
②活動費・交通費　活動日数に一人当たり２千円を乗じた額を上限

(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業

・対 象 者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ等）
・対象期間：７月から８月末、１２月から１月末
・実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（６泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
・補助基準：①宿泊費　一人当たり１泊５千円上限　13泊まで
②活動費・交通費　活動日数に一人当たり２千円を乗じた額を上限

(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

・対 象 者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ、公民館、ファミリーグループ等）
・対象期間：７月から８月末、１２月から１月末
・実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
・補助基準：①宿泊費　一人当たり１泊５千円上限　５泊まで（食費を含む）
②交通費・体験活動費　一人当たり１回２千円上限

(5) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

・対 象 者：県内の幼児、小・中学生とその家族（乳児含む）
・実施回数：夏期間各１回、冬期間各１回
・場　　所：郡山自然の家、会津自然の家、いわき海浜自然の家
・内　　容：自然体験活動の日帰り開放プラン　計６回
交通費のみ参加者負担

第10節　公民館等社会教育施設

1　概要

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動や図書館サービスが行われるよう助言した。

2　公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

	名　　称	所在地・電話番号	設置者
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山１ ０２４－５３５－３２２０	福島県
市町村立	福島市立図書館	福島市松木町１－１ ０２４－５３１－６５５１	福島市
	福島市西口ライブラリー	福島市三河南町１－２０ ０２４－５２５－４０２３	福島市
	福島市子どもライブラリー	福島市早稲町１－１（こむこむ内） ０２４－５２６－４２００	福島市
	伊達市　教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端７ ０２４－５５１－２１３２	伊達市
	二本松市立二本松図書館	二本松市本町１丁目１０２番地 ０２４３－２３－５０８２	二本松市
	二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町２４２番地 ０２４３－５５－３２５５	二本松市
	しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎５００ ０２４３－４４－２１１２	本宮市
	郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目５－２５ ０２４－９２３－６６０１	郡山市
	郡山市中央図書館　田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼４０－３ ０２４－９５５－３８４２	郡山市 郡山市

	名　　称	所在地・電話番号	設置者
市町村立	郡山市中央図書館　喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原１ ０２４－９５９－２２０５	郡山市
	郡山市中央図書館　緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目１－２１ ０２４－９４４－０００１	郡山市 郡山市
	郡山市中央図書館　日和田分館	郡山市日和田町字小堰２３－４ ０２４－９５８－２３５２	郡山市
	郡山市中央図書館　三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷６ ０２４－９５３－２８２０	郡山市
	郡山市中央図書館　中田分館	郡山市中田町下枝字大平３８５ ０２４－９７３－２９５１	郡山市
	郡山市中央図書館　西田分館	郡山市西田町三丁目桜内２５９ ０２４－９７２－２８０７	郡山市
	郡山市中央図書館　大槻分館	郡山市大槻町字中前田５６ ０２４－９５１－１５１２	郡山市
	郡山市希望ケ丘図書館	郡山市希望ケ丘１－５ ０２４－９６１－１６００	郡山市
	郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目３８ ０２４－９４６－８８５０	郡山市
	郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎１８１－１ ０２４－９２１－００３０	郡山市
	須賀川市図書館	須賀川市八幡町１３４ ０２４８－７５－３３０９	須賀川市
	須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町８５ ０２４８－６７－２１３８	須賀川市
	須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前２２番地 ０２４８－６５－３５４９	須賀川市
	鏡石町図書館	鏡石町旭町４４０－６ ０２４８－６２－１２８８	鏡石町
	古殿町図書館	古殿町松川字横川２３５ ０２４７－５３－２３０５	古殿町
	三春町町民図書館	三春町字大町１２－１ ０２４７－６２－３３７５	三春町
	小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通２ ０２４７－７２－２１２０	小野町
	田村市図書館	田村市船引町船引字扇田１９ ０２４７－８２－１００１	田村市
	田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町４８－１ ０２４７－７８－２００１	田村市

	名　　称	所在地・電話番号	設置者
市町村立	田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池８７－５ ０２４７－７９－２１６１	田村市
	田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏１ ０２４７－７７－２０１３	田村市
	田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町３３－４ ０２４７－７５－２０６３	田村市
	白河市立図書館	白河市道場小路９６－５ ０２４８－２３－３２５０	白河市
	白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保２ ０２４８－３２－４７８４	白河市
	白河市東図書館	白河市東釜子字狐内４７ ０２４８－３４－１１３０	白河市
	白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
	矢吹町図書館	矢吹町小松４８１ ０２４８－４４－３５９５	矢吹町
	泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字舘２４－９ ０２４８－５３－４７７９	泉崎村
	棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町２１－１ ０２４７－３３－４３４２	棚倉町
	塙町立図書館	塙町大字塙字栄町６８－６ ０２４７－４３－０８０８	塙町
	矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東舘字石田２５ ０２４７－４６－４６４６	矢祭町
	鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作１２８ ０２４７－４９－３１５１	鮫川村
	会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町３－５０ ０２４２－２２－４７１１	会津若松市
	喜多方市立図書館	喜多方市字柳原７５０３－１ ０２４１－２２－１８５５	喜多方市
	南会津町図書館	南会津町田島字宮本東２２ ０２４１－６２－５５２２	南会津町
	相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町６５－１６ ０２４４－３７－２６３０	相馬市
	新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田４０－１ ０２４４－６２－５０３１	新地町
	南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目７－１ ０２４４－２３－７７８９	南相馬市
	南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田２２－１	南相馬市

		０２４４－４６－５１１６	

	名　　称	所在地・電話番号	設置者
市町村立	南相馬市立小高図書館（休館中）	南相馬市小高区本町二丁目８９－１ ０２４４－４４－３０４９	南相馬市
	浪江町図書館（休館中）	浪江町権現堂字矢沢町６－１ ０２４０－３４－５０２４	浪江町
	双葉町図書館（休館中）	双葉町大字長塚字鬼木１ ０２４０－３３－４２１４	双葉町
	大熊町図書館（休館中）	大熊町大字下野上字大野６６９－３ ０２４０－３２－３０１１	大熊町
	富岡町図書館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚６２２－１ ０２４０－２１－３６６５	富岡町
	いわき市立総合図書館	いわき市平字田町１２０ ０２４６－２２－５５５２	いわき市
	いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下４０-１ ０２４６－４５－１０３０	いわき市
	いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7-2 ０２４６－５４－９２５７	いわき市
	いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田１ ０２４６－４４－６２１８	いわき市
	いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町１丁目２－２ ０２４６－６２－７４３１	いわき市
	いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一町目５０ ０２４６－３２－５９８０	いわき市
法人	クローバー子供図書館	郡山市開成６丁目３４６－１ ０２４－９３２－２１１８	(財)金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア　登録博物館及び相当施設

	名　　称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
登録博物館相当施設	福島県立美術館	福島市森合字西養山１ ０２４－５３１－５５１１	福島県 美術博物館 ５９．７．１６
	福島県立博物館	会津若松市城東町１－２５号 ０２４２－２８－６０００	福島県 総合博物館 ６１．１１．２８
	須賀川市立博物館	須賀川市池上町６ ０２４８－７５－３２３９	須賀川市 歴史博物館 ４６．７．１０
	いわき市立美術館	いわき市平字堂根町４－４ ０２４６－２５－１１１１	いわき市 美術博物館 ５９．９．３
登録博物館相当施設	郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地１３０－２ ０２４－９５６－２２００	郡山市 美術博物館 平５．１．２０
	南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口１９４ ０２４４－２３－６４２１	南相馬市 総合博物館 平８．５．９
	野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田８１ ０２４２－８５－７８６７	(公財)野口英世記念会 歴史博物館 ２９．１０．２１
	会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田３３－１ ０２４２－６５－２６００	会津民俗館 歴史博物館 ５５．１０．３
	白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下３３ ０２４２－２４－９１７０	(一財)白虎隊記念館 歴史博物館 ６３．６．３０
	奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山３６９２－２０ ０２４１－６６－３０７７	南会津町 歴史博物館 平２１．６．１６
	諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰１０９３－２３ ０２４１－３７－１０８８	(公財)諸橋近代美術館 美術博物館 平１１．８．１７
	藤田記念博物館（休館中）	白河市五郎窪３７－１ ０２４８－２４－１７８０	(公財)藤田教育振興会 美術博物館 ５４．９．１
	やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙１８７ ０２４１－４２－３６３０	柳津町 美術博物館 平１１．９．２８
	龍が城美術館	いわき市平字旧城跡２７－１ ０２４６－２２－１６０１	（一財）白龍会 美術博物館 ３０．２．１０
	会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内１ ０２４２－２８－２５２５	（株）会津武家屋敷 歴史博物館 ５６．１１．２５
	安積歴史博物館	郡山市開成５－２５－６３ ０２４－９３８－０７７８	(公財)安積歴史博物館 歴史博物館 ５９．９．８
	磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰１０９３－３６ ０２４１－３２－２８８８	(株)ｺﾞｰﾙﾄﾞﾊｳｽ目黒科学博物館 平５．７．１
	會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山１０番地 ０２４２－７５－２５２５	(株)会津武家屋敷 歴史博物館 平１２．１１．２８

イ　類似施設

名　称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町５０ ０２４６－７３－２５２５	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段８６ ０２４８－２１－０７００	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町５－５４ ０２４－５３４－９１９５	福島県
ふれあい歴史館（福島市資料展示室）	福島市上町３９－１ ０２４－５６３－７８５５	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 ０２４－５９３－５２４９	福島市

名　称	所在地・電話番号	設置者
福島市古関裕而記念館	福島市入江町１－１ ０２４－５３１－３０１２	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町１１－３６ ０２４－５２３－１２０２	福島市
ＵＦＯふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森１－２９９ ０２４－５６２－２００２	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利６０ ０２４－５２５－３７８５	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山枡内２０ ０２４－５６６－３３６７	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町１０ ０２４－５２７－２６５６	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇２６５ ０２４－５７５－１６１５	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢９－１ ０２４－５８９－２２１１	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町１－１０２ ０２４３－２３－３９１０	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町３６ ０２４３－２２－６１５１	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町２－３－１ ０２４３－２４－１２１７	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵１８３ ０２４３－４８－２５６９	大玉村
歴史民俗資料館	本宮市字南町裡１３０ ０２４３－３３－２５４６	本宮市
白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎４９４－４４ ０２４３－４４－３１８５	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成３－３－７ ０２４－９２３－２１５７	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山１－８－３ ０２４－９３２－５３０６	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町３－５ ０２４－９９１－７６１０	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前２－１１－１ビッグアイ２０Ｆ～２４Ｆ ０２４－９３６－０２０１	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口１８６ ０２４８－６７－２０３０	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川２３５ ０２４７－５３－２３０５	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石１－２ ０２４８－８１－１０３０	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田２００－２ ０２４７－２６－３７６８	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地１４４－６ ０２４７－３６－２１３４	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下２８７ ０２４７－３６－４１２９	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷５ ０２４７－６２－５２６３	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町３０ ０２４７－６２－７０５３	三春町

名　称	所在地・電話番号	設置者
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通２ ０２４７－７２－２１２０	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前１９６番地	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田７－１ ０２４８－２７－２３１０	白河市
白河集古苑	白河市郭内１－７３ ０２４８－２４－５０５０	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田２５ ０２４８－４６－３６１４	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字舘２４－９ ０２４８－５４－１５３３	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元８６－１ ０２４７－４２－２５１０	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東舘字石田２５	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町８－１ ０２４２－２７－２４７２	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町１－１ ０２４２－２７－４００５	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町１－１ ０２４２－２７－４００５	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町２－８－８ ０２４２－２２－８６８６	会津若松市
いなわしろ淡水魚館	猪苗代町大字長田字東中丸３４４－４ ０２４２－６５－２４８１	財団法人
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原７５０３－１ ０２４１－２４－３８２１	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切２丁目１０９ ０２４１－２２－６５９２	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切２丁目２ ０２４１－２３－０４０４	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂３１６３ ０２４１－４４－２９２４	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊４１７ ０２４１－４４－２７６５	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下８４２ ０２４２－８４－１２３３	会津坂下町
ほっとｉｎやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙１５１－１ ０２４１－４１－１０７７	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲１４９ ０２４２－５４－２３６８	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上４１８ ０２４１－５２－２１６５	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原１ ０２４１－５８－１６７７	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲４６８１ ０２４１－６２－３８４８	南会津町
久川城資料館	南会津町青柳字久川２３ ０２４１－７６－２１９１	南会津町
奥会津民俗館南郷館	南会津町界字川久保５５２ ０２４１－７３－２８２９	南会津町

名　称	所在地・電話番号	設置者
奥会津民族館館岩館	南会津町松戸原５５ ０２４１－７８－２１１０	南会津町
奥会津民族館伊南館	南会津町青柳字久川２４	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原８８７－２ ０２４１－７５－２３４２	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田３３ ０２４１－８６－２１７５	只見町
只見町ブナセンター	只見町字町下２５９０ ０２４１－７２－８３５５	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台８５０－５ ０２４１－８２－２８７０	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先１３ ０２４４－３７－２１９１	相馬市
鹿島歴史民俗資料館（廃止）	南相馬市鹿島区西町３－１ ０２４４－４６－４２８１	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館（休館中）	南相馬市小高区本町２－８９－１ ０２４４－４４－３０４９	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合１１ ０２４０－２９－２００８	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町２７－１ ０２４０－３３－４７６３	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野６６９－３ ０２４０－３２－３０１１	大熊町
富岡町歴史民俗資料館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚６２２－１ ０２４０－２２－２６２６	富岡町
楢葉町歴史資料館（休館中）	楢葉町大字北田字鐘突堂５－４ ０２４０－２５－２４９２	楢葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田３－１ ０２４６－４２－３１５５	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢６－１ ０２４６－６５－６１６６	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房１４７－２ ０２４６－８２－４５６１	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這５０－１ ０２４６－４３－０３９１	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道１－３９ ０２４６－８３－０００５	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内６－１ ０２４６－８３－０００５	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野１４－１６ ０２４６－２９－２２３０	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚３－１８３ ０２４－５９３－０６３９	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋１２ ０２４－５８２－５５０７	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉１ ０２４３－２４－２３３６	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内４１ ０２４－９７１－３９００	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台１００ ０２４８－８９－１１２０	財団法人
（有）大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花１３ ０２４８－７６－５８５７	有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斉藤字仁井道１２６ ０２４－９４２－１１３８	株式会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通５１－３ ０２４７－７２－６３６４	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖５９ ０２４８－２３－２１００	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生舘２ ０２４８－２３－３０１５	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原１６０－１３ ０２４７－４３－１４８０	有限会社
會津宮泉酒造（旧会津酒造歴史館）	会津若松市東栄町８－７ ０２４２－２６－００３１	株式会社
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町４－６ ０２４２－２７－１００１	株式会社
（社）福島県伝統産業会館	会津若松市大町１－７－３ ０２４２－２４－５７５７	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町４７６１ ０２４１－２２－２２３３	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹７２９４－４ ０２４１－２４－３５７６	私人
桐の博物館	喜多方市押切南２－１２ ０２４１－２２－１９１１	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町４０９５ ０２４１－２４－４１５１	株式会社
御蔵入細井家資料館	南会津町静川字風下甲１７５ ０２４１－６２－０９０６	私人

(3)　青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山４６ ０２４－９５７－２１１１	福島県
	福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山４４９５－１ ０２４２－８３－２４８０	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山５３ ０２４６－３２－７７００	福島県
教育施設	国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火６－１ ０２４８－３６－２３３１	文部科学省
	国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原７１３６－１ ０２４２－６２－２５３０	文部科学省
	市町村（条例）設置	３９施設（別掲）	
	他県設置等	１２施設（別掲）	

《市町村（条例）設置３８施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋５３－５ ０２４－５４６－８３１１	財団法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山４０－１３ ０２４－５９１－３３６６	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作１ ０２４－５９７－２９５１	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町１－１ ０２４－５３１－６２２１	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町１－１ ０２４－５２４－３１３１	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢９－１ ０２４－５８９－２２１１	伊達市
二本松市青年の家	二本松市榎戸１－９２ ０２４３－２３－５１２１	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸１－９２ ０２４３－２３－５１２１	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石３－１ ０２４３－２３－３７２１	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来３９－１ ０２４３－３３－２６１１	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒８２ ０２４－９６１－８２８２	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西１１２ ０２４－９８２－２１１５	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山１丁目８－４ ０２４－９３２－３０２７	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田字音森２０ ０２４８－７９－２１８７	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎４４ ０２４８－６３－２１５４	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市長禄町７９ ０２４８－７２－０２００	須賀川市
鏡石町勤労青少年ホーム	鏡石町中央５９ ０２４８－６２－２１１５	鏡石町
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町小栗山７１ ０２４８－８３－２３８１	鏡石町
三春町児童生活センター	三春町字大町７－１ ０２４７－６２－８６６６	三春町
田村市船引児童館	田村市船引町船引字石田１５１ ０２４７－８２－０６９０	田村市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道２ ０２４７－７２－２１２５	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川町当町４１８－１ ０２４７－２６－２５６６	石川町
聖ケ岩ふるさとの森	白河市大信隈戸５７及び５９林班地内 ０２４８－４６－２４７１	白河市
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町１４－５２ ０２４２－２６－６６６２	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町１５－６２	会津若松市
青少年研修センター(わらび学園)	喜多方市熱塩加納町加納字村前乙５４９	喜多方市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田３１１９－１ ０２４１－２２－１４０３	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原７０９５ ０２４２－６２－３２９１	猪苗代町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原３５８０ ０２４１－４８－５５７７	三島町
御蔵入の里会津山村道場	南会津町糸沢字西沢山３６９２－２０ ０２４１－６６－２１０８	南会津町
野外活動施設（開墾小屋）	南会津町多々石字多々石入８７２－２１６	南会津町
針生青少年旅行村	南会津町針生字宮ノ下１７３４－１ ０２４１－６２－６２００	南会津町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里１５－１ ０２４４－６２－３１０６	新地町
双葉町青年婦人会館（休館中）	双葉町長塚字谷沢町５６ ０２４０－３３－２０８３	双葉町
グリーンフィールド富岡（休館中）	富岡町小浜３０４ ０２４０－２２－５５６６	富岡町
富岡町合宿センター（休館中）	富岡町小浜３４３ ０２４０－２２－７０００	富岡町
楢葉町サイクリングターミナル展望の宿天神（休館中）	楢葉町北田字上ノ原２７－２９ ０２４０－２５－３１１３	楢葉町
いわき市勿来勤労青少年ホーム	いわき市金山町朝日台１ ０２４６－６３－２８７９	いわき市

参考　※　いわき市生涯学習プラザ
いわき市平字一町目１番地ティーワンビル４・５階
※　財団法人福島県産業振興センター産業交流館（ビッグパレットふくしま）
郡山市安積町日出山字北千保１９－８

《他県設置等１２施設》

名　称	所在地・電話番号	設置者
天栄村羽鳥湖畔オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草２－４ ０２４８－８５－２０３３	財団法人
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原１－１ ０２４７－４６－２１６２	矢祭町
只見町青少年旅行村いこいの森	只見町大字只見字向山２８３２－２ ０２４１－８２－２４３２	只見町
高清水自然公園	南会津町界字長池沢口４２９８－１２ ０２４１－７３－２１１５	南会津町
小野田自然塾	塙町大字片貝字長久木３６３ ０２４７－４２－２３１１	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林１４林班 ０２４３－２４－２５６１	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林１４林班之小班 ０２４３－２４－２８５９	羽生市
葛飾区立あだたら高原学園	二本松市永田字長坂国有林１４林班 ０２４３－２４－２２０６	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰍５－２９ ０２４７－７７－２０９８	中野区
朝霞市立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町大字赤井字戸ノ口５３ ０２４２－９４－２４３４	朝霞市
さいたま市立舘岩少年自然の家	南会津町宮里字向山２８４７－１ ０２４１－７８－２３１１	さいたま市
ＳＹＤばんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 １１５７－１９２ ０２４１－３３－２３３５	財団法人

第９章　文　　化

第１節　概要

近年、生活水準の向上、自由時間の増大及び生涯学習の進展を背景として、心の豊かさを実感できる生活の実現を求める県民意識が高まりをみせており、新たな文化を創造、発展させることが求められている。

このため、県教育委員会では、県民の自主性と創造性を尊重しながら、“知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成”を基本目標に、文化財の保存・継承と適切な活用、次代を担う子どもたちの地域の伝統文化を愛するこころの醸成、地域に根ざした伝統文化などの文化的資源を活かした文化振興の取組みと地域活性化を基本的方向性として、施策「地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するこころをはぐくみます」を積極的に展開しており、その成果は次のとおりである。

１　文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

平成26年11月6日（木）、郡山女子大学建学記念講堂において第33回福島県高等学校総合文化祭総合開会式が行われ、事務局校である白河実業高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

２　文化の伝承の充実

(1)　埋蔵文化財の保存の充実

開発事業に対して、事前の表面調査と試掘調査を実施するとともに、事業者側と協議を行い、可能な限り埋蔵文化財の現状保存に努めながら、記録の保存のための発掘調査を行った。

(2)　文化財防災設備等の整備促進

文化財防災設備、保存施設等の整備を促進するとともに、所有者又は管理団体等に対し日常的管理の強化を図るよう指導に当たった。

(3)　文化財保存助成の充実

国・県指定文化財の保存修理及び埋蔵文化財保存調査と一体となって、文化財を広く県民へ公開する「指定文化財保存活用事業」により助成を行った。

また、東日本大震災により被災した国・県指定文化財の修復事業に対し補助率を嵩上げし、助成を行うとともに、原発事故等により存続の危機にある民俗芸能の継承を図るため、震災により流出・毀損した用具類の新調・修理及び稽古等に必要な交通費等を助成した。

(4)　文化財の救援活動

東日本大震災により被災した双葉郡内町立歴史民俗資料館等の文化財を関係機関・団体の協力により搬出した。

搬出した文化財を、県文化財センター白河館（愛称まほろん）に設置した安定的に保管するための施設に搬送した。

また、搬出した文化財の一部をまほろんで展示・公開した。

３　文化施設の整備充実

(1)　県立美術館の整備充実

常設展、企画展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2)　県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3)　県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第２節　文化活動の振興

１　芸術文化活動発表機会の充実

(1)　福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。（補助対象事業費計：8,094千円、補助金額計：1,000千円）

ア　平成26年度福島県高等学校文化連盟

役員

役職名	氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
会長	源後　正能	校長	安積黎明高等学校	監事	渡部　亮	教諭	大沼高等学校
副会長(私　立)	森　涼	校長	学法石川高等学校	幹事	林　王昭	教諭	橘高等学校
副会長(県　北)	小浜宗一郎	校長	橘高等学校	幹事	鑓水　実	教諭	白河実業高等学校
副会長(県　南)	二瓶　賢一	校長	白河実業高等学校	幹事	安斎　泉	教諭	郡山商業高等学校
副会長(会　津)	五十嵐　研	校長	大沼高等学校	幹事	飯豊　利子	教諭	白河旭高等学校
副会長(いわき)	馬場　壮夫	校長	小名浜高等学校	幹事	岩山久美子	教諭	須賀川桐陽高等学校
副会長(相　双)	日高　裕志	校長	相馬高等学校	幹事	津瀧亜希子	講師	安積黎明高等学校
理事長	三條　敦	教諭	安積黎明高等学校				
事務局長	遠藤　喜光	教諭	安積黎明高等学校	顧問	大沼　博文	課長	高校教育課
監事	齋藤　貢一	校長	郡山東高等学校				

専門部会長・専門部委員長

専門部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
演劇	菅野　哲哉	校長	光南	佐藤　茂紀	教諭	光南
高音連	佐藤　恵一	校長	田島	星　弓彦	教諭	福島工業
合唱	久保田範夫	校長	安積	鈴木　和明	教諭	安積
吹奏楽	松岡　浩三	校長	原町	今野　貴文	教諭	原町
器楽管弦楽	小林　喜則	校長	郡山商	鈴木　敦	教諭	郡山商
日本音楽	長田　公雄	校長	四倉	瀬谷　浩子	教諭	四倉
吟詠剣詩舞	浅岡　秀夫	校長	昌平	賀澤　裕三	講師	昌平
郷土芸能	大和田範雄	校長	相馬農	村田　和丈	教諭	相馬農
マーチング・バトンT.	小林　喜則	校長	郡山商	横田　日夏	教諭	郡山商
美術・工芸	菅野　哲哉	校長	光南	林　王昭	教諭	橘
書道	吉田啓一郎	校長	福島西	鹿山　俊	教諭	福島西
写真	横山　道夫	校長	福島明成	松嵜　俊樹	教諭	福島明成
放送	遠藤雄二郎	校長	郡山	菊地　彩子	教諭	郡山
囲碁	小浜宗一郎	校長	橘	鈴木　仁孝	教諭	橘
将棋	田代　公啓	校長	福島	根本　郁男	教諭	福島
弁論	箱崎二三彦	校長	会津	佐藤　繁	教諭	会津
小倉百人一首かるた	源後　正能	校長	安積黎明	橋本　安広	教諭	田村
新聞	日高　裕志	校長	相馬	武内　義明	教諭	相馬
文芸	齋藤　貢一	校長	郡山東	池上　貴夫	教諭	郡山東
自然科学	坂爪　靖夫	校長	保原	根本　靖彦	教諭	安積黎明
農業	菅野　直芳	校長	岩瀬農業	鹿股　佳緒	教諭	岩瀬農業
工業	髙城　友治	校長	郡山北工	大波　慶次	教諭	郡山北工
商業	喜多見　薫	校長	福島商	安田　宗章	教諭	福島商
家庭	菅野　論	校長	相馬東	朝倉　由美	教諭	相馬東
定通	根本　良政	校長	いわき翠の杜	星　美奈	教諭	いわき翠の杜
特別支援学校	眞部　知子	校長	郡山養護	高澤　俊郎	教諭	郡山養護
（国際教育）休止	渡邉　望	校長	磐城桜が丘	高橋　敏夫	教諭	磐城桜が丘
JRC	太田　孝	校長	本宮	菅野勇一郎	教諭	本宮

イ　第33回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成26年5月から平成26年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ　第38回全国高等学校総合文化祭への参加

平成26年7月27日から31日まで、茨城県で開催された文化祭に参加する436名を派遣した。

〔参加部門等及び参加生徒数〕

総合開会式1名、パレード（マーチングB・バトンT）76名、合唱49名、吹奏楽73名、器楽・管弦楽61名、日本音楽27名、吟詠剣詩舞13名、郷土芸能35名、美術・工芸7名、書道5名、写真8名、放送25名、囲碁5名、将棋5名、弁論2名、小倉百人一首9名、新聞6名、文芸4名、自然科学20名、（協賛）ボランティア5名

部門	期日	場所	内容
演劇	11月21日（金） ～23日（日）	いわき芸術文化交流館 アリオス	第68回福島県高等学校演劇コンクール
合唱 吹奏楽 器楽・管弦楽 日本音楽	6月18日（水） ～20日（金）	いわき芸術文化交流館 アリオス	第64回福島県高等学校音楽学習発表会 第33回福島県高等学校総合文化祭音楽部門
日本音楽 吟詠剣詩舞 郷土芸能	11月1日（土）	いわき芸術文化交流館 アリオス	第4回福島県高等学校総合文化祭三部門 （日本音楽・吟詠剣詩舞、郷土芸能部門）合同発表会
マーチングバンド・ バトントワリング	8月26日（火）	福島県営あづま総合 体育館	第6回福島県高等学校マーチングバンド・ バトントワリング発表会
美術・工芸	11月6日（木） ～9日（日）	会津若松市文化センター	第40回福島県高等学校美術展
書道	10月24日（金） ～27日（月）	福島市アクティブ シニアセンターAOZ	第33回福島県高等学校総合文化祭 書道展
写真	11月27日（木） ～30日（日）	三春交流館「まほら」	第33回福島県高等学校総合文化祭 写真展
放送文化	6月1日(日) ～2日(月) 6月6日(金)	福島県文化センター	第33回福島県高等学校総合文化祭 放送部門 第61回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト 福島県大会
囲碁	6月14日（土） ～15日（日）	橘高等学校	第38回全国高校囲碁選手権大会 福島県大会
将棋	5月17日(土)	安積高等学校	第50回全国高等学校将棋選手権大会 福島県大会
弁論	12月18日（木）	会津若松市文化センター	第6回福島県高等学校弁論大会
小倉百人一首かるた	10月25日（日）	安積黎明高等学校	第7回福島県高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた選手権大会
新聞	11月14日(金)	郡山市労働福祉会館	福島県高等学校新聞連盟 平成26年度総会・大会
文芸	11月7日（金）	ビッグパレットふくしま	第12回福島県高等学校総合文化祭 文芸部門大会
自然科学	11月15日（土） ～16日（日）	福島県立医科大学	第33回福島県高等学校総合文化祭自然科学部門 第27回福島県高等学校生徒理科研究発表大会
農業	7月3日(木) ～7月4日(金)	会津農林高等学校 耶麻農業高等学校	福島県学校農業クラブ連盟技術競技大会
工業	9月30日(火)	郡山北工業高等学校	第21回福島県高等学校ロボット競技大会
商業	7月23日(水) ～24日(木)	摺上亭「大鳥」	第20回福島県高等学校生徒商業 研究発表大会
家庭	10月23日(木) ～24日(金)	相馬市民会館	第62回福島県高等学校家庭クラブ連盟 研究発表大会
定通	10月8日(水)	郡山萌世高等学校	第62回福島県高等学校定時制通信制 生徒生活体験発表大会
特別支援学校	10月15日(水) ～19日(日)	郡山ビッグアイ	第28回特別支援学校生徒作品展
JRC	11月6日（木） ～7日（金）	清稜山倶楽部	平成26年度福島県高等学校青少年 赤十字連絡協議会第47回県大会

エ　平成25年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

（ア）　団体

専門部	大会名	成績	学校名
合唱	第67回全日本合唱コンクール全国大会	金賞（1位相当）（文部科学大臣賞）	会津
		金賞（2位相当）（岩手県知事賞）	郡山
		金賞	安積黎明
		銅賞	橘
	第81回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	銀賞	郡山
		銅賞	安積黎明
吹奏楽	第62回全日本吹奏楽コンクール	銀賞	磐城
		銀賞	平商業
		銅賞	湯本
器楽・管弦楽	日本学校合奏コンクール2014全国大会グランドコンテスト	銀賞	郡山商
放送	第61回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会	ラジオドキュメント部門　入選	磐城桜が丘
		制作奨励賞	原町
		テレビドキュメント部門　優勝	磐城
		優良賞	磐城桜が丘
		制作奨励賞	安積黎明
		創作テレビドラマ部門　優秀賞	磐城
弁論	第62回全国高等学校決勝弁論大会	準優勝（群馬県議会長賞）	会津
新聞	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会新聞部門第18回年間紙面審査	優良賞	福島
		優良賞	相馬
自然科学	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会自然科学部門研究発表科学部門	奨励賞	磐城
	第11回高校化学グランドコンテスト	文部科学大臣賞	福島
文芸	第29回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門	優良賞	磐城
小倉百人一首かるた	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会小倉百人一首かるた部門	ベスト8（奨励賞）	安積黎明
工業	第72回全日本学生児童発明くふう展	内閣総理大臣賞	郡山北工業
	第5回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト	世界第1位 全国大会第1位	郡山北工業
商業	第61回全国高等学校珠算・電卓競技大会電卓部門	団体優勝	郡山商業
	平成26年度全経簿記電卓競技大会全国大会電卓の部	団体総合優勝	郡山商業
	第18回全日本電卓競技大会高等学校の部	優勝	郡山商業
マーチングバンド・バトントワリング	全国高等学校ダンスドリル冬季大会	POM部門　第1位	郡山商業
	第14回全日本チアダンス選手権・第12回日本学生チアダンス選手権	特別賞（アラビアンス賞）	光南

（イ）　個人

専門部	大会名	成績	学校名	氏名
弁論	第62回全国高等学校決勝弁論大会	準優勝	郡女大附	古川のどか
		OB会長賞	会津	武田夏歩
書道	第38回全国高等学校総合文化祭書道展	特別賞	郡山東	吉田成美
	第23回国際高校生選抜書展	大賞	福島西	渡辺愛美
文芸	第29回全国高等学校文芸コンクール詩部門	入選	福島西	菅野水貴
	俳句部門	入選	磐城	濱松郁美

放送	第61回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門	入選	磐城桜が丘	新井田花音
家庭	第62回全国高等学校家庭クラブ研究 発表大会　ホームプロジェクトの部	文部科学大臣賞	喜多方東	長谷川真由
特別支援	第21回全国特別支援学校文化祭 造形・美術部門	最優秀賞	郡山養護	蜂須賀侑
農業	第65回日本学校農業クラブ全国大会 平成26年度沖縄大会 農業鑑定競技　区分　食品化学 区分　農業土木	 優秀賞 優秀賞	 福島明成 福島明成	 遊佐茉由子 菅野陽平
小倉百人一首かるた	第38回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部	最優秀賞 全日本かるた協会長賞	安積黎明	星杏奈
商業	第61回全国高等学校珠算・電卓競技 大会珠算部門伝票算	第2等 第3等	郡山商業 小名浜	金成杏美 高橋秀典
	第61回全国高等学校珠算・電卓競技 大会電卓部門　個人総合	第2等 第2等 第3等	郡山商業 郡山商業 郡山商業	鈴木樹里 熊谷由美 河原綾那
	第61回全国高等学校珠算・電卓競技 大会電卓部門　伝票算	優勝 第2等 第2等	郡山商業 郡山商業 郡山商業	鈴木樹里 熊谷由美 鈴木沙也加
	第61回全国高等学校珠算・電卓競技 大会電卓部門　応用計算	第2等 第2等	郡山商業 郡山商業	熊谷由美 鈴木樹里
	第61回全国高等学校珠算・電卓競技 大会電卓部門　読上算	第3等	郡山商業	鈴木沙也加
	平成26年度全経簿記電卓競技全国大 会個人総合競技電卓部門 個人総合競技	優勝 準優勝	郡山商業 郡山商業	熊谷由美 鈴木樹里

オ　平成２６年度福島県高等学校文化連盟表彰

(7)　優秀団体

No.	団体名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	郡山北工業高校 コンピューター部	郡山北工業高校	工業	第5回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト2014 主催：MEMSパークコンソーシアム・東北大学マイクロシステム融合研究開発センター 国内予選3年連続第1位（全国第1位相当） FirstPrize（世界1位）※世界10カ国23チーム参加
2	郡山北工業高校 電気部	郡山北工業高校	工業	第72回全日本学生児童発明くふう展 主催：公益財団法人発明協会 内閣総理大臣賞（全国大会2位相当）
3	磐城高校 放送委員会	磐城高校	放送	第61回全国高校放送コンテスト　主催：全国放送教育研究会連盟・NHK テレビドキュメント部門優勝（全国第１位相当）
4	磐城桜が丘高校 放送局	磐城桜が丘	放送	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会 主催：全国高等学校文化連盟 ビデオメッセージ部門優秀賞（全国第1位相当）
5	湯本高校放送局	湯本	放送	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会 主催：全国高等学校文化連盟 オーディオピクチャー部門優秀賞 （全国第1位相当）
6	郡山商業高校 珠算部	郡山商業高校	商業	平成26年度珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 団体優勝・伝票算優勝 平成26年度全経簿記電卓競技大会 主催：全国経理教育協会 団体優勝（2年連続）、個人総合優勝・準優勝 第18回全日本電卓競技大会 主催：日本電卓技能検定協会　団体優勝

7	会津高校 社会弁論部	会津高校	弁論	第62回全国高等学校決勝弁論大会 主催：群馬県立館林高校 団体の部　準優勝（群馬県議会長賞） （全国2位相当）
8	郡山高校合唱部	郡山	合唱	第81回NHK全国学校音楽コンクール　銀賞 （全国大会第2位相当）
9	安積黎明高校 合唱団	安積黎明 高校	合唱	第81回NHK全国学校音楽コンクール　銅賞 （全国大会第3位相当）
10	郡山商業高校 チアリーディング 同好会	郡山商業	マーチングバンド・バトントワリング	ダンスドリルWinter Cup2015 主催：NPO法人ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン POM部門第1位

(ｲ)　優秀個人

No.	氏名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	星　杏奈	安積黎明	小倉百人一首かるた	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会 読手コンクールの部　全国最優秀読手賞 全日本かるた協会長賞（全国第1位相当）
2	熊谷由美	郡山商業	商業	平成26年度全国電卓競技大会 個人総合優勝（全国第1位相当）、 第61回全国高等学校珠算・電卓競技大会 個人総合2等（全国第3位相当） 応用計算競技2等（全国2位相当）
3	鈴木　樹里	郡山商業	商業	平成26年度全国電卓競技大会 個人総合準優勝（全国第2位相当） 第61回全国高等学校珠算・電卓競技大会 個人総合2等（全国第2位相当） 伝票算競技優勝（全国第2位相当） 応用計算競技2等（全国第3位相当） 総合競技　個人　電卓の部　第3位（全国第3位相当） 全日本電卓競技大会 個人総合競技2位（全国第2位相当）
4	鈴木沙也加	郡山商業	商業	平成26年度全国電卓競技大会電卓の部 伝票算競技全国2等（全国第3位相当）
5	金成杏美	郡山商業	商業	平成26年度全国電卓競技大会電卓の部 伝票算競技全国2等（全国第2位相当）
6	長谷川真由	喜多方東	家庭	第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホームプロジェクト部門 文部科学大臣賞（全国第1位相当）
7	古川のどか	郡女大附	弁論	第62回全国高等学校決勝弁論大会個人の部 準優勝（群馬県議会長賞）（全国第2位相当）
8	渡辺愛美	福島西	書道	第23回国際高校生選抜書展 大賞（全国第3位相当）

(ｳ)　優秀指導者

No.	氏名	所属校名	専門部	指導歴等
1	中西良夫	郡山商業	商業	通算指導歴16年
2	高澤俊郎	郡山養護	特別支援	通算指導歴26年
3	石井路子 （退職）	いわき総合	演劇	高校演劇東北大会に福島県代表出場（13回）、全国高等学校演劇大会（静岡総文）出場（優秀賞） 福島総文祭プレ大会のシナリオ作成メンバー 現在は福島県を離れ、大阪府大手門学院中・高等学校に勤務

第３節　文化財の愛護と伝統文化の継承

１　文化財保護体制の充実

(1)　指定文化財保護体制の充実(文化財パトロール)

例年、文化財保護の万全を期すため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めてきた。平成26年度も巡視対象地区を14地区に編成して実施した。

(2)　文化財保護指導者講習会

ア　趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、県文化財センター白河館が実施主体となり、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

イ　期日及び場所

平成26年9月3日(水)～4日(木)

福島市

ウ　内容

(ｱ) 講義内容及び講師

a　「宮畑遺跡の整備と活用」

福島市教育委員会文化課課長補佐　齋藤義弘

b　「震災復興に伴う文化財保護行政の現状」

文化財課 副課長(兼)専門文化財主査 佐藤耕三

(ｲ) 現地研修

a　「近世ふくしまの夜明け」展示見学

b　解説「歴史資料館の収蔵資料と利用法」

c　宮畑遺跡史跡公園見学

(3)　市町村文化行政担当者会議

ア　趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的として開催した。

イ　期日及び場所

平成26年6月3日（火）本庁舎正庁

ウ　内容

(ｱ) 文化行政の動向

(ｲ) 平成26年度事業について

(ｳ) 指定文化財の対応について

２　埋蔵文化財の保護の充実

(1)　埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっており、福島県教育委員会は、埋蔵文化財（遺跡）についても保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。平成26年度は、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査の他府県市教育委員会から６名の派遣を受けて、文化財課の体制を強化した。

他府県市からの派遣

派遣期間	府　県　市　名
H26.4～H27.3	京都府、福岡県、沖縄県、 茨城県、高知県、さいたま市

また、(財) 福島県文化振興財団遺跡調査部においては、事業団職員21名、派遣教員５名、財団間出向職員５名、嘱託職員７名、計38名で調査にあたった。

福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

年度	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
人員	26	26	30	40	44	47	47	55	60	60	62	62	62	62
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人員	62	62	68	68	76	61	39	40	40	40	41	41	38	32
年度	22	23	24	25	26									
人員	26	26	35	40	39									

(平成14年度までは遺跡調査課定数)

(2)　開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」の結果により、②事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、③現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

ア　分布調査

分布調査は、開発地内の表面調査・試掘調査を行い、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

試掘調査は、一般国道 115号相馬福島道路15箇所66,750㎡、会津縦貫南道路 1箇所 600㎡、一般国道 118号バイパス 1箇所 150㎡、一般国道 289号南倉沢バイパス 1箇所 700㎡を実施した。

イ　保存協議

昨年度の継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

常磐自動車道事業、会津縦貫北道路、会津縦貫南道路、一般国道 115号相馬福島道路、一般国道 118号バイパス、一般国道 289号南倉沢バイパスの各事業関係機関、国道・県道の工事事務所等。

ウ　発掘調査

福島県教育委員会では、開発に伴う発掘調査（記録保存調査）を（財）福島県文化振興財団に委託した。調査した遺跡は下記のとおり。

・常磐自動車道相馬工区：南狼沢Ａ遺跡（新地町）
2,500㎡

・会津縦貫北道路：西木流Ｄ遺跡他２遺跡(会津若松市)
24,500㎡

・一般国道115号相馬福島道路霊山道路向山遺跡他１遺跡(伊達市,相馬市
6,550㎡

・一般国道115号相馬福島道路(相馬~相馬西間):東羽黒平遺跡(相馬市)
500㎡

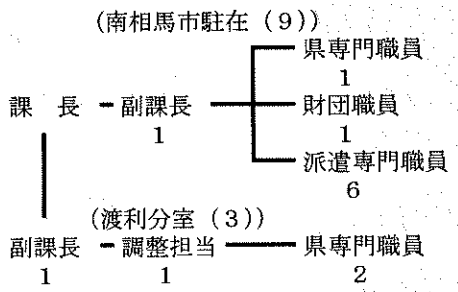
なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査が各市町村教育委員会によって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時福島県教育委員会が指導助言している。

(3) 平成２６年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

昨年度に引き続き、県の復興調査態勢を強化し、県営ほ場再整備事業、道路改良や防災関連事業、土取り場候補地に係る埋蔵文化財の分布調査から試掘、確認調査まで迅速に実施し、遅れのない復興事業計画に対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、専門職員所在の有無に関わらず技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈平成２６年度〉復興調査体制



実施した調査は以下のとおりである。

ア　分布調査
再ほ場整備、土取り場候補地、海岸防災林
約１３２万㎡

イ　試掘確認調査
再ほ場整備、土取り場候補地、海岸防災林
約９１万㎡

ウ　本調査(文化振興財団委託)
農山漁村等復興基盤総合整備事業(原町第１地区)
県道北泉小高線整備事業
県道広野小高線整備事業
浅見川地区防災緑地整備事業
約３９，０００㎡

エ　災害復興に係る市町村技術協力
①　南相馬市
防集移転、災害公営住宅、罹災者住宅、市内再開発関連等に係る試掘確認調査及び本調査
②　浪江町
墓地公園、防災集団移転、防災用道路に係る分布調査及び試掘確認調査
③　広野町
災害公営住宅、土取場、駅再開発事業に係る分布調査及び本発掘調査
④　楢葉町
駅東側開発関連試掘調査
⑤　大熊町
土取場候補地関連、メガソーラー、東電宿舎、給食センターに係る分布調査及び試掘確認調査
⑥　川内村
メガソーラー関連試掘調査
⑦　いわき市
復興公営住宅関連試掘確認調査

(4) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

ア　福島県文化財センター白河館文化財研修
「福島県埋蔵文化財発掘技術者研修会」を、(財）福島県文化振興財団へ委託し、福島県文化財センター白河館研修事業とし実施している。

イ　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修
平成26年度研修を受けた者は、以下のとおり。

研修名称	期　日	受　講　者
保存科学基礎	10月16日～	二本松市
Ⅱ課程	10月24日	1名
文化財写真課程	1月13日～	公財文化振興財団
	1月23日	1名
		福島県文化財センター
		1名

(5) 埋蔵文化財保護普及活動

平成26年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

ア　福島県内遺跡分布調査報告21
イ　会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告14
ウ　会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告15
エ　阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査報告書3
オ　常磐自動車道遺跡調査報告71
カ　常磐自動車道遺跡発掘調査72
キ　一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告1
ク　一般国道115相馬福島道路遺跡発掘調査報告号2
ケ　東日本大震災復興関連遺跡調査報告1

(6) 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により（公財）福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

平成26年度の技術協力の実績は、以下のとおり。

市町村	遺　跡　名	協　力　内　容
福島市	福島城跡	確認調査
川俣町	後庵館跡遺跡	確認調査
国見町	長障子遺跡	調査指導
浅川町	新町遺跡	確認調査
西郷村	中原遺跡	確認調査
矢祭町	上野内遺跡	本発掘調査・報告書作成支援
金山町	石神平遺跡	確認調査
下郷町	道路建設予定地	分布調査
南相馬市	東町遺跡	本発掘調査
南相馬市	上渋佐原田遺跡	本発掘調査・報告書作成支援
川内村	平伏森遺跡	確認調査
川内村	糠塚遺跡	確認調査
浪江町	道路建設予定地	分布調査
浪江町	遺跡推定地	試掘調査
浪江町	遺跡推定地	試掘調査
楢葉町	高橋遺跡	確認調査
楢葉町	堂ノ前遺跡	確認調査
広野町	桜田Ⅳ遺跡隣接地	試掘調査
広野町	桜田Ⅳ遺跡	本発掘調査
広野町	柳町Ⅱ遺跡	本発掘調査
広野町	宮田条里遺跡	本発掘調査

(7)　文化財センター整備事業

福島県教育委員会が財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した発掘調査により出土した遺物の保存処理及び調査・研究については、渡利の県施設を活用し、福島県文化財センター整備事業の一機能として実施している。主な業務として金属製品や木製品等脆弱な出土文化財の保管管理と劣化防止措置、出土した遺物の整理・梱包
・搬送・文化財データベース入力を実施している。

(8)　平成２６年度開発事業に伴う試掘確認調査件数

（平成26年4月～27年3月）

No.	調査原因	県 北	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき	計
1	道路建設	18	4	1		2	8	3	36
2	河川・ダム・空港・港湾		1						1
3	学校建設								0
4	その他の建物	4	1						5
5	宅地造成・住宅等	57	62	1	1		23	13	157
6	都市計画等		5	1	1	1	24	2	34
7	公園造成など	1	1						2
8	ゴルフ場								0
9	農業関係		1				12	13	26
10	電気・ガス・水道	1		2	1		6	2	12
11	その他	4	11	2	1		14	1	33
	計	85	86	7	4	3	87	34	306

※　試掘確認調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの58件、市町村教育委員会が実施したもの248件です。

(9)　平成２６年度発掘調査件数

（平成26年4月～27年3月）

No.	調査原因	県 北	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき	計
1	道路建設	5	3		3		5	2	18
2	河川・ダム・空港・港湾								0
3	学校建設			1	1				2
4	その他の建物	3							3
5	宅地造成・住宅等						3	2	5
6	都市計画等		1		3	1	2	7	14
7	公園造成など								0
8	ゴルフ場								0
9	農業関係				4				4
10	電気・ガス・水道								0
11	その他		2		1		1		4
	小　　計	8	6	1	12	1	11	11	50
12	史跡整備	7		5	6				18
13	学術調査				2				2
	合　　計	15	6	6	20	1	11	11	70

※　発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したもの11件、市町村教育委員会が実施したもの59件、
大学等研究機関が実施したもの2件です。

※　史跡整備等には、史跡整備・遺跡整備・保存目的の範囲内容確認調査が含まれます。

(10)平成26年度開発事業に伴う試掘調査(周知の遺跡)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	台畑遺跡	福島市丸子字四反田	福島市教委	4月14日～4月16日	851㎡	8㎡	縄文～平安	散布地・集落跡・水田跡	個人住宅
2	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字杉ノ内	福島市教委	4月25日	470㎡	2㎡	縄文・平安	散布地・集落	個人住宅
3	越田G遺跡	福島市松川町字沼袋戸ノ内	福島市教委	5月12日～5月13日	637㎡	9㎡	縄文	散布地	個人住宅
4	福島城跡	福島市上町	福島市教委	5月13日～5月16日	748㎡	38㎡	中世～近世	城館跡	その他建物
5	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑	福島市教委	5月14日～6月6日	4,000㎡	314㎡	奈良・平安	城館跡・集落	宅地造成
6	御山千軒遺跡	福島市御山字中屋敷	福島市教委	5月19日～5月30日	936㎡	100㎡	奈良・平安	集落跡	宅地造成
7	勝口前畑遺跡	福島市野田町字中ノ町	福島市教委	5月26日	265㎡	2㎡	弥生～近世	散布地・集落	住宅
8	沖町遺跡	福島市渡利字馬場	福島市教委	5月26日～5月27日	560㎡	8㎡	縄文・弥生・平安	散布地・集落跡	その他開発
9	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	6月4日～6月13日	239㎡	18㎡	縄文～近世	散布地・集落跡	個人住宅
10	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	6月10日～6月30日	1,462㎡	113㎡	縄文～近世	散布地・集落跡	その他建物
11	高畑遺跡	福島市南矢野目字道下	福島市教委	6月11日	511㎡	18㎡	平安・近世	集落・散布地	個人住宅
12	勝口前畑遺跡	福島市野田町字加賀屋敷	福島市教委	6月17日	351㎡	8㎡	弥生～近世	集落・散布地	住宅
13	勝口前畑遺跡	福島市野田町字加賀屋敷	福島市教委	6月17日～6月18日	968㎡	4㎡	弥生～近世	集落・散布地	個人住宅
14	南舘遺跡	福島市南沢又字中條	福島市教委	6月24日～6月27日	558㎡	36㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
15	二ツ石遺跡	福島市黒岩字竹ノ内	福島市教委	7月3日～7月7日	1,324㎡	10㎡	縄文～平安	散布地・集落跡	その他建物
16	堂宮敷遺跡	福島市小倉寺字堂宮敷	福島市教委	7月15日～7月17日	353㎡	20㎡	平安	散布地	個人住宅
17	北五老内遺跡	福島市北五老内町	福島市教委	7月16日～7月22日	230㎡	13㎡	奈良・平安	都衙跡？	個人住宅
18	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	7月23日～7月25日	376㎡	8㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
19	勝口前畑遺跡	福島市野田町字加賀屋敷	福島市教委	7月30日	204㎡	2㎡	弥生～近世	集落跡・水田跡	個人住宅
20	勝口前畑遺跡	福島市八島田字樋ノ口	福島市教委	7月30日～8月21日	815㎡	8㎡	弥生～近世	集落跡・水田跡	宅地造成
21	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字岩田	福島市教委	7月31日～8月18日	342㎡	2㎡	縄文・平安	散布地・集落跡	個人住宅
22	勝口前畑遺跡	福島市野田町字道端	福島市教委	8月29日～9月1日	349㎡	4㎡	弥生～近世	集落跡・水田跡	個人住宅
23	春日館跡	福島市渡利字前山	福島市教委	9月4日～9月10日	356㎡	20㎡	中世	城館跡	個人住宅
24	二ツ石遺跡	福島市鳥谷野字二ツ石	福島市教委	9月16日～9月30日	754㎡	40㎡	縄文～平安	散布地・集落跡	個人住宅兼工場または店舗
25	北五老内遺跡	福島市旭町	福島市教委	9月29日～10月1日	622㎡	51㎡	平安	散布地	個人住宅
26	鎌田舘跡	福島市鎌田字古館ほか	福島市教委	10月1日～10月2日	264㎡	14㎡	中世	城館跡	個人住宅
27	東原遺跡	福島市松川町沼袋字戸ノ内ほか	福島市教委	10月8日～10月17日	3,000㎡	140㎡	縄文	散布地	宅地造成
28	勝口前畑遺跡	福島市野田町字中ノ町	福島市教委	10月18日	214㎡	2㎡	弥生～平安	集落跡、水田跡	個人住宅
29	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	11月4日～11月10日	2,300㎡	140㎡	近世	城館跡	その他建物
30	茶中遺跡	福島市上鳥渡字茶中	福島市教委	11月5日～11月7日	776㎡	20㎡	古墳～平安	散布地・集落跡	宅地造成
31	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	11月19日～12月2日	638㎡	42㎡	古墳～中世	社寺跡	個人住宅
32	二ツ石遺跡	福島市鳥谷野字二ツ石	福島市教委	12月2日～12月4日	1,378㎡	30㎡	縄文～弥生	散布地、集落跡	住宅
33	本内館跡	福島市本内字南古舘	福島市教委	12月3日～12月8日	192㎡	4㎡	中世	城館跡	個人住宅
34	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	12月22日	452㎡	4㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
35	春日館跡	福島市渡利字舘	福島市教委	1 月 14 日	536 ㎡	6 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
36	鳥谷野館跡	福島市鳥谷野字宮畑	福島市教委	2 月 10 日 ～ 3 月 18 日	961 ㎡	64 ㎡	中世	城館跡	宅地造成
37	富塚前遺跡	福島市丸子字富塚前	福島市教委	2 月 20 日 ～ 3 月 13 日	2,170 ㎡	173 ㎡	古代・中世	散布地	宅地造成
38	岩田遺跡	福島市鳥谷野字岩田	福島市教委	2 月 25 日	194 ㎡	1 ㎡	縄文・古墳・平安	集落跡	個人住宅
39	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下	福島市教委	3 月 20 日 ～ 3 月 26 日	528 ㎡	38 ㎡	縄文～近世	散布地・集落跡	個人住宅
40	小森館跡	福島市丸子字中町裏	福島市教委	3 月 25 日 ～ 3 月 27 日	963 ㎡	34 ㎡	中世	城館跡	住宅
41	後庵舘跡遺跡	川俣町字舘	川俣町教委	11 月 19 日 ～ 11 月 20 日	200 ㎡	46 ㎡	縄文	散布地	道路
42	清水内館跡	伊達氏梁川町大字清水	伊達市教委	5 月 8 日 ～ 5 月 26 日	9,160 ㎡	91 ㎡	中世	城館跡	メガソーラー
43	江越遺跡	伊達市梁川町八幡字宮下	伊達市教委	6 月 3 日 ～ 7 月 24 日	6,219 ㎡	160 ㎡	平安	散布地	史跡周辺整備工事
44	長倉館跡	伊達市本町	伊達市教委	6 月 24 日	2,040 ㎡	1 ㎡	中世	城館跡	共同住宅
45	金秀寺遺跡	伊達市宮前	伊達市教委	7 月 23 日	469 ㎡	8 ㎡	縄文・平安	散布地	集合住宅
46	金秀寺遺跡	伊達市宮前	伊達市教委	8 月 1 日	1,075 ㎡	2 ㎡	縄文・平安	散布地	宅地造成
47	小梁川館跡	伊達市梁川町字小梁川	伊達市教委	8 月 19 日	5,123 ㎡	20 ㎡	中世	城館跡	運動場建設工事
48	堂庭遺跡	伊達市梁川町八幡字堂庭	伊達市教委	10 月 1 日 ～ 11 月 11 日	495 ㎡	33 ㎡	平安～中世	散布地	個人住宅
49	保原城跡	伊達市保原町字城ノ内	伊達市教委	11 月 17 日 、 27 日 28 日	3,000 ㎡	23 ㎡	中世	城館跡	駐車場整備
50	根田遺跡	伊達市字根田	伊達市教委	12 月 2 日	196 ㎡	6 ㎡	平安	散布地	個人住宅
51	金秀寺遺跡	伊達市前川原	伊達市教委	12 月 5 日	431 ㎡	17 ㎡	縄文・平安	散布地	道路拡幅
52	榎内遺跡	伊達市上保原字榎内	伊達市教委	12 月 24 日	320 ㎡	4 ㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
53	山崎条里遺構	国見町大字山崎字下亀田	国見町教委	11 月 26 日	8,221 ㎡	360 ㎡	古代	その他(条里跡)	その他開発
54	山崎条里遺構	国見町大字山崎字深町	国見町教委	11 月 28 日	875 ㎡	875 ㎡	古代	その他(条里跡)	個人住宅
55	馬場平遺跡	二本松市馬場平	二本松市教委	4 月 14 日 ～ 4 月 15 日	204 ㎡	30 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	個人住宅
56	根柄山遺跡	二本松市油井字根柄山	二本松市教委	4 月 16 日 ～ 5 月 16 日	1,800 ㎡	83 ㎡	縄文・奈良～平安	集落跡	災害公営住宅
57	郡山台遺跡	二本松市姫子松	二本松市教委	8 月 25 日 ～ 8 月 29 日	1,183 ㎡	114 ㎡	奈良～平安	集落跡・官衙跡	集合住宅
58	二ノ丁A遺跡	二本松市郭内	二本松市教委	9 月 1 日 ～ 9 月 19 日	2,752 ㎡	149 ㎡	近世	武家屋敷	宅地造成
59	南町遺跡	大玉村玉井字馬場	大玉村教委	5 月 9 日	231 ㎡	23 ㎡	弥生～奈良	散布地	個人住宅
60	稲荷免遺跡	大玉村大山字大畑	大玉村教委	5 月 9 日	358 ㎡	69 ㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
61	稲荷免遺跡	大玉村大山字大畑	大玉村教委	7 月 14 日	420 ㎡	51 ㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
62	三合目遺跡	大玉村大山字三合目	大玉村教委	8 月 20 日	595 ㎡	65 ㎡	平安	散布地	個人住宅
63	三合目遺跡	大玉村大山字三合目	大玉村教委	8 月 20 日	276 ㎡	32 ㎡	平安	散布地	個人住宅
64	久遠壇遺跡	大玉村大山字木ノ下	大玉村教委	8 月 20 日	2,461 ㎡	174 ㎡	古墳	古墳	住宅
65	薄黒内B遺跡	大玉村玉井字薄黒内	大玉村教委	10 月 28 日	401 ㎡	3 ㎡	古墳～中世	散布地	個人住宅
66	行屋遺跡	大玉村大山字仲ノ沢	大玉村教委	11 月 13 日	495 ㎡	62 ㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
67	関畑遺跡	本宮市荒井字関畑	本宮市教委	4 月 21 日	359 ㎡	20 ㎡	奈良～平安	散布地・集落跡	宅地造成
68	本宮田中館跡	本宮市本宮字万世	本宮市教委	3 月 28 日	1,889 ㎡	8 ㎡	中世	城館跡	宅地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
69	池向遺跡	郡山市富久山町八山田字一本橋	郡山市教委	4月10日～4月14日	4,617㎡	19㎡	平安	散布地	その他開発
70	平館跡	郡山市田村町金屋字荻ノ久保	郡山市教委	4月16日	749㎡	28㎡	中世	城館跡	住宅
71	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	4月17日	726㎡	42㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
72	天神南遺跡	郡山市富田第二土地区画整理事業地内	郡山市教委	4月18日	458㎡	25㎡	古墳～平安	散布地	住宅
73	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	4月21日	410㎡	19㎡	奈良・平安	官衛跡	その他建物
74	阿良久遺跡	郡山市大槻町字花輪前	郡山市教委	4月23日	2,277㎡	70㎡	奈良・平安	散布地	宅地造成
75	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字柿内戸	郡山市教委	5月7日	916㎡	49㎡	縄文～平安	散布地	住宅
76	麓山遺跡	郡山市富久山町久保田字麓山	郡山市教委	5月8日	1,017㎡	49㎡	平安	散布地	個人住宅
77	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷	郡山市教委	5月12日	330㎡	35㎡	奈良・平安	散布地	住宅
78	花輪瓦窯跡	郡山市大槻町字御前東	郡山市教委	5月16日	185㎡	22㎡	奈良	窯跡	その他開発
79	宮前遺跡	郡山市大槻町字中柵	郡山市教委	5月19日～5月20日	1,987㎡	66㎡	縄文	散布地	宅地造成
80	照内遺跡	郡山市富久山町福原字照内	郡山市教委	5月26日～5月28日	871㎡	81㎡	奈良・平安	散布地	その他開発
81	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字町田	郡山市教委	5月30日	924㎡	49㎡	縄文～平安	散布地	住宅
82	並木遺跡	郡山市並木	郡山市教委	6月3日	1,179㎡	36㎡	縄文・平安	散布地	住宅
83	堤三丁目遺跡	郡山市堤	郡山市教委	6月10日	227㎡	17㎡	平安	散布地	住宅
84	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田字水神山	郡山市教委	6月11日	677㎡	12㎡	縄文	散布地	その他開発
85	古町遺跡	郡山市富久山町久保田字古町	郡山市教委	6月17日	442㎡	21㎡	古墳～平安	散布地	住宅
86	堀切西遺跡	郡山市大槻町字堀切西	郡山市教委	6月18日	192㎡	8㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
87	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	6月19日	429㎡	28㎡	古墳	散布地	宅地造成
88	下西田遺跡	郡山市大槻町字針生	郡山市教委	6月24日～6月25日	2,645㎡	117㎡	古墳	散布地	宅地造成
89	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字西宮前	郡山市教委	6月26日	245㎡	14㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
90	堤三丁目遺跡	郡山市堤	郡山市教委	6月26日	360㎡	25㎡	平安	散布地	個人住宅
91	阿弥陀壇古墳群	郡山市柏山町	郡山市教委	7月2日	577㎡	28㎡	古墳	古墳	個人住宅
92	登戸遺跡	郡山市富田東土地区画整理事業地内	郡山市教委	7月8日	299㎡	14㎡	平安	散布地	その他開発
93	大根畑遺跡	郡山市安積町荒井字下権現山	郡山市教委	7月15日	111㎡	5㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
94	下権現遺跡	郡山市荒井北井土地区画整理事業地内	郡山市教委	7月15日	661㎡	28㎡	縄文～平安	散布地	宅地造成
95	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字町田	郡山市教委	7月16日	785㎡	52㎡	縄文～平安	散布地	宅地造成
96	咲田遺跡	郡山市咲田	郡山市教委	7月17日	929㎡	52㎡	縄文・平安	散布地	住宅
97	下西田遺跡	郡山市大槻町字下西田	郡山市教委	7月22日	213㎡	8㎡	古墳	散布地	個人住宅
98	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字久保田	郡山市教委	7月23日	443㎡	5㎡	古墳～平安	散布地	住宅
99	向館跡	郡山市富田町字向舘	郡山市教委	7月28日～7月29日	2,400㎡	154㎡	中世	城館跡	住宅
100	咲田遺跡	郡山市咲田	郡山市教委	8月1日	1,183㎡	42㎡	縄文・平安	散布地	宅地造成
101	谷地林遺跡	郡山市台新	郡山市教委	8月4日	392㎡	18㎡	古墳	散布地	個人住宅
102	八雲遺跡	郡山市荒井北井土地区画整理事業地内	郡山市教委	8月5日	1,030㎡	46㎡	古墳～平安	散布地	宅地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
103	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	8 月 7 日	843 ㎡	15 ㎡	古墳	散布地	住宅
104	香久池遺跡	郡山市香久池	郡山市教委	8 月 20 日	594 ㎡	37 ㎡	弥生	散布地	個人住宅
105	水見台遺跡	郡山市桜木	郡山市教委	8 月 29 日	244 ㎡	14 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	個人住宅
106	片平城跡	郡山市片平町字上舘	郡山市教委	9 月 3 日 ～ 9 月 11 日	4,268 ㎡	311 ㎡	中世	城館跡	宅地造成
107	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字蚕沢	郡山市教委	9 月 10 日	1,061 ㎡	28 ㎡	縄文～平安	散布地	住宅
108	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字宮田	郡山市教委	9 月 16 日 ～ 9 月 17 日	3,033 ㎡	108 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
109	向館跡	郡山市富田町字向舘	郡山市教委	9 月 24 日	2,958 ㎡	154 ㎡	中世	城館跡	宅地造成
110	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字郷花	郡山市教委	9 月 29 日	609 ㎡	35 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
111	登戸遺跡	郡山市富田東土地区画整理事業地内	郡山市教委	9 月 30 日	6,879 ㎡	24 ㎡	平安	散布地	宅地造成
112	福楽沢遺跡	郡山市大槻町字古屋敷	郡山市教委	10 月 20 日	301 ㎡	13 ㎡	弥生～奈良	散布地	個人住宅
113	辰巳田遺跡	郡山市静町	郡山市教委	10 月 20 日	254 ㎡	14 ㎡	平安	散布地	個人住宅
114	菜根屋敷遺跡	郡山市字菜根屋敷	郡山市教委	10 月 23 日	1,300 ㎡	13 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
115	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	10 月 27 日	413 ㎡	14 ㎡	奈良・平安	官衛跡	住宅
116	清水台遺跡	郡山市咲田	郡山市教委	10 月 28 日	1,194 ㎡	32 ㎡	奈良・平安	官衛跡	宅地造成
117	大十内遺跡	郡山市片平町字大山南	郡山市教委	10 月 29 日	1,240 ㎡	54 ㎡	平安	散布地	宅地造成
118	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字鶴番	郡山市教委	10 月 30 日	2,138 ㎡	84 ㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
119	桃見台遺跡	郡山市桃見台	郡山市教委	11 月 5 日	186 ㎡	8 ㎡	旧石器～平安	散布地	個人住宅
120	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷	郡山市教委	11 月 6 日	597 ㎡	14 ㎡	奈良・平安	散布地	住宅
121	三御堂A遺跡	郡山市富久山町久保田字三御堂	郡山市教委	11 月 7 日	570 ㎡	14 ㎡	平安	散布地	住宅
122	二本木遺跡	郡山市大槻町字川廻	郡山市教委	11 月 7 日	152 ㎡	14 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
123	北ノ沢遺跡	郡山市熱海町上伊豆島字北ノ沢	郡山市教委	11 月 11 日 ～ 12 月 8 日	3,000 ㎡	91 ㎡	縄文・中世	散布地	その他開発
124	西原遺跡	郡山市富久山町福原字西原	郡山市教委	11 月 19 日 ～ 11 月 20 日	1,363 ㎡	78 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	道路
125	薬師堂遺跡	郡山市横塚	郡山市教委	11 月 21 日	2,261 ㎡	24 ㎡	縄文～平安	散布地	工場
126	上之内遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	12 月 4 日	278 ㎡	14 ㎡	平安	散布地	個人住宅
127	丸山遺跡	郡山市安積町成田字東丸山	郡山市教委	12 月 9 日	5,000 ㎡	11 ㎡	古墳～平安	散布地	公園造成
128	虎丸遺跡	郡山市虎丸町	郡山市教委	12 月 11 日	872 ㎡	22 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	住宅
129	大槻城跡	郡山市大槻町字熊野木	郡山市教委	12 月 15 日	487 ㎡	11 ㎡	中世	城館跡	住宅
130	横塚二丁目遺跡	郡山市横塚	郡山市教委	12 月 15 日	152 ㎡	6 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
131	清水台遺跡	郡山市清水台	郡山市教委	1 月 13 日	231 ㎡	27 ㎡	奈良・平安	官衛跡	住宅
132	薬師堂遺跡	郡山市横塚	郡山市教委	1 月 21 日	558 ㎡	22 ㎡	縄文～平安	散布地	店舗
133	清水台遺跡	郡山市清水台	郡山市教委	1 月 26 日	192 ㎡	30 ㎡	奈良・平安	官衛跡	個人住宅
134	川田下館跡	郡山市三穂田町川田字柿ノ木	郡山市教委	1 月 29 日	115 ㎡	8 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
135	山王林遺跡	郡山市富田町字山王林	郡山市教委	2 月 4 日	180 ㎡	9 ㎡	平安	散布地	個人住宅
136	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷	郡山市教委	2 月 13 日	476 ㎡	11 ㎡	奈良・平安	散布地	住宅

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
137	福原遺跡	郡山市富久山町福原字福原	郡山市教委	2 月 17 日	2,806 ㎡	48 ㎡	古墳～中世	散布地	その他開発
138	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷	郡山市教委	2 月 20 日	743 ㎡	28 ㎡	奈良・平安	散布地	店舗
139	長久保遺跡	郡山市安積町長久保	郡山市教委	2 月 24 日	875 ㎡	18 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅
140	阿良久遺跡	郡山市大槻町字花輪	郡山市教委	2 月 25 日	182 ㎡	13 ㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
141	笹川館跡	郡山市安積町笹川字篠川	郡山市教委	3 月 12 日	194 ㎡	7 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
142	下西田遺跡	郡山市大槻町字下西田	郡山市教委	3 月 17 日 ～ 3 月 18 日	4,597 ㎡	210 ㎡	古墳	散布地	宅地造成
143	大根畑遺跡	郡山市久留米	郡山市教委	3 月 20 日	1,619 ㎡	28 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
144	堀込遺跡	郡山市日和田町字堀込	郡山市教委	3 月 24 日	608 ㎡	13 ㎡	平安	散布地	個人住宅
145	徳定A・B遺跡	郡山市田村町字徳定字古屋敷	郡山市教委	3 月 27 日	500 ㎡	12 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
146	須賀川城跡	須賀川市加治町	須賀川市教委	5 月 7 日 ～ 5 月 9 日	3,700 ㎡	152 ㎡	中世	城館跡	公共施設建設
147	下宿寺院跡	須賀川市森宿字下宿	須賀川市教委	12 月 17 日	235 ㎡	28 ㎡	中世	社寺跡	集合住宅
148	古屋敷遺跡	須賀川市古屋敷	須賀川市教委	1 月 6 日	1,050 ㎡	184 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	河川改修
149	藤田城跡	石川町大字中野字堀ノ内	石川町教委	3 月 12 日 ～ 3 月 13 日	1 ㎡	1 ㎡	中世	城館跡	史跡整備
150	新町遺跡	浅川町大字東大畑字大名大塚	浅川町教委	11 月 25 日 ～ 11 月 28 日	1,000 ㎡	80 ㎡	古墳、平安	散布地	道路
151	余平田遺跡	田村市常葉町山根字余平田	田村市教委	8 月 4 日 ～ 8 月 8 日	4,700 ㎡	200 ㎡	縄文	散布地	工場建設
152	常葉平館跡	田村市常葉町常葉字平舘	田村市教委	3 月 16 日 ～ 3 月 27 日	980 ㎡	200 ㎡	中世	城館跡	道路(県道)
153	小峰城跡	白河市郭内	白河市教委	4 月 28 日	2,250 ㎡	9 ㎡	中世・近世	城館跡	公共施設改築
154	町屋遺跡	白河市大信町屋字町屋	白河市教委	11 月 6 日 ～ 11 月 28 日	1,110 ㎡	63 ㎡	縄文・古墳～平安	集落跡	道路(国道294号線)
155	白川城跡	白河市藤沢山ほか	白河市教委	4 月 21 日 ～ 3 月 31 日	㎡	395 ㎡	中世	城館跡	範囲・内容確認調査
156	向原・中原遺跡	西郷村大字米字向原・間の原・中山前・中山下	西郷村教委	5 月 26 日 ～ 5 月 27 日	1,100 ㎡	100 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	宅地造成
157	笹目平舘跡	矢吹町堰の上	矢吹町教委	11 月 13 日 ～ 11 月 13 日	9,900 ㎡	3 ㎡	中世	城館跡	メガソーラー
158	花園館跡	棚倉町大字上台字調練場	棚倉町教委	5 月 21 日 ～ 5 月 30 日	150 ㎡	40 ㎡	中世・近世	城館跡	ソーラーパネル
159	熊ノ坂遺跡	棚倉町大字瀬ヶ野字熊ノ坂	棚倉町教委	9 月 11 日 ～ 9 月 17 日	6,000 ㎡	16 ㎡	縄文	散布地	その他開発
160	白津遺跡	耶麻郡猪苗代町大字八幡字元屋敷	猪苗代町教委	7 月 24 日 ～ 7 月 26 日	315 ㎡	26 ㎡	縄文・平安・近世	散布地	個人住宅
161	上野尻遺跡	耶麻郡西会津町上野尻字下沖ノ原乙	西会津町教委	8 月 7 日 ～ 8 月 10 日	36 ㎡	36 ㎡	縄文	住居跡	消雪施設 水源調査
162	高田館跡	会津美里町字新布才地	会津美里町教委	10 月 15 日 ～ 10 月 31 日	60 ㎡	60 ㎡	平安・中世	城館跡	公共施設建設
163	石神平遺跡	大沼郡金山町大字中川字上野原	金山町教委	7 月 15 日	40 ㎡	5 ㎡	縄文	散布地	鉄塔建替
164	田島陣屋跡(寛政期) 法花寺跡	南会津町田島字中町甲	南会津町教委	4 月 21 日 ～ 4 月 22 日	1,000 ㎡	106 ㎡	近世・中世	その他社寺跡	公共施設建設
165	北原遺跡	相馬市椎木字北原	相馬市教委	7 月 7 日	315 ㎡	20	奈良・平安	散布地	個人住宅
166	原釜金草遺跡	相馬市原釜字金草・荒田	相馬市教委	9 月 17 日 ～ 10 月 10 日	5,000 ㎡	168	奈良・平安	製鉄跡	道路(市道)
167	山海道遺跡	新地町小川字ソリ畑	新地町教委	8 月 12 日 ～ 10 月 23 日	1,000 ㎡	140 ㎡	縄文・古墳	集落	アパート建築
168	沢入遺跡	新地町大字福田字沢入	新地町教委	12 月 17 日 ～ 1 月 30 日	2,400 ㎡	600 ㎡	奈良・平安	散布地	土砂採取
169	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	4 月 3 日	400 ㎡	12 ㎡	縄文～古墳	集落跡	集合住宅
170	小島田舘跡	南相馬市鹿島区小島田字東立谷	南相馬市教委	4 月 15 日	1,313 ㎡	20 ㎡	城館跡	中世	個人住宅

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
171	三島町遺跡	南相馬市原町区三島町	南相馬市教委	4 月 22 日	236 ㎡	21 ㎡	古墳・奈良	散布地	集合住宅
172	前向遺跡	南相馬市原町区泉字前向	南相馬市教委	5 月 13 日 ～ 6 月 3 日	10,000 ㎡	174 ㎡	古墳～平安	集落跡	メガソーラー
173	入竜田遺跡	南相馬市原町区深野字入龍田	南相馬市教委	7 月 7 日 ～ 7 月 25 日	10,000 ㎡	327 ㎡	縄文・弥生	散布地	土砂採取
174	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	7 月 23 日 ～ 7 月 28 日	566 ㎡	45 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
175	泉舘跡	南相馬市原町区泉字舘前ほか	南相馬市教委	7 月 29 日 ～ 8 月 21 日	281,132 ㎡	540 ㎡	平安～近世	城館跡	その他の開発(除染仮置場)
176	角部内南台遺跡	南相馬市小高区角部内字南台	南相馬市教委	9 月 1 日 ～ 9 月 8 日	1,420 ㎡	95 ㎡	縄文～平安	集落跡製鉄跡	個人住宅
177	沢田舘跡	南相馬市原町区上高平字沢田	南相馬市教委	9 月 8 日	148 ㎡	8 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
178	荻原遺跡	南相馬市小高区羽倉字荻原	南相馬市教委	9 月 12 日	86 ㎡	12 ㎡	縄文	散布地	携帯電話基地局
179	大内舘跡	南相馬市鹿島区大内字南館下	南相馬市教委	10 月 9 日 ～ 10 月 10 日	9,748 ㎡	40 ㎡	中世	城館跡	土砂採取
180	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	10 月 28 日	452 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
181	内城遺跡	南相馬市原町区信田沢字堂館下	南相馬市教委	10 月 30 日	6,000 ㎡	20 ㎡	平安	散布地	土砂採取
182	今宮遺跡	南相馬市鹿島区栃窪字今宮	南相馬市教委	11 月 6 日 ～ 11 月 17 日	12,094 ㎡	260 ㎡	奈良・平安	散布地	工場建設
183	上渋佐原田遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	11 月 17 日	550 ㎡	270 ㎡	縄文～平安	集落跡	道路拡幅
184	深野舘跡	南相馬市原町区深野字舘	南相馬市教委	11 月 25 日 ～ 12 月 5 日	21,881 ㎡	117 ㎡	中世	城館跡	メガソーラー
185	真野古墳群A	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	11 月 27 日 ～ 12 月 6 日	953 ㎡	50 ㎡	古墳	古墳	個人住宅
186	谷中遺跡	南相馬市原町区下高平字谷中	南相馬市教委	12 月 1 日	1,148 ㎡	20 ㎡	弥生～平安	散布地	駐車場整備
187	浦尻貝塚	南相馬市小高区浦尻字南台	南相馬市教委	12 月 2 日 ～ 12 月 5 日	600 ㎡	40 ㎡	縄文～平安	貝塚集落跡	個人住宅
188	桜井C遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原畑	南相馬市教委	12 月 10 日	347 ㎡	16 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
189	梨木下西舘跡	南相馬市原町区大甕字塔場下	南相馬市教委	12 月 17 日 ～ 1 月 15 日	6,500 ㎡	130 ㎡	中世	城館跡	土砂採取
190	小山田古墳群	南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内	南相馬市教委	2 月 9 日 ～ 2 月 20 日	60,000 ㎡	12 ㎡	古墳	古墳	森林再生事業
191	榎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字北ノ内	南相馬市教委	2 月 26 日	466 ㎡	2 ㎡	縄文～古墳	散布地	個人住宅
192	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	3 月 2 日	566 ㎡	1 ㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
193	高見町B遺跡	南相馬市原町区高見町	南相馬市教委	3 月 16 日 ～ 3 月 23 日	495 ㎡	20 ㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
194	北新田本町遺跡	南相馬市原町区北新田字本町	南相馬市教委	3 月 17 日 ～ 3 月 18 日	2,253 ㎡	70 ㎡	弥生～平安	散布地	集合住宅
195	椴木沢C遺跡	南相馬市鹿島区浮田字椴木沢	南相馬市教委	3 月 24 日 ～ 3 月 27 日	4,500 ㎡	180 ㎡	弥生・平安	製鉄跡	駐車場増設
196	大平山A横穴墓群	浪江町大字請戸字北迫・小高瀬迫・南迫・後迫	浪江町教委	2 月 23 日 ～ 3 月 6 日	16,200 ㎡	1,600 ㎡	古墳・近世	横穴墓	道路(町道)
197	西平C遺跡	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	11 月 10 日 ～ 1 月 14 日	30,000 ㎡	1,595 ㎡	奈良・平安	散布地木炭窯跡	土砂採取
198	道平遺跡	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	1 月 14 日 ～ 1 月 29 日	25,000 ㎡	244 ㎡	縄文	散布地	メガソーラー
199	崇神山遺跡	楢葉町大字山田浜字シウ神山	楢葉町教委	12 月 10 日	7,036 ㎡	100 ㎡	弥生～平安	散布地	災害公営住宅建設
200	平伏森遺跡	川内村大字上川内字平伏森	川内村教委	9 月 8 日 ～ 9 月 11 日	47,600 ㎡	518 ㎡	縄文	散布地	メガソーラー
201	糠塚B・C・D・E遺跡	川内村大字上川内字糠塚	川内村教委	9 月 10 日 ～ 9 月 12 日	45,400 ㎡	152 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	メガソーラー
202	高橋遺跡	楢葉町大字井出字堂ノ前	楢葉町教委	10 月 15 日 ～ 11 月 10 日	16,000 ㎡	703 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地・集落跡	竜田駅東側開発
203	桜田Ⅳ遺跡	広野町大字下浅見川字桜田	広野町教委	8 月 25 日 ～ 8 月 26 日	1,300 ㎡	88 ㎡	縄文～平安	散布地	道路(町道)
204	桜田Ⅳ遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	10 月 27 日 ～ 10 月 31 日	1,400 ㎡	1,400 ㎡	縄文～平安	散布地	道路(町道)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
205	柳町Ⅰ遺跡	広野町大字下浅見川字柳町	広野町教委	10月27日～10月31日	2,100㎡	2,100㎡	縄文	散布地	道路(町道)
206	関山Ⅱ遺跡	広野町大字上北迫字関山	広野町教委	12月24日	4,280㎡	48㎡	古墳～平安	散布地	作業員宿舎建設
207	宮田条里遺跡	広野町大字下北迫字火の口	広野町教委	1月23日	2,245㎡	92㎡	奈良・平安	その他	福祉施設建設
208	柳町Ⅱ遺跡	広野町大字下浅見川字柳町	広野町教委	2月16日～2月20日	2,000㎡	940㎡	縄文	散布地	道路(町道)
209	磐出館跡	いわき市久之浜町久之浜字代	いわき市教委	4月14日～4月17日	6,654㎡	105㎡	古墳～平安	遺物包含層	宅地造成(災害公営住宅)
210	酒井酒井原遺跡	いわき市勿来町酒井酒井原、酒井上ノ台	いわき市教委	4月23日～5月7日	1,761㎡	174㎡	縄文、古墳、平安	集落跡	介護施設建設
211	酒井酒井原遺跡	いわき市勿来町酒井酒井原	いわき市教委	4月30日～5月8日	991㎡	150㎡	古墳、中・近世	集落跡	宅地造成
212	関根遺跡	いわき市勿来町酒井関根	いわき市教委	5月12日～5月20日	5,122㎡	301㎡	奈良・平安	散布地	宅地造成
213	五理内古墳	いわき市平下荒川字五理内、字剃町	いわき市教委	6月2日～6月23日	13,270㎡	207㎡	古墳	古墳	宅地造成
214	金山遺跡	いわき市常磐西郷町金山	いわき市教委	6月10日～6月20日	1,470㎡	176㎡	中世以前	散布地	宅地造成
215	志座遺跡	いわき市常磐関船町志座	いわき市教委	7月7日	400㎡	33㎡	中世以前	散布地	道路(市道)
216	久世原館跡	いわき市内郷御厩町番匠地	いわき市教委	7月7日	239㎡	8㎡	中世	城館跡	病院建設
217	平城跡	いわき市平字八幡小路	いわき市教委	9月9日～9月10日	2,184㎡	42㎡	近世	城館跡	復興公営住宅
218	関根遺跡	いわき市勿来町酒井関根	いわき市教委	9月12日～9月17日	120㎡	120㎡	弥生～平安	散布地	道路(市道)
219	平城跡	いわき市平字旧城跡	いわき市教委	9月16日～9月18日	266㎡	20㎡	奈良・平安・近世	城館跡	個人住宅
220	稲子塚B遺跡	いわき市泉町下川字稲子塚	いわき市教委	10月2日～10月3日	998㎡	74㎡	古墳、平安、近世	散布地	集合住宅
221	五理内古墳	いわき市平下荒川字五理内	いわき市教委	10月20日～11月9日	13,270㎡	24㎡	古墳	古墳	宅地造成
222	大館城跡A地区	いわき市好間町下好間字大館	いわき市教委	11月10日～11月18日	90㎡	88㎡	中世	城館跡	除染工事
223	平城跡	いわき市平字桜町	いわき市教委	12月11日～12月15日	481㎡	48㎡	近世	城館跡	宅地造成
224	平城跡	いわき市平字薬王寺台	いわき市教委	1月28日～2月4日	15,000㎡	179㎡	中世	城館跡	公園造成
225	天神林古墳	いわき市岩間町竹ノ花、川田	いわき市教委	2月2日～2月3日	201,942㎡	46㎡	現代	古墳	発電施設建設
226	磐出館跡	いわき市久之浜町久之浜字立	いわき市教委	3月3日～3月9日	686㎡	30㎡	不明	城館跡	個人住宅
227	余木田館跡	いわき市南台	いわき市教委	3月13日～3月16日	58㎡	23㎡	中世	城館跡	鉄塔建設
228	前柳館跡	伊達市月舘町御代田	福島県教委	5月20日	300㎡	40㎡	中世	城館跡	道路(相馬福島道路)
229	山岸遺跡	伊達市霊山町下小国	福島県教委	6月10日～6月16日	400㎡	32㎡	中世	城館跡	道路(相馬福島道路)
230	猪番場平遺跡	下郷町南倉沢	福島県教委	5月16日	700㎡	88㎡	縄文	散布地	道路(289号南倉沢バイパス)
231	脇遺跡①	南相馬市原町区北泉字脇	福島県教委	5月19日～6月23日	28,800㎡	369㎡	奈良・平安	集落	土取場候補地
232	脇遺跡②	南相馬市原町区北泉字脇	福島県教委	6月24日～7月10日	500㎡	45㎡	奈良・平安	集落	土取場候補地
233	湊遺跡	南相馬市原町区下渋佐字湊	福島県教委	7月14日～7月16日	3,100㎡	200㎡	—	—	海岸防災林
234	萱浜原畑遺跡	南相馬市原町区萱浜字原畑	福島県教委	8月6日～9月16日	2,050㎡	291㎡	奈良・平安	—	再ほ場整備
235	南才ノ上遺跡	南相馬市原町区萱浜字北才ノ上・南才ノ上	福島県教委	7月25日～8月5日	30,800㎡	537㎡	縄文～平安	集落	再ほ場整備
236	愛原遺跡	南相馬市原町区萱浜字愛原	福島県教委	7月23日～7月24日	6,200㎡	113㎡	奈良・平安	集落	再ほ場整備
237	五畝田・大道遺跡	南相馬市原町区牲字五畝田・大道	福島県教委	6月26日～7月11日	28,600㎡	414㎡	縄文・古墳	集落	再ほ場整備
238	深野宮前遺跡	南相馬市原町区深野字木戸内	福島県教委	9月10日～9月11日	6,000㎡	94㎡	—	—	再ほ場整備

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
239	滝ノ原窯跡	南相馬市原町区馬場字沢田	福島県教委	9月12日～9月16日	4,700㎡	82㎡	縄文・奈良・平安	—	再ほ場整備
240	川原田遺跡	南相馬市原町区馬場字川原田	福島県教委	9月17日～9月30日	18,000㎡	301㎡	奈良・平安	—	再ほ場整備
241	夏井廃寺跡	いわき市平下大越字岸前	福島県教委	1月13日～1月23日	36,800㎡	137㎡	奈良・平安	社寺跡	再ほ場整備
242	根岸遺跡	いわき市平下大越字根廻	福島県教委	1月20日～1月23日	2,000㎡	10㎡	奈良・平安	官衙跡	再ほ場整備
243	伊勢林遺跡	いわき市錦町勿来町四沢尾細	福島県教委	12月11日～12月12日	5,000㎡	13㎡	古墳	—	再ほ場整備

(11)平成26年度開発事業に伴う試掘調査(未周知範囲)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	下小国地区	伊達市霊山町下小国字荒屋敷	伊達市教委	9月5日	1,041㎡	14㎡			道路(相馬福島道路)
2	北条谷地区	二本松市郭内二丁目	二本松市教委	9月11日～9月19日	3,621㎡	128㎡	近世	武家屋敷	宅地造成
3	前田川地区	須賀川市前田川字虚空蔵・小豆田	須賀川市教委	1月19日～1月23日	6,700㎡	402㎡	古墳・中世	散布地	圃場整備事業
4	小高区東町地区	南相馬市小高区東町	南相馬市教委	8月27日	6,908㎡	69㎡			災害公営住宅
5	南海老地区	南相馬市鹿島区南海老字南町ほか	南相馬市教委	9月3日～3月27日	51,433㎡	1,600㎡	古墳～近世	集落跡	植物工場建設
6	塚原地区	南相馬市小高区塚原字一町田	南相馬市教委	9月9日	1,300㎡	26㎡			海岸防災林
7	小高区上町地区	南相馬市小高区上町	南相馬市教委	11月10日	4,574㎡	60㎡			災害公営住宅
8	高見町地区	南相馬市原町区高見町	南相馬市教委	11月12日	7,532㎡	10㎡			防災センター
9	上高平地区	南相馬市原町区上高平字高田	南相馬市教委	11月21日	3,990㎡	20㎡			個人住宅
10	小山田地区ほか	南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内ほか	南相馬市教委	12月15日～2月27日	81,782㎡	455㎡	縄文～平安	集落跡製鉄跡	土砂採取
11	深野地区	南相馬市原町区深野字入龍田	南相馬市教委	2月24日～2月25日	6,000㎡	3㎡			土砂採取
12	原町区栄町地区	南相馬市原町区栄町	南相馬市教委	3月3日～3月4日	5,632㎡	23㎡			災害公営住宅
13	請戸地区	浪江町大字請戸字北迫・小高瀬迫・南迫・後迫	浪江町教委	3月9日～3月12日	16,200㎡	1,600㎡	古墳・近世	横穴墓	道路
14	大川原地区	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	6月2日～6月24日	9,828㎡	244㎡	奈良・平安	散布地	給食センター
15	大川原地区	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	1月29日～2月27日	11,500㎡	374㎡	奈良・平安	散布地	植物工場
16	府ノ内地区	楢葉町大字下小塙字府ノ内	楢葉町教委	11月17日～11月18日	2,780㎡	395㎡			災害公営住宅建設
17	中満地区	楢葉町大字北田字中満	楢葉町教委	1月7日～1月9日	4,859㎡	4,859㎡			県立診療所敷地造成
18	堂ノ前遺跡	楢葉町大字井出字堂ノ前	楢葉町教委	12月11日～2月13日	44,000㎡	1,814㎡	縄文・奈良・平安	散布地・集落跡	竜田駅東側開発
19	高橋地区	楢葉町大字井出字高橋	楢葉町教委	2月16日～2月19日	46,000㎡	428㎡			竜田駅東側開発
20	沼ノ内地区	いわき市平沼ノ内字北街・平満磯字北ノ作	いわき市教委	1月22日～1月28日	68,000㎡	300㎡	奈良・平安	城館跡	県道改良工事
21	家ノ前地区	いわき市小川町高萩字家ノ前	いわき市教委	2月16日～2月23日	21,000㎡	306㎡	縄文	散布地	宅地造成
22	山上地区	相馬市山上字荒屋舗	福島県教委	10月6日～10月7日 12月8日～12月9日	2,650㎡	119㎡			道路(相馬福島道路)
23	山上地区	相馬市山上字横川	福島県教委	12月10日～12月12日	3,600㎡	158㎡	縄文	散布地	道路(相馬福島道路)
24	東玉野地区	相馬市東玉野字矢立沢	福島県教委	7月28日～8月7日 12月16日～12月22日	11,300㎡	531㎡			道路(相馬福島道路)
25	東玉野地区	相馬市東玉野字向山・町裏	福島県教委	4月24日～4月25日 6月17日～6月20日	1,600㎡	230㎡			道路(相馬福島道路)
26	石田地区	伊達市霊山町石田字庚申向	福島県教委	8月19日～9月10日	7,900㎡	379㎡	縄文	散布地	道路(相馬福島道路)
27	石田地区	伊達市霊山町石田字庚申向	福島県教委	8月28日～9月10日	2,400㎡	225㎡	奈良・平安	散布地	道路(相馬福島道路)
28	石田地区	伊達市霊山町石田字庚申向	福島県教委	9月11日～9月19日	2,200㎡	121㎡			道路(相馬福島道路)
29	下小国地区	伊達市霊山町下小国字山田入	福島県教委	6月3日～6月5日	3,400㎡	210㎡			道路(相馬福島道路)
30	下小国地区	伊達市霊山町下小国字山田入・前山	福島県教委	5月26日～6月3日	6,700㎡	328㎡			道路(相馬福島道路)
31	下小国地区	伊達市霊山町下小国字沼ヶ入・御蔵	福島県教委	6月20日～7月1日 12月1日～12月4日	9,900㎡	514㎡	奈良・平安	散布地	道路(相馬福島道路)
32	下小国地区	伊達市霊山町下小国字福田・桜町	福島県教委	5月1日～5月26日 6月17日～6月20日	2,700㎡	132㎡	奈良・平安	散布地	道路(相馬福島道路)

33	下小国地区	伊達市霊山町下小国字荒屋敷・桜町・沖	福島県教委	7 月 2 日 ～ 7 月 25 日	5,700 ㎡	313 ㎡			道路（相馬福島道路）
34	上保原地区	伊達市保原町上保原字将帰坂	福島県教委	10 月 20 日 ～ 10 月 31 日	6,000 ㎡	450 ㎡			道路（相馬福島道路）
35	高倚地区	下郷町高陣字下居平乙	福島県教委	11 月 4 日 ～ 11 月 12 日	600 ㎡	46 ㎡			道路（会津縦貫南道路）
36	蒲之内地区	鏡石町蒲之沢町	福島県教委	6 月 16 日	150 ㎡	11 ㎡			道路（118号バイパス）
37	磯部地区	相馬市磯部字芹谷地	福島県教委	6 月 10 日 ～ 6 月 13 日	14,200 ㎡	226 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	海岸防災林
38	蒲庭地区	相馬市蒲庭前迫	福島県教委	9 月 8 日	5,000 ㎡	30 ㎡			海岸防災林
*39	今田地区	相馬市今田字銭上平	福島県教委	7 月 24 日 ～ 8 月 27 日	44,000 ㎡	121 ㎡			土取場候補地
40	今田地区	相馬市今田字小殿山	福島県教委	9 月 10 日 ～ 10 月 9 日	61,000 ㎡	112 ㎡			土取場候補地
41	鹿島区南柚木地区	南相馬市鹿島区南柚木字矢ノ目川添	福島県教委	4 月 15 日	5,100 ㎡	20 ㎡			再ほ場整備
42	鹿島区北右田地区	南相馬市鹿島区北右田字高田	福島県教委	11 月 12 日 ～ 11 月 14 日	6,300 ㎡	87 ㎡			再ほ場整備
43	鹿島区北右田地区	南相馬市鹿島区北右田字八龍町・沼田	福島県教委	10 月 16 日 ～ 10 月 24 日	13,500 ㎡	385 ㎡	奈良～中世	集落	再ほ場整備
44	鹿島区北右田地区	南相馬市鹿島区北右田字沼田・桶師屋・竹花・八斗蒔・染師	福島県教委	10 月 27 日 ～ 11 月 11 日	24,000 ㎡	764 ㎡	弥生～平安	集落	再ほ場整備
45	原町区下渋佐地区	南相馬市原町区下渋佐字平・大橋	福島県教委	7 月 16 日 ～ 7 月 23 日	6,300 ㎡	75 ㎡	古墳	集落	海岸防災林
46	原町区下渋佐地区	南相馬市原町区下渋佐字平・大橋	福島県教委	8 月 28 日 ～ 9 月 3 日	1,500 ㎡	256 ㎡	古墳	集落	相双火ねこ管理センター
47	原町区下渋佐地区	南相馬市原町区下渋佐字平・大橋	福島県教委	11 月 19 日 ～ 11 月 21 日	5,800 ㎡	202 ㎡			海岸防災林
48	原町区下渋佐地区	南相馬市原町区下渋佐字湊	福島県教委	7 月 14 日	4,700 ㎡	54 ㎡			海岸防災林
49	原町区萱浜地区	南相馬市原町区萱浜字愛原	福島県教委	7 月 14 日 ～ 7 月 23 日	41,500 ㎡	521 ㎡	奈良・平安	集落	再ほ場整備
50	原町区雫地区	南相馬市原町区雫字台畑	福島県教委	11 月 18 日 ～ 11 月 19 日	4,500 ㎡	145 ㎡			海岸防災林
51	原町区雫地区	南相馬市原町区雫字権現下	福島県教委	11 月 17 日 ～ 11 月 18 日	5,000 ㎡	170 ㎡			海岸防災林
52	原町区小浜地区	南相馬市原町区小浜字東谷地・小房内	福島県教委	10 月 27 日 ～ 10 月 28 日	4,100 ㎡	34 ㎡			防潮堤
53	原町区小沢地区	南相馬市原町区小沢字小沢	福島県教委	10 月 24 日 ～ 10 月 27 日	10,100 ㎡	46 ㎡			防潮堤
54	IW-YS.B2	いわき市四倉町下仁井田字古川・明神前	福島県教委	11 月 17 日 ～ 11 月 19 日	39,800 ㎡	36 ㎡			再ほ場整備
55	下仁井田地区	いわき市四倉町下仁井田字道庭・南袋	福島県教委	11 月 19 日 ～ 11 月 25 日	42,700 ㎡	31 ㎡			再ほ場整備
56	下高久地区	いわき市平下高久字中谷地	福島県教委	1 月 28 日 ～ 1 月 29 日	63,800 ㎡	63 ㎡			再ほ場整備
57	藤間地区	いわき市平藤間字中谷地	福島県教委	12 月 17 日 ～ 12 月 18 日	51,600 ㎡	82 ㎡			再ほ場整備
58	藤間地区	いわき市平藤間字南町田・新林	福島県教委	1 月 21 日 ～ 1 月 27 日	97,000 ㎡	55 ㎡	奈良・平安		再ほ場整備
59	下大越地区	いわき市平下大越字中ノ町	福島県教委	1 月 21 日 ～ 1 月 23 日	8,200 ㎡	15 ㎡			再ほ場整備
60	下大越地区	いわき市平下大越字岸前	福島県教委	1 月 19 日 ～ 1 月 23 日	33,100 ㎡	28 ㎡	奈良・平安		再ほ場整備
61	荒谷地区・四沢地区	いわき市錦町荒谷、勿来町四沢尾細	福島県教委	12 月 10 日 ～ 12 月 19 日	12,600 ㎡	6 ㎡			再ほ場整備
62	関田地区	いわき市勿来町関田尖島・関田浜田	福島県教委	12 月 10 日 ～ 12 月 19 日	89,900 ㎡	69 ㎡			再ほ場整備
63	荒谷地区・四沢地区	いわき市錦町荒谷・綾ノ町、勿来町四沢尾細	福島県教委	12 月 15 日 ～ 12 月 19 日	60,200 ㎡	14 ㎡			再ほ場整備

(12)平成26年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
1	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	7月2日～12月25日	654 ㎡	近世	城館跡	その他建物
2	福島城跡	福島市上町	福島市教委	7月8日～1月30日	2,252 ㎡	近世	城館跡	その他建物
3	鐙塚遺跡	福島市仁井田字上台	福島市教委	8月25日～10月17日	180 ㎡	縄文・古墳・平安	集落跡	道路(市道)
4	山ノ下遺跡	福島市渡利字大久保	福島市教委	10月2日～1月8日	765 ㎡	縄文～古墳・平安	集落跡	その他建物
5	桑折西山城跡	桑折町大字万正寺字三反歩	桑折町教委	5月19日～11月15日	540 ㎡	中世	国史跡	史跡整備
6	大梶遺跡	桑折町大字万正寺字大梶	桑折町教委	9月24日～11月15日	6 ㎡	奈良～中世	散布地	史跡整備
7	観音寺境内	桑折町大字万正寺字坂町	桑折町教委	9月24日～11月15日	6 ㎡	中世	社寺跡	史跡整備
8	梁川城跡	福島県伊達市梁川町字南町頭	伊達市教委	8月12日～1月15日	272 ㎡	中世	城館跡	史跡整備
9	塚野目城跡	国見町大字塚野目字舘前	国見町教委	5月8日～5月29日	64 ㎡	中世	城館	道路(町道)
10	阿津賀志山防塁	大字森山字東国見 大字大木戸字竹ノ花・国見山	国見町教委	10月8日～11月21日	137 ㎡	中世	その他(防塁)	範囲内容確認調査
11	二本松城跡	二本松市郭内	二本松市教委	6月23日～7月15日	120 ㎡	中世～近世	城館跡	範囲内容確認調査
12	金山古墳	大玉村大山字宮下	大玉村教委	11月17日～12月19日	118 ㎡	古墳	古墳	範囲内容確認調査
13	北ノ沢遺跡	郡山市熱海町上伊豆島字北ノ沢	郡山市教委	4月21日～3月31日	1,441 ㎡	縄文・中世	散布地	その他開発
14	照内遺跡	郡山市富久山町福原字照内	郡山市教委	9月24日～3月31日	100.00 ㎡	奈良・平安	散布地	その他開発
15	西原遺跡	郡山市富久山町福原字西原	郡山市教委	9月29日～3月20日	809.00 ㎡	縄文・奈良～平安	散布地	道路
16	稲村御所跡	須賀川市稲字徳玄	須賀川市教委	5月27日～10月11日	1,500 ㎡	中世	城館跡	道路(118号バイパス)
17	稲村御所跡	須賀川市稲字徳玄	須賀川市教委	2月16日～2月27日	37 ㎡	中世	城館跡	道路(118号バイパス)
18	須賀川城跡	須賀川市加治町	須賀川市教委	1月18日～3月31日	1,300 ㎡	中世	城館跡	公共施設建設
19	小峰城跡 (月見櫓跡)	白河市郭内	白河市教委	7月14日～9月9日	86 ㎡	中世・近世	城館跡	石垣の災害復旧
20	小峰城跡 (搦手門跡)	白河市郭内	白河市教委	8月19日～11月12日	80 ㎡	中世・近世	城館跡	石垣の災害復旧
21	小峰城跡 (清水門跡)	白河市郭内	白河市教委	9月19日～10月21日	45 ㎡	中世・近世	城館跡	石垣の災害復旧
22	小峰城跡 (帯曲輪門跡)	白河市郭内	白河市教委	1月27日～2月12日	13 ㎡	中世・近世	城館跡	石垣の災害復旧
23	小峰城跡 (竹之丸跡)	白河市郭内	白河市教委	12月2日～3月31日	64 ㎡	中世・近世	城館跡	石垣の災害復旧
24	上野内遺跡	矢祭町大字東舘字下上野内	矢祭町教委	4月7日～5月13日	650 ㎡	古墳～平安	散布地	学校建設
25	若松城郭内武家屋敷跡	会津若松市東栄町	会津若松市教委	4月21日～8月9日	1,500 ㎡	近世	城館跡	学校建設
26	若松城郭内武家屋敷跡 三ノ丸跡	会津若松市城東町	会津若松市教委	8月19日～9月30日	300 ㎡	近世	城館跡	便益施設整備
27	杜田A遺跡	会津若松市門田町大字堤沢字中田	会津若松市教委	7月14日～10月10日	700 ㎡	弥生	散布地	ほ場整備
28	蚕養窯跡	会津若松市蚕養町	会津若松市教委	4月21日～6月6日	420 ㎡	近世・近代	窯跡	区画整理

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
29	笹山原No.16遺跡	会津若松市湊町大字赤井字笹山原	郡山女子大学	5月10日～5月21日	120㎡	旧石器・縄文・奈良・平安	散布地	学術調査
30	郡山遺跡	会津若松市河東町郡山字神明台ほか	会津若松市教委	8月25日～10月24日	900㎡	縄文～中世	散布地	範囲内容確認調査
31	慧日寺跡	耶麻郡磐梯町大字磐梯字本寺八幡ほか	磐梯町教委	6月16日～12月10日	400㎡	平安～近世	国史跡	史跡整備
32	遠谷田遺跡	喜多方市塩川町五合字遠谷田	喜多方市教委	7月14日～8月5日	171㎡	古墳・平安	散布地	ほ場整備
33	宮腰遺跡	喜多方市塩川町五合字宮腰	喜多方市教委	10月23日～12月3日	1,441㎡	平安・中世	散布地	ほ場整備
34	野田A遺跡	喜多方市塩川町五合字野田	喜多方市教委	10月15日～12月11日	469㎡	古墳・平安	集落跡	ほ場整備
35	灰塚山古墳	喜多方市慶徳町新宮字小山腰	東北学院大学	8月5日～9月11日	120㎡	古墳	古墳	学術調査
36	柏木城跡	北塩原村大字大塩字柏木城	北塩原村教委	9月9日～12月8日	408㎡	中世	城館跡	範囲内容確認調査
37	上野尻遺跡	耶麻郡西会津町上野尻字下沖ノ原乙	西会津町教委	8月11日～8月23日	36㎡	縄文	住居跡	消雪施設水源調査
38	大門遺跡	会津坂下町大字塔寺字大門、北原	会津坂下町教委	4月2日～9月5日	215㎡	縄文・弥生・平安・中世・近世	散布地	その他開発
39	竈原遺跡	会津坂下町大字長井字竈	会津坂下町教委	8月1日～9月30日	100㎡	縄文	散布地	範囲内容確認調査
40	堂後遺跡	河沼郡湯川村大字勝常字堂後	湯川村教委	8月29日～11月5日	389㎡	縄文～近世	散布地	範囲内容確認調査
41	向羽黒山城跡	会津美里町字船場　地内	会津美里町教委	6月10日～11月29日	60㎡	中世	城館跡	史跡整備
42	宮前遺跡	只見町大字只見字雨堤	只見町教委	6月19日～11月23日	2,420㎡	縄文	集落跡	役場庁舎建設
43	東町遺跡	南相馬市原町区東町	南相馬市教委	4月8日～7月29日	3,000㎡	縄文・平安	集落跡	防災集団移転
44	上渋佐原田遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	4月8日～8月6日	6,000㎡	平安	集落跡	防災集団移転
45	桜井B遺跡	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	8月4日～8月11日	99㎡	弥生～平安	古墳散布地	個人住宅
46	桜田Ⅳ遺跡	広野町大字下浅見川字広長	広野町教委	1月13日～2月6日	800㎡	縄文・奈良・平安	散布地	道路(町道)
47	宮田条里遺跡	広野町大字下北迫字折返	広野町教委	2月16日～2月20日	50㎡	縄文・奈良・平安	散布地　他	道路(町道)
48	柳町Ⅱ遺跡	広野町大字下浅見川字柳町	広野町教委	2月16日～2月20日	47㎡	縄文	散布地	道路(町道)
49	磐出館跡	いわき市久之浜町久之浜字代、字立、字館ノ山	いわき市教委	4月7日～5月30日	910㎡	古墳～平安	遺物包含層	宅地造成
50	後田遺跡・後田古墳群	いわき市後田町源道平	いわき市教委	6月18日～7月31日	460㎡	古墳	古墳	市道改良工事
51	泉町A遺跡	いわき市泉町滝尻字泉町、御前田	いわき市教委	6月18日～7月14日	350㎡	古墳～近世	集落跡・生産遺跡	土地区画整理
52	番匠地遺跡・久世原館跡	いわき市内郷御厩町久世原・番匠地	いわき市教委	7月15日～10月13日	2,488㎡	縄文～中世	散布地	病院建設
53	薄磯大平遺跡	いわき市平薄磯字北街、大平、根本	いわき市教委	7月29日～9月12日	1,160㎡	弥生～平安	散布地	土地区画整理
54	薄磯貝塚	いわき市平薄磯字北街、三反田	いわき市教委	10月7日～11月18日	818㎡	弥生～平安	散布地	土地区画整理
55	三反田遺跡	いわき市平薄磯字三反田	いわき市教委	10月27日～11月6日	265㎡	弥生	散布地	土地区画整理
56	前上ノ山遺跡	いわき市久之浜町久之浜字上ノ山	いわき市教委	4月3日～5月30日	800㎡	古墳	散布地	道路(6号久之浜バイパス)
57	白岩堀ノ内館跡	いわき市四倉町中島字三反田、白岩字北ノ作	いわき市教委	10月27日～12月22日	3,300㎡	弥生～平安、近世	集落跡・城館跡	敷地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
58	泉町A遺跡	いわき市泉町滝尻字御前田	いわき市教委	1月8日～3月6日	600㎡	古墳～近世	集落跡	土地区画整理
59	神谷作101号墳	いわき市平神谷作字腰巻	いわき市教委	3月9日～3月31日	1,310㎡	古墳	古墳	宅地造成
60	東羽黒平遺跡	相馬市今田字東羽黒平	福島県教委	8月4日～9月26日	500㎡	縄文	集落跡	道路(相馬福島道路)
61	向山遺跡	相馬市東玉野字向山	福島県教委	5月12日～10月14日	4,850㎡	縄文・平安・中世	製鉄	道路(相馬福島道路)
62	庚申向A遺跡	伊達市霊山町石田字庚申向	福島県教委	10月9日～12月12日	1,700㎡	縄文・平安・中世	その他の生産遺跡	道路(相馬福島道路)
63	西木流D遺跡	会津若松市高野町大字木流	福島県教委	4月8日～9月12日	15,000㎡	縄文～近世	集落跡	道路(会津縦貫北道路)
64	鶴沼B遺跡	会津若松市高野町大字中沼	福島県教委	4月8日～8月29日	9,000㎡	縄文・古墳・平安	集落跡	道路(会津縦貫北道路)
65	西坂才遺跡	会津若松市高野町大字中沼	福島県教委	9月24日～10月31日	500㎡	平安	集落跡	道路(会津縦貫北道路)
66	天化沢A遺跡	南相馬市原町区北泉字天化沢	福島県教委	4月8日～2月17日	30,200㎡	縄文～平安	製鉄	土取り場候補地
67	五畝田・大道遺跡	南相馬市原町区雫字五畝田・大道	福島県教委	8月27日～11月28日	2,800㎡	縄文～平安	集落	道路(県道)
68	本町遺跡	双葉郡広野町大字下浅見川字本町	福島県教委	5月12日～8月28日	2,600㎡	奈良～近世	集落	防災緑地
69	宮田条里遺跡	双葉郡広野町大字下北迫字宮田	福島県教委	7月16日～9月12日	2,500㎡	奈良～近世	その他の生産遺跡	防災緑地
70	南代遺跡	双葉郡楢葉町下繁岡字南代	福島県教委	4月21日～1月29日	900㎡	奈良～近世	製鉄	道路(県道)

3　平成２６年度文化財保存助成の充実

（１）文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
国指定文化財の管理に関する事業	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	建造物	防災保守点検等	233,064	58,000	57,000	118,064
国指定文化財の管理に関する事業	延命寺	延命寺地蔵堂	建造物	防災保守点検等	400,096	100,000	99,000	201,096
国指定文化財の管理に関する事業	飯盛正徳	旧正宗寺三匝堂	建造物	防災保守点検等	496,700	124,000	124,000	248,700
国指定文化財の管理に関する事業	横山操	旧滝沢本陣横山家住宅	建造物	防災保守点検等	248,054	61,000	61,000	126,054
国指定文化財の管理に関する事業	勝福寺	勝福寺観音堂	建造物	防災保守点検等	433,200	108,000	107,000	218,200
国指定文化財の管理に関する事業	熊野神社	熊野神社長床	建造物	防災保守点検等	1,149,720	286,000	286,000	577,720
国指定文化財の管理に関する事業	円満寺	円満寺観音堂	建造物	防災保守点検等	888,800	215,000	215,000	458,800
国指定文化財の管理に関する事業	飯野八幡宮	飯野八幡宮	建造物	防災保守点検等	1,104,571	271,000	272,000	561,571
国指定文化財の管理に関する事業	願成寺	阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）	建造物	小修理	1,026,135	256,000	257,000	513,135
国指定文化財の管理に関する事業	福生寺	福生寺観音堂	建造物	防災保守点検	54,000	12,000	12,000	30,000
国指定文化財の管理に関する事業	常福院	常福院薬師堂	建造物	防災保守点検	54,000	11,000	11,000	32,000
国指定文化財の管理に関する事業	法用寺	法用寺本堂内厨子及び仏壇	建造物	防災保守点検	43,200	9,000	10,000	24,200
計	１２件				6,131,540	1,511,000	1,511,000	3,109,540

（２）指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

ア　国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	恵隆寺	恵隆寺観音堂	建造物	屋根葺替	36,639,058	30,860,000	792,000	4,987,058
建造物保存修理	飯野八幡宮	飯野八幡宮本殿	建造物	屋根葺替（部分）	20,250,000	14,000,000	1,170,000	5,080,000
建造物保存修理	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	建造物	屋根葺替	13,667,518	10,772,000	450,000	2,445,518
美術工芸品保存修理	会津若松市	会津大塚山古墳出土品	美術工芸品	修理	6,751,288	3,315,000	630,000	2,806,288
記念物保存修理	猪苗代町	会津藩主松平家墓所	史跡	環境整備	14,180,214	6,940,000	750,000	6,490,214
記念物保存修理	会津美里町	向羽黒山城跡	史跡	環境整備	6,118,939	2,999,000	350,000	2,769,939
記念物保存修理	会津若松市	高瀬の大木（ケヤキ）	天然記念物	樹勢回復	3,104,459	1,528,000	150,000	1,426,459
記念物保存施設	福島市	宮畑遺跡	史跡	保存展示施設	6,790,000	3,344,000	350,000	3,096,000
建造物保存修理	南会津町	南会津町前沢	伝統的建造物群	保存修理	18,319,742	11,618,000	819,000	5,882,742
建造物保存修理	下郷町	下郷町大内宿	伝統的建造物群	保存修理	6,872,164	4,385,000	450,000	2,037,164
重要無形民俗文化財伝承・活用等	相馬野馬追保存会	相馬野馬追	無形民俗	用具の修理・新調	2,544,741	1,250,000	270,000	1,024,741
計	１１件				135,238,123	91,011,000	6,181,000	38,046,123

イ　県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	熊野神社	熊野神社本殿	建造物	屋根塗装	1,633,191	0	540,000	1,093,191
建造物保存修理	南会津町	旧山内家住宅	建造物	茅屋根修復	4,340,088	0	1,001,000	3,339,088
建造物保存修理	安洞院	安洞院多宝塔	建造物	屋根修復等	6,179,000	0	1,640,000	4,539,000
建造物保存修理	会津若松市	麟閣	建造物	茅屋根修復等	7,714,220	0	1,463,000	6,251,220
美術工芸品保存修理	鮫川村	木造金剛力士立像	美術工芸品	仏像修復	2,894,078	0	960,000	1,934,078
記念物保存修理	棚倉町	棚倉城跡の大ケヤキ	天然記念物	樹勢回復	1,080,000	0	350,000	730,000
記念物保存修理	猪苗代町	猪苗代城跡	史跡	斜面崩落修復	4,400,000	0	1,240,000	3,160,000
建造物保存修理	八槻浩子	八槻家住宅	建造物	部分修理	935,940	0	310,000	625,940
計	８件				29,176,517	0	7,504,000	21,672,517

【参考】平成２６年度に県費補助交付決定を行い、平成２７年度に繰越しを行った事業

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	見込金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	奥之院	奥之院弁天堂	建造物	屋根葺替	12,704,000	8,125,000	810,000	3,769,000
計	１件				12,704,000	8,125,000	810,000	3,769,000

（３）指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

ア　国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	専称寺	専称寺本堂及び総門	建造物	建物傾斜大を修復	160,000,000	136,000,000	12,000,000	12,000,000
建造物保存修理	会津民俗館	旧馬場家住宅	建造物	家屋傾斜、壁崩落箇所を修復	26,240,110	22,304,000	1,574,000	2,362,110
記念物保存修理	南相馬市	観音堂石仏	史跡	覆屋倒壊を修復	30,711,059	21,008,000	4,501,000	5,202,059
計	３件				216,951,169	179,312,000	18,075,000	19,564,169

イ　県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	願成寺	願成寺阿弥陀堂	建造物	建物全体の傾斜、歪み修復	30,855,375	0	15,427,000	15,428,375
建造物保存修理	福島市	旧菅野家住宅	建造物	垂木破損等を修復	15,689,040	0	7,844,000	7,845,040
記念物保存修理	岩角山	岩角寺	名勝及び天然記念物	石垣のゆるみ、建物等を修復	44,765,000	0	22,382,000	22,383,000
計	３件				91,309,415	0	45,653,000	45,656,415

（4）地域に根差した文化財災害復旧支援事業

東日本大震災により被災した、個人・法人が所有する国登録有形文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	所有者等
須賀川市	渡辺一夫	渡辺家住宅北蔵	住宅	屋根及び壁剥落等を修復	1,600,000	0	225,000	1,375,000
計	1件				1,600,000	0	225,000	1,375,000

(5)地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害により避難を余儀なくされた地域の市町村で活動した保存団体が行う、用具類の新調・修理、稽古等に必要な経費について、助成を行った。

なお、※印のついた民俗芸能については、稽古の様子や公演での演目披露の様子を記録保存した。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
浪江町	苅宿の神楽※	苅宿芸能保存会	—	用具の修理	214,920	0	214,920	0
大熊町	熊川稚児鹿舞	熊川稚児鹿舞保存会	—	用具の新調、稽古、公開	680,850	0	676,600	4,250
浪江町	上立野の神楽	上立野神楽保存会	—	用具の新調、稽古	817,500	0	787,500	30,000
浪江町	請戸の田植踊	請戸芸能保存会	—	稽古、公開	145,675	0	145,675	0
浪江町	室原の田植踊	室原郷土芸能保存会	—	用具の修理、稽古、公開	323,525	0	323,525	0
双葉町	山田のじゃんがら念仏踊り	山田芸能保存会	—	稽古、公開	255,200	0	250,000	5,200
双葉町	はまなす会の神楽	浜野はまなす会	—	用具の新調	722,736	0	722,736	0
双葉町	前沢女宝財踊り	前沢婦人会芸能保存会	—	稽古、公開	207,850	0	199,500	8,350
葛尾村	葛尾三匹獅子舞	葛尾三匹獅子保存会	—	用具の修理・新調 稽古、公開	441,559	0	441,559	0
南相馬市	萱浜の神楽	萱浜神楽保存会	—	用具の新調	681,920	0	681,920	0
南相馬市	小浜の神楽	小浜神楽保存会	—	用具の新調	454,680	0	454,680	0
南相馬市	北萱浜の神楽と天狗舞※	北萱浜神楽愛好会	—	用具の新調、公開	756,116	0	756,116	0
南相馬市	北右田の大蛇神楽	北右田神楽保存会	—	用具の新調	750,000	0	750,000	0
飯舘村	比曽の三匹獅子舞	比曽芸能保存会	—	稽古、公開	137,875	0	137,875	0
飯舘村	小宮の田植踊	小宮民俗芸能保存会	無形民俗	稽古、公開	187,925	0	187,925	0
双葉町	新山の神楽※	新山芸能保存会	—	用具の新調	294,440	0	294,440	0
川内村	高田島獅子	川内村第１行政区	無形民俗	稽古、公開	19,600	0	19,600	0
川内村	西郷獅子	川内村第２行政区	無形民俗	稽古、公開	52,850	0	52,850	0
川内村	東郷神楽舞	川内村第３行政区	—	稽古	9,900	0	9,900	0
川内村	浦安の舞	川内村第４行政区	—	稽古	850	0	850	0
川内村	町獅子	川内村第５行政区	無形民俗	稽古、公開	137,650	0	137,650	0
南相馬市	南柚木の神楽	南柚木大蛇神楽保存会	—	用具の修理、新調	750,000	0	750,000	0
南相馬市	鳥崎の子供手踊	鳥崎子供手踊保存会	無形民俗	用具の新調、公開	165,600	0	165,600	0
南相馬市	村上の神楽と田植踊※	村上の神楽と田植踊保存会	—	用具の新調、公開	825,600	0	825,600	0
南相馬市	下町子供手踊※	下町の子供手踊り保存会	—	公開	75,600	0	75,600	0
計	25件				9,110,421	0	9,062,621	47,800

4　文化財の愛護と公開の推進

(1)　第56回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア　期　日　平成26年10月25日　リハーサル・実行委員会
　　26日　開会式・民俗芸能公開

イ　場　所　小樽市民会館ホール(北海道小樽市)

ウ　公開演目　派遣団体　1団体
「小宮の田植踊」小宮民俗芸能保存会
(飯舘村)

(2)　文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを作成、配布し、県民に対し啓発を行った。

(3)　文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

5　銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

(1)　登録審査委員

塚本憲司、佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美

(2)　登録審査会の実施状況

期　日	会　場	審査数	失格数	登録数	左の内訳	
					刀　剣	銃　砲
5月22日	いわき合同庁舎	36	2	34	34	0
7月28日	郡山市労働福祉会館	72	7	65	57	8
9月26日	会津若松合同庁舎	40	3	37	37	0
12月4日	ふくしま中町会館	65	7	58	58	0
2月19日	郡山市労働福祉会館	81	6	75	60	15
計		294	25	269	246	23

※　再交付に係る審査を除く。

(3)　銃砲刀剣類の譲り受け・相続等の届け出状況

区　分	銃砲等	刀剣類
譲り受け	27	485
相　続	3	112
貸付け	0	0
保管の委託	0	0
計	30	597

第４節　公益財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進

１　埋蔵文化財調査

(1)　遺跡分布調査事業

事業内容	所在地	調査面積		調査期間	結果
		表面（ha）	試掘（㎡）		
一般国道115号相馬福島道路遺跡分布調査	相馬市		19,150	4/24～12/22	２遺跡を確認した
	伊達市		47,600	5/1～12/4	４遺跡を確認した
会津縦貫南道路遺跡分布調査	下郷町		600	11/4～11/12	遺跡を確認できず
合計	２市１町	0	67,350		

(2)　遺跡分布調査事業

事業名	市町村	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	時代	主な検出遺構（特徴）など
常磐自動車道遺跡発掘調査	新地町	南狼沢A	2,500	4/14～8/8	縄文・平安・中世	竪穴住７　掘立柱４　鍛冶遺構２　土坑11　溝跡２
	小計	１遺跡	2,500			
会津縦貫北道路遺跡発掘調査	会津若松市	西木流D	15,000	4/8～9/12	縄文弥生・奈良・平安・中近世	掘立柱７　柱列跡２　流路跡３　土坑15　溝跡６　ピット52
		鶴沼B	9,000	4/8～8/29	縄文・古墳・平安	竪穴住１　土坑４　溝跡２　流路跡６
		西坂才	500	9/24～10/31	平安	井戸跡１　溝跡４
	小計	３遺跡	24,500			
一般国道115号相馬福島（霊山道路）道路遺跡発掘調査	伊達市	庚申向A	1,700	10/9～12/12	縄文・中世・近世	木炭窯跡３　土坑７　性格不明遺構２
	相馬市	向山	4,850	5/12～10/14	縄文・平安・近世	竪穴住２　製鉄炉２　土坑10　ピット５
一般国道115号相馬福島（相馬相馬西道路）道路遺跡発掘調査	相馬市	東羽黒平	500	8/4～9/26	縄文	土坑１
	小計	３遺跡	7,050			
復興基盤総合整備事業遺跡発掘調査	南相馬市	天化沢A	30,200	H26.4/8～H27.2/17	縄文・弥生・奈良・平安	竪穴住17　木炭窯跡１　製鉄炉16　鍛冶炉２　土坑106　木炭焼成遺構４　埋甕１　溝跡３　性格不明遺構４
	小計	１遺跡	30,200			
県道北泉小高線整備事業遺跡発掘調査	南相馬市	五畝田・犬這	2,800	8/27～11/28	縄文・弥生・古代	竪穴住３　土坑106　埋甕１　焼土遺構３　特殊遺構３
	小計	１遺跡	2,800			

事業名	市町村	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	時代	主な検出遺構（特徴）など
県道広野小高線整備事業遺跡発掘調査	楢葉町	南代	900	H26.4/21～H27.1/19	奈良・平安・近世	製鉄炉3 廃滓場4 土坑6 溝跡6 焼土遺構3
	小計	1遺跡	900			
浅見川地区防災緑地整備事業遺跡発掘調査	広野町	本町	2,600	5/12～8/28	奈良・平安・中近世	掘立柱4 柱列跡1 土坑17 井戸跡10 溝跡21 流路跡1 ピット349
		宮田条里	2,500	7/16～9/12	奈良・中近世	土坑1 溝跡16
	小計	2遺跡	5,100			
合計	4市3町	12遺跡	73,050			

(3) 発掘調査報告書刊行

事業名	報告書名	収録遺跡名	頁数
遺跡分布調査	福島県内遺跡分布調査報告21	試掘調査24遺跡	51
常磐自動車道路	常磐自動車道遺跡調査報告71	沢入B、鈴山、大清水B遺跡	560
	常磐自動車道遺跡調査報告72	南狼沢A遺跡（2・3次）	372
会津縦貫北道路遺跡発掘調査	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告14	桜町（5次）、西木流C（2次）、西木流D（1次）、鶴沼B（1次）	248
	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告15	鶴沼C（1次）、西坂才遺跡（1次）	283
阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査	阿武隈川上流河川改修事業トロミ地区遺跡発掘調査報告3	トロミ遺跡（3次）	262
一般国道115号相馬福島道路	一般国道115号相馬福島道路1	東羽黒平遺跡（1次）	129
	一般国道115号相馬福島道路2	宝直館跡、行合道堂B、熊屋敷B、姥ヶ岩、川向遺跡	233
合計	8冊	41遺跡	2,138

(4) 県内市町村埋蔵文化財調査への技術協力事業

No.		市町村名	遺跡名	面積（㎡）	時期	期間	業務内容	遺構	遺物	備考
会津	1	南会津町	田島陣屋跡 法花寺跡	1,000	近世	4/21・22	確認調査	小穴	陶磁器	南会津町新庁舎建設
	2	金山町	石神平	40	縄文	7/15	確認調査	—	—	鉄塔建替え
	3	下郷町	下郷会津本郷線	25,000	縄文他	11/12	分布調査	—	縄文土器 石器	下郷会津本郷線建設

No.		市町村名	遺跡名	面積（㎡）	時期	期間	業務内容	遺構	遺物	備考
中通り	4	矢祭町	上野内遺跡	650	古墳奈良・平安	4/7～5/14のうち26日間	本発掘調査	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	土師器 須恵器	統合小学校建設
	5	西郷村	中原遺跡	1,100	縄文	5/26・27	確認調査	土坑	—	集合住宅建設
	6	福島市	福島城跡	2,300	近世	11/4～10	確認調査	建物跡・堀跡	陶器 瓦	県警察本部建設
	7	川俣町	後庵館遺跡	40	縄文	11/19・20	確認調査	土坑・小穴	縄文土器 土師器	町道拡幅
	8	浅川町	新町遺跡	1,000	縄文 古墳・平安	11/25～28	確認調査	—	縄文土器	町道拡幅
浜通り	9	南相馬市	東町	2,000	縄文	6/2～8/1	本発掘調査	竪穴住居跡 土坑	縄文土器 石器	防災集団移転
	10		上渋佐原田遺跡	6,000	奈良・平安	7/16～8/1	本発掘調査	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	土師器 須恵器	復興住宅建設
	11	川内村	平伏森遺跡 糠塚B～E遺跡	93,000	縄文	9/9～11	確認調査	焼土遺構	—	メガソーラ建設
	12	浪江町	大平山地区	58,900	古墳・中世	9/24	分布調査	横穴墓 堀・堀切等	—	防災集団移転住宅，道路
	13		大平山A横穴墓群	3,100	古墳	2/23～25	確認調査	—	須恵器	
	14		NE－OHB1	29,300	古墳・近世	2/24～3/12	試掘調査	横穴墓・隧道	土師器 須恵器	
	15	広野町	桜田Ⅳ遺跡隣接地	1,300	古代	8/25・26	試掘調査	小穴	土師器	広野駅東側開発整備
	16		桜田Ⅳ，柳町Ⅰ遺跡	3,500	古代	10/27～31	本発掘調査（表土剥ぎ）	掘立柱建物跡・溝跡	縄文土器 土師器	
	17		桜田Ⅳ遺跡	900	古代	1/13～2/6	本発掘調査	掘立柱建物跡	土師器	
	18		柳町Ⅱ遺跡	1,600	縄文・古代	1/26～29 2/16～20	本発掘調査（表土剥ぎ）	土坑・溝跡	縄文土器	
	19	楢葉町	堂ノ前遺跡	91,000	縄文・古代	12/15～19 2/16～20	試掘調査	竪穴住居跡 埋甕	縄文土器 土師器	竜田駅東側地域開発事業

その他

No.		市町村名	遺跡名	面積（㎡）	時期	期間	業務内容	遺構	遺物	備考
中通り	20	矢祭町	上野内遺跡	—	古墳奈良・平安	5～8月	報告書作成	—	—	統合小学校建設
	21	国見町	長障子遺跡	6,000	縄文	7/7	調査計画予算積算	—	—	除染・ほ場整備
浜通り	22	南相馬市	東町遺跡	—	縄文	11/19・20 1/21・22 2/25・26	調査成果の整理	—	—	防災集団移転

市町村及びのべ事業数

14市町村（会津：3町、中通り：1市4町1村、浜通り：1市3町1村）のべ22事業

2　文化財センター整備業務

業務名	箇所	内容	数量
出土品の管理	上吉田遺跡（会津若松市）等 木質遺物	劣化防止処理	3,540件
	上吉田遺跡（会津若松市）等 金属質遺物		7,070件
	上吉田遺跡（会津若松市）等 その他の資料		1,520件
		小計	12,130件
	荒屋敷遺跡（喜多方市）等	保存処理	100件
		合計	12,230件
出土品の整理・搬送	常磐自動車道遺跡発掘調査 横大道遺跡（南相馬市）等	整理済み出土遺物	547箱
		記録写真	27箱
		保存処理済み遺物	16箱
		合計	590箱
文化財データ入力	横大道遺跡（南相馬市）等	遺物データベース入力	2,116件

第１０章　体育・健康

第１節　概要

東日本大震災により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実と運動部活動の一層の活性化を図るため、地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業により、中学校の武道・ダンスの授業と中・高等学校の運動部活動に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

健康教育の充実・普及については、平成１６年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成１９年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

１　学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るとともに、本県児童生徒の実態を把握し、今日的な課題の解決に資するため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証した。

また、小・中・高体育担当者連絡協議会や地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

さらに、平成２５年度に改訂した「運動身体づくりプログラム」の内容について周知と定着を図るため、県内全公立学校を対象に講習会を実施した。

２　学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」は、健康教育推進者研修会・ヘルシースマイル事業・心の健康教育セミナーの３つの柱で展開した。ヘルシースマイル事業は、会津・相双の両地域に支援チームを立ち上げ、地域の実情に応じそれぞれの健康課題解決に向けた協議・実践が展開された。心の健康教育セミナーでは、心の健康つくりの中心となる養護教諭の資質向上を目指し、健康相談の充実を図った。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、放射線量のモニタリングや低減化対策に取り組んだ。また、全国で通学路上における交通事故が多発したことを受け、通学路の緊急合同点検の結果を踏まえ、それに基づく安全対策の取組を推進した。

３　食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、本年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた。さらに「朝食について見直そう週間運動」の一環で行った「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、募集対象を小学生から小学生及び中学生に拡大した結果、応募総数が平成２５年度の１．６倍である７，５９０点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

４　学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、食物アレルギー等で給食を受けない児童生徒を除き、完全給食は小学校９９．８％、中学校９８．２％、ミルク給食は小学校０．２％、中学校１．８％の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は学校１校あたり小学校３．８０回、中学校３．３７回、小・中学校平均で３．６６回の実施となっている。学校給食費は、一食当たり小学校２７０円７３銭、中学校３１７円１３銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修、学校栄養職員経験者研修Ⅱ（１０年研）を実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成２１年４月１日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、各教育事務所の

指導主事を中心として、単独校調理場４３校、共同調理場１３施設及び県立学校２１施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

あわせて、安全・安心を確認した県農林水産物を学校給食に活用する市町村等の取組に対して「学校給食地場産物活用事業」を実施し、「いただきます。ふくしまさん」事業においては１２市町村９６校で実施し、学校給食おいしい県産農林水産物活用事業は２６市町村１８７校で実施した。

第２節　表彰

１　体育関係

(1)　福島県教育委員会表彰

ア　学校保健功労者

氏　名	役職名
鈴木　孝雄	二本松市立安達太良小学校　学校医
山崎　正義	いわき市立平第五小学校　学校医
平井　清武	いわき市立平第五小学校　学校歯科医
寿田　正夫	福島県立猪苗代養護学校　学校薬剤師

イ　特別功績者（児童・生徒・団体）の部

該当なし

(2)　公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア　最優秀校　該当なし

イ　優良校　該当なし

ウ　功労者

職　名	氏　名	学校・所属名
校　長	齋藤　仁	いわき市立大浦小学校
校　長	川島　宏	会津若松市立第四中学校
校　長	古川　晃	棚倉町立棚倉中学校
校　長	目黒　憲	（元）福島県立いわき総合高等学校

(3)　福島県学校体育研究連合会表彰

ア　優良校

学校名	校長名
いわき市立中央台東小学校	笠原　桂樹
会津若松市立第四中学校	川島　宏

イ　功労者

職　名	氏　名	学校名
校　長	鈴木　和一	須賀川市立西袋第一小学校
校　長	堀内　真人	郡山市立高野小学校
校　長	佐藤　幸英	伊達市立霊山中学校
校　長	髙橋　信明	西郷村立西郷第二中学校
校　長	遠藤　彰	須賀川市立長沼中学校
教　諭	相原　正裕	福島県立会津工業高等学校

２　学校保健・学校安全関係

(1)　文部科学大臣表彰

ア　学校保健・学校安全表彰（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）

区　分	氏　名	勤務校
学　校　医	齋藤　松雄	（元）福島県立福島明成高等学校
学校歯科医	羽生　賢次	南相馬市立原町第二小学校

イ　学校保健・学校安全表彰（学校・団体）

学　校　名	校長名
会津若松市立大戸小学校	加藤　俊哉

ウ　学校安全ボランティア活動奨励賞

該当なし

(2)　平成26年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

＜最優秀入賞者＞

ア　図画の部

学　年	学　校　名	氏　名
幼　稚　園	双葉町立双葉幼稚園	野村　花音
小学校１年	会津若松市立行仁小学校	田中　恵瑠
小学校２年	福島市立水保小学校	水野　晃誠
小学校３年	白河市立信夫第一小学校	円谷　透真
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校	羽生　永遠

イ　ポスターの部

◎　小学校

学　年	学　校　名	氏　名
小学校４年	会津坂下町立坂下東小学校	新井田千尋
小学校５年	会津若松市立行仁小学校	林　洋美
小学校６年	いわき市立高久小学校	大友　俊輝
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	塚野　栞菜

◎　中学校

学　年	学　校　名	氏　名
中学校１年	矢吹町立矢吹中学校	石井さくら
中学校２年	浅川町立浅川中学校	江田　莉央
中学校３年	石川町立石川中学校	二平　楓

ウ　書写の部

学　年	学　校　名	氏　名
小学校１年	会津若松市立城北小学校	長谷川奈々
小学校２年	いわき市立湯本第一小学校	藁谷　琢也
小学校３年	白河市立白河第二小学校	目黒　倫
小学校４年	会津若松市立行仁小学校	星　晴夏
小学校５年	須賀川市立柏城小学校	大山奈々花
小学校６年	二本松市立小浜小学校	三浦　あい
中学校全学年	白河市立白河第二中学校	有賀　大希

特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	星　いずみ

エ　標語の部

学　年	学　校　名	氏　名
小・中学校	只見町立明和小学校	五十嵐涼凱
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	坂上　優佳

(3)　福島県学校歯科保健優良校表彰

ア　特別表彰　　なし

イ　栄誉賞　　なし

ウ　最優秀賞　　２校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	福島市立水保小学校
2	県　中	須賀川市立長沼中学校

エ　優秀賞　　２３校

◎小学校（１１学級以下）　１４校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	伊達市立富成小学校
2	県　北	伊達市立小国小学校
3	県　中	平田村立小平小学校
4	県　中	浅川町立山白石小学校
5	県　南	白河市立信夫第二小学校
6	県　南	西郷村立米小学校
7	県　南	西郷村立羽太小学校
8	会　津	会津若松市立大戸小学校
9	会　津	磐梯町立磐梯第二小学校
10	会　津	喜多方市立上三宮小学校
11	会　津	喜多方市立第三小学校
12	会　津	喜多方市立駒形小学校
13	南会津	只見町立只見小学校
14	いわき	いわき市立高野小学校

◎小学校（１２学級以上）　４校

No.	域　内	学　校　名
15	県　北	桑折町立醸芳小学校
16	県　中	須賀川市立柏城小学校
17	会　津	会津若松市立河東学園小学校
18	会　津	喜多方市立第一小学校

◎中学校（１１学級以下）　２校

No.	域　内	学　校　名
19	県　南	白河市立大信中学校
20	南会津	南会津町立舘岩中学校

◎中学校（１２学級以上）　１校

No.	域　内	学　校　名
21	県　中	田村市立船引中学校

◎特別支援学校　２校

No.	域　内	学　校　名
22	特　支	福島県立盲学校（小学部）
23	特　支	福島県立盲学校（中学部）

オ　優秀活動奨励賞　　１校

No.	域　内	学　校　名
1	県　南	棚倉町立社川小学校

カ　努力賞　　３９校

◎小学校（１１学級以下）　２０校

No.	域　内	学　校　名
1	県　北	福島市立東湯野小学校
2	県　北	川俣町立福田小学校
3	県　北	川俣町立川俣南小学校
4	県　中	須賀川市立長沼東小学校
5	県　中	須賀川市立白方小学校
6	県　中	天栄村立大里小学校
7	県　中	石川町立沢田小学校
8	県　中	玉川村立川辺小学校
9	県　中	玉川村立須釜小学校
10	県　中	平田村立蓬田小学校
11	県　中	田村市立芦沢小学校
12	県　中	三春町立中郷小学校
13	県　南	矢吹町立中畑小学校
14	県　南	鮫川村立青生野小学校
15	会　津	喜多方市立松山小学校
16	会　津	喜多方市立熊倉小学校
17	会　津	喜多方市立姥堂小学校
18	会　津	湯川村立勝常小学校
19	南会津	下郷町立楢原小学校
20	いわき	いわき市立渡辺小学校

◎小学校（１２学級以上）　５校

No.	域　内	学　校　名
21	県　中	郡山市立明健小学校
22	県　中	石川町立石川小学校
23	県　南	西郷村立小田倉小学校
24	いわき	いわき市立郷ヶ丘小学校
25	いわき	いわき市立中央台東小学校

◎中学校（１１学級以下）　５校

No.	域　内	学　校　名
26	県　中	石川町立沢田中学校

27	県　中	平田村立蓬田中学校
28	県　中	浅川町立浅川中学校
29	県　南	白河市立白河南中学校
30	県　南	泉崎村立泉崎中学校

◎中学校（１２学級以上）　　３校

No.	域　内	学　校　名
31	県　中	石川町立石川中学校
32	県　南	西郷村立西郷第一中学校
33	いわき	いわき市立中央台南中学校

◎特別支援学校　　６校

No.	域　内	学　校　名
34	特　支	福島県立郡山養護学校（小学部）
35	特　支	福島県立相馬養護学校（小学部）
36	特　支	福島県立相馬養護学校（中学部）
37	特　支	福島県立相馬養護学校（高等部）
38	特　支	福島県立いわき養護学校（中学部）
39	特　支	福島県立いわき養護学校（高等部）

(4)　福島県学校保健会表彰

ア　学校保健優良学校（１校）

No.	学　校　名	校　長　名
1	白河市立五箇中学校	長沼　政美

イ　学校保健功労者（２０名）

No.	職　名	氏　名	勤　務　校
1	学校医	本間　一男	福島市立野田小学校
2	〃	石川　英明	伊達市立保原小学校
3	〃	遠藤　邦夫	いわき市立古湊保育所
4	〃	葉田野　博	いわき市立常磐第一保育園
5	〃	福田由美子	いわき市立平第五小学校
6	学校歯科医	佐久間宗臣	福島市立土湯小学校
7	〃	博多美保子	田村市立滝根小学校
8	〃	佐藤　正行	福島県立あさか開成高等学校
9	〃	佐藤　雄一	福島県立磐城農業高等学校
10	〃	菊地　静示	福島市立福島第四小学校
11	〃	永山　隆治	郡山市立桜小学校
12	〃	吾妻　正男	石川町立中谷第一小学校
13	〃	山﨑　隆博	いわき市立草野中学校
14	学校薬剤師	鈴木　芙容	桑折町立伊達崎小学校
15	〃	有賀　裕子	白河市立東中学校
16	〃	阿部　正敏	いわき市立植田東中学校
17	養護教諭	今村　裕子	福島市立蓬莱中学校
18	〃	福地美奈子	福島市立福島第一中学校
19	〃	三森　弘子	浅川町立浅川中学校
20	〃	箭内　尚子	白河市立みさか小学校

ウ　学校安全ボランティア活動奨励賞（４団体）

No.	団　体　名	代表者名
1	南向台安全パトロール隊	阿部　富雄
2	母衣旗子ども見守り隊	添田　元則
3	安全安心たまかわこぶし隊川辺こぶし隊	田子　武幸
4	城北安全支援ボランティア隊	白井　恒夫

エ　学校保健会感謝状（８名）

No	職　名	氏　名	勤　務　校
1	学校医	草野　道子	(前)いわき市立江名幼稚園
2	学校歯科医	小林　文雄	(前)伊達市立梁川小学校
3	〃	渡部　正吾	(前)会津美里町立新鶴小学校
4	学校薬剤師	鈴木　功子	(前)いわき立好間第一小学校
5	養護教諭	丹治　早苗	(前)福島県立大笹生養護学校教頭
6	〃	二瓶マス子	(前)福島市立水保小学校
7	〃	湯田　敦子	(前)南会津町立田島中学校
8	〃	草野　範子	(前)相馬市立中村第二小学校

3　学校給食関係

(1)　文部科学大臣表彰

ア　学校給食優良学校等

学校・共同調理場名	校長・施設長名
二本松市立岩代学校給食センター	渡辺　善行
只見町学校給食センター	馬場　博美

イ　学校給食功労者

職　名	氏　名	所　属
栄養教諭	佐藤　惠子	伊達市立伊達中学校

(2)　公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア　学校給食優良団体

団体名	校長・施設長名
矢吹町立善郷小学校	永山　陽一
会津若松市会津若松学校給食センター	近藤　俊哉
いわき市立三和学校給食共同調理場	遠藤　勝久

イ　学校給食功労者

職　名	氏　名	所　属
栄養教諭	橋本　律子	福島市立平野小学校
主任栄養技師	佐久間祥子	二本松市立二本松南小学校
主任栄養技師	佐藤由美子	（元）郡山市立薫小学校
主任栄養技師	菅家美佐子	南会津町立舘岩中学校

第３節　学校体育

１　学校体育関係各種研修

(1)　《改訂》運動身体づくりプログラム指導講習会

県北地区：平成26年6月26日（木）
　　県文化センター　117名参加
県中･県南･会津･南会津地区
　　：平成26年6月23日（月）
　　郡山ユラックス熱海　254名参加
相双地区：平成26年6月9日（月）
　　相馬市総合福祉センター　26名参加
いわき地区：平成26年7月4日(金)
　　いわき合同庁舎南分庁舎　63名参加

(2)　小・中・高体育担当者連絡協議会

県　北：平成26年9月12日（金）
　　県文化センター　163名参加
県　中：平成26年9月9日（火）
　　郡山ユラックス熱海　217名参加
県　南：平成26年9月16日（火）
　　白河市産業プラザ　74名参加
会　津：平成26年9月10日（水）
　　北会津公民館　111名参加
南会津：平成26年9月8日（月）
　　下郷ふれあいセンター　26名参加
相　双：平成26年9月5日（金）
　　万葉ふれあいセンター　56名参加
いわき：平成26年9月11日（木）
　　いわき合同庁舎南分庁舎　136名参加

(3)　子どもの体力向上指導者養成研修

県中央研修：平成26年6月25日（水）
　　あづま総合運動公園　36名参加
地区別研修
　県北地区：平成26年8月19日（火）
　　川俣体育館、川俣中　112名参加
　県中地区：平成26年8月19日（火）
　　郡山総合体育館　104名参加
　県南地区：平成26年8月20日（水）
　　白河市立表郷中学校　67名参加
　会津・南会津地区
　　：平成26年8月5日（火）
　　あいづ総合体育館　142名参加
　相双地区：平成26年7月31日(木)
　　南相馬市スポーツセンター　38名参加
　いわき地区：平成26年8月20日（水）
　　いわき総合体育館　106名参加

(4)　ダンス・表現指導者養成研修会

平成26年8月1日（金）
福島市国体記念体育館　158名参加

(5)　学校フォークダンス指導者養成研修会

平成26年11月13日（木）
福島市国体記念体育館　49名参加

2 福島県高等学校体育連盟

（1）平成２６年度福島県高等学校体育連盟役員

顧問(歴代会長)		折笠常弘(15代)　早川俊一(16代)　齋藤久(18代)　砂子田敦博(19代) 杉原陸夫(20代)　髙城俊春(21代)　斎藤和也(22代)　古市孝雄(23代) 富田孝志(24代)　星本文(25代)　新井田大(26代)　冨田昭夫(27代) 本間稔(28代) 笠井淳一(県教育庁健康教育課長)　廣瀬敬彦(県体育協会専務理事)
参与(歴代理事長)		陸勤(７代)　髙橋充雄(９代)　浅尾晃左(11代)　菅野一治(12代) 渡辺正昭(13代)　赤沼健一(14代)　渡邊正仁(15代)
会長		長岐博（田村高校長）
副会長(地区会長)		古川清春（福島北高校長）荒井勝彦（清陵情報高校長）箱崎二三彦（会津高校長） 渡邉望（磐城桜が丘高校長）菅野諭（相馬東高校長）
理事長		穐本哲哉（田村　）
事務局長		齋藤靖（田村　）
常任理事		穂積祐司（健康教育課）深谷亮幸（県体育協会）渡辺知幸（福島北　） 小久保英一知（安達　）千田則和（郡山萌世（通信制））
常任理事・理事	県北	☆◎瀬田川広行（橘　）☆○鈴木雅広（福島商業）☆三浦武彦（福島明成） ☆浅野隆徳（二本松工業）☆武田正志（学法福島）△仲江知真（福島成蹊）
	県南	☆◎相場正伸（安積黎明）○齊藤勝（郡山商業）西川友章（清陵情報） 斑目真紀夫（白河実業）△生田目凌雅（修明鮫川校）
	会津	☆◎齋藤真人（葵　）○紅屋聡（会津　）五十嵐直（喜多方桐桜） △鈴木沙織（西会津）
	いわき	☆◎菅野長敏（磐城桜が丘）○阿部秀幸（いわき総合）小川尚之（磐城　） △椎名紬（磐城桜が丘）
	相双	☆◎皆原邦彦（相馬　）○成田祐介（相馬東　）持舘智（相馬東　） △高橋萌香（相馬　）
監事		二瓶良（帝京安積）阿部智（遠野　）
会長指名理事		穂積祐司（健康教育課）深谷亮幸（県体育協会）
幹事		外島加奈絵（福島　）菅野悟史（福島東　）橘内聡志（福島南　）
(公財)福体協理事		長岐博（田村高校長）
同評議員		齋藤靖（田村　）
東北高体連副会長		長岐博（田村高校長）
同常任理事		穐本哲哉（田村　）
同理事		齋藤靖（田村　）

☆常任理事　◎地区理事長　○地区副理事長　△地区生徒理事

(2) 第６０回福島県高等学校体育大会日程・会場

※○･･･終日　□･･･半日

開催地区	No.	種目名		日程 5/31（土）	6/1（日）	6/2（月）	会場	参加人数
県北	1	陸上競技		5月23日(金)～26日(月)			とうほう・みんなのスタジアム（あづま）	1,554
	2	バレーボール		○	○	□	福島市国体記念体育館　福島南高校　福島北高校　福島東高校	1,126
	3	サッカー	男子	5月24日(土)･25日(日)･31日(土)･6月1日(日)			十六沼公園サッカー場	500
			女子	○	○		十六沼公園サッカー場	60
	4	ソフトテニス		○	○	□	福島市庭球場	711
	5	ソフトボール		○	○	□	十六沼運動公園	660
	6	ハンドボール		○	○	□	あづま総合体育館　橘高校　福島西高校	704
	7	馬術		5月10日(土)～11日(日)			福島明成高校	38
	8	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ		○	○		福島明成高校	47
	9	フェンシング		○	○		福島商業高校　第２体育館	17
	10	カヌー競技		6月８日（日）			二本松市阿武隈漕艇場	12
	11	ライフル射撃			○		二本松市総合射撃場	40
県南	12	剣道		○	○	□	郡山総合体育館	578
	13	弓道		○	○	□	郡山市開成山弓道場	728
	14	体操	体操競技	5月23日(金)～25日(日)			郡山総合体育館	64
			新体操				郡山市西部体育館	
	15	登山		5月28日(水)～31日(土)			安達太良連峰（郡山市、二本松市、福島市、大玉村、猪苗代町）	226
	16	自転車競技	トラック	5月30日(金)～31日(土)			泉崎村　泉崎国際サイクルスタジアム	48
			ロード		○		西郷村小田倉台上の周回コース	
	17	ホッケー		○			ルネサンス棚倉多目的広場	25
	18	スケート	スピード	12月12日(金)			磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	8
			ﾌｨｷﾞｭｱ	11月16日(日)			磐梯熱海アイスアリーナ	
	19	水泳	飛込	7月11日(金)			郡山カルチャーパークプール	5
	20	アーチェリー		○			三春町営グラウンド	34
会津	21	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ		○	○	□	あいづ総合体育館　市内高校	912
	22	テニス		○	○	□	あいづ総合運動公園テニスコート	458
	23	卓球		6月７日(土)～９日(月)			あいづ総合体育館	583
	24	水泳	競泳	6月14日(土)～16日(月)			会津水泳場	484
	25	相撲		○	○		会津坂下町中央相撲場	21
	26	空手道		5月30日(金)～6月１日(日)			会津若松市河東総合体育館	95
	27	ボート		5月30日(金)～6月１日(日)			福島県営荻野漕艇場	82
	28	レスリング		○	○		田島高校	45
	29	スキー		27年1月14日(水)～16日(金)			ｱﾙﾍﾟﾝ：会津高原だいくらスキー場 ｸﾛｶﾝ：檜枝岐村七入クロスカントリーコース	28
	30	なぎなた			○		葵高校第一体育館	39
	31	駅伝競走		10月14日(火)～15日(水)			猪苗代町	568
いわき	32	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ		10月25日(土)･26日(日)･11月1日(土)･8日(土)			21世紀の森公園いわきｸﾞﾘｰﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ・多目的広場	239
	33	バドミントン		6月７日(土)～９日(月)			いわき市総合体育館	545
	34	柔道		○	○	□	いわき市総合体育館	355
	35	軟式野球		7月５日(土)～７日(月)			いわき市	44
	36	ボクシング		5月30日(金)～6月１日(日)			磐城緑藤高校	20
	37	ヨット		○	○		いわき市　小名浜港	7
相双	38	サッカー	男子	5月24日(土)～25日(日)			相馬光陽サッカー場	-
特殊専門部		定時制通信制		6月７日(土)～８日(日)			郡山萌世高校　郡山市東部体育館　郡山総合体育館 郡山庭球場　ふるさとの森スポーツパーク軟式野球場 福島中央高校	456

3　福島県中学校体育連盟

(1)　平成２６年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名	地区名
会長	鈴木　訓夫	郡山六中	県中
地区会長	吉川　博	野田中	県北
	遠藤　晃世	喜久田中	県中
	面川　三雄	白河二中	県南
	酒井　完	若松一中	会津
	関内　健	小名浜二中	いわき
	遠藤　隆徳	石神中	相双
理事長	福地　誠志	福島三中	県北
理事	丹野　英雄	県教育庁健康教育課指導主事	
	田中　信次	伊達中	県北

役職名	氏名	所属名	地区名
理事	北澤　和久	安積二中	県中
	小出　義則	白河二中	県南
	渡部　洋一	若松一中	会津
	松本　仁志	内郷二中	いわき
	藍原　広明	小高中	相双
監事	遠藤　哲	松陵中	県北
	星　喜博	東北中	県南
	矢澤　良伸	若松二中	会津
顧問	佐々木祐司		県中
事務局長	長正　壮平	福島三中	県北

(2)　第５７回福島県中学校体育大会

競技種目		競技場	期日	参加人数
陸上競技		いわき陸上競技場	７月７日（月）～７月９日（水）	1,359
水泳競技	競泳	郡山カルチャーパークプール	７月２２日（火）～７月２４日（木）	4,748
	飛込み	郡山カルチャーパークプール	７月１１日（金）	
軟式野球		白河グリーンスタジアム	７月２２日（火）～７月２４日（木）	
		白河ブルースタジアム	７月２２日（火）～７月２４日（木）	
		表郷天狗山球場	７月２２日（火）	
		泉崎さつき公園球場	７月２２日（火）	
ソフトボール		好間多目的広場	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
		小名浜市民運動場	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
バスケットボール		須賀川アリーナ	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
		鏡石町立鏡石中学校	７月２３日（水）	
バレーボール		白河中央体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
		石川町総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
		矢吹町立矢吹中学校体育館	７月２３日（水）	
		玉川村立泉中学校体育館	７月２３日（水）	
ソフトテニス		会津総合運動公園テニスコート	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
卓球		二本松市城山総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
バドミントン		あいづ総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
サッカー		いわき陸上競技場グリーンフィールド多目的広場	７月２２日（火）～７月２４日（木）	
		いわき陸上競技場	７月２２日（火）～７月２４日（木）	
		福島県立遠野高等学校	７月２２日（火）	
ハンドボール		県営あづま総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
		福島市国立記念体育館	７月２３日（水）	
柔道		いわき市立総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
剣道		猪苗代町総合体育館カメリーナ	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
相撲		南相馬市スポーツセンター相撲場	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
新体操		郡山西部体育館	７月２２日（水）～７月２４日（木）	
体操競技		郡山総合体育館	７月２３日（水）～７月２４日（木）	
駅伝競走		南相馬市博物館周辺コース	１０月１日（水）～１０月２日（木）	599
スケート		磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	１２月１２日（金）	13
スキー		猪苗代スキー場	１月１３日（火）～１月１５日（木）	165
		猪苗代クロスカントリースキーコース		

第４節　学校保健・学校安全

１　学校保健・学校安全研修会等

①　学校保健

事業名	期日	会場	参加人数
養護教諭経験者研修Ⅰ	校内研修（３日間） 校外研修（３日間） 宿泊研修 ８月７日（水） ～８月９日（金）	学校の計画による各教育事務所の計画による 教育センター	１５名
養護教諭経験者研修Ⅱ	校内研修(4日以上) 校外研修(6日以上) 宿泊研修 ７月２３日（水） ～７月２５日（金）	学校の計画による各教育事務所・学校の計画による 教育センター	７名
健康教育推進者研修会	６月３０日(月)	いわき合同庁舎	６８名
	７月２日（水）	下郷ふれあいセンター	６４名
	７月４日（金）	相馬市総合福祉センター	２４名
心の健康教育セミナー	１１月２６日(水)	安積総合学習センター	９７名

２　児童・生徒の健康管理費補助

(1)　要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第２５条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア　県立学校

対象児童生徒数（人） 区分	特別支援学校	設置者が援助した額（円）	補助金確定額（円）
要保護	1	1,300	650
計	1	1,300	650

イ　市町村立学校

対象児童生徒数（人） 区分	小学校	中学校	特別支援学校	設置者が援助した額（円）	補助金確定額（円）
要保護	71	30	0	2,485,416	1,115,000
計	71	30	0	2,485,416	1,115,000

３　教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、雇入時健康診断、教職員定期健康診断、教職員結核健康診断を実施した。

(1)　雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア　健康診断実施状況の内訳

受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
	人数	割合	人数	割合
１６７	５１	３０．５％	５１	３０．５％

イ　精密検査の内訳

検査項目	聴力	血圧	貧血	血中脂質	肝機能	血糖	尿	心電図	胸部
受診者数	１６６	１６７	１６７	１６７	１６７	１６７	１６５	１６７	１６５
要精密検査者数	4	6	6	２９	１５	0	9	4	1
要精密検査率	２．４％	３．６％	３．６％	１７．４％	９．０％	０％	５．５％	２．４％	０．６％

（注）要精密検査者については、要精密検査項目が１人で２つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア　健康診断実施状況の内訳

区分 / 年齢・性別		受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
		人数	人数	割合（%）	人数	割合（%）
35歳以上	男性	3,327	920	27.7%	1,939	58.3%
	女性	1,975	720	36.5%	886	44.9%
	計	5,302	1,640	30.9%	2,825	53.3%
35歳未満	男性	723	271	37.5%	262	36.2%
	女性	709	173	24.4%	185	26.1%
	計	1,432	444	31.0%	447	31.2%
合計	男性	4,050	1,191	29.4%	2,201	54.3%
	女性	2,684	893	33.3%	1,071	39.9%
	計	6,734	2,084	30.9%	3,272	48.6%

イ　要精密検査の内訳

検査項目	聴力		血圧		貧血		血中脂質		肝機能		腎機能	
年齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,431	5,277	1,432	5,247	1,431	5,280	1,431	5,279	1,431	5,039	1,431	5,244
要精密検査者数	13	287	53	722	54	241	249	1,109	91	403	52	210
要精密検査率	0.9%	5.4%	3.7%	13.8%	3.8%	4.6%	17.4%	21.0%	6.4%	8.0%	3.6%	4.0%

検査項目	血糖		尿		心電図		胃エックス線		大腸がん		眼底	
年齢	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,432	5,295	1,401	5,186		5,257		4,295		4,841		5,164
要精密検査者数	9	312	74	352		305		186		292		177
要精密検査率	0.6%	5.9%	5.3%	6.8%		5.8%		4.3%		6.0%		3.4%

（注）　要精密検査者については、要精密検査項目が１人で２つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

受診者数	要精密検査者数	要精密検査率
６，４３６人	４８人	０．７%

4　福島県学校保健会

(1) 会　　員

ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒

イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財　　政

平成２６年度予算額　　４，６０８，４０７円

(3) 事業概要

ア 学校保健講習会の開催(県内２１支部単位)

イ 学校保健優良学校・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞

ウ 各種研究大会、講習会等への派遣

エ 刊行物の発行

学校保健会報　第４５号

5　独立行政法人日本スポーツ振興センター

(1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の平成２６年度の加入幼児児童生徒数は４６，９６２人で、前年度に比べ９９２人減少した。

児童生徒は、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

(2) 災害共済給付状況

県立学校において、平成２６年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では４，２７７件(平成２

５年度３，７８１件)、給付金額では３０，９３６，９６９円である。

給付件数では４９６件増加し、給付金額では４，９２０，７６９円減少した。

(3) 平成26年度県立学校災害共済給付状況

区分		医療費		障害見舞金		死亡見舞金		供花料		合計	
		(発生件数) 給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	(発生件数) 給付件数	給付額
		件	円	件	円	件	円	件	円	件	円
幼稚園		(1) 1	951	0	0	0	0	0	0	(1) 1	951
小学校		(14) 20	40,889	0	0	0	0	0	0	(14) 20	40,889
中学校		(24) 43	113,434	0	0	0	0	0	0	(24) 43	113,434
高等学校	全日制	(1,541) 4,181	28,634,261	2	1,870,000	0	0	1	170,000	(1,541) 4,184	30,674,261
	定時制	(15) 27	92,634	0	0	0	0	0	0	(15) 27	92,634
	通信制	(1) 2	14,800	0	0	0	0	0	0	(1) 2	14,800
合計		(1,596) 4,274	28,896,969	2	1,870,000	0	0	1	170,000	(1,596) 4,277	30,936,969

(4) 学校安全支援業務

ア　各種研修会等への講師派遣

第５節　学校給食

１ 学校給食に関する研修会

名称	開催月日	会場	参加人数
学校給食担当者会議	６月１１日	県庁講堂	７２名
新規採用学校栄養職員研修	校内研修 各１５日	所属校・勤務共同調理場	５名
	校外研修 地区別研修Ａ４日 地区別研修Ｂ３日	教育事務所の計画による 市町村教育委員会の計画による	
	宿泊研修Ａ　３日 ５月２６日～ ２８日	国立磐梯青少年交流の家	
	宿泊研修Ｂ　３日	教育センター	
	１０月１５日～ １７日		
学校栄養職員経験者研修Ⅱ	校内研修　４日以上	所属校・勤務共同調理場	４名
	校外研修　５日以上	教育事務所の計画による	
	宿泊研修　３日 ７月３０日～ ８月１日	教育センター	

２ 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

教育事務所	調査件数
県北	６件
県中	２０件
県南	８件
会津	３件
南会津	１件
相双	２件
いわき	９件
合計	４９件

3　食育等に関する研修会等

(1)　学校における食の担当者連絡会議

○　日　時　　平成26年5月19日（月）
○　会　場　　パルセいいざか
○　参加者　　72名

(2)　ふくしまっ子の食環境を考える会

第1回
県　北：平成26年8月22日（金）
　　県文化センター　104名参加
県　中：平成26年8月5日（火）
　　県農業総合センター　121名参加
県　南：平成26年8月29日（金）
　　白河合同庁舎　69名参加
会　津：平成26年8月20日（水）
　　喜多方市塩川福祉センター　37名参加
南会津：平成26年8月18日（月）
　　御蔵入交流館　33名参加
相　双：平成26年9月1日（月）
　　万葉ふれあいセンター　42名参加
いわき：平成26年8月8日（金）
　　いわき合同庁舎　101名参加

第2回
県　北：平成26年12月17日（水）
　　県教育センター　87名参加
県　中：平成26年12月11日（木）
　　県ハイテクプラザ　135名参加
県　南：平成26年12月8日（月）
　　白河合同庁舎　75名参加
会　津：平成26年12月12日（金）
　　会津美里町新鶴公民館　24名参加
南会津：平成26年11月28日（金）
　　御蔵入交流館　37名参加
相　双：平成26年12月16日（火）
　　万葉ふれあいセンター　27名参加
いわき：平成26年12月9日（火）
　　いわき合同庁舎　91名参加

(3)　栄養教諭食育推進研修会

○　日　時　平成27年2月27日（金）
○　会　場　ウィズ・もとまち　27名参加

4　地場産物活用のための研修会

(1)　地場産物活用のための勉強会

第１回
県　北：平成26年8月22日（金）
　　県文化センター　46名参加
県　中：平成26年8月5日（火）
　　県農業総合センター　58名参加
県　南：平成26年8月29日（金）
　　白河合同庁舎　20名参加
会　津：平成26年8月20日（水）
　　喜多方市塩川福祉センター　37名参加
南会津：平成26年8月18日（月）
　　御蔵入交流館　28名参加
相　双：平成26年9月1日（月）
　　万葉ふれあいセンター　41名参加
いわき：平成26年8月8日（金）
　　いわき合同庁舎　31名参加

第２回
県　北：平成26年12月17日（水）
　　県教育センター　45名参加
県　中：平成26年12月11日（木）
　　県ハイテクプラザ　61名参加
県　南：平成26年12月8日（月）
　　白河合同庁舎　18名参加
会　津：平成26年12月12日（金）
　　会津美里町新鶴公民館　34名参加
南会津：平成26年11月28日（金）
　　御蔵入交流館　21名参加
相　双：平成26年12月16日（火）
　　万葉ふれあいセンター　31名参加
いわき：平成26年12月9日（火）
　　いわき合同庁舎　34名参加

(2)　栄養教諭研修

日　時　平成26年8月7日
会　場　（公財）福島県学校給食会　50名参加

(3)　学校給食共同調理場見学会

第１回
日　時　平成27年2月5日（木）
会　場　田村市学校給食センター　17名参加

第２回
日　時　平成27年2月18日（水）
会　場　桑折町学校給食センター　13名参加

5　学校給食関係の国庫助成実績

平成２３年４月１日付け２３文科施第３号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

平成２６年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

設置者名	交付額	学校又は共同調理場名	事業名	児童生徒数	構造	交付面積
いわき市	千円 89,893	勿来学校給食共同調理場（Ⅱ期工事）	共同調理場（新増築、改築）	人 5,500	鉄骨造（S）	㎡ 736
須賀川市	千円 5,050	第二小学校（Ⅰ期工事）	単独校調理場（改築）	人 412	鉄筋コンクリート造（R）	㎡ 60
石川町	千円 26,183	石川小学校（Ⅱ期工事）	単独校調理場（新増築）	人 513	鉄筋コンクリート造（R）	㎡ 221
楢葉町	千円 17,688	楢葉中学校	単独校調理場（新増築、改築）	人 254	鉄筋コンクリート造（R）	㎡ 121
計	千円 138,814	４件				

第６節　体育施設

1　公立学校施設整備費補助（学校体育館施設補助）

(1)　水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積（m²）	交付金額（千円）
田村市	大越小学校（Ⅰ期）	５２	２，６７８
田村市	（仮）滝根地区統合小学校	５２	２，６７８
伊達市	梁川小学校	４００	２５，６５４

(2)　学校クラブハウス

設置者名	施設名	面積（m²）	交付金額（千円）
会津若松市	鶴城小学校（Ⅰ期）	５０	２，５９２
伊達市	梁川小学校（Ⅱ期）	８０	４，４７０
本宮市	岩根小学校（Ⅱ期）	７３	６，０１７

2　社会体育施設整備費補助

(1)　社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積（m²）	交付金額（千円）
該当なし			

第１１章　福　　利　　厚　　生

[福利厚生事業]

第１節　概要

教職員の福利厚生については、教職員の生活の安定と福祉の向上を目指し、県教育委員会、公立学校共済組合及び一般財団法人福島県教職員互助会の３者が緊密な連携を保ち、各事業を実施した。

保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成業業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、家庭における在宅介護術を身につけるための実技を中心とした在宅介護講座、心とからだの健康づくりのためのメンタルヘルスセミナーのほか、生活習慣病予防セミナーや女性のための健康セミナー、震災後の不安に対するメンタルケアと放射線に対する知識の習得を目的とした震災に関するセミナーなど各種講座を開催するとともに、ストレスチェック事業や教職員向けの健康相談事業として「こころとからだの健康相談」および「ふくしま教職員こころのケア事業」などを実施した。

第２節　保健・厚生事業

１　保健事業

(1)　特定健康診査等（共済組合）

平成26年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

対象者数 A	受診者数 B	受診率 B／A	保健指導対象者
18,045人	14,561人	80.7%	2,549人

（H26年度確定値）

(2)　人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア　教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率 B／A	受診率 C／A	受診率 C／B	検診結果 異常なし	検診結果 要注意	検診結果 要精検	検診結果 治療中
6,686人	5,604人	5,535人	83.8%	82.8%	98.8%	6.7%	34.8%	37.0%	21.5%

イ　配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

申込者数 A	受診者数 B	受診率 B／A	検診結果 異常なし	検診結果 要注意	検診結果 要精検	検診結果 治療中
302人	248人	82.1%	5.4%	44.6%	36.9%	13.1%

ウ　定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成26年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率 B／A	受診率 C／A	受診率 C／B	検診結果 異常なし	検診結果 要注意	検診結果 要精検	検診結果 要治療
380人	288人	285人	75.8%	75.0%	99.0%	1.8%	26.7%	34.0%	37.5%

(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
11,057人	1,021人	931人	9.2%	8.4%	91.2%	68.6%	20.0%	11.3%	0%

(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
6,023人	4,098人	3,887人	68.0%	64.5%	94.9%	83.9%	8.3%	7.2%	0.6%

(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
5,885人	850人	834人	14.4%	14.2%	98.1%	64.6%	16.9%	18.3%	0.2%

(6) 脳検診（共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
5,885人	1,943人	1,864人	33.0%	31.7%	95.9%	80.8%	14.3%	4.8%	0.1%

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
14,531人	1,608人	1,576人	11.1%	10.8%	98.0%	66.2%	27.3%	6.1%	0.4%

(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

平成26年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
A	B	C	B／A	C／A	C／B	異常なし	要注意	要精検	治療中
562人	109人	91人	19.4%	16.2%	83.5%	84.6%	7.7%	7.7%	0%

2　厚生事業

(1)　厚生事業

ア　ライフプラン講座（共済組合・互助会）

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

日　程	平成26年8月7日
会　場	ビッグパレットふくしま
プログラム	ライフプラン設計演習 ○20代～30代コース 株式会社FP研究所 今野　隆文　氏 ○40代コース 株式会社FP研究所 石田　英憲　氏 ○50代～60代コース 株式会社FP研究所 三輪　鉄郎　氏
受講者数	305人

イ　在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の１日介護講座を実施した。

日　程	平成26年 7月23日	平成26年 7月24日	平成26年 8月19日
会　場	福島県男女共生センター		
プログラム	(1)　講義「在宅介護の基礎知識」 (2)　実技Ⅰ「環境整備と更衣の仕方」 (3)　実技Ⅱ「排泄援助」 (4)　実技Ⅲ「清潔援助」 7月23日 （福島県介護福祉士会　三瓶　八重子　氏　原田　美智子　氏） 7月24日 （福島県介護福祉士会　佐藤　恵二　氏　坂原　敦　氏） 8月19日 （福島県介護福祉士会　廣川　宗之　氏　紺野　大輔　氏）		
受講者数	19人	15人	24人

ウ　管理・監督者メンタルヘルス研修会（県）

管理・監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

日　程	平成26年5月23日～平成26年8月21日（計17回）
会　場	県内各方部
講　師	ウェルリンク株式会社 小西喜朗氏、和田隆氏、武井規之氏
受講者数	計１，６０４人

エ　管理職員・各部人事管理担当者向けメンタルヘルス宿泊研修（県）

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等の管理職員・人事管理担当者を対象に福島、仙台、盛岡会場で実施した。

日　程	平成26年7月24日～25日	平成26年10月30日～31日
会　場	福島ビューホテル　ほか	
プログラム	講演 ・支援者ストレスとその解決策 立教大学教授 香山　リカ　氏 基調講演 ・「ストレスに強くなる」の本当の意味 石井メンタルクリニック 坂田　成輝　氏 事例検討・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ研修 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 飯塚　靖夫　氏	
受講者数	18人	17人

オ　メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

日　程	平成26年 7月28日	平成26年 7月29日	平成26年 8月1日	平成26年 8月8日
会　場	ビッグパレットふくしま	会津アピオスペーズ	いわき ゆったり館	南東北総合卸センター
プログラム	講演：メンタルヘルスの基礎知識 演習：心と体がリラックスするフットケア・アロマヨガ体験 （株）カイテック 講師：田中　京子 綿貫　恵子		講演：メンタルヘルスの基礎知識 演習：筋弛緩法リラクゼーション （株）カイテック 講師： 皆川　芳弘 杉島小百合	講演：メンタルヘルスの基礎知識 演習：聴くスキルと傾聴のロールプレイ ウェルリンク株式会社 講師： 船見　真鈴
受講者数	94人	60人	41人	35名

カ　女性のための健康セミナー（共済組合）

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

日　程	平成26年8月4日	平成26年8月5日
会　場	ビッグパレットふくしま	
プログラム	(1)　講演 「女性健康力アップセミナー」 （(株)カイテック講師　樋口　恵子　氏） (2)　演習 「リラクセーション法（ルームフレッシュナー作り」 （(株)カイテック講師　樋口　恵子　氏）	

	(3) 実技 「ビューティー骨盤エクササイズ」 ((株)カイテック講師 坂本 典子 氏)	
受講者数	116人	116人

キ 脱メタボリックセミナー（共済組合）

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話と運動指導を行うセミナーを実施した。

日程	平成26年7月30日	平成26年7月31日
会場	会津アピオスペース	ビッグパレットふくしま
プログラム	(1) 講演 「快適人生への未来日記」 (2) 演習 「セルフチェックでメタボ改善」 (3) 実技 「ボクシングエクササイズ＆リラクセーション」 (株)カイテック 講師 皆川 芳弘 氏	
受講人数	32人	42人

ク 震災からの復興支援セミナー（共済組合）

組合員を対象に、震災後の不安に対する対応方法や放射線に関する正しい知識を提供した。

日 程	平成26年7月25日	平成26年8月6日
会 場	ビッグパレットふくしま	会津アピオスペース
プログラム	(1)講演「放射線におけるリスクコミュニケーション」 (福島県立医科大学災害医療総合学習センター副センター長 熊谷 敦史 氏) (2)講演「震災トラウマの理解と心の相談」 (福島復興心理・教育臨床センター代表 橋本 和典 氏)	
受講者数	57人	25人

ケ 保育補助（共済組合）

平成26年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

区 分	内 容	交付件数
Aセット	肌着(ボディミニ)(70サイズ) 1枚 肌着(ボディオール)(70サイズ) 2枚	79件
Bセット	ベビー食器セット マグストローバルーン やわらかコンパクトエプロン	219件
Cセット	ベビー毛布 ベビーバスタオル ベビー枕 スタイ	79件
Dセット	月刊「赤ちゃんとママ」 12冊 お誕生号 1冊 単行本 「赤ちゃんのつぶやき」 1冊 「やさしい離乳食」 1冊 冊子 「お医者さんにかかるまでに」 1冊	26件
計		403件

コ 教職員健康相談事業（共済組合）

（こころとからだの健康相談）

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、19医療機関に相談業務を委託。

のべ利用件数 ２４件

サ 教職員相談事業（県）

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

相談件数 １７６件

シ メンタルヘルスサポート（セルフチェック）事業

公立学校共済組合福島支部のホームページにアクセスし、所定の質問に回答することで、自己の状態を確認した。

アクセス数 １３，８０８件

ス ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、８カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数 ７１１件

講師派遣利用件数 ３件

グループカウンセリングコース・ピアカウンセリングコース利用件数 ０件

セ 教職員メンタルヘルスカウンセリング事業（県）

常勤講師等臨時的任用職員の心の疾患の未然防止や心の健康保持増進を図るため７カウンセリング機関に業務を委託

カウンセリングのべ利用件数 ３件

ソ ストレスチェック事業（共済組合）

公立学校共済組合の被災組合員等対策事業を活用し、２か年にわたり４月１日現在で偶数年齢の組合員を対象に実施した。（平成２６年７月実施）

回答者数 ５，８２０人

回答率 ６２．８％

タ ストレスチェック・カウンセリング事業（県）

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等教職員の正職員を対象に実施した。（平成２６年１１月実施）

回答者数 ４，６４３人

回答率　　８２．０％
相談件数　　３３２件

チ　保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○　あづま荘利用助成

区分	助成対象	助成内容	助成件数
宿泊利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖父母が宿泊したとき	1人1泊1食まで2,000円 1人1泊2食3,000円　等	13,639件
会議室利用助成	組合員が開催する諸会議	会議室料金の2分の1の額	96件
結婚式利用助成	新郎・新婦が組合員のとき	1組 200,000円	0件
	新郎・新婦の一方あるいは親が組合員のとき	1組 100,000円	0件
会食利用助成	組合員が５名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき	1人 1,000円	124件
法要利用助成	組合員及び直系親族が法要を行うとき	利用額の30% (上限70,000円)	2件
年金受給者等利用助成	福島支部発行の「宿泊施設特別利用者証」の交付を受けた者が宿泊したとき	1人 1,000円	619件

○　他支部保養所等利用助成

県内2、県外13の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計1,384件の助成を行った。

ツ　指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（25施設）、県外（10施設）の宿泊施設を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区　分	助成件数	金　額
宿泊等利用助成	18,220件	46,872千円
会食利用助成	127件	127千円
計	18,347件	46,999千円

テ　弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数　　14件

ト　リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数　　807件

ナ　永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は文箱）を交付した。

永年勤続表彰会員　　６３３名
20年以上30年未満勤続し退職した会員　　３７名
勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員１名

(2)　公益事業

ア　へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対　象　校　　113校
児童生徒数　　6,653人

イ　互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用　　1,259冊（累計　58,817冊）

第３節　貸付事業

１　共済組合

平成26年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、一般、教育、医療、結婚、の５種類の貸付けを行った。

(1)　貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

（単位：件、千円）

種類別	件　数	金　額	金額割合
一般貸付け	157	189,001	41.7
住宅貸付け	33	151,530	33.4
教育貸付け	53	100,045	22.0
医療貸付け	2	2,400	0.5
結婚貸付け	7	10,700	2.4
計	252	453,676	100.0

第４節　宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、平成26年度の利用状況は、次のとおりである。

種別＼施設		あづま荘
利用人員	宿　泊	１７，６９６　人
	会　議	３，１７３　人
	宴　会	４５７　人
	婚　礼	０　人
	休　憩	１０　人
	計	２１，３３６　人
利	宿　泊	５１．２　％

用率		
	宿泊外	2．8 %

※利用率

・宿泊＝ $\frac{\text{利用人員（宿泊）}}{\text{宿泊延定員（宿泊定員×営業日数）}} \times 100$

・宿泊外＝ $\frac{\text{利用人員（会議・宴会・婚礼）}}{\text{宿泊外延定員(宿泊外定員×営業日数)}} \times 100$

第５節　児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、以下のとおり支給した。

（単位：人、千円）

	平成27年3月の認定状況		支給額
	受給資格者数	支給対象児童数	
本庁・教育機関等	145	234	25,825
小学校	1,300	2,199	285,835
中学校	1,244	2,124	280,380
高等学校	1,246	2,096	272,425
特別支援学校	300	517	68,005
計	4,235	7,170	932,470

第６節　財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成26年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（平成27年3月31日現在）

（単位：件）

	期日指定定期預金	金銭信託	公社債投資信託	積立保険	計
一般貯蓄	8,104	75	179	660	9,018
年金貯蓄	1,977	54	75	337	2,443
住宅貯蓄	580	13	27	62	682
計	10,661	142	281	1,059	12,143

契約者数　９，２９７人

[福利給付事業]

第７節　概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、恩給及び共済年金の支給を行った。

なお、平成26年度の年金額は、特例水準解消法が平成25年10月1日に施行されたことから、平成26年4月以後の月分として支給される年金から特例水準の額が0.7%引き下げられることとなった。

また、恩給年額については、平成22年度に引き続き据え置きとなった。

第８節　短期給付

１　共済組合

平成26年度末現在における組合員数は、現職組合員数19,452人（前年同期比69人増）、任意継続組合員402人（同32人減）の計19,854人（同37人増）である。

また、被扶養者数は、18,781人（同490人減）、組合員１人当たりの被扶養者数は、0.946人となっている。

平成26年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,480,270千円で、前年度対比83,215千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付 96.80%、附加給付 3.20%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

法定給付				附加給付			
種別		件数（件）	給付額(千円)	種別		件数（件）	給付額（千円）
医療給付	本人医療費	175,468	1,774,478	医療給付	家族療養費	1,031	37,647
	家族医療費	155,508	1,530,587	その他の給付	家族訪問看護療養費	1	22
	高額療養費	2,457	266,979		出産費	284	14,200
	薬剤	147,445	949,192		家族出産費	162	8,100
	移送費	0	0		埋葬料	15	375
	小計	480,878	4,521,236		家族埋葬料	12	300
その他の	出産費	275	117,687		直営保健給付家族療養費	1	62
	家族出産費	150	65,826		傷病手当金	52	15,641
	埋葬料	15	750		災害見舞金	0	0
	家族埋葬料	12	600		結婚手当金	290	16,440

給付	傷病手当金	387	113,777		入院付加金	0	0
	出産手当金	9	2,639				
	休業手当金	0	0				
	育児休業手当金	2,478	473,963				
	介護休業手当金	58	5,964				
	弔慰金	0	0				
	家族弔慰金	0	0				
	災害見舞金	2	1,976				
	小計	3,386	783,182				
① 法定給付 計		484,264	5,304,418	② 附加給付 計		1,848	92,787

③一部負担金払戻金	2,403	83,065
短期給付合計（①＋②＋③）	488,515	5,480,270

2 互助会

平成26年度末現在の互助会の会員数は、17,213人（前年同期比126人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

(1) 短期給付金

種別		件数（件）	給付額（千円）
医療補助金	（被扶養者）	12,648	48,606
死亡弔慰金	（会員）	15	750
	（被扶養者）	10	400
災害見舞金		1	30
出産見舞金	（会員）	207	10,350
	（被扶養者）	126	3,780
計		13,007	63,916

(2) 厚生給付金

種別	件数（件）	給付額（千円）
医療給付金	42,918	151,090
死亡給付金	556	18,760
出産給付金	95	2,940
結婚祝金	211	10,550
入学祝金	699	20,970
入院療養見舞金	1,626	18,591
障がい見舞金	80	4,000
育児休業給付金	2,557	36,155
介護休暇給付金	22	2,566
計	48,764	265,622

第９節 長期給付

平成26年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩給

(1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

平成26年度末現在の受給者数は99人（前年度比26人減）、平成26年度における支給総額は158,871千円（同31,872千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

学校種別	普通恩給		扶助料		退隠料		遺族扶助料		計	
	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）	人員（人）	支給額（千円）
小学校	9	22,162	54	84,702	2	2,186	0	257	65	109,307
中学校	2	4,349	24	37,825	3	3,499	0	0	29	45,673
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	1	111	1	111
高等学校	0	0	0	0	0	0	1	945	1	945
教育庁その他	0	0	2	1,890	0	0	1	945	3	2,835
計	11	26,511	80	124,417	5	5,685	3	2,258	99	158,871

イ　裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。　（単位：人）

恩給種別	裁　定	失　権	左のうち完全失権
普通恩給	0	8	8
扶助料	0	17	17
退隠料	0	0	0
遺族扶助料	0	1	1
計	0	26	26

(2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の４月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、22年度以降は実施していない。

2　退職手当

(1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	16	309,849
小　学　校	1,120	6,447,982
中　学　校	832	3,431,708
高等学校	537	2,572,086
特別支援学校	345	755,682
計	2,850	13,517,307

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員（人）	支給額（千円）
教育庁・その他	0	0
小　学　校	32	8,359
中　学　校	20	5,734
高等学校	8	2,062
特別支援学校	5	1,124
計	65	17,279

3　共済年金

(1) 進達件数

退職共済年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

進達区分	旧共済法による年金		新共済法による年金					計
	退職年金	障害年金	退職共済年金	退職共済年金（特別）	退職共済年金（繰上）	障害共済年金	遺族共済年金	
決定請求	0	0	9	176	1	24	7	217
改定請求	0	0	11	13	0	0	0	24

(2) 支給人員及び支給額

退職共済年金等の平成26年度末現在における支給人員は21,102人で、平成26年度における支給額は385億9,415万9千円、平均年齢は77.4歳である。

前年度に比較して人員で33人の減少、支給額で8億3,905万1千円の減少となっている。

年金種別		受給者数（人）			平均年齢	平均年金額（円）	支給額（円）
		男	女	計			
新共済年金	退職共済年金	6,743	4,125	10,868	75.8	1,803,574	19,601,242,232
	退職共済年金（特別）	979	891	1,870	62.6	1,474,707	2,757,702,090
	退職共済年金（繰上）	0	0	0	－	0	0
	障害共済年金	158	131	289	59.4	1,165,944	336,957,816

	遺族共済年金	440	4,174	4,614	81.0	1,673,054	7,719,471,156
	小　計	8,320	9,321	17,641	75.5		30,415,373,294
共年	退職年金	688	1,986	2,674	87.9	2,625,070	7,019,437,180
	減額退職年金	27	151	178	83.3	1,895,120	337,331,360
	通算退職年金	4	15	19	91.3	677,547	12,873,393
	障害年金	23	28	51	76.6	2,137,404	109,007,604
	遺族年金	21	516	537	84.8	1,302,516	699,451,092
	通算遺族年金	0	2	2	92.5	342,450	684,900
	小　計	763	2,698	3,461	87.1		8,178,785,529
合　計		9,083	12,019	21,102	77.4		38,594,158,823

※支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。

(3) 年金額の改定

平成25年平均の全国消費者物価指数（生鮮食品を含む総合指数）の対前年比変動率はプラス0.4%、対前年度比名目手取り賃金変動率はプラス0.3%であった。

本来水準の額の算定については、新規裁定者（68歳未満）は名目手取り賃金変動率、既裁定者（68歳以上）は物価変動率を基準として再評価率を改定する。ただし、既裁定者については、物価変動率が名目手取り賃金変動率を上回り、かつ、名目手取り賃金変動率が１以上となる場合は名目手取り賃金変動率により改定されることから、新規裁定者・既裁定者ともに、原則として、名目手取り賃金変動率（0.3%）によって改定され、0.3%の引上げとなった。

一方、特例水準の額の算定については、0.7%の引下げとなった。これは平成25年10月時点で本来水準と特例水準の差が1.5%となっており、平成26年度は1.0%分の解消を行うため、1.0%に国民年金法による改定率の改定の基準となった率（平成26年度は名目手取り賃金変動率0.3%）を乗じた0.7%の引下げとなったものである。（平成16年改正法附則第4条の2、第5条の2）

また、改定率政令の改正により、平成26年度の国民年金法による改定率は「0.985」とされた。

第１２章　福島県教育センター

第１節　概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

平成24年度は、平成23年度の初任者研修が震災の影響で十分な形で実施できなかったことを踏まえ、職能研修Ⅰに「２年次教員指導の実践講座」を設け、初任者の実践的指導力の向上を図った。他方で、震災の影響により小中学校教諭及び養護教諭の採用がなかったため、当該の基本研修は実施しなかった。しかし、年度末の平成25年3月19日本館東西棟の耐震改修や災害復旧工事が完成し震災以前の状態に戻ることができた。

これを受け平成25年度同様平成26年度についても、震災以前と同じ形態で、基本研修・職能研修・専門研修・自主講座などをセンターの全ての施設を使用しながら行うことができた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

１　調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分こたえられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な調査・研究を進めてきた。

(1)　調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

(2)　研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、研究調査のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センター Web サイト」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成26年11月27日(木)に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

２　研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成26年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、平成26年度の実績は、次のとおりであった。

講　座　数	72 講座
講座開設数	135 回
講座研修者数	4,434人(延べ人数)
講座開設期間	平成26年４月３日～平成27年２月19日

前年度比

講　座　数	3	増
講座開設数	2	減
講座研修者数	496	増

３　情報教育事業

福島県内649の学校・教育関係機関を接続する「ふくしま教育総合ネットワーク(FKS)」において、安全・安心なサービス提供のためのネットワーク基盤の運用・整備や保守対応、テレビ会議システムの利用サポートを行った。また、青少年期における情報リテラシーを育むための「教育の情報化のインフラ」として、有害情報のフィルタリングやウイルス除去を行うとともに、FKS の利用方法の相談・問い合わせに対する対応・回答を行った。

情報教育研修では、学習指導要領へ対応した研修の充実を図り、「教科指導における ICT 活用」「児童生徒の情報活用能力の育成」「校務の情報化」の３つの柱に「教育の情報化の推進」に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理における表計算(関数)講座」や「フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座」、「Net Commonsによる学校Webサイト構築講座」、「校内ネットワークの管理と運用基礎講座」などを行った。また、基本研修での講義等をとおして、「情報モラル教育」及び「教科指導における ICT 活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

「情報モラル教育」については、小・中学校等の要請を受けて、児童生徒・教職員・保護者を対象に、出前講座等を行った。スマートフォン・ゲーム機・音楽プレーヤーの普及やSNS等の利用の増加に伴い、児童生徒に対する「情報モラル教育」は喫緊の課題であり、出前講座の実施数は急激に増加している。

4　教育相談事業

教育相談事業では、幼児及び児童生徒の教育上の諸問題について来所及び電話で相談を受け、問題の改善・解決をめざした。

来所相談では不登校、家庭生活に関する相談が、電話相談では学校への不満、不登校に関する相談が多かった。

学校への不満に関する電話相談の中で早急な対応が必要と思われる事案については、当該校の管理職に情報を提供し、その共有に努めた。不登校に関する電話相談については、来所による相談も可能であることを積極的に伝えた。

なお、震災・原発事故に関連した児童生徒を対象とする相談はほとんど寄せられなかった。

5　教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWeb(http://www.center.fks.ed.jp/)に掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスも行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第167号、168号及び「研究紀要」第44集を発行した。

第２節　調査・研究事業

1　調査・研究

平成26年度の調査・研究として、教育庁より依頼された調査研究チームと情報教育チームの２件及び教育相談チームの１件、計３件に取り組んだ。

(1)　調査研究チームによる研究

「授業力の向上に係る校内研修の在り方に関する研究」
～県内公立学校の校内研修の実態調査と方法の提案～

児童生徒の学力向上は本県の喫緊の課題であり、調査研究チームとしては「言語活動の充実（21、22年度）」「活用力の育成(23、24年度)」「教師のコーディネート(25年度)」と、教師の授業力向上についての研究を行ってきた。

教師の授業力向上のための取組を効果的に進めるためには、教師個々の取組を支える、学校全体としての研修の仕組み作りが不可欠であるという考えから上記の課題を設定し研究に取り組んだ。

初めに、県内の小・中・高等学校・特別支援学校にアンケートを行い、校内研修の実態について調査した。研修主任等786名、一般教諭3008名から回答を得、これを分析した結果、次の課題を見出すことができた。

- 授業研究に対する意識に差がある
- 授業研究の方法に改善が必要である
- 授業研究が一人一人の授業力向上に効果的に結びついていない
- 校内研修を活性化させるためには、同僚性、協働性が求められる

これらの課題の解決のためには、学校全体の研究と一人一人の教師の授業力向上に向けた取組をつなぐためことが重要となる。それを「校内研修の４つのポイント」として具体的な手だてを考えた。

> 校内研修の４つのポイント
> 1　一人一人の教師が自分の授業（授業力）について課題を明確にしている。
> →授業力チェックシートの活用
> 2　効率的で深まりのある授業研究を行う。
> →ワークショップ型の協議
> 3　研究授業から何を学びどのような取組をしていくかを焦点化する。
> →授業改善シートの活用
> 4　授業改善のための取組を日常化する。
> →少人数チームの活用

これらのポイントについて、研究協力校との実践研究を行うことを通して研究を進めた。その結果、次のような研究の成果と課題が確認された。

（成果）

○　研究協力校へのアンケートでは、「授業を見る視点の共有」「子どもの姿を中心に授業を見ること」「話し合いの深まり」「自分の授業改善の具体策の考案」などの点で大きな伸びが見られた。

○　教師の感想では「授業研究から、子どもの考えをしっかり見取り、子どもの発言を全体に広げたりつなげたりする教師のコーディネートが大切であることを学んだ。」など、授業力の向上につながるものが多く寄せられた。

これらのことから、有効な提案ができたと考えられる。

（課題）

○　少人数チームの編成とチームでの取り組み方など、学校の研究課題や教員の実態に合わせて、各学校が工夫することができるよう、より具体的な方法を提案し、県内に発信する必要がある。

次年度は本研究を継続し、小学校２校、中学校１校を研究協力校とし研究を行う。さらに、研究を基に効果的な授業研究の方法についての実践資料を作成し、各学校に配付したい。また、教育研究会での発表、『研究紀要』や Web を通して広く発信する予定である。

(2)　情報教育チームによる研究

情報モラル教育に関する研究
～子どもたちの情報モラル・情報リテラシーの定着をめざして～

平成26年度は、本県の研究課題として情報モラルに関

する研究を進めてきた。次に今年度の成果を上げる。

○　研究協力校においてインターネット利用に関する調査と安心協ILASテスト※1を実施し、教員・生徒のネット利用に関する実態や情報リテラシーを把握した。このことにより、「各教科での情報モラルの指導」の実施に向けて、教員の情報モラル指導に対する意識や障害を分析することができた。

○　情報モラルに関する授業に苦手意識を持っていた教員に対して情報伝達や支援を行い、ほとんどの教科で授業実践を行うことができた。「情報モラルが主題となる授業」、「１単位時間の中で、授業内容に関わる事柄について、部分的に情報モラルを取り入れる授業」など、アプローチの方法は様々だったが、「情報モラルに関わりある内容を多くの教員が取り上げて指導する」ことが大切であり、その成果はILASテストの結果として現れた。

○　家庭での情報モラル指導力の向上をねらい、まず保護者へ知識を与えるための講演会を開催し、保護者への啓発活動を行った。

○　基本研修、職能研修、及び専門研修等で情報モラル教育に関する講義・演習を行った。昨年度までは、日程の関係で総合的な話をすることが多かったが、「研修者が学校に戻ってから何をするか」という視点で実施したことで、より内容が充実した研修となり、研修者の具体的な行動につながった。

○　今年度の出前講座を振り返り、多岐にわたるインターネットの最新情報から不易と流行を見定めると、外部講師として伝えたい内容は「インターネットの仕組みから考える情報発信の在り方」「ネット依存を引き起こすゲーム・アプリの仕掛けから考える使用時間の在り方」「ネット内のコミュニケーションから考えるSNS利用の在り方」「有害情報から考える判断力育成の在り方」の４項目にまとめることができた。

※１　安心協ILASテスト

総務省が青少年のネットリテラシー向上のための前提として、インターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、その能力を数値化するテストとしてILAS（Internet Literacy Assessment indicator for Students ／青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標）を開発した。安心ネットづくり促進協議会では、総務省のILASを援用し、小学生から大人まで実施可能な平易で短時間で回答できる設問として「安心協 ILAS」を開発した。

(3)　教育相談チームによる研究

児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究（第四年次）～教育相談的な手法を生かした「校内研修実践資料（高等学校版）」の開発を通して～

本研究では、教員が生徒指導・教育相談の校内研修を自律的に進めることができる『校内研修実践資料』（以下『実践資料』）の開発を通して、教員の児童生徒を支援する力の向上をめざした。今年度は研究協力校３校での実践的な取組みを通して実施・進行案等の検証と修正を行い、『実践資料（高等学校版）』の開発を進めた。併せて、昨年度までに開発した『実践資料』を中核市を除く全公立小・中学校へ配布したり、同資料をWebアップしたりするなどその普及に努めた。加えて、専門研修「学校教育相談実践講座」の中で『実践資料』を用いた校内研修の進行者育成に取り組み、その活用促進を目指した。

２　長期研究員制度による研究

平成23年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。平成26年度は、15名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では９名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』『研究報告書』にまとめるとともにWebで発信した。

第３節　研修事業

１　研修講座の概要

(1)　基本研修

ア　新規採用者・初任者研修

教職員としての基礎・基本を習得する研修である。

(ｱ) 幼稚園教諭

a 園内における研修(10日)

b 園外における研修(10日)

・宿泊研修（３泊４日）

・地区別研修（各地区）（３日）

・参観研修（３日）

(ｲ) 小学校及び中学校教諭

a 校内における研修(180時間以上)

b 校外における研修(25日)

(a) 宿泊研修(６日)

宿泊研修Ａ（２泊３日）

宿泊研修Ｂ（２泊３日）

(b) 地区別研修(19日)

・地区別研修Ａ(７日)(教育センター、各教育事務所による計画)

一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修

・地区別研修Ｂ(12日)(市町村教育委員会、勤務校による計画)

研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、企業等体験研修、他校種園参観研修

(ｳ) 高等学校教諭

a 校内における研修(180時間以上)

b 校外における研修(25日)

(a) 宿泊研修(８日)

基本研修(１泊２日)、一次研修(２泊３日)

二次研修（２泊３日）
(b) 教科別研修（３日）（教科ごとに初任者配置校を会場として実施）
(c) 地区別研修（14日）
・地区別研修Ａ（10日）（各地区）
一般研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
・地区別研修Ｂ（４日）（各学校による計画）
特別支援学校研修、他校での授業参観等研修
(エ) 公立学校実習助手（高校教育課主管　高等学校初任者研修と合同開催）
a 校内における研修（２日程度）
b 校外における研修（12日）
(a) 基本研修（１泊２日）
(b) 地区別研修Ａ（各地区）
一般研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
(オ) 養護教諭（小・中・高・特別支援学校）
a 校内における研修（15日）
b 校外における研修（14日）
(a) 宿泊研修（６日）
宿泊研修Ａ（２泊３日）
宿泊研修Ｂ（２泊３日）
(c) 地区別研修（８日）
・地区別研修Ａ（６日）（各教育事務所、勤務校による計画）
一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
・地区別研修Ｂ（２日）（各教育事務所、勤務校による計画）
一般研修、企業等体験研修
(カ) 学校栄養職員
a 学校等内における研修（15日）
b 学校等外における研修（13日）
(a) 宿泊研修（６日）
・宿泊研修Ａ（共通研修）（３日）
・宿泊研修Ｂ（専門研修）（２泊３日）
(b) 地区別研修（７日）
・地区別研修Ａ（４日）（各地区）
一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
・地区別研修Ｂ（３日）（各教育委員会による計画）　一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修

イ　経験者研修Ⅰ

在職期間が５年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。

(ア) 小学校・中学校教諭
a 校内研修（５日）
b 校外研修（３日）
宿泊研修（２泊３日）
(イ) 高等学校教諭
a 校内研修（５日）
b 校外研修（３日）
宿泊研修（２泊３日）
(ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援学校）
a 校内研修（３日）
b 校外研修（３日）
宿泊研修（２泊３日）

ウ　経験者研修Ⅱ

在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。

(ア) 幼稚園教諭
a 園内研修（７日）
b 園外研修（５日）
宿泊研修（１泊２日）、共通研修（各地区）（１日）、社会体験研修（１日）、選択研修（１日）
(イ) 小・中学校教諭
a 校内における研修（15日）
b 校外における研修（10日）
共通研修（各地区）（１日）、教科指導研修（２泊３日）
生徒指導研修（各地区）（１日）、社会体験研修Ⅰ（２日）、選択研修（３日）
(ウ) 高等学校教諭
a 校内における研修（15日）
b 校外における研修（10日）
共通研修（１日）、生徒指導研修（１日）、教科指導研修Ⅰ（１日）、教科指導研修Ⅱ（２日）、社会体験研修Ⅰ（２日）、選択研修（３日）
(エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援学校）
a 校内研修（４日）
b 校外研修（６日）
共通研修（１日）、宿泊研修（２泊３日）、社会体験研修Ⅰ（１日）、選択研修（１日）
(オ) 学校栄養職員（隔年実施）
a 学校等内における研修（４日）
b 学校等外における研修（８日）
共通研修（１日）、宿泊研修（２泊３日）、社会体験研修Ⅰ（１日）、学校訪問研修（１日）、選択研修（１日）、選択研修（２日）

エ　経験者研修Ⅲ

教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修

である。

(ｱ) 県立学校教諭
教育センター(２泊３日)

(ｲ) 市町村立小・中・特別支援学校教諭
教育センター(２泊３日)

(2) 職能研修

新任の校長・教頭・教務主任に対しての職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア　職能研修Ⅰ

(ｱ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会
教育センター(１泊２日)

(ｲ) 県立学校新任校長研修会
教育センター(１泊２日)

(ｳ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
教育センター(１泊２日)

(ｴ) 県立学校新任教頭研修会
教育センター(１泊２日)

(ｵ) 新任教務主任研修会(小・中・高・特別支援学校)
各地区（１日)(関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画)

イ　職能研修Ⅱ

(ｱ) 複式学級担当教員研修会
教育センター(１泊２日)

(ｲ) 免許外教科担任教員研修会
教育センター(２泊３日)

(ｳ) 校長のためのマネジメント講座
教育センター(１泊２日)

(ｴ) 教頭のためのマネジメント講座
教育センター(１泊２日)

(ｵ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
教育センター(１泊２日)

(ｶ) 養護教諭専門研修講座
教育センター(２泊３日)

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談（基礎、実践、予防・開発的教育相談)、道徳教育実践（小・中)、各教科（小・中・高)、高等学校理科実習実技などの各講座を実施した。

2　研修講座

(1) 平成26年度研修講座数・受講者数

ア　基本研修

	基本研修				計
	初任研	経験Ⅰ	経験Ⅱ	経験Ⅲ	
講座数	6	5	6	2	19
(延べ数)	46	7	22	2	77
延べ受講者数	2,230	198	634	107	3,169

イ　職能研修

	職能研修		計
	職能研修Ⅰ	職能研修Ⅱ	
講座数	4	6	10
(延べ数)	4	7	11
延べ受講者数	183	349	532

ウ　専門研修

	専門研修	計
	専門研修Ⅱ	
講座数	43	43
(延べ数)	47	47
延べ受講者数	733	733

エ　総計

	基本研修	職能研修	専門研修	計
講座数	19	10	43	72
(延べ数)	77	11	47	135
延べ受講者数	3,169	532	733	4,434

(2) 平成26年度研修講座実施状況

ア　基本研修

講座名	会場	期日	受講者数
幼稚園	教育センター	８月19日 ～８月22日	52
小学校	磐青 教育センター	５月26日 ～５月28日 ８月６日 ～８月８日	71
中学校	磐青 教育センター	５月26日 ～５月28日 ７月30日 ～８月１日	54
		４月３日 ～４月４日	

初任者研修	高等学校	教育センター	4月23日～4月25日 2月17日～2月19日	75
	養護教諭	磐　青 教育センター	5月26日～5月28日 10月7日～10月9日	28
	栄養職員	磐　青 教育センター	5月26日～5月28日 10月15日～10月17日	3
	地区別研修	幼・小・中・高・栄・養（34講座）	各地区で実施	1,626
経験者研修Ⅰ	小学校	教育センター	6月10日～6月12日	56
	中学校	教育センター	10月15日～10月17日 10月21日～10月23日	33
	高等学校	教育センター	同　上	93
	養護教諭	教育センター	9月2日～9月4日	16
経験者研修Ⅱ	幼稚園	教育センター	6月4日～6月5日	20
	小学校	教育センター	9月29日～10月1日	56
経験者研修Ⅱ	中学校	教育センター	9月2日～9月4日	40
	高等学校	教育センター	4月15日 7月9日～7月10日 2月9日～2月10日	58
	養護教諭	教育センター	7月23日～7月25日	7
	栄養職員	教育センター	7月30日～8月1日	4
	地区別研修	幼・小・中・高・養（14講座）	各地区で開催	337
経験者研修Ⅲ	小・中・特支	教育センター	11月10日～11月12日	36
	県立学校	教育センター	10月29日～10月31日	71

イ　職能研修

	講座名	期日	受講者数
職能研修Ⅰ	市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会	5月1日～5月2日	67
	県立学校新任校長研修会	5月8日～5月9日	9
	市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会	5月19日～5月20日	91
	県立学校新任教頭研修会	5月12日～5月13日	16
	市町村公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会	各教育事務所の日程	87
	県立学校新任教務主任研修会	各教育事務所の日程	28
職能研修Ⅱ	複式学級担当教員研修会	5月29日～5月30日	42
	免許外教科担任教員研修会	5月14日～5月16日	49
		5月21日～5月23日	42
	校長のためのマネジメント講座	6月19日～6月20日	77
	教頭のためのマネジメント講座	9月16日～9月17日	79
	小・中学校におけるキャリア教育実践講座	9月10日～9月11日	40
	養護教諭専門研修講座	9月9日～9月11日	20

ウ　専門研修

	講座名	期日	受講者数
校種	授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座	6月30日～7月1日	12
	国語科指導におけるPISA型読解力研究講座	9月18日～9月19日	13
	思考力・判断力・表現力を高める地歴・公民科実践講座	8月20日～8月21日	8
	資料活用能力を育成する社会科・地理歴史科の授業づくり講座	6月30日～7月1日	13
	中学校・高等学校の系統性を重視した統計活用講座（数学）	11月5日～11月6日	8
	創作（音楽づくり）指導充実を図る授業実践講座	11月5日～11月6日	16
	日本伝統音楽の授業づくり講座	7月3日～7月4日	9
	創造性をはぐくむ図画工作・	6月17日	13

共通（小・中・高・特支）	美術の鑑賞法指導講座	8月21日	
	創造性をはぐくむ美術の表現指導法講座	11月5日 ～11月6日	12
	「体つくり運動」の趣旨を踏まえた体育指導力向上講座	8月4日 ～8月5日	23
	特性や魅力を生かしたボール運動・球技の指導力向上講座	11月5日 ～11月6日	11
	家庭科を担当する先生のための基礎基本講座	9月18日 ～9月19日	4
	食生活に関する指導向上を図る家庭科の授業づくり講座	11月13日 ～11月14日	4
	英語における「書くこと」の指導と評価実践講座	8月4日 ～8月5日	19
	児童生徒理解に生かす学校教育相談基礎講座	7月24日 ～7月25日	47
	事例研究を中心に児童生徒理解を深める学校教育相談実践講座	7月2日 ～7月3日 10月2日 ～10月3日 2月16日 ～2月17日	29
	人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座	6月17日	44
	校務処理に生かす表計算（関数）講座	7月3日	36
	校務処理に生かす表計算（統計分析）講座	8月5日	25
	フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座	9月18日	24
	校内ネットワークの管理と運用基礎講座	11月5日 ～11月6日	16
	NetCommonsによるグループウェア構築講座	6月17日	24
	NetCommonsによる学校Webサイト構築講座	10月2日 ～10月3日	23
	情報モラル教育指導者実践講座	11月14日	22
	新学習指導要領に対応した共通科目「情報」の授業実践講座	8月20日	8
	今だから聞きたい道徳教育の実践講座	8月20日 ～8月21日	23
	今こそ聞きたい特別活動の実践講座	6月17日 ～6月18日	9
小学校	言語活動の充実を図る国語指導力向上講座（小）	7月22日 ～7月23日	16
	単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の単元づくり講座	11月13日 ～11月14日	9
	社会科の見方や考え方をはぐくむ社会科の授業づくり講座	9月8日 ～9月9日	5
	算数的活動を取り入れた授業づくり講座	7月22日 ～7月23日	15
	科学的な見方や考え方をはぐくむ理科授業づくり講座	6月17日 ～6月18日	7
	実践事例に学ぶ図画工作科指導法講座	7月4日	7
	小学校外国語活動講座	7月24日 ～7月25日 8月19日 ～8月20日	3 16
中学校	言語活動の充実を図る国語指導力向上講座（中）	8月4日 ～8月5日	15
	活用力を育てる数学の授業づくり講座	6月30日 ～7月1日	9
	科学的な見方や考え方を養う理科授業づくり講座	9月8日 ～9月9日	7
	匠に学ぶものづくり講座	8月20日 ～8月21日	9
	読解力・表現力の向上を図る英語指導講座	9月18日 ～9月19日	7
高等学校	教科指導力を高める数学問題作成講座	8月4日 ～8月5日	12
	科学的な自然観をはぐくむ理科実験講座	9月18日 ～9月19日	17
	科学的な見方や考え方をはぐくむ理科実験・実習講座	6月30日 ～7月1日	10
	コミュニケーション能力の育成を図る英語指導力向上講座	7月22日 ～7月23日	14

3　指導主事派遣等

平成26年度の指導主事派遣及び出前講座の概要は次のとおりである。カッコ内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣人数は、指導主事派遣人数に含む。

指導主事派遣人数　281名（21名増）
（内訳）小　学　校　96名（34名増）
　　中　学　校　44名（10名増）
　　高　等　学　校　27名（ 4名減）
　　教育委員会等　43名（12名減）
　　各種教育団体等　71名（ 7名減）
「出前講座」での指導主事派遣人数　152名
（内訳）小　学　校　61名
　　中　学　校　38名
　　高　等　学　校　19名
　　教育委員会等　25名
　　各種教育団体等　9名

第４節　情報教育事業

1　研修講座の概要

公立小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

(1)　ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

ア　校内ネットワークの管理と運用基礎講座

イ　NetCommonsによるグループウェア構築講座

(2)　授業実践講座（小・中・高・特支）

ア　フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座

イ　情報モラル教育指導者実践講座

ウ　新学習指導要領に対応した共通教科「情報」の授業実践講座

(3)　校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

ア　校務処理に生かす表計算（関数）講座

イ　校務処理に生かす表計算（統計分析）講座

(4)　学校Webサイトに関する講座（小・中・高・特支）

ア　NetCommonsによる学校Webサイト構築講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報の扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、６月７日に表計算入門講座を実施し、各地から13名の参加を得た。また、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、中学生対象の「子どものためのロボット・ワークショップ」は、８月23日に９組の中学生とその保護者、８組の小学生とその保護者の参加により実施した。

2　施設利用概況

基本研修の実践講座の各教科において、「教科指導におけるICT活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等ICT機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下の通りであった。

パソコン研修室利用状況

利用区分		講座数	利用日数	実人数	延べ人数
教育センター研修		46	152	825	1336
講座	基本研修	19	86	334	657
講座	専門研修（出前講座）	21	57	415	571
講座	職能研修	6	9	76	108
教育庁研修		35	56	455	560
合計		81	208	1280	1896

第５節　教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。今年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

1　対象別

来所相談件数・電話相談回数

※　対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は107日、電話相談日数は244日であった。

種別＼対象		幼	小	中	高	一般	教員	計
来所相談	件数	0	46	26	38	0	4	114
来所相談	人数	0	71	29	42	0	4	146
電話相談	回数	2	124	93	114	37	84	454

2　区分別

来所相談件数・電話相談回数

※　対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

種別＼対象		知能学業	性格行動	身体神経	進路適性	教育一般	その他	計
来所相談	件数	6	63	12	4	25	4	114
来所相談	人数	6	92	12	5	27	4	146
電話相談	回数	1	102	6	22	184	139	454

3　地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
51	14	12	10	6	16	5	0	114

4　月別相談件数・回数

種別＼月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所相談	件数	1	1	2	35	0	4	30	2	1	3	32	3	114
来所相談	人数	2	2	5	38	0	8	33	6	3	7	34	8	146
電話相談		40	45	45	43	19	46	42	34	31	32	35	42	454

第６節　教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

１　教育図書・教育資料の収集

教育図書購入冊数	96 冊
寄贈教育図書等（ＶＴＲを含む、教科書は除く）	7 冊
定期刊行図書購入冊数	28 冊
研究紀要等寄贈冊数	411 冊
恵贈定期刊行物数	37 冊

２　教育資料の刊行

研究紀要	第44集
所報ふくしま「窓」	第167号～第168号

付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。平成26年度は１名。

第１３章　福島県養護教育センター

第１節　概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第６次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

１　教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中・高・特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの支援・援助策について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察、必要に応じて心理検査等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は277件（昨年度比94％）、延べ件数は762件（昨年度2名増）であった。障がい種別による相談実件数では、情緒障がい（発達障がいを含む）に関する相談が最も多く約67％を占めている。知的障がいに関する相談は約13％であり、合わせると実件数の全体の80％を占める。相談者は、保護者、教員、保育士、学習支援員等である。

また、本年度も継続して、震災後の地域支援として、特に被災地域の学校等に出向いて相談を行ったり、教育委員会の就学相談等への支援を行った。

その他の地域においても、学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の開催や運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

２　教職員研修事業

特別支援学校の基本研修においては、教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小・中学校や特別支援学校の教員を対象とする職能研修では、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の対象者は初任者研修43名、経験者研修Ⅰ40名、経験者研修Ⅱ30名で、受講者総数は410名であった。職能研修の受講者総数は580名（特別支援学級等新任担当教員研修会122名、特別支援学級担当教員研修会43名、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会144名、高等学校特別支援コーディネーター研修会96名、特別支援学校コーディネーター研修会50名、特別支援学校養護教諭等研修会23名、通級指導教室担当教員研修会102名）、専門研修講座（17講座）の総受講者は449名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（７講座）の聴講者総数は89名で、自主研修講座（２講座）の参加者総数は79名であった。

３　教育調査・研究事業

震災後の本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

(1) 調査研究

【小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査（一年次）】

平成26年度に福島県内の全国公私立小・中学校706校を対象に、肢体不自由のある児童生徒との学習状況調査を一次調査、二次調査の2回に分けて実施した。

一次調査では、肢体不自由のある児童生徒の在籍状況、主な困難さ、関係機関との連携について調査した。２次調査では、一次調査で肢体不自由のある児童生徒が在籍していた小・中学校134校を対象に、学習上・生活上の困難さに対応する具体的支援状況や特別支援学校のセンター的機能へのニーズ等について調査した。実施にあたっては、関係機関や肢体不自由特別支援学校、医療機関等と連携し、調査委員会を発足させ、調査研究を進めた。

(2) 教育研究

【小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」（一年次）】

平成24・25年度プロジェクト研究Ⅰ「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」とプロジェクト研究Ⅱ「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくりー交流及び共同学習の充実に向けてー」をテーマとして研究を進め、複数の教員によるチームでの授業づくりが児童生徒の学びの充実につながることが成果として得られた。しかし、児童生徒の学びの充実のために、組織的に取り組む支援体制の充実が図られたかは課題となった。

プロジェクト研究の成果と課題を受け、教育研究では授業研究会で児童生徒の学びに視点をあてることやケース会議で児童生徒のニーズ等を検討することによるチーム支援の取組と児童生徒への一貫した支援ができることや児童生徒の特性の理解、多様なニーズや学び方の共有と授業づくりができる

ことの校内組織の仕組みがつながることで、校内支援体制の充実が図られることを検討した。

4　教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実をめざして広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備、充実を図った。

本年度も特別支援教育並びにLD・ADHD・高機能自閉症等の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webページによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は6,160冊、定期刊行物5種、教育資料数3,989点である。

5　広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webページでも情報提供に努めた。

6　情報教育事業

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するため、ICT等支援機器の活用に関する研修の企画運営を行った。ＦＫＳテレビ会議システムによる学習指導の支援を行った。

第2節　教育相談事業

1　相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の種類は次のとおりである。

○視覚にかかわる相談
○聴覚にかかわる相談
○病弱・虚弱にかかわる相談
○言語にかかわる相談
○知的発達にかかわる相談
○肢体不自由にかかわる相談
○重複した障がいにかかわる相談
○情緒等(LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症、緘黙、不登校等)にかかわる相談

2　形態

(1) センター相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話による相談も行った。

(2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また小・中学校、高等学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

3　現状と課題

特別支援教育の相談については、各学校において特別支援教育の校内委員会や教育相談・進路指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが組織として機能してきたと考える。当センターの教育相談については、そのような地域・学校の機能をどのように連携していくのかをさらに検討が必要である。

相談者からの主訴では、他者とのコミュニケーションや学習面についてが多い。そのことにより、生活において不適応を起こし、小学校高学年から「暴力」「不登校」についての相談が増加している。子どもの困難さの背景を探る必要から、関係者によるケース会議の開催が重要である。

＜年齢・学校別相談件数＞

年齢・学校		乳幼児(歳)		小学校(学年)						中学校(学年)			高等学校(学年)			一般	計
		0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	他	
センター相談	実件数	13	15	26	20	20	29	28	43	14	22	12	10	11	6	5	274
	延件数	19	27	56	61	56	63	74	169	64	62	32	36	21	10	9	759

＜障がい種別相談件数＞

障がい		視覚障がい	聴覚障がい	知的障がい	肢体不自由	病弱虚弱	言語障がい	情緒障がい	重複障がい	その他	計
センター相談	実件数	2	13	36	27	10	2	186	1	0	277
	延件数	2	24	92	42	37	3	556	6	0	762

＜地区＞	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
センター相談	123	433	75	28	0	44	35	24	762

第３節　教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った。

① 専門研修講座を17講座設け、そのうち７講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。

② 講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して、受講者が自らの課題に気付き、その解決に主体的に取り組むことができるように、話し合いの活動を多く取り入れ、具体的な方策に結び付くようにした。

③ 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。

④ 調査研究や教育相談等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

１　教職員の研修講座

(1) 専門研修

講　座　名	期　間	受講者数(人)
発達障がいの教育Ⅰ　通常の学級における発達障がいのある児童生徒の理解と対応	８月　１日	６４
発達障がいの教育Ⅱ　通常の学級における発達障がいのある児童生徒理解を深めるケース検討	９月　２日	６
特別支援教育の充実Ⅰ　子どもを支える保護者との連携	１０月　９日	３５
特別支援教育の充実Ⅱ　通常の学級における授業のユニバーサルデザイン	８月１１日	２８
特別支援教育の充実Ⅲ　教育的アセスメントを生かした授業づくり	１０月１５日	２８
特別支援教育の充実Ⅳ　自閉症のある子どもの理解	９月２５日～２６日	２２
特別支援教育の充実Ⅴ　キャリア発達と特別支援教育	１２月１６日	２６
特別支援教育の充実Ⅵ　特別支援学校における医療的ケアと授業の実際	７月２５日	１３
特別支援教育実践力アップⅠ　知的障がい児童生徒の授業充実（基礎編）	７月　９日	２９
特別支援教育実践力アップⅡ　知的障がい児童生徒の授業充実（各教科を合わせた指導編）	９月１８日	３３
特別支援教育実践力アップⅢ　特別支援学校における重度重複障がい児童生徒の授業充実（自立活動編）	７月１１日	２２
特別支援教育実践力アップⅣ　特別支援学校における授業づくりー目標と評価の一体化を考えるー	１０月　２日～３日	１４
特別支援教育実践力アップⅤ　特別な支援を必要とする子どもへの安全・防災教育	１０月２１日	９
特別支援教育実践力アップⅥ　インクルーシブな教育における合理的配慮	９月　４日	２３
特別支援教育実践力アップⅦ　自閉症・情緒障がい特別支援学級の学級経営ー自閉症・情緒障がいのある児童生徒の特性の理解と自立活動の指導ー	７月　３１日	４１
特別支援教育実践力アップⅧ　特別支援学級の学級経営ー進路・保護者との連携・授業づくりー	８月　８日	２２
幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携	７月２４日	３４
計		４４９
	（他に公開講座に８９名、自主研修講座に７９名が参加）	

(2) 基本研修

研　修　名	期　　間	受講者数(人)
特別支援学校初任者研修　一般研修	４月１６日～１７日	５０
特別支援学校初任者研修　カウンセリング研修	６月１８日～１９日	４５
特別支援学校初任者研修　宿泊一次研修	８月　４日～　６日	４３
特別支援学校初任者研修　情報教育研修	4月30日、5月7、14日	４３
特別支援学校初任者研修　教育課程別研修	９月１７日	４３
特別支援学校初任者研修　学部別研修	１１月　５日	４３
特別支援学校初任者研修　宿泊二次研修	２月１８日～２０日	４３
特別支援学校経験者研修Ⅰ　基本研修	８月１８日～２０日	４０
特別支援学校経験者研修Ⅱ　共通研修	６月２４日～２６日	３０
特別支援学校経験者研修Ⅱ　教科(領域)指導研修	１月１５日～１６日	３０
計		４１０

(3) 職能研修

講　座　名	期　　間	受講者数(人)
特別支援学級等新任担当教員研修会	(共通) 4月23日～24日	７４
	(地区別) １１月	４８
特別支援学級担当教員研修会	(地区別)　９月	４３
小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会	(地区別)　６月	１４４
高等学校特別支援コーディネーター研修会	(地区別)　５月～６月	９６
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会（前期）	５月１６日	２５
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会（後期）	１月２１日	２５
特別支援学校養護教諭等研修会	８月２２日	２３
通級指導教室担当教員研修会（前期）	７月１７日	５１
通級指導教室担当教員研修会（後期）	１２月１８日	５１
計		５８０

第４節　教育調査・研究事業

１　調査研究

(1)「小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査（一年次）」結果

ア　一次調査対象及び手続き

（ア）　調査対象

平成26年度福島県内に設置されている全ての国公私立小･中学校（小学校471校、中学校235校、計706校）を対象とした。調査時点を平成26年5月1日現在とした。

（イ）　調査手続き

質問紙及び回答方法を各教育事務所、各市町村教育委員会を経由してデータで送信し、各小・中学校よりデータで回答いただく方法を用いた。

なお、調査研究依頼に際しては、文書で本調査の趣旨及び調査結果と公表、個人情報保護に関する留意点を説明し、同意の有無に任意性を持たせた上で、回答を得るようにした。

（ウ）　調査項目

質問項目は、前述の目的のもと、学校に関する基本情報、肢体不自由のある児童生徒の在籍等に関する状況、特別支援教育支援員（以下：支援員）又は介助員の配置状況、センター的機能の活用及び認知の状況、関係機関との連携についての内容で構成した。

（エ）　調査回答数・回収率

小学校468校（回収率100%）、中学校235校（回収率100%）から回答を得た。小学校の分校で、本校と合わせて回答した分校が３校あった。また、中学校１校で本調査に「同意しない」と回答があったため、一次

調査における最終学校数等は、小学校468校の97,842人、中学校234校の55,412人で計702校の153,254人となった。

イ　二次調査対象及び手続き

(ア)　**調査対象**

一次調査で肢体不自由のある児童生徒が在籍しているとされた小学校94校109人、中学校40校46人の計134校155人を対象とした。調査時点を平成26年9月18日現在とした。

(イ)　**調査手続き**

質問紙及び回答用紙を郵送し、郵送で回答いただく方法を用いた。

なお、調査研究依頼に際しては、文書で本調査の趣旨及び調査結果と公表、個人情報保護に関する留意点を説明し、同意の有無に任意性を持たせた上で、回答を得るようにした。

(ウ)　**調査項目**

質問項目は、前述の目的のもと、回答される教職員、対象児童生徒の学習状況等、環境整備と支援体制等、特別支援学校のセンター的機能の内容で構成した。

(エ)　**調査回答数・回収率**

一次調査以降、対象児童生徒の転学により5人の減で対象校が4校減となったため、二次調査における最終学校数等は、小学校91校の105人、中学校39校の45人、計130校の150人となった。回収率は、小・中学校ともに100%であった。

ウ　一次調査の結果概要

(ア)　小・中学校で学ぶ肢体不自由のある児童生徒の約7割は、通常の学級に在籍していること。

(イ)　疾患状況は、脳性麻痺や脳室周囲白質軟化症などの脳性疾患が、45.3%であること。

(ウ)　該当者の約7割が「歩行の困難さや不安定さがあり、学習活動での困難さ」もあること。

(エ)　関係機関との連携では、医療機関の65.8%で最も多く、特別支援学校と連携している割合は、18.1%であること。

エ　二次調査の結果と課題

【児童生徒の学習状況の困難さ等】

○結果

(ア)　各教科等では、体育、音楽、図画工作、技術・家庭科など技能や実技を伴う教科での困難さの回答が多かった。

(イ)　運動、移動、時間、身支度、筆記、姿勢など、周囲の教員等が「気づきやすい困難さ」の回答が多かった。

(ウ)　周囲の教員等が気づきにくい「ものの見え方や捉えにくさ」の困難を認識していても、学習上での支援や配慮をしているケースは少なかった。

○課題

(ア)　道具や用具、動作など「気づきやすい困難さ」であっても、「どのような工夫や配慮があるのか」「どこまで支援したらよいのか」がわからないことへの対応が必要である。

(イ)　学習に影響を与える「ものの見え方や捉えにくさ」など「気づきにくい困難さ」への支援や配慮、環境整備への対応が必要である。

【困難さに対する環境整備と支援体制等】

○結果

(ア)　約80%の学校は、教職員間の共通理解や周囲の児童生徒への協力や理解啓発をしている。

(イ)　食事や排泄の困難さに対して、使いやすいトイレや水場の改修、専用フォークや食器等の活用など、環境整備や配慮をしている。

(ウ)　時間の確保や支援員や介助員等の配置をしている。

(エ)　周囲の教員等が「気づきやすい困難さ」の中でも、生活を支える環境整備は比較的対応されている。

○課題

(ア)　学校生活を支える「気づきやすい困難さ」への対応をさらに充実させていくことが必要である。

(イ)　学習を支える一人一人の配慮や支援方法等を含めた地域・校内支援体制の再検討が必要である。

【特別支援学校のセンター的機能へのニーズ】

○結果

(ア)　姿勢や身体の動き、運動・体育等に関すること。

(イ)　肢体不自由のある子どもの理解と対応に関すること。

(ウ)　学習内容の変更や調整、支援や配慮事項の相談に関すること。

が上位の回答であった。

○課題

(ア)　肢体不自由のある児童生徒が在籍している小・中学校と特別支援学校の連携が図られていない。

(イ)　小・中学校に対して、教材・教具、補助具、支援機器等の活用についての取組や情報が届いていない。

オ　調査結果を活かした今後の展望

小・中学校、市町村教育委員会、特別支援学校が、各組織で別々に解決への取組を進めても、肢体不自由のある児童生徒の学習の充実は、前述した三点の課題を解決していくためには、難しいと考えられる。次年度以降の研究では、学習上の一人一人の困難さに目を向けた課題を共有し、解決していく枠組みを越えた連携が重要なことと考えられる。

その連携において大切な視点としては、

・本人の持っている力を最大限度に発揮するための配慮や支援内容・方法等を一緒に考えること。

・学習の充実を目指した連携の在り方を一緒に模索し、各地域で連携のシステムを構築すること。

の２点が、何よりも重要な視点である。

平成27年度の研究では、肢体不自由特別支援学校の２校のセンター的機能の発揮と小学校３校、中学校１校に協力いただき、小・中学校と特別支援学校が連携し今までよりも、さらに良い支援の方法等を一緒に考え、一緒に取り組む実践を進める予定である。そして、これらの取組の累積が、一人一人に必要な合理的配慮の提供やその基礎となる基礎的環境整備の充実につなげられると考える。さらには、市町村教育委員会と共有しながら、地域のインクルーシブ教育システムの構築にとっての一助になる研究を進める予定である。

２　教育研究

「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」（一年次）

特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人の学びを充実させるためには、校内支援体制を充実させることが必要である。さらに校内支援体制を充実させるためには、校内組織を機能させることが必要である。そのためには、小・中学校において、校内組織の仕組みを整え、複数の教員がチームで指導と支援に取り組んでいくことが不可欠である。平成24・25年度プロジェクト研究Ⅰ「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」とプロジェクト研究Ⅱ「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくりー交流及び共同学習の充実に向けてー」をテーマとして研究を進め、複数の教員によるチームでの授業づくりが児童生徒の学びの充実につながることが成果として得られた。しかし、児童生徒の学びの充実のために、組織的に取り組む支援体制の充実が図られるかは課題となった。それらの成果と課題を受け、本教育研究ではチーム支援の取組と校内組織の仕組みがつながることで、校内支援体制の充実が図られ、特別な教育的支援が必要な児童生徒一人一人の学びが充実するのではないかと考えた。

そこで、研究の目的を「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対するチームによる校内支援体制の充実について検証する。」として、研究に取り組むこととした。

※　チームとは「特別な教育的支援を必要とする児童生徒にかかわる複数の教員等で構成される集団」を意味する。

小・中学校において、校内組織の仕組みにチーム支援の取組が生かされるようにチーム支援の取組方を提案すること、またチーム支援が生かされるような校内組織の仕組みを整えることを提案する。そうしたチーム支援の取組と校内組織の仕組みがつながれば校内組織がさらに充実することを、小・中学校での実践を通して検証する。

チーム支援の取組については、「授業研究会で児童生徒に視点をあてること」と「ケース会議で児童生徒のニーズ等を検討すること」がポイントである。「授業研究会で児童生徒に視点をあてること」では、授業研究会を事前研究、事中研究、事後研究の順で行う過程で、本時のねらいと期待する子どもの姿を明確にして、その姿をチームで共有しながら、児童生徒の学ぶ姿について語り合う。また「ケース会議で児童生徒のニーズ等を検討すること」では、チームで児童生徒の言動から、その児童生徒の思いや考えの背景要因を出し合い、児童生徒の特性やニーズ、支援方法について話し合う。

校内組織の仕組みについては、「児童生徒への一貫した支援の仕組み」と「児童生徒の特性、ニーズや学び方の共有と授業づくりができる仕組み」がポイントである。「児童生徒への一貫した支援の仕組み」としては、校内委員会の計画と実施、個別の教育支援計画の作成などが考えられる。また「児童生徒の特性、ニーズや学び方の共有と授業づくりができる仕組み」としては、授業研究会の計画と実施、ケース会議の計画と実施などが考えられる。

一年次はＡ小学校で研究実践を行った。Ａ小学校では校内研究を進め、児童一人一人の学びを充実させるために、校内組織の仕組みとして、特別支援教育部会が組織され、授業研究会の計画と実施がなされていた。しかし、その校内組織の仕組みが授業の改善を図り、児童一人一人の学びを充実させるために十分な機能を果たしていなかった。そこで、授業研究会で児童の学びに視点を当てることを提案したことで、授業者が児童の特性をさらに理解し、次時の授業づくりに生かすことができる手立てを得ることができたことから校内組織の仕組みの授業研究会が機能してきたと言える。つまり、校内組織の仕組みとチーム支援の取り組みがつながり。児童の学びを充実させる校内支援体制の充実が図られたと言える。今後さらに、校内組織に合わせたチーム支援を生かした授業研究会の仕組みを考えていくことで、校内組織の仕組みとチーム支援の取組がつながり、さらに校内支援体制の充実が図られるのではないかと考える。

本教育研究では、今後も児童生徒一人一人の学びを充実させるため、各学校の実践について、「校内組織の仕組み」に「チーム支援の取組」を取り入れているか。また「チーム支援の取組」を生かせる「校内組織の仕組み」になっているかを検証し、校内支援体制の充実を図る研究を進めていく。

第５節　教育図書・資料の収集・提供事業

１　教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度62冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は6,160冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が1,179冊、その他の図書が4,981冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語、情緒、重複障がい等）に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は5種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した218冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第６節 広報・啓発事業

１ 所報「特別支援教育」(67号)

(1) 内容

ア はじめに

「共生社会の理念を大切にした教育の実践に向かって」
～福島県の特別支援教育の歩みとインクルーシブ教育システムの構築～
所長 片寄 一

イ 特集

「インクルーシブ教育システムの構築に向かっての取組」

（ア）調査研究から
「小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査」～教育資源の活用と今後のインクルーシブ教育システム構築に向けて～

（イ）教育研究から
「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」

ウ 各種支援事業から

（ア）「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」
～目標の焦点化について～

（イ）「きこえに課題のある児童生徒への外部専門家チームによる支援の実施報告」

エ 研修ノート
公開講座「自閉症のある子どもの理解」より
「自閉症スペクトラムの理解と支援～最近の動向～」
講師 福島大学大学院 教授 内山 登紀夫 氏

オ 講演ノート
教育講演会「これからの共生社会の形成に向けて
～教育の果たす役割～」より
講師 毎日新聞社 論説委員 野澤 和弘 氏

カ インフォメーション

（ア）平成26年度研修講座の実施状況

（イ）平成26年度教育相談の報告

(2) 規格、ページ等

ア 規 格 Ａ４判

イ ページ数２９ページ

ウ ホームページで公開

エ 各関係機関へ配付

２ 研究紀要「第26号」

(1) 内容

ア 調査研究
「小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査」(第一年次)

イ 教育研究
「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」(第二年次)

ウ 特別支援学校「授業研究支援」事業報告
「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」

(2) 規格、ページ、部数

ア 規 格 Ａ４判

イ ページ数 ６３ページ

ウ ホームページで公開

エ 各関係機関へ配付

第７節 情報教育事業

１ ＩＣＴ活用支援

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するICT等の支援機器活用とソフトウェアの使い方についての研修を行った。民間企業の社会貢献活動における移動機器の貸出を申請し、受講者に20台のタブレットを準備し、実践的な研修を行った。

また、初任者研修の情報教育研修において、FKSテレビ会議システムの使い方や情報モラルに関する講義を実施した。

ＦＫＳテレビ会議システムの活用においては、特別支援学校と連携し、テレビ会議システムを活用した授業や訪問学級の児童生徒への行事の参加を支援した。

２ 情報機器活用

研修講座を中心に、スイッチ教材等、支援機器に関する情報提供や作成支援及び貸出を行った。

３ 情報教育ネットワークとWebページの充実

特別支援教育に関する情報発信をするために、Webサイトの運営管理を行った。また、Webページで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

広報・啓発事業担当者と協力し、「養護教育センターだより」を、ホームページに掲載し、適宜更新を行った。

○ 本センターWebページアクセス件数 12,139件
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

第１４章　福島県立図書館

第１節　概要

１　運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第２次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成22年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成22年度～26年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『福島県立図書館アクションプラン（第２次）』
４つの方針・９つの行動

Ⅰ　東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

1　東日本大震災等の記録を残します。
2　支援体制の基盤を整備します。
3　読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

Ⅱ　県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

1　県民が必要とする情報を提供します。
2　県民が利用しやすい環境を整備します。
3　県民と共に歩む図書館を目指します。

Ⅲ　福島県の子どもたちの読書活動を推進します。

1　「福島県子ども読書活動推進計画（第２次）」に基づき、県立図書館の役割を果たします。

Ⅳ　「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

1　図書館・公民館の活動を支援します。
2　高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

２　図書館協議会

(1)　図書館協議会委員名

［任期：平成25年10月21日～平成27年10月20日］

区分	氏　　名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉　養伍	福島大学人間発達文化学類（学類長・教授）
	土田　節子	いわき明星大学人文学部現代社会学科（准教授）
	鎌田　喜之	株式会社福島民報社（編集局文化部長）
	加藤　卓哉	福島民友新聞社株式会社（役員待遇　論説委員長）
	小倉　孝太郎	公募
	加賀美　孝俊	公募
家庭教育	矢吹　貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	山中　淳子	福島県公共図書館協会（郡山市安積図書館長）
学校教育関係	五輪　美智子	福島県高等学校長協会（福島県立須賀川桐陽高等学校長）
	田中　淳	福島県中学校長会（会津若松市立湊中学校長）

（会長）千葉　養伍　（副会長）土田　節子

(2)　会　　議

平成26年9月12日　於：県立図書館

（議題等）

・平成26年度図書館利用実績（4月～7月分）について
・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業実績について
・福島県立図書館移転３０周年記念事業について
・「福島県立図書館アクションプラン（第２次）」の取組状況について

第２節　資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第２次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

１　図書館資料の収集

(1)　一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するための各種参考図書、少子化時代の育児及び子育て支援に役立つ資料、大活字本等のユ

ニバーサルデザインに対応した資料の収集、地域振興及び産業・経済の活性化に役立つ資料の収集・整理に努めた。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集した。行政資料についても各自治体・部局へ資料収集の依頼を行った。購入冊数の1,044冊に対して寄贈された冊数は6,000冊を越えた。

重点収集とした当県に関わる震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、ＨＰ上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約2,000冊を収集、地域資料全体の22%に及んだ。継続した収集資料としては歴史的変遷を辿る地形図を購入した。

また、利用に供していなかった資料の整理に努め、堀江繁太郎の画帖や俳諧関係の貴重な資料を提供することができた。

(3) 地域視聴覚資料の収集

証言集・記録集を中心とした震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に収集した。また、地元新聞のＣＤ－ＲＯＭなど保存価値の高いものを収集した。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、東日本大震災に関する資料や子育て支援に役立つ資料として乳幼児向け絵本の収集に努めた。

また、子どもの読書と科学のコラボ事業のための科学読み物の収集も行った。

イ 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、震災関連児童資料の研究書や震災時の子どもの読書に関する資料等の収集に努めた。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

新聞では、いわき市内で発行の『日々の新聞』を12月より購入することにした。

雑誌は、資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を幅広く継続収集した。

新聞、雑誌の震災･原発事故関連記事についても収集に努めた。

(6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況　（単位：種）

区　分	購　入	寄贈・他	計
新　聞	25	52	77
雑　誌	236	754	990
官　報　等	3	0	3
合　計	264	806	1,070

資料受入状況　（単位：冊）

区　分	購　入	寄贈・他	計
一　般　資　料	4,381	2,814	7,195
地域・行政資料	1,044	7,970	9,014
児　童　図　書	2,143	461	2,604
児童図書研究書	595	49	644
市町村支援資料	604	2,694	3,298
合　計	8,767	13,988	22,755

資料受入状況・推移　（単位：冊）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
21,185	24,521	22,755

蔵書統計（資料別・分類別）　　（単位：冊）

分類（区分）		25年度累計	26年度増加	26年度除籍	利用替え	26年度累計
一般資料	0 総記	31,124	378	7	1	31,496
	1 哲学	24,934	346	16	2	25,266
	2 歴史	61,831	915	10	20	62,756
	3 社会科学	100,356	1,756	41	13	102,084
	4 自然科学	34,630	586	33	8	35,191
	5 工学・工業	33,291	669	25	22	33,957
	6 産業	26,802	563	12	7	27,360
	7 芸術	38,460	747	38	22	39,191
	8 語学	9,167	111	17	2	9,263
	9 文学	89,571	1,124	15	41	90,721
	計	450,166	7,195	214	138	457,285
地域資料	0 総記	15,009	1,407	1	8	16,423
	1 哲学	2,516	60	2	0	2,574
	2 歴史	33,876	1,144	5	10	35,025
	3 社会科学	57,484	2,349	12	2	59,823
	4 自然科学	8,301	572	2	3	8,874
	5 工学・工業	11,965	920	0	3	12,888
	6 産業	19,619	755	1	2	20,375
	7 芸術	14,573	801	1	8	15,381
	8 語学	795	35	0	1	831
	9 文学	25,463	971	3	26	26,457
	計	189,601	9,014	27	63	198,651
児童資料	研究資料	34,113	644	34	19	34,742
	児童図書	102,757	2,604	803	1,122	105,680
	計	136,870	3,248	837	1,141	140,422
逐次刊行物資料	雑誌	143,942	5,271	10	0	149,203
	新聞合本	14,673	217	0	0	14,890
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	162,438	5,488	10	0	167,916
特殊文庫		61,753	0	0	0	61,753
館内用計		1,000,828	24,945	1,088	1,342	1,026,027
市町村支援計		69,349	3,298	6,081	-1,342	65,224
合計		1,070,177	28,243	7,169	0	1,091,251

第３節　館内奉仕

開館日は283日、入館者は167,097人、1日平均590人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、昨年度から、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。

入館者数

開館日数	283日
入館者数	167,097人
（１日平均）	590人

入館者数・推移　　（単位：人）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
169,623	174,911	167,097

１　調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けており、件数は順調に伸びている。また、当館のホームページアクセス件数については、「蔵書検索」や県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」、貴重資料の画像を公開している「デジタルライブラリー」の利用が大きく伸びた。

調査相談件数　　（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	8,236	2,223	10,459
電話	1,405	64	1,469
文書	26	3	29
ＦＡＸ	52	1	53
電子メール	119	4	123
合計	9,838	2,295	12,133

調査相談件数・推移　　（単位：件）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
8,232	11,585	12,133

ホームページアクセス件数　　（単位：件）

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
トップページ	132,462	130,593	135,196
蔵書検索	247,363	312,662	433,057
横断検索	223,701	322,396	237,057
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	5,449	6,410	5,069
こどものへや	4,416	3,842	4,052
県内図書館(業務用)	16,777	15,717	13,408

2　館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第２次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

時事展示として「シェイクスピアを読み直す～生誕450周年～」「世界結晶年2014～その神秘と美しさ～」「スポーツのすすめ～心地よい汗をかいてみませんか？～」「新生活に向けて～備えて不安を解消しよう～」など、ミニ展示として「知る、考える憲法」「本で満喫・サッカーの醍醐味」「第一次世界大戦100年～第一次世界大戦と大正期の日本～」「夜空を愛でる」「火山と私たちの暮らし」「イスラムを知る」、県立美術館の企画展にあわせた「仏像の魅力」など、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。

また、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、有効的な情報の提供に努めた。

さらに、７月4日より国立国会図書館提供の図書館向けデジタル化資料送信サービスの供用（閲覧･複写）を開始した。それに伴う設備の見直しや、複写要綱等を改正し当館契約データベースの資料複写サービスをも開始した。

3　館外個人貸出

登録者数は14,595人、貸出冊数は141,191冊、のべ人数は39,591人で、昨年度より増加した。

資料宅配サービス（有料）の利用は42件、冊数は265冊で、こちらも利用が減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	1,901	1.3	語学	1,366	1.0
哲学・宗教	4,639	3.3	文学	21,094	14.9
歴史・地理	7,636	5.4	地域資料	7,288	5.2
社会科学	12,469	8.8	雑誌	8,860	6.3
自然科学	7,748	5.5	小計	92,771	65.7
工学・工業	7,186	5.1	児童	48,420	34.3
産業	3,633	2.6	合計	141,191	100.0
芸術	8,951	6.3			

館外個人貸出状況・推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
冊数	134,867	130,545	141,191
のべ人数	37,180	36,274	39,591

館外個人貸出登録者数（登録有効期間３年）　　（単位：人）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
新規	3,248	3,285	3,577	10,110
更新者	1,773	1,452	1,260	4,485
合計	5,021	4,737	4,837	14,595

館外個人貸出登録者数・推移　　（単位：人）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
14,038	12,773	14,595

4　特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	12	488
図書館その他	51	247
会社・事業所	14	285
報道関係	1	1
学校	23	113
計	101	1,134

特別貸出状況・推移　　（単位：冊）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
647	586	1,134

5　地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう資料の整理・調査に取り組んだ。

移転30周年を記念した事業を積極的に企画し、情報発信を行った。「図書館の至宝」展及び「ふくしまを知る連続講座」に、所蔵する貴重な資料を公開し、併せて関連資料のミニ展示やパスファインダー「本の森への道しるべ」を３本作成し、資料の紹介に努めた。

館外貸出は歴史地理部門が多く、地域資料の貸出冊数の38％を占め、逆に東日本大震災関連資料は編纂・出版も落ち着き、地域資料の貸出冊数の18％であった。貸出冊数全体は震

災前平成２２年度並であった。

貴重資料のデジタル化は規模は縮小になったが、平成８年度より継続して実施している。

６　逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から４年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成26年9月11日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

ボランティアの協力により作成した『地元紙記事見出し一覧』(『福島民報』縮刷版 1976(昭和51)年－2002(平成14)年7月の県内政治の記事見出し）を平成27年3月にホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』について、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、「お江戸百花繚乱」「日本の神社仏閣」など話題性や季節に配慮し行った。

７　児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

(1)　こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

(2)　おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第２木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「美術館でおはなしかい」（5月3日、17日、24日）
福島県立美術館展示「ちひろ美術館コレクション 世界を巡る絵本の旅」共催で、美術館展示室において展示作品を原画とする絵本のおはなしかいを行った。

・移転30周年記念「30歳になった絵本」のおはなしかい（7月26日）

・あーとなおはなしかい「人と形」（12月21日）
美術館との共催事業

・ふゆからはるへのおはなしかい（平成27年2月28日）
赤ちゃん向けと４歳以上の２回開催した。

(3)　図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

(4)　情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

(5)　「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。

(6)　子ども読書と科学のコラボ事業

・「サイエンス屋台村 in 須賀川」（11月23日）ムシテックワールドにて「子どもの科学の本の展示」を行った。

８　東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成27年3月11日現在で7,954タイトルとなっており、一覧リストを作成しＨＰにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、〃巡回する福島県復興ライブラリー〃として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、二本松青年海外協力隊訓練所図書資料室において出張展示（平成27年1月26日～2月27日）が開催された。

９　複写サービス

コイン式コピー機は１台、レーザープリンター１台、カラープリンター１台、マイクロプリンター２台での対応となっている。資料媒体を変化させて保存することから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区　　分	件　　数	枚　　数
自・他館処理	4,932	55,808

複写利用状況・推移　（単位：枚）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
72,293	59,778	55,808

１０　来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。利用は伸びている。今年度も、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

区　　分	人　　数
一　　般	6,707
児　　童	83
合　　計	6,790

インターネット利用状況・推移　（単位：人）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
5,684	5,699	6,790

１１　展示

(1)　展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

ア　「昭和をかたる雑誌展」（6月6日～8月6日）

昭和という時代は技術の進歩が目覚ましく、また、時代とともに情報の捉え方も変化している。当館所蔵の雑誌より、戦前・戦中・戦後の昭和という時代を知る機会とした。

雑誌に関する理解と認識を深め、図書館資料としての雑誌の利活用促進を図ることを目的とした。

イ　「まほろん移動展「発掘された大堀相馬焼」」（8月8日～9月27日）

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成２６年４月２６日（土）から平成２６年６月２９日（日）にかけて福島県文化財センター白河館で開催したふくしま復興展「発掘された大堀相馬焼」の移動展を行った。より多くの県民に被災地の伝統文化を理解いただくとともに、文化財保護の大切さを伝えることを目的とし、出土品や年表などを展示した。

併せて、福島県文化財センター白河館主任学芸員の山田英明氏による講座「大堀相馬焼の歴史と伝統」（第４回「ふくしまを知る連続講座」）を実施した。

ウ　「「福島の文学」展」（10月3日～12月3日）

福島県を舞台とした小説・随筆・紀行文や福島県出身の作家が書いた作品を紹介。文学を通して、福島県の歴史や風土、文化を再発見できる資料を展示した。

併せて、福島学院大学非常勤講師 菅野俊之氏による「福島文学散歩～知られざる名作を求めて～」（第４回「ふくしまを知る連続講座」）を実施した。

エ　「教科書の変遷」（12月5日～平成27年3月4日）

当館で所蔵する、明治期初期以降から現在までの教科書を展示した。

その変遷を追い、日本の近代教育の姿やその時代の子どもたちの様子を伺い知ることのできる貴重な資料でもある教科書の魅力について紹介した。

オ　「東日本大震災等パネル展」（平成27年3月6日～4月1日）

東日本大震災から４年目となる３月にあわせて、震災を伝える写真パネルを文化スポーツ局の協力を得て展示し、併せて「福島県東日本大震災復興ライブラリー」の中から、福島県の震災を伝える資料を展示した。

(2)　「図書館の至宝」展（移転３０周年記念事業）

当館が森合へ移転して３０年を記念し、当館所蔵の貴重書を展示公開した。展示ケースは美術館の協力を得た。

ア　「新聞でたどる福島県立図書館のあゆみ」（4月4日～4月30日）

イ　「錦絵に描かれた福島」（5月2日～6月4日）

ウ　「装丁の妙　～みちのく豆本の世界～」（6月6日～7月2日）

エ　「磐梯山噴火」（7月4日～8月6日）

オ　「名著復刻日本児童文学館」（8月8日～9月3日）

カ　「堀江繁太郎展」（9月5日～9月27日）

キ　「オーピーコレクション『復刻マザーグースの世界』」（10月3日～11月5日）

ク　「集古十種展」（11月7日～12月3日）

ケ　「日清戦史 草案集　～佐藤文庫より～」（12月5日～12月27日）

コ　「会津三方道路」（平成27年1月6日～2月11日）

サ　「福島県史跡名勝の『鳥瞰図』」（2月21日～4月1日）

(3)　ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

ア　「細字書道の会」（4月4日～4月30日）

イ　「親子展」（5月2日～6月4日）

ウ　「「ROCK IN RED」展」（6月6日～7月2日）

エ　「「磐梯山噴火」に関連する写真展」（7月4日～8月6日）

オ　「「第３回えがく会　油絵作品」展」（8月8日～9月3日）

カ　「「まなべゆきお油画作品」展」（9月5日～9月27日）

キ　「第６回網代澄亭と一門による刻字展」（10月3日～11月5日）

ク　「MEMORABLE　2011.3.11（記憶すべき2011.3.11）展」（11月7日～12月3日）

ケ　「ガラス絵展」（12月5日～12月27日）

コ　「「高木健治パステル画」展」（平成27年1月6日～2月11日）

サ　「絵画作品展　～jkデザイン・絵画入門講座より～」（2月21日～4月1日）

(4)　『特別華展「梶井宮御流福島支部特別華道展」』（移転３０周年記念事業）

当館が森合へ移転して３０年を記念し、地域の生涯学習発展に寄与する図書館として、特別華道展を開催した。

期間　７月２３日～７月２７日

場所　エントランスホール

１２　普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

(1)　文化講演会

ア　テーマ「地域の文化振興に求められる図書館の役割」

イ　期　日　平成26年10月25日

ウ　会　場　県立図書館

エ　参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　100名
オ　講　師　学習院大学教授（福島県立博物館長）赤坂　憲雄　氏

(2)　福島を知るための連続講座

第1回「1888年の磐梯山噴火」平成26年7月6日
講師　磐梯山噴火記念館　佐藤　公　氏
参加者41名

第2回「大堀相馬焼の歴史と伝統」平成26年8月31日
講師　福島県文化財センター白河館　山田英明　氏
参加者35名

第3回「アートクラブと堀江繁太郎」平成26年9月14日
講師　福島県立美術館　堀　宜雄　氏
参加者45名

第4回「福島文学散歩」　平成26年10月26日
講師　福島学院大学　菅野　俊之　氏
参加者43名

第5回「松平定信と集古十種」　平成26年11月16日
講師　福島県立博物館　小林めぐみ　氏
参加者42名

第6回「御嶽山と吾妻山」　平成26年12月14日
講師　磐梯山噴火記念館　佐藤　公　氏
参加者116名

「吾妻山を知ろう」こどもの部　参加者15名

(3)　図書館探検（移転３０周年記念事業）

一般向け（高校生以上を対象）と児童向け（４歳～中学生の子どもとその保護者を対象)に、バックヤードを含めた館内見学及び利用案内を行った。

第４節　館外奉仕

1　移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計25,589冊の資料を貸出した。

(1)　図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。18自治体に巡回し、延べ20,898冊の資料を貸出した。

(2)　避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、楢葉町・大熊町・葛尾村・飯舘村の4自治体の幼稚園、小・中学校を延べ12回巡回し、2,494冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,203冊を貸出した。

(3)　特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ3,697冊の資料を貸出した。

(4)　文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業に2回参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ80冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移　（単位：冊数）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
25,789	23,376	25,589

2　市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

26年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,026冊
喜多方市教育委員会	440冊
相馬市教育委員会	1,300冊
川俣町教育委員会	592冊
只見町教育委員会	560冊
平田村教育委員会	655冊
西会津町教育委員会	240冊
合　計	5,813冊

3　福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の充実を支援した。

26年度の利用状況は次のとおりである。

相馬市教育委員会	200冊
福島刑務所	200冊
本宮市教育委員会	1,049冊
合　計	1,449冊

4　学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援するものであるが、２６年度での利用は無かった。

5　学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

２６年度の利用状況は、23団体に対し118セット（5,063冊）を貸出した。

6　広報資料の発行

(1)　館報「あづま」

新館移転30周年記念号として、平成26年7月22日に発行した。

(2)　平成26年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し報告書にまとめている。その結果は、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うとともに、県立図書館ホームページに掲載した。

主な調査結果であるが、平成26年4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は6,008,001冊で、県民1人当たり3.23冊（前年度3.1冊）、年間増加冊数は227,279冊である。

また、平成25年度中の貸出図書冊数は、6,689,003冊（県民1人当たり3.59冊）であり、前年度と比べると総冊数では、184,298冊の増である。

(3)　福島県郷土資料情報

第55号を発行。移転30周年記念事業「図書館の至宝」展で公開した資料の紹介及び市町村広報誌特集記事に見る東日本大震災（相双・いわき地区）に加え、連載記事として福島の児童文学者・福島県関係書誌の紹介をまとめた。

今年度から発行部数は減らし、ＨＰ上からの発信に切り替えた。（発行部数１００部）

第５節　図書館協力

1　相互協力と遠隔地返却

相互貸借冊数は増加した。

遠隔地返却冊数については減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,057	5,523	507	808	1,564	6,331
借用	120	169	109	152	229	321
小計	1,177	5,692	616	960	1,793	6,652

相互貸借状況・推移　（単位：冊）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
5,902	5,981	6,652

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）　（単位：冊）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
6,407	5,788	6,205

2　県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1)　福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

ア　テーマ　「図書館サービスに求められるもの」
イ　期　日　平成26年5月30日
ウ　会　場　県立図書館
エ　参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　86名
オ　講　師　いわき市立いわき総合図書館副館長　三瓶　真二　氏

(2)　福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会（移転３０周年記念文化講演会）

ア　テーマ　「図書館があるということ」
イ　期　日　平成26年7月24日
ウ　会　場　県立図書館
エ　参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　200名
オ　講　師　国立国会図書館長　大滝　則忠　氏

3　第65回北本図書館大会（第12回福島県図書館研究集会）

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業務研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に実施している。

ア　テーマ
「図書館の底力　～今のために・未来のために～」
イ　期　日　平成26年6月19日～20日
ウ　会　場　県立図書館
エ　参加者　北日本地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等　165名
オ　内　容
・シンポジウム①「図書館が持つ力　～今が生み出す図書館の未来～」
講話　調布市立図書館　小池　信彦　氏
事例報告　東松島市図書館　加藤　孔敬　氏
新地町図書館　目黒美千代　氏
司会　小野町ふるさと文化の館　籠田まき子　氏
・シンポジウム②「学校図書館が変わる～公共図書館との連携で目指す未来～」
情勢報告　全国SLA理事長　森田　盛行　氏
事例報告　秋田県立図書館　青谷　忍　氏
山形県立図書館　阿部早百合　氏

司会　　東北福祉大学　　高梨　富佐　氏
・情勢報告　日本図書館協会理事長　森　　茜　氏

4　平成26年度　図書館地区別（北日本）研修

図書館法第７条の規定に基づき、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施した。

ア　期　日　平成26年11月18日～21日
イ　会　場　県立図書館
ウ　参加者　図書館法第２条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務経験が概ね３年以上の者若しくは研修テーマに関連する業務に従事している者。
上記と同等の職務を行うと福島県教育委員会が認めた者。
エ　内　容
・11月18日
講義①　「図書館が創る未来」
講師　大阪教育大学名誉教授　塩見　昇氏
・11月19日
講義②　「図書館の可能性を広げる」
講師　青山学院大学教授　小田光宏氏
グループワーク「現状を捉えて考える、これからの図書館サービス」
講師　青山学院大学教授　小田光宏氏
・11月20日
講義③　「子どもの本を選ぶということ」
講師　元東京都立図書館職員　杉山きく子氏
講義④　「これからの障害者サービスを考える」
講師　埼玉県立久喜図書館　佐藤聖一氏
講義⑤　「高齢者サービスを始めよう」
講師　墨田区立ひきふね図書館　山内　薫氏
・11月21日
講義⑥　「図書館は市民とともに歩む」
講師　児童文学者・絵本作家（元静岡市の図書館をよくする会会長）草谷桂子氏

5　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

震災で被災して心が傷ついている子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、本年度より開催している。

(1)　「絵本はともだち」

ア　期　日　平成26年5月11日
イ　会　場　県立図書館
ウ　参加者　子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等　723名
エ　内　容
・講演　「絵本は育児書」
幼児教育専門家　藤田　浩子　氏
・おはなしかい等
実演者　語り部たちの会みやぎ　竹丸　富子　氏
おはなしかいグループセシリアの会

(2)　「本はともだち」

ア　期　日　平成26年11月29日
イ　会　場　ビッグパレット
ウ　参加者　子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等　100名
エ　内　容
・講演　「子どもたちにお話しを！　～読書の喜びを生きる力へ～」
語り手たちの会　尾松　純子　氏
・おはなしかい等
実演者　郡山子どもの本をひろめる会

5　県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を維持するため、「福島県内大学図書館間相互利用制度」を定め、県立図書館は公共図書館唯一の加盟館となっている。その他、県内20の市町村立図書館が参加館として協力体制に参加している。

参加している市町村立図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

また、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館との間では、相互協力に関する「ふくふくネット」の協定を締結し、それに基づき資料の相互返却等を行った。

第１５章　福島県立美術館

第１節　概要

1984 年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

１　美術館運営協議会

(1)　委員

山口　功	福島県中学校教育研究会美術専門部 （平成 25.1.1 ～）
番匠あつみ	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員 （平成 27.1.1 ～）
遠藤俊博	公益財団法人福島県文化振興財団理事長 （平成 25.1.1 ～）
坂本節子	福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長 （平成 25.1.1 ～）
酒井昌之	福島県美術協会会長 （平成 19.1.1 ～）
高橋　聡	日本放送協会福島放送局長 （平成 25.1.1 ～）
星眞智子	西会津国際芸術村事務長 （平成 27.1.1 ～）
清水眞砂	世田谷美術館学芸部長 （平成 27.1.1 ～）
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部教授 （平成 27.1.1 ～）
貝沼幹夫	福島県立美術館友の会副会長 （平成 25.1.1 ～）

(2)　協議会の開催

ア　期日　平成 27 年 3 月 3 日(火)

イ　内容　・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成 26 年度事業実績の概要
・平成 27 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

２　他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体
・全国美術館会議　(理事)
・日本博物館協会　(会員)
・日本博物館協会東北支部　(監事)
・東北地区博物館協会　(監事)
・福島県博物館連絡協議会　(理事)

第２節　美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的に行っている。なお、今年度は 72 点の作品、および美術資料 1 件を寄贈により収蔵する予定である。

１　収蔵作品点数（平成 27 年 3 月 31 日現在）

海外作品	433 点	
日本画	311 点	
洋画	711 点	
版画	1,110 点	
立体	113 点	
工芸	153 点	
書	37 点	
素描・下絵	145 点	
写真	410 点	
計	3,423 点	美術資料 35 件

２　収集評価委員会

(1)　委員

原田　光	岩手県立美術館長 （平成 23.12.1 ～）
村田眞宏	愛知県美術館長 （平成 23.12.1 ～）
荒屋鋪透	ポーラ美術館学芸部長 （平成 23.12.1 ～）
三上満良	宮城県美術館副館長 （平成 23.12.1 ～）
佐々木吉晴	いわき市立美術館長 （平成 23.12.1 ～）

(2)　委員会の開催

ア　期日　平成 27 年 2 月 24 日 (火)

イ　内容　・平成 25 年度収集作品の報告
・平成 26 年度収集候補作品について

３　平成２６年度収蔵作品

(1)　美術作品及び美術資料の収集

国内・日本画	小川千甕	1 点
	酒井三良	1 点
国内・洋画	小川千甕	1 点
	大内のぶ子	1 点
	織田彩子	8 点
	長谷川昇	1 点
	深沢軍治	2 点

国内・版画	大宮政郎	7点
	三瓶光夫	1点
国内・立体	佐藤朝山（玄々）	2点
国内・写真	瀬戸正人	47点
国内・資料	織田彩子・大内のぶ子関係資料1件	

計72点　美術資料1件

(2)　図書資料の収集（平成27年2月18日現在）

収蔵図書数　54,575冊

4　保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1)　虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア　時期　平成26年8月22日～9月5日、
　　平成27年3月8日～22日の2回

イ　場所　展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内

(2)　美術作品の修復

今年度は松島一郎《コック部屋》の修復・額装、速水御舟《女二題其二》の修復を実施した。

(3)　敷地内の放射線測定

ア　時期　毎月1回、計12回測定

イ　場所　美術館内および敷地内　計45か所

第3節　展示事業

1　常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回（版画は年8回）展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

(1)　コレクション展

ア　コレクション展Ⅰ

（ア）会期　平成26年4月12日(土)～6月29日(日)

（イ）主な内容

・現代の日本画：横山操《黒い工場》、黒澤吉蔵《煙突》
・明治－大正期の洋画：関根正二《神の祈り》など
・佐藤朝山（玄々）の彫刻：《牛》《鳩》《冬眠》
・昭和の洋画：吉井忠《寓話》、中谷泰《炭鉱町》など
・アメリカの美術：ベン・シャーン《農民にたずねよ》
・フランス美術の名品：シャガール版画集《死せる魂》
・小特集「保田春彦と山中現」

イ　コレクション展Ⅱ　開館30周年記念・コレクション名作選

（ア）会期　平成26年7月2日(水)～9月28日(日)

（イ）主な内容

・日本画：速水御舟《女二題》、池田遙邨《大漁》など
・彫刻：三木宗策《かやのひめの神》など
・洋画：関根正二《姉弟》、岸田劉生《静物》など
・海外の作品：ワイエス《松ぼっくり男爵》など
・版画：斎藤清《凝視（花）》、恩地孝四郎《母と子》など

ウ　コレクション展Ⅲ

（ア）会期　平成26年10月1日(水)～12月27日(土)

（イ）主な内容

・高校生キュレーターによる小さなコレクション展
　①ありのままの時代になるの～少しも寒くないわ～：
　　橋下章《武装する都市》、斎藤清《赤い実》など
　②Your Portrait：工藤哲巳《危機の中の芸術家の肖像》、
　　齋藤隆《貌》など
　③時の流れ～つながるピース広がる世界～：
　　田渕安一《花林朱経》、佐藤幸代《東方から》など
　④親子で見られる現代アート：
　　ヤノベケンジ《ラッキードラゴン構想模型》など
・小特集「喜多方美術倶楽部」：酒井三良、小川芋銭など
・創作人形：川崎プッペ《弦》など
・アメリカ、フランスの絵画：ワイエス、ピサロなど
・斎藤清の版画：《みろく》《障子（D）》など
・清宮質文と日和崎尊夫の版画

エ　コレクション展Ⅳ

（ア）会期　平成27年1月6日(火)～4月5日(日)

（イ）主な内容

・没後50年 須田きょう中：《篝火》《枯山水石組》など
・院展の日本画：福王寺法林《バドガオンの月》など
・生誕100年 野地正記：《スダマティ》など
・100年前の関根正二：《死を思う日》《大樹》《裸婦》など
・河野保雄コレクション：麻生三郎、竹久夢二など
・海外作品：ワイエス、ベン・シャーン、ルオーなど
・斎藤清とエルンスト

(2)　移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。今年度は新地町で開催した。

ア　展覧会名　「世界の名作」展

イ　会期　平成26年10月18日(土)～30日(木)

ウ　会場　新地町図書館

エ　展示作品　32点

オ　観覧料　無料

カ　観覧者数　746名（11日間、1日平均68名）

キ　関連事業

（ア）ギャラリートーク

a　日時：10月18日(土) 13時30分～
　　講師：伊藤 匡（当館学芸課長）　参加者40名

b　日時：10月26日(日) 13時30分～
講師：伊藤 匡（当館学芸課長）　参加者39名

(3)　特集展示

ア　展覧会名　「瀬戸正人展　バンコク・ハノイ・福島」

会期　平成26年6月10日(火)～29日(日)
分野　写真
展示数　62点
観覧料　一般･大学生270(210)円　高校生以下無料
観覧者数　1,050名
概要

瀬戸正人（1953年タイ生まれ）は日本人の父とベトナム人の母を持ち､福島の梁川町で育った写真家である。本展では、収蔵作品に加え、古くから撮りためてきた福島の風景、震災後の福島、そして昨年発表した《Cesium-^{137}Cs》から展示構成。作家のアイデンティティを探る旅を追いながら､一人の写真家の眼が捉えた《福島》を辿った。

関連事業
・ワークショップ「福島を撮る」
日時：6月14日(土) 14時～、15日(日) 10時30分～
講師：瀬戸正人氏（出品作家）　参加者：18名

イ　展覧会名　「前衛美術会とその周辺」

会期　平成26年12月6日(土)～27日(日)
分野　絵画、資料
展示数　91点
観覧料　一般･大学生270(210)円　高校生以下無料
観覧者数　569名
概要

戦後まもない1947年に誕生した前衛美術会は、社会主義リアリズムに異を唱え、シュールレアリスムを通して社会や政治と芸術との関わりを考察し続けた美術家たちの集団である。当館では2012年、彼らの活動を長年紹介してきたアートギャラリー環を主宰する川妻さち子より67点の寄贈を受けた。本展ではこのコレクションをもとに､前衛美術会とその周辺の作家たちを紹介した。

関連事業
・ギャラリートーク
日時：12月13日(土) 14時～
講師：伊藤和子氏（出品作家)、川妻さち子氏（アートギャラリー環主宰)、荒木康子（当館専門学芸員)、坂本篤史（当館学芸員）　参加者：30名

2　企画展

今年度は4回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

(1)　世界をめぐる絵本の旅　ちひろ美術館コレクション

ア　会期　平成26年4月26日(土)～6月1日(日)
イ　分野　絵画、資料
ウ　展示数　192点
エ　主催など
主催：福島県立美術館、ちひろ美術館、福島民報社、福島テレビ
共催：福島県立図書館　　後援：福島市
オ　観覧料　一般・大学生800(640)円、高校生以下無料
＊( )内は20名以上の団体料金
カ　観覧者数：16,332名
キ　概要

世界初の絵本専門美術館として1977年に開館したちひろ美術館は、いわさきちひろ（1918-1974）をはじめとする2万6千点にのぼる世界の絵本画家たちの作品を収集展示している。この展覧会では、国際アンデルセン賞画家賞をはじめとする絵本賞作家の作品や、世代を超えて愛され続けているミリオンセラーの絵本原画など珠玉の143点と資料49点により、楽しい絵本の世界を紹介した。

ク　関連事業
(ア) 講演会「いわさきちひろと世界の絵本画家たち」
日時：4月26日(土) 14時～　参加者：135人
講師：松本猛氏（絵本学会会長、ちひろ美術館常任顧問）
(イ) ゲストによるギャラリートーク
日時：5月10日(土) 14時～　参加者：50名
講師：上島史子氏（ちひろ美術館学芸部長）
(ウ) 担当学芸員によるミニツアー
a　日時：5月2日(金) 14時～
講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）　参加者：35名
b　日時：5月9日(金) 14時～
講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）　参加者：25名
c　日時：5月16日(金) 14時～
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：40名
d　日時：5月23日(金) 14時～
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：33名
e　日時：5月30日(金) 14時～
講師：紺野朋子（当館学芸員）　参加者：44名
(エ) 県立図書館司書によるおはなし会
a　日時：5月3日(土) 14時～　参加者：60名
b　日時：5月17日(土) 14時～　参加者：45名
c　日時：5月24日(土) 14時～　参加者：41名
(オ) 映画会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち」
日時：5月25日(日) 14時～　参加者：158名

(2)　コレクション･クッキング　近くを見ること／遠くに想いを馳せること―対話と創造

ア　会期　平成26年7月19日(土)～9月15日(月・祝)
イ　分野　絵画、版画、彫刻、インスタレーション

ウ　展示数　90点
エ　主催など
主催：福島県立美術館
助成：芸術文化振興基金、福島県立美術館協力会
後援：福島市
協力：富三窯 佐竹敦夫、株式会社エトワール
オ　観覧料　一般・大学生 600(480)円、高校生以下無料
※( )内は20名以上の団体料金
カ　観覧者数　4,278名
キ　概要
収蔵作品との対話は近代美術との対話であり、福島との対話でもある。本展では古川弓子（1975年会津若松市生まれ）、three（1986年福島市生まれ）、三瓶光夫（1974年須賀川市生まれ）、高野正晃（1965年いわき市生まれ）という4組の福島県出身作家たちが作品を選び、自身の作品とコラボレーションし、ユニークな展示空間を生み出した。なお本プロジェクトは企画展、コレクション展、ワークショップ等の事業を含み、年間を通して実施された。
ク　関連事業
（ア）ワークショップ「こころの絵本をつくる」
日時：大人向け7月20日(日) 10時～、
子ども向け7月21日(月・祝) 10時～
講師：古川弓子氏（出品作家）
参加者：大人向け18名、子ども向け33名
（イ）ワークショップ「ぼくらのねんどじま」
日時：8月7日(木) 10時～
講師：高野正晃氏（出品作家）
参加者：21名
（ウ）ワークショップ「メディウムはがし刷り版画体験」
日時：8月31日(日) 10時～
講師：三瓶光夫氏（出品作家）　参加者：18名
（エ）わんぱくミュージアム「おもしろ絵画」
日時：7月27日(日) 10時～15時
講師：海老塚耕一氏（多摩美術大学教授）
参加者：37名
（オ）出品作家によるギャラリートーク
日時：7月19日(土) 15時～
講師：古川弓子氏、three、三瓶光夫氏、高野正晃氏
参加者：70名
（カ）視覚障がい者のための鑑賞ワークショップ
日時：11月24日(月・祝) 10時30分～、14時～
講師：真下弥生氏（ルーテル学院大学非常勤講師）、
半田こずえ氏（明治学院大学非常勤講師）
参加者：計9名
（キ）アオウゼ×福島県立美術館連携企画
「旬の素材ブルーベリーとボストン風レシピ」
日時：6月27日(金) 18時～20時30分
講師：菅野喜代治氏（ミュゼ・ドゥ・カナール）、
高橋和美氏（福島ビューホテル）、
荒木康子（当館専門学芸員）　参加者：20名
（ク）霊山こどもの村×福島県立美術館連携企画
「みんなみんなアーティスト」
日時：11月23日(日) 13時～
講師：小原風子氏（霊山こどもの村スタッフ）、
荒木康子（当館専門学芸員）　参加者：14名
（ケ）展示「高校生キュレーターによる小さなコレクション展」
会期：平成26年10月1日(水)～12月27日(日)
会場：常設展示室A　参加者：県内高校生25名
（コ）「ヤノベケンジさんのハッピードラゴン朗読会」
会期：平成26年11月30日(日) 14時～
会場：常設展示室A
講師：高校生5名　参加者：10名
（サ）「美術館のX'mas」
会期：平成26年12月20日(土) 14時～
会場：常設展示室A、エントランスホール
講師：高校生11名　参加者：30名

(3)　小川千甕　縦横無尽に生きる

ア　会期　平成26年10月11日(土)～11月24日(日)
イ　分野　絵画、資料
ウ　展示数　145点
エ　主催など
主催：福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保
協力：日本通運
オ　観覧料　一般・大学生 800(640)円、高校生 600(480)円、小・中学生 400(320)円　※( )内は20名以上の団体料金
カ　観覧者数　2,699名
キ　概要
小川千甕（1882-1971）は、京都の古い書肆の家に生まれ、仏画師のもとに奉公、のち浅井忠に洋画を学ぶ。上京して挿絵画家として活躍、大正時代からは日本画家として、ほのぼのした田園風景を得意とした。旅を好んだ千甕は喜多方や福島、須賀川を訪れており、本県にゆかりの深い画家でもある。仏画、洋画、漫画、日本画、陶磁器など代表作145点と資料類もあわせて展示した本展は、千甕はじめての大規模回顧展となった。
ク　関連事業
（ア）記念トーク「小川千甕の魅力を語る」
日時：10月26日(日) 14時～
講師：前川公秀氏（DIC川村記念美術館顧問）、
山田敦雄氏（目黒区美術館学芸員）、
野地耕一郎氏（泉屋博古館分館長）
参加者：50名
（イ）ギャラリートーク
a　日時：10月18日(土) 14時～
講師：増渕鏡子（当館主任学芸員）　参加者：5名

b　日時：11 月 15 日(土) 14 時～
講師：増渕鏡子（当館主任学芸員）　参加者：20 名

(4)　飛騨の円空　千光寺とその周辺の足跡

ア　会期　平成 27 年 1 月 27 日(火)～4 月 5 日(日)
イ　分野　仏像
ウ　展示数　43 点
エ　主催など
主催：飛騨の円空展開催実行委員会（福島県立美術館、福島民友新聞社、飛騨千光寺）
協力：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション、高山市、高山市教育委員会
後援：福島市、福島市教育委員会、福島県市長会、福島県町村会、福島県仏教会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島中央テレビ、ふくしまＦＭ、TeNY テレビ新潟、ミヤギテレビ、RAB 青森放送、テレビ岩手、ABS 秋田放送
特別協賛：こころネットグループ、JA グループ福島
協賛：富士通、(公財) JKA
オ　観覧料　一般 1,000(800)円、大学生 900(800)円、高校生以下無料　※( )内は前売および 20 名以上の団体料金
カ　観覧者数　35,615 名
キ　概要
江戸時代前期、美濃国（現在の岐阜県）に生まれた僧、円空（1632-1695）は、近畿から北海道まで諸国を巡って造仏修行に励み、各地に 5,000 体以上の仏像を残している。今回は円空ゆかりの飛騨・千光寺所蔵の「両面宿儺坐像」「歓喜天立像」をはじめ、岐阜県高山市所在の円空仏を展示した。なお本展は平成 25 年春に東京国立博物館で開催された特別展を巡回展示したものである。
ク　関連事業
（ア）講演会「飛騨人と円空の祈り」
日時：2 月 8 日(日)　14 時～
講師：大下大圓氏（飛騨千光寺住職）
参加者：300 名
（イ）講演会「いのちを生きる円空仏」
日時：3 月 8 日(日)　14 時～
講師：大下大圓氏（飛騨千光寺住職）
参加者：300 名
（ウ）映画会「円空―今に生きる―」
日時：1 月 31 日(土)、2 月 11 日(水・祝)、3 月 15 日(日)、3 月 24 日(火)　10 時 30 分～／14 時～
参加者：計 1,600 名
（エ）滝田栄氏来場記念トークショー
日時：3 月 3 日(火)　14 時～
講師：滝田 栄氏（俳優）　参加者：200 名
（オ）関連展示「円空さんに手紙を書こう　応募作品展」
展示期間：3 月 14 日(土)～4 月 5 日(日)
会場：美術館エントランスホール

第４節　調査研究事業

１　調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。
今年度は県内の美術支援者と作家との関係調査を重点的に行った。

第５節　普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

１　館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。
団体総数は 122 団体 4,055 人、そのうち解説を行ったのは 65 団体 2,547 人である。

２　鑑賞講座

(1)　館長講座〈きらめきのコレクション物語〉

講師：早川博明（当館館長）
ア　「アメリカの詩―ワイエスとベン・シャーンたち」
日時：5 月 17 日(土)　参加者：16 名
イ　「斎藤清と近代版画の詩人たち」
日時：7 月 19 日(土)　参加者：18 名
ウ　「関根正二と近代美術の天才画家たち」
日時：9 月 20 日(土)　参加者：16 名
エ　「ふくしまの空　彫刻の楽園」
日時：11 月 15 日(土)　参加者：11 名
オ　「近代日本画の美―伝統と革新に生きる画家たち」
日時：1 月 17 日(土)　参加者：11 名
カ　「所蔵名品との対話：ベストセレクション 20 をめぐって」
日時：3 月 21 日(土)　参加者：10 名

３　実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1)　実技講座

ア　「色彩銅版画入門」

日時：平成25年6月14日(土)、15日(日)、21日(土)、
22日(日)、28日(土)、29日(日)
講師：馬場 章氏（版画家、女子美術大学教授）
参加者：12名

イ 「日本画の描き方」
日時：平成25年10月25日(土)、26日(日)、11月1日(土)、
2日(日)
講師：植田一穂氏（東京藝術大学准教授、創画会会員）
参加者：7名

ウ 「木の心、私の思い～自然木を使った木彫」
日時：平成26年2月15日(日)、22日(日)、3月1日(日)、
8日(日)、15日(日)
講師：新井 浩氏（福島大学人間発達文化学類教授）
参加者：16名

(2) 技法講座

ア 「羊皮紙に描くヨーロッパ中世の細密画」
日時：平成25年9月21日(日)、28日(日)
講師：石原靖夫氏（美術家） 参加者：16名

イ 「裸婦デッサン」
日時：平成25年11月22日(土)、23日(日)
講師：北折 整氏（東北生活文化大学教授）
参加者：12名

(3) 親と子の美術教室

ア 「親子で絵本を作ろう」
日時：平成25年5月5日(月・祝)
講師：内田由紀子氏（製本家、池袋コミュニティ・カレッジ講師） 参加者：小学生の親子8組20名

イ 「オリジナルふろしきを作って、むすび方を身につけよう」
日時：平成25年9月14日(日)
講師：よこやまいさお氏（ふろしきライフデザイナー）
参加者：小学生の親子7組16名

ウ 「親子で楽しむ～風船を使ったキャンドル作り」
日時：平成25年12月14日(日)
講師：横島憲夫氏（造形作家）
参加者：小学生の親子8組20名

(4) 一日創作教室

ア 「遠近法と幻想による描画を体験する」
日時：平成25年7月13日(日)
講師：久慈伸一（当館専門学芸員） 参加者：12名

イ 「絵画やイラストを粘土で模写する～イメージの変換」
日時：平成25年12月7日(日)
講師：久慈伸一（当館専門学芸員） 参加者：4名

(5) わんぱくミュージアム

ア 「道具を使って描く、おもしろ絵画」
日時：平成26年7月27日(日)
講師：海老塚耕一氏（多摩美術大学教授）
参加者：37名

イ 「ねこの〈チョーちゃん〉をつくろう！」
日時：平成26年10月5日(土)
講師：國島 敏（当館主任学芸員） 参加者：5名

ウ 「〈歩く花〉ってどんな花？～自分だけの〈○○花〉をつくろう！」
日時：平成27年3月22日(土)
講師：白木ゆう美（当館学芸員） 参加者：5名

4 美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

平成15年度より開催する連携事業で、こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域のニーズに対応を図っている。

今年度は「不思議な世界の入り口」をテーマに幼稚園・小・中・高校合わせて12校で開催した。ワークショップ作品は平成26年12月9日(火)～平成27年1月12日(月・祝)の期間、当館企画展示室A-1にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

ア 「出会いの形～作ることはモノとコトと出会うこと～」
講師：酒井賢司氏（イラストレーター、グラフィックデザイナー）
9月18日(木) 福島市立福島養護学校（高等部）3年生
参加者：18名
9月24日(水) 郡山市立緑ヶ丘中学校美術部1～2年生
参加者：20名
9月25日(木) 大玉村立大玉中学校美術部1～3年生
参加者：11名
9月28日(日) 県立保原高等学校美術部1～3年生
参加者：25名
10月8日(水) 学校法人まゆみ学園まゆみ幼稚園年長
参加者：26名
10月15日(水) 二本松市立はらせ幼稚園年中・年長・親子 参加者：11組
10月29日(水) 学校法人東明幼稚園年長・親子
参加者：41組
11月18日(火) 福島市立御山小学校1年生
参加者：68名
11月18日(火) 福島市立御山小学校5年生
参加者：73名

イ 「キャラクターを創ろう！楽園の絵」
講師：鴻崎正武氏（画家、東北芸術工科大学准教授）
10月22日(水) 大沼郡会津美里町立高田中学校3年生
参加者：114名
11月16日(日) 県立福島工業高校美術部1～3年生
参加者：8名
11月26日(水) 本宮市立本宮まゆみ小学校5年生
参加者：52名
12月7日(日) 県立福島南高校美術部1～3年生
参加者：11名

5　美術館への年賀状展

県内の小・中学生から寄せられた手作り年賀状をエントランスホールに展示した。

会期：平成 27 年 1 月 12 日(月・祝)～31 日(土)

応募数：小学生 361 枚、中学生 110 枚、
学年不明その他 20 枚　　合計 491 枚

観覧者数：922 名

6　博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

期間：平成 26 年 8 月 19 日(火)～24 日(日)

実習生：5 名

7　友の会、協力会との連携事業

(1)　友の会対象の鑑賞プログラム

ア　「ちひろ美術館コレクション展」鑑賞講座
日時：平成 26 年 5 月 25 日(土)
講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）　参加者：15 名

イ　「コレクションクッキング展」鑑賞講座
日時：平成 26 年 9 月 15 日(月・祝)
講師：荒木康子（当館専門学芸員）　参加者：10 名

ウ　「小川千甕展」鑑賞講座
日時：平成 26 年 11 月 15 日(土)
講師：増渕鏡子（当館主任学芸員）　参加者：15 名

エ　「飛騨の円空展」鑑賞講座
日時：平成 27 年 2 月 28 日(土)
講師：宮武 弘（当館主任学芸員）　参加者：15 名

(2)　友の会美術映画鑑賞会

ア「大いなる沈黙へ～グランド・シャルトルーズ修道院」
日時：平成 26 年 9 月 20 日(土)～2 月 28 日(金)
会場：福島フォーラム

イ「坑道の記憶～炭鉱絵師・山本作兵衛」
日時：平成 26 年 11 月 15 日(土)～2 月 28 日(金)
会場：福島フォーラム

(3)　友の会実技講座

ア　「藍染め体験をしてみませんか」
日時：平成 26 年 8 月 9 日(土)
講師：~~(川俣町織物展示館指導員)~~
参加者：3 名

イ　「スクラッチボードに描く」
日時：平成 26 年 11 月 29 日(土)
講師：久慈伸一（当館専門学芸員）　参加者：8 名

(4)　アートチャリティー・バザー

友の会会員、美術館関係者が持ち寄った図録・書籍・アート関連グッズ等を販売した。

日時：平成 26 年 11 月 16 日(日)

会場：エントランスホール

(5)　友の会研修旅行

「山形美術館、霞城セントラルランチ、寒河江・慈恩寺を訪ねる旅」

日時：平成 26 年 8 月 23 日(日)

参加者：早川博明（当館館長）、伊藤匡（当館学芸課長）、
白木ゆう美（当館学芸員）ほか計 42 名

(6)　ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催

ア　「開館 30 周年記念　夏の夕べのコンサート」
日時：平成 26 年 7 月 26 日(日)
会場：エントランスホール（参加無料）
演奏：小野宏子氏（フルート）、柴田菊子氏（ピアノ）
参加者：150 名

イ　「琵琶と江戸手妻の会」
日時：平成 27 年 2 月 14 日(日)
会場：美術館講堂（参加無料）
出演：藤山新太郎氏（手妻）、藤山晃太郎氏（手妻）、
塩高和之氏（薩摩琵琶）
参加者：250 名

8　その他の事業

(1)　県立図書館との連携事業「アートな おはなしかい」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせと、美術館での鑑賞および工作ワークショップ。

日時：平成 26 年 12 月 21 日(土)

参加者：19 名（うち保護者 8 名）

(2)　地域に学ぶ中学生体験活動

期間：平成 26 年 7 月 2 日(水)～4 日(金)

参加者：福島市立大鳥中学校 2 年生 3 名

第６節　施設・設備の整備

老朽化した施設・設備の改修工事等を実施した。

(1)　美術館・図書館空調設備等改修工事

平成 26 年 12 月 11 日～平成 28 年 2 月 3 日

文化・倉島特定建設工事共同企業体、株式会社高電

(2)　美術館ハロゲン化物消火設備改修工事

平成 26 年 12 月 2 日～平成 27 年 3 月 20 日

株式会社光和設備工業所

(3)　美術館災害復旧工事（建築池配管設備）

平成 26 年 3 月 27 日～平成 26 年 7 月 18 日

株式会社光和設備工業所

第１６章　福島県立博物館

第１節　概要

１　運営の概要

福島県立博物館は資料収集・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。

今年度の博物館の活動の概要は次のとおりである。

２　運営協議会

（１）委員

学校教育	中野　みどり	郡山市立喜久田小学校長
	遠藤　晴美	いわき市立三阪中学校長
	山内　正之	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	遠藤　俊博	福島県文化振興財団理事長
	佐藤　典子	いわき市立中央公民館庶務係長
学識経験者	白井　美津子	会津若松市教育委員会委員
	佐藤　彌右衛門	合資会社　大和川酒造店代表社員
	長尾　修	公立大学法人会津大学短期大学部社会福祉学科　非常勤講師
	新妻　玲子	家庭教育インストラクターいわきの会
	庄司　梓	公募委員

（２）会議

ア　第１回　平成 26 年 6 月 6 日（金）

議題　①年間催し物スケジュールについて
②県立博物館の使命の一部改正について
③中期目標の達成状況及び第 1 期の総括について
④次期中期目標について
⑤入館状況について
⑥震災後の博物館の取り組みについて

イ　第２回　平成 27 年 2 月 27 日（金）

議題　①平成 26 年度事業の実施状況について
②平成 27 年度事業計画について
③はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトについて
④ふくしま震災遺産保全プロジェクトについて

第２節　調査研究事業

１　展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。平成 26 年度は、以下の 3 テーマで調査研究を進めることとした。

（１）新生代植物化石の再評価

ア　趣　旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクションは（故）鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。すでにこれらの標本の 10,000 点以上が鑑定、整理されてきたが、最近、産地・地質時代にまとまりのある標本に関して、ボランティアの力を借りながら、新たに 1,000 点以上の整理を進めることができた。そこで、これらについて鑑定内容を確認した上で成果を論文として公表し、コレクション整理の成果をさらに充実させたい。

イ　概　要

研究の内容として、郡山市熱海町地域における片平層、および金山町猿倉沢地域における上井草層の化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。

平成 26 年度は、金山町における地質調査を 2 回、これに関連する只見町野々沢における植物化石産地の地質調査を 1 回行った。また、国立科学博物館研究主幹の矢部淳氏を招き、片平層産植物化石の同定内容について確認と修正を依頼した。

（２）会津藩社倉制の研究

ア　趣　旨

江戸時代には備荒貯蓄や米価調整のため、各藩や代官所においてさまざまなシステムの構築が試みられた。その備荒貯蓄政策の代表的なものは会津藩の例で、保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度である。この制度は藩政時代から全国的にも注目されたが、その詳細について、系統的な研究はあまり行われていない。よって各種文献の調査等を行い、制度の具体的なシステムについて明らかにすることを目指す。

イ　概　要

社倉の運用方法などを示す具体的な基礎資料を調べる中で、「社倉方一式」という資料の存在が判明した。この資料が会津藩の社倉米の制度やその配分を具体的に知ることの出来る貴重なものであったため、平成 26 年度は調査内容を紀要で公表した。平成 27 年度も関連資料の調査を継続し、展示等で公開する予定である。

（３）山口弥一郎調査資料の研究

ア　趣　旨

山口弥一郎（1902-2000）は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』（1943 年刊）が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館（磐梯町）に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、

体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

イ　概要

平成 26 年度は、本研究を進めるにあたっての調査資料の管理や整理等について、磐梯町との協議を進めた。その結果、平成 27 年 3 月 31 日付で「『山口弥一郎旧蔵資料の整理と活用に向けた調査研究』のための協約書」を磐梯町長と当館館長の間で取り交わし、相互に協力して研究を進めることになった。実際には 27 年度から資料の借用と整理を進めていくことになる。

2 その他の調査研究事業

（1）古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1 点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成 26 年度は、昨年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料の整理作業を継続して実施したほか、近年受け入れた小口の資料整理作業を行った。また整理済の未登録資料（簗田家追加寄託資料他）を I.B.M（更新された資料管理システム）に登録するため、入力作業を行った。マイクロ撮影は、「特定医療法人明智会寄託資料」を継続して行ったほか（今年度で撮影終了）、新たに簗田家追加寄託資料の撮影を行った。

第３節　資料収集事業

1 収集展示委員会

博物館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12 名の委員を委嘱している。

（1）収集展示委員会委員

氏　名	役　職　名	備　考
有賀　祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢　謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石　雅之	東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田　清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上　喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川　友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田　俊雄	東北大学名誉教授	委員
渡邉　一雄	福島県考古学会顧問	委員

（2）会議

ア　日時：平成 27 年 3 月 27 日(木)

イ　議題　①平成 26 年度事業の実施状況について
②平成 27 年度事業計画について
③平成 27 年度の企画展等について
④その他
文化財レスキュー事業の実施状況について

2　受贈・受託

（1）歴史資料

ア　受　贈

鉄橋工事写真	1 件　個人
砲弾	2 件　個人
板かるた	1 件　個人
スタジオ撮影用大型カメラ	1 件　個人
美術資料ほか	41 件　個人
小倉百人一首　板かるた	1 件　個人
最上三十三所御礼集	1 件　個人
中村北潮筆　板かるたほか	3 件　個人

イ　受　託

本田家文書	1 件　個人
本田家文書	1 件　個人
薬師寺如来坐像ほか	2 件　個人
会津暦　等	43 件　個人

（2）美術資料

ア　受　贈

掛軸	2 件　個人
萩の宮蒔絵手箱ほか	37 件　個人

イ　受　託

遠藤香邨筆「富士十二景図屏風」ほか	2 件　個人
竹内澤輿筆「山水図」、大野泉祐筆「朱達磨図」	2 件　個人
田楽面「伊邪那伎命」ほか	5 件　個人
加藤遠澤筆「鐘馗図」	1 件　個人

（3）民俗資料

ア　受　贈

雛人形	1 件　個人
オシンメイサマ	1 件　個人
「子安観世音」提灯ほか	2 件　個人
謄写版ほか	10 件　個人
傘鉾（カサボコ）	2 件　個人
枕屏風ほか	2 件　個人
座敷旗	1 件　個人
雛人形ほか	6 件　個人

（4）考古資料

ア　受　贈
岩谷遺跡出土　土星模造品ほか　　2件　個人
イ　受　託
元屋敷遺跡出土資料　　6件　三島町教育委員会教育長
古墳時代直刀（刀身・鍔・鏃）ほか　　2件　個人

（5）自然資料

ア　受　贈
現生貝類標本ほか　　357件　個人
福島県内各地鉱山の鉱石　　1件　個人
イ　受　託
三葉虫ほか　　27件　双葉町教育委員会教育長

3 購　入

（1）美術資料

竹内澤與筆「山水図」　　1件

（2）考古資料

江平遺跡出土木簡（レプリカ）　　2件

（3）図書資料

ア　一般図書
考古分野13冊、歴史分野55冊、民俗分野38冊、自然分野73冊、保存分野17冊、その他1冊　　計197冊
イ　定期刊行物　　32種類

第4節　保存管理事業

1　資料の収蔵

（1）博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の，現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数　　（平成27年3月31日現在）

分野	件数	備　　考
考古	20,396	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,189	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	21,824	書籍・文書資料ほか
美術	6,248	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,101	化石・岩石・鉱物ほか
合計	110,758	

（2）図書および映像資料

ア　収蔵図書数　（平成27年3月31日現在）
考古分野：23,811冊　民俗分野：4,512冊
歴史分野：9,753冊　美術分野：3,803冊
自然分野：15,997冊　保存分野：1,635冊
その他：55,776冊　合計：115,287冊
イ　収蔵映像資料数（平成27年3月31日現在）
収蔵映像資料総数：1,370点

2　登録・整理

（1）資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは、県教育委員会の FKS 回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、これまで使用してきた資料管理システム専用 LAN 回線は FKS 回線に一本化した。

新システムでは、データの一括登録や一括修正が可能となるなど機能が向上した。また館内におけるサーバーの設置が不要となり、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となり、サービス機能が向上した。

本年度は、プログラムの初期不良の修正、資料の登録および資料情報の外部公開に関する試験的運用の3点に重点的に対応する方針で使用を開始した。

プログラムの初期不良についてはかなり修正を進めたが、未だに修正完了に至っていない。その原因は、旧システムの膨大な情報項目をすべて完全に移植したため項目の構成が煩雑となり、使用中に初めて発見される書式や登録方法の設定ミス等があるためである。また同様の理由から、項目を再構成しないと登録作業の煩雑さを解決できない部分が生じており、その一部は有償の改修が必要となる。資料の登録および資料情報の外部公開については次項で述べる。

（2）資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。本年度は、上で述べた初期不良等を修正しながらの試験的運用となったため、登録資料数は多くなかった。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

資料情報の外部公開については、本年度7,716件を公開して平成26年度中期目標の評価指標を達成したものの、分野により公開数にばらつきがあるほか、公開画面の検索方法に修正すべき点があるなど、課題が生じている。しかしシステムが ASP 方式であるため実施可能な修正には制限があり、改良には相当の工夫と時間が必要である。

データベース入力済みの登録資料の件数を示す。

（平成27年3月31日現在）

分野	資料データ入力件数（平成26年度）	登録資料件数（累　計）
考古	15	11,649
民俗	0	13,610
歴史	26	36,593
美術	1	6,219
自然	614	24,259
合計	656	92,330

（3）ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

ア自然資料整理
桑原　功　野外調査での協力　金山町5月、10月、各1日
自然史講座「化石をさがそう」での協力　9月
伊達市

星総一郎　自然史標本約600点整理　延べ20日

イ　古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち13名が延べ66日参加し、松崎達夫家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは281点。参加者は穴澤良文、五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣次、鈴木清二、星弘明の諸氏。

3　保　存

（1）防虫作業等

ア　保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月11日～7月10日、11月5日～11月22日の2回にわたり実施した。

イ　燻蒸庫による燻蒸

第1回（7月1日）～第4回（3月24日）まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約589件の燻蒸を実施した。

4　貸　出

（1）博物館資料

資　料　名	貸　出　先	期　　間	展覧会名
日新館教授の図	若松城天守閣郷土博物館	5月15日～7月15日（展示期間）	特集展示「むかしの会津～教育編」
泉崎村原山1号墳出土埴輪（琴を弾く人） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（楯を持つ人） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（円筒） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（朝顔）	公益財団法人郡山市・学び振興公社	7月12日～8月31日（展示期間）	第1回企画展「ふくしま埴輪物語」
桐蒔絵鼓 夕顔蒔絵鼓 紫檀能尽蒔絵煙草盆 藤蒔絵提重 白虎隊自刃図 錦絵「会津軍記」 錦絵「会津戦争記聞」 家訓 短冊「大君の…」 書「幾人の…」	新宿歴史博物館	9月13日～11月24日（展示期間）	特別展「高須四兄弟-新宿・荒木町に生まれた幕末維新-」
絹本著色飯豊山山道絵図 紺紙金泥法華経	米沢市上杉博物館	11月1日～11月30日	特別展「置賜の山岳信仰」
カパラミプ（衣服・木綿） マキリ（刀） エムシアツ（刀掛け帯） イクパスイ5点 以上会津民俗館寄託 リイシリ島絵図 黒曜石 草鞋 小刀鞘	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	9月16日～12月12日（貸出期間）	アイヌ工芸品展「アイヌの工芸-東北のコレクションを中心に-」帯広会場
古絵馬（上宇内薬師堂奉納品）	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	10月18日～11月30日	企画展「祈りの里会津-霊場とその信仰-」

中際遺跡土笛	三島町交流センター山びこ	10月22日～11月30日（一時返還）	三島の遺跡展―縄文の工房と戦国山ノ内氏の城館―」
流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	棚倉町立図書館多目的ホール	11月28日（展示日）	流廃寺跡国史跡指定記念講演会現地説明会特別展示
土津神社告文（文久二年閏八月五日付）	茨城県立歴史館	平成27年2月7日～3月22日	特別展Ⅱ「徳川慶喜」
十二天図（当館蔵・恵日寺旧蔵）旧軸木のうち延宝三年銘・文政九年銘	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	平成27年4月1日～11月30日	磐梯山慧日寺資料館常設展

（2）写真資料

全99件

歴史：86点　美術：36点　考古：57点　民俗：なし　自然：3点　計182点

第5節　展示事業

1　常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

平成21年度から、常設展示室内において、以下のようなテーマ展・ポイント展を実施している。

（1）テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が6年目である。全8回実施。

ア「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」（部門：考古展示室）平成25年度～平成26年5月11日（日・祝）

イ「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈福島写真美術館プロジェクト〉成果展」（部門：歴史・美術展示室）4月15日（火）～5月25日（日）

ウ「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」（部門：考古展示室）6月17日（火）～平成27年5月10日（日）

エ「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈岡部昌生フロッタージュプロジェクト〉成果展（部門：歴史・美術展示室）6月7日（土）～7月13日（日）

オ「相馬家の婚礼道具―南相馬市同慶寺所蔵の漆工品―」（部門：歴史・美術展示室）7月19日（土）～8月24日（日）

カ「現代「漆・歴史」考 2014－渡邊晃一による『漆版―』－」（部門：歴史・美術展示室）8月30日（土）～10月5日（日）

キ「けんぱくの宝2014」（部門：歴史・美術展示室）12月20日（土）～平成27年2月1日（日）

ク「徹底解剖！会津板かるた」（部門：歴史・美術展示室）平成27年2月7日（土）～3月29日（日）

（2）ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が6年目である。全21回実施。

ア「安積伊東一族ゆかりの鰐口」（総合：中世展示室）4月1日（火）～5月30日（金）

イ「喜多方市泉福寺の大日如来像」（総合：古代展示室）4月5日（土）～5月6日（火）

ウ「老中奉書でみる会津藩の台場警備」（総合：近世展示室）4月19日（土）～5月30日（金）

エ「読み解き「戊辰戦記絵巻物」」（総合：近・現代展示室）4月19日（土）～平成27年2月1日（日）

オ「近藤家の婚礼用具」（部門：民俗展示室）5月8日（木）～7月2日（水）

カ「描かれた養蚕」（部門：民俗展示室）7月17日（木）～9月3日（水）

キ「伝単―連合軍のまいたビラ―」（総合：近・現代展示室）7月18日（金）～8月22日（金）

ク「博物館の壁が語る日本列島の誕生」（エントランスホール東側）7月19日（土）～8月29日（金）

ケ「ふくしまの火炎型土器」（総合：原始展示室）7月23日（水）～平成27年3月15日（日）

コ「これも弥生土器！？」（総合：原始展示室）7月23日（水）～平成27年3月15日（日）

サ「磐梯山とジオパーク」（総合：「自然と人間」展示室）8月21日（木）～9月17日（水）

シ「福島を空から眺めてみよう！」（総合：近・現代展示室）9月13日（土）～11月7日（金）

ス「王様の玉飾り」（総合：古代展示室）9月2日（火）～平成27年3月15日（日）

セ「約束の音色～聖武と皆麻呂」（総合：古代展示室）9月2日（火）～平成27年3月15日（日）

ソ「富岡層の貝類化石」（部門：自然展示室）10月11日（土）～11月20日（木）

タ「会津藩校日新館の教育」（総合：近世展示室）10月18日（土）～11月14日（金）
チ「桶づくり職人の道具」（部門：民俗展示室）11月6日（木）～12月10日（水）
ツ「地球黎明期の岩石」（部門：自然展示室）11月21日（金）～12月26日（金）
テ「火をめぐる昔の道具～明かりと暖房～」（部門：民俗展示室）12月18日（木）～平成27年2月4日（水）
ト「火鉢となった版木たち」（総合：近世展示室）12月27日（土）～平成27年1月30日（金）
ナ「ふくしまの凧」（部門：民俗展示室）平成27年2月13日（金）～3月18日（水）

2　企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

（1）春の企画展「写真展　東北―風土・人・くらし」

ア　会　期　　平成26年4月19日（土）～5月18日（日）
開館日数：26日間
イ　会　場　　福島県立博物館企画展示室
ウ　入館者数　1,226人
エ　担当学芸員　美術分野：川延安直・小林めぐみ
オ　趣　旨

日本の写真評論の第一人者として活躍している宮城県出身の飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある、しかし世代も表現もさまざまな10組の写真家による作品で構成。過去の作品から、現在進行形の作品までを同時に展示し、過去・現在・未来を貫く個性的な写真家の視点を紹介した。

1950～60年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭りなどを追った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、自らの個人史と故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズである。

東日本大震災後、被害のようすは多くのメディアで報道されたが、本展覧会は、被害状況や復興のようすをリポートするものではなく、さまざまな年代の、異なる表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を海外の人に伝えることを目指した。

国際交流基金によって企画された本展は、北京・イタリア・オーストラリアなど5年間40都市を巡回し、東北の豊かな自然や独特の祭りのようすを世界に発信している。

今回は一時日本に里帰りする機会に福島県立博物館と岩手県内で公開されることになった。

カ　展示構成

千葉禎介・小島一郎・芳賀日出男・内藤正敏・大島洋・林明輝・田附勝・仙台コレクション・津田直・畠山直哉

キ　出品点数　10作家、123点
ク　関連事業

記念対談「縄文の再生「東北―風土・人・くらし」展を巡って」
講師：飯沢耕太郎（本展監修者・写真評論家）×田附勝（写真家）×赤坂憲雄（福島県立博物館長）
日時：4月19日（土）13時30分～15時
会場：講堂

コ　成果と課題

東北をテーマにした総合的写真展は初めて取り扱う展覧会であり、また飯沢耕太郎氏の選抜によるきわめて質の高い作品群は東北の魅力を伝えてくれた。海外での日本文化発信のための展覧会であったが、作品の一時帰国の際に当館での展示が実現し国際交流基金との連携が生まれたことは成果とできる。

アンケートには、1950年代の懐かしい生活を思い出した、会津で見ることができて良かった、東北が身近になったなどの感想があった。反面、照明・展示・解説への不満も見受けられ、作品の質に展示室がついていっていない状況がある。

（2）夏の企画展「アイヌの工芸―東北のコレクションを中心に―」

ア　会　期　　平成26年7月19日（土）～9月15日（月祝）
開館日数：52日間
イ　会　場　　福島県立博物館企画展示室
ウ　入館者数　4,078人
エ　担当学芸員　歴史分野：阿部綾子　民俗分野：内山大介
オ　趣　旨

本展は公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（アイヌ文化財団）との共催事業である。同財団は毎年、アイヌ文化振興のため、北海道内外の博物館・美術館と連携してアイヌ工芸品展を開催しており、本展もその一環で、本年は当館と帯広百年記念館を巡回した。

今回は東北地方での開催となったことから、主に東北地方で収蔵されているアイヌの工芸品や民具を中心に展示することをコンセプトとし、当館に寄託されている渡部つとむコレクションの紹介も行った。また福島県と北海道（蝦夷地）やサハリン（樺太）を結ぶ資料として、会津藩の樺太出兵や同藩による蝦夷地分領支配に関わる資料もあわせて出品し、会津藩とアイヌとの関わりにも注目した。

カ　展示構成

（ア）装う
（イ）暮らす
（ウ）祈る
（エ）会津藩と蝦夷地・樺太

キ　展示資料総数　163点
ク　主な展示資料

（ア）アットゥシ（樹皮繊維の衣服）
（イ）テタラペ（イラクサ繊維の衣服）
（ウ）チヂリ・カパラミプ・ルウンペ（木綿の衣服）

（エ）蝦夷錦
（オ）ニンカリ・タマサイなど装飾品
（カ）盆や煙草入れ、マキリなど木製品
（キ）鍬形・サパンペ（冠）・イクパスイなど祈りの道具
（ク）会津藩樺太出陣絵巻・蝦夷実景・標津番屋屏風など会津藩関係資料

ケ　関連行事
（ア）オープニングセレモニー（カムイノミ）
日時：7月19日(土)9時40分～10時20分
会場：福島県立博物館エントランスホールほか
祭司：野本久栄氏
北海道千歳市在住伝承者：野本敏江氏
（イ）ギャラリートーク
日時：①7月19日(土)10時30分～11時30分
②9月15日（月祝）14時30分～15時30分
会場：福島県立博物館企画展示室
講師：①標津町教育委員会学芸員　小野哲也氏ほか
②当館学芸員　阿部綾子・内山大介
（ウ）実演「アットゥシ織」
日時：7月20日(日)10時00分～15時30分
会場：福島県立博物館企画展示室
講師：二風谷民芸組合
（エ）体験「アイヌ文様を刺繍しよう！」
日時：7月20日(日)①10時～12時
②13時30分～15時30分
会場：福島県立博物館実習室
講師：二風谷民芸組合
（オ）体験「作って鳴らそう！アイヌの楽器・ムックリ」
日時：8月17日(日)①10時30分～12時
②13時30分～15時
会場：福島県立博物館実習室
講師：二風谷民芸組合
（カ）映像とお話「アイヌとヒグマ」
日時：9月6日(土)13時30分～15時30分
会場：福島県立博物館実習室
講師：札幌大学特任准教授　田村将人氏、
公益財団法人知床財団保護管理研究係主任
葛西真輔氏

コ　成果と課題
・アイヌ文化財団との共催形式での開催であり、同財団から適切なアドバイスを受けられたため、アイヌ資料の専門家がいない当館でも開催でき、福島県でアイヌ文化に触れる貴重な機会を提供することができた。また資料輸送費など予算的な面でも多くの支援を受けることができたため、開催経費の少ない当館でも大規模な展覧会として開催可能となり、メリットが大きかった。
・今回はこれまでアイヌ文化財団が開催してきた通常のアイヌ工芸品展とは異なり、特に会津藩の蝦夷地警備・経営に関わる資料を出品したことで、北海道と福島県を結ぶ歴史的関係性についても紹介することができ、福島県で開催する意義が深まった。
・来場者は約4000人であったが、その5%にあたる204人からアンケートの回答を得た。
・アンケートでは約8割の方が企画展を「とても満足」「まあ満足」と回答しており、来場者の満足度は比較的高かったと言える。また料金設定も「適当」「安い」と回答した方が9割にのぼったことから、金銭的にも満足した方が多かった。さらに回答者のうち、当館友の会の会員でない方が94%にのぼること、来館が初めてか2回目である方が45%であること、約3割が県外からの来館者であることを考えると、新たな客層の獲得につながったと考えられる。
・アンケート回答のうち良かった点としては、普段触れる機会の少ないアイヌ文化に触れることができたこと、資料が豊富であったこと、特に衣類の展示が多く説明も簡潔で興味をもつことができたこと、実演や体験が多くあり特に実演でアットゥシ織の織り手と直接話をすることができたこと、アイヌの人々と会津藩との関わりを知ることができたこと、などが挙げられた。今回衣類は衣類用のアクリルケースで展示したため、全体を見ることができたことが高評価につながったようだ。
・悪かった点としては、説明が不十分であり資料の使用方法が分かりにくかったこと、展示順路が分かりにくかったこと、照明が暗かったこと、アイヌの歴史をもっと掘り下げた説明が必要と感じたこと、などが挙げられた。特に説明が不十分との意見に対しては、展示資料の着用例・使用例などを示す図や写真パネルなどを用いれば改善できた点であり、反省材料の一つである。その他の要望としてはアイヌの工芸品やアイヌ文化を紹介する書籍・DVDの販売を求める声が聞かれ、今後グッズ販売（ミュージアムショップの立ち上げ）を行うことが企画展そのものの検討課題として残った。

（3）秋の企画展

「東日本大震災復興祈念　みちのくの観音さま　人に寄り添うみほとけ」

ア　会　期　平成26年11月1日（土）～12月14日（日）
開館日数38日間
イ　会　場　福島県立博物館企画展示室他
ウ　入場者数　8,143人
エ　担当学芸員　歴史分野：高橋充　民俗分野：内山大介他
オ　趣　旨
この企画展は、東北歴史博物館との共同企画（巡回展）で、主催は宮城・福島観音プロジェクト実行委員会（福島県立博物館・東北歴史博物館）、NHK福島放送局の共催を得て実施した。
東北各地の観音像、観音に捧げられた奉納品、観音ゆかりの多彩な文化財など約120点を展示した。東北の地に伝えられた貴重な文化財や豊かな精神文化を再発見する場となり、東日本大震災で被災した方々にひと時の安らぎを与え、復興

への思いを新たにする機会となることを願って開催した。

なお、特別展および関連事業は、平成26年度文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を得て実施した。

カ　展示構成

○観音菩薩とは

○第1章　観音菩薩のすがた

○第2章　観音菩薩への祈り

キ　展示資料総数

約120点

ク　おもな展示資料

○木造菩薩（観音菩薩）坐像　天台寺（岩手県二戸市）

○木造十一面観音菩薩立像　小沼神社（秋田県大仙市）

○木造十一面観音菩薩立像　泉龍寺（福島県南相馬市）

○木造聖観音菩薩立像　常春寺（宮城県石巻市）

○銅造聖観音菩薩立像　聖福寺（青森県おいらせ町）

○銅造如意輪観音菩薩坐像　金峯神社（山形県鶴岡市）

○銅造十一面観音菩薩坐像　都々古別神社（福島県棚倉町）

○銅造聖観音菩薩坐像御正躰　若松寺（山形県天童市）

○紙本墨書法用寺縁起絵巻　会津若松市立会津図書館（福島県会津若松市）

○観音札拝図絵馬　常隆寺（福島県棚倉町）

○庄内三十三所巡礼図絵馬　荒沢寺正善院（山形県鶴岡市）

○傘福　龍沢寺（山形県酒田市）

ケ　関連行事

（ア）関連講座「観音さまのふるさと」

①11月8日（土）13：30～14：30「会津の観音講と安産祈願」当館学芸員　内山大介

②11月11日（火）13：30～14：30「東日本大震災と観音さま」当館学芸員　高橋充

③11月22日（土）13：30～14：30「酒田の傘福・会津のカサボコ」当館学芸員　内山大介

④12月11日（木）13：30～14：30「東北各地の観音札所めぐり」当館学芸員　高橋充

（イ）展示解説会

日時：11月1日（土）　11月23日（日祝）　12月14日（日）　各回とも13：30～14：30

講師：当館学芸員　11月1日は東北歴史博物館学芸員

（ウ）連携事業

①会津美里町教育委員会歴史講座「観音信仰と会津美里町」（第3回）

日時：11月6日（木）10：00～12：00

②東北地方民俗学会合同研究会・日本民俗学会談話会シンポジウム「『めぐり』と民俗信仰」

日時：12月6日（土）13：00～16：30

コ　学校連携事業「宮城・福島観音プロジェクト」

特別展の開催に合わせて、県内の複数の学校と連携しながら、児童・生徒を対象に「観音さまを学ぶ」ための事業を展開。連携して事業を進めていただいた学校は下記の通り。

○郡山市立湖南小中学校

○湯川村立笈川小学校

○湯川村立勝常小学校

○福島県立船引高等学校（田村市）

それぞれの学校の教育方針に合わせ、また児童・生徒の発達段階も考慮しながら、基本的には以下のような内容で実施した。

①観音や仏教・寺院に関連する内容の学芸員の出前授業

②身近な地域の観音像をまつる寺院や観音堂の現地見学

③特別展「みちのくの観音さま」の展示見学会と学習成果の発表

また博物館特派員事業として身近な観音について情報などを募集したところ、福島県立福島明成高等学校（福島市）の郷土史部が、以前に近隣の寺院の調査と成果発表を行っていた。これらの学校での活動内容（写真パネル）と児童・生徒が制作した成果品などを、平成27年2月14日（土）～3月3日（火）エントランスホールで掲示した。

サ　成果と課題

東北各地の観音像が集められ、一度に観覧できる機会となったことが来館者の好評価となった。四方から見られるようにした仏像の展示手法も好評であった。また仏像ばかりでなく、観音に対する信仰を示す絵馬やさまざまな奉納品を展示し、巡礼や観音講を対象に盛り込んだことが、展示内容の幅を広げ、東北の観音信仰の奥深さに迫るものとなった。

来館者アンケートでは、図録がなかったことに対する不満が多く、その他に音声ガイドや高齢者割引などを要望する声もあった。また展示室内の騒音など、静かに観覧できないことへの不満の声もあった。大規模な展覧会は、大幅に外部助成金に頼らなければ実施できない状況の中では、どうしても実現できることには制約が多くなる。その中で、今回のように他館との協力を試み、館内部でもできる限りの工夫を重ねることによって、少しでもよい展示を目指してゆくことが求められている。

3　特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会であるが、特に予算化せず常設展費の予算の枠内でやりくりした。

（1）「磐越西線１００年のあゆみ」

ア　会　期　平成26年5月27日（火）～7月6日（日）

イ　会場　福島県立博物館企画展示室収蔵資料展示室

ウ　入館者数　10,016人（会期中の常設展入館者数）

エ　担当学芸員　歴史分野：佐藤洋一・田中伸一

オ　趣　旨

会津地方が戊辰戦争の荒廃から脱却し、経済復興するためには、物資の大量輸送が可能な鉄道が必要だった。しかし、この鉄道が敷設されるまでには、紆余曲折があった。明治20年代に鉄道敷設運動が開始され、大正3年(1914)に郡山～新津間の全線が開通するまで、先人たちの並々ならぬ労苦があった。

この特集展では、あまり知られていない岩越鉄道株式会社という私鉄の時代から国有化による国鉄時代、さらに国鉄解体によるJR東日本へという変遷をゆかりの資料を交えながら紹介し、各時代をふりかえる。

カ　主な展示資料

①岩越鉄道の時代（1906年まで）　②国鉄の時代（戦前）（1945年まで）　③国鉄時代（戦後）（1987年まで）④JRの時代まで　の４つに時代区分し、各時代に関わる古写真や印刷物、鉄道で使用された道具、SLや電車の写真等を展示した。

キ　関連事業

Nゲージ運転会（会期中、毎週、土曜日と日曜日に実施した。）５月３１日（土）、６月１日（日）、６月７日（土）、６月８日（日）、６月１４日（土）、６月１５日（日）、６月２１日（土）、６月２２日（日）、６月２８日（土）、７月５日（土）、７月６日（日）

各実施日の運転時間

午前の部：午前１０時～午前１１時、午後の部：午前２時～午後３時

ク　資料提供者・協力者

会津若松市教育委員会、会津若松市立会津図書館、一般財団法人猪苗代町振興公社、喜多方市教育委員会、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、個人

（２）　「発掘ガール―郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡―」

ア　会　期　平成27年2月7日（土）～3月22日（日）

イ　会場　福島県立博物館企画展示室企画展示室

ウ　入館者数　3,157人（会期中の常設展入館者数）

エ　担当学芸員　考古分野：荒木　隆

オ　趣　旨

郡山女子大学短期大学部文化学科では、福島県立博物館の表面調査によって発見された笹山原№16遺跡（会津若松市）の発掘調査を2001年以来、考古学実習として継続して行ってきた。

笹山原№16遺跡の調査では、当初の目的としていた後期旧石器時代前半期をはじめとして、その後の縄文時代や平安時代の遺構や遺物が広範囲にわたって発見された。調査結果の詳細な検討から、縄文時代前期や平安時代の会津地方における土器作りのようすが具体的に浮かび上がってきたり、縄文時代前期のムラのようすが見えてきたりしている。

今回の展示では、これらの調査成果について、調査に実際に携わった大学生も交えて展示や解説を行った。

カ　主な展示資料

後期旧石器時代前半期の石器集中地点から出土したナイフ形石器、局部磨製石斧、石器の素材だった石刃、石器の素材を作るための剥片、石核などを集中地点ごとに展示した。

縄文時代前期（今から約6,000年前）の竪穴建物、土坑、集石墓などから出土した石鏃・石槍・石篦・掻器・磨製石斧・石皿・磨石・石錘などの石器や縄文土器、縄文土器の中には焼成中に破損したと思われる土器片も含まれており、このムラの中で縄文土器が製作されていたことも紹介した。

平安時代には土師器生産を担った集落が発見されており、材料の粘土をはじめ、粘土採掘穴、ロクロを用いた土師器製作工房として使われた竪穴建物、土師器の焼成遺構などが確認されている。それらの遺構から出土した粘土、製作途中の土師器、焼成に失敗して破損した土師器など、土師器の製作工程がわかる資料を工程ごとに展示した。

キ　関連事業

○記念講演会

演題：「発掘ガールに囲まれて―私の考古学―」

講演者：郡山女子大学短期大学部　准教授　會田容弘氏

日時：平成27年3月8日（日）13:30～

場所：当館講堂

○学生による展示解説会

日時　①平成27年2月7日（土）13:30～

②平成27年3月8日（日）記念講演会終了後

場所　当館企画展示室

講師　郡山女子大学短期大学部文学科・専攻科文化学専攻　学生有志

ク　資料提供者・協力者

郡山女子大学短期大学部

4　移動展

本年度は実施せず。

5　指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った。（館蔵・寄託品などは除く）。

（１）国指定

〈国宝〉「一字蓮台法華経開結共」九巻のうち一巻（巻第八）　龍興寺（福島県）

〈重文〉「木造十一面観音立像（観音堂安置）」一躯　勝常寺（福島県）

〈重文〉「熊野那智神社御正躰」三十七面のうち五面　高舘熊野那智神社（宮城県）

〈重文〉「木造十一面観音像懸仏」一面　昌林寺（山形県）

〈重文〉「金銅聖観音像懸仏」一面　若松寺（山形県）

〈重文〉「天台寺本堂　棟札」一枚　天台寺（岩手県）

〈重有民〉「円覚寺奉納海上信仰資料」　円覚寺（青森県）（以上7件は特別展「みちのくの観音さま」）

〈重文〉「磐城楢葉天神原遺跡出土品」楢葉町（福島県）（総合展示「原始」）

（２）県指定（福島県指定）

〈県指定〉「木造十一面観音立像」一躯　泉龍寺（福島県南相馬市）

〈県指定〉「八槻都々古別神社御正体」三面　八槻都々古別神社（福島県棚倉町）

〈県指定〉「木製旧堂山寺観音堂順礼納札」一枚　堂山王子神社（福島県田村市）

（以上3件は特別展「みちのくの観音さま」）

〈県指定〉「梁川城跡出土品」　伊達市教育委員会　（総合展示「中世」）

6　展示解説

（1）展示解説員

平成26年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算がついていた。春の企画展では、展示予算の中で監視員を予算化することができず、夏と秋の企画展では、辛うじてそれぞれの展示予算内で監視員を1名委託することができた。

ただ、企画展開催時には企画展示室の入口のもぎりに人数を割かれるなどするため、常設展示室内の監視員として実質1名の減となっている。そのため、学芸員による監視・解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切るしかなかった。

このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならないエリアが広くなった関係で十分な解説活動ができない場合が多く、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。

しかし、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応などは、展示や館内の業務をよく知っている解説員でなければ担当できない業務である。現在は、減員の中でもどうにか対応している状況であるが、現在の定員が通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来すおそれも出てくる。

ア　やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催することになっている。1回の所要時間は約30分。今年度のやさしい展示解説は5月10日からはじめた。

実施状況

開催日数：75日　実施日数：54日

開催回数：146回　実施回数：63回

総参加人数：153人

イ　通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：16回

ウ　部屋送り解説

非定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：47回

エ　体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成26年度も実施されなかった。ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

（2）．学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。26年度は年間で411回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった春の企画展では解説員の人員配置を工夫したが、前年度以上に学芸員が展示室に立つ回数も増加した。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

（3）展示解説のための印刷物

ア　福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106 p.

イ　福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

ウ　Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

7　体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

（1）衣装

ア　衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思

われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

（ア）衣装着付け件数　563件

（イ）着付けた衣装

春：打掛・番具足

夏：水干・直垂

秋：壺装束・武士旅姿

冬：半袴・白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くかかるし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

イ　衣装展示

春：大鎧・稚児鎧

夏：大工・小袖

秋：町人旅姿・編綴

冬：推古朝朝服・天武朝女官朝服

（2）手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り ／ 12月：クリスマスツリー ／
1月：団子さし ／ 3月：手作り雛人形

（3）おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：131件

（4）ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成26年4月～平成26年9月「化石にふれてみよう」（自然分野）

平成26年10月～平成27年3月「古代の音色と輝き」（考古分野）

8　博物館新情報収集･展示室改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルを実施した博物館の視察や新しい展示手法に関する情報収集を目的に活動している。今年度は、他県所在博物館のリニューアルについての動向を理解するために、アンケート調査等によるデータ収集とリニューアルに向けての当館の現状把握と課題抽出を実施する計画を立てた。しかしアンケート調査は設問の作成に至らないまま作業が中断しその後の進展がなく年度を終えた。また当館の課題抽出については作業方法の検討も行えなかった。

第６節　東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度５強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の３つの柱からなっている。

１．ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

２．ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

３．ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成26年度は次の事業を実施した。

1　文化財レスキュー

（1）　文化財・資料の受け入れ対応

ア　平成23年度以後受け入れ分への対応

前年度から継続して臨時労務員2名が整理作業等に当たった。

イ　平成26年度受け入れ分

平成26年度に、震災関連で新たに受け入れた資料はなかった。

ウ　その他

東日本大震災発生から３年が経過し、震災の直接的な被害とはいえないものの、この機会に蔵を取り壊す、あるいは建て直すというケースがあり、蔵の中の資料の調査や、民具などの整理作業の指導の要請があった。

（2）旧警戒区域の資料への対応

ア　レスキュー作業の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）が中心となって行った（打ち合せ・幹事会など8回実施）。文化庁、文化財防災ネットワーク推進本部の支援指導を受けた。

イ　旧警戒区域内の学校資料の梱包・搬出作業

「救援本部」の計画にしたがって、双葉高校の収蔵資料の線量計測・記録・梱包・搬出、一時保管場所への搬入作業に参加。

9月に現況調査（1回）、10月・1月に搬出作業を2回実施した。

ウ　保管施設の環境調査

旧警戒区域から運び出された資料の一時保管場所となっている旧相馬女子高校教室の環境調査を当館保存担当職員が中心となって実施した。8回（のべ15日）。調査項目は、温湿度、ガス濃度（酢酸、ホルムアルデヒド、アンモニア）、文化財害虫。また、前年度に救出された資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査にも協力した（1回）。

エ　その他の資料・文化財への対応

旧警戒区域が再編され、部分的に立ち入りが可能になった地域には震災後から取り残されたままの文化財・資料があり、それらへの対応について個別に協力を要請されることがあった。対応のしかたは、以下の通りケースに応じてさまざまであった。

（ア）南相馬市神社資料

南相馬市小高区の神社の絵馬殿にある和船模型・絵馬（県指定）などを、管理上の問題から、旧相馬女子高校へ搬送した（6月）。

（イ）南相馬市個人所蔵資料

南相馬市小高区の個人宅の蔵の解体撤去に伴い、近代資料などを搬出した（2月）。資料は南相馬市博物館が受け入れ、クリーニング・整理などが行われる予定。

（ウ）双葉町寺院資料

仏堂内の資料の現況調査等を行い、搬出のための計画を立てた（7月）。

（エ）浪江町文化財調査への協力

浪江町が実施する文化財等の所在確認調査に同行して、調査に協力した（2月）。

（3）資料の展示公開ほか

ア　展示公開

（ア）当館テーマ展「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」（平成25年度～平成26年5月11日）

（イ）当館テーマ展「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」（6月17日～平成27年5月10日）

（ウ）当館テーマ展「相馬家の婚礼道具　南相馬市同慶寺所蔵の漆工品」（7月19日～8月24日）

イ　研修会

10月2日～3日に福島県博物館連絡協議会・日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会合同の研修会「東日本大震災後の福島県の文化施設」が開催された（会場：福島県立博物館・福島県文化財センター白河館）

2　ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

（1）玄如節と会津の民謡

ア　日時　平成26年6月14日(土)13時30分～15時

イ　会場　福島県立博物館　講堂

ウ　参加者数　62人

エ　出演　玄如節顕彰会の皆さん

オ　内容

玄如節は、即興の掛合で歌うことを基本とする　会津の民謡の源流で、民謡「会津磐梯山」の歌詞のもとにもなっている。今回のイベントでは、会津の民謡をはじめ、相馬地方や東北地方各地の民謡を公演した後、玄如節に合わせ踊りを行い、東日本大震災からの復興を祈念した内容である。

（2）市民盆踊り

ア　日時　平成26年8月15日(金)19時～20時30分

※博物館閉館後

イ　会場　福島県立博物館　玄関前庭

ウ　参加者数　300人

エ　共　催　会津磐梯山盆踊り保存会

オ　内　容

博物館前に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

（3）夏休みナイトミュージアム

ア　日　時　平成26年8月23日(土)17時30分～19時

イ　会　場　福島県立博物館企画展示室・講堂

ウ　参加者数　60人

エ　講　師　当館学芸員　相田優・船尾武彦・竹谷陽二郎

オ　内　容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。定員制で実施しているが、より多くの方たちに参加していただける内容を検討したい。

（4）クリスマスジャズライブ

ア　日時　平成26年12月20日(土)13時30分～15時

イ　会場　福島県立博物館エントランスホール

ウ　参加者数　145人

エ　出演　芳賀トリオ feat.ナルミ

オ　内容

会津若松市を中心に活動する、結成25年のジャズバンドによるクリスマスライブ。美しい歌声と軽快な演奏で会場を盛り上げていただいた。

3　復興応援パートナー事業

平成24年度に立ち上げた「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」の3つの目標のうち、下記を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

3．被災者支援のための文化的事業の開催

（1）被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催

（2）各種団体が企画する支援文化事業の受け入れお

よび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島の復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらを享受する機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも目的とする。

◉復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	日時	会場
1	ふくしま復興への思いを込めて２０１５ from 会津	会津地方振興局	３月７日（土）	講堂 体験学習室 エントランスホール
2	子どもの本まつり in 福島	なかがわちひろ・工藤直子	３月22日（日）	講堂

4　はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興に取り組む福島県において文化事業に携わる大学・ＮＰＯ・博物館などが参加する実行委員会により運営する。自らの文化力を高め、郷土への誇りと自信を回復し、さらに、福島県の文化状況を広く県内外に発信することで日本の文化発展にも寄与しようとする。福島県内の文化施設、公共スペースを活用しつつ、展覧会、滞在制作、フォーラム、ワークショップ等を実施し、県を横断する文化ネットワークの構築を目指す。福島の文化を再発見し、伝えること。新たに創造すること。福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。そのために、2014年度は9プロジェクトを実施した。

ア 主催　はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体（南相馬市博物館・福島大学芸術による地域創造研究所・いいたてまでいの会・NPO まちづくり喜多方・南相馬市国際交流協会・南相馬市市民活動サポートセンター・特定非営利活動法人西会津ローカルフレンズ・福島県立博物館）

イ 助成　文化庁平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

ウ 事業内容

（1）福島祭創造プロジェクト

・南相馬祭り創造プロジェクト

アーティスト：開発好明

主な活動場所：南相馬市

うままままつり

会　期：2014年11月15日（土）～11月16日（日）10:00～16:00

＊15日はドキュメンタリー映画上映のみ20:00まで

会　場：朝日座（南相馬市）

出　演：坂本頼光（活動写真弁士）、大口俊輔（作曲・ピアノ）、小林武文（作曲・パーカッション）、鈴木広志（作曲・サキソフォーン）、江口良子（サキソフォーン）、開発好明（ディレクション・ワークショップ講師）

共　催：筑波大学創造的復興プロジェクト

後　援：南相馬市、南相馬市教育委員会

協　力：朝日座を楽しむ会、南相馬市市民活動サポートセンター、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

趣　旨

福島県を代表する伝統行事の相馬野馬追は南相馬市の人々の誇りである。郷土の誇りである「馬」に親しめる祭りを創出することを目的に、震災直後から被災地各地でアートサポートを重ねたコミュニケーションアーティスト開発好明氏の提案から「うままままつり」は始まった。会場の「朝日座」は大正12年開館し大衆娯楽の殿堂として親しまれた同館は震災後、数多くのイベントを開催し地域の文化拠点に成長している。本事業は朝日座を守る会の全面的な協力を得て、開発氏のディレクションにより、活弁を交えた無声映画、筑波大学創造的復興プロジェクト制作の「いわきノート」など震災の記憶を映像化した作品を上映した。ロビーでは南相馬市内の仮設住宅の方々が日々制作している手作りの品々を陳列、南相馬市有志の方のワークショップ参加もあった。隣設の駐車場では南相馬市の野馬追関係者から二頭の馬をお借りし、子供たちを対象に乗馬体験、開発氏ののぼり旗制作ワークショップを行なった。また慶応大学加藤文俊氏のコミュニケーションワークショップ「カレーキャラバン」も加わり会場に賑わいを添えた。

開催にあたっては開発氏と実行委員会、地域のアート支援者・幼稚園教諭・市民団体・仮設住宅の方々・牧場経営者など南相馬市民との対話を重ねた。

南相馬市鹿島区北屋形の神楽再興をサポートする事業は3年目となり、祭礼での神楽奉納を継続する当初の目的を達成しつつある。昨年度は北屋形の方々と神楽再興を果たし今年度は永続的な神楽継承の視点で地域の方々とミーティングを行い、開発氏が制作した発泡スチロール製獅子頭に本格的漆塗装を施した。今後は北屋形地区外での公演も話題に上がっている。

・飯舘村田植え踊り再興プロジェクト

アーティスト：小野良昌

主な活動場所：福島市、飯舘村

田植え踊り境野家公演

日　時：2014年12月11日（木）14：55～15：45

会　場：境野邸（福島市飯野町）

踊り指導・伴奏：飯舘村飯樋町田植え踊り保存会の皆さん

着付け協力：飯舘村飯樋町の皆さん

協　力：いいたてまでいの会
構成協力：小林由佳（振付師・ダンサー）、服部晴子（振付師・ダンサー）
撮影協力：木下裕子
撮　影：小野良昌
趣　旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放射能汚染により全村避難となった飯舘村では時間の経過とともに避難先での文化の継承が危惧される。これに対し飯舘村立飯舘中学校では2013年からふるさと学習に取組み、1年生は田植踊り、2年生は昔話、3年生は食文化を学んでいる。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、2013年度から引き続き、1年生の田植え踊り学習の映像記録と、田植え踊りの本来の意義を子どもたちが理解・体験することを目的に中学校が仮移転している福島市飯野町の古民家での公演を支援した。

（2）福島写真美術館プロジェクト

・南相馬環境記録プロジェクト
アーティスト： 片桐功敦
主な活動場所： 南相馬市、相双地区
・福島環境記録プロジェクト
アーティスト： 赤阪友昭
主な活動場所： 三島町、伊達市、南相馬市、相双地区
・南相馬住まいの記憶プロジェクト
アーティスト： 安田佐智種
主な活動場所： 南相馬市、相双地区
・福島の水源をたどるプロジェクト
アーティスト： 本郷毅史
主な活動場所： 西郷村
・福島写真美術館プロジェクト成果展いわき
会　期：2014年11月1日（土）～11月29日（日）
会　場：もりたか屋（いわき市）
・トークセッション「福島・写真・記録」
日　時：2014年11月29日（日）13:30～15:00
会　場：もりたか屋（いわき市）
講　師：安田佐智種、本郷毅史
モデレーター：赤坂憲雄
・福島写真美術館プロジェクト成果展福島
会　期：2014年12月6日（土）～12月21日（日）
会　場：ふくしまキッチンガーデンビル2階（福島市）
・フォーラム「福島で撮る」
日　時：2014年12月20日（土）13:30～16:30
会　場：ふくしまキッチンガーデンビル2階（福島市）
基調講演「福島写真美術館の可能性」
講　師：飯沢耕太郎（写真評論家）
ディスカッション「福島で撮る」
講　師：赤阪友昭、片桐功敦、野口勝宏（写真家）、小原一真（フォトジャーナリスト）
モデレーター：飯沢耕太郎（写真評論家）
趣　旨

東日本大震災後、写真はいち早く芸術表現の諸分野の中で成果を上げた。その可能性への信頼・期待から始まった本プロジェクトの2014年度は、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地である南相馬市、浪江町、奥会津地方の三島町、福島県を貫流する阿武隈川の源流がある西郷村で撮影、制作が行われた。華道家・片桐功敦氏は鎮魂と慰霊の祈りを込めて活けた被災地の草花を記録、写真家・赤阪友昭氏は県内の自然環境の多様性を野生動物の視点を交えて探り、アーティスト・安田佐智種氏は流出家屋の基礎に残る記憶の気配を微細に追い、写真家・本郷毅史氏は人の命の源である水の流れの源流を訪ねた。

いわき市、福島市で成果展を開催。会期中にいわき市会場では赤坂憲雄実行委員会委員長と参加作家の安田佐智種氏、本郷毅史氏の鼎談、福島市会場では、参加作家の赤阪友昭氏、片桐功敦氏に加え、郡山で活動する写真家・野口勝宏氏、フォトジャーナリスト・小原一真氏と写真評論家・飯沢耕太郎氏をお招きしてのフォーラムを開催した。

（3）岡部昌生フロッタージュプロジェクト

アーティスト：岡部昌生
主な活動場所：南相馬市、飯舘村、大熊町、石川町
・札幌ラウンドテーブル　札幌で語る＜近代＞
日　時：2014年9月13日（土）13:30～16:30
会　場：札幌市資料館（札幌市）
講　師：岡部昌生、港千尋（多摩美術大学教授・写真家）、管啓次郎（明治大学大学院教授・詩人）
ゲスト：佐藤友哉（札幌芸術の森美術館長）
報告者：二上文彦（南相馬市博物館学芸員）
・奔別トークセッション　北海道/福島・炭鉱/アート
日　時：2014年9月14日（日）13:00～16:00
会　場：旧住友奔別炭鉱選炭施設石炭積出ホッパー作品展示会場（三笠市）
講　師：岡部昌生、渡邊晃一（福島大学教授・美術家）
ゲスト：港千尋（多摩美術大学教授・写真家）、管啓次郎（明治大学大学院教授・詩人）、吉岡宏高（NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長）
趣　旨

南相馬市を中心に、アーティスト岡部昌生がフロッタージュ作品の制作と地域のリサーチ、地域住民、イベント参加者との対話を通して東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所災害の記憶をとどめ、さらに南相馬、周辺地域の有史以前の歴史にも触れる。

2014年度は南相馬市から大熊町、飯舘村、石川町へ活動範囲を拡げた。大熊町では同町教育委員会とともに行動し限られた活動時間の中での効率的な制作に努めた。飯舘村では同村の歴史研究者の協力、指導を得て石造文化財を中心にフロッタージュ作品を制作した。また、昨年の広島市に続き9月13日には北海道札幌市で札幌国際芸術祭連携事業として管啓次郎氏、港千尋氏らを招きラウンドテーブル、翌14日

には三笠市の旧住友奔別炭鉱で吉岡宏高氏らを加えトークセッションを行った。近代を支える産炭地としての北海道の歴史に石炭と電力の供給地であった福島の近現代を重ねる対話が繰り広げられ、福島を開発とエネルギーの視点から横断する視野が定まった。

その後、大熊町、石川町で第二次リサーチ、制作を実施。大熊町では同町教育委員会、地域史研究団体「ふるさと塾」、石川町では石川町立歴史民俗資料館の指導・協力のもと近代の製炭試験場、鉱物採掘場跡地をリサーチ、フロッタージュ作品を制作した。2月にはこれまでの制作作品の撮影、目録化を行った。

（4）「黒塚」発信プロジェクト

アーティスト：渡邊晃一

ゲストアーティスト：平山素子、高明

主な活動場所： 福島市、二本松市、浪江町

・「黒と朱」完成上映会＋トークセッション「黒塚」

日　時：2014年11月29日（土）17:00～19:00

会　場：ポレポレいわき（いわき市）

講　師：渡邊晃一、平山素子、高明

モデレーター：赤坂憲雄

・「黒と朱」完成上映会＋トークセッション「黒塚」

日　時：2015年2月28日（土）18:00～20:00

会　場：フォーラム福島（福島市）

講　師：平山素子、高明

モデレーター：渡邊晃一

趣　旨

福島大学渡邊晃一教授の提唱で始まったふくしまダンスプロジェクト「安達ヶ原」は、2014年度「黒塚」発信プロジェクトとして継続した。福島発の文化発信を目的とした本プロジェクトは、舞台公演までには多くの課題を残しているが、本年度は映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を制作し、黒塚をテーマとした公演に向け一歩を踏みだした。昨年度取り組んだ「黒塚」理解のためのフォーラムの成果を活かし、コンテンポラリーダンサー・平山素子氏主演、高明監督による映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を福島県二本松市にある黒塚ゆかりの地・観世寺、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地浪江町、南相馬市、福島大学構内で撮影した。映像作品完成記念上映会をいわき市、福島市で開催。平山素子氏・渡邊晃一氏・高明氏・赤坂憲雄実行委員会委員長によるトークセッションを合わせて行なった。

（5）精神の〈北〉へプロジェクト

アーティスト： 丸山芳子

ゲストアーティスト：小野良昌、千葉奈穂子

主な活動場所： 喜多方市、会津若松市、昭和村

・あなたにとって、精神の＜北＞とは【展示】

日　時：2014年9月6日（土）～7日（日）

会　場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）

入場料：無料

・あなたにとって、精神の＜北＞とは【フリートーク】

日　時：2014年9月6日（土）16：30～18：30

会　場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）

講　師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子

・あなたにとって、精神の＜北＞とは【トークセッション】

日　時：2014年9月7日（日）14：00～16：00

会　場：東町蔵屋敷会陽館（喜多方市）

講　師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子

ゲスト：菅家博昭（専業農家）、長谷川浩（早稲谷大学主宰）、山中雄志（文学博士）

・シンポジウム　北の美と魂

日　時：2015年2月1日（日）13：00～15：30

会　場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）

講師：山内宏泰（リアス・アーク美術館学芸係長）、山内明美（大正大学特命准教授）

趣　旨

喜多方市を中心に会津地方のメンバーで構成される精神の〈北〉へ実行委員会との共働、連携で実施。2014年度は、小野良昌（写真家）・千葉菜穂子（美術家）・丸山芳子（美術家）各氏が昭和村・喜多方市山都で同地を拠点に活動する農業研究者・地域史研究者の長谷川浩氏・山中雄志氏・菅家博昭氏と地域のリサーチを行なった。その成果をアーティストと研究者の対話形式のトークセッションで報告し、一般に公開した。また、東北の精神性、歴史を考えるシンポジウム「北の美と魂」を開催、気仙沼リアス・アーク美術館学芸係長の山内宏泰氏、大正大学特命准教授の山内明美氏をお招きし、実行委員会委員他一般参加者が参加して対話を行った。

（6）飯舘村の歴史・暮らし記録プロジェクト

主な活動場所： 福島市、飯舘村

・いいたてミュージアム巡回展東京

会　期：2014年12月10日（水）～12月17日（水）※14日（日）休

会　場：法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階メディアラウンジ（千代田区）

入場料：無料

主　催：いいたてまでいの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、法政大学国際文化学部

・いいたてミュージアム巡回展神戸

会　期：2015年1月10日（土）～1月15日（木）※13日（火）休

会　場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO（神戸市）

入場料：無料

主　催：いいたてまでいの会、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

・いいたてミュージアム巡回展京都

会　期：2015年1月24日（土）～1月28日（水）

会　場：京都造形芸術大学瓜生館1F（京都市）

入場料：無料

主　催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、いいたてまでいの会
協　力：京都造形芸術大学文明哲学研究所
趣　旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放射能汚染により全村避難となった飯舘村。住民が土地を離れなければならない現状において、地域の歴史・文化をどのように記録、継承するか。時間の経過とともに困難になるその課題への解決策として、本プロジェクトでは飯舘村への支援活動を続けているいいたてまでいの会と連携しながら村民への聞き書きと資料収集を行った。今年度は、活動成果を、いいたてまでいの会、開催地各団体の共働により「いいたてミュージアム巡回展」として東京の法政大学（主催：法政大学国際文化学部、いいたてまでいの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト）、神戸のデザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO（主催：いいたてまでいの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会）、京都の京都造形芸術大学瓜生館（主催：いいたてまでいの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、協力：京都造形芸術大学文明哲学研究所）で展示した。東京、神戸では飯舘村民による飯舘村の現状を伝える講演会も開催した。

（7）福島祝いの膳プロジェクト

アーティスト： 中山晴奈
主な活動場所： 南相馬市、いわき市、伊達市、福島市、西会津町、喜多方市など
第2回グランド・ラウンドテーブル第3部福島祝い膳
基調講演「福島祝い膳」＋福島祝いの膳プロジェクト展示解説
日　時：2015年2月14日（土）17：30～18：15
会　場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）

祝いの席のために用意される食文化には、各地域の人々の願い、裏返せば地域の課題が内包されている。郷土料理、特産品の PR とは異なる、食を通しての地域文化の掘り起こしをフードデザイナーの中山晴奈氏と諸団体、研究者、博物館との共働で進めている。広い福島県全域の調査にはなお時間が必要だが、2014 年度はいわき市・南相馬市・福島市・伊達市・喜多方市・西会津町でリサーチを行なった。海産物、神社に奉納する酒粕料理、薬用植物、流通に乗らない地野菜、山菜の保存方法、麩などの保存食、柿や豆の加工品等を調査した。リサーチ結果は、親しみやすい新聞サイズの印刷物にまとめ、各地で集めた食材を第2回グランド・ラウンドテーブルの際に展示し、成果報告会を行なった。総括として開催した南相馬フォーラム「南相馬からの福島発信」は、長時間の連続講演とセッションであったが各プロジェクト担当者と一般参加者が交流する機会ともなり、フロアセッションでは南相馬市長はじめ約 40 名が参加して活発な対話が行なわれた。南相馬市での本事業の広報に大きな効果があった。

（8）夢の力プロジェクト

・豊間ことばの学校

ゲストアーティスト：吉田重信、新井英夫、千葉清藍、玉井夕海
会　場：いわき市立豊間小学校
・虹をつくろう、虹を描いて名前をつけよう
日　時：6月6日（木）14：30～16：00
講　師：吉田重信
・●●を体で表現しよう
日　時：6月13日（木）、6月20日（木）14：30～16：00
講　師：新井英夫
・心の一文字
日　時：6月27日（木）、10月24日（木）14：30～16：00
講　師：千葉清藍
・自分のテーマソングを作ろう
日　時：9月26日（木）、10月10日（木）、10月31日（木）14：30～16：00
講　師：玉井夕海
趣　旨

豊間地区は、東日本大震災の津波被害が甚大で、東京電力福島第一原子力発電所事故による影響も受けた。過酷な経験を記憶に抱えながら暮らす生徒たちの心の成長を促し、表現力と創造力を身につけるために、生徒たちの「ことば」での表現力、他者の「ことば」を理解し、共有する能力を向上させてほしいという豊間小学校の教員、ＰＴＡの要望から「豊間ことばの学校」はスタートした。4人の表現者を講師に迎えた全8回のワークショップ形式の授業では、1年生から6年生までの幅広い学年の参加生徒たちが、「ことば」を創造する楽しみを共有・実感した。

・好間土曜学校―アートな自然―

アーティスト：吉田重信
ゲストアーティスト：なにわホネホネ団、佐藤香、君平、城戸みゆき、小田隆
主な活動場所：いわき市
・ぐるぐるアンモナイト
日　時：9月13日（土）9：30～11：30
講　師：なにわホネホネ団
・光の鳥ワークショップ
日　時：10月4日（土）9：30～11：30
講　師：吉田重信
・どろんこアート～土ってどんな色？～
日　時：11月1日（土）9：30～12：30
講　師：佐藤香
・小さな命を観察して、樹脂粘土でつくろう
日　時：12月26日（金）9：30～12：30
講　師：君平
・森をみつけにいこう
日　時：2015年1月17日（土）9：30～12：30
講　師：城戸みゆき

・恐竜の頭の骨の絵から生きてる姿を考えよう
日　時：2015年2月7日（土）9：30～12：30
講　師：小田隆
趣　旨
いわき市立好間第一小学校で行った「好間土曜学校」は、参加生徒に「自然の素晴らしさ」「生命の尊さ」を体感してもらうことを目的に開催。2014年9月から2015年2月まで、毎月1回土曜日に自由参加、体験型の学校という位置づけで実施した。講師を依頼した5名1組の美術家は、それぞれの表現手法によって、いわきのアンモナイトの形、太陽の光と影、いわきの土の色、微生物の形、森の造形、恐竜の骨格などをテーマに造形ワークショップを行なった。

・ARDA南相馬ワークショッププロジェクト

企画運営・実施：認定NPO 芸術資源開発機構（ARDA）
主な活動場所： 南相馬市
ワークショップ　ろくぶて一族の冒険
日　時：10月20（月）、10月21（火）9：40～11：00、10月22（水）9：10～10：30
会　場：南相馬市立大甕幼稚園
趣　旨
東日本大震災直後から、アートワークショップを通して被災地の支援を行っているARDA。震災後数年間を経て、福島県の子どもたちが抱える心の問題に取り組むべく南相馬市の幼稚園でのワークショップを実施。子どもたちの表現力を育み、福島が抱える課題に向き合うことを企図した。

・福島てわざ復興プロジェクト

主な活動場所：喜多方市
趣　旨
東日本大震災後、避難者の新しいコミュニケーションの構築がものづくりを通して試みられている。本プロジェクトではてわざ復興から将来像を描けるようなトークイベントの開催を企画。第2回グランド・ラウンドテーブルのテーマのひとつに「ものづくり」を掲げて実施した。

（9）はま・なか・あいづグランド・ラウンドテーブル

・第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」

日　時：12月27日（土）13：30～19：00／12月28日（日）10：00～15：30
会　場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）
講　師：平田オリザ（劇作家・演出家）、相馬千秋（アートプロデューサー）、いしいみちこ（ドラマティーチャー）、小沢剛（アーティスト）、やなぎみわ（アーティスト）、小畑瓊子（朝日座を楽しむ会代表）、三澤真也（大宴会 in 南会津実行委員会委員）、島崎圭介（NPO法人 Wunder ground代表）、佐藤雅通（福島県立大沼高校演劇部顧問）、篠田直子（喜多方発21世紀シアター実行委員会事務局長）
モデレーター：赤坂憲雄

・第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」

日　時：2015年2月14日（土）13：30～19：15／2月15日（日）10：00～15：00
会　場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）
講　師：鞍田崇（哲学者）、中山晴奈（フードアーティスト）、舟木由貴子・渡辺悦子（渡し舟主宰）、菅家藤一（間方生活工芸技術保存会会長）、庄司ヤウ子（會空代表）、遠藤由美子（会津自然エネルギー機構理事）、木村正晃（野菜ソムリエ・料理研究家）、長谷川浩（早稲谷大学主宰・福島大学うつくしま未来支援センター特別研究員）、佐々木長生（福島県立博物館専門員）、
モデレーター：赤坂憲雄
趣　旨
グランド・ラウンドテーブルは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014の事業報告、発信、そして福島県内で震災後に行われている文化活動の情報共有を目的に開催。
第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」では、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの新たな領域に演劇を据え、近年福島において展開されてきた多様な活動を共有し、その成果を振り返るとともに、未来に向けた対話の場を設けた。基調講演者・モデレーターに平田オリザ氏・相馬千秋氏を迎え、総合司会を赤坂憲雄実行委員長が勤めた。報告者はアーティスト小沢剛氏・やなぎみわ氏の他、福島県内でさまざまな演劇に関する活動に携わっている6名を加え計11名。ほぼ満員の会場で二日間、4部11時間に及ぶ対話が行なわれた。
2013年度に実施した「福島てわざ復興プロジェクト」では、被災者の心の復興、社会参加にものづくりが有効であることが確認された。本年度は「ものづくり」の「もの」の幅を工芸から食さらにエネルギーまで拡張し、さらに「ものづくり」に関わる歴史・精神史に触れる機会として第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」を開催した。同時に「福島祝い膳」の再現展示・展示解説を行なった。明治大学教授鞍田崇氏・フードアーティスト中山晴奈氏を基調講演講師に、その他福島県内外で行なわれているさまざまなものづくりの実践者・研究者を報告者に招き、二日間6部11時間にわたる自由な対話を通して福島における新たな「ものづくり」を考える場となった。

（その他）記録集

『はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014記録集』は、多岐にわたる本事業の内容が一目で見渡せる体裁で、本事業への協力者、参加者の理解が深まった。また今後の展開にあたって個人・団体に理解・協力を求める際に有効な説明資料となる。

5　震災遺産保全プロジェクト

東北地方太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴

史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みである。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の４つの事業を実施した。

1．検討会議　検討会議を３回開催し、事業計画及び成果と課題について検討を加えた。

2．普及事業　本プロジェクトの趣旨と活動の紹介に加え、震災遺産への関心喚起を目的に、県内３会場（南相馬市博物館・福島県立博物館・いわき市田人地区）にて震災遺産展示会・報告会・講演会・見学会を開催した。

3．調査事業　福島県浜通り地域を中心とする８自治体で震災遺産の所在調査を行った。資料の来歴を確認し、資料の背景や意味合いを理解するための聞き取り調査も当事者の協力を得て行った。調査記録はカード化し、併せてリストとマップを作成した。また事業の参考とするため、先進事例として三陸地方と中越地方の震災遺産保全の取り組みについて調査を実施した。

4．資料の収集・整理事業　放射線量を計測し基準値以下の値を示した震災遺産（約 100 点）を収集し、搬送後に燻蒸も実施した。震災遺構については東北大学と連携し３D 計測を実施した。また富岡町所在の津波被災パトカーは町民と共に現地保全に取り組んだ。

事業の成果について以下にまとめる。

1　実行委員会を広域的かつ多様な立場の人員で構成したことで、多視点の考え方や情報の共有が図られ、被災地域ごとの事情に応じた交渉や対応を進めることができた。単独館では、急速に復興事業が進展状況下での事業展開は難しく、本事業は連携組織を設置し広域的な課題に取り組む新たな機能を博物館に備える一つのモデルケースと位置付けられる。

2　普及事業には３会場で延べ 450 人程の参加者があり、関心の高さが窺われる。宮城県や東京都からの参加もあった。未だ震災の爪痕が多く残る段階で普及事業を開催することに、どんな反応があるのか不安もあったが、アンケートでの集計や会場での感想を聞くと、「悲しみ」の記憶が再生されたとの声と同時に、事業については意義深いとの回答が多くあり、本事業について一定の理解を得ることができたものと受け止めている。また南相馬市の避難所が開設された新潟県長岡市から講師を招聘して講演会を行い、同時に資料を借受けて展示したことで、震災遺産の多様性（被災地だけに資料があるのではない）を示したことも意義がある。なお普及事業を契機に今後長岡市と南相馬市の交流事業が具体化する動きがあり、これも事業の成果と言える。活断層に関する講座もいわき市および地域の振興協議会と連携して実施し、「負の遺産」を地域の財産として位置づけ活用していくための一歩となった。

3　調査は本事業の基幹をなしている。今回の調査手法で効果的だったのは聞き取り調査である。全町避難による住民不在という制限があるため件数は多くないが、震災遺産の歴史資料としての位置付けや掘り下げ、予断による資料理解の回避に有効である。例えば、浪江町の新聞販売店では店舗の沿革や日常業務の内容を聞き取り、その後震災当日の状況、そして避難から現在に至る経緯について記録した。これにより震災が物理的に物を破壊するのみでなく、日常の生活（仕事や学校生活など）と言った無形の、繰り返される日々の暮らしを断絶させたことを浮き彫りにすることができた。また聞き取りを行うことで意義を見出し新たに収集するに至った資料も存在する。

4　先進地視察では、震災遺産の保全の手法や震災を伝える各施設の状況を調査したが、すでに述べたように広域的な組織で取り組んでいる事例が少なく、本プロジェクトの取り組みの特性が明確になった。なお長岡市の震災遺産の取組を調査したことが、先の普及事業の開催に繋がっている。

5　県内では、いわゆる震災遺構の保存についての議論が他県と比べ低調である。おそらくそれは全町避難などによる住民不在も一つの要因と考えられる。その一方で復旧・復興事業による震災痕跡の消失が進み、震災遺構についても多く失われる状況にある。こうした現状に対しいわゆる記録保存の措置として、三次元レーザー測量や全天球撮影機での記録保存を新たな取り組みとして実施した。前者については６施設で計測を実施した。レーザー計測事業を紹介した自治体の中には、事業の意義を認め、独自に被災建造物の計測事業の準備を進めている所もある。全天球撮影動画は富岡町の Facebook に一部提供し、多くの閲覧実績がある。デジタルツールの情報発信の効果を示している。

6　今年度保全した震災遺産の中で、富岡町の津波被災パトカー保全は、町民有志・関係機関と本プロジェクトの意向が一致し取り組んだものになる。パトカーの除砂・洗浄・防錆剤の塗布等、作業は困難を極めたが、震災を未来に伝えるという強い意志の元、多様な階層の方々と共同して作業を行えたこと自体も将来に伝えるべき事例と言えよう。

7　「震災遺産」という言葉はまだ新しく、用語としては「震災遺構」が一般的であり、広く普及しているのが実際である。本プロジェクトでは不動産的な「遺構」と動産的な「資料（遺物）」も震災を伝えるツールとしては同等・同格のものとし、これらを包括する概念として「震災遺産」を使用している。年度の後半から、プロジェクトの活動が報道機関に取り上げられることが多くなっていく中で、初めは「遺構」と「遺物」を明確に区別できていない報道もあったが、次第に「震災遺産」を用いる例が多くなり、活動の理解と認知が浸透してきたことの現れと理解している。

第７節　平成26年度行事

（１）木曜の広場

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「はじまりの東北学」１	赤坂憲雄	館長	４月17日（木）	95
「はじまりの東北学」２	赤坂憲雄	館長	５月15日（木）	125
「はじまりの東北学」３	赤坂憲雄	館長	６月19日（木）	112
「はじまりの東北学」４	赤坂憲雄	館長	７月17日（木）	110
「はじまりの東北学」５	赤坂憲雄	館長	８月22日（木）	121
「はじまりの東北学」６	赤坂憲雄	館長	９月18日（木）	104
「はじまりの東北学」７	赤坂憲雄	館長	10月16日（木）	95
「はじまりの東北学」８	赤坂憲雄	館長	11月20日（木）	98
「はじまりの東北学」９	赤坂憲雄	館長	12月18日（木）	70
「はじまりの東北学」10『特集　博物館の未来を語る』「地域に種蒔く博物館～博物館発アートプロジェクトの実践～」	赤坂憲雄	館長	１月15日（木）	88
「はじまりの東北学」11『特集　博物館の未来を語る』「再生！ふくしまの自然～被災した動植物の調査をふまえて～」	赤坂憲雄	館長	２月26日（木）	110
「はじまりの東北学」12『特集　博物館の未来を語る』「震災をどう未来に伝えるか～ふくしま震災遺産保全プロジェクト～」	赤坂憲雄	館長	３月26日（木）	121

（２）考古学講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
実技講座「土器作り１」	森　幸彦	学芸員	８月２日（土）	20
実技講座「土器作り２」	森　幸彦	学芸員	８月３日（日）	20
考古学講座「土器の野焼き」	森　幸彦	学芸員	９月28日（日）	20
考古学最前線「みちのくの弥生水田」	田中　敏	学芸員	７月12日（土）	16
考古学最前線「新発見！最北の短甲～中島村四歩穂田古墳」	高橋　満	学芸員	9月14日(土)	75
考古学最前線「ふくしまの古代交通路」	荒木　隆	学芸員	10月11日（土）	60
実技講座「古墳の壁画を描いてみよう」	荒木　隆	学芸員	10月25日（土）	6
考古学最前線「Salon de Jomon」	森　幸彦	学芸員	１月10日（土）	20
実技講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋　満	学芸員	３月29日（土）	20
考古学最前線「Salon de Archaeology」	藤原妃敏	学芸課長	３月22日（日）	25

（３）民俗講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「ふくしまの農の神さま」	佐々木長生	専門員	12月13日（土）	32
「サイノカミ～会津の小正月行事～」	二瓶浩伸	学芸員	１月24日（土）	32
「わら人形の信仰と行事」	大里正樹	学芸員	２月14日（土）	35
民俗特別講演会「佐々木長生学芸員半生（反省？）を語る	佐々木長生	専門員	３月１日（日）	207
「ひな行事～流し雛と吊るし雛～」	内山大介	学芸員	３月14日（土）	33

（４）歴史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
「歴史の中の遊び１　あそびと馬」	田中伸一	学芸員	２月７日（土）	30
「歴史の中の遊び２　会津の板かるた」	阿部綾子	学芸員	２月21日（土）	65
「歴史の中の遊び３　戦国武将の嗜み」	高橋　充	学芸員	２月28日（土）	58

（５）自然史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	竹谷陽二郎	学芸員	９月６日（土）	35
実技講座「化石標本をつくろう」	相田　優	学芸員	９月７日（日）	35
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	野鳥研究家	11　月　16　日（日）	8

（６）保存科学講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館の裏側～保存科学の仕事をのぞこう～	杉崎佐保恵	学芸員	４月26日（土）	14

（７）ギャラリートーク

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」1	荒木　隆	学芸員	５月６日（火）	19
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」2	荒木　隆	学芸員	８月16日（土）	9
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」3	荒木　隆	学芸員	９月15日（月・祝）	11
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」4	荒木　隆	学芸員	11月３日（月・祝）	15
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会１	荒木　隆	学芸員	７月13日(日)	19
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会２	荒木　隆	学芸員	７月27日(日)	10
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会３	荒木　隆	学芸員	８月３日(日)	20
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会４	荒木　隆	学芸員	８月10日（日）	10
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会５	荒木　隆	学芸員	８月17日（日）	7
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会６	荒木　隆	学芸員	８月24日（日）	8
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会７	荒木　隆	学芸員	９月14日（日）	5
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会８	荒木　隆　み	学芸員	10月12日（日）	9
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会９	荒木　隆	学芸員	11月16日（日）	5
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会10	荒木　隆	学芸員	12月14日（日）	3
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪解説会11	荒木　隆	学芸員	１月11日（日）	6
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】	荒木　隆	学芸員	２月８日（日）	2

遺跡探訪解説会 12				
テーマ展ふるさとの考古資料５【富岡町】 遺跡探訪解説会 13	荒木　隆	学芸員	3月8日（日）	8

（８）指導者向け研修

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	田中伸一ほか	学芸員	７月 25 日（金）	7

（９）実技講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
小旗をつくろう	大野青峯 大野久子	伝統技術保持者	５月５日 （月・祝）	6
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓のそばザル作り」１	菅家藤一他	伝統技術保持者	７月５日（土）	15
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓のそばザル作り」２	菅家藤一他	伝統技術保持者	７月６日（日）	15

（10）実演

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	半谷みどり	大堀相馬焼窯元　休閑窯	６月 21 日（土）	20
昔語り	横山幸子	語り部	９月 13 日（土）	30
再現！縄文時代の編み組細工	佐々木由香	考古学研究者	１月 11 日（日）	30
テーマ展関連「かるた大会」	井上昌威ほか	会津かるた会	３月 28 日（土）	50

（11）企画展記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
写真展「東北-風土・人・くらし」記念講演会　飯沢耕太郎・赤坂憲雄対談「縄文の再生「東北-風土・人・くらし」展を巡って」	飯沢耕太郎 赤坂憲雄	写真評論家 館長	4月19日(土)	90
企画展「アイヌの工芸」ギャラリートーク	小野哲也ほか	標津町教委学芸員	7月19日(土)	50
企画展「アイヌの工芸」実演「アットゥシ織」	二風谷民芸組合のみなさん		７月 20 日（日）	94
企画展「アイヌの工芸」体験「アイヌ文様を刺繍しよう！」	二風谷民芸組合のみなさん		７月 20 日（日）	39
企画展「アイヌの工芸」体験「作って鳴らそう！アイヌの楽器・ムックリ」	二風谷民芸組合のみなさん		８月 17 日（日）	31
企画展「アイヌの工芸」映像とお話「アイヌとヒグマ」	田村将人 葛西真輔	札幌大学特任准教授 知床財団保護管理研究係主任	9月6日(土)	36
企画展「アイヌと工芸」ギャラリートーク	内山大介 阿部綾子	学芸員	9月15日 （月・祝）	42
企画展関連講座「酒田の傘福・会津のカサボコ」	内山大介	学芸員	11 月 22 日（土）	41
企画展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介	学芸員	11月23日(日)	25

	高橋　充			
企画展関連講座「東北各地の観音札所めぐり」	高橋　充	学芸員	12月11日（木）	65
企画展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介 高橋　充	学芸員	12月14日(日)	45
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会1	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	2月7日（土）	65
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会2	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	2月14日(土)	8
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会3	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	2月28日（土）	12
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会4	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	3月7日(土)	28
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」記念講演会	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	3月8日(日)	145
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会5	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	3月8日（日）	85
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会6	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	3月14日（土）	7
特集展「発掘ガール-郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡-」解説会7	會田容弘 郡山女子大学短期大学部学生	郡山女子大学短期大学部准教授	3月22日（日）	20

（12）ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
玄如節と会津の民謡	玄如節顕彰会		6月15日（日）	62
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会		8月15日(金)	300
夏休みナイトミュージアム	各分野学芸員	学芸員	8月23日(土)	60
クリスマスジャズライブ	Gt.芳賀秀樹 D.伊藤哲郎	芳賀トリオ feat.ナルミ	12月20日(土)	145

	B.高橋　修 Vo.ナルミ			

（13）共催事業

テーマ	主催	担当	期日	参加人数
「森のはこ舟アートプロジェクトキックオフフォーラム～いま、森とアートを語る～」トークセッション「森林文化の再生と未来について」・アーティストトーク「森のはこ舟に何を乗せるか」ほか	森のはこ舟アートプロジェクト（県文化振興課）	川延安直 小林めぐみ	6月21日(土)	150
「森のはこ舟アートプロジェクト放射能勉強会」	森のはこ舟アートプロジェクト（県文化振興課）	川延安直 小林めぐみ	7月29日（火）	20
中央大学学術講演会「縄文時代の地域間交流-東北・関東の遺跡調査から-」 講師：中央大学文学部教授小林謙一	中央大学	荒木隆	11月16日(日)	78
放散虫研究集会（研究会）	放散虫研究会	竹谷陽二郎	11月29日（土）	43
2014放散虫研究集会会津大会普及講演「ミクロな化石が語る地球環境の変遷」	放散虫研究会	竹谷陽二郎	11月30日（日）	45
東北地方民俗学合同研究会・日本民俗学会談話会（学会）	民俗	内山大介	12月6日（土）	102
「ふくしま復興への想いを込めて 2015 from 会津」	会津地方振興局	森　幸彦 二瓶浩伸	3月7日（土）	600
『震災資料を考える1会津セッション』講演会「震災遺産を残す意義」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	高橋　満 森　幸彦	3月15日（日）	238

（14）後援事業

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
会津蒲生氏郷顕彰会「蒲生氏郷ゆかりネットワーク」	新城猪之吉	会津蒲生氏郷顕彰会	9月22日（月）	56
会津史学会歴史文化講演会「地方史研究者へ贈ることば」	阿部隆一	歴史研究者	10月19日（日）	130
会津若松商工会議所女性会 レディース教養講座「ことばの力」	大沼えり子	作家・保護司	11月7日（金）	150
会津史談会公開文化講座「会津の和算」	船尾武彦	学芸員	11月27日（木）	78
子どもの本まつりin福島	なかがわちひろ 工藤直子	絵本作家	3月22日（日）	80

（※）企画展・特集展内覧会（友の会）

テーマ	分野	担当	期日	参加人数
写真展「東北－風土・人・くらし」	美術	川延安直	4月18日(金)	65
企画展「アイヌの工芸」	北海道大学アイ	佐々木利和	7月18日（金）	58

	ヌ・先住民研究センター員教授			
企画展「みちのくの観音さま～人に寄り添うみほとけ～」	歴史・民俗	高橋　充 内山大介	10月31日（金）	103
冬の特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査　14年の軌跡・」	郡山女子大学短期大学部准教授	會田容弘	2月7日（土）	66

第１７章　福島県自然の家

第１節　沿革及び所在地

１　沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも３番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県郡山少年自然の家」を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型２施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内４施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの３年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり４施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため。平成21年度から４施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他３施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

２　所在地

(1)　福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46
〒963－0213　ＴＥＬ 024－957－2111
ＦＡＸ 024－957－2112
ＵＲＬ http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/

(2)　福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495－1
〒969－6504　ＴＥＬ 0242－83－2480
ＦＡＸ 0242－83－2481
ＵＲＬ http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/

(3)　福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53
〒979－0335　ＴＥＬ 0246－32－7700
ＦＡＸ 0246－32－7730
ＵＲＬ http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/

第２節　教育目標及び基本的視点

１　教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

(1)　自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
(2)　集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
(3)　自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

２　基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

(1)　所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
(2)　利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
(3)　立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
(4)　民間の指導者の協力や高校生・大学生等のボランティアの受け入れを得るように努める。
(5)　現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第３節　各施設の利用者数

		平成26年度			延べ人数推移				
		団体数	利用人数	延べ人数	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
4月	郡　山	29	1,278	1,587	1,576	1,514	0	1,207	1,624
	会　津	17	1,006	1,155	2,906	2,484	0	1,216	1,140
	いわき	27	1,158	1,715	2,472	2,976	0	3,164	1,093
	計	73	3,442	4,457	6,954	6,974	0	5,587	3,857
5月	郡　山	32	997	1,352	2,427	1,824	0	1,428	1,215
	会　津	44	2,409	3,592	3,944	3,001	0	3,241	3,991
	いわき	33	1,485	1,647	7,949	6,668	0	3,030	2,781
	計	109	4,891	6,591	14,320	11,493	0	7,699	7,987
6月	郡　山	42	2,037	3,416	4,602	3,947	0	3,193	3,938
	会　津	58	2,608	5,109	6,162	4,661	0	5,853	6,172
	いわき	35	1,023	1,897	11,387	12,284	0	2,638	1,088
	計	135	5,668	10,422	22,151	20,892	0	11,684	11,198
7月	郡　山	49	1,861	3,045	4,327	4,798	338	2,234	2,982
	会　津	57	2,964	5,118	5,850	6,381	1,197	5,334	4,895
	いわき	62	2,853	4,985	12,204	11,575	0	5,709	3,733
	計	168	7,558	13,028	22,381	22,754	1,535	13,277	11,610
8月	郡　山	51	1,646	2,879	3,669	3,053	1,079	2,254	2,835
	会　津	74	3,024	5,377	4,752	5,204	3,436	4,710	2,853
	いわき	45	2,058	4,015	6,144	5,930	0	5,829	4,609
	計	170	6,728	12,271	14,565	14,187	4,515	12,793	10,297
9月	郡　山	54	4,518	6,166	4,732	4,442	3,591	4,200	4,406
	会　津	63	4,397	6,481	4,865	4,163	5,955	6,798	4,879
	いわき	43	4,493	5,842	10,839	11,560	0	891	3,051
	計	160	13,408	18,489	20,436	20,165	9,546	11,889	12,336
10月	郡　山	51	2,274	3,029	4,250	4,677	2,949	2,007	2,608
	会　津	72	3,628	5,064	4,133	4,577	4,664	5,559	4,153
	いわき	56	2,157	2,286	8,300	9,190	0	2,241	2,453
	計	179	8,059	10,379	16,683	18,444	7,613	9,807	9,214
11月	郡　山	37	1,270	1,442	1,180	1,199	1,112	1,266	1,525
	会　津	29	2,636	3,043	1,033	996	1,602	1,665	1,692
	いわき	44	1,691	2,018	3,461	2,038	509	730	1,388
	計	110	5,597	6,503	5,674	4,233	3,223	3,661	4,605
12月	郡　山	35	737	980	1,216	982	786	984	1,383
	会　津	11	360	559	990	746	604	658	800
	いわき	36	2,634	3,129	2,354	1,349	235	990	2,332
	計	82	3,731	4,668	4,560	3,077	1,625	2,632	4,515
1月	郡　山	32	747	895	620	575	796	668	1,008
	会　津	52	2,042	2,998	2,861	3,583	2,503	2,685	2,419
	いわき	33	1,421	1,832	899	1,243	2,717	1,089	1,670
	計	117	4,210	5,725	4,380	5,401	6,016	4,442	5,097
2月	郡　山	35	824	1,030	1,261	1,360	731	1,544	1,331
	会　津	33	1,437	1,751	4,749	4,002	2,540	2,464	1,916
	いわき	42	2,069	2,720	1,816	1,310	3,790	1,662	2,037
	計	110	4,330	5,501	7,826	6,672	7,061	5,670	5,284
3月	郡　山	39	851	1,050	1,531	90	903	937	1,253
	会　津	19	664	899	1,862	1,265	1,011	772	738
	いわき	44	1,572	2,342	1,780	488	4,574	2,161	3,088
	計	102	3,087	4,291	5,173	1,843	6,488	3,870	5,079
累計	郡　山	486	19,040	26,871	31,391	28,461	12,285	21,922	26,108
	会　津	529	27,175	41,146	44,107	41,063	23,512	40,955	35,648
	いわき	500	24,614	34,428	69,605	66,611	11,825	30,134	29,323
	合　計	1,515	70,829	102,445	145,103	136,135	47,622	93,011	91,079

福島県郡山自然の家

第１節　概要

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来42年が経過し、平成26年5月には、延べ利用者数が160万人に達した。

本施設は、郡山駅より約11km、郡山南インターより車で約8分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成20年度まで11年間、県内４つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成21年度から県直営としての運営形態に変わり６年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多種多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開してきた。

生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声にこたえるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の９割程度まで回復し、利用団体数４８６団体、延べ利用者数２６，８７１人となった。

1　職員組織

職員組織は、以下のとおりである。

職名	所長	次長	主査	主任指導主事	社会教育主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	2	0	6

2　平成26年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んできた。

(1)　利用団体への効果的な支援の充実

ア　団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、４月と７月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやアーチェリーなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

イ　社会教育団体の利用については、６月と７月に「社会教育団体利用指導者研修会」を実施し、施設見学や活動計画の調整などを行った。また、各団体代表者との電話連絡を密にし、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

ウ　職員の技能及び資質の向上を図るために、各種研修会に積極的に参加するなど、職員の研修に力を入れた。また、利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

(2)　特色ある企画事業の運営

ア　季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

イ　前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

ウ　利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

(3)　広報の充実と利用促進

ア　多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、管内小中校長会議において、より多くの学校に利用していただけるようＰＲ活動を行った。春と秋の年２回、県中管内小中学校長会議でのＰＲ活動、秋には県北管内小中学校長会議でのＰＲ活動を実施した。

イ　企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内１３カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

ウ　企画事業では、報道機関を通した周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、タウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多く

の方の参加につなげることができた。

エ　利用促進を図るため、平成 25 年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザッピークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。３８家族、１０９名が会員となった。

(4)　安全管理と保健安全指導の徹底

ア　「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

○食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底

○食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携

○スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検

○イカダ乗りの安全確保のための非常用浮き輪の設置と点検及び活動中の職員（引率者）の配置

○松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

イ　防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

(5)　施設・設備の整備

ア　利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面ソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用するフィールドアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

イ　館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示するなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

第２節　施設・設備の概要

1　所在地

〒963－0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

2　宿泊定員

○　本　館166名（14部屋）

○　ロッジ126名（9棟）

○　テント120名（20張）

3　敷地面積

○　237,587．59㎡

4　建物面積

○　延床面積　3,806.08㎡

・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）

・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

5　設備備品等

○　野外活動設備

・フィールドアドベンチャーコース

・アーチェリー場

・ナイトハイクコース

・スコアオリエンテーリングポスト(20)

・フィールドワークコース（赤・青）

・営火場(4 箇所)

○　その他

・野外炊飯用具

・天体望遠鏡

・インラインスケート

・フリスビーゴルフ

・そり

・液晶プロジェクター

・ピアノ

・各種クラフト用具

・伝承遊びセット

・双眼鏡

・グランドゴルフ

・マウンテンバイク

・ニュースポーツ用具

・インターネット接続大型液晶テレビ等

第３節　利用状況

郡山自然の家の利用者は、次のように大別される。

○　保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等の園児や児童生徒、学生及び引率者

○　スポーツ少年団、子ども会育成会、公民館、学校・学級PTA等の社会教育団体に所属する児童生徒及び引率者

○　家族等その他のグループ等

本年度の利用団体数は486団体、利用者数は、実利用者が19,040人、延べ利用者26,871人であり利用状況の詳細は、次のとおりである。

1　月別利用状況

月	種別 / 区分	学校教育団体						社会教育団体							
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者	ファミリー	企画事業	合計
4	団体数	3	0	0	0	0	2	7	1	4	0	4	8	29
	利用人員	71	0	0	0	0	170	233	14	77	0	24	689	1,278
	延人数	71	0	0	0	0	190	368	28	217	0	24	689	1,587
5	団体数	4	7	0	4	0	1	7	4	2	0	1	2	32
	利用人員	150	284	0	87	0	117	209	52	4	0	5	89	997
	延人数	150	566	0	87	0	117	251	83	4	0	5	89	1,352
6	団体数	1	19	0	2	2	0	8	2	6	0	0	2	42
	利用人員	27	1,076	0	65	42	0	517	7	253	0	0	50	2,037
	延人数	27	2,181	0	65	42	0	784	7	260	0	0	50	3,416
7	団体数	11	4	0	1	2	2	21	5	1	0	0	2	49
	利用人員	599	288	0	14	55	18	709	93	2	0	0	83	1,861
	延人数	1,043	527	0	14	110	18	1,082	166	2	0	0	83	3,045
8	団体数	2	2	0	0	0	3	34	4	4	0	2	1	51
	利用人員	51	218	0	0	0	46	1,145	94	53	0	18	21	1,646
	延人数	101	218	0	0	0	176	1,995	237	53	0	36	63	2,879
9	団体数	1	24	2	0	3	0	12	2	7	1	1	1	54
	利用人員	36	1,344	98	0	83	0	1,941	15	204	19	5	773	4,518
	延人数	72	2,484	149	0	149	0	2,231	29	255	19	5	773	6,166
10	団体数	7	12	1	2	1	0	10	5	286	1	3	1	51
	利用人員	230	772	213	111	24	0	427	68	345	25	9	109	2,274
	延人数	382	1,189	213	111	24	0	471	151	34	25	9	109	3,029
11	団体数	3	4	0	3	2	2	14	0	2	3	0	4	37
	利用人員	70	139	0	63	34	88	448	0	252	66	0	110	1,270
	延人数	70	139	0	63	34	88	581	0	271	66	0	130	1,442
12	団体数	3	0	0	0	0	0	19	5	3	0	2	3	35
	利用人員	62	0	0	0	0	0	361	142	26	0	4	142	737
	延人数	62	0	0	0	0	0	574	172	26	0	4	142	980
1	団体数	5	1	0	0	0	0	18	1	3	0	0	4	32
	利用人員	162	20	0	0	0	0	316	9	58	0	0	182	747
	延人数	162	20	0	0	0	0	328	18	58	0	0	309	895
2	団体数	3	4	0	1	0	1	20	1	1	0	1	3	35
	利用人員	156	83	0	21	0	60	323	14	2	0	6	159	824
	延人数	156	83	0	21	0	148	427	28	2	0	6	159	1,030
3	団体数	7	0	0	0	0	0	24	1	3	0	0	4	39
	利用人員	165	0	0	0	0	0	463	12	84	0	0	127	851
	延人数	165	0	0	0	0	0	609	21	128	0	0	127	1,050
合計	団体数	50	77	3	13	10	10	194	31	44	5	14	35	486
	利用人員	1,779	4,224	311	361	238	499	7,092	520	1,301	110	71	2,534	19,040
	延人数	2,461	7,407	362	361	359	737	9,701	940	1,621	110	89	2,723	26,871

2　利用団体別・宿泊日数利用状況

(1)　利用者数

項　目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	486	19,040	7,831	26,871
(キャンプ)	(2)	(41)	(41)	(82)
(ロッジ)	(13)	(535)	(647)	(1,182)

(2)　利用受入日

項　目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	289	264	237	122
(キャンプ)	(103)	(4)	(103)	(2)
(ロッジ)	(103)	(38)	(109)	(24)

(3)　利用者区分

泊数	種別区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1日	団体数	33	28	2	13	6	6	134	8	35	5	12	31	313
	実利用者数	1,173	1,297	260	361	117	399	4,805	196	1,098	110	53	2,366	12,235
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	1,173	1,297	260	361	117	399	4,805	196	1,098	110	53	2,366	12,235
1泊2日	団体数	11	44	1	0	4	1	53	17	5	0	2	3	141
	実利用者数	530	2,671	51	0	121	16	2,087	228	114	0	18	147	5,983
	延宿泊者数	530	2,671	51	0	121	16	2,087	228	114	0	18	147	5,983
	延利用者数	1,060	5,342	102	0	242	32	4,174	456	228	0	36	294	11,966
2泊3日	団体数	6	5	0	0	0	2	5	6	3	0	0	1	28
	実利用者数	76	256	0	0	0	55	78	96	61	0	0	21	643
	延宿泊者数	152	512	0	0	0	110	156	192	122	0	0	42	1,286
	延利用者数	228	768	0	0	0	165	234	288	183	0	0	63	1,929
3泊4日	団体数	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	実利用者数	0	0	0	0	0	4	122	0	28	0	0	0	154
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	12	366	0	84	0	0	0	462
	延利用者数	0	0	0	0	0	16	488	0	112	0	0	0	616
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	.0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	25
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
	延利用者数	0	0	0	0	0	125	0	0	0	0	0	0	125
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	団体数	50	77	3	13	10	10	194	31	44	5	14	35	486
	実利用者数	1,779	4,224	311	361	238	499	7,092	520	1,301	110	71	2,534	19,040
	延宿泊者数	682	3,183	51	0	121	238	2,609	420	320	0	18	189	7,831
	延利用者数	2,461	7,407	362	361	359	737	9,701	940	1,621	110	89	2,723	26,871

3　研修活動の分類と実施団体数

活動分類			学校教育利用団体						社会教育利用団体	合計
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等		
野外活動	キャンプ活動	ロッジ泊	0	1	0	0	0	0	12	13
		テント泊	0	0	0	0	0	0	2	2
		キャンピング（テント設営・撤収）	0	0	0	0	0	0	3	3
		野外炊飯	0	8	3	5	4	2	56	78
		キャンプファイヤー	7	11	1	0	1	0	15	35
		キャンドルファイヤー	4	13	0	0	4	0	3	24
	自然ふれあい活動	自然散策	8	9	0	1	4	0	12	34
		ネイチャーゲーム	2	2	1	0	0	0	3	8
		フィールドワーク	1	29	1	0	2	0	7	40
		フィールドアドベンチャー	2	15	0	0	2	0	13	32
		スコアオリエンテーリング	0	12	2	1	0	1	9	25
		スタンプラリー	1	3	0	0	1	0	5	10
		ウォークラリー	0	0	0	0	1	0	0	1
		沢遊び	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイキング	0	0	0	0	0	0	0	0
		登山	0	1	0	0	0	0	0	0
		雪遊び・そりすべり	0	1	0	0	0	0	2	3
		ナイトハイク	2	8	0	0	0	0	9	19
		星空ウォッチング	0	7	1	0	0	0	2	10
	レク・ゲーム	伝承遊び	0	4	0	0	0	0	1	5
		旗とりゲーム	0	2	0	0	0	0	0	2
		室内スポーツ	6	5	0	10	0	2	57	80
		サザッピーチャレラン	1	2	0	0	2	0	3	8
		室内アーチェリー	0	2	0	1	0	0	3	5
		室内ﾍﾟﾀﾝｸ・ﾋﾞﾝｺﾞﾎﾞｰﾄﾞ	0	5	0	0	0	0	7	12
		室内サーキット	32	19	0	0	5	0	127	183
		アーチェリー	0	39	1	1	1	2	33	77
		マウンテンバイク	0	20	0	0	1	0	10	31
		インラインスケート	0	33	0	0	1	0	17	51
		フリスビーゴルフ	0	20	0	0	0	0	5	25
		グランドゴルフ	0	6	1	0	0	0	1	8
		フロッカー	1	7	0	0	0	0	8	16
室内活動	文化活動	施設を訪ねて	0	19	0	0	1	0	4	24
		室内研修	1	2	0	0	1	3	65	72
		ボランティア	0	8	0	1	0	0	1	9
	クラフト活動	張り子面	0	1	0	0	2	0	4	7
		森の標本箱	3	10	0	0	0	0	7	20
		押し花アート	0	4	0	0	0	0	5	9
		焼き板	0	4	0	0	0	0	2	6
		草木染め	0	0	0	0	0	0	4	4
		革細工	0	3	2	2	1	0	6	13
		プラ板キーホルダー	3	2	0	0	0	0	4	9
		絵手紙	1	0	0	0	1	0	4	5
森林環境学習プログラム			1	0	0	0	0	0	0	1
職場体験学習プログラム			0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者対応クラフト教室			0	0	0	0	0	0	3	3
合計			76	337	13	21	33	10	4534	1,024

※複数選択

第４節　企画事業

１　研修会事業

(1)　学校利用指導者研修会（第１回、第２回）

ア　目的

当所を主体的に利用することができるようにするため、活動計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ　期日・対象校及び参加者数

(ｱ) 第１回

期　日　　平成26年4月24日(木)
対象校　　４月～７月まで利用の学校
参加者　　４０名

(ｲ) 第２回

期　日　　平成26年7月29日(火)
対象校　　８月～３月まで利用の学校
参加者　　４０名

ウ　研修内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・施設案内
・実技研修（フィールドワーク、スコアＯＬ、室内アーチェリー、ニュースポーツなど）
・全体会
・施設の利用の仕方等
・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

(2)　社会教育団体利用指導者研修会（第１回、第２回）

ア　目的

当所を主体的に利用できるようにするため、研修計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ　期日・対象者及び参加者数

(ｱ) 第１回

期　日　　平成26年6月15日(日)
対　象　　６月～７月まで利用団体の指導者
参加者　　２９名

(ｲ) 第２回

期　日　　平成26年7月6日(日)
対　象　　８月～９月までの利用団体の指導者
参加者　　４３名

ウ　研修内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・全体会
・施設の利用の仕方等
・活動プログラムの作成及び調整（所バス利用調整を含む）

(3)　ボランティア研修

ア　目的

ボランティアを募集する機会とするとともに、ボランティアの資質の向上を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成26年6月7日(土)
対象者　　高校生、大学生、一般
参加者　　２１名

ウ　研修内容

・開講式（本所の概要説明など）
・ふれあいゲーム（外部講師による）
・インラインスケート
・アーチェリー
・閉講式（ボランティア登録など）

２　利用拡大事業

(1)　サクラ・カタクリ週間

ア　目的

自然の家周辺にある桜やカタクリの群生地を観賞し、春の自然を満喫する。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成26年4月12日（土）～30日（水）
対象者　　どなたでも
参加者　　２５９名
（山野草教室）平成26年4月26日（土）
参加者　３３名

ウ　活動内容

・サクラやカタクリなどの観賞
・山菜調理体験（山野草教室）

(2)　さくらウオーク

ア　目的

春の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成26年4月19日(土)
対象者　　どなたでも
参加者　　１０６名

ウ　活動内容

・自然の家を出発し、ショートコース約５km、ロングコース約10kmのウォーキング
・活動館開放
・アーチェリー、インラインスケート体験
・ニュースポーツ体験

(3)　親子でスコアＯＬに挑戦

ア　目的

親子（家族）で本所の活動プログラムに挑戦し、ふれあいを深めるとともに、本所のＰＲにつなげる。

イ　期日・対象者及び参加者数

期　日　平成26年5月11日（日）
対象者　親子または祖父母と孫
参加者　５１名

ウ　活動内容

・スコアＯＬ
・サザッピークラブ会員募集
・活動館開放

(4) 安積山登山

ア 目的

新緑の安積山をトレッキングし、さわやかな汗を流しながら、身近な自然に親しむ。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年5月24日(土)

対象者 小学３年生以上

参加者 ３８名

ウ 活動内容

・御霊櫃峠入口から額取山山頂を経由し、熱海登山口までの縦走登山

(5) 夢冒険キャンプ

ア 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら、様々な困難に打ち勝つことのできる子どもたちを育成する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年8月6日(水)～8日(金)

対象者 小学５年生～中学２年生

参加者 ２１名

ウ 活動内容

(ｱ) 第１日

・開講式・オリエンテーション

・サイクリング・ニジマスつかみ・沢遊び

・テント設営・野外炊飯

(ｲ) 第２日

・安達太良登山

・キャンプファイヤー

(ｳ) 第３日

・クラフト（竹細工）

・流しそうめん

・閉講式

(6) 第12回郡山自然の家オープンデー

（ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 夏期間）

ア 目的

豊かな自然環境の中で、心身ともに健全な青少年を育成するとともに、県民に体験活動の場を提供する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年9月14日(日)

対象者 どなたでも

参加者 ７７３名

ウ 活動内容

・オープニングセレモニー（帝京安積高等学校和太鼓部による演奏、郡山市立郡山第三中学校吹奏楽部によるマーチング）

・各種プログラム体験（インラインスケート・活動館開放・木工クラフトなど）

・イベント参加（ザリガニ釣り・遊びながらアイスクリームを作ろう・巨大シャボン玉・似顔絵コーナーなど）

(7) 手ぶらで、いも煮会

ア 目的

野外炊飯を通して、友だちや家族との交流を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年10月19日(日)

対象者 家族またはグループ

参加者 １０９名

ウ 活動内容

・野外炊飯（いも煮会）

・活動館開放

(8) 深まる秋！まるごと体験

ア 目的

本所ならではの人気プログラムを体験したり、秋ならではの「食」を楽しむ機会とする。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年11月2日(日)

対象者 どなたでも

参加者 ２９名

ウ 活動内容

・グランドゴルフ・アーチェリー

・燻製づくり

・みんなで絵を描こう

(9) なすかしの森キンボール教室ｉｎ郡山

ア 目的

キンボールスポーツを広めるとともに、家族の交流を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年11月29日(土)～30日(日)

対象者 小学生を含む親子

参加者 ２１名

ウ 活動内容

・キンボール教室（外部講師による）

・活動館開放

(10) メリークリスマス!&ハッピーニューイヤー！

ア 目的

自然の家の周辺にある素材を生かしたリースや置物などを作るクラフト活動を通して、自然とのふれあいを深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 平成26年12月7日(日)

対象者 どなたでも

参加者 １００名

ウ 活動内容

・クリスマスリタペストリー作り（外部講師による）

・門松づくり（外部講師による）

(11) わくわく！ファミリー冬のつどい

ア 目的

スキー体験や冬ならではの遊びを通して、家族の絆や家族間の交流を深める。

イ 期日・対象者及び参加者数

期　日　　平成27年1月31日(土)～2月1日(日)
対象者　　小・中学生を含む家族
参加者　　６０名

ウ　活動内容
・猪苗代スキー場でのスキー体験、ソリ滑り
・クラフト体験（藍染め）

(12)　冬の文化祭「クラフトまつり」
（ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 冬期間）

ア　目的
各種クラフトや食堂での食事を体験することを通して利用拡大を図る。

イ　期日・対象者及び参加者数
期　日　　平成27年2月22日(日)
対象者　　どなたでも
参加者　　９３名

ウ　活動内容
・かんたん竹とんぼ（外部講師による）
・万年カレンダー
・松かさヒツジ
・缶バッジ
・竹とんぼ飛ばし大会
・活動館開放

(13)　活動館開放します

ア　目的
外で思い切り遊べない子どもたちに屋内施設を開放し、からだを動かす機会を提供する。

イ　期日・対象者及び参加者数
期　日　前期　平成26年4月6日（日）～4月27日（日）の毎週日曜日
後期　平成26年11月9日（日）～平成27年3月29日（日）の毎週日曜日
対象者　幼児及び小学生とその家族
参加者　601名

ウ　活動内容
・室内サーキット
・各種遊具を使った活動（ストラックアウト、竹馬、一輪車、縄跳びなど）

3　協力事業

(1)　会津の冬を満喫！ウィンターフェスティバル（会津自然の家企画）

ア　目的
会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動や伝統的な活動を通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験させるとともに、参加者相互の交流を深める。

イ　期日・参加者数
期　日　平成27年1月24日(土)～25日(日)
参加者　６７名（当所からの参加者数）

ウ　活動内容
・スキー
・スノーシュー、そり滑り
・会津の民話

福島県会津自然の家

第１節　概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、本年度末で34年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、４万１千人強であった。これは、学校団体利用数が大震災以前の数までほぼ回復したことや「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」の実施をはじめ、様々な企画事業を実施し、利用者数拡大に努めてきたことによると思われる。

また、５つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

１　職員組織

職名	所長	次長	副主査	主任社会教育主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	臨時労務員	計
人員	1	1	1	1	3	1	3	1	1	13

２　平成26年度重点目標と成果

（１）事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。
　ア　日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底
　イ　利用者への適時的確な指導助言
　ウ　感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止
　エ　施設の整備、修繕

（２）「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。
　ア　笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇
　イ　利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援
　ウ　施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓

（３）教育目標を達成する研修プログラムを充実します。
　ア　里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実
　イ　ボランティアの確保及び活用の充実
　ウ　新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫
　エ　職員一人一人の絶えざる研鑽と修養

（４）生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。
　ア　自然体験活動の促進及び歴史・文化に係る事業の工夫
　イ　社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれない事業の企画立案
　ウ　ＰＤＣＡサイクルの確実な実施
　エ　地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携

（５）利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。
　ア　記録の蓄積及びデータの確実な分析
　イ　ホームページの充実及び適時的確な更新
　ウ　誘客活動の工夫
　エ　所内教育の充実

＜取組の結果＞

（１）利用者の目的達成度（利用団体による自己評価「利用者の声」）
　ア　利用者が回答している「利用者の声」の達成度の平均値が3.72（昨年度3.75）である。これは、昨年度よりは低下したが、かなり高い数値であり（93%）、ほとんどの団体が達成感をもって終了できたことを意味する。
　イ　利用者の記述を見ると、所員の団体に対するていねいで利用者の立場に立った的確な支援が高く評価され、利用者の目的達成に大きくかかわったものととらえらえる。一方で、利用者からの様々な要望については、一つ一つ検討してていねいに利用者に対応策などを返すことによって、本所利用の改善に結び付け、かつ利用者との信頼関係をつくる機会とした。

（２）職員に対する満足度（利用団体による他者評価「利用状況調査表」）
　ア　本年度から、上記(1)「利用者による目的達成度に係る自己評価」だけでなく、本所、担当職員の支援に対する評価も導入した。
　イ　平均値が3.73（94%）と、かなり高い数値を示した。上記(1)と同様に、職員の誠心誠意、利用者の立場に立った誠実かつ適切な対応が高く評価されたものと考える。

（３）経営・運営ビジョンの達成度（職員による自己評価
　ア　評価が比較的高い項目
　（ア）年間利用者4万人以上　【3.55→3.89】
　（イ）利用者の安全を最優先に、柔軟に、臨機応変に適切な判断や行動ができる職員　【3.45→3.89】
　（ウ）明るく笑顔で対応し、誰に対しても温かい気配り

や心配りができ、誰からも好感がもてる職員
【3.73→3.67】
(エ) 豊かなコミュニケーションと協力態勢をとり、人間関係に配慮できる職員 【3.55→3.67】
(オ)「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。 【3.82→3.67】
(カ) 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。 【3.45→3.56】
(キ) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底 【3.45→3.56】
(ク) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇
【3.73→3.56】

イ 評価が比較的低い項目
(ア) 掲示教育の充実 【2.91→2.44】
(イ) ボランティアの確保及び活用の充実
【2.91→2.50】
(ウ) 施設の整備、修繕 【3.18→2.67】
(オ) 誘客活動の工夫 【2.91→2.67】

ウ 評価が大きく向上した項目（9月→2月）
(ア) 新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫 【2.18→2.88】
(イ) 利用者の安全を最優先に、柔軟に、臨機応変に適切な判断や行動ができる職員 【3.45→3.89】
(ウ) 利用者への適時的確な指導助言 【2.91→3.33】
(エ) 年間利用者4万人以上 【3.55→3.89】
(オ) 利用者層の拡大 【3.27→3.56】

エ 評価が大きく低下した項目（9月→2月）
(ア) 掲示教育の充実 【2.91→2.44】
(イ) ボランティアの確保及び活用の充実
【2.91→2.50】

以上から、「新たなプログラム開発」「利用者への柔軟かつ適切な対応」「利用者4万人達成」「利用者層の拡大」が上位にきており、職員のビジョン達成に向けた地道な取組により、確実に物事が前に進み、やれば形になるということが職員の大きな励み、自信につながっていったものと考える。

一方で、「掲示教育の充実」「ボランティアの確保・活用」については大きな課題があるととらえている。所全体の課題として、今後積極的に取り組んでいく必要がある。また、「誘客活動の工夫」については、様々な制約の中でいろいろな方法を凝らして実施してきたが、誘客の対象及び方法はまだまだ不十分な点があると考えている。「施設の整備・修繕」も大きな制約の中での取組であったが、次年度も経費節減と合わせてしっかり進めていかなければならない。

(4) 企画事業に対する評価（職員による自己評価）

ア どの取組に対しても、3.6以上の高い自己評価を与えている。担当者が、今までの各種取組に対する様々な知見や課題を十分に踏まえながら企画、運営することができたとともに、組織として協力して進めてきたその証しである。

イ 一昨年度の9月から担当者が企画事業が終了した後、「総括書」を作成し、評価内容とともに次年度の事業が的確にかつ円滑に展開できるようにした。また、これをダイジェスト版にしたもの（A4版1枚）を本所HPに適時アップロードすることにより、効果的な広報につながっているものと考える。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

(1) 河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495番1

2 宿泊定員

(1) 本 館 25室 290名(うち1室障がい者用)
(2) ロッジ 10棟 150名
(3) テント 10張 60名

3 敷地面積

(1) 249,654㎡

4 建物面積

(1) 延床面積 5,462.7365㎡
ア 管理研修棟（鉄筋造2階建）
イ 宿泊棟（鉄筋造2階建）
ウ プレイホール（鉄筋造）
エ アセンブリホール（鉄筋造）
オ 機械棟（鉄筋造3階建）
カ ロッジ（木造平屋建）
キ 野外活動管理センター（鉄筋造）
ク 炊飯場(鉄筋造)
ケ 薪置場(コンクリートブロック造)
コ 車庫(鉄筋造)
サ 野外便所(鉄筋造)

5 運動広場面積

(1) 8,500㎡

6 設備備品等

(1) フィールドアスレチック
(2) 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
(3) 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
(4) 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
(5) ピアノ、オルガン
(6) 伝承遊びセット
(7) クラフト用具
(8) 各種オリエンテーリング用具
(9) アルペンスキー

(10) 歩くスキー（クロスカントリースキー）
(11) そり
(12) スノーシュー
(13) 営火場（４箇所）
(14) 諸活動コース
(15) その他

第３節 利用状況

１　当施設を利用可能対象者

（１）学校団体（小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者）
（２）社会教育団体（公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、家族、老人会、勤労青少年団体等）の構成員及びその指導者
（３）教育長が適当と認めた者
（４）その他、家族などの一般人

２　平成２６年度の利用団体数

（１）529団体
（２）実利用者数27,175人
（３）延利用者数41,146人

３　屋外活動を制限された子どもたちへの対応

（１）心身の健康、リフレッシュを図るため、外遊びや自然体験活動の機会提供を目的とした「自然の家体験活動応援事業」をはじめ、様々な独自の企画事業を実施して利用者の拡大に努めた。

４　利用状況

（１）月別利用状況、利用団体別・宿泊日数別利用状況、研修活動の分類と実施団体数についての詳細は、次の表のとおりである。

5　月別利用状況

（平成27年3月31日現在）

月	種別	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
4	団体数	1	1	1	2	0	0	5	0	0	1	0	6	17
	利用人員	27	40	45	93	0	0	135	0	4	12	0	650	1006
	延人数	27	80	90	147	0	0	135	0	5	12	0	659	1,155
5	団体数	7	22	0	0	0	0	5	1	6	0	0	3	44
	利用人員	322	943	0	0	0	0	136	26	103	0	0	879	2,409
	延人数	322	1,968	0	0	0	0	217	26	110	0	0	949	3,592
6	団体数	4	35	0	1	0	0	10	4	1	0	0	3	58
	利用人員	255	1,503	0	20	0	0	586	94	46	0	0	104	2,608
	延人数	255	3,772	0	40	0	0	599	236	59	0	0	148	5,109
7	団体数	7	20	0	0	0	0	20	9	0	0	0	1	57
	利用人員	436	823	0	0	0	0	1,462	85	20	0	0	138	2,964
	延人数	784	1,830	0	0	0	0	2,254	85	27	0	0	138	5,118
8	団体数	2	6	2	1	0	2	27	28	3	0	0	3	74
	利用人員	96	130	77	39	0	163	1,431	84	58	0	0	946	3,024
	延人数	188	287	115	117	0	765	2,631	131	103	0	0	1,020	5,377
9	団体数	7	33	1	0	0	0	10	2	3	0	2	5	63
	利用人員	423	1,584	20	0	0	0	550	14	52	0	6	1,748	4,397
	延人数	460	3,474	20	0	0	0	596	46	67	0	6	1,812	6,481
10	団体数	11	33	4	2	0	0	8	6	2	0	2	4	72
	利用人員	438	1,383	183	28	0	0	288	228	21	0	8	1,051	3,628
	延人数	438	2,782	183	28	0	0	318	228	28	0	8	1,051	5,064
11	団体数	2	4	2	0	0	0	4	1	8	1	0	7	29
	利用人員	79	228	26	0	0	0	139	10	172	16	0	1,966	2,636
	延人数	79	228	50	0	0	0	139	10	177	16	0	2,344	3,043
12	団体数	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	5	11
	利用人員	0	0	0	0	0	0	114	0	6	0	0	240	360
	延人数	0	0	0	0	0	0	176	0	6	0	0	377	559
1	団体数	26	5	1	0	1	0	6	0	11	0	0	2	52
	利用人員	1,263	110	86	0	12	0	390	0	21	0	0	160	2,042
	延人数	1,553	110	258	0	12	0	735	0	29	0	0	301	2,998
2	団体数	13	2	0	0	1	0	6	0	3	1	0	7	33
	利用人員	543	77	0	0	15	0	183	0	16	17	0	586	1,437
	延人数	627	88	0	0	15	0	205	0	24	17	0	775	1,751
3	団体数	2	1	0	0	0	1	9	1	2	1	0	2	19
	利用人員	55	15	0	0	0	9	366	41	2	22	0	154	664
	延人数	55	15	0	0	0	36	518	97	2	22	0	154	899
合計	団体数	82	162	11	6	2	3	113	52	42	4	4	48	529
	利用人員	3,937	6,836	437	180	27	172	5,780	582	521	67	14	8,622	27,175
	延人数	4,788	14,634	716	332	27	801	8,543	859	637	67	14	9,728	41,146

前年対比

期間	区分	25年度	26年度	増減
4月	団体数	475	529	54
～	実利用者	22,208	27,175	4,967
3月	延利用者	35,648	41,146	5,498

6　利用団体別・宿泊日数利用状況

（1）利用者数　　（ ）はキャンプ、ロッジ内数

項　　目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	529	27,175	13,971	41,146
（キャンプ）	(0)	(0)	(0)	(0)
（ロッジ）	(3)	(93)	(125)	(218)

（2）利用者受け入れ日数

項　　目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	293	250	244	132
（キャンプ）	(177)	(0)	(150)	(0)
（ロッジ）	(177)	(9)	(150)	(8)

（3）利用者区分

泊	種別	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
	区分	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
1日	団体数	68	36	7	3	2	0	75	45	36	4	4	35	317
	実利用者数	3,250	1,119	244	67	27	0	3,806	428	455	67	14	7,836	17,313
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	3,250	1,119	244	67	27	0	3,806	428	455	67	14	7,836	17,313
1泊2日	団体数	8	77	3	2	0	0	30	3	4	0	0	8	135
	実利用者数	523	3,636	107	74	0	0	1,249	68	33	0	0	591	6,281
	延宿泊者数	523	3,636	107	74	0	0	1,249	68	33	0	0	590	6,280
	延利用者数	1,046	7,272	214	148	0	0	2,498	136	66	0	0	1,181	12,561
2泊3日	団体数	6	47	1	1	0	0	6	2	1	0	0	2	66
	実利用者数	164	2,081	86	39	0	0	675	66	18	0	0	69	3,198
	延宿泊者数	328	4,162	172	78	0	0	1,37	132	36	0	0	138	6,425
	延利用者数	492	6,243	258	117	0	0	2,054	198	54	0	0	207	9,623
3泊4日	団体数	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	3	9
	実利用者数	0	0	0	0	0	37	50	10	14	0	0	126	237
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	111	135	30	42	0	0	378	696
	延利用者数	0	0	0	0	0	148	185	40	56	0	0	504	933
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	135	0	0	0	0	0	0	135
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	518	0	0	0	0	0	0	518
	延利用者数	0	0	0	0	0	653	0	0	0	0	0	0	653
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	11
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	47	5	0	0	0	52
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	57	6	0	0	0	63
合計	団体数	82	162	11	6	2	3	113	52	42	4	4	48	529
	実利用者数	3,937	6,836	437	180	27	172	5,780	582	521	67	14	8,622	27,175
	延宿泊者数	851	7,798	279	152	0	629	2,763	277	116	0	0	1,106	13,971
	延利用者数	4,788	14,634	716	332	27	801	8,543	859	637	67	14	9,728	41,146

7 研修活動の分類と実施団体数

（平成27年3月31日現在）

（1）野外活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	アルペンスキー	5	0	5
2	フィールドアスレチック	53	29	82
3	野外炊飯	60	11	71
4	キャンプファイア	64	5	69
5	どきどきナイトハイク	68	5	73
6	そり・チューブ滑り	36	8	44
7	星空ウォッチング	15	2	17
8	宇宙大作戦	72	3	75
9	散策	16	5	21
10	ＵＦＯゴルフ	20	6	26
11	会津の歴史・町並みハイク	18	2	20
12	地層と化石の観察	15	1	16
13	アニマルランドの冒険	11	0	11
14	火おこし体験	25	1	26
15	樹木オリエンテーリング	13	1	14
16	カヌー	45	8	53
17	バウムクーヘン	3	10	13
18	森林環境学習	2	1	3
19	昆虫ウォッチング	3	0	3
20	かにの沢で遊ぼう	1	0	1
21	雪遊び	3	2	5
22	自然観察	5	3	8
23	ネイチャーゲーム	2	1	3
24	登山	5	2	7
25	ビンゴオリエンテーリング	10	2	12
26	森遊び	11	4	15
27	バーベキュー	1	1	2
28	草滑り	10	2	12
29	雪像つくり	0	0	0
30	どうぶつ村の大運動会	1	0	1
31	史跡めぐり	0	0	0
32	アニマルトラッキング	0	0	0
33	川の学習	3	0	3
34	ハイキング	2	0	2
35	雪上ハイキング	3	4	7
36	ダッチオーブン（ピザ）	2	8	10
37	ウォークラリー	0	0	0
38	すごろくオリエンテーリング	2	0	2
39	焼き板	2	0	2
40	スコアオリエンテーリング	9	1	10

（2） 室内活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	クラフト	32	33	65
2	室内ゲーム	16	21	37
3	信頼関係づくりゲーム	16	7	23
4	会津の民話	12	1	13
5	キャンドルファイア	14	3	17
6	ケーキつくり	0	5	5
7	読み聞かせ	0	0	0
8	伝統工芸	4	1	5
9	テーブルマナー教室	0	4	4
10	そば打ち体験	0	3	3
11	音楽関係練習（吹奏楽他）	0	2	2
12	ダンス、剣道等練習	0	8	8
13	団体独自（学習会他）	18	74	92
14	絵手紙	0	2	2

※ クラフトには、森の生きものたち、ストーンペインティング、もっくんキーホルダー、すかし葉づくり、竹とんぼ等の活動を含む。

第４節 企画事業

１ 指導者の研修

（１）学校団体指導者事前研修会

ア　目的

（ア）本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

（イ）児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

（ウ）集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）第１回：平成26年4月15日（火）
6/17～7/19に利用する学校の教職員38名参加

（イ）第２回：平成26年4月16日（水）
5/ 7～6/13に利用する学校の教職員42名参加

（ウ）第３回：平成26年4月23日（水）
8/26～9/27に利用する学校の教職員31名参加

（エ）第４回：平成25年4月24日（木）
9/30～10/31に利用する学校の教職員21名参加

ウ　研修内容

（ア）利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認

（イ）活動計画の作成及び同時期利用団体との調整

（ウ）プログラム及び活動内容、指導方法の理解

（エ）施設及び避難経路の確認

（２）社会教育団体指導者事前研修会

ア　目的

（ア）本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

（イ）社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

（ウ）集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

イ　期日、対象、参加者数

平成26年6月15日（日）
7/19～8/23に利用する社会教育団体の指導者32名参加

ウ　研修内容

（ア）利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認

（イ）活動計画の作成及び同時期利用団体との調整

（ウ）プログラム及び活動内容、指導方法の理解

（エ）施設及び避難経路の確認

２ 利用促進事業

（１）第１０回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

ア　目的

（ア）いにしえのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し地域振興に資する。

（イ）参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年4月13日（日）一日行事　500名参加

（イ）一般対象

ウ　活動内容

（ア）山開き式典

（イ）高寺山登山

（ウ）お楽しみ抽選会、さくら汁サービス

（２）春のオープンデー“自然の家で思いっきり遊ぼう！”

ア　目的

（ア）自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。

（イ）屋外活動を制限されている県内の子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを提供しのびのびと活動させる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年5月11日（日）一日行事　800名参加

（イ）県内の幼児、小・中学生とその家族対象

（ウ）ボランティア8名

ウ　活動内容

（ア）プログラム体験コーナー（無料）
カヌー体験、アスレチック（種目を限定）、森遊び、火起こし体験、ビンゴ OL、UFO ゴルフ、クラフト、バウムクーヘン（デモンストレーション）

（イ）プログラム体験コーナー（有料）
ピザ作り

（３）教育講演会

ア　目的

（ア）参加者が自身の信念や方針を見直し、改善し、より良き生き方を模索する機会とする。

（イ）大人が自信を持って子育てをするための応援講座とする。

（ウ）親子で活動プログラム（森の生きものたち）を行うことにより、より親子関係を深めるきっかけとする。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年7月13日（日）一日行事
大人12名、子ども6名参加

（イ）一般対象

（ウ）講師　安田喜市郎氏

ウ　活動内容

（ア）講演「大人が変われば子どもも変わる
～子どもの成長と大切にしたい親・大人の関わり～」

（イ）親子クラフト（森の生きものたち）

（4）自然の家のキャンプはワイルドだよ！
大自然わくわくキャンプ

ア　目的

（ア）会津自然の家や会津地方の豊かな自然の中での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しむ気持ちを養わせる。

（イ）宿泊体験を通して参加者同士の交流を図らせる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年8月9日（土）～11日（月）　2泊3日
33名参加

（イ）県内の小学校5年生～中学生対象

ウ　活動内容

（ア）テント張り体験、ピザ作り、班旗作り

（イ）バードウォッチング、天体観測、カヌー、キャンドルファイア

（ウ）スコアオリエンテーリング、バーベキュー

（5）お月見コンサート２０１４

ア　目的

（ア）中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を観賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。

（イ）「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を心ゆくまで楽しむ。

イ　期日、対象、参加者数、出演者数

（ア）平成26年9月6日（土）一日行事　103名参加

（イ）一般対象

（ウ）講話講師、バイオリン＆ピアノ演奏、ポップス歌唱、民話の出演者5名

ウ　活動内容

（ア）月面観賞～天体望遠鏡による月面観察、講話

（イ）音楽鑑賞～バイオリン＆ピアノの演奏、ポップス歌唱

（ウ）会津の民話

（6）アスレチックチャレンジデー

ア　目的

（ア）県民にフィールドアスレチックコースを開放することにより、自然や運動することの楽しさを感得させる。

（イ）自然体験機能及び生涯学習機能を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）第１回：平成26年10月5日（日）　13名参加
第２回：平成26年10月12日（日）　337名参加

（イ）県内の幼児、小・中学生とその家族対象

ウ　活動内容

（ア）フィールドアスレチックスタート付近で受付

（イ）スタート時に安全面（服装、軍手不要、使用禁止箇所、毒性動植物等）を説明

（7）第１１回会津自然の家あったかふれあいまつり

ア　目的

（ア）県民に施設及び周辺の環境を開放するとともに、活動プログラムを体験できる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

（イ）各団体と連携を図ることにより体験活動を充実を図る。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年10月19日（日）一日行事　531名参加

（イ）一般対象

（ウ）協力団体参加者103名

ウ　活動内容

（ア）プログラム体験コーナー

（イ）協力団体による展示・体験コーナー

（ウ）協力団体による模擬店販売

（エ）施設開放

（8）恐竜標本がやってくる～恐竜がまってるよ～

ア　目的

国立科学博物館と連携し、恐竜アロサウルスの骨格標本の展示や講演会などを通して、自然科学の振興を図るとともに、子どもたちを元気づける。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年10月23日（木）～11月20日（木）
1,707名参加

（イ）一般対象

ウ　活動内容

（ア）骨格化石、実物化石、化石レプリカ、脚パズル等展示

（イ）体験教室１「化石のレプリカ作り」開催
平成26年11月 1日・2日・8日・9日

（ウ）特別講演会「最新恐竜学入門」開催
平成26年11月 8日（土）13:00～14:00

（エ）体験教室２「恐竜３Ｄぬり絵」　開催
平成26年11月 9日（日）
9:30～　11:00～　13:00～　14:30～

（9）束松峠ウォーキング大会２０１４

ア　目的

（ア）「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化遺産である「束松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。

（イ）束松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成26年10月25日（土）　170名参加

（イ）一般対象

ウ　活動内容

コース

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→束松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様（希望者）→高寺コミュニティーセンター　※片門薬師堂（希望者）

(10) 通学キャンプ

ア　目的

（ア）自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。

（イ）中学校進学前に、他校との交流を図ることによって中学校進学の不安を取り除く。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）地区別実施期日

a 喜多方市立第二中学校地区　　40名参加

平成26年11月5日(水)～11月8日(土)３泊４日

b 会津坂下町立坂下中学校地区　　49名参加

平成26年11月19日(水)～11月22日(土)３泊４日

c 会津若松市立北会津中学校地区　37名参加

平成26年11月26日(水)～11月29日(土)３泊４日

（イ）当該中学校区の小学校４・５・６年生

ウ　活動内容

（ア）信頼関係づくりゲーム

（イ）学習（宿題、自主学習、読書等）

（ウ）木工クラフト、フィールドアスレチック、森遊び、キンボール

（エ）室内ゲーム

(11) 打って食べて大満足　新そばにチャレンジ

ア　目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）第１回：平成26年11月15日（土）

28名参加、講師2名、ボランティア2名

第２回：平成26年11月16日（日）

57名参加、講師1名、ボランティア2名

第３回：平成26年11月22日（土）

38名参加、講師2名、ボランティア2名

（イ）一般対象

ウ　活動内容

（ア）そば打ち実演

（イ）そば打ち体験

（ウ）そば茹で実演

（エ）そば茹で体験

（オ）試食

（カ）そば口上実演

(12) 手作り森のクリスマス

ア　目的

クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）第１回：平成26年12月6日（土）

37名参加、講師1名

第２回：平成26年12月7日（日）

46名参加、講師1名

第３回：平成26年12月20日（土）

17名参加、講師1名

（イ）県内の小・中学生とその家族対象

ウ　活動内容

（ア）クリスマスケーキ作り

a 講師の実演

b 生地づくり、ロールの仕方、デコレート

（イ）クリスマスクラフト作成

（ウ）試食

(13) 冬休み楽習宿

ア　目的

（ア）児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。

（イ）自主性や創造性を育みながら学習の仕方を身に付けさせたり、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

（ウ）児童のふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）第１回：平成26年12月25日(木)～26日(金)Ａ班

１泊２日　65名参加

第２回：平成26年12月26日(金)～27日(土)Ｂ班

１泊２日　72名参加

（イ）県内の小学校４・５・６年生

ウ　活動内容

（ア）信頼関係づくりゲーム

（イ）学習（国語、社会、算数、理科）

（ウ）雪灯籠作り、そりすべり、雪遊びほか

(14) なすかしの森親子キンボール教室in会津

ア　目的

那須甲子・磐梯・いわき海浜・郡山・会津の福島県内の国公立施設でキンボール教室を実施することにより、福島県内でのキンボールの認知度を高め、プレーを通して、家族や友人との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育む。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年1月18日（日）　6名参加

(イ) 小学生を含む親子（保護者が１名参加すれば、その子どもの友だちの参加も可）

(ウ) ボランティア2名

(エ) 講師　石川剛史氏(国立磐梯青少年交流の家職員)

ウ　活動内容

(ア) 交流ゲームとルール説明

(イ) 実践練習

(ウ) 練習試合とまとめ

(15) 会津の冬を満喫！ウィンターフェスティバル

ア　目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するともに、参加者相互の交流を深めさせる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年1月24日（土）～25日（日）１泊２日　141名参加

(イ) 県内の小・中学生とその家族対象

(ウ) ボランティア2名

ウ　活動内容

(ア) １日目：そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり、スノーシュー体験、雪灯籠作り、会津の民話

(イ) ２日目：猪苗代スキー場（スキー、スノーボード、そり、エアボード）

(16) そりチャレンジデー

ア　目的

県民にそりゲレンデを開放することにより、会津の冬の楽しさを感得させるとともに、冬の自然体験を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 第１回：平成27年2月1日（日）　42名参加
第２回：平成27年2月8日（日）　100名参加
第３回：平成27年2月22日（日）　57名参加
第４回：平成27年3月1日（日）　19名参加

(イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

ウ　活動内容

(ア) そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり

(17) 集団づくりスキルアップセミナー

ア　目的

集団の中での望ましい人間関係づくりのための手法や考え方を学ぶ機会を提供することで、学校教育・青少年教育・地域活動等の指導者としての資質を向上させる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年2月8日（日）　10名参加

(イ) 学校教育関係者、青少年教育関係者、青少年団体指導者、地域リーダー、学生等対象

(ウ) 講師　二瓶重和氏（上級カウンセラー、会津若松市立門田小学校長）

ウ　活動内容

(ア) 講義

(イ) 演習（構成的グループエンカウンター、プロジェクトアドベンチャー）

(18) みんな集まれ！クラフトキッズフェア

ア　目的

(ア) 親子で工夫し、楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの想像力や発想力を高めたり、親子の絆を深めたりする。

(イ) クラフト作成の場を提供することにより、本所のプログラムについて理解を深める機会とする。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年3月7日（日）　130名参加

(イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) ボランティア5名

ウ　活動内容

(ア) 木工クラフト

(イ) ストーンペインティング

(ウ) 竹とんぼ

(エ) 紙ブーメラン

(オ) 割りばし鉄砲

(カ) プラスチック板加工

３　その他の企画事業

(１) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

会津自然の家サマーフェスタ

ア　目的

自然の中での冒険体験等を通して、幼児、児童、生徒に対し、自立心や忍耐力、協調性を養わせるとともに、自然と調和することの大切さを感得させる。

イ　期日、対象、参加者数

(ア) 平成26年8月24日（日）一日行事　209名参加

(イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 派遣支援員4名、ボランティア6名

ウ 活動内容

（ア）プログラム体験コーナー

a アスレチック、カヌー体験、UFOゴルフ、ミニ樹木オリエンテーリング、森遊び、クラフト

（イ）野外クッキング体験コーナー

a バウムクーヘン

（2）ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

会津自然の家スノーフェスタ

ア　目的

冬の会津での自然体験活動を通して、自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、自然と調和することの大切さを知る。

イ　期日、対象、参加者数

（ア）平成27年2月15日（日）一日行事　176名参加

（イ）県内の幼児、小・中学生とその家族対象

（ウ）派遣支援員2名、インストラクター4名

ウ　活動内容

（ア）猪苗代スキー場集合・解散

a スキー体験

b そりすべり

c エアボードすべり

福島県いわき海浜自然の家

第１節　概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開した。以降、利用者が少しでも安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び第５営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置、平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施。平成26年度には野営場の除染を行い、安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成25年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染終了後の平成26年7月より使用を再開している。また、山林部分の放射線対策は進まずフィールドアスレチックコースや冒険の森歩道を利用した活動プログラムの再開はできなかった。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの当施設の目玉である海浜活動の一部を再開した。

平成26年度の利用状況は、500団体、延べ利用数34,428人で、震災前の平成22年度（546団体66,611人）に比して51%ほどであった。社会教育団体の利用は増えているが、学校教育団体の利用は、111団体延べ9,148人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と、団体数では三分の一程度、延べ人数では2割にも満たない状況であった。

１　平成26年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

(1)　本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

ア　自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、ペンダント作りなどの新たなクラフト活動の充実を図った。

イ　オープンデーや健康推進デーなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

ウ　小・中学校等への利用促進のための情報提供、ＰＲ活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、健康体操、ニュースポーツなどを実施。更には、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

(2)　利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

ア　幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

イ　企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

(3)　事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

ア　受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

イ　学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な依頼・指示を行い安全教育の充実を図った。

ウ　東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

　無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

エ　本年度も利用不可であったが、フィールドアスレチックコース等の安全点検を定期的に行い、遊具等の安全管理に努めた。

　また、施設全体と活動エリアである海岸等の放射線量の測定を実施して公表した。

(4)　定期的な業務内容の点検と改善に努める。

ア　計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

イ　多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

ウ　利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

(5)　地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

ア　環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし、地域に根ざした施設づくりに努めた。

イ　支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

ウ　公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。

エ　オープンデーや健康推進デーなど、地域の連携・協力を得て開催した。

2　職員組織

所長	次長	事務主任	副主任指導員	指導員	教育指導専門員	体験活動指導員	運転手	事務補助員	計
1	1	1	1	3	1	4	2	2	16

第２節　施設・設備の概要

1　所在地

いわき市久之浜町田之網字向山５３

2　宿泊定員

○　本館定員　　300名（和室28室）
○　ロッジ定員　　160名（10棟）
○　テント定員　　100名（25張）

3　敷地面積

○　350,171㎡

4　建物面積

○　6,696.97㎡
○　中心施設
　本　館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）
　体育館
○　野外施設
　管理棟、ロッジ、便所等

5　野外活動施設面積

○　つどいの広場　　7,000㎡
○　多目的広場　　8,890㎡
○　自然観察園　　4,050㎡
○　みんなの広場　　4,700㎡

6　設備備品等

○　体育館　　（バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台 キンボール 他）
○　野営場　　（野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫　他）
○　野外活動設備（フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場５ヵ所､各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース　他）
○　多目的広場　（ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール　他）
○　その他　　（視聴覚機器、無線機 天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス　他）

第3節　利用状況

1　平成26年度　月別利用状況一覧表（3月末現在）

(1)　前年対比

期間	区分	25年度	26年度	増　減
4月～3月	団 体 数	497	500	3
	実利用者	22,739	24,614	1,875
	延利用者	29,323	34,428	5,105

(2)　利用実績及び申込状況

月	種別／区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団 体 数	2	1	1	2	0	0	9	2	3	5	1	1	27
	実利用者	346	54	113	195	0	0	196	64	55	96	9	30	1,158
	延利用者	346	54	226	378	0	0	298	223	55	96	9	30	1,715
5	団 体 数	3	1	0	2	0	0	4	1	7	12	1	2	33
	実利用者	261	21	0	74	0	0	120	25	179	219	6	580	1,485
	延利用者	261	63	0	113	0	0	158	50	197	219	6	580	1,647
6	団 体 数	0	15	0	0	2	0	4	1	8	3	0	2	35
	実利用者	0	467	0	0	25	0	110	21	290	91	0	19	1,023
	延利用者	0	1,196	0	0	33	0	160	42	352	91	0	23	1,897
7	団 体 数	5	8	0	1	1	0	30	6	2	5	2	2	62
	実利用者	184	242	0	206	63	0	1,665	214	131	120	14	14	2,853
	延利用者	318	556	0	612	126	0	2,664	405	142	120	28	14	4,985
8	団 体 数	1	3	0	0	0	0	19	14	2	1	4	1	45
	実利用者	76	108	0	0	0	0	1,247	545	17	18	18	29	2,058
	延利用者	152	168	0	0	0	0	2,190	1,361	33	18	40	53	4,015
9	団 体 数	0	11	2	0	2	0	12	3	4	6	2	1	43
	実利用者	0	516	217	0	71	0	1,942	54	246	159	11	1,277	4,493
	延利用者	0	1,108	217	0	142	0	2,279	134	504	159	22	1,277	5,842
10	団 体 数	6	0	0	0	0	0	15	0	14	17	1	3	56
	実利用者	760	0	0	0	0	0	386	0	615	359	13	24	2,157
	延利用者	760	0	0	0	0	0	449	0	652	359	26	40	2,286
11	団 体 数	1	1	0	0	0	0	15	3	9	10	1	4	44
	実利用者	73	77	0	0	0	0	585	113	137	196	2	508	1,691
	延利用者	73	77	0	0	0	0	754	226	158	196	4	530	2,018
12	団 体 数	5	3	0	1	0	0	10	2	8	2	0	5	36
	実利用者	76	193	0	324	0	0	329	45	135	30	0	1,502	2,634
	延利用者	228	193	0	324	0	0	544	90	169	30	0	1,551	3,129
1	団 体 数	11	0	1	0	0	0	6	3	8	0	0	4	33
	実利用者	597	0	7	0	0	0	220	164	345	0	0	88	1,421
	延利用者	749	0	7	0	0	0	255	323	345	0	0	153	1,832
2	団 体 数	10	0	2	0	0	0	18	0	9	2	0	1	42
	実利用者	377	0	44	0	0	0	682	0	187	53	0	726	2,069
	延利用者	377	0	64	0	0	0	1,225	0	275	53	0	726	2,720
3	団 体 数	6	1	0	0	0	0	25	5	4	1	1	1	44
	実利用者	206	18	0	0	0	0	927	198	43	14	6	160	1,572
	延利用者	206	18	0	0	0	0	1,320	569	43	14	12	160	2,342
合計	団 体 数	50	44	6	6	5	0	167	40	78	64	13	27	500
	実利用者	2,956	1,696	381	799	159	0	8,409	1,443	2,380	1,355	79	4,957	24,614
	延利用者	3,470	3,433	514	1,427	301	0	12,296	3,423	2,925	1,355	147	5,137	34,428

2　平成２６年度　利用団体別・宿泊日数利用状況

（1）　利用者数　　（　　）はキャンプ等の内数

項目	団体数	実利用者	延利用者
利用者数	500	24,614	34,428
(キャンプ)	0	0	0
(ロッジ)	7	588	340

（2）　利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	292	275	228	126
(キャンプ)	68	0	68	0
(ロッジ)	68	7	68	7

（3）　利用者区分

泊数	種別／区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1日	団体数	39	12	4	2	1	0	76	1	60	64	2	18	279
	実利用者	2,593	569	248	372	17	0	4,721	213	1,945	1,355	15	4,785	16,833
	延利用者	2,593	569	248	372	17	0	4,721	213	1,945	1,355	15	4,785	16,833
1泊2日	団体数	5	14	2	3	4	0	85	25	15	0	10	8	171
	実利用者	212	517	133	226	142	0	3,499	665	325	0	60	164	5,943
	延利用者	424	1,034	266	452	284	0	6,998	1,330	650	0	120	328	11,886
2泊3日	団体数	6	18	0	1	0	0	5	9	3	0	1	1	44
	実利用者	151	610	0	201	0	0	179	380	110	0	4	8	1,643
	延利用者	453	1,830	0	603	0	0	537	1,140	330	0	12	24	4,929
3泊4日	団体数	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	6
	実利用者	0	0	0	0	0	0	10	185	0	0	0	0	195
	延利用者	0	0	0	0	0	0	40	740	0	0	0	0	780
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	団体数	50	44	6	6	5	0	167	40	78	64	13	27	500
	実利用者	2,956	1,696	381	799	159	0	8,409	1,443	2,380	1,355	79	4,957	24,614
	延利用者	3,470	3,433	514	1,427	301	0	12,296	3,423	2,925	1,355	147	5,137	34,428

3　平成26年度　研究活動の分類と実施団体数

				学校団体						社会教育団体				ファミリー	主催	合計
				幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1	A野外活動	1	ネイチャーゲーム	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7
2		2	遊具（トリムランド）で遊ぼう	2	7	0	0	0	0	10	0	2	0	3	0	24
3		3	動物オリエンテーリング	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	4
4		4	野外炊飯	1	17	3	2	1	0	27	7	1	1	4	1	65
5		5	トレッキング	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
6		6	マウンテンバイク	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	7
7		7	伝承遊び（屋外編）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
8		8	ニュースポーツ（屋外編）	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	5
9		9	冒険の森散策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10		10	ネイチャーラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11		11	ロープコース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12		12	フィールドアスレチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13		13	スコアオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14		14	ポイントオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		15	ビンゴオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16		16	グリーンオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	B海浜活動	1	磯遊び	0	20	0	0	1	0	5	1	0	0	1	0	28
18		2	魚釣り	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7
19		3	砂の芸術	0	18	0	0	1	0	3	0	0	0	1	0	23
20		4	海岸ウォークラリー	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
21		5	サイクリング	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
22		6	ボディーボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23		7	いかだ乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24		8	カヤック（カヌー）乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	C室内活動	1	伝承遊び（室内編）	1	8	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	11
26		2	いきいき健康体操	0	1	0	0	0	0	4	0	4	10	1	3	23
27		3	スポーツ、ニュースポーツ体験	8	12	2	4	2	0	80	10	28	21	7	5	179
28		4	室内ゲーム	9	1	0	2	1	0	11	0	0	0	0	1	25
29		5	室内ビンゴオリエンテーリング	1	6	0	1	1	0	26	0	2	0	2	0	39
30		6	海浜何でもチャンピオン	14	7	0	0	1	0	7	0	0	0	1	0	30
31		7	海浜フレンドパーク	0	2	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	7
32	Dナイト活動	1	スターウォッチング	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
33		2	ナイトハイキング	0	20	0	0	0	0	5	4	0	0	4	0	33
34		3	キャンプファイア	1	13	0	1	0	0	13	2	1	0	0	0	31
35		4	ボンファイア	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
36		5	キャンドルファイア	0	10	0	1	3	0	6	3	0	0	1	0	24

				学校団体						社会教育団体				ファミリー	主催	合計
				幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
37	Eいわきの歴史・文化施設体験活動	1	いわき史跡めぐり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	0	1	20
38		2	いわき浜めぐり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
39		3	いわき市考古資料館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
40		4	いわき市アンモナイトセンター	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	6
41		5	いわき市草野心平記念文学館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	1	9
42		6	いわき市暮らしの伝承郷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	1	10
43		7	いわき市石炭化石館	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
44		8	いわき市フラワーセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
45		9	アクアマリンふくしま	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	7
46		10	いわきデイクルーズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47	F創作活動	1	しおり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
48		2	飛ぶ輪っか	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	4
49		3	キーホルダー	0	1	0	0	0	0	8	0	1	0	1	3	14
50		4	木彫るだー	0	2	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	8
51		5	木製コースター	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
52		6	ストーンアート	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
53		7	貝飾り	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
54		8	貝の壁飾り	1	4	0	0	0	0	5	0	2	0	1	0	13
55		9	貝の絵ろうそく	0	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	9
56		10	草木染め（木綿）	0	0	0	0	0	0	4	0	1	5	0	0	10
57		11	草木染め（絹）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
58		12	七宝焼	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
59		13	エコバック	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
60		14	海浜下敷き	4	1	0	0	0	0	10	0	0	0	1	1	17
61		15	海浜ペンダント	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
62		16	すりガラスアート	0	0	0	1	0	0	2	2	0	2	1	0	8
63		17	自主制作・その他の制作	1	1	0	1	0	0	6	0	0	0	0	3	12
64	G研修や講座等での利用	1	研修・講座等の会場	1	0	1	6	0	0	47	25	16	16	0	3	115
65		2	生涯学習の会場	0	0	0	0	0	0	5	8	8	0	0	0	21
66		3	合唱・合奏等練習	0	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0	0	8
67	H連携	1	連携事業	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
68		2		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			合計	49	185	7	22	15	0	325	72	77	98	38	29	917

第４節　企画事業

１　研修会事業

(1)　学校団体指導者事前研修会

ア　目的

当所での利用にあたって自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年4月25日(金)
・対象　　平成26年度利用の学校団体
・参加者数　　30名

ウ　研修内容

・施設紹介と利用の仕方について
・本所プログラム活動の紹介
・活動プログラムの作成・調整

(2)　社会教育団体指導者事前研修会

ア　目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年５月30日(金)
・対象　　平成26年7月 1日～10月31日の利用団体
・参加者数　　21名

ウ　研修内容

・施設紹介と利用の仕方について
・本所プログラム活動の紹介
・海浜活動(磯遊び)

２　利用促進事業

(1)　春のオープンデー

ア　目的

施設を地域の人々に広く開放し、当所への理解を深め、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。更に、ボランティアスタッフにより地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年5月25日(日)
・対象　　県民
・参加者数　559名

ウ　内容

ニュースポーツ(ペタンク、グランドゴルフなど)、柏餅作り、室内ビンゴ、平商業高等学校フラガール部によるフラダンスショー、民話の語り、クラフト体験(キーホルダー、飛ぶ輪っかなど)、ビンゴオリエンテーション、ミニ化石発掘体験、海浜レストラン、海浜風呂など。

(2)　ボランティア養成講座

ア　目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、当所の事業・支援ボランティアとして活動ができるよう養成する。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年 6月 7日(土)～ 8日(日)　参加者数　7名
　　平成26年 7月20日(日)　参加者数　5名
　　平成26年10月12日(日)　参加者数　3名
　　平成26年11月30日(日)　参加者数　4名
・対象　　高校生・大学生・一般

ウ　内容

今年度当所で実施される自然体験活動についての研修。

(3)　ふれあいサマーキャンプ

ア　目的

自然体験を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年8月2日(土)～3日(日)
・対象　　小学生
・参加者数　29名

ウ　内容

海浜活動(砂の芸術 ボディボード)室内ゲーム、野外炊飯、すいか割りなど。

(4)　秋のオープンデー（ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業）

ア　目的

施設を地域の人々に広く開放し、当所への理解を深め、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。更に、ボランティアスタッフにより地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年9月28日(日)
・対象　　県民
・参加者数　1,277名

ウ　内容

ニュースポーツ(ファミリーゴルフ、スラックラインなど)、消防車・救急車展示、やきいも、クラフト体験(草木染め、キーホルダーなど)、勿来工業高等学校フラダンス愛好会のフラダンス、平三小の合唱など。

(5)　ふれあいオータムキャンプ

ア　目的

自然体験を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　　平成26年11月15日(土)～16日(日)
・対象　　小学生

・参加者数　27名

ウ　内容

二ッ箭山登山、野外炊飯（カレー）、キャンドルファイアなど。

(6)　震災復興　国立科学博物館コラボミュージアムinいわき海浜自然の家

ア　目的

国立科学博物館と連携。恐竜化石の展示や体験教室などを通して、自然科学への啓蒙普及、振興を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　平成26年11月26日(水)～12月24日(木)

・対象　県民

・参加者数　1,897人

ウ　内容

国立科学博物館の研究者を招いての講演会やミニ化石発掘の体験。アロサウルス実物全骨格をはじめ、小型恐竜など13点の標本の展示。

(7)　親子のつどいファミリーウィンターランド

ア　目的

親子での共同作業をとおして家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

地域の人材やボランティアへの活動の場を提供し、交流の推進を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　平成26年12月13日(土)～14日(日)

・対象　小学生の親子

・参加者数　15名

ウ　内容

親子ゲーム、クラフト体験(カレンダーキューブ)、交流会、アウトドアクッキング(ピザ、パエリア)など。

(8)　体験の風リレーションシップ事業　なすかしの森キンボール教室inいわき

ア　目的

福島県のキンボールの認知度を高めることを目的とし、プレーを通して家族や友達との交流を深めた。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　平成26年12月20日(土)～21日(日)

・対象　小学生を含む保護者

・参加者数　47人

ウ　内容

プレーを通して家族や友達との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育んだ。

(9)　クラフトのつどい（第２回はふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業）

ア　目的

県民にクラフト制作を楽しむ体験活動の場を提供し、生涯学習の振興に寄与する。また、県民の本所への理解・利用推進を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　第1回平成27年1月23日(金)参加者数　23名
第2回平成27年2月　8日(金)参加者数　726名

・対象　県民

ウ　内容

籐つるを編んで作製したかごや草木染め、凧作り、ちぎり絵、折り紙、竹で作るご飯など。

(10)　健康推進デー

ア　目的

当所のプログラムをとおして県民の健康推進と利用促進を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日

第１回　平成26年4月10日(水)　参加者数　19名
第２回　平成26年4月17日(水)　参加者数　22名
第３回　平成26年5月15日(水)　参加者数　20名
第４回　平成26年5月22日(木)　参加者数　23名

・対象　一般成人

ウ　内容

健康体操やグランドゴルフなどのニュースポーツを体験。

(11)　星空のつどい

ア　目的

参加者同士の交流を図りながら冬の星座について学び自然の美しさに感動する心を養う。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　平成27年1月17日(土)～18日(日)

・対象　小学生

・参加者数　12名

ウ　内容

望遠鏡作りや星座観察、交流ゲームなどを行い参加者同士の親睦を図った。

(12)　森の音楽会

ア　目的

いわき市出身の若手音楽家の演奏を身近で鑑賞することにより、音楽に対する関心を高めるとともに県民の本所への理解・利用促進を図る。

イ　期日・対象及び参加者数

・期日　平成27年3月8日(日)

・対象　県内の成人、家族

・参加者数　160名

ウ　内容

ディナーバイキング料理とトランペットやピアノによる演奏を楽しんだ。

３　その他の企画事業

(1)　公民館等連携講座

ア　目的

いわき市立公民館等と連携し、所バスを活用した史跡見学・文化財めぐり、ニュースポーツ、クラフト体験な

ど、社会教育団体等の利用促進を図った。

イ　公民館等・期日・対象・参加者数・内容

(いわき市立常磐公民館)
・期日　平成26年5月11日(日)～
　　平成26年6月 1日(日)〈全2回〉
・対象　一般成人　参加者数　60名
・内容　　史跡めぐり

(いわき市立豊間公民館)
・期日　平成26年 5月14日(水)～
　　平成26年11月 6日(木)　〈全４回〉
・対象　一般成人　参加者数　86名
・内容　ニュースポーツ体験や施設めぐりなど

(いわき市立小名浜公民館)
・期日　平成26年 5月22日(木)～
　　平成26年 9月25日(木)　〈全4回〉
・対象　一般成人　参加者数　86名
・内容　外部講師による考古学講座

(いわき市立錦公民館)
・期日　平成26年 7月18日(金)～
　　平成26年 9月30日(火)　〈全2回〉
・対象　一般成人　参加者数　49名
・内容　史跡めぐり

(いわき市立四倉公民館)
・期日　平成26年 7月23日(水)～
　　平成26年12月20日(土)〈全4回〉
・対象　小・中学生　参加者数　122名
・内容　いわき市防災サマーキャンプ、ニュースポーツ、クラフト活動など

(いわき市立夏井公民館)
・期日　平成26年 7月24日(木)～
　　平成26年11月13日(木)〈全3回〉
・対象　一般成人　参加者数　47名
・内容　史跡めぐり、健康体操など

(いわき市立神谷公民館)
・期日　平成26年 7月31日(木)～
　　平成27年 1月 6日(火)〈全3回〉
・対象　一般成人　参加者数　92名
・内容　史跡めぐりやクラフト体験など

(いわき市立飯野公民館)
・期日　平成26年10月 2日(木)
・対象　一般成人　参加者数　28名
・内容　施設見学

(いわき市立磐崎公民館)
・期日　平成26年10月 3日(金)
・対象　一般成人　参加者数　11名
・内容　クラフト体験

(いわき市立入遠野公民館)
・期日　平成26年10月15日(水)
・対象　一般成人　参加者数　21名
・内容　史跡めぐり

(いわき市立上遠野公民館)
・期日　平成26年10月16日(木)
・対象　一般成人　参加者数　25名
・内容　史跡めぐり

(いわき市立大浦公民館)
・期日　平成26年11月19日(水)～
　　平成26年12月10日(水)　〈全3回〉
・対象　一般成人　参加者数　58名
・内容　史跡めぐり、施設見学など

(いわき市立高久公民館)
・期日　平成26年11月29日(土)
・対象　小・中学生　参加者数　24名
・内容　史跡めぐり

(いわき市立赤井公民館)
・期日　平成26年12月21日(日)
・対象　小・中学生　参加者数　24名
・内容　被災地見学

(いわき市立大野公民館)
・期日　平成27年 2月20日(金)
・対象　一般成人　参加者数　21名
・内容　施設見学

(2)　出前講座

ア　目的

当所の活動内容の紹介と社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習教育の一環として出前講座を行った。

イ　団体・期日・対象・参加者数・内容

(いわき市立飯野公民館　市民講座)
・期日　平成26年10月 9日(木)～
　　平成26年11月23日(日)　〈全4回〉
・対象　一般成人　参加者数　120名
・内容　いわきの城の変遷についての講座と史跡見学

(いわき市立大浦公民館　市民講座)
・期日　平成26年10月22日(水)～
　　平成26年11月26日(水)　〈全3回〉
・対象　一般成人　参加者数　70名
・内容　四倉町の歴史についての講座と文化財見学

4　協力事業

(1)　福島の冬！　ウィンターフェスティバル
(主催：会津自然の家)

ア　目的

福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図った。

イ　期日・対象及び参加者数
・期日　平成27年1月24日(土)～25日(日)
・対象　小・中学生とその保護者
・参加者数　51名（当所からの参加者）

ウ　内容

スキー・雪遊びなど

第１８章　福島県文化財センター白河館

第１節　白河館の運営状況

１　利用者数

平成26年度の入館者は前年度の入館者（27,127人）とほぼ同数であった。団体利用は、前年度に比べ1,362名増加した。平成13年７月の開館からの延べ入館者数は、429,676人となった。

（平成27年3月31日現在）

	入館者数(人)	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｱｸｾｽ件数(件)
4 月	2,489	100,271
5 月	3,740	73,730
6 月	3,362	100,960
7 月	3,259	71,125
8 月	2,696	71,315
9 月	2,110	70,077
10 月	2,541	63,125
11 月	1,848	69,956
12 月	1,145	60,824
1 月	1,118	54,475
2 月	1,528	51,776
3 月	1,330	17,550
計	27,166	805,184

２　入館者の内訳と傾向

１日平均来館者数　４月：　96人　　５月：139人
６月：134人　　７月：116人
８月：　90人　　９月：　84人
１０月：　94人　　１１月：　71人
１２月：　50人　　１月：　49人
２月：　66人　　３月：　51人

地域別利用状況　県内者 87%（うち白河市 35%）
県外者 13%

年齢層別利用状況　入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が39%、団体入館者が38%を占める。

３　団体利用者の内訳と傾向

（単位 人）(平成27年3月31日現在)

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
幼稚園・保育園	団体数		1	3	1			1						6
	入館者数		23	164	27			31						245
小 学 校	団体数	12	17	26	16	2	11	10	2	1	6	1		104
	入館者数	738	776	1,382	1,008	117	471	658	85	26	193	49		5,503
中 学 校	団体数	2	1		1									4
	入館者数	130	30		60									220
高 等 学 校	団体数		1						2					3
	入館者数		29						61					90
養 護 学 校	団体数						1				1			2
	入館者数						10				28			38
大 学	団体数				1				1					2
	入館者数				9				13					22
幼小中高PTA	団体数													0
(保護者のみ)	入館者数													0
幼小中高PTA	団体数			3	1	1	1	1	1					8
(保護者と児童生徒)	入館者数			182	33	92	86	76	128					597
研 究 会	団体数			2	1		1	1						5
	入館者数			74	29		25	121						249
子 ど も 会	団体数				4	1	1							6
	入館者数				171	23	19							213

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公民館等	団体数	2		3	3		1	1	2	1		2	1	16
	入館者数	38		58	76		38	5	42	11		65	8	341
福祉施設・	団体数	2	4	6		1	2	5	2				1	23
デイケアサービス	入館者数	34	55	109		20	26	87	32				43	406
資料館等	団体数					1		1					1	3
	入館者数					35		9					32	76
歴史研究団体	団体数	1				2		1	1					5
	入館者数	20				30		28	9					87
県・市町村・	団体数	1	1		1	2	1		2	1	1		1	11
教委・審議会等	入館者数	67	180		42	82	35		29	18	6		10	469
その他	団体数	5	4	7	7	3	12	14	7	4	1	4	4	72
	入館者数	207	55	142	214	70	172	471	109	118	26	138	80	1,802
計	団体数	25	29	50	36	13	31	35	20	7	9	7	8	270
	入館者数	1,234	1,148	2,111	1,669	469	882	1,486	508	173	253	252	173	10,358
総入館者に占める団体入館者の割合%		49	30	62	51	17	41	58	27	15	22	16	13	38

4　情報発信事業の利用者

文化財データベースアクセス件数805,184件

（平成27年3月31日現在）

（文化財データベース公開件数365,942件、文化財情報提供システム406件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。）

5　資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約49,391箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み28件、出土品借受の申し込み15件。収蔵庫保管品の館内閲覧10件。

6　研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区分	研修対象者	研修内容
基礎研修	教職員・市町村職員等	主に発掘調査技術の向上と整理技術の向上などをめざす。
専門研修	教職員・市町村職員等	考古資料を基に、深く細やかな指導を行うための知識や技術の習得と、総合的な歴史価値判断能力の習得などをめざす。
特別研修	教職員・市町村職員等	上記以外の研修（教職員を主な対象とする発掘調査研修、市町村職員等の要望に応じて随時実施する研修、無形の文化財に関する研修など）

(1) 平成26年度研修実施状況

（平成27年3月31日現在）

参加者：合計 494名

・基礎研修

「ゼロからはじめる資料管理」　5月24日　参加者 20名

「縄文時代の基礎知識」　7月 5日　参加者 23名

「教職員等発掘調査体験研修」　8月5日～7日　参加者 12名

「民俗技術の保護と活用」　11月22日　参加者 9名

「住民をつなぐ文化財」　2月21日　参加者 3名

・専門研修

「資料保存における監視・評価の実践的方法」　6月21日　参加者 20名

「文化財保護指導者研修会」　9月3・4日　参加者150名

「文化財と関連科学」　10月25日　参加者 24名

「過去の災害と調査法」　12月21日　参加者 14名

「救出された文化財の保護と活用」　1月24日　参加者 12名

＜特別研修＞

「ミニチュアはにわづくり」　12月9日　参加者 19名

「大堀相馬焼の歴史と伝統」　8月31日　参加者 62名

「東日本大震災と文化財保護」　9月14日　参加者 25名

「発掘された大堀相馬焼」　9月27日　参加者 22名

「発掘調査から見た平田村」　1月27日　参加者 44名

「白河関と塙町の歴史を探る」　2月19日　参加者 35名

7　体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

(1) 常時体験型体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなどである。

常時体験型体験活動状況　　(平成27年3月31日現在)

	来館者数(人)	体験者数(人)	割合(%)
4 月	2,489	1,977	79
5 月	3,740	3,460	92
6 月	3,362	3,573	106
7 月	3,259	3,321	101
8 月	2,696	1,355	50
9 月	2,110	1,484	70
10 月	2,541	1,663	65
11 月	1,848	777	42
12 月	1,145	273	23
1 月	1,118	655	58
2 月	1,528	832	54
3 月	1,330	294	22
計	27,166	19,664	

※　体験者数は１人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

(2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり・布づくりなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間６回実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

第１回 学校行事のため中止

第２回「結団式・オリエンテーション・縄文食体験」
6月14日 参加者 7名

第３回「縄文のムラを調べてみよう」
7月12日 参加者 7名

第４回「縄文のムラを探検してみよう」
9月6日 参加者 7名

第５回「縄文のムラ探検発表資料作成」
10月11日 参加者 7名

第６回「縄文のムラ探検発表会・解団式」
12月13日 参加者 7名

・実技講座

「土器づくり初級編①製作」　5月11日 参加者 15名
「大堀相馬焼をつくろう①成形」　5月25日 参加者 17名
「大堀相馬焼をつくろう②絵付け・釉掛け」
6月15日 参加者 17名
「土器づくり初級編②野焼き」　6月22日 参加者 13名
「カラムシから布をつくろう①刈り取り」
6月28日 参加者 5名
「カラムシから布をつくろう②糸づくり」
7月12日 参加者 7名
「縄文ポシェットをつくろう」
8月2日 参加者 7名
「古代の染色にちょうせん」　8月9日 参加者 17名
「カラムシから布をつくろう③布づくり」
8月30日 参加者 5名
「鹿の角で装飾品をつくろう」　9月14日 参加者 7名
「勾玉づくり上級編」　10月 5日 参加者 5名
「埴輪づくり①製作」　10月19日 参加者 4名
「ひょうたんから容器をつくろう」11月 9日 参加者 9名
「埴輪づくり②野焼き」　11月23日 参加者 2名
「古代の印章をつくろう」　11月30日 参加者 18名
「家族で門松をつくろう」　12月21日 参加者 23名
「古代の鏡をつくろう」　1月25日 参加者 11名
「縄文土器づくり上級編①形づくり」
1月31日 参加者 11名
「縄文土器づくり上級編②文様づけ」
2月 1日 参加者 11名
「ガラスと組紐でアクセサリーをつくろう」
2月22日 参加者 12名
「縄文土器づくり上級編③野焼き」3月 7日 参加者 11名

(3) まほろんイベント

「ＧＷまほろんまつり」　5月3日～6日　参加者 1,486名
「まほろん夏まつり」　7月27日　参加者 268名
「まほろんを描こう」　9月13日～15日　参加者 43名
「まほろん秋まつり」　11月 3日　参加者 476名
「まほろんもちつき大会」　12月 7日　参加者 331名
「まほろん双六大会」　1月18日　参加者 28名
「まほろん冬まつり」　2月15日　参加者 400名

(4) 「おでかけまほろん」

文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校を訪問し、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めるプログラム。平成26年度は45校で実施。参加者数は延べ1,326名。

(平成26年度実績(実施日順)：会津坂下町立坂下南小学校、須賀川市立阿武隈小学校、いわき市立平第一小学校、南会津町立舘岩小学校、郡山市立根木屋小学校、須賀川市立稲田小学校、須賀川市立大森小学校、川俣町立福田小学校、喜多方市立駒形小学校、本宮市立糖沢小学校、本宮市立岩根小学校、田村市立西向小学校、矢祭町立石井小学校、いわき市立湯本第二小学校、田村市立船引小学校、二本松市立旭小学校、福島県立聾学校福島分校、いわき市立藤間中学校、田村市立美山小学校、本宮市立白岩小学校、二本松市立石井小学校、塙町立塙小学校、猪苗代町立緑小学校、福島県立聾学校会津分校、石川町立母畑小学校、田村市立菅谷小学校、伊達市立上保原小学校、いわき市立上遠野小学校、郡山市立喜久田小学校、

伊達市立堰本小学校、棚倉町立近津小学校、二本松市立原瀬小学校、浅川町立浅川小学校、福島県立須賀川養護学校医大分校、三春町立中妻小学校、伊達市立大石小学校、二本松市立新殿小学校、二本松市立油井小学校、いわき市立夏井小学校、川俣町立川俣南小学校、矢祭町立内川小学校、矢祭町立関岡小学校、いわき市立川部小学校、福島県立須賀川養護学校、福島県立あぶくま養護学校)

(5) まほろん出前講座

公民館等生涯学習施設で実施される活動等を対象として、弓矢体験、勾玉づくりなどの体験学習を実施する。平成26年度は5か所で実施し、173名が参加した。

(平成26年度実績(実施日順):福島市杉妻学習センター、柳津町中央公民館、須賀川市中央公民館、鏡石町公民館、国立那須甲子青少年自然の家)

(6) まるごとまほろん

文化財センター白河館に収蔵する発掘資料を、各地の行事等で展示するとともに、火おこし、弓矢などの体験学習も実施するプログラム。平成26年度は5か所で実施し、775名が参加した。

(平成26年度実績:国立那須甲子青少年自然の家、大玉村あだたらふるさとホール、国立磐梯青少年交流の家、那須高原ビジターセンター、須賀川市工房アミーコ)

(7) 講座・講演会

館長の講演会、白河館の学芸員などが講師となる「まほろん文化財講座」を開催した。

・館長講演会　シリーズ『はじめての考古学』

第1回「考古学ってなんだろう」　5月17日　聴講者　32名

第2回「遺跡の発掘現場に立って」　7月20日　聴講者　40名

第3回「出土遺物を観察する」　9月20日　聴講者　25名

第4回「考古学の研究室で」　11月15日　聴講者　25名

第5回「考古学を楽しむ」　1月17日　聴講者　36名

・文化財講演会

「近世大堀相馬焼の編年と流通」　6月14日　聴講者　37名

「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」　7月19日　聴講者　55名

「会津地方の縄文時代」　8月23日　聴講者　40名

「考古学の魅力ーエジプト考古学の最前線ー」　10月18日　聴講者　53名

「被災文化財の救済と保全」　11月8日　聴講者　25名

「古墳時代の白河」　12月13日　聴講者　40名

「放射能汚染と東北の自然」　2月7日　聴講者　28名

・文化財に関するビデオ上映会

「3・11東日本大震災を乗り越えて」　2月28日　観覧者　15名

8　常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。

常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」、「みんなの研究ひろば」、「しらかわ歴史名場面」「ふくしまの宝物」については年間数回程度の展示替えを行っている。

○　めぐみの森(導入部)
○　暮らしのうつりかわり
○　暮らしをささえた道具たち
○　遺跡を掘る
○　話題の遺跡(最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する)
○　みんなの研究ひろば(体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する。平成26年度は、被災地から救出された文化財の展示コーナーとしても活用した)
○　ふくしまの文化財
○　のぞいてみよう福島の遺産
○　しらかわ歴史名場面(白河地方の文化財を集め、白河地方の歴史の一こまを展示する)
○　クイズふくしま歴史発見

9　企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

(1)　企画展

・ふくしま復興展

「発掘された大堀相馬焼」

4月26日～6月29日　観覧者7,480名

・指定文化財展

「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」

7月19日～9月15日　観覧車5,437名

・被災文化財復興展

「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」

10月4日～1月12日　観覧者5,468名

・収蔵資料展

「磐越自動車道の遺跡ー会津盆地の弥生時代ー」

2月7日～5月10日　観覧者2,636名

(平成26年度中入館者数)

(2)　移動展

・ふくしま復興展

「発掘された大堀相馬焼」

福島県立図書館

8月8日～9月23日

10　ボランティア運営事業

(1)　「まほろんボランティア」の活動状況

・施設・展示の案内
・体験学習用機材の整備など
・ボランティア連絡会(3回開催)

(2)　登録数

個人ボランティア　20名

第１９章　文化スポーツ局

※　平成19年度まで教育庁が所管していた事業等を掲載。

第１節　組織

文化やスポーツは、人々の暮らしに潤いや生きがいをもたらし、豊かな感性や創造性を持った人づくり、魅力ある地域づくりの原動力になることから、文化・スポーツの教育的側面に配慮しつつ、本県の個性豊かな文化を再認識し、守り、伝え、はぐくみ、生かしていくため、平成20年度から知事部局（企画調整部文化スポーツ局）において所管し、全庁を挙げて総合的に展開することとした。

○　文化スポーツ局　　局　　長　　鈴木　千賀子
　　次　　長　　橋本　幸洋

	職　　名	課長等名
文化振興課	部参事兼課長	佐藤　弘美
	総括主幹兼副課長	村上　利通
	主幹	鈴木　秀明
生涯学習課	部参事兼課長	力丸　忠博
	主幹兼副課長	木下　貴道
スポーツ課	課長	廣瀬　敬彦
	主幹兼副課長	細貝　和正
	主幹	荒川　隆男

第２節　附属機関

１　福島県文化振興審議会

根拠法令　福島県文化振興条例（平成16年福島県条例第45号）

目的　福島県文化振興条例の規定に定められた事項を審議するとともに、知事の諮問に応じ、文化振興に関する事項を調査審議する。

(1)　福島県文化振興審議会委員

任期：平成26年11月7日～平成28年11月6日

氏　　名	役　　職　　名	備　　考
石　堂　常　世	郡山女子大学副学長	
岩　崎　真　幸	みちのく民俗文化研究所代表	
小　畑　瓊　子	朝日座を楽しむ会会長	
片　野　　一	福島大学人間発達文化学類教授	（会　　長）
冠　木　紳一郎	市役所通りを良くする会会長	
佐々木　吉　晴	いわき市立美術館長	
鴫　原　明　寿	福島県芸術文化団体連合会副会長	（副 会 長）
新　城　希　子	元福島県人事委員会委員長	
田　村　奈保子	福島大学行政政策学類教授	
宗　田　利八郎	公募委員	

２　福島県生涯学習審議会

根拠法令　生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律（平成2年6月29日法律第71号）第10条及び福島県生涯学習審議会条例（平成3年10月5日条例第65号）

目的　生涯学習の振興に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査・審議する。

(1) 福島県生涯学習審議会委員（第12期）　　任期：平成26年7月31日~平成28年7月30日（五十音順）

氏　名	役　職　名	備　考
安斎　淳	（公社）日本青年会議所福島ブロック協議会会長	
小沢喜仁	福島大学副学長	会長
小野　修	会津若松市教育委員会社会教育指導員	（公募）
加藤久尚	福島県公民館連絡協議会会長	
齋藤公子	福島県レクリエーション協会事務局次長	
佐久間静子	いわきユネスコ協会事務局長	
三瓶千香子	桜の聖母短期大学部生涯学習センター長補佐	
下山功枝	ＮＨＫ文化センター福島支社長	
首藤亜希子	特定非営利活動法人育児サポートココネット・マム代表理事	
高橋明子	喜多方市山都町公民館社会教育指導員	（公募）
中島健至	日本銀行福島支店長	
中山恵理	郡山市立美術館主任学芸員	
古川雅之	福島県社会福祉協議会副会長	副会長
松本トミ子	浪江町婦人会会長	
水嶋克典	（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構福島職業訓練支援ｾﾝﾀｰ訓練課長	

3　福島県スポーツ推進審議会

根拠法令　平成23年8月24日に施行したスポーツ基本法により、福島県条例を全面改正した。平成23年11月1日以降、名称も「福島県スポーツ推進審議会」となった。

○スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条及び福島県スポーツ推進審議会条例（平成23年福島県条例第87号）

目的　地方スポーツ推進その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する。

（１）平成２６年度第１回福島県スポーツ推進審議会

ア　日時：平成２６年７月３０日（水）
　　１４：００　～　１６：００

イ　場所：自治会館　６０２

ウ　報告（ア）福島県スポーツ推進計画と実施事業について

エ　審議（ア）「福島県スポーツ振興基本計画」の進行管理について
　　（イ）意見交換
　　・本県スポーツ振興の状況について

役職名は就任時のもの

(3) 平成26年度福島県スポーツ推進審議会委員

任期　平成24年9月1日～平成26年8月31日

領　域	氏　名	役　職　名	備　考
学識経験者	中澤　謙	公立大学法人会津大学文化研究センター上級准教授	
	黒須　充	国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授	
体育団体代表	片平俊夫	公益財団法人福島県体育協会副会長	
	菊池辰夫	公益財団法人福島県体育協会スポーツ医・科学委員長	
	齋藤俊蔵	財団法人福島県障がい者スポーツ協会理事	
	斉藤富美子	ＮＰＯ法人福島県レクリエーション協会理事	
	髙橋光子	福島県スポーツ推進委員連絡協議会副会長	
	班目秀雄	元ＪＯＣナショナルコーチ（自転車）	
	本間　稔	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校長
	佐々木祐司	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第四中学校長

	齋　藤　道　子	ＮＰＯ法人うつくしまスポーツルーターズ理事	
	山　崎　有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長	
市町村・公益団体	遠　藤　栄　作	福島県町村会副会長	
	原　瀬　久美子	福島県都市教育長協議会会員	
	浜　崎　幸　子	会津若松商工会議所女性会副会長	
公募	戸　田　文　士	川俣町体育協会長	
	二　瓶　恭　子	NPO法人スポーツクラブ「バンビィ」専務理事	

（2）平成２６年度第２回福島県スポーツ推進審議会

ア　時間：平成２７年２月１０日（火）
　　１３：３０　～　１５：３０

イ　場所：福島テルサ　３階　あづま

ウ　報告（ア）平成２６年度スポーツ課事業報告について
　　（イ）平成２６年度公益財団法人福島県体育協会事業報告について

エ　審議（ア）県民の運動・スポーツに関する実態調査集計結果について
　　（イ）福島県スポーツ推進基本計画の推進施策今後の方向性について

(3) 平成26年度福島県スポーツ推進審議会委員

任期：平成26年9月1日～平成28年8月31日

領　域	氏　名	役　職　名	備　考
学識経験者	中　澤　　謙	公立大学法人会津大学文化研究センター上級准教授	
	安　田　俊　広	国立大学法人福島大学人間発達文化学類准教授	
	菊　池　信太郎	医療法人仁寿会菊池医院　院長	
体育団体代表	片　平　俊　夫	公益財団法人福島県体育協会副会長	
	齋　藤　俊　蔵	財団法人福島県障がい者スポーツ協会理事	
	斉　藤　富美子	ＮＰＯ法人福島県レクリエーション協会理事	
	嶋　崎　マサ子	福島県スポーツ推進委員連絡協議会副会長	
	班　目　秀　雄	元ＪＯＣナショナルコーチ（自転車）	
	長　岐　　博	福島県高等学校体育連盟会長	県立田村高等学校長
	鈴　木　訓　夫	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第六中学校長
	齋　藤　道　子	ＮＰＯ法人うつくしまスポーツルーターズ理事	
	山　崎　有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長	
市町村・公益団体	遠　藤　栄　作	福島県町村会副会長	
	原　瀬　久美子	福島県都市教育長協議会会員	
	斎　藤　可　子	福島県商工会議所女性連合会　会長	
公募	遠　藤　ノブ子	ならはスポーツクラブゼネラルマネジャー	
	永　井　隆太郎	ｉ－ｓｔｅｐトレーニングセンター	

第３節　表彰

１　文化功労賞受賞者

科学部門（人文科学）　鈴木　啓
芸術部門（美　　術）　宗像　亮一

（五十音順）

２　第67回福島県文学賞受賞者　（　）本名

(1) 小説・ドラマ部門(4名)

文　学　賞　「石熊村キツネ裁判－三川タイムス取材ノート」　夏　井　芳　徳
準　　賞　「それからの旅」　鶴　賀　イ　チ
奨　励　賞　「やまない雨」　北　城　　駿
（藁谷　貴実人）
青少年奨励賞　「夢見る縁側」　横　田　愛　美

(2)エッセー・ノンフィクション部門(3名)

文　学　賞　「夢の列車はフルドノ発」　野　崎　喜　彦
奨　励　賞　「文江さん」　本　多　貞　夫

奨　励　賞　「折々の心もよう」　宮　嶋　英　子

(3)　詩　部　門(4名)

文　学　賞　「ふくしまという名の舟にゆられて」
木　村　孝　夫

準　　賞　「あること、ないこと」
片　岡　美有季

奨　励　賞　「タイミング」　しわた　る　み
（髙野　由理）

青少年奨励賞　「回想記Ⅲ」　薄　井　はあと

(4)　短　歌　部　門(4名)

文　学　賞　「柳絮とぶ」　鈴　木　恵美子

準　　賞　「いつかは一人」　佐々木　勢津子

奨　励　賞　「あの日から」　齋　藤　久　子

青少年奨励賞　「朝焼けのなか眠る」　相　馬　智　佳

(5)　俳　句　部　門(4名)

文　学　賞　「一匹の蛍」　渡　辺　家　造

準　　賞　「三年目の離郷」　高　野　美　子

奨　励　賞　「父逝きて」　猪　狩　行々子
（猪狩　利一）

青少年奨励賞　「春夏秋冬、キミのとなりで」
茨　木　優　太

3　文化・スポーツ知事感謝状受賞者

文化部門	懸田　弘訓
文化部門	鈴木　瑞之
文化部門	三宅　祐子
スポーツ部門	堀川　直人
スポーツ部門	三井　省三
スポーツ部門	湯田　　厚

（部門別／五十音順）

4　体育・スポーツ関係

(1)　叙勲

氏　名	役　職　名
該当なし	

(2)　文部科学大臣表彰

ア　生涯スポーツ功労者表彰

氏　名	役　職　名
広瀬　敏彦 （郡山市）	福島県バレーボール協会顧問
深谷　秀三 （郡山市）	福島県卓球協会会長

イ　優良団体

団　体　名	代　表　者
該当なし	

ウ　スポーツ推進委員功労者

氏　名	役　職　名
岡田　長次 （浅川町）	浅川町スポーツ推進委員会会長

(3)　スポーツ推進委員表彰

ア　全国スポーツ推進委員連合功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	伊達	伊達市	遠藤　正行
2	安達	二本松市	菅野　力雄
3	郡山	郡山市	嶋崎マサ子
4	岩瀬	須賀川市	石井　文和
5	相馬	相馬市	武島　昭良

イ　全国スポーツ推進委員連合優良団体表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
	伊達	伊達市	伊達地方スポーツ推進委員連絡協議会

ウ　全国スポーツ推進委員連合３０年勤続表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	伊達	伊達市	八巻　源一
2	伊達	伊達市	八巻芙美子
3	伊達	伊達市	小原　公子
4	伊達	伊達市	深谷美江子
5	西白河	泉崎村	大塚　恭一
6	両沼	湯川村	小林　信房
7	相馬	相馬市	武島　昭良
8	双葉	双葉町	石川　榮次

エ　東北地区スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	福島	福島市	林　正直
2	伊達	伊達市	大橋美佐子
3	伊達	国見町	佐藤　辰雄
4	郡山	郡山市	安田　昇
5	岩瀬	鏡石町	橋本　喜一
6	石川	平田村	佐藤　俊光
7	田村	三春町	柳沼　孝則
8	西白河	西郷村	髙橋ひろ子
9	東白川	塙町	古橋　博
10	東白川	矢祭町	長塚　守男
11	耶麻	西会津町	長谷川辰男
12	両沼	会津美里町	長嶺　祥一
13	南会津	南会津町	河原田信弘
14	南会津	南会津町	馬場　要助
15	南会津	下郷町	星　信子
16	相馬	南相馬市	小倉　陽一

オ　福島県スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏　名
1	福島	福島市	安齋　昌幸
2	福島	福島市	後藤　國子
3	福島	福島市	塚本　晴男
4	福島	福島市	笠原日出子
5	福島	福島市	髙野　久夫
6	安達	大玉村	押山　孝雄
7	安達	大玉村	斎藤　昇一
8	岩瀬	須賀川市	佐久間悦子
9	岩瀬	鏡石町	八木　操
10	石川	石川町	岩谷　光利
11	石川	石川町	矢吹タミイ
12	田村	田村市	松本　正弘
13	田村	三春町	渡辺　昭好
14	西白河	白河市	薄井　郁雄
15	西白河	白河市	佐藤　克己
16	西白河	白河市	関戸　忠義
17	西白河	白河市	根本久美子
18	西白河	白河市	南澤　昭
19	西白河	白河市	和知　良正
20	西白河	中島村	吉田　成子
21	北会津	会津若松市	齋藤　貞治
22	北会津	会津若松市	長谷川　文
23	北会津	猪苗代町	渡部　敏弘
24	北会津	猪苗代町	齋藤　陽子
25	耶麻	喜多方市	長谷川圭一
26	耶麻	喜多方市	小沼　孝次
27	耶麻	北塩原村	大竹　文夫
28	両沼	会津坂下町	髙森　正純
29	相馬	相馬市	阿部　弘子
30	相馬	南相馬市	小野田収一
31	双葉	双葉町	西山　賢二
32	いわき	いわき市	関根ユリ子

カ　福島県スポーツ推進委員協議会感謝状贈呈者

No.	支部名	市町村名	氏　　名
1	福島	福島市	山﨑　光彦
2	福島	福島市	髙橋　光子
3	北会津	会津若松市	渡部　芳江

(4) 公益財団法人福島県体育協会表彰

ア 優秀選手賞（個人）

競技名	氏名	所属
陸上競技	青木 沙弥佳	東邦銀行
〃	渡辺 真弓	東邦銀行
〃	千葉 麻美	東邦銀行
〃	武石 この実	東邦銀行
〃	伊藤 彩	福島大学4年
〃	五十嵐 麻央	福島大学4年
〃	吉田 文代	郡山女子大附属高校
〃	渡部 佳朗	喜多方桐桜高校3年
〃	山下 潤	福島高校2年
〃	布川 輝	小高工業高校1年
〃	遠藤 日向	学法石川高校1年
〃	高橋 直生	福島第一中学校2年
〃	佐々木 夢奈	信陵中学校2年
〃	齋藤 珠理	二本松北小学校6年
ソフトテニス	原野 亜衣	住友ゴム工業(株)白河工場
〃	米山 芽玖	住友ゴム工業(株)白河工場
〃	小谷 菜津美	住友ゴム工業(株)白河工場
〃	北野 亮介	西郷第一中学校2年
サッカー	浅野 菜摘	富岡高校2年
〃	北川 ひかる	富岡高校2年
〃	橋沼 真帆	富岡高校2年
〃	大熊 良奈	富岡高校1年
剣道	佐久間 聡	福島県剣道連盟居合道部会
〃	塩見 俊夫	福島県剣道連盟居合道部会
〃	井上 貴宏	福島県剣道連盟居合道部会
水泳	佃野 智哉	鹿島中学校1年
〃	寺田 拓未	湯本高校2年
〃	服部 翼	福島成蹊高校2年
自転車競技	久保田 元気	日本大学4年
〃	緑川 竣一	中央大学4年
〃	中村 滝一	平工業高校3年
〃	近藤 雄一郎	学法石川高校3年
〃	松本 道郎	白河実業高校3年
〃	樋口 晴香	順天堂大学4年
バドミントン	吉田 邦男	ゼビオ郡山西ノ内店
〃	齋藤 勝明	富士通グループ
〃	五十嵐 敏幸	富士通グループ
〃	遠藤 夫美子	福島県バドミントン協会
〃	山川 美佐江	福島県バドミントン協会
〃	永井 香代子	福島県バドミントン協会

競技名	氏名	所属
バドミントン	野尻野 匡世	尚志高校
〃	福本 真恵七	猪苗代中学校2年
〃	仁平 菜月	富岡高校1年
〃	東野 有紗	富岡高校3年
〃	大堀 彩	富岡高校3年
〃	三橋 健也	富岡高校2年
〃	渡辺 勇大	富岡高校2年
〃	古賀 穂	富岡高校3年
ボクシング	村上 真統	平工業高校3年
弓道	根本 久美子	(株)日東発條
〃	蕪木 由紀枝	福島県弓道連盟
体操(新体操)	吉田 和真	猪苗代中学校3年
〃	田中 啓介	喜多方立第二中学校3年
スキー	渡部 剛弘	明治大学3年
〃	星野 純子	チームリステル
〃	長谷部 尚仁	猪苗代高校3年
〃	長谷部 宏仁	猪苗代高校1年
スケート	水澤 彩佳	日本体育大学1年
馬術	杉本 隆雄	Stable FEDERA
ウエイトリフティング	今野 金哉	福島県ウエイトリフティング協会
〃	清野 裕司	福島明成高校
〃	吉田 真弘	デイサービスいしかわ
〃	菅野 真央	早稲田大学3年
〃	佐藤 啓隆	福島工業高校3年
〃	菅野 直人	田村高校3年
〃	宮野 由佳	JA郡山市
レスリング	鈴木 博恵	クリナップ株式会社
〃	田野倉 翔太	クリナップ株式会社
〃	前田 翔吾	クリナップ株式会社
〃	星 翔也	日本体育大学4年
〃	清水 徹	田島高校3年
〃	湯浅 悠人	田島高校2年
銃剣道	淺田 忠治	福島高校1年
〃	冨田 なひろ	福島第四中学校1年
なぎなた	齋藤 俊慧	会津学鳳中学校3年
〃	藤城 瑛人	会津若松市立第三中学校3年
〃	渡部 悠雅	会津若松市立第二中学校3年
〃	古館 佳樹	会津若松市立第二中学校2年
〃	田邉 緋織	会津学鳳中学校3年
〃	星 明里	会津学鳳中学校3年

競技名	氏　名	所　属
なぎなた	笠　間　は　な	会津学鳳中学校3年
〃	古　川　あさひ	会津学鳳中学校3年
〃	佐　藤　佳　依	会津学鳳中学校2年
〃	長谷川　晴　歌	ザベリオ学園中学校3年
〃	藤　田　ら　ら	ザベリオ学園中学校3年
〃	吉　田　天　音	謹教小学校5年
〃	大　竹　優　奈	城北小学校5年
〃	白　石　桃　子	会津学鳳高校3年
〃	遠　藤　紫　乃	会津学鳳高校3年
〃	田　中　　厚	(株)田中スポーツ
〃	松　村　俊　祐	福島県なぎなた連盟
ゴルフ	蛭　田　みな美	学法石川高校2年
カヌー	鈴　木　康　大	(株)久野製作所
〃	國　嶋　　諭	日本体育大学
〃	根　本　孝　幸	川崎市消防局
〃	佐　藤　貴　充	専修大学4年
〃	野　地　裕　太	二本松工業高校3年
〃	小久保　南　海	安達高校2年
〃	高　橋　さやか	野村證券(株)

競技名	氏　名	所　属
トライアスロン	菊　池　日出子	トライアスロンアカデミー福島
〃	長　正　憲　武	福島第一中学校3年
スポーツチャンバラ	本　田　　亮	福島明成高校2年
〃	吉　村　勇　輝	郡山第三中学校1年
福島県障がい者スポーツ協会	佐　藤　健　太	すこやか福祉会
〃	佐　藤　智　美	東邦銀行
〃	半　谷　静　香	福島県立盲学校
〃	佐　藤　　聡	株式会社ダイユーエイト
〃	増　子　恵　美	(公財)福島県障がい者スポーツ協会
福島県中学校体育連盟	瀧　澤　秀　斗	会津若松市立第四中学校3年
〃	佐　藤　皓　人	西袋中学校3年
〃	吉　田　拓　実	小名浜第一中学校3年
〃	筑　後　恵　太	猪苗代中学校3年
〃	金　子　真　大	猪苗代中学校3年
〃	久保田　友之祐	猪苗代中学校3年
〃	髙　橋　明日香	猪苗代中学校3年
〃	由　良　なぎさ	猪苗代中学校3年
〃	永　井　瀬　雰	猪苗代中学校3年
〃	水　井　ひらり	猪苗代中学校2年

イ　優秀指導者賞

競技名	氏　名	所　属
陸上競技	川　本　和　久	福島大学
ソフトテニス	大　竹　咲　絵	浅川中学校
サッカー	松　本　克　典	富岡高校
水泳	志　田　正　弘	スウィン大教スイミングスクールいわき
〃	阿　部　義　之	スポーツアカデミー相馬
〃	八　巻　洋　志	スウィン大教スイミングスクール小名浜
バドミントン	大　堀　　均	富岡高校
〃	本　多　裕　樹	富岡高校
柔道	鈴　木　繁　生	学校法人　昌平黌
弓道	髙　井　幸　子	福島県弓道連盟
体操(新体操)	山　田　智　史	華舞翔新体操倶楽部

競技名	氏　名	所　属
馬術	神　保　太　希	ヘレナ国際乗馬倶楽部
〃	渡　邉　貴　洋	福島明成高校
ウエイトリフティング	長　南　国　彦	福島工業高校
〃	佐久間　勝　彦	ゼビオ(株)
銃剣道	木　村　重　男	福島県銃剣道連盟
ボウリング	伊　藤　　寛	福島県ボウリング連盟
ゴルフ	白　土　岳　子	巨人園
綱引	小　澤　宏　史	東山小学校
福島県中学校体育連盟	小豆畑　隆　則	西郷第一中学校
〃	齋　藤　　亘	猪苗代中学校

ウ　優秀選手賞（団体）

競技名	団　体　名	実　　績	
陸上競技	東邦銀行	第62回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会　4×100mR	第1位
〃	東邦銀行	第98回日本陸上競技選手権大会リレー競技　4×100mR	第1位
〃	東邦銀行	第98回日本陸上競技選手権大会リレー競技　4×400mR	第3位
〃	東邦銀行	第62回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会　女子総合	第1位
ソフトテニス	福島県	第25回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会　女子都道府県対抗戦	第3位
サッカー	福島県	第69回国民体育大会　サッカー競技　女子	第4位
卓球	福卓会	第33回全日本クラブ卓球選手権大会　男子50歳の部	第1位
剣道	福島県	第49回全日本居合道大会(都道府県対抗優勝試合)　団体	第1位
自転車	福島県自転車競技連盟	第69回国民体育大会　自転車競技会　男子4kmチームパーシュート	第4位
バドミントン	富岡高等学校	平成26年度全国高等学校総合体育大会　バドミントン競技　男子学校対抗	第1位
〃	富岡高等学校	平成26年度全国高等学校総合体育大会　バドミントン競技　女子学校対抗	第1位
〃	富岡高等学校	第42回全国高等学校選抜バドミントン大会　男子学校対抗	第2位
〃	富岡高等学校	第42回全国高等学校選抜バドミントン大会　女子学校対抗	第1位
〃	福島県	第69回国民体育大会　バドミントン競技　少年男子	第3位
〃	福島県	第69回国民体育大会　バドミントン競技　少年女子	第1位
〃	猪苗代中学校	第14回全日本中学生バドミントン選手権大会	第1位
柔道	福島県	平成26年度　第45回全国高等学校定時制通信制体育大会第45回柔道大会	第3位
体操(新体操)	華舞翔新体操倶楽部	第32回全日本ジュニア新体操選手権大会	第4位
馬術	福島県	第69回国民体育大会　馬術競技　少年団体障害飛越競技	第2位
〃	福島明成高校	第48回全日本高等学校馬術競技大会	第2位
ウエイトリフティング	チームきびたん	第50回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会	第4位
ボウリング	福島東稜高等学校	第20回文部科学大臣杯争奪全国高等学校対抗ボウリング選手権大会　女子の部	第1位
〃	福島東稜高等学校	第21回文部科学大臣杯争奪全国高等学校対抗ボウリング選手権大会　女子の部	第2位
ゴルフ	福島県	第69回国民体育大会　ゴルフ競技　女子	第3位
綱引	行仁小学校	2014全日本ジュニア綱引選手権大会(ジュニア360kg以下クラス)	第2位
福島県中学校体育連盟	西郷第一中学校	平成26年度全国中学校体育大会第45回全国中学校ソフトテニス大会　男子団体	第2位
〃	猪苗代中学校	平成26年度全国中学校体育大会第44回全国中学校バドミントン大会　男子団体	第2位
〃	猪苗代中学校	平成26年度全国中学校体育大会第44回全国中学校バドミントン大会　女子団体	第1位

エ　スポーツ功労賞

所属団体	氏　　名	市町村名
テニス	笠原　賢二	須賀川市
サッカー	櫻岡　祐一	いわき市
ハンドボール	後藤　義信	郡山市
ラグビーフットボール	鵜沼　秀雄	いわき市
スキー	渡部　孝美	会津若松市
柳津町体育協会	齋藤　玉喜	柳津町

オ　社会体育優良団体賞

所属団体	氏　名	実績等
卓球	須賀川市卓球スポーツ少年団	・1970年に設立以来44年間継続して活動しており、全国大会でも活躍した選手もいる。県南地方の卓球の強化・普及・発展に尽力している。 全日本軟式卓球選手権大会　男子シングルス優勝 平成25年度福島県中体連卓球競技　男子シングルス優勝 平成23年度福島県小中学生学年別卓球選手権大会　中学女子シングルス優勝 福島県総合体育大会　スポーツ少年団の部　4回優勝　他入賞多数 平成25年度全日本クラブ卓球選手権大会　小中学生の部　出場
スキー	柳津町スキークラブ	・特にジュニアの育成に取り組んでおりスキーヤーの底辺拡大を図っている。スポーツ少年団の指導、主催事業にはジュニアカップスラローム大会があり学年別に成績を評価し、スキーに対する意欲を持たせる運営等を行っている。また、ナイターを利用した指導及び大会を開催し、選手の中に全国レベル大会への出場者を輩出している。

カ　特別賞

所属団体	氏　名	実績等
スキー	鈴木猛史 (駿河台大学)	ソチ2014パラリンピック冬季競技大会スキー競技アルペン種目 回転座位　第1位 滑降座位　第3位
バドミントン	富岡高等学校 バドミントン部	東日本大震災の苦難にあっても、バドミントン競技において全国高等学校体育大会、国民体育大会、さらには日本代表として国際大会で顕著な成績をあげている。
バドミントン	猪苗代中学校 富岡第一中学校 バドミントン部	東日本大震災の苦難にあっても、バドミントン競技において全国中学校体育大会等で顕著な成績をあげている。

第４節　文化

１　概要

(1)　文化の振興

ア　文化振興の力による創造的な復興

東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、文化の力による創造的な復興を目指し、平成25年3月に、平成33年度を目標年次とする新たな文化振興基本計画「ふくしま文化元気創造プラン」を策定した。

県民の文化に親しみ交流する機会の創出及び文化活動の発表の場の充実を図るとともに、さまざまな文化資源を活用した地域活性化の取組み促進するなど、芸術文化の振興を図った。

イ　県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう、県総合美術展覧会、県文学賞の内容を充実し、作品の応募の奨励を図るとともに、文化団体が主体となり運営している県芸術祭の充実に努めた。

また、平成27年3月に第8回の声楽アンサンブルコンテスト全国大会を開催した。

ウ　芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

福島県文化振興財団の積極的な自主事業、支援事業の展開により、県民の優れた文化芸術を鑑賞する機会や文化活動に親しむ機会の充実に努めた。

エ　民俗芸能（伝統芸能）の継承及び発展

県内外の避難先等において、地域コミュニティを維持するよりどころとなる地域の祭りや民俗芸能等を確かな形で継続し、かつ、継承できるよう、担い手や後継者の育成、確保に努めた。

オ　文化振興による地域づくり

人と人、人と地域のきずなを強め、地域の復興や活性化、地域づくりにつながるよう、地域の特性や様々な資源を活かした文化振興に努めた。

(2)　福島県文化センターの管理運営

県民の芸術及び文化の振興を図るため設置した福島県文化センターの効率的な運営を図るため、指定管理者に運営を委ねてきた。平成20年に指定した指定管理者の指定期間が平成26年3月31日をもって満了したことから、平成26年4月1日からの5年間の指定管理者について選定を行い、公益財団法人福島県文化振興財団を指定管理者として指定し、運営を委ねることとなった。

２　文化の振興

(1)　芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

ア　第67回福島県文学賞

(ｱ) 趣旨

県民から作品を公募して優秀作品を顕彰し、本県文学の振興と地方文化の進展を図る。

(ｲ) 応募数

小説・ドラマ46点、エッセー・ノンフィクション34点、詩28点、短歌51点、俳句62点、計221点

(ｳ) 受賞者数種別

種別 / 部門	文学賞	準賞	奨励賞	青少年奨励賞	計
小説・ドラマ	1	1	1	1	4
エッセー・ノンフィクション	1	0	2	0	3
詩	1	1	1	1	4
短歌	1	1	1	1	4
俳句	1	1	1	1	4
計	5	4	6	4	19

(ｴ) 審査委員

(小説・ドラマ)

松村　栄子、九頭見和夫、高見沢　功

(エッセー・ノンフィクション)

古川日出男、佐藤　洋一、鴨原　靖彦

(詩)　長田　　弘、長久保鐘多、齋藤　　貢

(短歌) 小池　　光、佐藤　文一、遠藤たか子

(俳句) 黒田　杏子、江井　芳朗、永瀬　十悟

(ｵ) 企画委員

植村　美洋、長谷川　由美、高坂　光憲、小野木正夫、池田　義弘、鎌田　喜之、佐藤　弘美

イ　第68回福島県総合美術展覧会

(ｱ) 趣旨

県内及び県出身者から作品を公募して展覧し、本県美術の振興を図る。

(ｲ) 会期

日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書（５部門１期開催）

平成26年6月20日（金）～6月29日（日）

出品数８６９点　陳列数６８８点

(ｳ) 運営委員

新井　浩、石山信子、伊藤匡、岩崎道弘、遠藤俊博、大沼博文、折笠光助、菊田博、齋藤勝正、酒井昌之、佐川正人、佐々木折柴、佐藤弘美、須藤靖典、長沢誠一、長谷川雄一、秦真龍、濵田清（五十音順）

ウ　第53回県芸術祭

県芸術文化団体連合会が主体となって９月から11月までの３か月間を開催期間として実施した。

(ｱ) 平成26年度福島県芸術祭行事参加状況（主催行事）

区　分	行事名	開催月日	開催場所
開幕行事	第53回福島県芸術祭開幕式典・開幕行事	9月13日	二本松文化センター
全県組織行事	第42回福島県写真展	11月18日～11月24日	福島県文化センター
	第68回福島県合唱コンクール	8月29日～8月31日	会津風雅堂
	第52回福島県吹奏楽コンクール	8月 2日～8月 3日	郡山市民文化文化センター
		8月9日～8月10日	いわき芸術文化交流館アリオス
	第31回福島県「現代吟詠のつどい」in郡山大会	11月15日	郡山中央図書館
	福島県吟剣詩舞道第48回大会	10月25日	福島県文化センター
	第62回福島県短歌祭	10月19日	福島グリーンパレス
	第50回福島県おかあさん合唱祭	10月12日	福島市音楽堂
	第31回福島県声楽協会演奏会	10月11日	郡山女子大学建学記念講堂
	第40回福島県日本画協会展	10月15日～10月19日	福島県文化センター
	第26回福島県篆刻会展	9月22日～9月28日	コラッセふくしま
	第23回福島県日本画連盟展	9月3日～9月7日	福島県文化センター
	第38回福島県版画展	8月27日～8月31日	福島県文化センター
	第38回福島県書道連盟選抜展	10月17日～10月20日	福島県文化センター

	第82回福島県美術協会展	10月31日～11月9日	福島県文化センター
	第51回福島県彫刻会展	10月31日～11月9日	福島県文化センター
	第49回福島県三曲連盟演奏会	11月2日	福島県文化センター
	福島県俳句大会	10月26日	杉妻会館（福島市）
	第37回「詩祭・講演と朗読のつどい」	10月19日	こむこむ(福島市)
	第27回福島市民文化祭川柳大会	9月28日	福島市市民会館
	第30回ふくしま民謡のつどい	9月21日	伊達市ふるさと会館
	福島県書作家連盟第32回展	11月28日～11月30日	福島県文化センター
	第54回福島県書道協会展	11月14日～11月16日	福島県文化センター
	第41回福島県観世流謡曲大会	9月21日	郡山市ミューカルがくと館
	創立30周年記念福島県洋舞の祭典	7月27日	福島県文化センター
	福島県宝生流謡曲大会	10月24日	福島県文化センター
	福島オペラ協会公演	12月7日	福島県文化センター
	27行事		

(ｲ) 参加行事

部門　区分	行事数	出演者数（点）数	来場者数
音楽	15	6,754	20,377
演劇	2	140	700
美術	20	2,519	23,502
文学	2	209	120
舞踊	4	389	1,722
総合	5	5,963	18,324
生活	6	305	1,964
その他	0	0	0
計	54	16,279	66,709

(2) 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業

ア　趣旨

全国的に活躍している本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催し、「合唱王国ふくしま」を全国に発信する。

イ　第8回大会の開催

(ｱ) 期日　平成27年3月19日（木）～22日（日）

(ｲ) 部門　中学校部門・高等学校部門・一般部門

(ｳ) 出演団体数127団体（推薦88団体、公募39団体）

中学校部門　42団体

高等学校部門　42団体

一般部門　43団体

(3) アートによる新生ふくしま推進事業

①森のはこ舟アートプロジェクト（森林文化の活用による地域再生プロジェクト）

ア　趣旨

地域活力の創出と心のケアという視点から福島の復興を促進し、新たな福島のイメージを創造することを目標に、豊かで特色ある福島の森林文化をテーマとしたアートプロジェクトの展開。

イ　実施内容

(ｱ) フォーラム

1回開催、参加者数　150名

(ｲ) 喜多方プロジェクト

4プログラム開催、参加者数　750名

(ｳ) 西会津プロジェクト

3プログラム開催、参加者数　827名

(ｴ) 三島プロジェクト

5プログラム開催、参加者数1,506名

②アーティスト×学校プロジェクト

ア　趣旨

福島の未来を担う子どもたちに、アートに触れてもらい、心豊かな成長と創造する場を与えるため、各学校等において児童・生徒対象のワークショップを開催。

イ　実施内容

(ｱ) 「キャラクターを作ろう！楽園の絵」

実施校　4校、参加者数　185名

(ｲ) 「出会いの形～作ることはモノとコトと出会うこと～」

実施校　8校、参加者数　345名

(ｳ) 子どもたちの制作した作品展示

日時：12月9日～1月12日

場所：県立美術館企画展示室

(4) 「地域のたから」伝統芸能承継事業

ア 趣旨

祭りの力で地域に活力をもたらすため、県内外の地域伝統芸能の公演等を行う。

イ 実施内容

(ｱ) 会場：福島市

(ｲ) 期日：平成26年10月4日（土）～10月5日（日）

(ｳ) 参加団体：県外1団体、県内19団体、計20団体

(ｴ) 来場者数:21,000人

(ｵ) 内容

［地域伝統芸能公演］

被災地の団体や子どもが演じ手となっている団体を中心となって伝統芸能を披露

［代表者交流会］

専門家による「民俗芸能団体の現状報告」及び各団体が抱える問題点について情報を交換

［担い手交流事業］

専門家による演技指導及び子ども同士の交流

(5) 文化で元気！「新生ふくしま」グランドステージ事業

ア 趣旨

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等を積極的に誘致することにより、県民の心の復興とともに観客の増加を図り、いきいきとした県民の姿を通して“新生ふくしま”を全国に発信し、更なる文化振興を図る。

イ 実施内容

交付 14件（公演 12件 展覧会 2件）

第５節 生涯学習

１ 概要

いつでも、どこでも、だれでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会、すなわち生涯学習社会を目指し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)」を運営・推進し、県民の学習活動を支援した。

また、福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

東日本大震災は、地震、津波、原子力災害、風評被害と日本がこれまで経験したことのない複合災害であり、これらかつてない体験、記録、記憶、教訓を次世代に継承することが必要であることから、資料の収集及び保存等を行った。

さらに、子どもたちが、地域の現状やふくしまの未来について考え、新聞にまとめＨＰ等を活用し、県内外に発信する「ジャーナリストスクール」や、ふくしまのよさや夢・希望等について、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送等の中で自分の声で発信する「パーソナリティアカデミー」を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

２ 生涯学習の推進体制

(1) 福島県生涯学習審議会の開催

第１回

日時 平成27年2月5日(木)

場所 福島県自治会館 ３階 ３０３会議室

内容 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

３ 生涯学習情報提供及び啓発

(1) 県民カレッジ(ふくしま学習空間・夢まなびと)の推進

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「県民カレッジ（ふくしま学習空間・夢まなびと)」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

ア 生涯学習情報提供システムの整備・運営

県内各地域における様々な生涯学習関連情報をインターネットにより一元的かつ体系化して提供し、県民の生涯学習活動を支援した。

アクセス状況 311,735件

ホームページアドレス

http://www.yumemanabito.jp

イ インターネットによる講座の配信

・ｅーラーニングふくしま学習チャンネル

・ほっとHug（子育てに関する映像コンテンツ）

県民がいつでもどこでも学べるインターネットによる講座を配信した。

8分類 169コンテンツ

ウ 連携講座

県と市町村、高等教育機関、民間事業者、ＮＰＯ等市民団体の学習実施機関とが連携し、様々な講座を体系化し、提供した。

連携機関 138団体 （注）未確定、おって修正

提供講座数 690講座 します。

４ 生涯学習による復興応援

(1) 生涯学習による復興応援事業の実施

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業等を実施した。

ア 地域コミュニティ再生のための県民講座

日時　平成27年11月
会場　県内4箇所
参加人数　127名

5　復興を担う子どもたちの育成

(1)　ふるさと「ふくしま」の学び事業（ジャーナリストスクール）

子どもたち（小学校高学年～高校生）が、復興に向けてがんばる本県の現状や地域の文化、自然などについて取材し、地域のおかれている現状や、「ふくしま」の未来について考え、新聞にまとめ、ＨＰなどを活用し県内外に発信した。

日時　平成26年7月23日(水)～25日(金)(２泊３日)
場所　いわき市生涯学習プラザ
　　福島県いわき海浜自然の家
参加者数　受講者33名
特別講師　ジャーナリスト・東京工業大学教授
　　池上彰氏
講師　県立相馬高校　武内教諭
　　福島民報社及び福島民友新聞社の協力

(2)　ふるさと「ふくしま」の学び事業（パーソナリティアカデミー）

子どもたち（小学校高学年～中学生）が、ふくしまのよさや夢・希望等について、ふくしまにゆかりのある方々にインタビューし、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送の中で自分の声で、その思いやふくしまの「いま」を発信した。

①ラジオ福島
日時　平成27年1月10日(土)～11日(日)
場所　ラジオ福島（福島市）
参加者数　受講者11名
特別講師　元女子モーグル日本代表　上村愛子氏

②ふくしまＦＭ
日時　平成27年1月17日(土)～18日(日)
場所　ふくしまＦＭ（郡山市）
参加者数　受講者9名
特別講師　ロックバンド　音速ライン

第６節　スポーツ

1　概　　要

今年度も本県出身、あるいは本県にゆかりのある選手が、とりわけジュニア世代が世界の舞台で活躍を見せた。

まず、バドミントンロシアオープン女子シングルスで大堀彩選手（富岡高３年）が優勝し２連覇を果たし、浅野菜摘選手（富岡高２年）・北川ひかる選手（富岡高２年）・橋沼真帆選手（富岡高２年）・大熊良奈選手（富岡高１年）がＦＩＦＡＵ－１７ワールドカップコスタリカ大会に派遣され優勝メンバーとなった。また、陸上競技の山下潤選手（福島高２年）は男子２００ｍで第２回ユースオリンピックアジア地域予選において優勝を飾り、本大会でも６位に入賞を果たした。さらには、バドミントン競技で富岡高校の５選手（古賀穂（３年）、渡辺勇大（２年）、三橋健也（２年）、大堀彩（３年）、東野有紗（３年））が世界ジュニア選手権大会に派遣され３位入賞を果たし、本県ゆかりの桃田賢斗選手（ＮＴＴ東日本）がトマス杯での日本チーム優勝に貢献した。冬季競技では渡部剛弘選手（明治大３年）がユニバーシアードノルディック複合団体で２位に入賞した。その他の競技でも、中・高校生を中心に国際大会に参加し、若い世代が世界の舞台で活躍するとともに、スポーツの力で県民に勇気や元気を与えた。

スポーツの振興については、平成22年3月に福島県スポーツ振興基本計画を策定したが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化したこと、また、国が平成23年8月にスポーツ基本法を制定、平成24年3月にスポーツ基本計画を策定したことを踏まえ、平成25年3月に福島県スポーツ推進基本計画（ふくしまスポーツ元気創造プラン）への見直しを行った。本計画は、３０年後を展望しながら、平成25年度を初年度とする８年間のスポーツ振興の指針となるもので、それを基に各種事業を展開している。

生涯スポーツに関しては、平成14年度にあづま総合体育館内に「うつくしま広域スポーツセンター」を、Ｊヴィレッジ内に「浜通り広域スポーツセンター」を、平成15年度には、玉川村たまかわ文化体育館内に「中通り広域スポーツセンター」を、平成16年度には、会津若松市ふれあい広場ふれあい体育館内に「会津広域スポーツセンター」を設置した。その後、平成17年度に「うつくしま広域スポーツセンター」を(財)福島県体育協会内に、平成18年度に「浜通り広域スポーツセンター」を富岡町教育支援センターにそれぞれ移転し、県内４つの広域スポーツセンターが中心となり、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成・定着を図ってきた。現在は、２つの広域スポーツセンターが支援をしている。

競技力向上に関しては、本県競技力の維持・向上を図るために、ジュニア期からの長期的・計画的な指導を行う「競技力向上総合システム」の構築に向け、うつくしまスポーツキッズ発掘事業や「陸上王国福島」パワーアップ事業等の事業を実施し、一貫指導体制の確立を図っているところである。また、ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業を新規で立ち上げ、国際的な競技力向上を見据えた支援事業を開始した。

2　生涯スポーツ・競技スポーツの振興

○　生涯スポーツ

県民の誰もが、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢、興味関心、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現するため、「ふくしまスポーツ元気創造プラン」に基づき、各種事業を展開した。

（１）ふくしまからスポーツ発信・全国大会誘致事業

県民のスポーツ活動を推進するとともに、災害からの復興

にも大きく寄与するスポーツ大会及びレクリエーション大会の本県開催を支援するため、大会主催者に予算の範囲内で補助金を交付した。

（２）スポーツ振興推進の整備充実

①うつくしま広域スポーツセンター事業

県内２つの広域スポーツセンターにより、総合型地域スポーツクラブの創設・育成・定着及び広域市町村圏のスポーツ活動を支援した。

また、福島県版の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会である「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン」を平成22年3月7日に設立し、クラブのネットワーク化を図り、魅力あるクラブを目指し活動を開始した。

②公益財団法人福島県スポーツ振興基金助成事業

ア　スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保と充実に対する事業への助成

イ　生涯スポーツの振興に対する事業への助成

ウ　スポーツ施設の整備と活用に対する事業への助成

エ　その他基金の目的を達成するために必要な事業への助成

③第６８回全国レクリエーション大会２０１４福島の開催

平成２６年９月１９日（金）～２１日（日）に県内１８市町村において４６種目を開催。天候に恵まれ、全国４６都道府県から延べ３６．９１９人が参加した。

④県総合体育大会県民スポーツ大会の開催

第６７回福島県総合体育大会県民スポーツ大会を７地区において実施し、参加者は３，０７９名であった。

（３）県スポーツ推進委員協議会研修会等の開催

県スポーツ推進委員協議会の研修大会への支援を通じ、スポーツ推進委員の資質の向上を図った。

ア　福島県スポーツ推進委員研究大会

１０月２３日（金）２４日（土）本宮市

イ　女性スポーツ推進委員研修会６月　４日（木）郡山市

ウ　新任スポーツ推進委員研修会６月１８日（木）郡山市

○　競技スポーツ

本県選手が国際大会や各種全国大会において活躍し、好成績を収めることを目的に、(公財)福島県体育協会をはじめ、関係競技団体等と連携し、競技力向上体制の整備はもとより、指導者の養成・確保及び選手の育成・強化などに加え、発掘から強化までの一貫指導体制の確立を目指し、各種事業の推進に努めた。特に、ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業は、①スタートダッシュミーティング、②交流事業、③ふれあい教室、④マルチサポート事業により世界で活躍が期待できる選手を支援するとともに、⑤トップコーチ養成事業により日本を代表して戦う選手が育成されるスポーツ環境の整備を目指して今年度より開始した。また、「陸上王国福島」パワーアップ事業では、平成２２年度から３年間取り組んだ「陸上王国福島」基盤整備事業の成果を活用し諸事業を実施した。加えて、今年度に本県で開催された「日本陸上競技選手権大会」を契機としてトップアスリート陸上教室を行い、陸上競技をツールに子どもたちの体力向上と心身の健康、将来の日本一の陸上選手誕生を目指し事業を展開した。さらには、本県のお家芸と言われた競技の選手と指導者の両面を重点的に強化して競技力を回復させ、福島のスポーツ環境の復活の象徴とする「スポーツ環境復興緊急対策事業」を実施した。

(1)　スポーツ団体の状況

ア　公益財団法人福島県体育協会（平成２６年度）役員一覧

役職	氏名	備考	役職	氏名	備考
顧問	佐藤　雄平	県知事	理事	森崎　俊紘	県トライアスロン協会副会長
会長	宗形　守敏	県ハンドボール協会名誉会長	理事	石田　洵	県バスケットボール協会長（途中辞任）
副会長	片平　俊夫	福島陸上競技協会長	理事	須佐　喜夫	県テニス協会長
副会長	御代田公男	いわき市体育協会長	理事	深谷　秀三	県卓球協会長
副会長	長岐　博	県高等学校体育連盟会長	理事	千葉　忠孝	県北地域連合会副会長
副会長	佐藤　金正	学識経験者（県議会議員）	理事	櫻井　和朋	県南地域連合会長
専務理事	廣瀬　敬彦	県スポーツ課長	理事	大橋　哲男	会津地域連合会長
常務理事	佐藤　祀男	県バレーボール協会長	理事	貝田　美郎	南会津地域連合会長
常務理事	山本　和子	県なぎなた連盟理事長	理事	草野　清貴	相双地域連合会長
常務理事	安藤　喜勝	県中地域連合会長	理事	菊池　辰夫	学識経験者（県医師会）（途中辞任）
常務理事	星　本文	県スポーツ少年団本部長	理事	甚野源次郎	学識経験者（県議会議員）
常務理事	佐々木祐司	県中学校体育連盟会長	理事	紺野　長人	学識経験者（県議会議員）
常務理事	白石　豊	学識経験者（大学）	監事	佐藤　英壽	県スケート連盟会長
理事	渡部　孝美	県スキー連盟会長	監事	壱岐ひろみ	県水泳連盟会長
理事	太田　豊秋	県馬術連盟会長・県クレー射撃協会名誉会長	監事	渡邉　幹夫	外部

イ　公益財団法人福島県体育協会加盟団体の登録状況

(ｱ)　競技・種目団体

団体名	登録人数	団体名	登録人数	団体名	登録人数
福島陸上競技協会	5594	体操協会	330	ゲートボール協会	3696
野球連盟	18150	スキー連盟	516	少林寺拳法連盟	925
ソフトテニス連盟	10372	スケート連盟	39	トランポリン協会	69
テニス協会	2320	馬術連盟	50	オリエンテーリング協会	58
サッカー協会	12733	ソフトボール協会	6356	パワーリフティング協会	21
ハンドボール協会	2036	バレーボール協会	10283	ダンススポーツ連盟	840
卓球協会	9233	ウエイトリフティング協会	114	武術太極拳連盟	1120
剣道連盟	6139	レスリング協会	131	綱引連盟	335
ボート協会	164	フェンシング協会	58	トライアスロン協会	261
水泳連盟	1919	山岳連盟	15	グラウンドゴルフ協会	5745
自転車競技連盟	120	銃剣道連盟	1566	野球協会	774
ホッケー協会	124	クレー射撃協会	50	テコンドー協会	43
相撲連盟	87	セーリング連盟	43	バウンドテニス協会	379
ライフル射撃協会	110	空手道連盟	794	ハング・パラグライディング連盟	87
バスケットボール協会	11983	アーチェリー協会	160	スポーツチャンバラ協会	725
バドミントン協会	5951	なぎなた連盟	151	インディアカ協会	475
ボクシング連盟	37	アイスホッケー連盟	199	障がい者スポーツ協会	－
柔道連盟	3108	ボウリング連盟	252		
弓道連盟	2621	ゴルフ連盟	533		
ラグビーフットボール協会	737	カヌー協会	104	合　計	130835

（イ）福島県スポーツ少年団

平成26年9月末日　現在

	市町村	団数	指導者数			団員数			
			計	男	女	計	小	中	高
	県北支部								
1	福島市	153	901	720	181	2,956	2,250	685	21
2	川俣町	11	71	63	8	187	134	53	0
3	桑折町	7	53	48	5	141	119	18	4
4	伊達市	42	281	223	58	890	655	234	1
5	国見町	6	52	44	8	150	127	22	1
6	二本松市	42	358	281	77	957	751	201	5
7	大玉村	5	36	33	3	114	114	0	0
8	本宮市	29	215	180	35	583	483	86	14
	計	295	1,967	1,592	375	5,978	4,633	1,299	46
	県中支部								
9	郡山市	135	1,070	925	145	3,136	2,604	486	46
10	三春町	12	113	100	13	219	195	23	1
11	小野町	11	49	42	7	186	172	10	4
12	田村市	30	279	221	58	587	467	118	2
13	須賀川市	39	277	229	48	916	684	206	26
14	鏡石町	9	51	44	7	264	213	50	1
15	天栄村	2	22	15	7	79	68	11	0
16	石川町	9	69	58	11	180	175	4	1
17	玉川村	5	35	27	8	123	58	65	0
18	平田村	7	55	42	13	99	91	7	1
19	浅川町	4	49	39	10	136	136	0	0
20	古殿町	3	21	18	3	47	43	4	0
	計	266	2,090	1,760	330	5,972	4,906	984	82
	県南支部								
21	棚倉町	16	110	88	22	352	273	78	1
22	塙町	10	61	52	9	157	98	58	1
23	矢祭町	3	12	10	2	66	35	31	0
24	鮫川村	2	21	19	2	37	37	0	0
25	白河市	50	349	275	74	987	688	298	1
26	西郷村	21	109	93	16	355	227	127	1
27	中島村	5	24	24	0	88	73	15	0
28	矢吹町	7	61	52	9	185	185	0	0
29	泉崎村	5	52	47	5	119	83	36	0
	計	119	799	660	139	2,346	1,699	643	4

※ 今年度の登録数は、東日本大震災の被害県に対する日本スポーツ少年団登録の特別措置（平成22年度登録をしている場合、今年度の登録申請ができなくともスポーツ少年団活動は通常通り認めること）により、相双地区10市町村と川俣町山木屋地区および田村市都路地区は平成22年度の登録数と同様になる。

	市町村	団数	指導者数			団員数			
			計	男	女	計	小	中	高
	会津支部								
30	会津若松市	66	485	383	102	1,612	1,148	409	55
31	磐梯町	5	21	15	6	95	72	20	3
32	猪苗代町	13	193	161	32	501	401	93	7
33	会津坂下町	16	109	73	36	383	270	111	2
34	湯川村	6	30	30	0	111	83	28	0
35	柳津町	1	36	29	7	163	84	79	0
36	会津美里町	13	95	71	24	333	255	76	2
37	三島町	4	18	13	5	99	72	27	0
38	金山町	1	15	14	1	38	19	14	5
39	喜多方市	50	315	242	73	1,179	836	324	19
40	北塩原村	4	39	33	6	111	68	43	0
41	西会津町	7	40	34	6	140	109	31	0
	計	186	1,396	1,098	298	4,765	3,417	1,255	93
	南会津支部								
42	南会津町	24	190	161	29	638	427	207	4
43	下郷町	8	52	39	13	156	116	39	1
44	桧枝岐村	1	5	5	0	20	17	3	0
45	只見町	7	48	40	8	111	70	41	0
	計	40	295	245	50	925	630	290	5
	相双支部								
46	広野町	1	61	50	11	130	106	24	0
47	楢葉町	8	50	40	10	129	97	32	0
48	富岡町	17	117	98	19	383	271	104	8
49	川内村	4	13	8	5	70	34	36	0
50	大熊町	9	67	61	6	357	249	103	5
51	双葉町	8	70	63	7	186	107	78	1
52	浪江町	22	111	104	7	413	288	122	3
53	葛尾村	1	18	13	5	38	30	7	1
54	新地町	11	98	86	12	255	162	93	0
55	相馬市	35	188	164	24	710	440	270	0
56	南相馬市	76	409	326	83	1,370	993	342	35
57	飯舘村	6	24	23	1	122	83	39	0
	計	198	1,226	1,036	190	4,163	2,860	1,250	53
	いわき支部								
58	いわき市	165	738	548	190	3,084	2,288	779	17
	平成26年度合計	1,269	8,511	6,939	1,572	27,233	20,433	6,500	300
	平成25年度	1,332	8,813	7,322	1,491	31,084	23,943	6,848	293
	比較	-63	-302	-383	81	-3,851	-3,510	-348	7

ウ　スポーツ安全協会傷害保険加入状況

この傷害保険は、スポーツ及び社会教育活動の普及・振興に寄与することを目的として、昭和46年に事業を開始して以来、現在（2015年2月）では約28万団体、903万人が加入する世界に類のない大型保険である。本県の加入者は、5,532団体、147,702人で全人口の7.6%となっている。誰でも安心してスポーツ活動や社会教育活動に親しむことができるよう、なお一層普及に力を注いでいく必要がある。

(2)　第67回福島県総合体育大会

東日本大震災の影響などにより、一部開催できない競技種目があったものの、国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等、スポーツ少年団大会及び県民スポーツ大会の三本柱の形で開催することができた。

本大会は、本県最大のスポーツイベントで国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等５２競技、スポーツ少年団体育大会１８競技、県民スポーツ大会７地域９競技を２８市町村で実施した。

ア　国体・東北総体選手選考会

No.	競技名	開催市町村	期日	会場	参加人数
1	陸上競技	郡山市	7/10（木）～13（日）	開成山陸上競技場	1,215
2	軟式野球	白河市	6/21（土）～22（日） 28（日）	グリーンスタジアム	374
				ブルースタジアム	
3	ソフトテニス	会津若松市	7/5（土）～6（日）	会津総合運動公園テニスコート（成年）	854
			7/12（土）～13（日）	会津総合運動公園テニスコート（少年）	
4	テニス	福島市	7/5（土）～6（月）	福島市営庭球場・十六沼公園テニスコート（成年）	826
		天栄村	7/5（土）～7（月）	羽鳥湖高原ﾚｼﾞｰﾅの森ﾃﾆｽｺｰﾄ（少年男女）	
5	サッカー	福島市	7/26（土）～27（日）	十六沼公園サッカー場（成年男女）	288
		相馬市	8/3（日）	相馬光陽サッカー場（壮年）	
6	ハンドボール	本宮市	7/5（土）～7（月）	本宮市総合体育館・白沢体育館	637
7	卓球	いわき市	7/10（木）～12（土）	いわき市立総合体育館（少年）	854
			7/13（日）	いわき市立総合体育館（成年・壮年・教職員）	
8	剣道	郡山市	6/8（日）	西部第二体育館（成年男女・高齢者）	816
		いわき市	6/28（土）～29（日）	いわき市総合体育館（少年）	
9	ボート	喜多方市	6/13（金）～15（日）	県営荻野漕艇場	209
10	水泳	いわき市	7/26（土）～27（日）	いわき市民プール（競泳）	681
		郡山市		郡山カルチャーパークプール（飛込）	
11	自転車競技	泉崎村	7/10（木）～11（金）	泉崎国際サイクルスタジアム（ﾄﾗｯｸ）（少年男子）	122
			7/12（土）	泉崎国際サイクルスタジアム（ﾄﾗｯｸ）（少男以外）	
		西郷村	7/13（日）	東京女子医大ｾﾐﾅｰﾊｳｽ発着周回ｺｰｽ（ﾛｰﾄﾞ）	
12	ホッケー	棚倉町	7/13（日）	ルネサンス棚倉多目的広場	117
13	相撲	会津坂下町	7/13（日）	会津坂下町立中央相撲場	105
14	ライフル射撃	福島市	7/12（土）	県警察学校拳銃射撃場（ＣＰ）	167
		二本松市	7/13（日）	二本松市総合射撃場（ＣＰ以外）	
15	バスケットボール	福島市	7/11（金）～14（月）	国体記念体育館・福島市内高等学校体育館	1,548
16	バドミントン	いわき市	7/17（木）～19（土）	いわき市立総合体育館（少年）	686
			7/19（土）～20（日）	いわき市立総合体育館（成年）	
17	ボクシング	伊達市	7/11（金）～13（日）	伊達市保原体育館	81
18	柔道	会津若松市	7/13（日）	鶴ヶ城体育館	491
19	弓道	会津若松市	7/4（金）～6（日）	あいづ総合運動公園・河東弓道場（弓道場）	563
		郡山市	7/13（日）	開成山弓道場（成年）	
20	ラグビーフットボール	郡山市	5/24（土）～25（日） 5/30（金）～31（土）	熱海サッカー場（少年）	537
		福島市	6/15（日） 22（日）・29（日）	あづま総合運動公園ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ広場（成年）	
		いわき市		鮫川河川敷グラウンド（成年）	
21	体操	福島市	7/12（土）	あづま総合体育館（体操競技：成年）	283
			7/11（金）～12（土）	あづま総合体育館（体操競技：少年）	
			7/18（金）～19（土）	国体記念体育館（新体操）	

No.	競技名	開催市町村	期日	会場	参加人数
22	スキー	猪苗代町	平成27年 1/17（土）～20（火）	猪苗代スキー場（アルペン） 猪苗代町クロスカントリーコース（クロカン）	454
23	スケート	郡山市	12/7（日） 12/13（土）	磐梯熱海アイスアリーナ（フィギュア） 磐梯熱海ｽﾎﾟｰﾂﾊﾟｰｸ郡山ｽｹｰﾄ場（スピード）	82
24	馬術	いわき市	5/31（土）～6/1（日）	ヘレナ国際乗馬倶楽部	86
25	ソフトボール	白河市	6/14（土）～15（日）・21（土）	東風の台運動公園（成年男子）	1,189
		棚倉町	6/21（土）	棚倉運動広場（成年女子）	
		郡山市	7/12（土）～13（日）	ふるさとの森スポーツパーク（少年男子） 大槻公園スポーツ広場・西部スポーツ広場（少年女子）	
26	バレーボール	会津若松市	7/10（木）～12（土） 7/12（土）～13（日）	あいづ総合体育館・葵高等学校体育館 若松商業高等学校体育館（少年男女） あいづ総合体育館（成年男女）	1,207
27	ウエイトリフティング	三春町	7/12（土）～13（日）	田村高等学校格技場	151
28	レスリング	南会津町	7/12（土）～13（日）	田島高等学校体育館	99
29	フェンシング	川俣町	7/12（土）～13（日）	川俣町体育館	119
30	山岳	福島市	6/22（日）	あづま総合運動公園	100
31	銃剣道	郡山市	5/11（日）	郡山駐屯地体育館	164
32	クレー射撃	二本松市	7/20（日）	二本松市総合射撃場	48
33	セーリング	いわき市	7/12（土）～13（日）	小名浜港（釜の前）	32
34	空手道	下郷町	7/6（日）	下郷町大川ふるさと公園ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	167
35	アーチェリー	三春町	7/12（土）～13（日）	三春町営運動場	96
36	なぎなた	会津若松市	7/13（日）	河東総合体育館	181
37	アイスホッケー	郡山市	11/22（土）～23（日）	磐梯熱海アイスアリーナ	177
38	ボウリング	郡山市	5/18（日）	ボウルアピア郡山	67
39	ゴルフ	いわき市	6/3（火）	会津磐梯カントリークラブ	99
40	カヌー	二本松市	6/1（日） 6/8（日）	阿武隈川島山コース（ｽﾗﾛｰﾑ・ﾜｲﾙﾄﾞｳｫｰﾀｰ） 阿武隈漕艇場（スプリント）	96
41	ゲートボール	三春町	8/31（日）	三春町営運動場	239
42	少林寺拳法	須賀川市	6/29（日）	須賀川アリーナ	271
43	トランポリン	須賀川市	7/5（土）	須賀川アリーナ	79
44	オリエンテーリング	二本松市	7/13（日）	岳温泉鏡ケ池公園	55
45	パワーリフティング	福島市	11/16（日）	あづま総合運動公園陸上競技場トレーニング室	30
46	ダンススポーツ	川俣町	7/6（日）	川俣町体育館	93
47	武術太極拳	福島市	10/4（土）～5（日）	国体記念体育館	125
48	トライアスロン	中止	中止	中止	
49	綱引	南相馬市	7/13（日）	南相馬市スポーツセンター	178
50	グラウンド・ゴルフ	会津若松市	7/18（金）	会津総合運動公園多目的広場	504
51	バウンドテニス	伊達市	7/13（日）	霊山体育館	111
52	ﾊﾝｸﾞ・ﾊﾟﾗｸﾞﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	田村市	8/30（土）	仙台平	37
53	スポーツチャンバラ	福島市	7/6（日）	国体記念体育館	236
54	テコンドー	中止	中止	中止	

イ　スポーツ少年団体育大会

No.	競技名	開催市町村	期日	参加人員	参加人数
1	軟式野球	白河市	6/14（土）～15（日）	グリーンスタジアム（小学生）	195
				ブルースタジアム（小学生）	
				表郷天狗山球場（小学生）	
		西郷村		西郷村民野球場（小学生）	
		白河市	6/28（土）～29（日）	ブルースタジアム（中学生）	
2	ソフトテニス	会津若松市	6/29（日）	会津総合運動公園テニスコート	458
3	テニス	郡山市	8/2（土）～3（日）	郡山市庭球場	198
4	卓球	いわき市	7/13（日）	いわき市立総合体育館	322
5	剣道	郡山市	8/3（日）	西部体育館	320
6	自転車競技	泉崎村	7/12（土）	泉崎国際サイクルスタジアム（ﾄﾗｯｸ）	30
		西郷村	7/13（日）	東京女子医大ｾﾐﾅｰﾊｳｽ発着周回ｺｰｽ（ﾛｰﾄﾞ）	
7	バスケットボール	須賀川市	7/19（土）～20（日）	須賀川アリーナ（小学生の部）	1,132
		郡山市		西部体育館（小学生の部）	
		南相馬市	8/2（土）～3（日）	南相馬市スポーツセンター（中学生の部）	
8	柔道	いわき市	9/7（日）	いわき市立南部アリーナ	209
9	ラグビーフットボール	福島市	9/15（月）	あづま総合運動公園第２多目的広場	183
10	体操	福島市	7/12（日）～13（月）	あづま総合体育館（体操競技）	245
			7/19（土）～20（日）	国体記念体育館（新体操）	
11	スキー	金山町	平成27年 1/17（土）～18（日）	フェアリーランドかねやま（アルペン）	460
		猪苗代町	平成27年 1/16（金）～18（日）	猪苗代町クロスカントリーコース（クロカン）	
12	スケート	郡山市	12/7（日）	磐梯熱海アイスアリーナ（フィギュア）	112
			12/13（土）	磐梯熱海ｽﾎﾟｰﾂﾊﾟｰｸ郡山ｽｹｰﾄ場（スピード）	
13	ソフトボール	須賀川市	5/31（土）～6/1（日）	須賀川市民スポーツ広場（女子）	431
		田村市	6/7（土）～8（日）	田村市総合運動公園（男子）	
14	バレーボール	会津若松市	7/26（土）～27（日）	あいづ総合体育館　他	884
15	フェンシング	川俣町	7/12（土）～13（日）	川俣町体育館	92
16	なぎなた	会津若松市	7/13（日）	河東総合体育館	231
17	レスリング	南会津町	7/12（土）	田島高等学校体育館	88
18	スポーツチャンバラ	福島市	7/6（日）	国体記念体育館	127

ウ　県民スポーツ大会

地区	開催市町村	競技名	開催期日	参加人員	参加人数
県北	福島市	壮年ソフトボール	7/13(日)	十六沼公園スポーツ広場	629
		卓球	7/12(土)	東部体育館	
		ソフトテニス	7/13(日)	十六沼公園テニスコート	
		バドミントン	7/13(日)	西部体育館	
		家庭バレーボール	7/27(日)	十六沼体育館・平野中学校体育館	
		テニス	7/20(日)	福島市庭球場	
県中	須賀川市	壮年ソフトボール	8/24(日)	須賀川市民スポーツ広場	707
		ソフトテニス	8/31(日)	須賀川牡丹台庭球場	
	鏡石町	バドミントン		鏡石町営鳥見山体育館	
	須賀川市	家庭バレーボール		須賀川アリーナ	
県南	棚倉町	壮年ソフトボール	8/17(日)	棚倉運動広場	450
		卓球		棚倉町総合体育館卓球場	
		ソフトテニス		ルネサンス棚倉屋外テニスコート	
		バドミントン		棚倉町総合体育館アリーナ	
		家庭バレーボール			
会津	会津若松市	壮年ソフトボール	8/3(日)	会津総合運動公園多目的広場	500
	磐梯町	卓球		磐梯町民体育館	
	会津若松市	ソフトテニス		会津総合運動公園あいづドーム	
	猪苗代町	バドミントン		猪苗代町総合体育館	
	会津若松市	家庭バレーボール		河東総合体育館	
	磐梯町	テニス		磐梯町民テニスコート	
南会津	南会津町	壮年ソフトボール	8/31(日)	びわのかげ運動公園ソフトボール場	332
		フットサル		田島中学校体育館	
		ゴルフ	9/7(日)	会津高原たかつえカントリークラブ	
	只見町	家庭バレーボール	8/31(日)	只見町民体育館	
	下郷町	グラウンド・ゴルフ		大川ふるさと公園多目的芝生広場	
相双	相馬市	壮年ソフトボール	8/3(日)	二の丸球場・長友グラウンド	352
		卓球		松川浦スポーツセンター	
		ソフトテニス		角田公園テニスコート	
		バドミントン		スポーツアリーナそうま	
		家庭バレーボール		中村第一中学校体育館	
いわき	いわき市	壮年ソフトボール	8/10(日)	好間多目的広場	648
		ソフトテニス		平テニスコート	
		家庭バレーボール		平体育館	
		グラウンド・ゴルフ		いわき陸上競技場	

(3) 第４１回東北総合体育大会

第４１回東北総合体育大会は、福島県内８市８町２村、宮城県内２町で開催された。

本県選手団は、本部役員１５名、監督･選手８９４名が参加した。今回は、震災以降４年ぶりに総体形式での実施となり、陸上競技、テニス、自転車競技、馬術、バドミントン、弓道、銃剣道、クレー射撃、なぎなたの９競技で総合優勝を果たした。

主会期　平成２６年８月２２日(金)～２４日（日）

No.	競技名	競技期間	派遣場所		派遣人数
1	水泳（水球）	８／２～３	宮城県柴田町	ヒルズ県南総合プール	12
2	ボート	７／１８～２０	喜多方市	県営荻野漕艇場	41
3	カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）	７／２５～２６	二本松市	阿武隈漕艇場（島山コース）	5
	カヌー（スプリント）	８／２	二本松市	阿武隈漕艇場	13
4	ボウリング	７／１１～１３	郡山市	ボウルアピア郡山	16
5	ゴルフ	７／１６～１７	西郷村	グランディ那須白河ゴルフクラブ	4
6	陸上競技	８／３０～３１	福島市	とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）	81
7	サッカー	８／７～１０	福島市	とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）	49
8	テニス	８／１６～１７	会津若松市	会津総合運動公園テニスコート	8
9	ホッケー	８／２１～２４	棚倉町	ルネサンス棚倉多目的広場	65
10	ボクシング	８／２２～２４	伊達市	伊達体育館	13
11	バレーボール	８／２９～３１	福島市	あづま総合体育館 福島市国体記念体育館	52
12	体操競技	８／２３～２４	福島市	あづま総合体育館	25
	新体操	８／２２～２３	福島市	あづま総合体育館	8
13	バスケットボール	８／１５～１７	福島市	あづま総合体育館	51
14	レスリング	８／３０～３１	南会津町	田島高校体育館	20
15	ウエイトリフティング	８／２３～２４	福島市	福島明成高校体育館	20
16	ハンドボール	８／１４～１７	石川町	石川町総合体育館 学法石川高校体育館	52

17	自転車（トラック）	8／22～23	泉崎村	泉崎国際サイクルスタジアム	24
	自転車（ロード）	8／24	石川町 浅川町	石川町・浅川町周回コース	
18	ソフトテニス	8／30～31	福島市	あづま総合運動公園テニスコート	27
19	卓球	8／21～23	猪苗代町	猪苗代町総合体育館	20
20	軟式野球	8／23～24	郡山市 本宮市	開成山野球場 しらさわグリーンパーク野球場	16
21	相撲	8／30～31	郡山市	郡山相撲場	14
22	馬術	8／5～7	福島市	福島競馬場	9
23	フェンシング	8／22～24	川俣町	川俣町体育館	11
24	柔道	8／23～24	郡山市	郡山総合体育館	20
25	ソフトボール	8／21～24	福島市	福島市十六沼公園スポーツ広場	54
26	バドミントン	8／21～22	福島市	福島市国体記念体育館	16
27	弓道	8／23～24	郡山市	開成山弓道場	14
28	ライフル射撃	8／22～24	二本松市	二本松市総合射撃場（ライフル射撃場）	15
29	剣道	8／23	二本松市	二本松市城山総合体育館	22
30	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ（成年）	8／21 ・23～24	福島市	福島市信夫ヶ丘総合運動公園 信夫ヶ丘陸上競技場	35
	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ（少年）	8／21～22 ・24	福島市	福島市信夫ヶ丘総合運動公園 信夫ヶ丘陸上競技場	
31	山岳	7／25～27	福島市	あづま総合運動公園内	12
32	アーチェリー	8／23～24	三春町	町営運動場	14
33	空手道	8／23～24	下郷町	大川ふるさと公園コミュニティセンター	16
34	銃剣道	8／24	須賀川市	須賀川アリーナ	7
35	クレー射撃	8／23～24	二本松市	二本松市総合射撃場（クレー射撃場）	6
36	なぎなた	8／23～24	会津若松市	会津若松市河東総合体育館	7
38	アイスホッケー	12／6～7 12／13～14	郡山市	磐梯熱海アイスアリーナ	37

(4) 国民体育大会

ア　第６９回国民体育大会

第６９回国民体育大会において、本県は、冬季・本大会に５６７名の選手団を派遣し、男女総合成績第３４位８２３点、女子総合２９位４７１．５点の成績であった。

陸上競技を始め、レスリング、ウエイトリフティング、バドミントン、カヌー競技で優勝者を輩出するなど活躍が見られ、昨年度の３５位より順位を１つ上げ３０位台前半の成績を収めた。

なお、参加状況、競技成績については、下記のとおりである。

（ア）　参加状況

区分／大会		会期	開催地	団長	参加競技数	派遣人数 役員	監督	選手	合計
冬季大会	スケート アｲｽﾎｯｹｰ競技会	H26. 1/28(火) ～2/2(日)	栃木県 日光市	佐藤　英壽	2	8	6	35	49
冬季大会	スキー競技会	H26. 2/21(金) ～2/24(月)	山形県 山形市 上山市	渡部　孝美	1	11	10	49	70
本大会		H26. 10/12(日) ～10/22(水) (会期前競技：9/11(木)～14(日))	長崎県 長崎市 他	宗形　守敏	34	18	62	368	448

（イ）　競技成績

区分／大会	天皇杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位	皇后杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位
スケート競技会	16点	10点	26.0点	19位	10点	10点	20点	20位
ｱｲｽﾎｯｹｰ競技会	5点	10点	15.0点	11位	－	－	－	－
ｽｷｰ競技会	7.5点	10点	17.5点	16位	6.5点	10点	16.5点	12位
本大会	394.5点	370点	764.5点	32位	155点	280点	435点	31位
合計	423点	400点	823点	34位	171.5点	300点	471.5点	29位

（ウ）　入賞状況

a　冬季大会

スケート競技	競技得点　16点		天皇杯　19位		皇后杯　20位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
少年男子	スピード　1500m	7	2	渡邉　晟	郡山商業高等学校	3年
少年男子	スピード　2000mR	5	4	水澤　拓海	安積高等学校	2年
				鈴木　大地	安積高等学校	1年
				鈴木　瑞騎	郡山商業高等学校	1年
				渡邉　晟	郡山商業高等学校	3年
少年女子	スピード　1500m	1	8	水澤　彩佳	郡山商業高等学校	3年
少年女子	スピード　3000m	7	2	水澤　彩佳	郡山商業高等学校	3年

アイスホッケー競技	競技得点 5点	天皇杯 11位			
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		8	5	伏島 祐司	郡山第一中学校 教員
				木俵 史章	小高工業高等学校 教員
				大内 康裕	ゼビオ㈱
				笠原 裕二郎	ゼビオ㈱
				中村 卓矢	ゼビオ㈱
				本間ジェフリー	ゼビオ㈱
				西間木 渉	アムリタ㈱
					郡山三穂田温泉
				鈴木 克幸	アムリタ㈱
					郡山三穂田温泉
				佐藤 大起	郡山地域広域
					郡山消防本部
				佐藤 永和	明治大学 3年
				鈴木 博敦	東京消防庁
					野方消防署
				橋本 圭介	八戸学院大学 4年
				鈴木 秀宜	札幌大学 4年
				後藤 佑亮	東北福祉大学 3年
				中村 和平	㈱ネクスコ・パトロール
					東北福島事業所
				佐藤 秀広	八戸学院大学 4年

スキー競技	競技得点 7.5点	天皇杯 16位		皇后杯 12位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女子	Aジャイアントスラローム	5	4	綱代 慈子	東海大学 4年
成年女子	Bジャイアントスラローム	7	1.5	竹林 奈々子	リゾートトラスト㈱
少年女子	ジャイアントスラローム	10	1	猪俣 美彩	猪苗代高等学校 3年
少年男子	ジャイアントスラローム	10	1	長谷部 尚仁	猪苗代高等学校 2年

※スキー競技における少年男女の得点は、上位に３名の同道県の選手がいたため、繰り上がりで得点した。

b 本大会

水泳競技	競技得点 8点	天皇杯 38位		皇后杯 38位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	A200mバタフライ	3	6	寺田 拓未	湯本高等学校 2年
成年男子	飛板飛込	7	2	西川 友章	清陵情報高等学校 教員

ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ競技	競技得点 46点	天皇杯 10位			
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	53kg級スナッチ	2	7	吉田 真弘	デイサービスいしかわ
	53kg級C&J	1	8	吉田 真弘	デイサービスいしかわ
	62kg級スナッチ	4	5	黒江 雄治	川俣高等学校 職員
	62kg級C&J	6	3	黒江 雄治	川俣高等学校 職員
少年男子	94kg級スナッチ	2	7	佐藤 啓隆	福島工業高等学校 3年
	94kg級C&J	1	8	佐藤 啓隆	福島工業高等学校 3年
	105kg級スナッチ	7	2	菅野 直人	田村高等学校 3年
	105kg級C&J	3	6	菅野 直人	田村高等学校 3年

陸上競技	競技得点 54点	天皇杯 13位		皇后杯 10位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女子	100m	2	7	渡辺 真弓	東邦銀行
	400m	3	6	千葉 麻美	東邦銀行
	走幅跳	1	8	五十嵐 麻央	福島大学 4年
	ハンマー投げ	4	5	佐藤 若菜	東邦銀行
	女子共通4×100mR	8	1	渡辺 真弓	東邦銀行
				千葉 麻美	東邦銀行
				新田 彩	日大東北高等学校 2年
				小杉 恵理	会津学鳳高等学校 1年
少年男子	A400mH	2	7	渡部 佳朗	喜多方桐桜高等学校 3年
	Aやり投	7	2	村澤 雄平	会津学鳳高等学校 3年
	B3000m	1	8	遠藤 日向	学法石川高等学校 1年
	B砲丸投	2	7	布川 輝	小高工業高等学校 1年
少年女子	B100m	6	3	小杉 恵理	会津学鳳高等学校 1年

サッカー競技　競技得点　40点　天皇杯　11位　皇后杯　4位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
女子		4	40	平出遥夏	日本体育大学	3年
				植田悠莉子	富岡高等学校	2年
				橋沼真帆	富岡高等学校	2年
				森田海	富岡高等学校	2年
				中條結依	富岡高等学校	2年
				水谷有希	富岡高等学校	3年
				北川ひかる	富岡高等学校	2年
				守屋都弥	富岡高等学校	3年
				渡辺瑞稀	国士舘大学	2年
				須永愛海	仙台大学	2年
				立花葉	富岡高等学校	2年
				今野楓	富岡高等学校	3年
				五十嵐香月	国士舘大学	1年
				千葉玲海菜	平第三中学校	3年
				猪狩有莉	富岡高等学校	2年

ボクシング競技　競技得点　17点　天皇杯　17位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男子	バンタム級	5	2.5	伊藤悠樹	郡山自衛隊	
	ライト級	5	2.5	遠藤智秀	東洋大学	科目履修生
少年男子	バンタム級	5	2.5	髙橋烈	会津工業高等学校	3年
	ライトウェルター級	2	7	村上真統	平工業高等学校	3年
	ウェルター級	5	2.5	五ノ井一幸	会津工業高等学校	2年

レスリング競技　競技得点　19.5点　天皇杯　24位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男子	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ85kg級	2	7	星翔也	日本体育大学	4年
	ﾌﾘｰｽﾀｲﾙ65kg級	1	4.5	前田翔吾	クリナップ（株）	
少年男子	ﾌﾘｰｽﾀｲﾙ74kg級	5	2.5	我妻志比古	田島高等学校	2年
	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ66kg級	3	5.5	湯浅悠人	田島高等学校	2年

※前田翔吾の１位４．５点は、準々決勝で競技終了となったため。

自転車競技　競技得点　27点　天皇杯　10位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男子	ケイリン	8	1	金内一行	中央大学	3年
	ポイントレース	4	5	緑川竣一	中央大学	4年
少年男子	1kmタイム・トライアル	8	1	中村滝一	平工業高等学校	3年
	ポイントレース	6	3	渡辺将太	白河実業高等学校	3年
	ケイリン	7	2	伊藤近	平工業高等学校	3年
男子	4kmチーム・パーシュート	4	15	緑川裕也	日本大学	2年
				我妻優弥	日本大学	4年
				緑川竣一	中央大学	4年
				久保田元気	日本大学	4年

馬術競技　競技得点　27点　天皇杯　10位　皇后杯　15位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
成年男子	馬場馬術	4	5	杉本隆雄	東北馬事センター	
	自由演技馬場馬術	3	6	杉本隆雄	東北馬事センター	
	六段障害飛越	8	1	吉田賢人	東北馬事センター	
成年女子	馬場馬術	7	2	杉本晃美	東北馬事センター	
	自由演技馬場馬術	7	2	杉本晃美	東北馬事センター	
少年	標準障害飛越	6	3	杉本葵生	富里高等学校	3年
	トップスコア	8	1	杉本葵生	富里高等学校	3年
	団体障害飛越	2	7	杉本葵生	富里高等学校	3年
				鈴木駿	福島商業高等学校	3年
				杉本瑞生	富里市立富里北中学	3年

フェンシング競技　競技得点　3点　天皇杯　23位　皇后杯　16位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
少年男子	フルーレ	8	3	髙橋恋	川俣高等学校	2年
				佐藤真春	川俣高等学校	2年
				廣瀬新	福島高等学校	1年

相撲競技　競技得点　0点　天皇杯　13位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属	
少年男子	個人戦	4	0	志賀秀登	相馬農業高等学校	2年

※個人戦は獲得得点なし

ソフトボール競技	競技得点 40点	天皇杯 12位	皇后杯 8位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		5	20	菅野 崇	（有）岡田屋製麺工場
				星野 嵩幸	国士舘大学 2年
				小林 大記	福島市スポーツ振興公社
				鈴木 常聖	中京学院大学 1年
				長谷川 雅人	（株）デンソー福島
				鈴木 恭平	福島県商工信用組合
				門馬 聡	城西大学 4年
				平井 恭史郎	協和ボーリング（株）
				今泉 信吾	若松第一高等学校 教員
				深谷 輝樹	（株）東洋食品機械
				菅野 智春	しらいわ接骨院
				大河原 維章	大宗建設（株）
成年女子		5	20	原田 真由美	静甲（株）
				猪井 玲那	関東学園大学 3年
				石田 奈々	（株）豊田自動織機
				宮川 眞子	早稲田大学 1年
				遠藤 千夏	東京国際大学 2年
				町野 瑛	葵高等学校 教員
				廣野 好美	富士大学 2年
				秋山 麻美	東海理化（株）
				井塚 千尋	東海理化（株）
				矢内 麻美	西郷第一中学校 教員
				鈴木 結璃奈	冨士システムズ（株）
				内村 さお里	太田看護学校 3年
				鴫原 涼夏	東京国際大学 1年

バドミントン競技	競技得点 42点	天皇杯 3位	皇后杯 2位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子		3	18	古賀 穂	富岡高等学校 3年
				渡辺 勇大	富岡高等学校 2年
				三橋 健也	富岡高等学校 2年
少年女子		1	24	大堀 彩	富岡高等学校 3年
				東野 有紗	富岡高等学校 3年
				川上 紗恵奈	富岡高等学校 2年

カヌー競技	競技得点 35点	天皇杯 13位	皇后杯 18位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	1	8	鈴木 康大	（株）久野製作所
少年男子	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	1	8	野地 裕太	二本松工業高等学校 3年
少年男子	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ200m	2	7	野地 裕太	二本松工業高等学校 3年
少年女子	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ500m	4	5	小久保 南海	安達高等学校 2年
少年女子	ｶﾔｯｸｼﾝｸﾞﾙ200m	2	7	小久保 南海	安達高等学校 2年

空手道競技	競技得点 7.5点	天皇杯 20位	皇后杯 13位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	形	4	5	佐藤 競	勿来工業高等学校 2年
少年女子	組手	5	2.5	井芹 麻美	学法福島高等学校 3年

なぎなた競技	競技得点 6点	天皇杯 16位	皇后杯 16位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年女子	演技	7	6	佐藤 里咲	会津若松ザベリオ学園高等学校 2年
				栗城 桃	会津学鳳高等学校 3年
				白石 桃子	会津学鳳高等学校 3年

ボウリング競技	競技得点 6点	天皇杯 24位	皇后杯 19位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	個人	5	4	伊藤 丈	(株)東北装美
	個人	7	2	林 勇介	(株)プロスタイル

ゴルフ競技		競技得点 16.5点		天皇杯 10位	皇后杯 3位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
女子		3	16.5	髙久あずさ	東北福祉大学 2年
				蛭田みな美	学法石川高等学校 2年
				岩城杏奈	学法石川高等学校 2年

※同打数３位のため競技得点は16.5点

トライアスロン競技					
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女子		2	0	菊池日出子	トライアスロンアカデミー福島

※トライアスロン競技は公開競技のため競技得点なし

高校野球競技（硬式）					
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	硬式	5	0	船迫大雅	聖光学院高等学校３年
				高野光輝	聖光学院高等学校３年
				安田光希	聖光学院高等学校３年
				藤原一生	聖光学院高等学校３年
				栁沼健太郎	聖光学院高等学校３年
				石垣光浩	聖光学院高等学校３年
				八百板卓丸	聖光学院高等学校３年
				伊三木駿	聖光学院高等学校３年
				飯島翼	聖光学院高等学校３年
				今泉慶太	聖光学院高等学校２年
				佐藤翼	聖光学院高等学校３年
				佐藤都志也	聖光学院高等学校２年
				山口優	聖光学院高等学校３年
				原田元気	聖光学院高等学校３年
				藤田理志	聖光学院高等学校２年
				梅田誉大	聖光学院高等学校３年

※高校野球競技は公開競技のため競技得点なし

(5) 各種共催行事（スポーツ課関係）

行事名	主催者名	場所
第６７回福島県総合体育大会	福島県総合体育大会実行委員会	県内各地
第２６回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会	福島民報社	白河市～福島市
第９８回日本陸上競技選手権大会	日本陸上競技連盟	とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）

イ　第７０回国民体育大会

第７０回国民体育大会冬季大会スケート競技会では、男女総合成績第２０位、スキー競技会では男女総合第１８位の成績を収め、冬季大会における男女総合成績は、第２７位で本大会に引き継いだ。

（ア）　参加状況

区分／大会		会期	開催地	団長	参加競技数	派遣人数 役員	監督	選手	合計
冬季大会	スケート・アイスホッケー競技会	H27. 1/28(水)～2/1(日)	群馬県 前橋市 渋川市 高崎市	佐藤　英壽	2	11	5	33	49
冬季大会	スキー競技会	H27. 2/20(金)～2/23(月)	群馬県 片品村	渡部　孝美	1	9	10	45	64

（イ）　競技成績

区分／大会	天皇杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位	皇后杯 競技得点	参加得点	得点合計	順位
スケート競技会	13点	10点	23.0点	20位	6点	10点	16点	18位
アイスホッケー競技会	0点	10点	10.0点	13位	—	—	—	—
スキー競技会	6点	10点	16.0点	18位	5点	10点	15点	14位
合計	19.0点	30点	49.0点	27位	11.0点	20点	31.0点	20位

（ウ）　入賞状況

a　冬季大会

スケート競技　　競技得点　１３点　　天皇杯　２０位　　皇后杯　１８位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	スピード　1000m	8	1	古川　耀	山梨学院大学　４年
成年女子	スピード　1500m	6	3	水澤彩佳	日本体育大学　１年
	スピード　2000mR	7	2	吾妻　優	山梨学院大学　４年
				渡邉　唯	山梨学院大学　４年
				古川幸樹	ノボノルディスクファーマ(株)
				水澤彩佳	日本体育大学　１年
少年男子	スピード　1000m	6	3	鈴木大地	安積高等学校　２年
	スピード　2000mR	6	3	水澤拓海	安積高等学校　３年
				鈴木大地	安積高等学校　２年
				増子建紀	郡山商業高等学校　２年
				古川　徹	郡山商業高等学校　１年
少年女子	スピード　500m	8	1	増子楓佳	熱海中学校　３年

スキー競技　　競技得点　６点　　天皇杯　１８位　　皇后杯　１４位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年女子	Bジャイアントスラローム	4	5	兼子佳代	東山温泉スキークラブ
少年男子	クロスカントリーリレー	8	1	渡部　颯	会津工業高等学校　３年
				鈴木健大	猪苗代高等学校　３年
				星　水月	南会津高等学校　２年
				鈴木　蓮	会津工業高等学校　２年

(6)平成26年度国際大会出場選手一覧

平成26年4月1日～平成27年3月31日

No.	競技名	出場大会名	氏　名 (所　属)	開催場所	期　間	種目・成績	出身校等
1	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	古賀 穂 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体 3位 男子シングルス 2回戦 混合ダブルス 3回戦	
2	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	三橋 健也 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体 3位 2回戦	
3	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	渡辺 勇大 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体3位 男子ダブルス 2回戦 混合ダブルス 3位	
4	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	大堀 彩 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体 3位 女子シングルス 3位	
5	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	東野 有紗 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体 3位 女子ダブルス 4回戦 混合ダブルス 3位	
6	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	仁平 菜月 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	女子シングルス 準々決勝	
7	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	大堀 彩 (富岡高校)	東京	6／10～13	女子シングルス予選1回戦	
8	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	仁平 菜月 (富岡高校)	東京	6／10～13	女子シングルス予選2回戦	
9	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	東野 有紗 (富岡高校)	東京	6／10～13	混合ダブルス本戦2回戦	
10	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	古賀 穂 (富岡高校)	東京	6／10～13	リザーブ	
11	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	三橋 健也 (富岡高校)	東京	6／10～13	リザーブ	
12	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	渡辺 勇大 (富岡高校)	東京	6／10～13	混合ダブルス本戦2回戦	
13	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	西 豊 (富岡高校)	東京	6／10～13	混合ダブルス予選1回戦	
14	バドミントン	ヨネックスオープンジャパン2014	野尻野匡代 (尚志高校コーチ)	東京	6／10～13	女子シングル予選1回戦	
15	バドミントン	スラバヤカップ2014	大堀 彩 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	一般女子シングル1位	
16	バドミントン	スラバヤカップ2014	渡辺 勇大 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 男子ダブルス1位	
17	バドミントン	スラバヤカップ2014	三橋 健也 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 男子ダブルス1位	
18	バドミントン	スラバヤカップ2014	川上 紗恵奈 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 女子シングルス1位	
19	バドミントン	スラバヤカップ2014	大堀 彩 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 女子ダブルス1位	
20	バドミントン	スラバヤカップ2014	東野 有紗 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 女子ダブルス1位	

21	バドミントン	スラバヤカップ2014	渡辺 勇大 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 混合ダブルス1位	
22	バドミントン	スラバヤカップ2014	東野 有紗 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-19 混合ダブルス1位	
23	バドミントン	スラバヤカップ2014	仁平 菜月 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-17 女子ダブルス1位	
24	バドミントン	スラバヤカップ2014	吾妻 咲弥 (富岡高校)	インドネシア (スラバヤ)	4／29～5／4	U-17 女子ダブルス1位	
25	ゴルフ	PGM世界ジュニアゴルフ選手権大会	蛭田みな美 (学法石川高校)	アメリカ サンディエゴ	7／15～18	3位	
26	カヌー	カヌースプリント世界選手権	鈴木 康大 (久野製作所)	ロシア モスクワ	8／6～10	1000m K2 準決勝7位 5000m K1 決勝24位	
27	バドミントン	オーストラリアオープン	大堀 彩 (富岡高校)	オーストラリア シドニー	6／24～29	女子シングルス1回戦	
28	バドミントン	台湾オープン	大堀 彩 (富岡高校)	台湾 台北	7／15～20	女子シングルス1回戦	
29	バドミントン	ロシアオープン	大堀 彩 (富岡高校)	ロシア ウラジオストク	7／22～27	女子シングルス第1位	
30	バドミントン	ベトナムオープン	大堀 彩 (富岡高校)	ベトナム ホーチミン	9／1～7	女子シングルス第2位	
31	バドミントン	韓国オープングランプリ	大堀 彩 (富岡高校)	韓国 全州	11／2～9	女子シングルスベスト16	
32	バドミントン	台湾オープン	東野 有紗 (富岡高校)	台湾 台北	7／15～20	女子ダブルス1回戦	
33	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	筑後 恵太 (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U17男子シングルス1回戦 U17男子ダブルス2回戦 U17ミックスダブルス ベスト8	
34	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	金子 真大 (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U17男子シングルス2回戦 U17男子ダブルス2回戦 U17ミックスダブルス2回戦	
35	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	髙橋 明日香 (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U17女子シングルス ベスト8 U17ミックスダブルス ベスト8	
36	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	永井 瀬雰 (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U17女子シングルス3回戦 U17ミックスダブルス2回戦 U17女子ダブルス ベスト8	
37	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	由良なぎさ (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U17女子ダブルス ベスト8	
38	バドミントン	アジアジュニアU17・15選手権2014	水井ひらり (猪苗代中学校)	タイ バンコク	11／11～15	U15女子シングルス第3位 U15ミックスダブルス1回戦 U15女子ダブルス第3位	
39	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	筑後 恵太 (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		
40	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	金子 真大 (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		
41	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	髙橋 明日香 (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		

42	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	永井 瀬雰 (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		
43	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	由良なぎさ (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		
44	バドミントン	バドミントンシンガポールユースインターナショナル2014	水井ひらり (猪苗代中学校)	シンガポール	11／17～23		
45	陸上	仁川アジア大会	千葉 麻美 (東邦銀行)	韓国 仁川	10／2	女子4×400mR 2位	
46	カヌー	仁川アジア大会	鈴木 康大 (久野製作所)	韓国 仁川	10／27～29	男子スプリント・カヤックペア 1000メートル 4位	
47	陸上	第2回ユースオリンピック競技大会	山下 凜 (福島高校)	中国 南京	8／22～24	男子200m 6位	
48	サッカー	FIFA U-17 WOMEN'S WORLD CUP COSTA RICA 2014	浅野 菜摘 (富岡高校)	コスタリカ	3／15～4／4	1位	JFAアカデミー福島
49	サッカー	FIFA U-17 WOMEN'S WORLD CUP COSTA RICA 2014	北川 ひかる (富岡高校)	コスタリカ	3／15～4／4	1位	JFAアカデミー福島
50	サッカー	FIFA U-17 WOMEN'S WORLD CUP COSTA RICA 2014	橋沼 真帆 (富岡高校)	コスタリカ	3／15～4／4	1位	JFAアカデミー福島
51	サッカー	FIFA U-17 WOMEN'S WORLD CUP COSTA RICA 2014	大熊 良奈 (富岡高校)	コスタリカ	3／15～4／4	1位	JFAアカデミー福島
52	ウエイトリフティング	2014年世界ジュニアウエイトリフティング選手権大会	近内 三孝 (日本大学)	ロシア カザン	6／21～29	男子62kg級 9位	
53	ウエイトリフティング	2014年世界マスターズウエイトリフティング選手権大会	清野 裕司 (福島明成高校教諭)	デンマーク コペンハーゲン	8／30～9／6	M50 105kg級 4位	
54	ウエイトリフティング	2014年世界マスターズウエイトリフティング選手権大会	今野 金哉	デンマーク コペンハーゲン	8／30～9／6	M65 77kg級 5位	
55	ウエイトリフティング	第22回日・韓・中ジュニア交流競技会 ウエイトリフティング競技	佐藤 啓隆 (福島工業高校)	岩手県	8／26～27	男子94kg級 3位	
56	ハンドボール	第5回 女子ユースハンドボール世界選手権大会	鈴木 沙弥香 (日本体育大学)	マケドニア	7／18～8／4	14位	学法福島高校卒
57	陸上	仁川2014アジアパラ競技大会	佐藤 智美 (東邦銀行)	韓国 仁川	10／18～24	女子100m T13 2位	
58	柔道	仁川2014アジアパラ競技大会	半谷 静香 (県立盲学校)	韓国 仁川	10／18～24	女子48kg級 3位	
59	水泳	仁川2014アジアパラ競技大会	佐藤 健太 (社会福祉法人すこやか福祉会)	韓国 仁川	10／18～24	50m自由形 4位 100m背泳ぎ 2位 100m自由形 2位 100mバタフライ 4位	
60	自転車	ジュニアアジア選手権大会	中村 滝一 (平工業高校)	カザフスタン	5／21～6／1	男子3000m個人追い抜き 4位	
61	陸上	マウントサック・リレー大会	佐藤 若菜 (東邦銀行)	カルフォルニア州 ウォルナット	4／18	女子ハンマー投げ・1位	
62	陸上	世界リレー大会	渡辺 真弓 (東邦銀行)	ナッソー バハマ	5／24～25	4×100mリレー 予選6着44" 66	

63	レスリング	アジア選手権	鈴木 博恵 （クリナップ）	カザフスタン アスタナ	4／26	女子75kg級・3位	
64	レスリング	ヤデガー・イマム国際大会	田野倉 翔太 （クリナップ）	イラン テヘラン	1／23～24	男子グレコローマンスタイル59kg級・12位	
65	レスリング	モンゴルオープン国際大会	鈴木 博恵 （クリナップ）	モンゴル ウランバートル	3／1～2	女子75kg級・1位	
66	レスリング	世界学生選手権	星 翔也 （日本体育大学）	ハンガリー ペーチ	7／11～12	男子グレコローマンスタイル85kg級・9位	
67	レスリング	ゴールデンGP決勝大会	鈴木 博恵 （クリナップ）	アゼルバイジャン バクー	7月26日	女子75kg級・1位	
68	レスリング	世界選手権	鈴木 博恵 （クリナップ）	ウズベキスタン タシュケント	9／10～12	女子75kg級・7位	
69	レスリング	ドミトリ・コーキン国際大会	前田 翔吾 （クリナップ）	ロシア ヤクーツク	10／4～5	男子フリースタイル65kg級・2位	
70	陸上	第2回ユースオリンピック競技大会アジア予選	山下 潤 （福島高校）	タイ バンコク	5／22	男子200m・1位	
71	自転車	2014UCIジュニアトラック世界選手権大会	中村 滝一 （平工業高校）	大韓民国 ソウル	8／8～12	男子スクラッチ・6位	
72	車椅子バスケットボール	仁川2014アジアパラ競技大会	佐藤 聡 （(株)ダイユーエイト）	韓国 仁川	10／18～24	2位	
73	車椅子バスケットボール	世界車椅子バスケットボール選手権大会	増子 恵美 （(公財)福島県障がい者スポーツ協会）	カナダ			
74	バドミントン	第13回世界学生バドミントン選手権大会	齋藤 太一 （早稲田大学）	スペイン コルドバ	7／24～29	団体ベスト8 男子ダブルス 2回戦 混合ダブルス 3回戦	富岡高校卒
75	バドミントン	第13回世界学生バドミントン選手権大会	松居 圭一郎 （日本体育大学）	スペイン コルドバ	7／24～29	団体ベスト8 男子ダブルス 3回戦 混合ダブルス 3回戦	富岡高校卒
76	バドミントン	第13回世界学生バドミントン選手権大会	髙木 美季 （日本体育大学）	スペイン コルドバ	7／24～29	団体ベスト8 女子シングルス 3回戦 女子ダブルス 3回戦	富岡高校卒
77	バドミントン	第13回世界学生バドミントン選手権大会	篠田 未来 （専修大学）	スペイン コルドバ	7／24～29	団体ベスト8 女子ダブルス 第2位 混合ダブルス 3回戦	富岡高校卒
78	バドミントン	第13回世界学生バドミントン選手権大会	浦谷 夏未 （専修大学）	スペイン コルドバ	7／24～29	団体ベスト8 女子ダブルス 第2位 混合ダブルス 3回戦	尚志高校卒
79	バドミントン	韓国ジュニアオープン	三橋 健也 （富岡高校）	韓国 金泉市	12／8～14	U19男子ダブルス 1位	
80	バドミントン	韓国ジュニアオープン	渡辺 勇大 （富岡高校）	韓国 金泉市	12／8～14	U19男子ダブルス 1位 U19混合ダブルルス 1位	
81	バドミントン	韓国ジュニアオープン	川上 紗恵奈 （富岡高校）	韓国 金泉市	12／8～14	U19女子シングルス 1位	
82	バドミントン	韓国ジュニアオープン	仁平 菜月 （富岡高校）	韓国 金泉市	12／8～14	U19女子シングルス 2位	
83	バドミントン	韓国ジュニアオープン	内山 智尋 （富岡第一中学校）	韓国 金泉市	12／8～14	U15女子シングルス 2回戦	

84	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第1戦	星野 純子 (リステル)	フィンランド ルカ	12／13	7位	新潟大→リステル
85	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第2戦	星野 純子 (リステル)	カナダ カルガリー	1／3	12位	新潟大→リステル
86	スキー	FISノルディックコンバインド・サマーグランプリ	渡部 剛弘 (明治大学3年)	ドイツ オーストリア	12／7	HS－98/10km 13位 HS－137/10km 38位 HS－137/15km 27位	猪苗代高校卒
87	スキー	FISノルディックコンバインド・コンチネンタルカップ第1戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	アメリカ ドイツ	12／1～23		猪苗代高校卒
88	スキー	FISコンチネンタルカップ第1戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	ノルウェー スウェーデン	1／5～20		猪苗代高校卒
89	ソフトテニス	第2回 世界ジュニア選手権大会	原野 亜衣 (ダンロップ)	インド アメーダバード	11／21～23	U－21女子シングルス 第2位 U－21女子ダブルス 第3位	
90	スキー	ユニバーシアード冬季大会 複合種目	渡部 剛弘 (明治大学3年)	スロバキア ストラブスケプレソ	1／24～1／31	ノルディック複合個人 第5位 ノルディック複合団体 第2位	猪苗代高校卒
91	スキー	ノルディック世界選手権 複合種目	渡部 剛弘 (明治大学3年)	スウェーデン ファルン	2／8～3／1		猪苗代高校卒
92	自転車	アジアジュニア選手権	渡邉 歩 (学法石川高校)	タイ ナコンラチャシマ	2／10	ロードレース 23位	
93	レスリング	国別対抗戦 ワールドカップ	鈴木 博恵 (クリナップ)	ロシア	3／7～8	女子75kg級代表 日本チーム 第1位	
94	バドミントン	オランダジュニア選手権2015	川上 紗恵奈 (富岡高校)	オランダ ハーレム	2／25～3／1	女子シングルス 1位	
95	バドミントン	オランダジュニア選手権2015	仁平 菜月 (富岡高校)	オランダ ハーレム	2／25～3／1	女子シングルス ベスト8	
96	バドミントン	オランダジュニア選手権2015	渡辺 勇大 (富岡高校)	オランダ ハーレム	2／25～3／1	男子ダブルス 1位 混合ダブルス 3位	
97	バドミントン	オランダジュニア選手権2015	三橋 健也 (富岡高校)	オランダ ハーレム	2／25～3／1	男子ダブルス 1位 男子シングルス 4回戦	
98	バドミントン	ドイツジュニア選手権2015	川上 紗恵奈 (富岡高校)	ドイツ ベルリン	3／5～8	女子シングルス ベスト8	
99	バドミントン	ドイツジュニア選手権2015	仁平 菜月 (富岡高校)	ドイツ ベルリン	3／5～8	女子シングルス 3位	
100	バドミントン	ドイツジュニア選手権2015	渡辺 勇大 (富岡高校)	ドイツ ベルリン	3／5～8	男子ダブルス 3位 混合ダブルス 1位	
101	バドミントン	ドイツジュニア選手権2015	三橋 健也 (富岡高校)	ドイツ ベルリン	3／5～8	男子シングルス 2回戦 男子ダブルス 3位	
102	バドミントン	第50回ポルトガル国際	大堀 彩 (富岡高校)	ポルトガル	3／5～8	女子シングルス 2位	
103	バドミントン	スイスオープン2015	大堀 彩 (富岡高校)	スイス	3／10～15	女子シングルス 1回戦	
104	スキー	障がい者スキー世界選手権大会	鈴木 猛史 (駿河台大学職員)	カナダ パノラマ	3／4～3／11	男子座位回転第1位 男子座位滑降第9位 男子座位スーパー複合第6位	猪苗代高校卒

105	サッカー	ラ・マンガU-23女子国際大会	増矢 理花 (INAC神戸)	スペイン ラマンガ	2／26～3／2	VSアメリカ 0－1敗戦 VSスウェーデン 2－3敗戦 VSノルウェー 1－0勝利	JFAアカデミー福島
106	サッカー	ラ・マンガU-23女子国際大会	三宅 史織 (INAC神戸)	スペイン ラマンガ	2／26～3／2	VSアメリカ 0－1敗戦 VSスウェーデン 2－3敗戦 VSノルウェー 1－0勝利	JFAアカデミー福島
107	サッカー	ラ・マンガU-23女子国際大会	浜田 遥 (ベガルタ仙台)	スペイン ラマンガ	2／26～3／2	VSアメリカ 0－1敗戦 VSスウェーデン 2－3敗戦 VSノルウェー 1－0勝利	JFAアカデミー福島
108	スキー	FISノルディックコンバインド ワールドカップ第11戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	日本 札幌	1／23	25位	猪苗代高校卒
109	スキー	FISノルディックコンバインド ワールドカップ第12戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	日本 札幌	1／24	20位	猪苗代高校卒
110	スキー	FISノルディックコンバインド ワールドカップ第15戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	フィンランド ラハティ	3／6	27位	猪苗代高校卒
111	スキー	FISノルディックコンバインド ワールドカップ第16戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	フィンランド ラハティ	3／6	27位	猪苗代高校卒
112	スキー	FISノルディックコンバインド ワールドカップ団体 第5戦	渡部 剛弘 (明治大学3年)	NOR trondheim	3／12	23位	猪苗代高校卒
113	レスリング	ブリヤート国際大会	前田 翔吾 (クリナップ)	ロシア ウランウデ	3／14	男子フリースタイル65kg級 3位	

スタッフ等

No.	競技名	出場大会名	氏 名 (所 属)	開催場所	期 間	種目・成績	役 職
1	トライアスロン	第2回ユースオリンピック競技大会	遠沼 哲哉 (浪江高校津島校)	中国 南京	8／17～21		監督
2	アイスホッケー	第27回ユニバーシアード冬季競技大会	笠原 裕二郎 (ゼビオ株式会社)	スペイン (グラナダ)	2／5～12	女子 第3位	監督
3	フェンシング	仁川アジア大会	橋本 寛 (NEXUS株式会社) もと福島県高校教諭	韓国 仁川		男子フルーレ団体 1位 男子エペ団体 2位 女子フルーレ団体 3位 女子エペ団体 3位	監督
4	レスリング	モンゴル・オープン	今村 浩之 (クリナップ)	モンゴル (ウランバートル)	3／27～29		コーチ
5	スケート (ショートトラック)	ワールドカップ第3戦上海大会	菊池 由喜男 (安積高校御舘校)	上海	12／12～14		チームリーダー
6	バドミントン	世界ジュニアバドミントン選手権大会	大堀 均 (富岡高校)	マレーシア	4／7～18	団体 3位 女子シングルス 3位 混合ダブルス 3位	コーチ

※以下は本県ゆかりの選手

No.	競技名	出場大会名	氏 名 (所 属)	開催場所	期 間	種目・成績	本県とのゆかり
1	卓球	フィリピンオープン	根本 理世 (十六銀行)	フィリピン	5／16～18	予選リーグ通過(2勝1敗) 決勝トーナメント 3位	桜の聖母－中央大
2	ラグビー	アジア5カ国対抗	大野 均 (東芝)	東京	5／3～25		日本大学工学部卒
3	陸上	マウントサック・リレー大会	久保倉 里美 (新潟アルビレックス)	カルフォルニア州 ウォルナット	4／19	女子400m障害・2位	福島大卒

4	自転車	アジア選手権	窪木 一茂 (和歌山県教育庁)	カザフスタン アスタナ	5／22～25	男子4000m団体追い抜き 4位(日本新) 男子ポイントレース(30km) 6位	学法石川卒
5	自転車	アジア選手権	新田 祐大 (日本競輪選手会)	カザフスタン アスタナ	5／22～25	男子チームスプリント 3位 男子スプリント 7位	白河高校卒
6	自転車	アジア選手権	渡邉 一成 (日本競輪選手会)	カザフスタン アスタナ	5／22～25	男子チームスプリント 3位	小高工業卒
7	自転車	アジア選手権	窪木 一茂 (和歌山県教育庁)	カザフスタン カラガンダ	5／29	男子45kmタムトライアル 9位	学法石川卒
8	卓球	USオープン	根本 理世 (十六銀行)	アメリカ ミシガン州	7／1～5	女子シングルス 3位 女子ダブルス 1位	桜の聖母→中央大
9	自転車	仁川アジア大会	渡邉 一成 (日本競輪選手会)	韓国 仁川	9／20	男子チームスプリント 3位 男子ケイリン 2位	小高工業卒
10	自転車	仁川アジア大会	窪木 一茂 (和歌山県教育庁)	韓国 仁川	9／21	男子4000m団体追い抜き 3位(日本新)	学法石川卒
11	陸上	仁川アジア大会	久保倉 里美 (新潟アルビレックス)	韓国 仁川	10／1	400mH 2位	福島大卒
12	サッカー	仁川アジア大会	山根 恵里奈 (三井住友海上火災保険(株))	韓国 仁川	9／14～10／1	女子 2位	富岡卒
13	サッカー	仁川アジア大会	菅澤 優衣香 (三井住友海上火災保険(株))	韓国 仁川	9／14～10／1	女子 2位	富岡卒
14	サッカー	仁川アジア大会	増矢 理花 ((株)アイナックコーポレーション)	韓国 仁川	9／14～10／1	女子 2位	富岡卒
15	ハンドボール	仁川アジア大会	白石 さと (東京女子体育大学)	韓国 仁川	9／20～10／2	女子 2位	郡山第一中学校卒
16	バドミントン	仁川アジア大会	桃田 賢斗 (NTT東日本)	韓国 仁川	9／20～29	男子団体 ベスト8 男子シングルス ベスト8	富岡卒
17	射撃	仁川アジア大会	佐藤 絹子 (警視庁)	韓国 仁川	9／20～27	女子25mピストル個人 20位 女子25mピストル団体 9位 女子エアピストル個人 20位 女子エアピストル団体 11位	原町卒
18	空手道	仁川アジア大会	香川 幸允 ((株)テアトルアカデミー)	韓国 仁川	10／2～4	男子組手84キロ以上級 2位	学法福島卒
19	バスケットボール	第3回FIBA U－17女子バスケットボール世界選手権大会	水野 妃奈乃 (昭和学院高校3年)	チェコ クラトビ・ブルゼニ	6／21～7／6	7位	清水中卒
20	バスケットボール	第3回FIBA U－17女子バスケットボール世界選手権大会	遠藤 桐 (桜花学園高校2年)	チェコ クラトビ・ブルゼニ	6／21～7／6	7位	白河中央中卒
21	陸上	仁川2014アジアパラ競技大会	安西 飛呂	韓国 仁川	10／18～24	男子800m T13 6位	県立盲学校卒
22	5人制サッカー	仁川2014アジアパラ競技大会	加藤 健人 (アクサ生命保険(株))	韓国 仁川	10／18～24	2位	福島市出身
23	卓球	仁川2014アジアパラ競技大会	吉田 信一 (独立行政法人情報通信研究機構)	韓国 仁川	10／18～24	個人戦TT3 ベスト8	
24	車椅子バスケットボール	仁川2014アジアパラ競技大会	豊島 英 (宮城県警察)	韓国 仁川	10／18～24	2位	

25	バドミントン	第28回世界男子バドミントン選手権大会 (トマス杯)	桃田　賢斗 (NTT東日本)	インド ニューデリー	5／18～25	第1位	富岡高校卒
26	バドミントン	第21回世界バドミントン選手権大会	桃田　賢斗 (NTT東日本)	デンマーク コペンハーゲン	8／25～31	1回戦	富岡高校卒
27	バドミントン	BWFスーパーシリーズファイナルズ	桃田　賢斗 (NTT東日本)	ドバイ首長国 ドバイ	12／17～21	1次リーグ	富岡高校卒
28	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第1戦	遠藤　尚 (忍建設)	フィンランド ルカ	12／13	2位	猪苗代高校卒
29	スキー	ワールドカップフリースタイルモーグル第2戦	遠藤　尚 (忍建設)	カナダ カルガリー	1／3	3位	猪苗代高校卒
30	トライアスロン	トライアスロン　U23アジア選手権	佐藤　志帆 (稲毛インタートライアスロンクラブ:千葉)	中国 (香港)	10／25	優勝	会津学鳳高校卒
31	フェンシング	ジュニアワールドカップ 女子サーブル	佐々木　陽菜 (大原学園高校3年:東京)	フランス	1／24～25	女子サーブル　8位	福島成蹊中学校卒
32	自転車	アジア選手権	渡邉　一成 (日本競輪選手会)	タイ ナコンラチャシマ	2／4	チームスプリント　2位 ケイリン　2位	小高工高卒
33	自転車	アジア選手権	新田　祐大 (日本競輪選手会)	タイ ナコンラチャシマ	2／4	チームスプリント　2位	白河高校卒
34	自転車	アジア選手権	窪木　一茂 (和歌山県教育庁)	タイ ナコンラチャシマ	2／5	団体追い抜き　2位	学法石川卒
35	自転車	ワールドカップ	渡邉　一成 (日本競輪選手会)	コロンビア カリ	1／18	ケイリン　8位	小高工高卒
36	自転車	世界選手権	渡邉　一成 (日本競輪選手会)	パリ	2／18～22	チームスプリント　11位	小高工高卒
37	自転車	世界選手権	窪木　一茂 (和歌山県教育庁)	パリ	2／18～22		学法石川卒
38	バドミントン	全英オープン	桃田　賢斗 (NTT東日本)	イギリス バーミンガム	3／3～8	シングルス　ベスト8	富岡高校卒
39	サッカー	サッカー女子国際親善試合大会 アルガルベ杯2015	菅澤　優衣香 (ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)	ポルトガル パルシャル	3／7～9	リーグ1勝2敗　予選落ち 順位決定戦勝利　9位	JFAアカデミー福島
40	サッカー	サッカー女子国際親善試合大会 アルガルベ杯2015	山根　恵里奈 (ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)	ポルトガル パルシャル	3／7～9	リーグ1勝2敗　予選落ち 順位決定戦勝利　9位	JFAアカデミー福島

（参考）国際大会出場選手数（平成１０年度～平成２６年度）

年度	人数	年度	人数
平成10年度	27	平成19年度	53
平成11年度	22	平成20年度	64
平成12年度	50	平成21年度	73
平成13年度	44	平成22年度	101
平成14年度	32	平成23年度	57
平成15年度	29	平成24年度	66
平成16年度	28	平成25年度	120
平成17年度	44	平成26年度	113
平成18年度	49		

（出場選手数は延べ人数）

3　体育・スポーツ施設

(1) 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

ア　施設管理一覧

施設名	所在地	管理方法	受託者	摘要
クライミングウォール	福島市	指定管理	(公財)福島県都市公園・緑化協会	平成18年4月1日より
荻野漕艇場	喜多方市	事務委託	喜多方市	〃

※事務委託(地自法第252条の14第１項)

イ　施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施設名		利用状況	摘要
荻野漕艇場	漕艇	1,491 隻	
	トレーニング室	923 時間	

ふくしま海洋科学館

第１節　施設の概要

１　本館施設

(1)　場所：福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地

(2)　施設：鉄骨・鉄筋コンクリート造

ア　階数：地上４階建て

イ　高さ：34m　(展望室)

ウ　敷地面積：56,265.1㎡（駐車場含む）

エ　延床面積：14,201.81㎡

（本館12,935.11㎡　えっぐ1,266.7㎡）

オ　総水量：6,020ｔ（メイン水槽：潮目の大水槽2,050ｔ、蛇の目ビーチ1,600t、BIOBIOかっぱの里430t）

２　ふくしま海洋科学館子ども漁業博物館

(1)　場所：福島県いわき市小名浜字辰巳町43-9

(2)　施設：小名浜美食ホテル潮目交流館内

ア　屋内展示面積　　232.27㎡

イ　屋外展示面積　　203.52㎡

３　水生生物保全センター

(1)　場所：福島県いわき市小名浜字辰巳町47番地の１

(2)　施設：鉄筋コンクリート、鉄骨造

ア　階数：地上２階建て

イ　延床面積：925.09㎡

４　海水取水・送水施設

(1)　場所：福島県いわき市小名浜下神白字松下

(2)　施設：

ア　ろ過送水棟：１棟180.04㎡

イ　取水ポンプ棟：１棟84.43㎡

ウ　取水管：182.2m

エ　送水管：2,875.9m

オ　揚水管：146.0m

５　展示生物の収集、蓄養施設

当施設の「黒潮水槽」等において展示をしている大型魚類の採集・蓄養を行うため、海上生け簀を借り上げている。

(1)　場所：鹿児島県大島郡（奄美大島）瀬戸内町

(2)　施設：生け簀

第２節　各種事業

１　飼育展示事業

(1)　常設展示

展示のメインテーマを「潮目の海～黒潮と親潮の出合い～」としている。

「福島県の海」において、最も特徴的な事象である黒潮と親潮の境界「潮目」をテーマとして取り上げ、豊かな生物相を中心とした潮目の海の自然、潮目の科学、人と海とのかかわり合い、そして地球環境問題まで幅広い分野を紹介した。

(2)　飼育展示活動

ア　生物収集事業

展示生物（水生生物、陸上小動物及び植物）の主な採集、購入及び輸送は以下のとおりである。

(ｱ) 淡水生物採集

オイカワ、イトヨ他県内生物の採集及び熱帯生物を購入した。

(ｲ) 沿岸生物採集

県水産試験場調査船乗船採集（ホウボウ、サブロウ他）、松川浦採集（アマモ、ギンポ類他）、潜水採集（マヒトデ、マナマコ他）を行った。

(ｳ) 深海生物採集

駿河湾にてＲＯＶを使用し、コトクラゲを採集した。

(ｴ) 北方系生物採集

北海道(オホーツク海沿岸)において沿岸生物のハダカカメガイやナメダンゴ及びオオメンダコやオオグチボヤ等深海性生物を採集した。

(ｵ) 南方系生物採集

マイワシを購入・輸送し、黒潮水槽に搬入した。

(ｶ) サンゴ礁、マングローブ生物採集

奄美大島での採集及び購入により収集した。

(ｷ) 植物

県内採集及び購入により収集した。

(ｸ) ユーラシアカワウソの子どもが３頭誕生した。

(ｹ) ゴマフアザラシのメスを千葉県の鴨川シーワールドにブリーディングローンより搬出した。

イ　南方系生物蓄養事業

奄美大島の海上生け簀にて、カツオの蓄養、搬入を実施した。

ウ　水生生物保全センター運営事業

(ｱ) 和歌山県串本町にて、クロシビカマス等の蓄養及びヤエギス等の深海魚の卵採集を実施した。

(ｲ) 県内希少生物の繁殖

ゼニタナゴ、シナイモツゴの繁殖を行った。

(ｳ) 深海生物生息域環境調査

東京湾にて底棲生物のＲＯＶ調査を行った。

(ｴ) 深海性生物の飼育

ヤエギス、オオメンダコ、コトクラゲ、オオグチボヤ等の育成を行った。

エ　飼育生物管理事業

本館収容生物(植物を含む)の展示及び飼育管理を実施した。

2　移動水族館事業

移動水族館専用車（アクアラバン）により、各地域・各施設のイベント等に出展し、普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらうとともに、開催地における地域振興に貢献した。

また、主催者からの要請に応じ、有料で移動水族館専用車を派遣し、計９か所で開催した。

3　研究交流事業

(1)　学会・研究会等

ア　平成２６年５月２９日

当館において「ユーラシアカワウソ繁殖検討会議」を開催し、国内および当館の飼育繁殖状況を報告し、ヨーロッパでの飼育状況の報告を受けた。

イ　平成２６年７月１６日

アメリカ合衆国ボルチモアにあるナショナル・アクアリウムとの友好園館締結に伴い、「ウォータフロントにおける防災」と題したシンポジウムを開催し、臨海施設における防災活動についての一般啓蒙活動を行った。

ウ　平成２６年７月２５日

当館において、第９回弁財天うなぎプロジェクト研究会を開催し、今までの調査結果を報告すると共に今後の調査について討議を行った。

エ　平成２６年１１月５日

関東東北ブロック水族館技術者研究会において「ゼニタナゴ仔魚の人為的託育の試み」「ナメダンゴの水槽内繁殖について」を報告し、「ヒゲキタトサカの採集と飼育」「駿河湾より得られたコトクラゲの飼育」についてポスター発表した。また、「原発事故による放射線研究の取り組みと研究機関との共同研究について」と題した講演を行った。

オ　平成２６年１１月１４日

インドネシア ジャカルタにおいて、シーラカンス研究および保全にかかるワークショップを開催し、現地研究者および関係機関と情報交換を行った。当館からは「The Greeneye Project　Aquamarine Fukushima, Marine Science Museum」としてシーラカンス研究活動を紹介した。

カ　平成２６年１１月１４日～１６日

沖縄大学で開催された海辺の環境教育フォーラムにおいて「本当はどうなってるの？福島の海」と題し講演を行った他、アクアラバンを運行して参加者及び来場者を対象に移動水族館を開催した。

キ　平成２６年１２月１３日～１４日

日本動物園水族館教育研究会仙台大会の事務局として研究会の運営を行った。

ク　平成２６年１２月１５日

水産庁主催「第１回ウナギ研究に係る連絡会議」において、弁財天うなぎプロジェクトの取り組みについて発表した。

ケ　平成２７年１月２９日

第５９回全国水族館技術者研究会において「アバチャンの人工授精について」を研究発表した。

コ　平成２７年３月７日

第９回めひかりサミット「～よみがえれ私たちの海～漁場から食卓まで」を開催し、福島県沖の放射線問題と持続可能な水産資源の活用について市民に情報を発信した。

4　海洋文化推進事業

インドネシアにおいてシーラカンスを始めとする海洋生物の保全活動を一層推進すべく、協力機関であるインドネシア科学院（LIPI）およびサムラトランギ大学と協議を重ね、調査を進めている。

5 企画営業事業

(1)　企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポートの販売等を通して来館者サービスの向上に努めた。

ア　券売・受付業務の委託

券売・改札業務において、専門業者へ委託することにより接客の質向上を図った。

イ　年間パスポートの販売

利用者の利便性に配慮するとともに、リピーター増を図るため、「年間パスポート」の販売促進に努めた。

また、「福島県子育て応援パスポート事業」に協賛し、「年間パスポート」の割引販売を実施した。

(2)　広報宣伝事業

ア　各種媒体等を活用した広報

(ｱ) テレビ・ラジオＣＭの制作

当館をテレビ及びラジオで広報する際に使用するＣＭ放送素材を新たに制作した。

(ｲ) テレビＣＭ

a ＧＷ向け：県内４局、宮城２局、新潟２局、山形２局で放映した。

b 夏休み向け：県内４局、宮城４局、新潟４局、山形２局で放映した。

(ｳ) ラジオＣＭ

a ＧＷ向け：県内３局で放送した。

b 夏休み向け：県内３局、宮城２局、新潟２局で放送した。

(ｴ) 新聞

地元３紙及び隣県の地方紙などに、観光シーズンにおける誘客を目的とした広告を掲載した。

(ｵ) 旅行誌等

「るるぶ」（ＪＴＢ出版）、「じゃらん」（リクルート）、

「まっぷる」（昭文社）、「ぴあ」（ぴあ）に誘客広告を掲載した。

また、季節のイベントに合せて地元タウン誌に広告を掲載した。

(ｶ) 看板

福島空港に広報看板を掲出した。８月のレジャーシーズンには、ＪＲ東京駅京葉線通路に１６連の電照ポスターを掲出した。

(ｷ) その他

県内の新聞、情報誌においてパブリシティを活用した広報活動を積極的に展開した。

イ　ポスター・パンフレット等の作成・活用

(ｱ) 館内案内リーフレット

来館者に配布したほか、県内外の観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布したり、館外でのＰＲ活動で配布した。

(ｲ) イベントチラシ・ポスター

県内外の公共施設等に配布・掲出したほか、市内の新聞織り込みや小学校、幼稚園の全児童・園児に配布した。

(ｳ) イベントカレンダー

県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布した。

ウ　各種イベントへの参加・協賛

(ｱ) 「第２４回いわきシーサイドウォーク」（後援）

(ｲ) 「うつくしま・みずウォーク２０１４」（後援、優待入館）

エ　館内外における季節演出及び催事等の実施

(ｱ) ＧＷイベント（５月）

ＧＷに合わせ開館時間を午後７時まで延長し、イベントを開催した。

(ｲ) 潮干狩り（５月、６月）

５月ＧＷ明けから６月末までの毎週日曜日に、蛇の目ビーチで潮干狩りを開催した。

(ｳ) 海の日イベント（７月）

７月２０日の海の日の３連休に合わせ、イベントを開催した。

(ｴ) サマーイベント（８月）

午後７時まで開館時間を延長し、参加型イベントを実施した。

(ｵ) クリスマスイベント(１２月)

クリスマス期間の計２日、開館時間を午後７時まで延長し、参加型イベントを実施した。

(ｶ) お正月イベント(１月)

お正月プレゼント、生き物かるた大会、フィギュア釣りを実施した。

(ｷ) 門松の設置(１月)

(ｸ) ひなまつりイベント(２～３月)

つるし雛を館内に展示した。

(ｹ) スプリングイベント（３～４月）

花にちなんだクラゲと花の展示及び参加型イベントを開催した。

オ　アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両（通称：アクアラバン）により県内外のイベントに出展し、営業・広報宣伝を推進した。

出展か所数　１８か所　　観覧者数　２６，５８２名

カ　キャラクター「権兵衛」によるＰＲ

館内で来館者に対してのサービスのほか、移動水族館や県外での観光ＰＲにおいて、権兵衛によるＰＲを行った。

(3) 観光誘致事業

ア　地元旅館ホテル等との連携の強化

当館への誘客を図るため、地元温泉旅館組合(いわき湯本温泉旅館協同組合、小名浜旅館ホテル組合、勿来旅館組合)、近隣６宿泊施設(小名浜オーシャンホテル等)、ホテルハワイアンズ、母畑温泉八幡屋、磐梯熱海温泉旅館協同組合及びかんぽの宿いわきにおいて、契約宿泊施設宿泊者限定入館券の販売を実施した。

イ　団体旅行等の誘客促進対策の実施

団体旅行客については、営業活動を強化するとともに、県及び市等の補助事業（宿泊費や交通費の補助）を活用して誘客促進に努めた。

ウ　コンビニ前売券販売の実施

コンビニエンスストア店舗における前売券販売に取り組み、県外からの誘客を促進した。

(4) 地域交流事業

小名浜まちづくり市民会議への参画など、積極的に周辺地域との交流を深めるとともに地域振興に貢献した。

６　学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

ア　バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。

イ　ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

ウ　アクアマリンえっぐワークショップ

アクアマリンえっぐのワークショップコーナーにおいて、塗り絵と点結びを実施した。

また、７月１９日から８月３１日まで「くるくるアニ

メ」を開催した。

エ　オリエンテーリング

悪天候で釣り体験を中止した際の体験活動の提供として、アクアマリンえっぐの展示生物に関する問題を解かせるオリエンテーリングを実施した。

オ　ワークショップの開催

７月５日、６日に日本渚の美術協会に委託し「渚のオシャレな小物入れ教室」を開催、７月１２日、１３日に料理研究家、宮内祥子による「サンマ寿司を作って食べよう」を開催、１０月１８日、１９日に葛西臨海たんけん隊に委託し「さわって感じる水族館」を開催した。

カ　マリンシアター

１階マリンシアターにおいてシーラカンス調査やアクアマリンふくしまの紹介などのオリジナルハイビジョン映像４本を３０分間隔で交互に上映した。

(2)　企画展開催事業

来館者サービスと館の広報を兼ね、常設展示を拡充させるとともに、テーマを定めた展示を以下の内容で実施した。

ア　化石水族館「太古の魚類展」

期間：平成26年4月19日～平成26年6月29日

概要：常設展示の海生命の進化コーナーに、絶滅した太古の魚類を友永たろ氏が描いたイラストを展示した。

イ むしの学校

期間：平成26年7月5日～平成26年9月15日

概要：昆虫に関する様々な展示と、期間を通して昆虫関連分野の講師を迎えて多彩な参加型プログラムを実施した。

ウ　小名浜国際環境芸術祭

期間：平成26年9月20日～平成26年11月9日

概要：大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施し、芸術を通して環境保全のメッセージを発信するとともに、芸術による地域交流を図った。

エ　キッズアート展

期間：平成26年9月20日～平成26年11月9日

概要：干物型の型紙に絵を描くワークショップを実施し、作品を展示した。

オ　海の男たちの盆栽展

期間：平成26年10月31日～平成26年11月7日

概要：黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示した。

カ　干支展

期間：平成26年12月27日～平成27年1月12日

概要：館内に展示している未にちなんだ生き物を紹介する企画を行った。

キ　ファイト７企画「飼育係の写真展」

期間：平成27年3月21日～平成27年4月22日

概要：当館と北関東６園館の飼育職員が撮影した写真を展示した。

ク　わくわく里山・縄文の里ワークショップ

(ｱ) 食べて感じる縄文～海・川・山の恵み～

期間：平成26年10月11日～平成26年10月13日

概要：鮎の竜田揚げ、サンマ寿司、ジビエ料理の料理教室に講師を招き開催した。

(ｲ) 五感でつなぐ洞窟アート

期間：平成26年11月2日～平成26年11月3日

概要：事前募集を行った小学校４年生から中学校３年生３８名を対象に、アーティスト５名を講師として一泊二日で縄文をテーマにした作品を製作し、本館からえっぐの連絡通路に作品を展示した。

(ｳ) 洞窟手がたアート

期間：平成27年3月21日～平成27年4月5日

概要：手形にカッティングシートを切り抜き、名前やメッセージを書いてえっぐの連絡通路に貼り付けるワークショップを開催した。

(ｴ) ドジョウつかみ大会

期間：平成27年3月28日, 29日, 4月4日, 5日

概要：えっぐの森において、ドジョウつかみ大会を開催した。

ケ　パラオ関連展示

平成27年4月8日に天皇陛下がパラオをご訪問されるのに合わせ、パラオ国際サンゴ礁センター内において「パラオのハゼ展」を開催した。また、3月14日から２階タッチプールを改修し、「パラオの海」水槽に展示変更を行った。

(3)　展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

(4)　学校教育関連事業

ア　ガイダンス

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。(32回実施、対象者数2, 792名)

イ　館内学習

当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。(74回実施、対象者数4, 416名)

ウ　移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、震災からの復興をテーマにしたレクチャーを行う移動水族館を実施した。平成２６年度は、震災後学校を移転して授業を行っている学校と戻って間もな

い学校を対象に開催した。(7校、対象者数810名)

エ　職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

(ｱ) 中学校・高等学校生徒の職場体験

12回実施　対象生徒数41名

(ｲ) 大学生のインターンシップ

2回実施　対象学生数6名

(ｳ 博物館学芸員実習

1回実施　対象学生数1名

オ　館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。

(3回実施、対象者数77名)

カ　教職員セミナー、教員研修の実施

８月５日から７日の３日、県内の教職員を集めて館の利用の説明や体験活動を体験してもらう教職員セミナーを開催し、５９名が参加した。また、県いわき教育事務所からの依頼による高等学校初任者研修や経験者研修を実施した。

(5)　情報提供事業

ア　情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を開始した。

イ　インターネットによる情報提供

生物の搬入、搬出及び繁殖出産情報や季節ごとのイベント、企画展の詳細情報や参加体験プログラムの募集等の情報をホームページから発信しました。

また、風評被害払拭に関わる環境放射線量や海水中放射性物質量など放射線量の情報も毎週更新した。

更に、フェイスブック、ツイッターを活用した情報提供も行った。

ウ　機関誌の発行

水族館活動をはじめ、生物や海に関するさまざまな情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数5,500部／回)。

7　スクール開催事業

(1)　スクールの開催

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

開催月	スクールの名称	参加人数
6月	春の磯で遊ぼう(2回開催)	44人
7月	渚の工作（2回実施）	164人
	サンマ寿司を作って食べよう(2回実施)	48人
	親子宿泊ナイトツアー	40人
8月	キッズナイトツアー	39人
9月	いかだをこいでみよう	16人
	親子で日帰りナイトツアー	30人
10月	森であそぼう	16人
	アジの干物づくり体験(2回実施)	4人
	飼育体験	15人
11月	大人の宿泊ナイトツアー	40人
	初めての釣り体験	20人
12月	家族で宿泊ナイトツアー	42人
	魚のイラスト教室(2回実施)	16人
1月	魚を食べよう宿泊ナイトツアー	13人
2月	シーラカンス宿泊ナイトツアー	21人
3月	クラゲを飼ってみよう宿泊ナイト	40人
年度計		608人

(2)　炭火焼体験

釣り堀の改修工事を行っていた期間（２月９日～３月１５日）に、命の体験プログラムとして、活きたホタテガイとホンビノスガイを炭火で焼いて食べる機会を提供した。

(3)　釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の場を提供した。

(4)　他団体と連携をした被災者支援活動

全国の博物館が被災した児童を支援しようと集まったこども☆ひかりプロジェクトのメンバーと共に、７月２０日に仙台駅前アエル、７月２１日に美食ホテル２号棟「潮目交流館」、９月２１日田村市船引公民館においてこども☆ひかりフェスティバルを開催した。

8　子ども漁業博物館事業

アクアマリンうおのぞきでは、伝馬船の櫓漕ぎ体験や鰹節削り体験、炭火焼体験等さまざまな体験活動を提供するとともに、缶づめつくりや工作などの内容を頻繁に更新し、リピーター対策に努めた。

また、平成２７年３月２３日に小名浜美食ホテル２号棟潮目交流館での営業を終了し、アクアマリンえっぐに機能を移転した。

9　ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第16期ボランティア更新者	216名
第17期新規ボランティア登録者	16名
登録者数(平成27年3月31日現在)	232名

第３節　月別入館者数

平成26年度における当館の入館者状況は次のとおりである。

月	開館日数	入館者数	個人	団体	無料
４月	30日	36,108	25,962	3,248	6,898
５月	31日	69,404	48,738	5,321	15,345
６月	30日	39,035	23,076	8,032	7,927
７月	31日	54,845	37,644	6,099	11,102
８月	31日	122,781	93,564	3,905	25,312
９月	30日	46,158	29,646	8,115	8,397
10月	31日	37,805	22,041	8,376	7,388
11月	30日	40,798	25,930	6,062	8,806
12月	31日	29,462	19,076	2,915	7,471
１月	31日	28,411	20,718	1,160	6,533
２月	28日	22,255	14,923	1,519	5,813
３月	31日	40,007	29,504	2,011	8,492
合計	365日	567,069	390,822	56,763	119,484

第４節　公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要

１　財団法人の名称

公益財団法人ふくしま海洋科学館（設立当初の名称「財団法人ふくしま海洋学習館」。平成12年４月１日「財団法人ふくしま海洋科学館」に名称変更。平成25年４月１日公益財団法人に移行。）

２　財団法人の目的

海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与する。

３　財団法人の事業

本財団法人では、設立目的を踏まえ、以下の事業を行う。

(1)　海洋生物（その他の水族を含む）の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業
(2)　海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業
(3)　海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業
(4)　海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業
(5)　身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業
(6)　上記(1)から(5)の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業
(7)　その他公益目的を達成するために必要な事業
(8)　ショップ及びレストランの運営等に関する事業
(9)　その他上記事業に関連する事業

４　基本財産

本財団法人は、県の社会教育施設を管理する組織となる性格に鑑み、設立の基礎となる基本財産については、県100％出捐の法人である。（出捐額 150,000千円）

５　組織（平成２７年３月現在）

(1)　役員、評議員

ア　役員及び評議員の人数

理事９名、監事２名、評議員９名

イ　役員及び評議員の任期

理事の任期は２年とする。

監事及び評議員の任期は４年とする。

(2)　事務局

ア　グループ・チームの設置

事務局に事業調整グループ、地域交流グループ、潮目の海グループ、アクアマリン環境研究所、緑の水族館グループ、命の教育グループ、国際交流グループ、シーラカンス研究所、デザイン研究所を置く。

事業調整グループに事業調整チーム、副館長直轄に施設管理チーム、地域交流グループに地域交流チーム、出版編集チーム、観光営業チーム、潮目の海グループに潮目の海Ⅰチーム、潮目の海Ⅱチーム、アクアマリン環境研究所にアクアマリン環境研究所チーム、緑の水族館グループに緑の水族館OASISチーム、緑の水族館KID ZOOチーム、動物健康室、弁財天うなぎプロジェクトチーム、命の教育グループに命の教育チーム、うおのぞき子ども漁業博物館チーム、シーラカンス研究所にグリーンアイプロジェクトフィールド、生命の進化チーム、国際交流グループに国際交流チーム、アクアマリンITチームを置く。

イ　職員の人数

平成２６年度の事務局体制は、館長（理事長兼務）、副館長（常務理事兼務）を含め、正規職員数（定数）49名。この外、臨時的な職員を別に置く。

ウ　職員の身分

	財団職員	県派遣者
館長	1	
副館長	1	1
事業調整ｸﾞﾙｰﾌﾟ	3	2
地域交流ｸﾞﾙｰﾌﾟ	10	0
潮目の海ｸﾞﾙｰﾌﾟ	7	0
ｱｸｱﾏﾘﾝ環境研究所	2	0
緑の水族館ｸﾞﾙｰﾌﾟ	8	0
命の教育ｸﾞﾙｰﾌﾟ	6	3
ｼｰﾗｶﾝｽ研究所	1	0
国際交流ｸﾞﾙｰﾌﾟ	4	0
ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究所	（委嘱）	0
計	43	6

エ　役員、評議員名簿（敬称略）

【理事長】

ふくしま海洋科学館長	安部義孝

【理　事】

元日本魚類学会長	上野輝彌
元上野動物園長	小宮輝之
小名浜まちづくり市民会議事務局長	佐藤健一
福島県企画調整部文化スポーツ局次長	橋本幸洋
生物生態研究所長	谷口旭
ＦＭいわきパーソナリティー	馬場典枝
ＮＰＯ日本渚の美術協会長	本間清
ふくしま海洋科学館副館長	阿部由之助

【監　事】

丹野公認会計士・税理士事務所代表	丹野勇雄
福島県企画調整部企画調整課長	菅原晋也

【評議員】

いわき商工会議所会頭	小野栄重
いわき明星大学主任教授	神山敬章
童謡のまちづくり市民会議会長	九頭見淑子
冷泉寺住職	酒主照之
小名浜機船底曳網漁業協同組合代表理事組合長	野崎哲
武蔵野美術大学名誉教授	森豪男
福島県企画調整部文化スポーツ局長	鈴木千賀子
ぴあ（株）代表取締役社長	矢内廣
大國魂神社宮司	山名隆弘

福島県文化センター

第１節　概要

福島県文化センターは、県民の文化振興を図るために設置されたもので、福島県文化会館及び福島県歴史資料館の２つの施設をもって構成されている。

この文化センターの管理運営は、県が公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、同法人はこの施設の設置目的に沿って県民の文化活動の場としてその利用に供し、利用者の便宜を図るとともに、各種の文化事業を展開し、あるいは歴史、文化関係資料の収集、整理、保管、調査研究を行っている。

１　業務内容

福島県文化センターを構成する施設の業務内容は、概ね次のとおりである。

（１）　福島県文化会館

○文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術の振興に関すること。
○社会科学、自然科学等の学術の振興に関すること。
○文化会館の施設及びその付属設備の利用に関すること。

（２）　福島県歴史資料館

○県に関する文書資料、考古資料、民俗資料、その他の歴史資料に関する調査研究及びその利用に関すること。
○歴史資料に関する後援会、講習会、映写会、研究回答の主催及びその開催の援助に関すること。

第２節　施設の概要

所在地　　福島市春日町５−54
敷地面積　26,525㎡
建築面積　4,951㎡
建築延面積　12,400㎡
構造　　鉄骨・鉄筋コンクリート造り 地下１階、地上３階、塔屋１階
竣工　　昭和45年７月31日

１　福島県文化会館

地階　中央監視室、空調・電気機械室、奈落
１階　大ホール(1,752席)、小ホール(379席)、リハーサル室(107㎡)、和室(20畳２室)、楽屋(４室)、浴室、視聴覚室(108席)、会議室、事務室、収蔵庫など
２階　会議室兼展示室(466㎡)、託児室(42㎡)など
３階　展示室(505㎡×２室)、ギャラリー(366㎡)、事務室、倉庫など

２　福島県歴史資料館

１階　展示室(180㎡)、事務室
２階　事務室、研究室、閲覧室、文書庫(252㎡×3) など
３階　文化財収蔵庫(455㎡)

第３節　事業の実施状況

平成26年度に福島県文化センターが実施した事業の概要は、次の通りである。

１　管理運営事業

平成26年度における福島県文化センターの利用状況は、次のとおりである。

（１）福島県文化会館

施設名	大ホール	小ホール	視聴覚室	1F会議室	2F会議室兼展示室	3F展示室	3Fギャラリー	窓口利用	館外利用	合計
入場者数（人）	171,562	44,934	2,982	3,016	30,357	48,204	9,403	12,784	39,278	362,520
稼働日数（日）	226	222	123	232	224	259	103			
稼働率（％）	65	63	35	66	64	74	29			

開館日数 350 日

（備　考）
・館外利用者数は、館外で実施した自主事業への参加者数。
・稼働率＝稼働日数÷350（開館日数）×100（％）で表す。

（２）福島県歴史資料館

ア　利用状況

種別	利用件数	同冊（点）数	内容
閲覧利用	1,134	3,835	会社員・公務員・教員・学生・研究者等
特別貸出利用	7	30	福島市教育委員会等
施設利用	8,315	−	入館者

イ　資料収蔵状況

種　別	搬　入	搬　出	合計（累計）
文書資料	0	1,100	207,519
文献	0	0	44,936

2 文化情報の発信

県民が、それぞれの価値観に基づいて主体的に文化活動に参加し豊かな人生を楽しむことができるよう文化情報誌の発行と、インターネット・ホームページにより文化情報を発信した。

（1）文化情報誌『ふくしま文化情報』の発行

編集方針：本県の文化行事に関する情報を幅広く収集し、広く県民に提供した。写真を多用し見やすい誌面構成に努めた。

発行部数：1回5，500部　年10回発行

内　　容：今月のお薦め催事を「今月のピックアップ」として写真入りで紹介した。
また、県内各地の文化イベントの中から地域の特色を生かした行事に注目し「イベントアラカルト」として紹介した。

配布先：県内の市町村教育委員会公民館・高校・大学・文化施設・公民館・文化団体・報道機関・病院など。

（2）福島県歴史資料館『福島県史料情報』の発行

編集方針：福島県の地域性や県民の関心を考慮して資料を取り上げ、分かりやすい資料写真の掲載により読者の理解を深めることに努めた

発行部数：年3回、各号1，000部

内　　容：歴史資料の情報、収蔵資料の紹介、歴史資料の調査研究成果など。

配布先：県内の市町村教育委員会・大学・文化施設・文化団体。

（3）インターネットによる情報提供

文化センターホームページには『ふくしま文化情報』に載せている県内の文化イベント情報をさらに充実させて掲載した。

「音楽」「展示」「演劇・舞台」「講演・講座」「自主上映」及び「その他」のジャンルごとに常時200件前後を掲載した。また、これらの情報にはなによりも新鮮さが要求されることから、各種文化団体や文化施設と連絡を密にし、情報をいち早く入手して毎週（1回）更新した。

また、当財団が管理運営する各施設の企画事業情報及び県内の文化イベント情報を編集し「福島県文化振興財団メールマガジン」として毎月1回配信した。

3 歴史資料館事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
収蔵資料展「江戸の旅－諸国めぐりと旅文化－」	4月26日～6月29日 県歴史資料館展示室	江戸時代の庶民の旅に用いられた往来手形・旅道具・道中日記や日本各地の名所を案内した「名所図会」などをとりあげ、江戸時代の旅の様子を展示。	1,916名
収蔵資料展「近世ふくしまの夜明け」	7月12日～9月7日 県歴史資料館展示室	関ヶ原合戦や大阪の陣の戦後処理の過程で、地域の新たな立て直しが求められた時代的な様相の変化を、江戸時代初期の産業や流通等に関する資料を展示。	2,041名
収蔵資料展「公文書管理法制定5周年記念 行政文書の魅力 ～明治時代のふくしまの姿～」	9月27日～12月23日 県歴史資料館展示室	公文書管理法制定5周年を記念し、明治・大正時代の多様な福島県の公文書を展示。	1,423名

収蔵資料展「新公開史料展」	1月17日～3月15日 県歴史資料館展示室	2014年3月に刊行した『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第45集に収録された「上西伸吾氏寄贈文書」「加藤茂家文書」「草野清五郎家文書」「佐藤二郎家文書」「宍戸篤氏寄贈文書」「長尾家文書」「平石区有文書」「長谷部家文書」の史料を展示。	991名
古文書講座①～④	①7月5日 ②7月26日 ③8月9日 ④9月6日 県文化センター2階会議室	古文書解読初心者を対象とする講座。講座では「武家の文書を読み解く」をテーマに、歴史資料館に収蔵されている武家の文書をテキストとし、江戸時代の武家文書の基本的な約束事に習熟していただき、大名間の交流や儀礼の実態について分かりやすく解説。	①　98名 ②　90名 ③100名 ④101名
フィルム上映会	①6月1日 ②8月31日 ③10月5日 県文化センター視聴覚室	①『世阿弥の能』 ②日本の伝統文化『編むサラニプ』『編み組細工』 ③『景観の民俗誌東のムラ西のムラ』『セーノカミの勧進』	①　30名 ②　16名 ③　15名
歴史資料館友の会行事	4月～12月　計6回	総会、友の会講座、展示見学会、歴史散策などの実施を支援。	会員約146名
校外学習協力	5件（19日間）	中学校、大学等の生徒の校外学習、インターンシップ、博物館実習への協力。	27名
地域史研究講習会	11月8日 県文化センター2階会議室	報告1「東北の観音信仰－『みちのくの観音さま』展の見どころ－」　報告2「福島県考古学研究の黎明－佐藤勇太郎・犬塚又兵・埋蔵物禄－」　講演「東北地方南部からの寺社参詣の旅－伊勢参りを中心に－」の三本の講習を実施した。	60名

4　受託事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	
福島県緊急雇用創出事業 「歴史資料館収蔵資料電子データ化業務」	4月～12月	福島県からの受託事業として4名を雇用し、県庁行政文書について、3,886点の目録カード作成・電子データ入力作業を行った。また、被災歴史資料286点の目録カード作成・電子データ入力作業を実施した。	

5　文化事業

区分	事業名	期日・開催場所等	内容等	入場者数
ふくしま文化復興事業	キッズシアター	6月4日～6月27日 県内6市3町16公演を実施	県内各地の教育委員会等との共催により、演劇公演を実施。 劇団前進座「花木村月夜奇妙」	計 11,276名
	ファミリーシアター	【音楽公演】 10月6日・7日、12月9日1町2村3公演	演目／「オペラってなぁに？」～歌劇「セヴィリアの理髪師」～	計 669名
		【人形劇公演】 10月20日～23日 5町5公演	人形劇団ひとみ座「美女と野獣」	計 1,993名
	歴史再発見事業『ふくしまの復興－記憶をつなぐ－』	復興関連遺跡発掘調査成果報告会 1月10日小ホール		160名
		記念講演・対談 1月10日　小ホール	講師／青柳正規（文化庁長官） 対談／青柳正規、菊池徹夫（まほろん館長）	173名
		発掘調査成果展 1月9日～18日 3F展示室		608名
	子どもの芸術文化体験事業	7月7日～2月20日 実施回数/193回 派遣講師/延べ370名	子どもたちの健全な育成に資するため、多くのジャンルのアーティストを県内の幼稚園や学校等に派遣。	計 25,340名
	復興共催事業 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムin福島	4月26日～5月11日 3F展示室	主催/国立科学博物館・全国科学博物館振興財団	4,704名
	復興共催事業 チューブコンサート	6月15日 大ホール	主催/ジー・アイ・ピー	1,032名
	復興共催事業 ジュディ・オング版画展	7月18日～8月18日 3F展示室	主催/福島民報社	16,291名
	復興共催事業 高橋真梨子コンサート	8月31日 大ホール	主催/ノースロードミュージック	1,700名
	復興共催事業 宝塚歌劇団OGレビュー	10月13日 大ホール	主催/福島テレビ	826名
	復興共催事業 葉加瀬太郎コンサート	12月11日 大ホール	主催/キョードー東北	1,520名
	復興共催事業 スターダストレビューコンサート	12月28日 大ホール	主催/ギルドネクスト	1,100名
	復興共催事業 TMネットワークコンサート	1月11日 大ホール	主催/福島中央テレビ	1,140名
	復興共催事業 懇話会ふくしま再生と歴史・文化遺産2015	1月25日 2階会議室	主催/ふくしま歴史資料保存ネットワーク	72名

		富良野塾演劇公演「ノクターン」	3月7日 大ホール	主催/福島民友新聞社	1,250名
		小椋桂コンサート	3月22日 大ホール	主催/ラジオ福島	1,400名
舞台芸等鑑賞事業	古典劇	松竹大歌舞伎公演	6月10日 昼夜2回公演 大ホール	日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的に、歌舞伎公演を実施。出演/市川猿之助　他	計2,460名
		狂言公演	7月30日 大ホール	日本古来より民衆の生活に生き育まれてきた伝統芸能の狂言公演を実施。 出演/野村万作、野村萬斎　他	1,282名
	マイホールコンサート	第11回マイホールコンサート	2月1日 大ホール	ふくしまの文化活動を担う人材育成と県民に親しまれる施設作りを目的に、出演者を公募して実施。　出演11団体	230名
		イベント運営、舞台技術ボランティアワークショップ	2月1日 大ホール	マイホールコンサートの運営に携わるボランティアを募集し、舞台運営の体験をしてもらった。	5名
	映画鑑賞事業	子ども映画会	7月23日・28日、8月5日 小ホール	子どもたちの豊かな情操教育と健全な余暇活動のため、学校の夏休み期間中に実施。	計744名
		名作シネマ	2月3日・4日 小ホール	映画人口の増加と映像文化の振興を目的に、歴史に残る名画を上映。	計458名
	ジャズコンサート	上原ひろみ　ザ・トリオ・プロジェクト、バティスト・トロティニョン・トリオ（フランス）	9月12日 大ホール	岩手県民会館・東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）・当センターの3館が連携し、世界的に活躍するジャズピアニスト・上原ひろみが率いるトリオと、ヨーロッパで活躍する実力派ジャズ・グループによるコンサートを実施。	1,405名

共催事業	事業名	期日・開催場所	内　容	
	第68回福島県総合美術展覧会	6月20日～29日 2・3F展示室	主催/福島県、他	

第４節　公益財団法人福島県文化振興財団の概要

１　財団法人の名称

公益財団法人福島県文化振興財団

２　財団の目的

芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与する。

３　定款に定める事業

（１）公益目的事業

○文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化事業
○文書、考古、民俗等の歴史資料の収集、研究、整理、保管及び展示等の事業
○埋蔵文化財の調査、研究、整理及び保存等の事業
○文化財保護の教育普及並びに文化財の展示、保管及び研修に関する事業
○文化活動に関する助成及び顕彰に関する事業
○その他この法人の目的を達成するために必要な事業

（２）その他の事業

○物品販売等に関する事業
○公益目的事業以外の施設貸与に関する事業
○その他この法人の公益目的事業の推進に資する事業

４　組織（平成２７年３月３１日現在）

(1)　役員、評議員

理事１２名及び監事２名、評議員１０名

(2)　組織体制

・事務局（総務課）
・福島県文化センター（文化推進課、歴史資料課）
・福島県文化財センター白河館（総務課、学芸課）
・遺跡調査部（調査課・管理課）
・正規職員５６名

役員名簿　　（平成 27 年3月 31 日現在）

職	氏　名	現　職
理事長	遠藤　俊博	福島県文化センター館長
副理事長	菊池　徹夫	福島県文化財センター白河館長 早稲田大学名誉教授
理事（常勤）	大河原　薫	事務局長
理事	渡邉　和裕	福島商工会議所副会頭 福島市観光コンベンション協会会長
〃	小野　利廣	福島県南土建工業株式会社代表取締役 白河地区経営者協会長 一般社団法人福島県建設業協会会長
〃	橋本　幸洋	福島県企画調整部文化スポーツ局次長
〃	新城猪之吉	末廣酒造株式会社代表取締役 会津若松市教育委員長 福島県酒造組合会長
〃	須佐由起子	元福島県教育委員会委員長
〃	髙城　俊春	元福島県教育委員会教育長 福島県芸術文化団体連合会会長
〃	高萩阿都志	株式会社タイヘイドライバーズスクール代表取締役社長
〃	平田　公子	国立大学法人福島大学名誉教授
〃	山口　晢子	前宇都宮文星短期大学教授
監事	齋藤　忠	公認会計士
〃	芳賀　裕	司法書士

評議員名簿　（平成27年3月31日現在）

氏名	現職
五十嵐　乃里枝	一般社団法人会津自然エネルギー機構代表理事
懸田　弘訓	福島県文化財保護審議会委員
小松　信之	福島県市長会常務理事兼事務局長
齋藤　美保子	郡山女子大学短期大学部教授
澤田　修	（企業組合）劇団風の子東北代表理事
鈴木　千賀子	福島県企画調整部文化スポーツ局長
宗田　利八郎	倉美館（棚倉町文化センター）運営協会監事
新妻　香織	NPO法人フー太郎の森基金理事長
馬目　順一	いわき市教育委員会委員長
安田　清敏	福島県町村会事務局長

＊五十音順

5　助成・顕彰事業

（1）　助成事業

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人又は文化団体の活動を援助・奨励し、本県文化の振興に寄与することを目的として実施

・助成件数95件

・助成金額 総額24,143,000円

（2）　顕彰事業

本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人又は団体を顕彰した。

・顕彰者

部門	種別	氏名・団体
美術	個人	鴫原明寿
音楽	団体	福島岳風会
	個人	齋藤秀隆
文学	個人	石川文子
	個人	唐橋秀子
文化財の保護	個人	阿部武
郷土史誌	団体	霊山町郷土史研究会